

松本市歴史文化基本構想

資料編

平成 30 年 3 月

松本市教育委員会

松本市歴史文化基本構想

資料編

平成 30 年 3 月

松本市教育委員会

例言

- 1 本構想は、平成25～28年度文化庁文化芸術振興費補助金（文化遺産を活かした地域活性化事業）、平成29年度文化庁文化芸術振興費補助金（文化遺産総合活用推進事業）を活用して策定しました。
- 2 本構想の編集、執筆は松本市教育委員会文化財課が行いました。
- 3 市内35地区の公民館を拠点に、“いろいろ「残したいもの」を探してみましよう！”を合言葉に、市民が居住域の悉皆調査を実施し、抽出した文化財の中から関連文化財群を設定しました。文化財悉皆調査一覧はその成果である11,632件の文化財を地区ごとにまとめたものです。
関連文化財群一覧は、各地区で設定した159件の関連文化財群と市域全体に関わる6件の関連文化財群です。
- 4 この悉皆調査・関連文化財群設定の内容は地域の多くの皆様の手によって完成したもので、表記法、書式、級数などに不統一な点があることを御了承ください。
- 5 本構想の中で使用する「文化財」は、指定等文化財などに限定せず、地域にある「古い・新しいは問わず、“地域の魅力”となっているもの・後世に残したいもの」を幅広く表す語として用います。特に、指定等文化財など狭義の意味での「文化財」を表す場合には、それぞれ具体的な名称を用います。
- 6 本書は、平成29年度に策定した「松本市歴史文化基本構想」を、平成30年度文化庁文化芸術振興費補助金（文化遺産総合活用推進事業）を活用し、印刷製本したものです。

目次

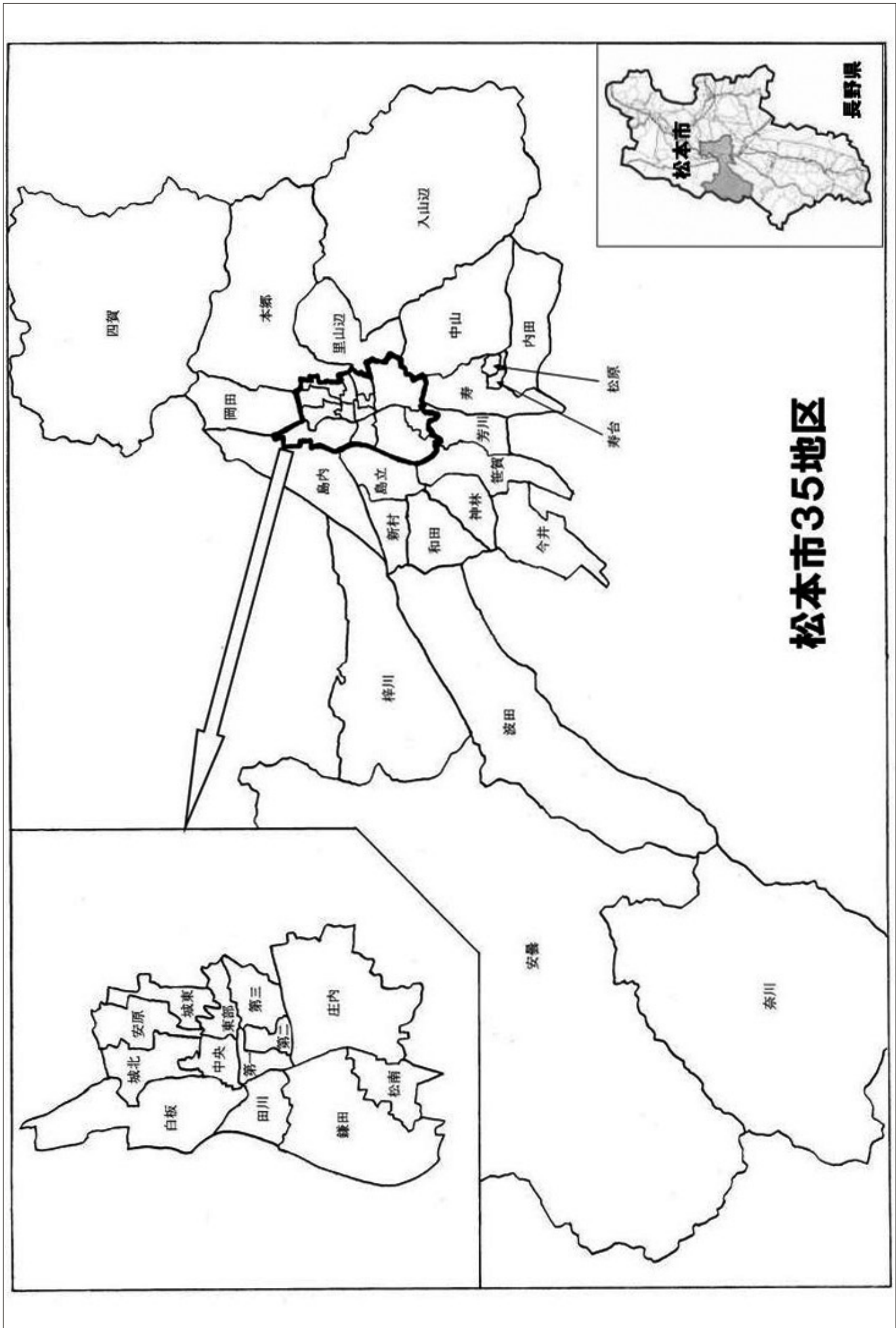
●文化財悉皆調査一覧

1 第一地区	6
2 第二地区	7
3 第三地区	8
4 東部地区	9
5 城北地区	10
6 中央地区	11
7 安原地区	12
8 城東地区	13
9 白板地区	13
10 田川地区	14
11 庄内地区	15
12 鎌田地区	16
13 松南地区	17
14 島内地区	17
15 中山地区	20
16 島立地区	21
17 新村地区	24
18 和田地区	31
19 神林地区	36
20 笹賀地区	38
21 芳川地区	39
22 寿地区	42
23 寿台地区	46
24 岡田地区	47
25 里山辺地区	51
26 入山辺地区	57
27 今井地区	61
28 内田地区	62
29 本郷地区	67
30 松原地区	86
31 四賀地区	86
32 安曇地区	92
33 奈川地区	99
34 梓川地区	104
35 波田地区	109

●関連文化財群一覧

1 第一地区	111
2 第二地区	113
3 第三地区	113
4 東部地区	114
5 中央地区	117
6 城北地区	119
7 安原地区	120
8 城東地区	123
9 白板地区	124
10 田川地区	125
11 庄内地区	126
12 鎌田地区	129
13 松南地区	131
14 島内地区	131
15 中山地区	133
16 島立地区	136
17 新村地区	138
18 和田地区	141
19 神林地区	142
20 笹賀地区	143
21 芳川地区	144
22 寿地区	146
23 岡田地区	151
24 入山辺地区	156
25 里山辺地区	157
26 山辺地区	159
27 今井地区	163
28 内田地区	168
29 本郷地区	171
30 松原地区	177
31 四賀地区	178
32 安曇地区	181
33 奈川地区	184
34 梓川地区	185
35 波田地区	187
36 市域全体	190
卷末資料	194

※関連文化財群一覧 26 の山辺地区は
入山辺・里山辺地区にまたがるもの



松本市35地区

歴史文化基本構想 文化財悉皆調査一覧

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
第一地区	跡地	旧開智学校跡地	明治5年(1872)	
第一地区	記念碑	松本商工会議所桑祥の地		
第一地区	石造物	善光寺・大町街道道標		
第一地区	石造物	野妻・善光寺街道道標		
第一地区	石造物	ほんまちえびす	平成3年(1991)	
第一地区	記念碑	開道記念碑		
第一地区	跡地	大問屋倉科家跡 (松本郵便局桑祥の地)		
第一地区	建造物	緑橋(袖留橋・堀)	明治11年(1878)	
第一地区	湧水	伊織霊水		
第一地区	跡地	天王堂跡	天正18年(1590)	
第一地区	史跡	松本城下町跡	中世・近世	
第一地区	史跡	伊勢町遺跡	中世	
第一地区	史跡	本町南遺跡	古代～中世	
第一地区	石造物	中町 石碑	江戸時代	市(旧町名碑)
第一地区	石造物	開智町 石碑	昭和時代	市(旧町名碑)
第一地区	石造物	伊勢町 石碑	江戸末期の町名	市(旧町名碑)
第一地区	石造物	分銅町 石碑	昭和初期の町名	市(旧町名碑)
第一地区	石造物	新伊勢町 石碑	昭和初期の町名	市(旧町名碑)
第一地区	石造物	神明町 石碑	昭和初期の町名	市(旧町名碑)
第一地区	石造物	国府町 石碑	昭和初期の町名	市(旧町名碑)
第一地区	石造物	本町 石碑	江戸末期の町名	市(旧町名碑)
第一地区	石造物	西五町 石碑	昭和初期の町名	市(旧町名碑)
第一地区	石造物	西河原 石碑	昭和初期の町名	市(旧町名碑)
第一地区	石造物	五條町 石碑	昭和初期の町名	市(旧町名碑)
第一地区	石造物	博労町 石碑	江戸末期の町名	市(旧町名碑)
第一地区	石造物	西博町 石碑	昭和初期の町名	市(旧町名碑)
第一地区	町並み	本立寺小路	江戸時代	
第一地区	町並み	神明小路	江戸時代	
第一地区	町並み	一ツ橋小路	江戸時代	
第一地区	町並み	裏小路	江戸時代	
第一地区	町並み	新小路	江戸時代	
第一地区	町並み	同心小路	江戸時代	
第一地区	町並み	鍋屋小路	江戸時代	
第一地区	町並み	天神小路	江戸時代	
第一地区	植物・樹木	ケヤキ		個人
第一地区	植物・樹木	ケヤキ並木		
第一地区	植物・樹木	ぐみの木		個人
第一地区	植物・樹木	月桂樹		個人
第一地区	植物・樹木	ケヤキ		
第一地区	町並み	中町通り	江戸時代～近代	
第一地区	町並み	やまへい横のくいちがい	江戸時代	
第一地区	町並み	酒屋(中西屋)横のくいちがい	江戸時代	
第一地区	建造物	蔵の町・蔵シツク会館		市
第一地区	建造物	時計博物館		市
第一地区	建造物	はかり資料館	平成14年(2002)	市
第一地区	石造物	牛つなぎ石	永禄11年(1568)	
第一地区	石造物	極楽寺 古奥盤谷の墓	明治時代	

第一地区

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
第一地区	民俗資料	松本城下町の舞台	近代	深志神社の氏子16町会 (本町1・2・3・4・5、 伊勢町1・2・3、中町 1・2・3、博労町、宮村 町1、飯田町1・2、小池 町)と六九町会、東町2 丁目町会
第一地区	文書	各町内の行事録	明治30年(1897)に は初市に出ている。昭和 10年頃まで飾られて いた。	
第一地区	民俗資料	初市の宝船・七福神人形	300年ほど前から 続く、戦時中断後 10年前から復活 していた。	博物館所蔵
第一地区	行事	庚申講		
第一地区	行事	八坂祭り		
第一地区	行事	三九郎		
第一地区	行事	初荷		
第一地区	行事	初音		
第一地区	行事	迎え盆、送り盆		
第一地区	行事	子どもの日		
第一地区	行事	おんど(音頭)		
第一地区	行事	道祖神祭り		
第一地区	行事	七夕祭り		
第一地区	行事	鎮火祭		
第一地区	行事	御日待(おひまち)		
第一地区	行事	ちゅう秋の名月		
第一地区	行事	お雛様		
第一地区	行事	あめ市：松本ダルマを売る		本町・中町・伊勢町
第一地区	行事	初市(あめ市)：神輿をかづく		
第一地区	行事	初市(あめ市)：獅子舞をおこなう		
第一地区	行事	ほんぼん	江戸時代	
第一地区	行事	青山様		
第一地区	行事	天神祭り		
第一地区	行事	神道祭り		
第一地区	行事	節分		深志神社
第一地区	行事	えびす講	戦後～昭和39年 (1964)頃	
第一地区	建造物	秋葉神社		
第一地区	建造物	三峯神社		
第一地区	建造物	三峯神社		
第一地区	建造物	三峯神社		
第一地区	建造物	三峯神社		
第一地区	建造物	三峯神社		
第一地区	建造物	中町神明宮	元禄13年(1700)	
第一地区	建造物	疋守(かさもり) 稲荷社		
第一地区	建造物	福德出世地蔵尊霊地	元禄15年(1702)	
第一地区	建造物	伊勢神明宮		
第一地区	建造物	神明宮		
第一地区	建造物	生安寺小路稲荷神社		
第一地区	建造物	大日神社	明治時代	
第一地区	建造物	北向観音		個人
第一地区	建造物	極楽寺 鐘楼	江戸時代	
第一地区	建造物	浄林寺山門・廻	元禄時代	
第一地区	建造物	浄林寺山門・鐘楼	弘化2年(1845)	
第一地区	建造物	黒門	明治21年(1888)	

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
第三地区	彫刻	今井五介	1859~1946(生没年)	所有者又は管理者
第三地区	建造物	県宮社	江戸時代以降	
第三地区	石造物	馬頭観音像	1615年頃	
第三地区	石造物	埋橋道祖神	1795年頃	
第三地区	跡地	県宮社跡地		
第三地区	記念碑	給水地跡の碑	昭和59年(1984)	国鉄〇B松本支部
第三地区	建造物	地蔵院		地蔵院
第三地区	建造物	ちぎりや倉庫		
第三地区	建造物	三誓神社	1965年頃	
第三地区	跡地	幸町保育園跡地		松本市
第三地区	湧水	源池の井戸水源地		松本市水道局
第三地区	建造物	生物科学研究所	昭和60年(1985)	片倉工業株式会社
第三地区	記念碑	蚕玉町の町名碑	不明	松本市
第三地区	建造物	カタクラモール	昭和56年(1981)	片倉工業株式会社
第三地区	建造物	カフラス	昭和44年(1929)	片倉工業株式会社
第三地区	雑物・樹木	五介の松	昭和59年頃 (現在の場所に移植した年)	片倉工業株式会社
第三地区	石造物	日の出町命名の碑	昭和58年(1983)	松本市
第三地区	湧水	日の出の井戸		松本市
第三地区	建造物	葉祖神社	平成19年(2007)	葉業会館
第三地区	記念碑	蚕業革新発祥の碑	昭和3年(1928)	
第三地区	記念碑	夏秋蚕部発祥の記念碑	平成24年(2012)	国鉄〇B会
第三地区	建造物	鈴蘭幼稚園	大正11年(1922)	学校法人 鈴蘭幼稚園
第三地区	石造物	四ツ谷町町の道祖神	天保12年(1841)	
第三地区	建造物	金山町稲荷神社		
第三地区	建造物	四ツ谷東稲荷神社		
第三地区	石造物	戸田廟園の五輪塔	紀年銘なし	松本市
第三地区	石造物	戸田廟園の五輪塔	安永9年(1780)	松本市
第三地区	石造物	戸田廟園の五輪塔	紀年銘なし	松本市
第三地区	石造物	戸田廟園の五輪塔	紀年銘なし	松本市
第三地区	石造物	戸田廟園の五輪塔	紀年銘なし	松本市
第三地区	石造物	戸田廟園の石灯笼	嘉永5年(1852)	松本市
第三地区	石造物	戸田廟園の石灯笼	嘉永5年(1852)	松本市
第三地区	石造物	戸田廟園の石灯笼	安永9年(1780)	松本市
第三地区	石造物	戸田廟園の石灯笼	紀年銘なし	松本市
第三地区	石造物	戸田廟園の石灯笼	紀年銘なし	松本市
第三地区	石造物	戸田廟園の石灯笼	安永9年(1855)	松本市
第三地区	石造物	戸田廟園の石灯笼	安永9年(1855)	松本市
第三地区	石造物	戸田廟園の石灯笼	安永9年(1780)	松本市
第三地区	石造物	戸田廟園の石灯笼	安永9年(1780)	松本市
第三地区	石造物	戸田廟園の石灯笼	安永9年(1780)	松本市
第三地区	石造物	戸田廟園の石灯笼	安永9年(1780)	松本市
第三地区	石造物	戸田廟園の石灯笼	安永9年(1866)	松本市
第三地区	石造物	戸田廟園の石灯笼	慶応元年(1866)	松本市
第三地区	石造物	戸田廟園の石灯笼	嘉永6年(1853)	松本市
第三地区	石造物	戸田廟園の石灯笼	嘉永6年(1853)	松本市
第三地区	石造物	戸田廟園の燭台	紀年銘なし	松本市
第三地区	石造物	戸田廟園の燭台	紀年銘なし	松本市
第三地区	石造物	戸田廟園の燭台	紀年銘なし	松本市
第三地区	石造物	戸田廟園の燭台	紀年銘なし	松本市

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
第二地区	石造物	全久院の地藏菩薩	宝永6年(1709)	全久院
第二地区	石造物	全久院の地藏菩薩	寛永13年(1673)	全久院
第二地区	石造物	全久院の地藏菩薩	安永2年(1773)	全久院
第二地区	石造物	全久院の聖観音	元治元年(1864)	全久院
第二地区	石造物	全久院墓地の地藏菩薩	紀年銘なし	全久院
第二地区	石造物	全久院の地藏菩薩	安永7年(1778)	全久院
第二地区	石造物	全久院の観音	紀年銘なし	全久院
第二地区	石造物	全久院の地藏菩薩	宝暦12年(1762)	全久院
第二地区	石造物	全久院の地藏菩薩	寛延元年(1748)	全久院
第二地区	石造物	全久院墓地の地藏菩薩	紀年銘なし	全久院
第二地区	石造物	全久院墓地の地藏菩薩	紀年銘なし	全久院
第二地区	石造物	全久院墓地の地藏菩薩	寛延3年(1750)	全久院
第二地区	石造物	全久院墓地の地藏菩薩	紀年銘なし	全久院
第二地区	石造物	全久院墓地の地藏菩薩	紀年銘なし	全久院
第二地区	石造物	全久院墓地の地藏菩薩	享保10年(1725)	全久院
第二地区	石造物	全久院墓地の地藏菩薩	享保2年(1717)	全久院
第二地区	石造物	全久院墓地の地藏菩薩	宝暦13年(1763)	全久院
第二地区	石造物	全久院墓地の地藏菩薩	弘化4年(1847)	全久院
第二地区	石造物	全久院墓地の多宝塔	享永3年(1850)	全久院
第二地区	石造物	全久院墓地の地藏菩薩	享保9年(1724)	全久院
第二地区	石造物	全久院墓地の地藏菩薩	享保	全久院
第二地区	石造物	全久院墓地の地藏菩薩	天明3年(1783)	全久院
第二地区	石造物	全久院墓地の地藏菩薩	宝永5年(1708)	全久院
第二地区	石造物	全久院墓地の地藏菩薩	紀年銘なし	全久院
第二地区	石造物	全久院墓地の地藏菩薩	紀年銘なし	全久院
第二地区	石造物	全久院墓地の地藏菩薩	享保7年(1722)	全久院
第二地区	石造物	全久院墓地の地藏菩薩	紀年銘なし	全久院
第二地区	石造物	全久院墓地の地藏菩薩	文政10年(1827)	深志神社
第二地区	石造物	深志神社の石灯笼	享和元年(1801)	深志神社
第二地区	石造物	深志神社の狛犬	享和元年(1801)	深志神社
第二地区	石造物	深志神社の狛犬	文化11年(1814)	深志神社
第二地区	石造物	深志神社の手洗鉢	安政2年(1855)	深志神社
第二地区	石造物	深志神社の石灯笼	安政2年(1855)	深志神社
第二地区	石造物	深志神社の御嶽大権現	嘉永5年(1852)	深志神社
第二地区	石造物	深志神社の八海山神王	嘉永5年(1852)	深志神社
第二地区	石造物	深志神社の石灯笼	文政7年(1824)	深志神社
第二地区	石造物	深志神社の石灯笼	文政7年(1824)	深志神社
第二地区	石造物	深志神社の石灯笼	嘉永6年(1853)	深志神社
第二地区	石造物	深志神社の石灯笼	嘉永6年(1853)	深志神社
第二地区	石造物	深志神社の石灯笼	天保15年(1844)	深志神社
第二地区	石造物	深志神社の石灯笼	天保15年(1844)	深志神社
第二地区	石造物	市神宮の石灯笼	嘉永4年(1851)	市神宮
第二地区	石造物	市神宮の石灯笼	嘉永4年(1851)	市神宮
第二地区	石造物	松尾神社の石灯笼	嘉永4年(1851)	松尾神社
第二地区	石造物	天神の道祖神	紀年銘なし	
第二地区	建造物	金毘羅宮の鳥居	文政12年(1829)	金毘羅宮
第二地区	石造物	円乗寺の法華供養塔	文化5年(1808)	円乗寺
第二地区	石造物	円乗寺の地藏菩薩	紀年銘なし	円乗寺

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
第三地区	石造物	戸田廟園の燭台	紀年銘なし	松本市
第三地区	石造物	戸田廟園の燭台	紀年銘なし	松本市
第三地区	石造物	戸田廟園の燭台	紀年銘なし	松本市
第三地区	石造物	戸田廟園の燭台	紀年銘なし	松本市
第三地区	石造物	松平光行の墓誌	天保12年(1841)	松本市
第三地区	石造物	松平光行の墓誌	天保10年(1839)	松本市
第三地区	石造物	戸田廟園の遺髪塚	安政2年(1855)	松本市
第三地区	石造物	戸田廟園の香炉鉢	安永9年(1780)	松本市
第三地区	石造物	戸田廟園の墓碑	天明元年(1781)	松本市
第三地区	石造物	戸田廟園の水鉢	天保2年(1831)	松本市
第三地区	石造物	樋口氏の五輪塔		個人(氏)
第三地区	石造物	四谷の馬頭観音	紀年銘なし	松本市
第三地区	石造物	四谷の念仏供養塔	紀年銘なし	松本市
第三地区	石造物	林昌寺墓地の如意輪観音	天保	個人(氏)
第三地区	石造物	林昌寺墓地の如意輪観音	天保9年(1838)	個人(氏)
第三地区	石造物	林昌寺墓地の如意輪観音	延享	個人(氏)
第三地区	石造物	林昌寺墓地の馬頭観音	元和元年(1615)	個人(氏)
第三地区	石造物	林昌寺墓地の念仏供養塔	延宝9年(1681)	個人(氏)
第三地区	石造物	四谷の念仏供養塔	寛政3年(1791)	四谷
第三地区	石造物	四谷の道祖神	紀年銘なし	四谷
第三地区	石造物	広明寺の念仏供養塔	延宝5年(1677)	広明寺
第三地区	石造物	広明寺の地藏菩薩	文化8年(1811)	広明寺
第三地区	石造物	広明寺の地藏菩薩	紀年銘なし	広明寺
第三地区	石造物	広明寺の聖観音	嘉永元年(1848)	広明寺
第三地区	石造物	広明寺の地藏菩薩	文政13年(1830)	広明寺
第三地区	石造物	広明寺の庚申塔	元禄6年(1693)	広明寺
第三地区	石造物	広明寺の念仏供養塔	明和6年(1769)	広明寺
第三地区	石造物	広明寺の如意輪観音	文政11年(1828)	広明寺
第三地区	石造物	広明寺の宝篋印塔	安政2年(1855)	広明寺
第三地区	石造物	広明寺の如意輪観音	元禄6年(1693)	広明寺
第三地区	石造物	広明寺の地藏菩薩	紀年銘なし	広明寺
第三地区	石造物	広明寺の法華千部塔	弘化2年(1845)	広明寺
第三地区	石造物	広明寺の地藏菩薩	紀年銘なし	広明寺
第三地区	石造物	広明寺の念仏供養塔	寛政10年(1798)	広明寺

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
東部地区	史跡	総堀	近世	
東部地区	跡地	捨堀の土塁跡	近世	
東部地区	建造物	伏見稲荷		
東部地区	建造物	鞆浮風建築	大正～昭和初期	
東部地区	建造物	長称寺(浄土真宗)		長稱寺
東部地区	建造物	光明幼稚園	近代	
東部地区	建造物	林昌寺(浄土宗)	近世	林昌寺
東部地区	建造物	林昌寺稲荷	近世	林昌寺
東部地区	建造物	水天宮	近代	
東部地区	建造物	単信坊		
東部地区	史跡	女鳥羽川遺跡	縄文～古墳時代	
東部地区	跡地	信濃劇場跡	近代	
東部地区	建造物	かき船	昭和8年(1933) ※昭和38年改修	
東部地区	建造物	菅沼稲荷	近代	
東部地区	跡地	市宮公益質屋跡		
東部地区	建造物	立石清重生家		
東部地区	建造物	ひかるや保存館(旧光屋店舗兼主屋)	明治20年(1887)	
東部地区	建造物	鎮神社		
東部地区	建造物	旧松岡医院	大正14年(1925)	
東部地区	跡地	松本音楽院跡	近代	
東部地区	建造物	三絃稲荷		
東部地区	記念碑	松本医専発祥の地碑		
東部地区	建造物	正行寺(浄土真宗)	近世	正行寺
東部地区	湧水	鯛藪の井戸		
東部地区	建造物	恵光院(臨済宗)	近世	恵光院
東部地区	跡地	市川量造生地跡	近世	
東部地区	跡地	富士電機松本工場跡	近代	
東部地区	建造物	十王堂と放光庵	近世	
東部地区	湧水	女鳥羽の泉		
東部地区	建造物	天白稲荷		
東部地区	建造物	大松寺(曹洞宗)		大松寺
東部地区	建造物	妙勝寺(浄土真宗)		妙勝寺
東部地区	建造物	旧念来寺鐘楼	宝永2年(1705)	
東部地区	建造物	善昌寺(天台宗)		善昌寺
東部地区	石造物	双体道祖神碑	文政3年(1820)	
東部地区	湧水・樹木	榎井泉神社(湧水と櫓)		
東部地区	跡地	製紙工場跡	近代	
東部地区	街道	やまびこ道路	近代	
東部地区	その他	浅間線電車	近代	
東部地区	建造物	耳聞神社		
東部地区	跡地	中信職業訓練センター跡	近代	

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
東部地区	跡地	信大寺長宿舎跡	近代	
東部地区	民俗資料	東町二丁目舞台(山車)	近代	町会
東部地区	石造物	石造道祖神(清水西)		
東部地区	民俗資料	木造道祖神等(清水西)		
東部地区	彫刻	阿弥陀如来立像		正行寺
東部地区	その他	佐々木高綱公使用の兜・佩刀(太刀)	中世	正行寺
東部地区	その他	伯爵乃木大将の軍刀	近代	正行寺
東部地区	絵画	御絵云		正行寺
東部地区	絵画	四尊連座の御影		正行寺
東部地区	文書	聖徳太子七高僧御裏書		正行寺
東部地区	文書	当山開基了智上人掟書さ		正行寺
東部地区	文書	本願寺八代蓮如上人 御裏書		正行寺
東部地区	文書	本願寺九代実如上人 御裏書		正行寺
東部地区	文書	武田信玄朱印状		正行寺
東部地区	文書	松本城主石川公筆		正行寺
東部地区	文書	三代將軍徳川家光宣旨		正行寺
東部地区	文書	当山開基了智上人系図		正行寺
東部地区	文書	時宗・遊行上人筆		正行寺
東部地区	文書	阿弥陀仏名号の徳		正行寺

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
城北地区	建造物	稲荷社		個人
城北地区	建造物	姫宮神社		個人
城北地区	建造物	正一位稲荷大明神		沢村共有
城北地区	建造物	萬壽大明神		
城北地区	建造物	大日堂		沢村共有
城北地区	建造物	首貫せ地藏尊(建物,お堂)		沢村共有
城北地区	彫刻	大日如来金剛界智拳印相座像		沢村共有
城北地区	彫刻	木造不動明王立像		沢村共有
城北地区	彫刻	木造不動明王立像		沢村共有
城北地区	彫刻	木造毘沙門天立像		沢村共有
城北地区	彫刻	金燈籠		沢村共有
城北地区	石造物	首貫せ地藏尊(石像)		沢村共有
城北地区	樹木・石造物	ビャクシン大木樹齢300年と山の神の石碑		沢村共有
城北地区	民俗資料	青山様御興		沢村共有
城北地区	民俗資料	念仏講数珠		沢村共有
城北地区	跡地	賢忠寺跡		
城北地区	石造物	青面金剛石像	明和3年(1766)	個人
城北地区	石造物	縁起様		
城北地区	石造物	道祖神(大)	安政6年(1859)	沢村町会
城北地区	石造物	道祖神(小)		沢村町会
城北地区	植物・樹木	サイカチの木		
城北地区	街道	牛みち	江戸時代初期	
城北地区	建造物	大山祇神社		塩竈神社
城北地区	跡地	文化村跡	大正～昭和	
城北地区	石造物	亀甲積み石垣	昭和時代	個人
城北地区	植物・樹木	ナンハンギセル		個人(氏)
城北地区	植物・樹木	カミコウチヤナギ		
城北地区	植物・樹木	シダレイヌコリヤナギ		

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
中央地区	食文化	甘味喫茶 塩川	昭和8年創業 (1933)	個人
中央地区	建造物・民芸	民芸居酒屋しづかの建物・民芸品	大正・昭和	個人
中央地区	建造物	電気館	大正6年(1917)	松本斉産土地株式会社
中央地区	建造物	平出酒店の建物	明治20年創業 (1887)	個人
中央地区	建造物	想雲堂の建物	大正初期頃	個人
中央地区	建造物・食文化	御菓子司ももん様村の建物と土蔵	明治30年(1897) 創業	個人
中央地区	建造物	松本ホテル花月の喫茶入口	明治20年創業 (1887)	個人
中央地区	建造物	松本市下町会館	昭和元年(1926)	松本市下町会館
中央地区	建造物	白鳥写真館の建物	近代	個人
中央地区	建造物	三峯神社	明治37年(1904)	上土町会
中央地区	跡地	旧松本市役所跡	近代	
中央地区	街並み・用水	ナワテ横丁・水路		
中央地区	石造物	石造 総堀跡を遺す橋の一部	近世	
中央地区	建造物	「弁天」本店の建物と看板	明治・大正・昭和	個人
中央地区	町並み	外濠小路	近代	
中央地区	石造物	御幸橋	明治13年(1880)	
中央地区	建造物	四柱神社	明治12年(1879)	四柱神社
中央地区	記念碑	初点燈 電燈の碑	近代	
中央地区	跡地	辰巳御殿跡	近世	緑町町会
中央地区	建造物	レストラン 鯛萬の建物	昭和25年創業 (1950)	
	跡地	松本城 大手門跡形跡地	近世	市
中央地区	建造物	旧第一勸業銀行松本支店 現アルモニーピアン(ウェディング・結婚式場)	昭和12年(1937)	榊明神館
中央地区	建造物	青翰堂書店の建物と看板	昭和30年(1955)	個人
中央地区	景観	「松本城南」交差点から望む美ヶ原		
中央地区	町並み	お城の見える小路		
中央地区	庭園	川久保邸の庭園	明治38年(1905)	個人
中央地区	建造物	新井邸の赤門	近世	個人
中央地区	史跡	史跡 松本城西総堀土塁公園	平成22年(2010)	市
中央地区	建造物	塩井の湯と建物	昭和創業	個人
中央地区	伝統技術	百瀬鈴子さんの作る人形	明治29年(1954)～	個人
中央地区	民俗資料	民芸資料(松本城下町の舞台)	明治30年(1897)	六九町会
中央地区	記念碑	花いっぱい養祥の地の碑	昭和62年(1987)	
中央地区	建造物	山屋御給所と建物	昭和8年(1933)	個人
中央地区	建造物	巨理神社と狛犬	安政4年(1857)	今町1丁目町会
中央地区	建造物	旧宮坂薬局の建物	昭和8年(1933)	個人
中央地区	石造物	大手大通りの道祖神	平成5年(1993)	大手商店街振興組合
中央地区	建造物	外山家の祠		個人

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
中央地区	建造物	松本神社	創建寛永13年 (1636)	
中央地区	建造物	池上百竹亭	近代	市
中央地区	記念碑	地藏尊出現霊水地碑		
中央地区	記念碑	明治天皇聖蹟碑	近代	
中央地区	記念碑	明治天皇行在所舊址碑 明治天皇駐蹕遺址碑		
中央地区	記念碑	藩紋崇教館	近世	
中央地区	旗	大柳町の町旗	昭和15年(1940)	大柳町町会
中央地区	湧水	北門大井戸		
中央地区	湧水	平成の名水百選認定「まつもと城下町湧水群」		
中央地区	記念碑	普通選挙実現運動発祥の地記念像	明治30年(1897)	
中央地区	建造物・史跡	国宝 松本城	近世	市
中央地区	石造物	松本城の石灯笼	延宝9年(1681)	市
中央地区	石造物	松本神社の石灯笼	寛政9年(1797)	松本神社
中央地区	石造物	松本神社の石灯笼	享保11年(1726)	松本神社
中央地区	石造物	松本神社の石灯笼	寛政9年(1797)	松本神社
中央地区	石造物	若宮八幡の手洗鉢	天和2年(1682)	松本神社
中央地区	石造物	松本神社の石灯笼	天保2年(1831)	松本神社
中央地区	石造物	松本神社の石灯笼	天保2年(1831)	松本神社
中央地区	石造物	松本神社の石灯笼	享保11年(1726)	松本神社
中央地区	石造物	松本神社の石灯笼	天保2年(1831)	松本神社
中央地区	石造物	松本神社の石灯笼	寛政9年(1797)	松本神社
中央地区	石造物	巨理神社の手水鉢	慶長10年(1605)	巨理神社
中央地区	石造物	巨理神社の狛犬	明和6年(1769)	巨理神社
中央地区	石造物	巨理神社の狛犬	明和6年(1769)	巨理神社
中央地区	石造物	巨理神社の不動明王	元禄3年(1690)	巨理神社
中央地区	石造物	巨理神社の如意輪観音	紀年銘なし	巨理神社
中央地区	石造物	巨理神社の庚申塔	安永6年(1777)	巨理神社
中央地区	石造物	巨理神社の歌碑	紀年銘なし	巨理神社
中央地区	石造物	巨理神社の聖観音	応永21年(1414)	巨理神社
中央地区	石造物	巨理神社の如意輪観音	弘仁2年(811)	巨理神社
中央地区	石造物	巨理神社の聖観音	嘉吉2年(1442)	巨理神社
中央地区	石造物	巨理神社の観音	宝暦10年(1760)	巨理神社
中央地区	石造物	巨理神社の馬頭観音	安政5年(1858)	巨理神社
中央地区	石造物	巨理神社の馬頭観音	慶応元年(1865)	巨理神社
中央地区	石造物	巨理神社の馬頭観音	紀年銘なし	巨理神社

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
安原地区	建造物	正一位大天白七福稲荷大明神		旭町町会
安原地区	建造物	天白神社 (本殿、拜殿、神楽殿)		
安原地区	建造物	天白神社神楽殿・絵馬		
安原地区	石造物	天白神社 石燈籠		
安原地区	跡地	正一位世音稲荷大明神 (撰取院跡)		安原町会
安原地区	建造物	正一位福徳稲荷大明神		新町町会
安原地区	建造物	長野県護国神社 (本殿、社務所ほか)	近代	長野県護国神社
安原地区	建造物	日蓮正宗高松寺本立寺 (本堂、庫裏)		個人
安原地区	民俗資料	木像道祖神3対・三九郎神像		
安原地区	民俗資料	オノマラサマ・道祖神ほこら		
安原地区	民俗資料	オノマラサマ・道祖神版木・ほこら		
安原地区	石造物	庚申塔文字碑	江戸	
安原地区	石造物	庚申塔文字碑	江戸	
安原地区	石造物	庚申塔文字碑	江戸	
安原地区	石造物	馬頭観音文字碑		
安原地区	跡地	五十連隊練兵場跡	近代	
安原地区	石造物	中原観音堂		中原町会
安原地区	石造物	馬頭観音菩薩立像(追分の馬頭観音)		中原町会
安原地区	石造物	中原観音堂横石仏・文字碑群		中原町会
安原地区	建造物	八幡社		中原町会
安原地区	記念碑	旧五十連隊の碑	近代	
安原地区	跡地	長野県松本ろう学校跡地	近代	
安原地区	史跡	針塚		
安原地区	建造物	松本市総合体育館	近代	
安原地区	跡地	歩兵第五十連隊跡地	近代	
安原地区	建造物	五十連隊糧秣庫(赤レンガ倉庫)	近代	
安原地区	建造物	国立大学法人 信州大学		
安原地区	建造物	信州大学医学部附属病院		
安原地区	建造物	射撃場橋	近代	
安原地区	建造物	元原町公民館	近代	
安原地区	記念碑	皇紀2600年記念道路碑		
安原地区	街道	第2線路(上松線)の開通		
安原地区	建造物	鈴木鎮一記念館		
安原地区	建造物	長野県松本盲学校		
安原地区	建造物	松本市立旭町小学校		
安原地区	跡地	長野県産業試験場・講習所跡	近代	
安原地区	跡地	信州大学教育学部附属3校(園)	近代	
安原地区	建造物	松本少年刑務所	近代	
安原地区	記念碑	太子堂	近代	
安原地区	街道	こまくさ道路の開通	近代	
安原地区	町並み	下級武士住宅の屋敷割り・城下町	近代	
安原地区	跡地	木下尚江生家跡	近代	歴史の里復元移築
安原地区	建造物	中村家住宅	近代	

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
安原地区	建造物	矢野家の塀	近世	
安原地区	跡地	沢柳政太郎生地	近世	
安原地区	建造物	橋倉家住宅	近世	市
安原地区	建造物	上条家住宅	近世	
安原地区	街道	両下町の旧道		
安原地区	湧水	中ノ丁の辻井戸(共同井戸)		
安原地区	町並み	鉤の手(かぎのて)	近世	
安原地区	建造物	安藤家の腕木門		取り壊し
安原地区	跡地	鳩山春子生地	近代	
安原地区	記念碑	近藤次繁誕生の地・胸像・石碑	近代	
安原地区	用水	横田溝渠 麻葉川・境川	近世	
安原地区	町並み	善光寺街道の町人町 安原町	近世・近代	
安原地区	跡地	一里塚跡	近世	
安原地区	跡地	木戸番所跡	近世	
安原地区	跡地	十王堂跡	近世	
安原地区	跡地	撰取院跡	近世	
安原地区	建造物	構町の蔵(三松屋蔵座敷)	近代	中町に復元移築
安原地区	石造物	子育地藏尊		
安原地区	跡地	旧松崎家の邸宅・薬師門	近世	
安原地区	文書	安原町事務日記		安原町
安原地区	文書	邑方日記控		個人
安原地区	史跡	元原遺跡	古墳～平安	
安原地区	植物・樹木	カシワ(深澤家)		
安原地区	植物・樹木	アメリカハナズオウ(矢野家)		
安原地区	民俗資料	安原町舞台(山車)	近代	町会
安原地区	町並み	常法寺小路・招き造りの家	近世	

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
城東地区	植物・樹木	旧松本歩兵第五十連隊練兵場のポプラ		
城東地区	その他	社会福祉発祥の地	近代	
城東地区	記念碑	自動車運転手試験場・自動車検査場記念碑	近代	
城東地区	跡地	横田駅跡	近代	
城東地区	彫刻	元町北甲子大黒天		
城東地区	石造物	道祖神	寛文13年(1673)	
城東地区	建造物	元町開運弁財天		
城東地区	跡地	湧水池(権現池)の跡		
城東地区	石造物	石仏群		
城東地区	石造物	道祖神	安政5年(1858)	
城東地区	建造物	寶榮寺	近世	寶榮寺
城東地区	建造物	岡宮神社	近世	
城東地区	街道	善光寺道		
城東地区	跡地	松本憲兵分隊跡	近代	
城東地区	民俗資料	木像道祖神		
城東地区	建造物	大安楽寺		大安楽寺
城東地区	建造物	正一位福德稲荷大明神(福德稲荷社)	近世	
城東地区	河川	紙すき川(横田溝渠)		
城東地区	湧水	庶民の井戸		

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
白板地区	建造物	秋葉神社(放光寺)		
白板地区	跡地・建造物	放光寺弁天池・薬師如来(放光寺)	天和3年(1683)	
白板地区	建造物	放光寺(放光寺)	伝730年創建	
白板地区	史跡	放光寺(犬甘)城山空堀(放光寺)	14世紀頃	
白板地区	用水	城山水道施設(放光寺)	明治時代	
白板地区	石造物	泉小太郎のほこら(放光寺)		
白板地区	建造物	城山稲荷神社(放光寺)		
白板地区	建造物	勢伊多寶神社(宮瀬日向)		
白板地区	石造物	運錢観音と馬頭観音(宮瀬日向)		
白板地区	街道	糸魚川街道・新橋(宮瀬新橋)	近世	
白板地区	石造物	虫歯観音(鱈ヶ崎西)	近世	
白板地区	石造物	木村稲荷神社・道祖神(宮瀬本村)		
白板地区	石造物	杉田久女の墓(宮瀬東)	近代	
白板地区	石造物	念仏供養碑(鱈ヶ崎西)	近世	
白板地区	石造物	白坂村道祖神(白坂宮本)	近世	
白板地区	跡地	北松本駅・信濃鉄道(白坂宮本)	近代	
白板地区	石造物	子育て地藏(白坂中)	近世	
白板地区	建造物	三峯神社(白坂南)	近代	
白板地区	建造物	塩竈神社(鱈ヶ崎西)	近世	
白板地区	跡地	犀川通船跡(白坂南)	近世	
白板地区	石造物	正隣寺境内五輪塔(鱈ヶ崎西)	近世	
白板地区	建造物	正隣寺(鱈ヶ崎西)	近世	
白板地区	建造物	東昌寺(白坂南)	近世	
白板地区	石造物	生安寺石仏(鱈ヶ崎西)		
白板地区	史跡	貞享義民塚(宮瀬東)	近世	
白板地区	石造物	兎沢治いの道標	近世	
白板地区	石造物	大銅山御嶽神社		
白板地区	石造物	大銅神社参道入り口		
白板地区	景観	城山からの風景		
白板地区	石造物	城山公園下にある双体道祖神	近代	
白板地区	石造物	薬師如来	近世	
白板地区	史跡	山王山古墳	古墳時代	
白板地区	史跡	開き松古墳	古墳時代	

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
白板地区	地形	放光寺城山(犬飼城山)		
白板地区	公園	大正時代の城山公園	近代	
白板地区	記念碑	城山公園歌碑	近世	
白板地区	用水	城山公園水道施設	近代	
白板地区	建造物	市営墓地入り口	近代	
白板地区	石造物	蟻ヶ崎村道祖神	近世	
白板地区	跡地	旧豊唾学校跡	近代	
白板地区	記念碑	川島浪速・芳子の墓(正隣寺境内に墓地)	近代	
白板地区	建造物	蟻ヶ崎高校	近代	
白板地区	建造物	白板八幡神社	近世	
白板地区	植物・樹木	白板村旧道の樺並木		
白板地区	文書	大庄屋折井家と古文書	近世	
白板地区	文書	白板村水田図	近世	
白板地区	跡地	大坂アルカリの煙突	近代	
白板地区	跡地	折井町二軒長屋跡		
白板地区	民俗資料	城西町道祖神		
白板地区	石造物	駒町馬頭観音		
白板地区	記念碑	宮崎町開道記念碑	大正4年(1915)	
白板地区	建造物	宮淵本村稻荷神社		
白板地区	石造物・景観	宮淵本村の道祖神と本村の風景		

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
田川地区	文書	古文書		個人
田川地区	文書	古文書		個人
田川地区	文書	古文書		個人
田川地区	書籍	北 杜夫の文集	近代	個人
田川地区	文書	齋藤 茂吉の色紙	近代	個人
田川地区	文書	齋藤 茂吉の色紙	近代	個人
田川地区	建造物	土蔵の内戸	明治29年(1896)	個人
田川地区	工芸品	土蔵の内戸鍵穴	明治29年(1896)	個人
田川地区	その他	仏壇	明治3年(1870)	個人
田川地区	その他	粉屋の看板	江戸時代の終わり	個人
田川地区	その他	お城にご用の看板	江戸時代の終わり	個人
田川地区	彫刻	木製薙刀鉾		巾上町町会長
田川地区	彫刻	木製薙棒		巾上町町会長
田川地区	彫刻	本造陽物体(3体)オナムラサマ		巾上町町会長
田川地区	石造物	巾上の石尊大権現	天保4年(1833)	巾上
田川地区	石造物	阿弥陀院の念仏供養塔	寛政8年(1796)	阿弥陀院
田川地区	石造物	阿弥陀院の六地藏	宝暦4年(1754)	阿弥陀院
田川地区	石造物	阿弥陀院の六地藏	宝暦4年(1754)	阿弥陀院
田川地区	石造物	阿弥陀院の六地藏	宝暦4年(1754)	阿弥陀院
田川地区	石造物	阿弥陀院の六地藏	宝暦4年(1754)	阿弥陀院
田川地区	石造物	阿弥陀院の六地藏	宝暦4年(1754)	阿弥陀院
田川地区	石造物	阿弥陀院の六地藏	宝暦4年(1754)	阿弥陀院
田川地区	石造物	阿弥陀院の康申塔	寛政12年(1800)	阿弥陀院
田川地区	石造物	阿弥陀院の六臂青面金剛	元文5年(1740)	阿弥陀院
田川地区	石造物	阿弥陀院の庚申塔	安政7年(1860)	阿弥陀院
田川地区	石造物	阿弥陀院の千部供養塔	嘉永4年(1851)	阿弥陀院
田川地区	石造物	阿弥陀院の供養塔	嘉永4年(1851)	阿弥陀院
田川地区	石造物	巾上の道祖神	安永2年(1773)	巾上
田川地区	石造物	渚の如意輪観音	宝暦(1751~1763)	渚町
田川地区	石造物	渚の観音供養塔	享保13年(1728)	渚町
田川地区	石造物	渚の庚申塔	享保13年(1728)	渚町
田川地区	石造物	渚の道祖神	弘化3年(1846)	渚町
田川地区	石造物	渚の念仏供養塔	紀年銘なし	渚町
田川地区	石造物	渚の法華供養塔	文化11年(1814)	渚町
田川地区	石造物	渚の廻国供養塔	享保18年(1733)	渚町
田川地区	石造物	渚の法華供養塔	享保13年(1728)	渚町
田川地区	石造物	渚の観音供養塔	天保12年(1841)	渚町
田川地区	石造物	渚の馬頭観音	文化9年(1812)	渚町
田川地区	石造物	(新規に見つけた石造物)※要調査	※要調査	渚町
田川地区	石造物	(新規に見つけた石造物)※要調査	※要調査	渚町
田川地区	石造物	常徳院の三界萬霊塔	紀年銘なし	常徳寺
田川地区	石造物	常徳院の観音	紀年銘なし	常徳寺
田川地区	石造物	常徳院の地藏菩薩	紀年銘なし	常徳寺
田川地区	石造物	常徳院の地藏菩薩	紀年銘なし	常徳寺
田川地区	石造物	常徳院の六地藏	文政8年(1825)	常徳寺
田川地区	石造物	常徳院の六地藏	文政8年(1825)	常徳寺
田川地区	石造物	常徳院の六地藏	文政8年(1825)	常徳寺
田川地区	石造物	常徳院の六地藏	文政8年(1825)	常徳寺
田川地区	石造物	常徳院の六地藏	文政8年(1825)	常徳寺

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
田川地区	石造物	常徳院の六地藏	文政8年(1825)	常徳寺
田川地区	石造物	(常徳院の石仏)祖師像?	文化7年(1810)	常徳寺
田川地区	石造物	(常徳院の石仏)如意輪観音	紀年銘なし	常徳寺
田川地区	石造物	渚の如意輪観音	紀年銘なし	渚内城
田川地区	石造物	渚の法華供養塔	天保2年(1831)	
田川地区	石造物	(新規に見つけた石造物)※要調査	※要調査	
田川地区	石造物	(新規に見つけた石造物)	※要調査	
田川地区	石造物	(新規に見つけた石造物)	※要調査	
田川地区	石造物	(新規に見つけた石造物)	※要調査	
田川地区	石造物	渚の念仏供養塔	紀年銘なし	渚内城
田川地区	石造物	渚の道祖神	文政7年(1824)	渚内城
田川地区	石造物	渚の康申塔(上部欠損)	元禄12年(1699)	渚内城
田川地区	石造物	渚大神社の石灯笼	嘉永5年(1852)	渚大神社
田川地区	石造物	渚大神社の石灯笼	嘉永元年(1848)	渚大神社
田川地区	石造物	渚大神社の石灯笼	嘉永元年(1848)	渚大神社
田川地区	石造物	渚大神社の石灯笼	弘化4年(1847)	渚大神社
田川地区	石造物	渚大神社の石灯笼	嘉永3年(1850)	渚大神社
田川地区	石造物	渚大神社の石灯笼	嘉永元年(1848)	渚大神社
田川地区	石造物	渚大神社の石灯笼	文政7年(1824)	渚大神社
田川地区	石造物	渚の廿二夜塔	嘉永6年(1853)	
田川地区	石造物	渚の道祖神	天明2年(1782)	渚本村
田川地区	石造物	渚の念仏供養塔	紀年銘なし	渚本村
田川地区	石造物	渚の康申塔	文政7年(1824)	渚本村
田川地区	石造物	渚の観音(如意輪観音)	紀年銘なし	渚本村
田川地区	石造物	渚の地藏菩薩	紀年銘なし	渚本村
田川地区	石造物	渚の念仏供養塔	紀年銘なし	渚本村
田川地区	石造物	渚の地藏菩薩	紀年銘なし	渚本村
田川地区	石造物	渚の如意輪観音	紀年銘なし	渚本村
田川地区	石造物	渚の馬頭観音	安政4年(1857)	渚本村
田川地区	石造物	渚の馬頭観音	紀年銘なし	渚本村
田川地区	石造物	中条の道祖神	文政12年(1829)	中条
田川地区	石造物	中条の御蔵大権現	天保2年(1831)	中条
田川地区	石造物	中条の庚申塔	元文5年(1740)	中条
田川地区	石造物	大宮神社の石灯笼	嘉永2年(1849)	大宮神社
田川地区	石造物	大宮神社の石灯笼	文化4年(1807)	大宮神社
田川地区	石造物	大宮神社の石灯笼	文政元年(1818)	大宮神社
田川地区	石造物	中条の如意輪観音	紀年銘なし	
田川地区	石造物	渚松林氏の観音	元禄2年(1689)	個人(氏)

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
庄内地区	石造物	水子地藏	不明	逢初町
庄内地区	建造物	城見橋		
庄内地区	石造物	お百度参り石(南側・右側)		筑摩神社
庄内地区	石造物	お百度参り石(北側・左側)		筑摩神社
庄内地区	石造物	水止めの石		個人
庄内地区	石造物	念仏供養塔		神田
庄内地区	石造物	力石		神田
庄内地区	石造物	念仏供養塔		新家町
庄内地区	石造物	念仏供養塔		新家町
庄内地区	石造物	康申塔		新家町
庄内地区	石造物	(題目石)		豊田町
庄内地区	石造物	(名号塔)		豊田町
庄内地区	石造物	義民塚		豊田町
庄内地区	石造物	道祖神		豊田町
庄内地区	石造物	(不明)		豊田町
庄内地区	石造物	馬頭観音		出川町
庄内地区	石造物	馬頭観音		出川町
庄内地区	石造物	馬頭観音		出川町

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
鎌田地区	行事	ぼんぼん		
鎌田地区	行事	青山様		
鎌田地区	史跡	井川城跡	中世	
鎌田地区	行事	文化祭	現代	井川城下区
鎌田地区	行事	ふれあいイベント	現代	井川城下区
鎌田地区	行事	敬老会(政令記念日)	現代	井川城下区
鎌田地区	行事	さくらの会(旧老人会)	現代	井川城下区
鎌田地区	建造物	神明社		
鎌田地区	建造物	曹洞宗大圓山 廣正寺	正平21年(1366)	
鎌田地区	跡地	松本村の役場跡	近代	
鎌田地区	石造物	念仏供養塔	寛政12年(1800)	
鎌田地区	石造物	庚申供養塔	寛保4年(1744)	
鎌田地区	石造物	馬頭観音	慶應3年(1867)	
鎌田地区	石造物	念仏供養塔	寛保4年(1744)	
鎌田地区	石造物	海藏霊神		
鎌田地区	建造物	城殿村	延元5年(1340)頃	
鎌田地区	石造物	道祖神		
鎌田地区	建造物	諏訪社	弘治元年(1555)	
鎌田地区	行事	笹部小唄	明治中頃	
鎌田地区	建造物	野々宮神社(笹部)	元和元年(1615)頃	
鎌田地区	史跡	徳成憲忍大和尚遺跡	延享2年(1745)	
鎌田地区	行事	魚つかみ取り大会	現代	笹部町会
鎌田地区	行事	納涼盆踊り大会	現代	笹部町会
鎌田地区	行事	敬老祝賀会	現代	笹部町会
鎌田地区	行事	運動会	現代	笹部町会
鎌田地区	行事	文化展	現代	笹部町会
鎌田地区	行事	世代間交流会	現代	笹部町会
鎌田地区	建造物	旧NHK松本放送局 JOSG	昭和13年(1938)	
鎌田地区	石造物	道祖神		
鎌田地区	跡地	笹部飛行場跡と競馬場跡	近代	
鎌田地区	跡地	夏秋壘倉庫跡	大正年間(推定)	
鎌田地区	建造物	石芝天満宮	昭和50年(1975)	
鎌田地区	彫刻	母子ブロンズ像	昭和39年(1964)	
鎌田地区	行事	奉納子供相撲		高宮町会
鎌田地区	行事	文化祭	現代	高宮町会
鎌田地区	行事	青山様・ぼんぼん		
鎌田地区	行事	子供神輿		高宮町会
鎌田地区	行事	三九郎		高宮町会
鎌田地区	行事	町内大運動会	現代	高宮町会
鎌田地区	彫刻	阿弥陀様		高宮町会
鎌田地区	石造物	道祖神		高宮町会
鎌田地区	石造物	馬頭観世音	天保6年(1835)	
鎌田地区	石造物	六臂青面金剛	嘉永4年(1851)	
鎌田地区	石造物	聖観音	寛政12年(1800)	
鎌田地区	石造物	聖観音	天保12年(1841)	
鎌田地区	石造物	廻国供養塔	文化4年(1807)	

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
鎌田地区	石造物	地藏菩薩	正徳5年(1715)	高宮町会
鎌田地区	石造物	馬頭観音		高宮町会
鎌田地区	石造物	念仏供養塔	寛政12年(1800)	高宮町会
鎌田地区	石造物	念仏供養塔	延享8年(1680)	高宮町会
鎌田地区	建造物	諏訪社天満宮		高宮町会
鎌田地区	行事	鎌田祭	現代	鎌田町会
鎌田地区	建造物	鎌田北向観音堂		
鎌田地区	建造物	曹洞宗 萬久山 龍昌寺		
鎌田地区	石造物	鎌田菅公廟趾碑		
鎌田地区	石造物	道祖神		
鎌田地区	石造物	念仏供養塔	文化4年(1807)	中条町会
鎌田地区	石造物	庚申塔	天明4年(1784)	中条町会
鎌田地区	石造物	二十三夜塔	文政12年(1829)	中条町会
鎌田地区	石造物	馬頭観音	文政13年(1830)	中条町会
鎌田地区	石造物	馬頭観音	大正4年(1915)	中条町会
鎌田地区	石造物	馬頭観音	大正7年(1918)	中条町会
鎌田地区	石造物	馬頭観音	文政12年(1829)	中条町会
鎌田地区	石造物	念仏供養塔	寛政12年(1800)	中条町会
鎌田地区	石造物	地藏菩薩	正徳2年(1712)	中条町会
鎌田地区	石造物	念仏供養塔	明和2年(1765)	中条町会
鎌田地区	石造物	庚申塔	明和2年(1765)	中条町会
鎌田地区	建造物	御嶽教松本教会	昭和3年(1928)	
鎌田地区	記念碑	開道記念碑	昭和10年(1935)	
鎌田地区	石造物	道祖神		
鎌田地区	建造物	善光寺西光庵		
鎌田地区	建造物	戸隠神社		
鎌田地区	建造物	野々宮神社(征矢野)		
鎌田地区	石造物	馬頭観音		
鎌田地区	石造物	写経塔	明和8年(1771)	
鎌田地区	石造物	庚申塔	元文5年(1740)	
鎌田地区	記念碑	開道記念碑	昭和44年(1969)	
鎌田地区	石造物	矢塚塔		
鎌田地区	石造物	赤面金剛地蔵		
鎌田地区	石造物	二十三夜塔	文政9年(1826)	
鎌田地区	石造物	叢門先生墓		
鎌田地区	行事	お八日念仏と足半		
鎌田地区	建造物	神明社(下社)	天文3年(1534)	
鎌田地区	石造物	道祖神(旧)		
鎌田地区	石造物	道祖神(新)	平成9年頃(1997)	
鎌田地区	建造物	野々宮神社(上社)(両島)	天正元年(1573)	
鎌田地区	跡地	井川部校跡	近代	

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
松南地区	史跡	出川西遺跡	原始・古代	
松南地区	史跡	出川南遺跡	原始・古代	
松南地区	跡地	平田里(ヒツタリ)古墳群跡	古墳時代	
松南地区	跡地	多賀大明神前座跡	中世・近世	
松南地区	跡地	古観音堂跡	中世・近世	
松南地区	跡地	松本市立尋常高等小学校井川部校跡 (旧松本村尋常高等小学校)	近代・現代	
松南地区	町並み	近代・鉄道とともにあった松南地区	近代・現代	
松南地区	跡地	警察予備隊松本部隊跡と自衛隊松本駐屯地	近代・現代	
松南地区	跡地	松本競輪場跡	近代・現代	
松南地区	町並み	戦後の松南地区の発展	近代・現代	

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
島内地区	史跡	平瀬城 (支城・南の城) [種類]城跡・政治	中世	
島内地区	史跡	平瀬城 (本城・北の城) [種類]城跡・政治	中世	
島内地区	跡地	犬飼氏の館跡 [種類]館跡・政治	古代～近世	
島内地区	跡地	平瀬氏の館跡 [種類]館跡・政治	古代～近世	
島内地区	史跡	高松学校跡(たかまつがっこうあと)	近代	
島内地区	跡地	平瀬学校跡 [種類]教育	近代	
島内地区	跡地	町学校跡(まちがっこうあと)	近代	
島内地区	跡地	青島学校跡・島内学校跡(あおしまがっこうあと・しまづらがっこうあと) [種類]教育	近代	
島内地区	街道	氷室道 [種類]交通		
島内地区	街道	長尾道 [種類]交通		
島内地区	街道	岩岡道 [種類]交通		
島内地区	街道	旧糸魚川街道 [種類]交通		
島内地区	街道	仁科道 [種類]交通		
島内地区	街道	千国道 [種類]交通		
島内地区	街道	国道147号線 [種類]交通		
島内地区	街道	川手街道 [種類]交通		
島内地区	街道	国道19号線 [種類]交通		
島内地区	街道	養老坂 [種類]交通		
島内地区	史跡	権現堂の経塚(ごんげんどうのきょうづか) [種類]経塚		
島内地区	史跡	松蔭寺(松隠寺)跡(しよういんじあと) [種類]寺跡・祭祀	近世	
島内地区	史跡	上の寺跡(うえのてらあと) [種類]寺跡・祭祀		
島内地区	史跡	龍雲寺跡(りゆうんじあと) [種類]寺跡・祭祀	近世	
島内地区	史跡	小宮の正宝院跡(こみやのしょうほういんあと) [種類]寺跡・祭祀		個人
島内地区	史跡	伝龍寺跡 [種類]寺跡・祭祀	近代	
島内地区	跡地	軒梅山開善寺・真清山普光院跡(けんばいざんかいぜんじ・しんせいざんふくこういんあと) [種類]寺跡・祭祀	中世・近世	

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
島内地区	史跡	御殿場の遺跡(語城) [種類]城跡・祭祀	中世	
島内地区	史跡	犬飼城跡 [種類]政治	中世	松本市
島内地区	行事	鳥居火山 [種類]祭祀		松本市島内旧八ヶヶ村 (高松・南中・北中・青島・東方・町・北方・犬飼新田)
島内地区	植物・樹木	南中のハイカ藻(みなみななかのぼいかも) [種類]植物		
島内地区	植物・樹木	平瀬城跡の赤松 [種類]植物		個人
島内地区	植物・樹木	大宮神社の社叢(おみややじんじやのしゃそ) [種類]社叢		
島内地区	植物・樹木	小宮神社の社叢(こみやじんじやのしゃそ) [種類]社叢		
島内地区	植物・樹木	鶴宮八幡社の社叢(つるのみやばちまんしゃのしゃそ) [種類]社叢		
島内地区	植物・樹木	武宮神社の社叢 [種類]社叢		
島内地区	植物・樹木	山田の赤松(1) [種類]植物		島内山田共有
島内地区	植物・樹木	山田の赤松(2) [種類]植物		個人
島内地区	植物・樹木	勤左衛門堰のハイカ藻 [種類]植物		
島内地区	植物・樹木	梓川原のソメレンゲ [種類]植物		
島内地区	植物・樹木	大久保家の栗 [種類]植物		個人
島内地区	植物・樹木	犀兼求のイブキジャコウソウ [種類]植物		
島内地区	彫刻	高松寺阿弥陀如来坐像(ごうしようじ) [種類]彫刻[員数]1	鎌倉時代	個人
島内地区	彫刻	町の木造葉師如来立像 [種類]彫刻[員数]1	本尊は室町末期、 光背は鎌倉期	町町会
島内地区	彫刻	小宮公民館の木造阿弥陀如来立像 [種類]彫刻[員数]1	南北朝時代	小宮町会
島内地区	彫刻	北方公民館の木造十一面観音像 [種類]彫刻[員数]1	江戸時代	北方町会
島内地区	彫刻	南中旧阿弥陀堂の木食山居作阿弥陀如来像 [種類]彫刻[員数]1	江戸時代	南中町会
島内地区	彫刻	高松寺の聖徳太子立像 [種類]彫刻[員数]1		個人
島内地区	彫刻	阿弥陀如来立像(木食山居仏) [種類]彫刻[員数]1	江戸時代	個人
島内地区	彫刻	町の木造十二神将像 [種類]彫刻[員数]12		町町会
島内地区	彫刻	町の木食山居作葉師如来立像 [種類]彫刻[員数]1	江戸時代	町町会

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
島内地区	彫刻	青島阿弥陀堂の木食山居作阿弥陀如来像 [種類]彫刻[員数]1	江戸時代	青島町会
島内地区	彫刻	木食山居作阿弥陀如来立像 [種類]彫刻[員数]1		個人
島内地区	彫刻	小宮公民館の木造千手観音立像 [種類]彫刻[員数]1	南北朝時代	小宮町会
島内地区	彫刻	東方大日堂の木食山居作阿弥陀如来立像 [種類]彫刻[員数]1	江戸時代	東方町会
島内地区	彫刻	東方大日堂の葉師如来坐像 [種類]彫刻[員数]1		東方町会
島内地区	彫刻	東方大日堂の毘沙門天立像 [種類]彫刻[員数]1		東方町会
島内地区	彫刻	東方大日堂の六日如来坐像 [種類]彫刻[員数]1		東方町会
島内地区	彫刻	東方大日堂の木造不動明王立像 [種類]彫刻[員数]1		東方町会
島内地区	彫刻	北方公民館の木食山居仏 [種類]彫刻[員数]1	江戸時代	北方町会
島内地区	彫刻	北方公民館の木食山居仏 [種類]彫刻[員数]1	江戸時代	北方町会
島内地区	彫刻	北方公民館の木食山居仏 [種類]彫刻[員数]1	江戸時代	北方町会
島内地区	絵画	高松寺の涅槃図 [種類]絵画[員数]1軸	天保9年(1838)	個人
島内地区	絵画	町の涅槃図 [種類]絵画[員数]1軸	天保9年(1838)	町町会
島内地区	工芸	青島阿弥陀堂の鉦 [種類]工芸[員数]1	寛政9年(1797)	青島町会
島内地区	工芸	小宮公民館の鏡 [種類]工芸[員数]1	明和6年(1769)	小宮町会
島内地区	絵画	青島阿弥陀堂の播隆上人ゆかりの掛軸 [種類]筆跡[員数]2幅のうち1	江戸時代	青島町会
島内地区	絵画	青島阿弥陀堂の播隆上人ゆかりの掛軸 [種類]筆跡[員数]2幅のうち2	江戸時代	青島町会
島内地区	行事	山田町の荒神祭(やまだちようかいのこしんさい)		青島町会 [保存会名]荒神祭保存会
島内地区	庭園	高松寺の庭園(ごうしようじのていえん) [種類]庭園		
島内地区	公園	音楽文化ホール公園及び島内公園 [種類]公園		松本市
島内地区	景観	一千金展望台 [種類]展望地点		
島内地区	湧水	町の湧泉 [種類]湧泉		個人
島内地区	湧水	蛇原の湧泉 [種類]湧泉		
島内地区	河川	奈良井川(ならいがわ) [種類]河川		
島内地区	河川	犀川(さいがわ) [種類]河川		
島内地区	建造物	平瀬橋 [種類]橋梁		
島内地区	建造物	新橋 [種類]橋梁	現代	

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
島内地区	建造物	消防詰所・火の見櫓	現代	松本市消防団第8分団4部
島内地区	建造物	エコトピア山田	現代	松本市
島内地区	建造物	松本青年の家	現代	松本市
島内地区	建造物	山田道の山の神		山田町会、下田町会
島内地区	建造物	犬飼新田公民館	現代	犬飼新田町会
島内地区	建造物	下田公民館	現代	下田町会(土地は下田町内13名の共有地)
島内地区	史跡	平瀬城 北城(ひらせじょう きたじょう)(安曇野市)		
島内地区	石造物	西村天白社蠶玉大神		
島内地区	記念碑	開場記念碑	大正4年(1915)	
島内地区	建造物	青島茶館	現代	
島内地区	建造物	青島公民館	昭和42年(1967)	
島内地区	建造物	青島公民館東分館		
島内地区	建造物	青島公民館南分館	平成27年(2015)	
島内地区	建造物	松島公民館		
島内地区	石造物	法華経千部供養塔		
島内地区	行事	青島山様・ぼんぼん・三九郎		
島内地区	跡地	信濃鉄道青島停留所跡	昭和6年(1931)~ 同11年(1936)頃	
島内地区	文書	成相組青嶋村文書(なりありぐみあおしまむらもんじよ)	近世	
島内地区	用水	島内水源地		
島内地区	石造物	水神様		
島内地区	石造物	大宮神社 忠魂碑	昭和27年(1952)	大宮神社
島内地区	石造物	大宮神社 軍馬忠霊塔	昭和14年(1939)	大宮神社
島内地区	石造物	大宮神社 石碑?	昭和11年(1936)	大宮神社
島内地区	石造物	大宮神社 石灯笼		
島内地区	記念碑	北川原開田記念碑	昭和26年(1951)	
島内地区	記念碑	島高松西土地区画整理事業竣工記念碑	平成元年(1989)	
島内地区	記念碑	島高松東土地区画整理事業竣工記念碑	平成元年(1989)	
島内地区	記念碑	竣工記念碑(團場整備)	平成8年(1996)	
島内地区	建造物	松本児童園	昭和38年(1963)	松本市
島内地区	建造物	島高松公民館	昭和48年(1973)	島高松町会
島内地区	建造物	島内体育館	現代	松本市
島内地区	建造物	あずさ会館	平成元年(1989)	松本市
島内地区	公園	あずさ運動公園	平成元年(1989)	松本市
島内地区	植物・樹木	長尾の道の松		
島内地区	植物・樹木	長尾の渡し近くの樹木		
島内地区	景観	田園と北アルプス(島高松の田園から眺望)		
島内地区	行事	島高松町会の三九郎		
島内地区	行事	島高松町会の青山様・ぼんぼん		
島内地区	石造物	北中の蠶玉様	明治39年(1906)	北中町会
島内地区	建造物	上平瀬会館		上平瀬町会
島内地区	建造物	東方公民館	平成元年(1989)	東方町会
島内地区	建造物	東方 原村松波自治会館	昭和46年(1951)	
島内地区	建造物	東方 祭り舞台収納庫		

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
島内地区	建造物	梓橋(あずさばし) [種類]橋梁		
島内地区	河川	梓川(あずさがわ)		
島内地区	河川	樽木川(古梓川)(くれきがわ)		
島内地区	民俗資料	北方の舞台	明治8年(1875)と 不明、昭和40年前後に 襲町より購入。屋 台庫は昭和49年再 建	
島内地区	民俗資料	平瀬の舞台		
島内地区	民俗資料	高松・島高松の舞台	幕末~明治期 (推定)	
島内地区	民俗資料	北中の舞台	明治21年(1888)、 天井板墨書	
島内地区	民俗資料	南中の舞台	明治期(推定)	
島内地区	民俗資料	東方の舞台	明治40年(1907)こ ろ(舞台蔵梁墨書 銘)。	
島内地区	史跡	高松遺跡	奈良・平安時代	
島内地区	史跡	北中遺跡	平安時代・中世	
島内地区	史跡	南中遺跡	平安時代・中世	
島内地区	史跡	北上平瀬遺跡	平安時代・中世	
島内地区	史跡	法住寺跡	平安時代	
島内地区	史跡	平瀬遺跡	平安時代・中世	
島内地区	史跡	坂下一号古墳、立坂古墳群	古墳時代~中世	
島内地区	史跡	老根田縄文中期・後期遺跡	古墳時代	
島内地区	史跡	稲千原旧石器出土遺跡(いなかんばら きゆうせつしきしゆつどいせき)	縄文 旧石器	
島内地区	史跡	老根田古墳(おいねたこふん)	古墳時代	個人(氏)
島内地区	植物・樹木	島村氏ビャクシン	個人	個人
島内地区	史跡	山田古窯跡群(やまだこようぐん)	古代・中世	個人
島内地区	伝承地	陣畑(じんばたけ)		
島内地区	史跡	山田縄文前期(後半)・中期遺跡(やまだ じようもんぜんき(こうはん)・ちゆうきいせ き)	縄文時代	
島内地区	伝説	鹿乗沢と尾入沢(せいのりざわとおいりざ わ) 泉小太郎伝説		
島内地区	伝説	デイルボツツヤの跡		
島内地区	景観	塊村集落(かいらそんしゅうらく) 養蚕小屋・ 土蔵		
島内地区	記念碑	開道記念碑(かいどうきねんひ)	近代	
島内地区	用水	簡易水道施設遺跡(かんいすいどうしせ ついでせき)	近代	
島内地区	植物・樹木	諏訪社の櫻・杉(すわしやのけやき・すぎ)		
島内地区	その他	養老坂(ようろうざか)からの眺望		
島内地区	跡地	とやば跡(とやばあと)		
島内地区	用水	山田池(上池:ため池) (やまだいけ うえ いけ)		国有地(財務省) 管理者 山田水利組 合
島内地区	建造物	山田公民館	現代	山田町会

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
中山地区	石造物	馬頭観音		個人
中山地区	建造物	下和泉三神		
中山地区	街道	牛蒡とし道		
中山地区	建造物	山の神		個人
中山地区	建造物	中島家住宅と庭園		個人
中山地区	建造物	道祖神と道陸神	文政5年(1822)	
中山地区	建造物	平塚らいちようが滞在した家		個人
中山地区	用水	生薬池	正保4年(1647)	
中山地区	植物・樹木	生妻の松		個人
中山地区	建造物・石造物	山の神と稲荷神社		
中山地区	石造物	馬頭観音	明和元年(1764)	
中山地区	石造物	道標		下和泉
中山地区	石造物	二山の馬頭観音	天明2年(1782)	下和泉
中山地区	石造物	二山の馬頭観音	文化元年(1804)	下和泉
中山地区	石造物	松尾芭蕉歌碑		
中山地区	石造物	赤地藏	安政	
中山地区	石造物	観達墓		
中山地区	石造物	弥勒観音(赤色)		
中山地区	建造物	中屋のお宮	天明6年(1786)	
中山地区	石造物	道祖神		
中山地区	石造物	道祖神		
中山地区	石造物	独楽翁		
中山地区	石造物	観音	明治15年(1882)	
中山地区	石造物	南無阿弥陀仏		
中山地区	石造物	南無阿弥陀仏	文化13年(1816)	
中山地区	建造物	箱井権現	明治15年(1882)	箱井神田
中山地区	石造物	南無阿弥陀仏	安永5年(1776)	
中山地区	石造物	道祖神		
中山地区	石造物	道標		個人
中山地区	石造物	道標	安永5年(1776)	個人
中山地区	建造物	山乃神、津島神社		個人
中山地区	建造物	滝沢大権現		
中山地区	建造物	恵入権現	正保3年(1646)	
中山地区	石造物	馬頭観音		
中山地区	石造物	社宮司大明神		
中山地区	用水	和泉川第一堰堤～第3堰堤		
中山地区	石造物	孫衛門作の道祖神	明和8年(1771)	上和泉中村
中山地区	石造物	道祖神		
中山地区	石造物	開山源雲神		
中山地区	石造物	道祖神		
中山地区	石造物	御蔵様		
中山地区	彫刻	和泉小太郎ブロンズ像		
中山地区	跡地	半地下工場跡	近代	
中山地区	石造物	痕瘡神		
中山地区	石造物	埴原北道祖神		
中山地区	建造物	保福寺	近世	
中山地区	石造物	東部公民館構内瑠璃殿、石仏(行応寺のお薬師様)		
中山地区	建造物	栄珠庵		
中山地区	建造物	郷倉		
中山地区	石造物	料の木権現		
中山地区	跡地	猪土手	近世	
中山地区	石造物	石尊大権現		

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
中山地区	石造物	鍬形さま		
中山地区	石造物	西越の道祖神		
中山地区	跡地	埴原の日新学校跡	近代	
中山地区	建造物・石造物	蓮華寺 宝篋印塔	中世	
中山地区	石造物	沢村の道祖神		
中山地区	建造物	円城寺	近世	
中山地区	石造物	夜泣き封じのお地藏さま		
中山地区	彫刻	円城寺の聖観音		
中山地区	伝説	かんびら石		
中山地区	その他	胡桃沢の石垣	近世か	
中山地区	絵画	仙石翠淵自画像		
中山地区	石造物	鉢塚		
中山地区	建造物	埴原神社		
中山地区	庭園	百瀬氏庭園		個人
中山地区	建造物	長屋門付住宅	明治時代	個人
中山地区	建造物	本棟造り住宅	明治時代	個人
中山地区	建造物	御蔵神社		埴原西町会
中山地区	建造物	金山様	昭和12年(1937)	個人
中山地区	建造物	おつか様(稲荷大明神)		百瀬同姓5軒
中山地区	石造物	道祖神、津島様		埴原西町会
中山地区	植物・樹木	樺大木と北アルプスの景観		個人
中山地区	建造物	八王子権現宮	明治時代	個人
中山地区	建造物	秋葉神社		尾池、坪山常会
中山地区	建造物	弥勒堂		白姫
中山地区	民俗資料	念仏講具一式	平成	棚臺町会
中山地区	建造物	祝殿	江戸中期	埴原南千石常会
中山地区	石造物	児抱き地藏群と赤地藏	江戸中期	個人
中山地区	絵画	庚申講の掛軸	不詳	埴原南千石常会
中山地区	石造物	仁王堂跡に建つ石像、経文石塔、道しるべ石	不詳	埴原南千石常会
中山地区	景観	松本平と北アルプスを眺望する景勝の地		
中山地区	植物・樹木	二重堀の松		

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
島立地区	民俗資料	御乳神社		
島立地区	民俗資料	力石		
島立地区	民俗資料	浄瑠璃のたれ墓		
島立地区	植物・樹木	西生寺の枝垂桜		個人
島立地区	街道	合庁先綱003号線	現代	
島立地区	行事	鶴音様のたんご投げ		
島立地区	建造物	大庭町会		大庭町会
島立地区	民俗資料	厨子(左右二基)		大庭町会
島立地区	民俗資料	大教珠		大庭町会
島立地区	民俗資料	木魚		大庭町会
島立地区	民俗資料	太鼓	明治36年(1903)	大庭町会
島立地区	植物・樹木	島立緑地(ちびっこ広場)の桜	昭和60年(1985)～	松本市
島立地区	工芸	釣鐘	嘉永5年(1852)	
島立地区	石造物	馬頭観音		個人
島立地区	建造物	町区三峰講詞		個人
島立地区	建造物	稲荷大明神・梓澤大明神		個人
島立地区	建造物	熊野社		中村町会
島立地区	建造物	神明社		中村町会
島立地区	石造物	島立村道路標示	明治時代	
島立地区	記念碑	浅田宗伯先生の碑		個人
島立地区	彫刻	正行寺の彫刻		個人
島立地区	石造物	乃木殿		個人
島立地区	石造物	了智上人の墓		個人
島立地区	石造物	懸想道祖神	19世紀半ば	
島立地区	石造物	荒井の念仏供養塔	文政10年(1827)	荒井
島立地区	石造物	荒井の聖観音	寛延2年(1749)	荒井
島立地区	石造物	荒井の如意輪観音	明和9年(1772)	荒井
島立地区	石造物	荒井の馬頭観音	慶応2年(1866)	荒井
島立地区	石造物	荒井の馬頭観音	文久3年(1863)	荒井
島立地区	石造物	清水氏の廻国供養塔	安永8年(1779)	個人(氏)
島立地区	石造物	荒井の道祖神	紀年銘なし	荒井
島立地区	石造物	赤穂氏墓地の六臂書面金剛	紀年銘なし	
島立地区	石造物	赤穂氏墓地の聖観音	紀年銘なし	
島立地区	石造物	赤穂氏墓地の地藏菩薩	紀年銘なし	
島立地区	石造物	赤穂氏墓地の如意輪観音	紀年銘なし	
島立地区	石造物	蛇原の馬頭観音	萬延2年(1861)	蛇原
島立地区	石造物	蛇原の道祖神	紀年銘なし	蛇原
島立地区	石造物	吉沢氏共同墓地の地藏菩薩	正徳3年(1713)	個人(氏)
島立地区	石造物	吉沢氏共同墓地の聖観音	紀年銘なし	個人(氏)
島立地区	石造物	吉沢氏共同墓地の地藏菩薩	寛政7年(1795)	個人(氏)
島立地区	石造物	吉沢氏共同墓地の地藏菩薩	元文2年(1737)	個人(氏)
島立地区	石造物	吉沢氏共同墓地の地藏菩薩	寛政10年(1798)	個人(氏)
島立地区	石造物	吉沢氏共同墓地の供養塔	宝永5年(1708)	個人(氏)
島立地区	石造物	吉沢氏共同墓地の供養塔	弘化3年(1846)	個人(氏)
島立地区	石造物	吉沢氏共同墓地の大乗妙典供養塔	享保16年(1731)	個人(氏)
島立地区	石造物	吉沢氏共同墓地の墓碑	享保6年(1721)	個人(氏)
島立地区	石造物	吉沢氏の法華千部供養塔	紀年銘なし	個人(氏)
島立地区	石造物	吉沢氏の千部供養塔	慶応3年(1867)	個人(氏)
島立地区	石造物	吉沢氏の伽藍塔	天明3年(1783)	個人(氏)
島立地区	石造物	堀米の道祖神	宝暦11年(1761)	堀米
島立地区	石造物	堀米の駒至菩薩	天明6年(1786)	堀米
島立地区	石造物	堀米の馬頭観音	嘉永6年(1853)	堀米
島立地区	石造物	吉沢氏の地藏菩薩	寛政2年(1790)	個人(氏)
島立地区	石造物	吉沢氏の聖観音	宝暦9年(1759)	個人(氏)

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
島立地区	跡地	松本藩高札場	江戸時代	
島立地区	跡地	幸子屋跡	江戸時代～明治時代	
島立地区	建造物	蚕影神社		
島立地区	跡地	郷倉共同井戸(跡)		
島立地区	石造物	鶴音様の辻		
島立地区	記念碑	開道記念碑	昭和時代	
島立地区	石造物	如意庵石造物群	江戸時代	
島立地区	跡地	松本藩榎木揚貯木場跡	江戸時代	
島立地区	記念碑	開道記念碑	昭和時代	
島立地区	石造物	新守大明神		
島立地区	建造物	蛇原観音堂	江戸時代	
島立地区	跡地	水車用堰跡	江戸時代	
島立地区	建造物	水神様	江戸時代	
島立地区	石造物	馬頭観音	大正15年(1926)	個人
島立地区	跡地	古代計画開田の跡	平安時代	
島立地区	石造物	道路碑		個人
島立地区	石造物	馬頭観音	昭和17年(1942)	
島立地区	石造物	地蔵尊		
島立地区	石造物	馬頭観音	近世	個人
島立地区	建造物	浅田宗伯生家		個人
島立地区	石造物	道路碑		
島立地区	石造物	道路碑		
島立地区	その他	大太鼓	明治28年(1895)	
島立地区	彫刻	木像 随神		
島立地区	工芸	御神刀		
島立地区	行事	お乳神社 例大祭 奉納演芸	近代	
島立地区	建造物	糸井織物工場	近代	個人
島立地区	植物・樹木	西生寺のジャケシン		個人
島立地区	跡地	北粟地区の飲料水の井戸跡		
島立地区	行事	神明会 北村念仏講	江戸時代～	北粟北村講仲間 (保管→西生寺)
島立地区	その他	北粟町会章 マーク		
島立地区	その他	屋号		
島立地区	絵画	御乳神社 奉納品		
島立地区	絵画	金太郎と山姥	明治30年(1897)	
島立地区	絵画	浅田豊若之肖像	明治30年(1897)	
島立地区	絵画	竜虎図	明治25年(1892)	
島立地区	書跡	積善	大正3年(1914)	
島立地区	書跡	義勇		
島立地区	写真	征露記念	明治37年(1904)	
島立地区	絵画	騎乗武者図	明治27年(1894)	
島立地区	絵画	騎馬合戦図	明治18年(1885)	
島立地区	絵画	和装紳士騎乗図	明治30年(1897)	
島立地区	歴史資料	左石随神番附人名	明治26年(1893)	
島立地区	絵画	武者なし	大正3年(1914)	
島立地区	絵画	名称なし		
島立地区	歴史資料	御乳社広前都々逸新歌集		
島立地区	その他	(鳥居名札)御乳大明神		
島立地区	その他	(拝殿正面名札)御乳神社		
島立地区	絵画	馬図		
島立地区	工芸	銅鏡		

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
島立地区	石造物	共同墓地の地藏菩薩	宝暦3年(1753)	
島立地区	石造物	共同墓地の地藏菩薩	元治元年(1864)	
島立地区	石造物	市沢氏の地藏菩薩	享和3年(1718)	個人(氏)
島立地区	石造物	北野氏の伽藍塔	紀年銘なし	個人(氏)
島立地区	石造物	北野氏の如意輪観音	文久2年(1862)	個人(氏)
島立地区	石造物	北野氏の地藏菩薩	文政7年(1824)	個人(氏)
島立地区	石造物	藤田氏の地藏菩薩	紀年銘なし	個人(氏)
島立地区	石造物	藤田氏の聖観音	紀年銘なし	個人(氏)
島立地区	石造物	神明社の石灯笼	弘化4年(1847)	町区
島立地区	石造物	神明社の石灯笼	弘化4年(1847)	町区
島立地区	石造物	神明社の御嶽大権現	文久3年(1863)	町区
島立地区	石造物	旧永安寺の馬頭観音	嘉永5年(1852)	町区
島立地区	石造物	旧永安寺の念仏供養塔	享和2年(1802)	町区
島立地区	石造物	旧永安寺の念仏供養塔	文化15年(1818)	町区
島立地区	石造物	旧永安寺の聖観音	文化3年(1806)	町区
島立地区	石造物	旧永安寺の六地藏	元治元年(1864)	町区
島立地区	石造物	旧永安寺の六地藏	元治元年(1864)	町区
島立地区	石造物	旧永安寺の六地藏	元治元年(1864)	町区
島立地区	石造物	旧永安寺の六地藏	元治元年(1864)	町区
島立地区	石造物	共同墓地の地藏菩薩	明和2年(1765)	
島立地区	石造物	町区の二十三夜塔	弘化2年(1845)	町区
島立地区	石造物	町区の道祖神	天保13年(1842)	町区
島立地区	石造物	町区の供養塔	宝永5年(1708)	町区
島立地区	石造物	町区的光明真言供養塔	文化15年(1818)	町区
島立地区	石造物	町区の庚申供養塔	享保9年(1724)	町区
島立地区	石造物	町区の如意輪観音	紀年銘なし	町区
島立地区	石造物	町区の山伏明法神塔	元禄元年(1688)	
島立地区	石造物	南共同墓地の聖観音	文化5年(1808)	
島立地区	石造物	南共同墓地の馬頭観音	天保7年(1836)	
島立地区	石造物	南共同墓地の地藏菩薩	慶応2年(1866)	
島立地区	石造物	南共同墓地の地藏菩薩	寛延2年(1749)	
島立地区	石造物	南共同墓地の墓碑	貞享4年(1687)	
島立地区	石造物	南共同墓地の念仏供養塔	正徳4年(1714)	
島立地区	石造物	南共同墓地の念仏供養塔	紀年銘なし	
島立地区	石造物	永田の六臂書面金剛	明和4年(1767)	永田
島立地区	石造物	永田の梵字碑	紀年銘なし	永田
島立地区	石造物	永田の地藏菩薩	紀年銘なし	永田
島立地区	石造物	永田の道祖神	弘化2年(1845)	永田
島立地区	石造物	永田の馬頭観音	安政6年(1859)	永田
島立地区	石造物	荷村氏の聖観音	嘉永5年(1852)	個人(氏)
島立地区	石造物	荷村氏の聖観音	文政2年(1819)	個人(氏)
島立地区	石造物	荷村氏の聖観音	寛保2年(1742)	個人(氏)
島立地区	石造物	共同墓地の法華供養塔	明和7年(1770)	
島立地区	石造物	共同墓地の聖観音	寛政2年(1790)	個人(氏)
島立地区	石造物	共同墓地の聖観音	嘉永4年(1851)	個人(氏)
島立地区	石造物	共同墓地の如意輪観音	紀年銘なし	個人(氏)
島立地区	石造物	共同墓地の聖観音	文政9年(1826)	個人(氏)
島立地区	石造物	共同墓地の如意輪観音	紀年銘なし	
島立地区	石造物	共同墓地の地藏菩薩	紀年銘なし	

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
島立地区	石造物	如意庵の廿三夜塔	天保5年(1834)	堀米
島立地区	石造物	如意庵の聖観音	弘化3年(1846)	堀米
島立地区	石造物	如意庵の馬頭観音	天保14年(1843)	堀米
島立地区	石造物	如意庵の馬頭観音	元治元年(1864)	堀米
島立地区	石造物	如意庵の地藏菩薩	紀年銘なし	堀米
島立地区	石造物	如意庵の如意輪観音	紀年銘なし	堀米
島立地区	石造物	如意庵の六臂書面金剛	元禄11年(1698)	堀米
島立地区	石造物	如意庵の大乗妙典供養塔	延享2年(1745)	堀米
島立地区	石造物	如意庵の大乗妙典供養塔	安政3年(1856)	堀米
島立地区	石造物	如意庵の庚申塔	紀年銘なし	堀米
島立地区	石造物	如意庵の供養塔	享保13年(1728)	堀米
島立地区	石造物	堀米共同墓地の六地藏	紀年銘なし	堀米
島立地区	石造物	堀米共同墓地の六観音塔	紀年銘なし	堀米
島立地区	石造物	堀米共同墓地の如意輪観音	明和元年(1764)	個人(氏)
島立地区	石造物	堀米共同墓地の大乗妙典供養塔	嘉永5年(1852)	個人(氏)
島立地区	石造物	堀米共同墓地の地藏菩薩	宝暦12年(1762)	個人(氏)
島立地区	石造物	堀米共同墓地の地藏菩薩	明和元年(1764)	個人(氏)
島立地区	石造物	堀米共同墓地の地藏菩薩	寛永元年(1624)	堀米
島立地区	石造物	堀米の道標	紀年銘なし	堀米
島立地区	石造物	藤森氏の地藏菩薩	安永10年(1781)	個人(氏)
島立地区	石造物	藤森氏の伽藍塔	紀年銘なし	個人(氏)
島立地区	石造物	藤森氏の伽藍塔	紀年銘なし	個人(氏)
島立地区	石造物	藤森氏の宝印塔	紀年銘なし	個人(氏)
島立地区	石造物	藤森氏の地藏菩薩	明和3年(1766)	個人(氏)
島立地区	石造物	大庭の道祖神	文政10年(1827)	大庭
島立地区	石造物	大庭の馬頭観音	延享4年(1747)	大庭
島立地区	石造物	大庭の梵字供養塔	延享7年(1679)	大庭
島立地区	石造物	大庭の石灯笼	文政8年(1825)	大庭
島立地区	石造物	大庭の念仏供養塔	宝暦10年(1760)	大庭
島立地区	石造物	共同墓地の無縫塔	安永3年(1774)	個人(氏)
島立地区	石造物	大庭の如意輪観音	文政12年(1829)	大庭
島立地区	石造物	大庭の念仏供養塔	文政11年(1828)	大庭
島立地区	石造物	大庭の廿三夜塔	天保15年(1844)	大庭
島立地区	石造物	西片氏の如意輪観音	明和3年(1766)	個人(氏)
島立地区	石造物	西片氏の地藏菩薩	文化7年(1810)	個人(氏)
島立地区	石造物	西片氏の地藏菩薩	宝暦3年(1753)	個人(氏)
島立地区	石造物	西片氏の地藏菩薩	宝暦3年(1753)	個人(氏)
島立地区	石造物	小柴の御嶽大権現	天保9年(1838)	小柴
島立地区	石造物	小柴の道祖神	安政4年(1857)	小柴
島立地区	石造物	小柴の念仏供養塔	享和4年(1804)	小柴
島立地区	石造物	小柴の六臂書面金剛	享保11年(1726)	小柴
島立地区	石造物	小柴の念仏供養塔	寛保3年(1743)	小柴
島立地区	石造物	小柴の庚申供養塔	紀年銘なし	小柴
島立地区	石造物	小柴の地藏菩薩	天明2年(1782)	小柴
島立地区	石造物	小柴の馬頭観音	嘉永6年(1853)	小柴
島立地区	石造物	小柴の馬頭観音	天保11年(1840)	小柴
島立地区	石造物	小柴の馬頭観音	嘉永5年(1852)	小柴
島立地区	石造物	小柴の馬頭観音	文久3年(1863)	小柴
島立地区	石造物	共同墓地の地藏菩薩	宝暦3年(1753)	
島立地区	石造物	共同墓地の如意輪観音	享保14年(1729)	
島立地区	石造物	共同墓地の地藏菩薩	文政3年(1753)	

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
島立地区	石造物	御乳神社の石灯籠	享保7年(1722)	北栗
島立地区	石造物	御乳神社の石灯籠	享保7年(1722)	北栗
島立地区	石造物	北栗の聖観音	紀年銘なし	北栗
島立地区	石造物	正行寺の念仏供養塔	紀年銘なし	正行寺
島立地区	石造物	正行寺の無縫塔	嘉永6年(1853)	正行寺
島立地区	石造物	正行寺境内の石灯籠	紀年銘なし	個人(氏)
島立地区	石造物	正行寺墓地の地藏菩薩	文政3年(1820)	個人(氏)
島立地区	石造物	正行寺墓地の聖観音	宝暦元年(1751)	個人(氏)
島立地区	石造物	正行寺墓地の地藏菩薩	寛延4年(1751)	個人(氏)
島立地区	石造物	南栗の道祖神	天保8年(1837)	南栗
島立地区	石造物	葉師堂の石灯籠	寛保3年(1743)	南栗
島立地区	石造物	葉師堂の石灯籠	寛保3年(1743)	南栗
島立地区	石造物	丸山氏の念仏供養塔	紀年銘なし	個人(氏)
島立地区	石造物	栗林神社の石灯籠	天保9年(1838)	南栗
島立地区	石造物	栗林神社の石灯籠	天保9年(1838)	南栗
島立地区	石造物	栗林神社の石灯籠	天保12年(1841)	南栗
島立地区	石造物	南栗の馬頭観音	紀年銘なし	南栗
島立地区	石造物	南栗の馬頭観音	元治2年(1865)	南栗
島立地区	石造物	南栗の馬頭観音	安永7年(1778)	南栗
島立地区	彫刻	釈迦誕生仏		
島立地区	彫刻	大日如来坐像		
島立地区	彫刻	聖観音坐像		
島立地区	彫刻	弘法大師坐像		
島立地区	彫刻	阿弥陀如来立像(山居)		
島立地区	彫刻	阿弥陀如来立像(山居)		
島立地区	彫刻	葉師陀如来立像(山居)		
島立地区	彫刻	三方荒神		
島立地区	彫刻	青面金剛立像		
島立地区	彫刻	地藏菩薩立像		
島立地区	彫刻	木食仏(阿弥陀如来)		
島立地区	彫刻	木食仏(誕生仏?)		
島立地区	彫刻	木食仏(地藏菩薩)		
島立地区	彫刻	木食仏(阿弥陀如来)		
島立地区	彫刻	木食仏(地藏菩薩)		
島立地区	彫刻	木食仏(阿弥陀如来)		
島立地区	彫刻	木食仏(如意輪観音)		
島立地区	彫刻	木食仏(地藏菩薩)		
島立地区	彫刻	木食仏(阿弥陀如来?)		
島立地区	彫刻	木食仏(先師像か?)		
島立地区	彫刻	木食仏(先師像か?)		
島立地区	彫刻	木食仏(先師像か?)		
島立地区	その他	磐子	明治25年(1892)	
島立地区	その他	木魚		
島立地区	その他	位牌	文化6年(1809)	

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
島立地区	石造物	共同墓地の地藏菩薩	紀年銘なし	個人(氏)
島立地区	石造物	共同墓地の聖観音	紀年銘なし	個人(氏)
島立地区	石造物	中村の道祖神	寛政10年(1798)	中区
島立地区	石造物	塚田氏の地藏菩薩	寛政9年(1797)	個人(氏)
島立地区	石造物	塚田氏の大乗砂典供養塔	正徳4年(1714)	個人(氏)
島立地区	石造物	沙田神社の社標	紀年銘なし	沙田神社
島立地区	石造物	沙田神社の千度詣石	紀年銘なし	沙田神社
島立地区	石造物	沙田神社の物草太郎碑	紀年銘なし	沙田神社
島立地区	石造物	三ノ宮の道祖神	紀年銘なし	三ノ宮
島立地区	石造物	三ノ宮の庚申供養塔	享保2年(1717)	三ノ宮
島立地区	石造物	三ノ宮の地藏菩薩	正徳4年(1714)	三ノ宮
島立地区	石造物	神宮寺墓地の聖観音	嘉永2年(1849)	個人(氏)
島立地区	石造物	神宮寺墓地の地藏菩薩	天保6年(1835)	個人(氏)
島立地区	石造物	神宮寺墓地の地藏菩薩	明和6年(1769)	個人(氏)
島立地区	石造物	神宮寺墓地の地藏菩薩	安永4年(1775)	個人(氏)
島立地区	石造物	神宮寺墓地の地藏菩薩	天保6年(1835)	個人(氏)
島立地区	石造物	神宮寺墓地の墓碑	享保10年(1725)	個人(氏)
島立地区	石造物	神宮寺墓地の虎字碑	紀年銘なし	個人(氏)
島立地区	石造物	旧神宮寺の無縫塔	紀年銘なし	個人(氏)
島立地区	石造物	旧神宮寺の無縫塔	紀年銘なし	個人(氏)
島立地区	石造物	旧神宮寺の無縫塔	紀年銘なし	個人(氏)
島立地区	石造物	旧神宮寺の無縫塔	紀年銘なし	個人(氏)
島立地区	石造物	旧神宮寺の無縫塔	紀年銘なし	個人(氏)
島立地区	石造物	旧神宮寺の無縫塔	文政9年(1826)	個人(氏)
島立地区	石造物	旧神宮寺の無縫塔	天保9年(1838)	個人(氏)
島立地区	石造物	旧神宮寺の無縫塔	紀年銘なし	個人(氏)
島立地区	石造物	百瀬氏の馬頭観音	天保7年(1836)	個人(氏)
島立地区	石造物	西生寺共同墓地の地藏菩薩	文久3年(1863)	個人(氏)
島立地区	石造物	西生寺の墓	天保9年(1838)	西生寺
島立地区	石造物	西生寺共同墓地の地藏菩薩	紀年銘なし	
島立地区	石造物	西生寺共同墓地の地藏菩薩	享保2年(1717)	個人(氏)
島立地区	石造物	西生寺共同墓地の地藏菩薩	享保3年(1718)	個人(氏)
島立地区	石造物	西生寺共同墓地の地藏菩薩	宝永5年(1708)	個人(氏)
島立地区	石造物	西生寺共同墓地の地藏菩薩	享保2年(1717)	個人(氏)
島立地区	石造物	西生寺共同墓地の地藏菩薩	明和	
島立地区	石造物	西生寺共同墓地の地藏菩薩	紀年銘なし	個人(氏)
島立地区	石造物	西生寺共同墓地の地藏菩薩	寛政8年(1796)	個人(氏)
島立地区	石造物	西生寺共同墓地の地藏菩薩	天明4年(1784)	個人(氏)
島立地区	石造物	西生寺共同墓地の地藏菩薩	紀年銘なし	個人(氏)
島立地区	石造物	西生寺共同墓地の地藏菩薩	寛政8年(1796)	個人(氏)
島立地区	石造物	西生寺共同墓地の地藏菩薩	延享4年(1747)	個人(氏)
島立地区	石造物	西生寺共同墓地の地藏菩薩	寛政14年(1802)	個人(氏)
島立地区	石造物	西生寺共同墓地の地藏菩薩	紀年銘なし	個人(氏)
島立地区	石造物	西生寺共同墓地の地藏菩薩	紀年銘なし	個人(氏)
島立地区	石造物	神明社の如意輪観音	文政12年(1829)	北栗
島立地区	石造物	北村の道祖神	文化12年(1829)	北栗
島立地区	石造物	北村の念仏供養塔	文化12年(1829)	北栗
島立地区	石造物	北村の念仏供養塔	文化13年(1830)	北栗
島立地区	石造物	神明社の御蔵大権現	文政9年(1826)	北栗
島立地区	石造物	南村の道祖神	文化12年(1829)	北栗

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
新村地区	跡地	東新村郷藏跡	近世	
新村地区	その他	一の坪		
新村地区	建造物	東新村 大日堂	平成2年(1990)	
新村地区	建造物	小野製糸所(甲信明社)		
新村地区	街道	高綱道		
新村地区	街道	仁利道		
新村地区	用水	南沢		
新村地区	石造物	馬頭観音像	不詳	
新村地区	石造物	(不明)	不明	
新村地区	石造物	馬頭尊(文字碑)	幕末か	
新村地区	石造物	馬頭尊(文字碑)	元治元年(1864)	
新村地区	石造物	馬頭観音像	不明	
新村地区	石造物	馬頭観音像	昭和13年(1938)	
新村地区	石造物	馬頭観音像	不明	
新村地区	石造物	馬頭観音像	昭和4年(1929)	
新村地区	石造物	馬頭観世音(文字碑)	昭和8年(1933)	
新村地区	石造物	馬頭観音像	不明	
新村地区	石造物	馬頭観音像	明治33年(1900)	
新村地区	石造物	馬頭観音像	嘉永4年(1851)	
新村地区	石造物	馬頭観音像	明治22年(1889)	
新村地区	石造物	馬頭観音像	慶応2年(1866)	
新村地区	石造物	青面金剛像	不明	
新村地区	石造物	道祖神	明治39年(1906)	
新村地区	石造物	廿三夜塔	元治元年(1864)	
新村地区	石造物	念佛供養塔	享保15年(1730)	
新村地区	石造物	梵字念佛供養塔	元禄6年(1693)	
新村地区	石造物	御藏大権現	弘化4年(1847)	
新村地区	石造物	稻荷社(石祠)		
新村地区	記念碑	記念碑	平成5年(1993)	
新村地区	石造物	幟台柱(対)		
新村地区	石造物	幟台柱(単)		
新村地区	石造物	幟台柱(単)		
新村地区	石造物	道標(東)		
新村地区	石造物	道標(西)	大正10年と推定(1921)	
新村地区	石造物	道標(中)	大正10年と推定(1921)	
新村地区	彫刻	木造 大日如来坐像	大正10年(1921)	
新村地区	彫刻	木造 弘法大師坐像(ヒノキ材 香木造)	江戸前期	
新村地区	彫刻	木造 弘法大師坐像	江戸後期	
新村地区	彫刻	木造 阿弥陀如来立像	江戸後期	
新村地区	彫刻	木造 延命地藏菩薩立像	江戸末期	
新村地区	建造物	秋葉社	江戸末期	
新村地区	建造物	稻荷社		
新村地区	建造物	秋葉社		
新村地区	建造物	白山社		
新村地区	行事	大日堂花祭り		
新村地区	行事	戸隠講		
新村地区	行事	大日堂お盆の法要		
新村地区	行事	大日堂お十夜		
新村地区	行事	秋葉社の祭り		

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
新村地区	建造物	戸隠社		
新村地区	石造物	馬鳴観音像		
新村地区	石造物	馬頭観音(文字碑)	明治37年(1904)	
新村地区	石造物	馬頭観世音(文字碑)		
新村地区	石造物	地藏菩薩像		
新村地区	石造物	道祖神		
新村地区	石造物	道祖神		
新村地区	石造物	青面金剛像		
新村地区	石造物	念仏供養塔		
新村地区	石造物	巡拝供養塔		
新村地区	石造物	念仏供養塔	文政9年(1826)	
新村地区	石造物	観音堂建立碑		
新村地区	石造物	無縫塔		
新村地区	石造物	木造 阿弥陀三尊像	弘化4年(1847)	
新村地区	彫刻	木造 弘法大師坐像	天保元年(1820)	
新村地区	彫刻	木造 延命地藏菩薩立像	享保12年(1727)	
新村地区	彫刻	西国三十三番札所観音(33鉢)		
新村地区	絵画	涅槃図		
新村地区	建造物	御崎荒神社(花村同姓の祝殿)		
新村地区	建造物	天白社(矢野同姓の祝殿)		
新村地区	石造物	道祖神		
新村地区	行事	三九郎		
新村地区	行事	お十夜法要		
新村地区	建造物	八幡社		
新村地区	建造物	秋葉社		
新村地区	建造物	新村氏の祝殿		
新村地区	石造物	聖観音像	不詳	
新村地区	石造物	地藏菩薩像	不詳	
新村地区	石造物	地藏菩薩像	不詳	
新村地区	石造物	馬頭観音像	明治42年(1909)	個人
新村地区	記念碑	慰霊碑	昭和25年(1950)	
新村地区	記念碑	忠魂碑	昭和11年(1937)	
新村地区	石造物	念仏供養塔	貞享3年(1686)	
新村地区	石造物	御堂建立碑	宝暦13年(1763)	
新村地区	記念碑	市村合併30周年記念碑	昭和59年(1984)	
新村地区	記念碑	新村小学校校歌碑	昭和48年(1973)	
新村地区	石造物	無縫塔	文化8年(1811)	
新村地区	石造物	五輪塔	不詳	
新村地区	石造物	五輪塔	不詳	
新村地区	石造物	常夜塔	天保4(1833)	
新村地区	石造物	無縫塔群	安永3年(1774)	
新村地区	石造物	幟台柱(対)	明治42年(1909)	
新村地区	記念碑	旧新村小学校位置碑	昭和43~44年(1968~1969)	
新村地区	彫刻	木造 興教大師坐像	江戸時代	
新村地区	彫刻	木造 弘法大師坐像	江戸時代	
新村地区	彫刻	木造 阿弥陀如来坐像		
新村地区	彫刻	木造 弘法大師坐像	天保2年(1831)	

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
新井地区	石造物	荒神社		
新井地区	その他	社号標		
新井地区	彫刻	木造阿弥陀如来像		
新井地区	彫刻	木造阿弥陀如来像	江戸時代前期	
新井地区	絵画	涅槃図	昭和12年(1937)	
新井地区	文書	岩崎神社本殿建立棟札	永正2年(1505)	岩崎神社
新井地区	文書	稲荷社棟札	寛政元年(1789)	岩崎神社
新井地区	文書	岩崎神社本殿錠前	寛政8年(1796)	岩崎神社
新井地区	文書	岩崎神社本殿建替棟札	天保4年(1833)	岩崎神社
新井地区	文書	岩崎神社金毘羅社本殿棟札	弘化2年(1845)	岩崎神社
新井地区	文書	岩崎神社本殿屋根葺替棟札	安政5年(1858)	岩崎神社本殿内
新井地区	文書	社宮司社本殿造替棟札	明治13年(1880)	岩崎神社
新井地区	文書	岩崎神社 幣殿棟札	明治13年(1880)	岩崎神社
新井地区	文書	岩崎神社本殿葺替棟札	明治20年(1887)	岩崎神社
新井地区	文書	上新 稲荷社鳥居建替棟札	明治23年(1890)	岩崎神社
新井地区	文書	岩崎神社鳥居修繕棟札	明治40年(1907)	岩崎神社
新井地区	文書	岩崎神社への合併の遷座祭執行の 木札四枚	明治42年(1909)	岩崎神社
新井地区	文書	岩崎神社石垣建設棟札	大正12年(1923)	岩崎神社
新井地区	文書	岩崎神社本殿葺替幣殿改築棟札	大正3年(1914)	岩崎神社
新井地区	文書	岩崎神社本殿修繕棟札	昭和9年(1934)	岩崎神社
新井地区	文書	岩崎神社本殿 幣殿ら屋根葺替棟 札	昭和26年(1951)	岩崎神社
新井地区	その他	狹馬 薙鎌	不詳	岩崎神社
新井地区	絵画	絵馬 馬上の武者	嘉永2年(1849)	岩崎神社
新井地区	その他	幟(一対)	昭和35年(1960)	岩崎神社
新井地区	文書	永山盛輝書の額	不詳	岩崎神社
新井地区	彫刻	左大臣・右大臣坐像	江戸後期の作か	岩崎神社
新井地区	建造物	岩崎神社 本殿		岩崎神社
新井地区	建造物	岩崎神社 拜殿		岩崎神社
新井地区	建造物	岩崎神社 幣殿	昭和8年(1933)	岩崎神社
新井地区	建造物	岩崎神社 額殿	昭和8年(1933)	岩崎神社
新井地区	建造物	蚕玉神社(岩崎神社 境内神社)		岩崎神社
新井地区	建造物	岩崎神社 宝蔵		岩崎神社
新井地区	建造物	岩崎神社 手水舎	平成13年(2001)	岩崎神社
新井地区	建造物	岩崎神社 鳥居		岩崎神社
新井地区	建造物	岩崎神社 制礼場		岩崎神社
新井地区	建造物	岩崎神社の境内神社	明治10年(1877)	岩崎神社
新井地区	行事	岩崎神社の祭典		岩崎神社
新井地区	行事	岩崎神社 川狩りの神事		岩崎神社
新井地区	行事	岩崎神社 神幸の神事		岩崎神社
新井地区	行事	岩崎神社 引馬の神事		岩崎神社
新井地区	行事	三九郎		岩崎神社
新井地区	行事	体鈿祭(西牧同姓の祝殿)		岩崎神社
新井地区	跡地	飯糰社		岩崎神社
新井地区	行事	清浄院の花まつり 庚申祭		岩崎神社
新井地区	石造物	馬頭観音(文字碑)	平成4年(1992)	
新井地区	石造物	道祖神(文字碑)		
新井地区	石造物	道祖神(文字碑)		
新井地区	石造物	道祖神	不詳	

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
新井地区	建造物	三峯社(柳澤同姓の祝殿)		
新井地区	行事	弘法祭		
新井地区	石造物	道祖神		
新井地区	石造物	地藏菩薩像と荒神社の祠	不詳	
新井地区	石造物	馬頭観世音(文字碑)	明治37年(1904)	
新井地区	石造物	馬頭観世音(文字碑)	明治31年(1898)	
新井地区	石造物	馬頭尊(文字碑)	明治20年(1887)	
新井地区	石造物	馬頭観世音(文字碑)	不詳	
新井地区	石造物	馬頭観世音(文字碑)	明治18年(1885)	
新井地区	石造物	馬頭観世音(文字碑)	明治42年(1909)	
新井地区	石造物	馬頭観世音像	明治36年(1903)	
新井地区	石造物	馬頭観世音像	大正5年(1916)	
新井地区	石造物	馬頭観世音像	大正7年(1918)	
新井地区	石造物	馬頭観世音像	明治43年(1910)	
新井地区	石造物	馬頭観世音像	明治40年(1907)	
新井地区	石造物	馬頭観世音像	不詳	
新井地区	石造物	馬頭観世音像	明治13年(1880)	
新井地区	石造物	馬頭観世音像	大正元年(1912)	
新井地区	石造物	馬頭観世音像	昭和21年(1946)	
新井地区	石造物	馬頭観世音像	明治18年(1885)	
新井地区	石造物	馬頭観世音像	不詳	
新井地区	石造物	馬頭観世音像	明治41年(1908)	
新井地区	石造物	馬頭観世音像	昭和24・26年(1949・1951)	
新井地区	石造物	観世音菩薩像	不詳	
新井地区	石造物	馬頭観世音像	明治43年(1910)	個人(氏)
新井地区	石造物	道祖神(文字碑)	不詳	個人(氏)
新井地区	石造物	青面金剛像		
新井地区	石造物	青面金剛像	万延元年(1860)	
新井地区	石造物	青面金剛像	不詳	
新井地区	石造物	念仏供養塔	享和元年(1801)	
新井地区	石造物	巡礼供養塔(文字碑)	享保19年(1734)	
新井地区	石造物	秋葉山大神(文字碑)	明治10年(1877)	
新井地区	石造物	御藏大権現	弘化3年(1846)	
新井地区	石造物	秋葉大権現		
新井地区	記念碑	御即位記念碑	大正4年(1915)	
新井地区	記念碑	太刀碑	大正5年(1916)	
新井地区	記念碑	西牧家祝殿ビヤウジンの碑	昭和48年(1973)	
新井地区	石造物	無縫塔	不詳	
新井地区	石造物	石灯籠	不詳	
新井地区	石造物	石灯籠(対)	大正14年(1925)	
新井地区	石造物	常夜灯(対)		
新井地区	石造物	石灯籠(対)	大正3年(1914)	
新井地区	石造物	石灯籠	昭和13年(1938)	
新井地区	石造物	手洗い石	明治42年(1909)	
新井地区	石造物	念仏供養塔	不詳	
新井地区	石造物	幟台柱(対)(幟)	明治15年(1882)	
新井地区	石造物	幟台柱(対)(幟)	大正12年(1923)	
新井地区	石造物	幟台柱(対)(幟)	明治41年(1908)	
新井地区	石造物	幟台柱(対)(幟)		

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
新井地区	石造物	道標	大正8年(1919)	
新井地区	用水	新井堰の分水工		
新井地区	建造物	新井堰橋		
新井地区	建造物	樽木堰橋	昭和46年(1971)	
新井地区	建造物	稲荷社(丸山同姓祝殿)		
新井地区	建造物	稲荷社(山田同姓祝殿)		
新井地区	行事	西宮講(恵比寿講)		
新井地区	行事	上野の観音講		
新井地区	跡地	上野稲荷社		
新井地区	跡地	水神社		
新井地区	記念碑	高松堰 取入口改修記念碑	昭和9年(1934)	
新井地区	記念碑	高内堰取水の地跡碑	平成3年(1991)	
新井地区	記念碑	水神の碑	昭和46(1971)	
新井地区	街道	上新西の旧街道(郡道梓村井線)		
新井地区	街道	旧野麦街道		
新井地区	街道	上新中道		
新井地区	街道	横道と渡船場		
新井地区	跡地	上新井郷蔵跡		
新井地区	建造物	上新公会堂	大正12年(1923)	
新井地区	樹木・樹木	ケンショウヤナギ群生地		
新井地区	建造物	上新稲荷社		
新井地区	石造物	観世音(文字碑)	不詳	
新井地区	石造物	摩利支天(文字碑)	不詳	
新井地区	石造物	道相神(文字碑)	不詳	
新井地区	石造物	庚申尊(文字碑)	明治27年(1894)	
新井地区	石造物	念仏供養塔	文政11年(1828)	
新井地区	石造物	念仏供養塔	文政2年(1819)	
新井地区	石造物	御嶽山(文字碑)	不詳	
新井地区	石造物	蚕玉神(文字碑)	大正2年(1913)	
新井地区	その他	根石由来の石	不詳	
新井地区	記念碑	眞恵久次の碑	明治39年(1909)	
新井地区	建造物	稲荷社の石鳥居	平成16年(2004)	
新井地区	石造物	道標		
新井地区	行事	稲荷社の祭り		
新井地区	建造物	火の見櫓	不詳	
新井地区	行事	御嶽様の祭り		
新井地区	行事	蚕玉様の祭り		
新井地区	行事	初庚申の祭り		
新井地区	行事	道祖神祭り		
新井地区	街道	根石の三叉路		
新井地区	その他	根石の良田		
新井地区	景観	歴史のある根石の集落		
新井地区	石造物	薬師如来像	元禄8年(1695)	
新井地区	石造物	大日如来像	不詳	
新井地区	石造物	馬頭観音像	天保13年(1842)	個人
新井地区	石造物	馬頭観音(文字碑)	明治28年(1895)	
新井地区	石造物	地藏菩薩像	明治36年(1903)	
新井地区	石造物	馬頭観世音(文字碑)	明治41年(1908)	
新井地区	石造物	馬頭観世音(文字碑)	明治元年(1868)	
新井地区	石造物	馬頭観世音(文字碑)	明治35年(1902)	

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
新井地区	その他	幟台柱(対)	大正10年(1921)	
新井地区	その他	道路元標	不詳	
新井地区	街道	北新の道 野表街道		
新井地区	街道	北新の道 中村道		
新井地区	街道	北新の道 中桑道		
新井地区	行事	初庚申		
新井地区	石造物	道祖神		
新井地区	行事	恵比寿講(西宮講)		
新井地区	建造物	稲荷社		
新井地区	建造物	金山社		
新井地区	行事	三九郎		
新井地区	街道	北新の道 学校道		
新井地区	街道	北新の道 新〇橋道		
新井地区	建造物	国道158号に架る 北新橋		
新井地区	石造物	馬頭観世音(文字碑)	安政7年(1860)	
新井地区	石造物	道祖神(文字碑)	不詳	
新井地区	石造物	庚申塔(文字碑)	不詳	
新井地区	石造物	巡拝供養塔	不詳	
新井地区	石造物	廻国供養塔	明和8年(1771)	
新井地区	記念碑	圃場整備事業竣工記念碑	昭和63年(1988)	新村ライオンセンター
新井地区	記念碑	ほ場整備竣工記念碑	昭和63年(1988)	
新井地区	記念碑	ほ場整備竣工記念碑	昭和63年(1988)	
新井地区	石造物	幟台柱(対)	明治39年(1906)	
新井地区	建造物	金刀比羅大伸(祝殿)		
新井地区	建造物	三峰様(祝殿)		
新井地区	建造物	稲荷社(祝殿)		
新井地区	行事	庚申講		
新井地区	石造物	馬頭観音像		
新井地区	石造物	馬頭観音像		
新井地区	石造物	馬頭観音像	不詳	
新井地区	石造物	馬頭観世音(文字碑)	昭和4年(1929)	
新井地区	石造物	馬頭観世音(文字碑)	不詳	
新井地区	石造物	馬頭観世音(文字碑)	明治33年(1900)	
新井地区	石造物	馬頭観世音(文字碑)	安政5年(1858)	
新井地区	石造物	馬頭観世音(文字碑)	明治41年(1908)	
新井地区	石造物	馬頭観世音(文字碑)	天保15年(1844)	
新井地区	石造物	馬頭観世音(文字碑)	昭和23年(1948)	
新井地区	石造物	馬頭観世音(文字碑)	大正10年(1921)	
新井地区	石造物	馬頭観世音	不詳	
新井地区	石造物	馬頭観世音(文字碑)	大正9年(1920)	
新井地区	石造物	馬頭尊	明治32-33年(1899・1900)	
新井地区	石造物	馬頭観世音(文字碑)	明治15年(1882)	
新井地区	石造物	馬頭観世音(文字碑)	明治元年(1868)	
新井地区	石造物	如意輪観音像	天明6年(1786)	
新井地区	石造物	道祖神(文字碑)	不詳	
新井地区	石造物	庚申塔(文字碑)	明和8年(1771)	
新井地区	石造物	徳本念仏塔	文政7年(1824)	
新井地区	その他	戦死者慰霊碑	昭和14年(1939)	
新井地区	石造物	灯明台(対)	不詳	
新井地区	石造物	幟台柱(対)	明治45年(1912)	

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
新村地区	彫刻	不造 十一面観音菩薩立像(観音堂本尊)	江戸時代 中頃の作か	専称寺
新村地区	彫刻	不造 脇侍(梵天)(右)	江戸時代中ごろ	専称寺
新村地区	彫刻	不造 脇侍(帝釈天)(左)	江戸時代中頃	専称寺
新村地区	彫刻	不造 四天王立像(4棟)	江戸時代中頃	専称寺
新村地区	彫刻	不造 薬師如来立像	江戸時代中頃	専称寺
新村地区	彫刻	不造 阿弥陀三尊像(善光寺式)	江戸時代中頃	専称寺
新村地区	彫刻	不造 弘法大師坐像	江戸末期	専称寺
新村地区	彫刻	不造 興教大師坐像	江戸末期	専称寺
新村地区	彫刻	不造 観音菩薩像(西国三十三番観音札所観音33跡)	江戸末期	専称寺
新村地区	彫刻	観音堂内の諸仏	江戸末期	専称寺
新村地区	絵画	絵馬(養蚕)	明治期か	専称寺
新村地区	彫刻	不造 幸警塚同上人坐像(専称寺開山大和尚)	不詳	専称寺
新村地区	彫刻	不造 順誓上人坐像(中興六世)	不詳	専称寺
新村地区	彫刻	不造 制誓上人坐像(二十八世)	不詳	専称寺
新村地区	彫刻	不造 僧形坐像A	不詳	専称寺
新村地区	彫刻	不造 僧形坐像B	不詳	専称寺
新村地区	彫刻	不造 阿弥陀三尊仏	不詳	専称寺
新村地区	彫刻	銅造 釈迦如来立像	新仏	専称寺
新村地区	彫刻	不造 阿弥陀如来立像	新仏	専称寺
新村地区	石造物	延命地藏	不詳	専称寺
新村地区	石造物	六地藏菩薩像	寛政11年(1799)	専称寺
新村地区	石造物	六地藏菩薩	寛政10年(1798)	専称寺
新村地区	石造物	六地藏菩薩像 東より5	寛政10年(1798)	専称寺
新村地区	石造物	六地藏菩薩像 東より4	寛政5年(1793)	専称寺
新村地区	石造物	六地藏菩薩像 東より6	寛政5年(1793)	専称寺
新村地区	石造物	百体観音像(101体)	寛政5年(1793)	専称寺
新村地区	石造物	地藏菩薩像	寛政5年(1793)	専称寺
新村地区	石造物	徳本念仏塔	文政10年(1827)	専称寺
新村地区	石造物	念仏供養塔(文字碑)	宝暦3年(1753)	専称寺
新村地区	石造物	念仏塔	寛政6年(1794)	専称寺
新村地区	石造物	三界萬霊塔	宝暦3年(1753)	専称寺
新村地区	石造物	供養塔	文化13年(1816)	専称寺
新村地区	石造物	幟台柱(対)(単)	昭和3年(1928)	専称寺
新村地区	石造物	石灯籠(対1)(北側)	元禄8年(1695)	専称寺
新村地区	石造物	石灯籠(対2)(南側)	元禄8年(1695)	専称寺
新村地区	石造物	石灯籠(対1)	慶応元年(1865)	専称寺
新村地区	石造物	石灯籠(対2)	慶応元年(1865)	専称寺
新村地区	建造物	専称寺の門柱(対)	寛政元年(1865)	専称寺
新村地区	石造物	専称寺正面入口の橋	大正13年(1924)	専称寺
新村地区	石造物	専称寺 縁起	平成6年(1994)	専称寺
新村地区	石造物	梵鐘縁起		専称寺
新村地区	石造物	専称寺開山幸誓上人無縫塔		専称寺
新村地区	石造物	専称寺二世幸誓上人無縫塔		専称寺
新村地区	石造物	専称寺三世信誓上人無縫塔		専称寺
新村地区	石造物	専称寺第四世空誓上人無縫塔		専称寺
新村地区	石造物	専称寺第五世空誓上人無縫塔		専称寺

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
新村地区	石造物	馬頭尊(文字碑)	大正6年(1917)	
新村地区	石造物	馬頭尊(文字碑)	明治33年(1900)	
新村地区	石造物	馬頭尊(文字碑)	明治18年(1875)	
新村地区	石造物	馬頭尊(文字碑)	明治23年(1890)	
新村地区	石造物	馬頭尊(文字碑)	明治22年(1889)	
新村地区	石造物	摩利支天(文字碑)	不詳	
新村地区	石造物	道祖神(双体像)	不詳	
新村地区	石造物	二十三夜尊(文字碑)	明治2年(1869)	
新村地区	石造物	庚申供養塔(文字碑)	元文5年(1740)	
新村地区	石造物	念仏供養塔	不詳	
新村地区	石造物	念仏供養塔	文政2年(1819)	
新村地区	石造物	念仏供養塔	寛保2年(1742)	
新村地区	石造物	御嶽座王大権現	天保12年(1841)	
新村地区	石造物	安塚古墳供養塔(文字碑)	昭和54年(1979)	
新村地区	石造物	出征馬供養塔(文字碑)	昭和16年(1941)	
新村地区	石造物	出征馬供養塔(文字碑)	昭和14年(1939)	
新村地区	石造物	蚕神	明治21年(1888)	
新村地区	石造物	上條安雄翁頌徳碑	昭和54年(1979)	
新村地区	石造物	御柱見当石	不詳	
新村地区	記念碑	中信平農業水利事業竣工記念碑	昭和62年(1987)	
新村地区	記念碑	中信平土地改良区連合記念碑	昭和62年か	
新村地区	石造物	安塚開田の碑	不詳	
新村地区	石造物	歌碑	昭和58年(1983)	
新村地区	石造物	石灯籠	昭和38年(1963)	
新村地区	石造物	石灯籠	寛政11年(1799)	
新村地区	石造物	石灯籠(右側)	文政10年(1827)	
新村地区	石造物	石灯籠(左側)	文政10年(1827)	
新村地区	石造物	幟台柱(対)(単)	大正9年(1920)	
新村地区	石造物	幟台柱(対)(単)	大正9年(1920)	
新村地区	建造物	安塚の養蚕農家の建物	明治期か	
新村地区	建造物	山門(表門)	寛政2年(1790)	専称寺
新村地区	建造物	本堂	延享2年(1745)	専称寺
新村地区	建造物	鐘樓	不詳	専称寺
新村地区	建造物	観音堂	不詳	専称寺
新村地区	建造物	庫裏	不詳	専称寺
新村地区	彫刻	不造 阿弥陀如来坐像(本尊)	江戸前期と推定	専称寺
新村地区	彫刻	不造 観音菩薩立像	元禄13年(1700)	専称寺
新村地区	彫刻	不造 勢至菩薩立像	元禄13年(1700)	専称寺
新村地区	彫刻	木像 善導大師立像	銘なし 江戸時代前期か	専称寺
新村地区	彫刻	木像 法然上人立像	銘なし 江戸時代前期か	専称寺
新村地区	彫刻	木像 薬師如来坐像	銘なし 江戸時代前期か	専称寺
新村地区	彫刻	不造 延命地藏菩薩立像	銘なし 江戸時代前期か	専称寺
新村地区	彫刻	不造 子安地藏菩薩立像	銘なし 江戸時代前期か	専称寺
新村地区	彫刻	不造 子官舌龍上人坐像	近世の作か	専称寺
新村地区	彫刻	銅造 弁財天立像	近代	専称寺
新村地区	彫刻	不造 寶頭廬(ひんずる)尊者坐像	安永4年(1774)	専称寺
新村地区	彫刻	新仏 聖観音立像	不詳	専称寺
新村地区	彫刻	新仏2 聖観音立像	昭和63年(1988)	専称寺
新村地区	彫刻	新仏3 阿弥陀如来立像	平成9年(1997)	専称寺
新村地区	彫刻	新仏4 延命地藏菩薩立像	平成9年(1997)	専称寺

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
新村地区	石造物	専称寺第六世順誓無縫塔		専称寺
新村地区	石造物	専称寺第七世品誓上人無縫塔		専称寺
新村地区	石造物	専称寺第八世兼誓上人無縫塔		専称寺
新村地区	石造物	専称寺第九世中誓上人無縫塔		専称寺
新村地区	石造物	専称寺第十世巴誓上人無縫塔		専称寺
新村地区	石造物	専称寺第十一世流誓上人無縫塔		専称寺
新村地区	石造物	専称寺第十二世海誓上人無縫塔		専称寺
新村地区	石造物	専称寺第十三世湛誓上人無縫塔		専称寺
新村地区	石造物	専称寺第十四世米誓上人位牌		専称寺
新村地区	石造物	専称寺第十五世順誓上人位牌		専称寺
新村地区	石造物	専称寺第十六世台誓上人位牌		専称寺
新村地区	石造物	専称寺第十七世總誓上人位牌		専称寺
新村地区	石造物	専称寺第十八世紅誓上人位牌		専称寺
新村地区	石造物	専称寺第十九世延誓上人無縫塔		専称寺
新村地区	石造物	専称寺第二十世海誓上人無縫塔		専称寺
新村地区	石造物	専称寺第二十一世弁誓上人無縫塔		専称寺
新村地区	石造物	専称寺第二十二世珠誓無縫塔		専称寺
新村地区	石造物	専称寺第二十三世禮誓上人無縫塔		専称寺
新村地区	石造物	専称寺第二十四世蓮誓上人無縫塔		専称寺
新村地区	石造物	専称寺第二十五世櫻誓上人無縫塔		専称寺
新村地区	石造物	専称寺第二十六世金誓上人無縫塔		専称寺
新村地区	石造物	専称寺第二十七世暢誓上人無縫塔		専称寺
新村地区	石造物	専称寺第二十八世制誓上人無縫塔		専称寺
新村地区	石造物	専称寺第二十九世即誓上人無縫塔		専称寺
新村地区	石造物	専称寺第三十世正誓上人無縫塔		専称寺
新村地区	石造物	専称寺第三十一世の無縫塔なし		専称寺
新村地区	石造物	専称寺第三十二世法誓上人無縫塔		専称寺
新村地区	石造物	専称寺第三十三世徳誓上人無縫塔		専称寺
新村地区	石造物	石燈籠	近年のもの	専称寺
新村地区	石造物	観音堂石段	大正13年(1924)	専称寺
新村地区	石造物	常夜燈	天保13年(1842)	専称寺
新村地区	石造物	標石	平成元年(1989)	専称寺
新村地区	石造物	専称寺寺号標	昭和53年(1978)	専称寺
新村地区	石造物	植松標示石	大正2年(1913)	専称寺
新村地区	石造物	植松標示石	大正2年(1913)	専称寺
新村地区	その他	木魚	天保3年(1832)	専称寺
新村地区	その他	真鍮製 香炉鉢 (1)	大正15年(1926)	専称寺
新村地区	その他	銅製 香炉鉢 (2)		専称寺
新村地区	その他	銅製 伏缸 (1)	文政3年(1820)	専称寺
新村地区	その他	銅製 伏缸 (2)	文政3年(1820)か	専称寺
新村地区	絵画	釈迦涅槃図	江戸末期	
新村地区	絵画	當麻曼荼羅	不詳	
新村地区	その他	奉額薬師如来広前	明治24年(1891)	
新村地区	その他	奉額薬師如来広前 松下 梓水 撰	明治20年(1887)	
新村地区	その他	八世其角堂宗匠撰	明治35年(1902)	
新村地区	その他	奉額薬師如来広前	明治26年(1893)	
新村地区	建造物	薬師堂		
新村地区	建造物	薬師堂 宮殿(厨子)	不詳	

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
新村地区	彫刻	薬師如来像	平成21年(2009)	薬師堂
新村地区	行事	安塚薬師堂祭事 涅槃会		
新村地区	行事	安塚薬師堂祭事 花まつり		
新村地区	行事	安塚薬師堂祭事 お十夜		
新村地区	行事	社宮司社(社殿) 西原同姓祝殿祭		個人
新村地区	行事	開発の神(川久保同姓 祝殿祭)		個人
新村地区	行事	庚申(社殿)		町会
新村地区	行事	御嶽社		
新村地区	建造物	三峯社		
新村地区	行事	戸隠講		
新村地区	行事	伊勢講		
新村地区	行事	初午(稲荷社)	不詳	
新村地区	街道	野麦街道		
新村地区	史跡	安塚6号古墳	古墳時代	個人
新村地区	石造物	十一面観音(文字碑)	不詳	
新村地区	石造物	道祖神(文字碑)	昭和6年(1931)(推定)	
新村地区	石造物	上條信徳徳碑	昭和31年(1956)	
新村地区	石造物	立石(北側)	不詳	
新村地区	石造物	立石(南側)	不詳	
新村地区	石造物	鎌石(対)(横)	昭和7年(1932)	
新村地区	跡地	日吉石跡		
新村地区	建造物	旧新村駅舎	大正10年(1921)頃	
新村地区	町並み	新村駅前集落	大正10年頃から	
新村地区	史跡	秋葉原第1号古墳	古墳時代	
新村地区	跡地	芝沢堰跡		
新村地区	跡地	筑摩鉄道株式会社本社跡地		
新村地区	石造物	馬頭観音像	不詳	
新村地区	石造物	聖観音像	不詳	
新村地区	石造物	馬頭観音(文字碑)	明治30年(1897)頃か	
新村地区	石造物	馬頭尊(文字碑)	大正5年(1916)	
新村地区	石造物	馬頭観音像	明治32年(1899)	
新村地区	石造物	不動明王(文字碑)	不詳	
新村地区	石造物	道祖神(文字碑)	不詳	
新村地区	石造物	十三念仏塔	文化9年(1812)	
新村地区	石造物	無縫塔	文化9年(1812)	
新村地区	石造物	鎌台柱(対)(単)	大正2年(1913)	
新村地区	石造物	石灯笼(対)	不詳	
新村地区	石造物	灯笼柱(対)(単)	大正9年(1920)	
新村地区	石造物	灯笼柱(対)(単)	大正2年(1913)	
新村地区	石造物	灯笼柱(対)(単)	大正9年(1920)	
新村地区	跡地	十王堂跡	大正2年(1913)	
新村地区	建造物	八幡社(上條家)		
新村地区	建造物	稲荷社(上條家)		
新村地区	地名	地名 イモヤ		
新村地区	建造物	稲荷社(四丁田)		
新村地区	行事	庚申講		
新村地区	行事	戸隠講		
新村地区	建造物	上條家住宅		
新村地区	跡地	武居塾跡地		
新村地区	石造物	馬頭観音像	文政4年(1821)	

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
新村地区	石造物	馬頭尊(文字碑)	明治18年(1885)	
新村地区	石造物	馬頭観音像	不詳	
新村地区	石造物	馬頭観音像	嘉永元年(1848)	
新村地区	石造物	馬頭観世音(文字碑)	不詳	
新村地区	石造物	馬頭観世音(文字碑)	江戸末	
新村地区	石造物	馬頭観世音(文字碑)	嘉永5年(1852)	
新村地区	石造物	馬頭尊(文字碑)	昭和13年(1938)	
新村地区	石造物	馬頭尊(文字碑)	明治32年(1899)	
新村地区	石造物	馬頭尊(文字碑)	明治36年(1903)	
新村地区	石造物	馬頭観世音(文字碑)	明治45年(1912)	
新村地区	石造物	馬頭観世音(文字碑)	文久元年(1861)	
新村地区	石造物	如意輪観音像	寛政2年(1790)	
新村地区	石造物	如意輪観音像	明治2年(1765)	
新村地区	石造物	如意輪観音像	寛政年間	
新村地区	石造物	馬頭観世音(文字碑)	明治3年(1870)	
新村地区	石造物	地藏菩薩座像	正徳5年(1715)	
新村地区	石造物	聖観音立像	宝暦12年(1762)	
新村地区	石造物	地藏菩薩像		
新村地区	石造物	摩利支天像	明治21年(1888)	
新村地区	石造物	愛染明王像		
新村地区	石造物	不動明王像	明治22年(1889)	
新村地区	石造物	道祖神(文字碑)	文化元年(1804)	
新村地区	石造物	青面金剛像	不詳	
新村地区	石造物	青面金剛像	不詳	
新村地区	石造物	庚申塔	不詳	
新村地区	石造物	飯綱大神(文字碑)	明治26年(1893)	
新村地区	石造物	朝開靈神(文字碑)	明治36年(1903)	
新村地区	石造物	有明山大神(文字碑)	明治21年(1888)	
新村地区	石造物	御嶽山行者像		
新村地区	石造物	天明靈神像		
新村地区	石造物	権頭社(石祠)	不詳	
新村地区	石造物	山神社(石祠)	不詳	
新村地区	石造物	物草大明神(石祠)	不詳	
新村地区	石造物	波多腰郭男頌徳碑	平成6年(1994)	
新村地区	史跡	波多腰悟堂筆塚	昭和8年(1933)	
新村地区	記念碑	明治三十七・八年戦役記念碑	明治39年(1906)	
新村地区	記念碑	物草太郎遺跡地碑	昭和3年(1928)	
新村地区	記念碑	小学校築地碑	昭和8年(1933)	
新村地区	記念碑	折口信夫(超空)の歌碑	平成3年(1991)	
新村地区	石造物	無縫塔	天明3年(1783)	
新村地区	石造物	常夜燈(対)(東側)	天保3年(1832)	
新村地区	石造物	常夜燈(対)(西側)	天保3年(1832)	
新村地区	石造物	石灯笼	慶応4年(1868)	
新村地区	石造物	石灯笼	天保6年(1835)	
新村地区	石造物	石灯笼	文政6年(1823)	
新村地区	石造物	石灯笼	不詳	
新村地区	石造物	石灯笼(対)	文政13年(1830)	
新村地区	石造物	石灯笼(対)	安政5年(1858)办	
新村地区	石造物	石灯笼	明治口年	
新村地区	石造物	石灯笼(対)	安永6年(1777)	

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
新村地区	石造物	石灯笼(対)	文政8年(1825)	
新村地区	石造物	石灯笼(対)	昭和3年(1928)	
新村地区	石造物	石灯笼(対)	不詳	
新村地区	石造物	石灯笼(対)	昭和4年(1929)	
新村地区	石造物	石灯笼(対)	昭和16年(1941)	
新村地区	石造物	石灯笼(対)	昭和12年(1937)	
新村地区	石造物	石灯笼(対)	昭和15年(1940)	
新村地区	石造物	石灯笼(対)	昭和18年(1943)	
新村地区	石造物	石灯笼(単)	不詳	
新村地区	石造物	幟台柱(対)	明治38年(1905)	
新村地区	石造物	幟台柱	明治38年(1905)	
新村地区	石造物	物草太郎銅像台座石	平成3年(1991)	
新村地区	彫刻	物草太郎銅像	平成3年(1991)	
新村地区	行事	念仏講・お稲荷様・権現社祭		
新村地区	行事	秋葉社・地藏祭		
新村地区	行事	戸隠講		
新村地区	行事	天明社の祭		
新村地区	行事	三島社祭		
新村地区	行事	合社祭・収穫感謝祭		
新村地区	建造物	稲荷社(手塚同姓)		
新村地区	跡地	法丘寺跡(新村学校発祥の地)		
新村地区	跡地	南新村郷蔵跡		
新村地区	用水	天井川 芝沢堰		
新村地区	街道	古道 高綱道・中村道		
新村地区	石造物	地藏菩薩像		
新村地区	石造物	聖観音像	享保18年(1733)	
新村地区	石造物	馬頭観音像	不詳	
新村地区	石造物	馬頭観音像	不詳	
新村地区	石造物	馬頭観音像	文久元年(1861)	
新村地区	石造物	地藏菩薩像	不詳	
新村地区	石造物	馬頭観音(文字碑)	弘化5年(1848)	
新村地区	石造物	如意輪観音(文字碑)	宝暦元年(1751)	
新村地区	石造物	如意輪観音	明治35年(1902)	
新村地区	石造物	馬頭観音像	宝暦13年(1763)	
新村地区	石造物	地藏菩薩像	不詳	
新村地区	石造物	地藏菩薩像	宝暦4年(1754)	
新村地区	石造物	地藏菩薩像	不詳	
新村地区	石造物	馬頭観世音(文字碑)	大正11年(1922)	
新村地区	石造物	馬頭観世音(文字碑)	昭和8年(1933)	
新村地区	石造物	馬頭観世音像	明治12年(1879)	
新村地区	石造物	馬頭観音像	明治12年(1879)	
新村地区	石造物	道祖神(文字碑)	文政7年(1824)	
新村地区	石造物	道祖神(双体像)	明治時代	
新村地区	石造物	道祖神(文字碑)		
新村地区	石造物	道祖神(握手像)		
新村地区	石造物	青面金剛像	享保17年(1732)	
新村地区	石造物	廿三夜尊(文字碑)	万延2年(1861)	
新村地区	石造物	徳本念仏塔	天保3年(1832)	
新村地区	石造物	念仏供養塔	寛政6年(1794)	
新村地区	石造物	念佛供養塔	文政7年(1824)	

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
新村地区	石造物	巡拝供養塔	昭和12年(1937)	
新村地区	石造物	高野山供養塔	昭和17年(1932)	
新村地区	建造物	諏訪社 石祠		
新村地区	記念碑	歌碑(文字碑)		
新村地区	石造物	無縫塔	文化元年(1804)	
新村地区	石造物	墓標塔	文政3年(1820)か	
新村地区	石造物	墓標塔	文久3年(1863)	
新村地区	石造物	墓標塔	安永3年(1774)	
新村地区	石造物	墓標塔	元禄11年(1698)	
新村地区	石造物	五輪塔	不詳	
新村地区	石造物	五輪塔	不詳	
新村地区	石造物	五輪塔	不詳	
新村地区	石造物	五輪塔	元禄10年(1697)	
新村地区	石造物	墓標塔	不詳	
新村地区	石造物	五輪塔	不詳	
新村地区	石造物	五輪塔	不詳	
新村地区	石造物	墓標塔	天明5年(1785)	
新村地区	石造物	墓標塔	安政3年(1856)	
新村地区	石造物	幟台柱(対)(単)	明治44年(1911)	
新村地区	石造物	幟台柱(対)(複)	大正11年(1922)	
新村地区	石造物	常夜燈	弘化5年(1848)	
新村地区	石造物	常夜燈	大正7年(1918)	
新村地区	石造物	石灯笼	大正12年(1923)	
新村地区	石造物	石灯笼	不詳	
新村地区	石造物	石灯笼	文政10年(1827)	
新村地区	石造物	常夜燈	嘉永元年(1848)	
新村地区	石造物	石鳥居	明治38年(1905)	
新村地区	石造物	道標	大正初年(1912)か	
新村地区	石造物	道標		
新村地区	建造物	若宮大神		個人
新村地区	建造物	金毘羅社(社殿)		
新村地区	建造物	稻荷社(社殿)		
新村地区	建造物	稻荷社(社殿)		
新村地区	建造物	稻荷社(社殿)		
新村地区	建造物	稻荷社(社殿)		
新村地区	建造物	諏訪大明神社(社殿)		
新村地区	建造物	宇賀神社		
新村地区	建造物	権頭社(社殿)		
新村地区	行事	戸隠講		
新村地区	建造物	三嶋様		
新村地区	行事	庚申様		
新村地区	石造物	貞和三年の板碑	貞和3年(1347)	
新村地区	建造物	阿弥陀堂		
新村地区	彫刻	木造阿弥陀如来立像		
新村地区	その他	鑿子(キンス)	天保6年(1835)	
新村地区	絵画	掛軸 青面金剛尊画像	不詳	
新村地区	文書	掛軸 米澤神社猿田彦太神	不詳	
新村地区	行事	お十夜		
新村地区	行事	念仏講(数珠回し)		

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
新村地区	行事	庚申講		
新村地区	行事	八日念仏		
新村地区	建造物	矢野氏同姓の祝殿 大天白社の幟	天保9年(1838)	
新村地区	行事	大天白の祠		
新村地区	町並み	下新南 上手町の町割		
新村地区	石造物	大日如来(文字碑)	不詳	
新村地区	石造物	馬頭観世音(文字碑)	明治37年(1904)	
新村地区	石造物	馬頭観音像	安口6年	
新村地区	石造物	地藏菩薩像	安政3年(1856)	
新村地区	石造物	観世音菩薩像	不詳	
新村地区	石造物	観世音菩薩像	不詳	
新村地区	石造物	観世音菩薩像	不詳	
新村地区	石造物	観世音菩薩像	不詳	
新村地区	石造物	観世音菩薩像	宝暦7年(1757)	
新村地区	石造物	馬頭観音(文字碑)	弘化5年(1848)	
新村地区	石造物	馬頭観音像	不詳	
新村地区	石造物	馬頭観音像	不詳	
新村地区	石造物	聖観音像	不詳	
新村地区	石造物	馬頭観音像	大正元年(1912)	
新村地区	石造物	馬頭観音像	寛政年間	
新村地区	石造物	馬頭観音像	安政6年(1859)	
新村地区	石造物	馬頭観音像	明治21年~26年(1888~1893)	
新村地区	石造物	馬頭観音像(双体)		
新村地区	石造物	馬頭観音像	明治7年(1874)	
新村地区	石造物	如意輪観音像	明治4年(1767)	
新村地区	石造物	不動明王像	不詳	
新村地区	石造物	道祖神(祝言跪座像)	明治21年(1888)	
新村地区	石造物	道祖神(文字碑)	不詳	
新村地区	石造物	道祖神(文字碑)	文政6年(1823)	
新村地区	石造物	文化9年(1812)	文化9年(1812)	
新村地区	石造物	口口塔	嘉永7年(1854)	
新村地区	石造物	二十三夜塔	不詳	
新村地区	石造物	徳本念仏塔	不詳	
新村地区	石造物	廻国供養塔	明治7年(1770)	
新村地区	石造物	念仏供養塔	不詳	
新村地区	石造物	馬頭観音(石祠)	不詳	
新村地区	石造物	稻荷社(石祠)	不詳	
新村地区	石造物	稲荷社(石祠)	不詳	
新村地区	石造物	力信靈神碑	明治28年(1895)	
新村地区	石造物	新開靈神	明治22年(1889)	
新村地区	石造物	天神社(石祠)	不詳	
新村地区	記念碑	戦役記念碑	明治40年(1907)	
新村地区	石造物	無縫塔	弘化4年(1847)	
新村地区	石造物	無縫塔	文久元年(1861)	
新村地区	石造物	墓標	天明3年(1783)	
新村地区	石造物	墓標	文政8年(1825)	
新村地区	石造物	石灯笼(対)	明治19年(1886)	
新村地区	石造物	手洗石		
新村地区	石造物	石灯笼		
新村地区	石造物	道標		

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
新村地区	石造物	太子像		
新村地区	石造物	稻荷社(石祠)		
新村地区	石造物	稻荷社(石碑)		個人
新村地区	石造物	稻荷社(社殿)		個人
新村地区	石造物	天白社(石祠)		個人
新村地区	石造物	稻荷社(社殿)		
新村地区	石造物	稻荷社(社殿)		
新村地区	石造物	稻荷社(石祠)		
新村地区	石造物	稻荷社(社殿)		
新村地区	石造物	八幡社(祝殿)		
新村地区	行事	山の神		
新村地区	石造物	石造 青面金剛尊立像	元禄14年(1701)	
新村地区	彫刻	木造 大日如来坐像		
新村地区	その他	観音堂内の奉額(広前)		
新村地区	絵画	観音堂内の絵馬		
新村地区	その他	観音堂の立柱		
新村地区	建造物	観音堂		
新村地区	建造物	庚申堂		
新村地区	絵画	庚申堂の掛け軸		
新村地区	建造物	刀利社拝殿(覆屋)		
新村地区	建造物	刀利社(社殿)		
新村地区	その他	神社名額		
新村地区	その他	刀利神社維持奉納人名の額	明治33年(1900)	
新村地区	その他	刀利社 奉額広前 ほか	明治16年(1883)	
新村地区	その他	刀利社の幟	昭和45年(1970)	
新村地区	街道	榎木橋と旧道(仁科道)		
新村地区	街道	牛道		
新村地区	河川	材木を流し下した 榎木川		
新村地区	用水	広大な米作地を支えた(新村堰、栗林堰)		
新村地区	町並み	下新駅開駅と下新銀座		
新村地区	街道	古道 高綱道・中村道		
新村地区	記念碑	旧新村堰の碑	昭和56年(1981)	
新村地区	記念碑	新村堰大井口改修記念碑	昭和23年(1948)	
新村地区	記念碑	梓川農業水利改良工事完成記念碑	昭和5年(1930)	
新村地区	記念碑	芝浜土手記念碑	昭和54年(1979)	
新村地区	石造物	若澤寺跡の対の石灯笼	大正3年(1914)	
新村地区	石造物	新村山頂の山の神	昭和3年(1928)	
新村地区	石造物	目盛石	不詳	
新村地区	石造物	火打石		
新村地区	彫刻	一宮金次郎像	昭和13年(1938)	
新村地区	記念碑	矢野誠一先生謝恩碑		

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
和田地区	行事	三九郎		
和田地区	行事	年取り、正月行事		
和田地区	建造物	太子堂聖徳院		
和田地区	彫刻	聖徳太子立像	享保2年(1717)	聖徳太子堂
和田地区	絵画	聖徳院本堂天井画	弘化2年(1845)	聖徳院
和田地区	史跡	和田太子堂遺跡	古墳	
和田地区	建造物	和田神社	嘉永元年(1848)	
和田地区	石造物	和田神社 灯籠	明治30年(1897)	和田神社
和田地区	行事	和田神社祭り		和田9町会の内7町会
和田地区	石造物	道標	昭和3年(1928)	殿
和田地区	建造物	萬年寺		個人
和田地区	彫刻	釈迦如来坐像	貞享5年(1688)	萬年寺
和田地区	石造物	石塔	明治34年(1901)	萬年寺
和田地区	石造物	石塔	慶応3年(1867)	萬年寺
和田地区	石造物	無縫塔	明治7年(1874)	萬年寺
和田地区	石造物	無縫塔	明治28年(1895)	萬年寺
和田地区	石造物	無縫塔	昭和20年(1945)	萬年寺
和田地区	石造物	無縫塔	昭和39年(1964)	萬年寺
和田地区	石造物	無縫塔	昭和44年(1969)	萬年寺
和田地区	記念碑	忌魂碑		
和田地区	植物・樹木	榎(ケヤキ)		個人
和田地区	石造物	摩利支天石造	明治23年(1890)	
和田地区	建造物	西善寺		
和田地区	彫刻	木造阿弥陀如来坐像及両脇侍立像		西善寺
和田地区	彫刻	彈誓上人立像		西善寺
和田地区	彫刻	阿弥陀三尊像		西善寺
和田地区	彫刻	地藏菩薩半跏像		西善寺
和田地区	絵画	紙本着釈迦涅槃図		西善寺
和田地区	文書	名号刻字額	江戸	西善寺
和田地区	文書	名号雨乞軸		西善寺
和田地区	民俗資料	百万遍大数珠		西善寺
和田地区	彫刻	阿弥陀如来立像		西善寺
和田地区	建造物	社宮司神社(祝殿)		個人
和田地区	史跡	南栗遺跡	縄文・古墳～中世	
和田地区	建造物	正一位稲荷大明神(祝殿)		個人
和田地区	歴史資料	高札	慶応年間	個人
和田地区	文書	棟札	江戸	個人
和田地区	石造物	山伏の塚		
和田地区	民俗資料	和田町会祭り舞台	江戸	和田町町会
和田地区	行事	おひまち(鳥追い)	江戸	
和田地区	行事	道祖神祭り		和田町
和田地区	建造物	無極寺		個人
和田地区	彫刻	阿弥陀如来坐像		無極寺
和田地区	絵画	飛天図	江戸	無極寺
和田地区	記念碑	学童集団疎開の碑		
和田地区	石造物	竜田の石		個人
和田地区	建造物	三峯さま(祝殿)		

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
神林地区	建造物	神林神社		
神林地区	建造物	姫宮神社		
神林地区	建造物	鎮守の守秋葉神社		
神林地区	建造物	山の神		
神林地区	建造物	八幡宮		
神林地区	建造物	水月院		
神林地区	建造物	福心寺		個人
神林地区	建造物	道祖神(文字碑)		
神林地区	石造物	東廻り場石像群		
神林地区	建造物	蒙商野口庄三郎の蔵		個人
神林地区	跡地	旧陸軍飛行場の格納庫跡	近代	
神林地区	跡地	(伝)神林の地頭館跡の堀	中世	個人
神林地区	史跡	南荒井遺跡	古代	
神林地区	史跡	下神遺跡		
神林地区	史跡	神林川西遺跡	縄文・古代・中世	
神林地区	史跡	境窪遺跡	縄文時代	
神林地区	史跡	川西開田遺跡	縄文・弥生・平安	
神林地区	史跡	梶海渡遺跡	縄文~中世	
神林地区	史跡	福心寺館跡	平安次代	
神林地区	史跡	中世		
神林地区	植物・樹木	コウヤマキ		個人
神林地区	植物・樹木	東回り場のアカンヤ		南荒井町会
神林地区	石造物	名号塔	文化4年(1807)	川西
神林地区	石造物	御嶽大権現	安政7年(1860)	川西
神林地区	石造物	馬頭観音	安政2年(1855)	川西
神林地区	石造物	地藏菩薩	宝暦3年(1753)	個人(氏)
神林地区	石造物	名号塔	文政8年(1825)	塩原堂
神林地区	石造物	如意輪観音	宝暦3年(1753)	塩原堂
神林地区	石造物	青面金剛	元禄10年(1697)	川西
神林地区	石造物	無縫塔	元禄10年(1697)	川西
神林地区	石造物	無縫塔	嘉永3年(1850)	川西
神林地区	石造物	無縫塔		阿弥陀堂
神林地区	石造物	無縫塔		阿弥陀堂
神林地区	石造物	観音		阿弥陀堂
神林地区	石造物	観音	文政12年(1829)	個人(氏)
神林地区	石造物	伽藍塔		個人(氏)
神林地区	石造物	伽藍塔		個人(氏)
神林地区	石造物	伽藍塔		個人(氏)
神林地区	石造物	康申塔	万延元年(1860)	川西
神林地区	石造物	馬頭観音	文政10年(1827)	川東
神林地区	石造物	如意輪観音		川東
神林地区	石造物	観音		川東
神林地区	石造物	馬頭観音	文化7年(1810)	川東
神林地区	石造物	名号塔	文政8年(1811)	川東
神林地区	石造物	念仏供養塔	天明7年(1787)	川東
神林地区	石造物	名号塔	宝暦10年(1760)	川東
神林地区	石造物	地藏菩薩		個人(氏)
神林地区	石造物	地藏菩薩	文化13年(1816)	個人(氏)
神林地区	石造物	馬頭観音		個人(氏)
神林地区	石造物	石灯笼	天保9年(1838)	個人(氏)

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
神林地区	石造物	石灯笼	文政11年(1828)	
神林地区	石造物	地藏菩薩	享保6年(1721)	個人(氏)
神林地区	石造物	地藏菩薩	寛延2年(1749)	個人(氏)
神林地区	石造物	地藏菩薩	明和2年(1765)	個人(氏)
神林地区	石造物	石灯笼	嘉永元年(1848)	神林神社
神林地区	石造物	石灯笼	嘉永元年(1848)	神林神社
神林地区	石造物	石灯笼	嘉永3年(1850)	神林神社
神林地区	石造物	石灯笼	嘉永3年(1850)	神林神社
神林地区	石造物	石灯笼	宝暦9年(1759)	神林神社
神林地区	石造物	庚申塔	文化10年(1813)	神林神社
神林地区	石造物	石灯笼		個人(氏)
神林地区	石造物	地藏菩薩		個人(氏)
神林地区	石造物	石灯笼		個人(氏)
神林地区	石造物	地藏菩薩	天明4年(1784)	個人(氏)
神林地区	石造物	道祖神	文化5年(1808)	寺家
神林地区	石造物	如意輪観音		個人(氏)
神林地区	石造物	地藏菩薩		個人(氏)
神林地区	石造物	観音		個人(氏)
神林地区	石造物	観音	貞享元年(1684)	個人(氏)
神林地区	石造物	地藏菩薩		個人(氏)
神林地区	石造物	馬頭観音		個人(氏)
神林地区	石造物	地藏菩薩		個人(氏)
神林地区	石造物	地藏菩薩		個人(氏)
神林地区	石造物	如意輪観音		個人(氏)
神林地区	石造物	聖観音		個人(氏)
神林地区	石造物	青面金剛		個人(氏)
神林地区	石造物	地藏菩薩	安永5年(1776)	個人(氏)
神林地区	石造物	地藏菩薩	天明4年(1784)	個人(氏)
神林地区	石造物	地藏菩薩		個人(氏)
神林地区	石造物	地藏菩薩	文久元年(1861)	個人(氏)
神林地区	石造物	康申塔		福心寺
神林地区	石造物	六地藏	文政9年(1826)	福心寺
神林地区	石造物	六地藏	文政9年(1826)	福心寺
神林地区	石造物	六地藏	文政9年(1826)	福心寺
神林地区	石造物	六地藏	文政9年(1826)	福心寺
神林地区	石造物	六地藏	文政9年(1826)	福心寺
神林地区	石造物	聖観音		福心寺
神林地区	石造物	馬頭観音		福心寺
神林地区	石造物	無縫塔	弘化3年(1846)	福心寺
神林地区	石造物	五輪塔		福心寺
神林地区	石造物	五輪塔		福心寺
神林地区	石造物	無縫塔	寛政6年(1794)	福心寺
神林地区	石造物	無縫塔	天保5年(1834)	福心寺
神林地区	石造物	道標		南荒井町会
神林地区	石造物	巡拝塔	天保6年(1835)	南荒井町会
神林地区	石造物	地藏菩薩		南荒井町会
神林地区	石造物	地藏菩薩	延享元年(1744)	南荒井町会
神林地区	石造物	地藏菩薩	明和7年(1870)	個人(氏)

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
神林地区	石造物	供養塔	元禄5年(1692)	水月院
神林地区	石造物	青面金剛		水月院
神林地区	石造物	馬頭観音		水月院
神林地区	石造物	地藏菩薩		個人(氏)
神林地区	石造物	聖観音	享保17年(1732)	個人(氏)
神林地区	石造物	地藏菩薩		
神林地区	石造物	名号塔	文化12年(1815)	梶海渡
神林地区	石造物	念仏供養塔	文化6年(1809)	梶海渡
神林地区	石造物	康申塔		梶海渡
神林地区	石造物	御藏大権現	天保9年(1838)	梶海渡
神林地区	石造物	道祖神	天明6年(1786)	梶海渡
神林地区	石造物	観音	文化7年(1810)	個人(氏)
神林地区	石造物	念仏供養塔(南無阿弥陀佛)	文化4年(1807)	川西
神林地区	石造物	太子像石仏	元禄14年(1701)	6名共有
神林地区	記念碑	川西水道記念碑(御即位記念水道)	大正14年(1925)	川西町会
神林地区	記念碑	筒井恒藏翁頌徳碑		
神林地区	記念碑	南水寺開田組合		
神林地区	記念碑	水代消防組開道記念(御即位記念道路)		
神林地区	石造物	道標		
神林地区	石造物	馬頭観世音	明治19年(1886)	川東
神林地区	石造物	馬頭観世音	大正10年(1921)	川東
神林地区	石造物	馬頭観世音	昭和15年(1940)	川東
神林地区	石造物	観音	平成10年(1998)	
神林地区	行事	康申講		
神林地区	行事	三九郎		
神林地区	跡地	十王像及び十王堂跡		町神町会
神林地区	石造物	「南無阿弥陀佛」石碑	弘化4年(1847)	町神町会
神林地区	石造物	大黒天	明治33年(1900)	
神林地区	湧水	井戸 2本		康申講仲組
神林地区	行事	御柱		
神林地区	建造物・行事	お十夜と山の神		
神林地区	行事	三九郎		
神林地区	建造物・行事	金毘神社と金毘羅講		
神林地区	石造物	大黒様	明治21年(1888)	同姓
神林地区	石造物	観音	明治18年(1885)	個人(氏)
神林地区	石造物	道祖神	明治2年(1869)	下神中部常会
神林地区	石造物	道祖神		下神中部常会
神林地区	行事	康申講・甲子講等		
神林地区	石造物	菫玉様(養蠶)	明治2年(1869)	梶海渡町会
神林地区	建造物	秋葉様 戸隠講の宮	明治時代	梶海渡町会
神林地区	跡地	お宮の台石(お宮跡)		
神林地区	民俗資料	御摩羅様		梶海渡町会
神林地区	行事	三九郎		
神林地区	その他	康申組(梶海渡東部)		
神林地区	彫刻	木造阿弥陀如来坐像		福心寺
神林地区	彫刻	木造聖観音立像		福心寺
神林地区	彫刻	木造阿弥陀如来坐像	江戸時代	同姓
神林地区	彫刻	奇命立像	江戸時代	同姓
神林地区	彫刻	木造葉師如来立像	江戸時代	同姓
神林地区	彫刻	山唐仏(2体)	江戸時代	同姓

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
神林地区	石造物	地藏菩薩	天保3年(1832)	南荒井町会
神林地区	石造物	石灯笼	天保3年(1832)	南荒井町会
神林地区	石造物	石灯笼	天保3年(1832)	南荒井町会
神林地区	石造物	石尊大権現	文政5年(1822)	南荒井町会
神林地区	石造物	青面金剛	寛延元年(1748)	南荒井町会
神林地区	石造物	道祖神	文化5年(1808)	南荒井町会
神林地区	石造物	如意輪観音	元禄時代	南荒井町会
神林地区	石造物	地藏菩薩		南荒井町会
神林地区	石造物	地藏菩薩		南荒井町会
神林地区	石造物	道標		町神
神林地区	石造物	道標		町神
神林地区	石造物	名号塔	弘化4年(1847)	町神
神林地区	石造物	六地藏		町神
神林地区	石造物	六地藏		町神
神林地区	石造物	六地藏		町神
神林地区	石造物	六地藏		町神
神林地区	石造物	六地藏		町神
神林地区	石造物	六地藏		町神
神林地区	石造物	聖観音		町神
神林地区	石造物	地藏菩薩		個人(氏)
神林地区	石造物	地藏菩薩		個人(氏)
神林地区	石造物	道祖神	文化5年(1808)	町神
神林地区	石造物	五輪塔		個人(氏)
神林地区	石造物	地藏菩薩	文久元年(1861)	個人(氏)
神林地区	石造物	伽藍塔		個人(氏)
神林地区	石造物	五輪塔		個人(氏)
神林地区	石造物	如意輪観音	天保3年(1832)	個人(氏)
神林地区	石造物	地藏菩薩	享保19年(1734)	個人(氏)
神林地区	石造物	地藏菩薩	明和8年(1771)	個人(氏)
神林地区	石造物	青面金剛	明和6年(1769)	個人(氏)
神林地区	石造物	光明真言塔		下神
神林地区	石造物	馬頭観音		個人(氏)
神林地区	石造物	青面金剛	文政11年(1828)	下神
神林地区	石造物	名号塔		下神
神林地区	石造物	二十三夜塔		下神
神林地区	石造物	康申塔		下神
神林地区	石造物	馬頭観音		個人(氏)
神林地区	石造物	地藏菩薩		長久寺
神林地区	石造物	弘法大師		長久寺
神林地区	石造物	宝篋印塔		長久寺
神林地区	石造物	地藏菩薩	文久4年(1864)	長久寺
神林地区	石造物	地藏菩薩		個人(氏)
神林地区	石造物	地藏菩薩		個人(氏)
神林地区	石造物	地藏菩薩	文化10年(1813)	個人(氏)
神林地区	石造物	地藏菩薩	文政13年(1830)	水月院
神林地区	石造物	地藏菩薩		水月院
神林地区	石造物	如意輪観音		水月院
神林地区	石造物	馬頭観音		水月院

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
笹賀地区	街道	酒屋道	江戸時代	
笹賀地区	記念碑	開道記念碑		
笹賀地区	行事・建造物	山の神		
笹賀地区	街道	古道		
笹賀地区	用水	笹賀水源池	昭和時代	
笹賀地区	記念碑	今村開田記念碑		
笹賀地区	石造物	今村の道祖神	寛政元年(1789)	
笹賀地区	その他	かると石		
笹賀地区	石造物	如意輪観音		
笹賀地区	石造物	今村の馬頭観音		
笹賀地区	彫刻・建造物	阿弥陀堂・阿弥陀様		
笹賀地区	石造物	御蘇教の信仰 六臂青面金剛・御蘇大権頭・二十三夜塔	天明2年(1782) 文久2年(1862) 寛政8年(1796)	
笹賀地区	石造物	上小俣の道祖神		
笹賀地区	植物・樹木	笹賀鷲鷲桜(笹賀おしどり桜)		
笹賀地区	跡地	十三経塚と陣台観跡		
笹賀地区	用水	新井溝用水の取り入れ口	江戸時代	
笹賀地区	記念碑	小俣水利改良記念碑		
笹賀地区	石造物	森玉神社		
笹賀地区	石造物	馬頭観音		
笹賀地区	河川	河岸段丘と開田		
笹賀地区	植物・樹木	上條同姓お福荷のビヤクシン		
笹賀地区	跡地	小俣氏館跡	中世	
笹賀地区	史跡	牛の川遺跡	縄文・平安	
笹賀地区	跡地	牛の川遺跡発掘調査全景・発掘された住居跡	縄文時代	
笹賀地区	跡地	小俣郷倉と御判形(ごぼんしよ)跡地	江戸時代	
笹賀地区	建造物	白尾稲荷神社・お福荷様		
笹賀地区	その他	池生神社(ごたま様)・豊玉姫命		
笹賀地区	その他	池生神社階段平岩		
笹賀地区	石造物	石像群		
笹賀地区	史跡	大塚古墳	古墳時代	
笹賀地区	跡地	中村御堂跡	中世	
笹賀地区	石造物	道祖神	寛政8年(1796)	
笹賀地区	彫刻	神戸新田の観音様		
笹賀地区	建造物	大山神社	江戸時代	
笹賀地区	記念碑	忠魂碑	大正10年(1921)	
笹賀地区	記念碑	構造改善竣工記念碑		
笹賀地区	植物・樹木	丸山家ビヤクシン		
笹賀地区	記念碑	笹賀開田記念之碑	昭和38年(1963)	
笹賀地区	石造物	神戸上手(わで)村道祖神		
笹賀地区	跡地・彫刻	大経塚址と不動明王		
笹賀地区	街道	神戸下村道祖神と旧市道		
笹賀地区	跡地	神戸館跡	中世	
笹賀地区	記念碑	鳥山厩得(とらなり)忠魂碑	明治時代	
笹賀地区	記念碑	丸山盛宣忠魂碑	明治時代	
笹賀地区	記念碑	三澤廣茂忠魂碑	昭和時代	

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
笹賀地区	記念碑	龍馬碑(りょうめひ)	明治時代	
笹賀地区	植物・樹木	長照寺の枝垂れ桜		
笹賀地区	植物・樹木	笹賀小学校時代からの松		
笹賀地区	跡地・建造物	旧陸軍松本飛行場第5格納庫基礎跡	近代	
笹賀地区	跡地・建造物	旧陸軍松本飛行場第6格納庫基礎跡	近代	
笹賀地区	跡地・建造物	旧陸軍松本飛行場第3格納庫基礎跡	近代	
笹賀地区	建造物	大嶋宅古民家	安政4年(1857)	
笹賀地区	建造物	津島様		
笹賀地区	石造物	馬頭観音像		
笹賀地区	植物・樹木	慶林寺の榎樹		
笹賀地区	石造物	中二子の道祖神・旧道祖神		
笹賀地区	建造物	御嶽神社		
笹賀地区	石造物	御嶽神社石像群		
笹賀地区	史跡	中二子遺跡	奈良・平安	
笹賀地区	跡地	中二子郷倉跡	江戸時代	
笹賀地区	用水	新井溝	江戸時代	
笹賀地区	建造物	草間同姓明神様		
笹賀地区	建造物	大日如来堂		
笹賀地区	石造物	大日如来坐像		
笹賀地区	建造物	空港東天満宮	昭和61年(1986)	
笹賀地区	行事	子ども神輿	現代	
笹賀地区	史跡	六郎塚	江戸時代	

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
寿地区	石造物	下瀬黒の道陸神 碑	寛政9年(1797)	下瀬黒町会
寿地区	石造物	下瀬黒の三尻万霊塔	宝暦5年(1755)	下瀬黒町会
寿地区	石造物	下瀬黒の供養塔	安永2年(1773)	下瀬黒町会
寿地区	石造物	下瀬黒の念仏供養塔	文政2年(1819)	下瀬黒町会
寿地区	石造物	下瀬黒の馬頭観音	文政2年(1819)	下瀬黒町会
寿地区	石造物	下瀬黒の六地藏		下瀬黒町会
寿地区	石造物	下瀬黒の六地藏		下瀬黒町会
寿地区	石造物	下瀬黒の六地藏		下瀬黒町会
寿地区	石造物	下瀬黒の六地藏		下瀬黒町会
寿地区	石造物	下瀬黒の六地藏		下瀬黒町会
寿地区	石造物	下瀬黒の馬頭観音	安政6年(1859)	下瀬黒町会
寿地区	石造物	下瀬黒の馬頭観音	明治33年(1900)	下瀬黒町会
寿地区	石造物	下瀬黒の馬頭観音	明治19年(1886)	下瀬黒町会
寿地区	石造物	下瀬黒の馬頭観音	大正2年(1913)	下瀬黒町会
寿地区	石造物	日吉神社の石灯笼	嘉永6年(1853)	日吉神社
寿地区	石造物	日吉神社の石灯笼	嘉永6年(1853)	日吉神社
寿地区	建造物	日吉神社と日吉神社の紋章	享保17年(1732)再建	日吉神社境内
寿地区	湧水	倉沢の井戸		下瀬黒町会
寿地区	石造物	秋葉山大権現	弘化3年(1846)	日吉神社境内
寿地区	石造物	山王権現	慶応3年(1867)	日吉神社境内
寿地区	石造物	日吉神社の石の鳥居	明治28年(1895)	日吉神社境内
寿地区	石造物	百瀬銀次郎の墓	明治26年(1893)	下瀬黒町会
寿地区	行事	三九郎		下瀬黒町会
寿地区	行事	ぼんぼん		下瀬黒町会
寿地区	行事	青山様神輿		下瀬黒町会
寿地区	その他	サザン並柳団地	昭和63年(1988)～	下瀬黒町会
寿地区	街道	旧街道(東山古道)	寛政9年(1797)以前	地域の伝承文化
寿地区	行事	ふれあい・いきいきサロン事業	平成15年(2003)～	下瀬黒町会
寿地区	伝統技術	しめ縄作り講習会		下瀬黒町会
寿地区	彫刻	阿弥陀如来-1		王徳寺
寿地区	彫刻	阿弥陀如来-2		王徳寺
寿地区	彫刻	十一面観音像-1		王徳寺
寿地区	彫刻	十一面観音像-2		王徳寺
寿地区	彫刻	王徳寺の興教大師-1		王徳寺
寿地区	彫刻	王徳寺の興教大師-2		王徳寺
寿地区	彫刻	弘法大師-1		王徳寺
寿地区	彫刻	弘法大師-2		王徳寺
寿地区	彫刻	薬師如来像		王徳寺
寿地区	彫刻	不動明王二童子付		王徳寺
寿地区	彫刻	制吒童子		王徳寺
寿地区	彫刻	狛狛童子		王徳寺
寿地区	彫刻	青面金剛像		王徳寺
寿地区	行事	上瀬黒・三九郎		上瀬黒町会
寿地区	行事	米澤神社の祭典		米澤神社
寿地区	行事	長持ちと子供神輿		米澤神社
寿地区	行事	竜王様の祭典		上瀬黒町会
寿地区	石造物・行事	十王堂延命地藏・無縁仏供養		上瀬黒町会
寿地区	行事	“ 銭太鼓 ”		上瀬黒町会

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
寿地区	行事	上瀬黒町会『映画会』	平成22年(2010)～	映画同好会
寿地区	行事	米澤神社の初庚申		上瀬黒町会
寿地区	石造物	堂山の三尻萬霊塔	紀年名なし	上瀬黒町会
寿地区	石造物	堂山の庚申供養塔		上瀬黒町会
寿地区	石造物	堂山の回國供養塔	宝暦5年(1755)	上瀬黒町会
寿地区	石造物	王徳寺の手洗鉢	嘉永5年(1852)	王徳寺
寿地区	石造物	王徳寺の石灯笼	慶應3年(1867)	王徳寺
寿地区	石造物	王徳寺の石灯笼・左	弘化3年(1846)	王徳寺
寿地区	石造物	王徳寺の石灯笼・右	弘化3年(1846)	王徳寺
寿地区	石造物	王徳寺の代任職墓碑		王徳寺
寿地区	石造物	王徳寺の五輪塔	宝暦2年(1752)	王徳寺
寿地区	石造物	王徳寺の五輪塔	宝暦13年(1763)	王徳寺
寿地区	石造物	上瀬黒の道祖神	寛政12年(1800)	上瀬黒町会
寿地区	石造物	上瀬黒の地藏菩薩	弘化2年(1845)	上瀬黒町会
寿地区	石造物	ふる堂の大明如來	明和7年(1770)	上瀬黒町会
寿地区	石造物	王徳寺の光明真言供養塔	宝暦6年(1756)	王徳寺
寿地区	石造物	王徳寺の光明真言供養塔	享保4年(1719)	王徳寺
寿地区	石造物	王徳寺の六地藏	明和6年(1769)	王徳寺
寿地区	石造物	王徳寺の六地藏-1	明和6年(1769)	王徳寺
寿地区	石造物	王徳寺の六地藏-2	明和6年(1769)	王徳寺
寿地区	石造物	王徳寺の六地藏-3	明和6年(1769)	王徳寺
寿地区	石造物	王徳寺の六地藏-4	明和6年(1769)	王徳寺
寿地区	石造物	王徳寺の六地藏-5	明和6年(1769)	王徳寺
寿地区	石造物	王徳寺の六地藏-6	明和6年(1769)	王徳寺
寿地区	石造物	王徳寺の供養塔	元禄8年(1695)	王徳寺
寿地区	石造物	王徳寺の不動尊	文久元年(1861)	王徳寺
寿地区	石造物	王徳寺の弘法大師	明和6年(1769)	王徳寺
寿地区	彫刻	王徳寺の不動明王坐像	明応8年(1499)	王徳寺
寿地区	石造物	上瀬黒の秋葉牛頭天	文久元年(1861)	上瀬黒町会
寿地区	石造物	上瀬黒の津嶋牛頭天王	天保5年(1834)	上瀬黒町会
寿地区	石造物	上瀬黒の道標	紀年銘無し	上瀬黒町会
寿地区	石造物	上瀬黒の二十三夜塔	天保3年(1832)	上瀬黒町会
寿地区	石造物	上瀬黒の念仏供養塔-1	文政12年(1829)	上瀬黒町会
寿地区	石造物	上瀬黒の念仏供養塔-2	文政12年(1829)	上瀬黒町会
寿地区	石造物	上瀬黒の馬頭観音	文久元年(1861)	上瀬黒町会
寿地区	石造物	米澤神社の狛犬(左)	弘化3年(1846)	上瀬黒町会
寿地区	石造物	米澤神社の狛犬(右)	弘化3年(1846)	米澤神社
寿地区	石造物	米澤神社の石灯笼	享和2年(1802)	米澤神社
寿地区	石造物	米澤神社の石灯笼	享和2年(1802)	米澤神社
寿地区	石造物	米澤神社の石灯笼	文政5年(1822)	米澤神社
寿地区	石造物	米澤神社の石灯笼	文政5年(1822)	米澤神社
寿地区	石造物	米澤神社の石灯笼(常夜燈左)	弘化3年(1846)	米澤神社
寿地区	石造物	米澤神社の石灯笼(常夜燈右)	弘化3年(1846)	米澤神社
寿地区	石造物	米澤神社の六臂青面金剛	元禄7年(1694)	米澤神社
寿地区	石造物	米澤神社の石碑	享和3年(1803)	米澤神社
寿地区	石造物	米澤神社の御藏大権現	天保9年(1838)	米澤神社
寿地区	石造物	米澤神社の石灯笼(南)	明治45年(1912)	米澤神社
寿地区	石造物	石灯笼(彦彰社前)	紀元銘無し	上瀬黒町会
寿地区	石造物	梵字庚申供養塔	元禄4年(1691)	米澤神社

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
寿地区	石造物	三猿庚申供養塔	昭和5年(1930)	米澤神社
寿地区	石造物	米澤神社の石灯笼		米澤神社
寿地区	石造物	米澤神社の手洗鉢	紀元銘なし	米澤神社
寿地区	石造物	馬頭観世音群		上瀬黒町会
寿地区	石造物	百瀬耕元墨跡碑	寛政12年(1800)	上瀬黒町会
寿地区	石造物	①瀬黒十王堂の石造 ②無縁仏の供養塔	紀元銘なし	上瀬黒町会
寿地区	石造物	上瀬黒十王堂の石造	天保9年(1838)	上瀬黒町会
寿地区	石造物	①延命地藏菩薩 ②無縁仏の供養塔	延享5年(1748)~ 明治10年(1877)	上瀬黒町会
寿地区	石造物	十王堂守の墓石群	明治29年(1896)	上瀬黒町会
寿地区	石造物	鉢伏神社と戸隠神社石標		上瀬黒町会
寿地区	建造物	王徳寺		王徳寺
寿地区	建造物	米澤神社		米澤神社・ 上瀬黒町会
寿地区	河川	牛伏川		
寿地区	記念碑	牛伏川改修竣工記念碑	昭和61年(1986)	
寿地区	石造物	瀬黒城址の石垣	中世	
寿地区	植物・樹木	牛伏川堤防の桜並木		
寿地区	建造物	赤木山弘長寺(真言宗智山派)	伝創建弘長3年(1263)	弘長寺
寿地区	植物・樹木	景観 弘長寺のあじさい(紫陽花)	昭和55年(1980)~ 江戸時代前期	弘長寺
寿地区	彫刻	弘長寺本尊 木造不動明王立像・木造 矜羯羅童子立像・木造制多迦童子立 像	(元禄10年(1697) 京都よりの伝承有)	弘長寺
寿地区	彫刻	木造十一面観音立像	江戸時代後期	弘長寺
寿地区	彫刻	木造弘法大師坐像・木造興教大師坐 像	江戸時代後期(推定)	弘長寺
寿地区	絵画	真言八相(画軸)	江戸時代(推定)	弘長寺
寿地区	彫刻	阿弥陀如来・木造延命地藏菩薩半脚 像・木造大日如来坐像	室町時代末期(推定)	弘長寺
寿地区	彫刻	木喰山居仏 1体・木喰山居仏 5体(桃水堂より)	江戸時代中期	弘長寺
寿地区	彫刻	薬師如来と日光・月光菩薩像	室町末期か江戸時代初 期(推定)	弘長寺
寿地区	彫刻	十二神将	江戸時代	弘長寺
寿地区	絵画	松に鷹図(巻絵)	江戸時代	弘長寺
寿地区	文書	亀田齋の書(幟)	江戸時代	弘長寺
寿地区	絵画	西瓜の図(掛け物)	昭和時代	弘長寺
寿地区	絵画	雲上白衣観音の図(掛け物)	昭和時代	弘長寺
寿地区	石造物	三界萬靈碑・地藏菩薩(赤)	元禄年間・元文2年 (1737)	弘長寺
寿地区	石造物	庚申供養塔	元禄12年(1699)	弘長寺
寿地区	石造物	石幢(せきどう)	寛文2年(1662)	弘長寺
寿地区	石造物	薬師如来・地藏菩薩	宝暦4年(1754) 享保19年(1734)	
寿地区	石造物	廻国供養塔	宝暦4年(1754)	
寿地区	建造物	弁財天	現在のもの は昭和	弘長寺
寿地区	建造物	宝篋印塔(7基)	不明	弘長寺
寿地区	石造物	無縫塔(2基)	文化13年(1816)・不明	弘長寺
寿地区	石造物	五輪塔(4基)	宝永4年(1707)・享保11 年(1726)・元文6年 (1741)・不明	弘長寺
寿地区	石造物	金山様 法華経供養塔	不明	同姓

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
寿地区	石造物	金山様 光明真言供養塔	不明	同姓
寿地区	石造物	金山様 荒神様	不明	同姓
寿地区	石造物	金山様 廻国供養塔	天明7年(1787)	同姓
寿地区	石造物	金山様 二十三夜・二十夜供養塔	安永7年(1778)	同姓
寿地区	石造物	赤木堂山南の秋葉大権現碑	江戸時代	赤木町会
寿地区	石造物	赤木 幽言塚(ゆうごんづか)	江戸時代	赤木町会
寿地区	建造物	霊神様(ふごん塚)	昭和時代	個人(氏)外
寿地区	石造物	赤木下宮の天満宮碑	元治元年(1864)	赤木町会
寿地区	記念碑	赤木下宮の宮 校跡記念碑	昭和26年(1951)	赤木町会
寿地区	石造物	赤木下宮の宮南 石仏群(15基)	江戸時代	
寿地区	石造物	赤木 下の道祖神(しものどうそじん)	江戸時代	赤木町会
寿地区	石造物	赤木 西村の道祖神	江戸時代	赤木町会
寿地区	石造物	赤木 中村の道祖神	江戸時代	赤木町会
寿地区	石造物	赤木 上宮の上の道祖神	江戸時代	赤木町会
寿地区	石造物	赤木の光明真言供養塔・光明真言供 養塔	正徳5年(1716)・不明	赤木町会
寿地区	石造物	赤木 供養塔	天明5年(1785)	赤木町会
寿地区	石造物	赤木 念仏供養塔	文化7年(1810)	赤木町会
寿地区	石造物	赤木 馬頭観音	江戸時代	赤木町会
寿地区	石造物	赤木 馬頭観音	江戸時代	赤木町会
寿地区	石造物	浅間神社	天保7年(1836)	赤木町会
寿地区	石造物	御浅間様の清心霊神碑	江戸時代	赤木町会
寿地区	石造物	御浅間様の不動尊(不動明王)	江戸時代	赤木町会
寿地区	石造物	御浅間様の明治天皇碑	大正11年(1922)	赤木町会
寿地区	石造物	御浅間様の平僧大(はんぞうだいじ ん)	大正13年(1924)	赤木町会
寿地区	石造物	御浅間様の山の神	江戸時代	赤木町会
寿地区	石造物	御浅間様の馬頭観音・古田氏の馬頭観音 (文字碑)	江戸時代 大正3年(1914)・昭和30 年(1955)	赤木町会
寿地区	石造物	赤木の地藏菩薩(いぼ神様)	享保7年(1722)	赤木町会
寿地区	建造物	赤木堂山桃水寺跡 観音堂	江戸時代	赤木町会
寿地区	石造物	赤木堂山の念仏供養塔	江戸時代	赤木町会
寿地区	石造物	赤木堂山の二十三夜塔	正徳5年(1715)	赤木町会
寿地区	石造物	赤木堂山の庚申塔	江戸時代	赤木町会
寿地区	石造物	赤木堂山の弥勒菩薩半脚像	江戸時代	赤木町会
寿地区	石造物	赤木堂山の念仏供養塔	享和2年(1802)	赤木町会
寿地区	石造物	赤木堂山の菩薩像	江戸時代	赤木町会
寿地区	石造物	赤木堂山の主大神碑	弘化2年(1845)	赤木町会
寿地区	石造物	赤木堂山の地藏菩薩	不詳	赤木町会
寿地区	石造物	赤木堂山の念仏供養塔	江戸時代	赤木町会
寿地区	石造物	赤木堂山の念仏供養塔	貞享元年(1684)	赤木町会
寿地区	石造物	赤木堂山の念仏供養塔	延宝2年(1674)	赤木町会
寿地区	石造物	赤木堂山の無縫塔	文化5年(1808)	赤木町会
寿地区	石造物	御嶽様の御嶽山大権現	江戸時代	赤木町会
寿地区	石造物	赤木御嶽様の八海山神社(石碑)	江戸時代	赤木町会
寿地区	石造物	御嶽様の三笠山神社	江戸時代	赤木町会
寿地区	石造物	御嶽様の金毘羅様	江戸時代	赤木町会
寿地区	石造物	御嶽様の山の神	江戸時代	赤木町会
寿地区	石造物	浅間様上の馬頭観音	江戸時代	個人(氏)
寿地区	石造物	赤木の神の宮下 青面金剛	大正6年(1917)	赤木町会

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
葬地区	石造物	赤木上宮の下 念仏供養塔	天明7年(1787)	赤木町会
葬地区	石造物	赤木上宮の下 念仏供養塔	江戸時代	赤木町会
葬地区	石造物	赤木上宮の下 馬頭観音(文字碑)	大正12年(1923)	赤木町会
葬地区	石造物	赤木上宮の下 馬頭観音	昭和2年(1927)	赤木町会
葬地区	石造物	赤木上宮の下 馬頭観音	江戸時代	赤木町会
葬地区	石造物	赤木上宮の下 光明真言供養塔	天明7(1787)	赤木町会
葬地区	石造物	赤木上宮の下 馬頭観音(文字碑)	明治元年(1868)	赤木町会
葬地区	石造物	赤木上宮の下 馬頭観音(3基)	明治15年(1882) 嘉永6年(1853) 1基は不明	赤木町会
葬地区	石造物	赤木上宮南墓地 地藏菩薩・六地藏	享保7年(1722)	赤木町会
葬地区	石造物	赤木上宮南墓地内 地藏菩薩	宝暦7年(1757)	赤木町会
葬地区	彫刻	木喰山唐仏	江戸時代	個人
葬地区	石造物	赤木上宮 三峯神社	江戸時代	赤木町会
葬地区	石造物	赤木上宮 蚕玉様	江戸時代	赤木町会
葬地区	建造物	赤木上宮 田心姫神社(たごりひめじんじや)	江戸時代	赤木町会
葬地区	建造物	赤木上宮 津島社	江戸時代	赤木町会
葬地区	建造物	赤木上宮東 秋葉神社	江戸時代	赤木町会
葬地区	石造物	赤木の馬頭観音	江戸時代	個人
葬地区	石造物	赤木 君石	年代不詳	赤木町会
葬地区	湧水	百瀬の三清水		
葬地区	跡地	観音堂		
葬地区	石造物	正念寺の廿三夜塔	嘉永3年(1850)	正念寺
葬地区	石造物	正念寺の六地藏		正念寺
葬地区	石造物	道祖神	昭和48年(1971)	
葬地区	古墳	耳塚古墳	古墳時代	
葬地区	建造物	百瀬陣屋跡	江戸時代	
葬地区	建造物	百瀬諏訪神社		
葬地区	跡地	掘屋敷		
葬地区	食文化	米作り	中世	
葬地区	食文化	根菜類		
葬地区	食文化	麴と膠(こじともろみ)の作業場		
葬地区	その他	神田		
葬地区	その他	馬掛選抜競艇会	明治時代	
葬地区	建造物	正念寺 旧鐘楼と牛伏寺に移した鐘楼		
葬地区	建造物	寿村役場		
葬地区	石造物	南百瀬の道祖神	慶応2年(1866)	南百瀬
葬地区	石造物	正念寺の三界萬霊塔	紀年銘なし	正念寺
葬地区	石造物	正念寺の念仏供養塔	紀年銘なし	正念寺
葬地区	石造物	正念寺の念仏供養塔	元文5年(1740)	正念寺
葬地区	跡地	へび塚跡		百瀬保存会
葬地区	石造物	正念寺の弥勒菩薩	紀年名なし	正念寺
葬地区	石造物	正念寺の地藏菩薩	元禄6年(1693)	正念寺
葬地区	石造物	正念寺の地藏菩薩	享保7年(1722)	正念寺
葬地区	石造物	正念寺の庚申供養塔	元禄3年(1690)	正念寺
葬地区	石造物	正念寺の地藏菩薩	寛保2年(1742)	正念寺
葬地区	石造物	正念寺の無縫塔	寛政12年(1800)	正念寺
葬地区	石造物	正念寺の無縫塔	享保11年(1726)	正念寺

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
葬地区	石造物	高野氏の馬頭神霊	文化3年(1806)	個人
葬地区	石造物	高野氏の庚申供養塔	享保19年(1734)	個人
葬地区	石造物	百瀬氏の馬頭観音	天保15年(1844)	個人
葬地区	石造物	耳塚の五輪塔	紀年銘なし	百瀬町会
葬地区	石造物	御陣屋の石灯笼	紀年銘なし	個人
葬地区	石造物	御陣屋の三重の塔	紀年銘なし	個人
葬地区	石造物	高野氏の道祖神	紀年銘なし	個人
葬地区	石造物	藤森氏の馬頭観音	文化10年(1813)	個人
葬地区	伝説	行人塚	江戸時代	
葬地区	植物・樹木	大樟		
葬地区	その他	養蚕業	近代	
葬地区	建造物	正念寺	江戸時代	
葬地区	石造物	秋葉大権現の碑	嘉永4年(1851)	白姫町会
葬地区	石造物	本宮の碑	明治42年(1909)	白姫氏子
葬地区	石造物	大山祇命の碑	大正2年(1913)	白姫町会
葬地区	石造物	馬頭観音	享和元年(1801)	白姫町会
葬地区	石造物	馬頭観世音	明治18年(1885)	個人(氏)
葬地区	石造物	馬頭観音	明治19年(1886)	個人(氏)
葬地区	石造物	馬頭観世音	不明	不明
葬地区	石造物	素戔嗚大神の碑	明治27年(1894)	白姫町会
葬地区	石造物	道祖神	昭和3年(1803)	白姫町会
葬地区	石造物	道標	昭和63年(1988)	寿史談会
葬地区	石造物	地藏菩薩	不明	白姫町会
葬地区	石造物	馬頭観音	元禄7年(1694)	白姫町会
葬地区	石造物	六臂青面金剛	元禄14年(1701)	白姫町会
葬地区	彫刻	弥勒菩薩	明和年間(1764~1772)	白姫町会
葬地区	行事	弥勒堂の団子投げ	明和元年(1764)	白姫町会
葬地区	行事	三九郎		
葬地区	行事	こどもこし	昭和46年(1971)~	
葬地区	建造物	竹瀬諏訪社の本殿	正徳6年(1716)	竹瀬諏訪社
葬地区	彫刻	竹瀬諏訪社本殿の神狐(白狐一対)	天保14年(1843)	竹瀬諏訪社
葬地区	建造物	竹瀬諏訪社の拝殿	正徳6年(1716)	竹瀬諏訪社
葬地区	絵画	竹瀬諏訪社の絵馬(1)	嘉永8年(安政2年(1855))	竹瀬諏訪社
葬地区	絵画	竹瀬諏訪社の絵馬(1)	天保14年(1843)	竹瀬諏訪社
葬地区	石造物	竹瀬諏訪社の石灯笼(南)	元禄15年(1702)・享和3年(1803)	竹瀬諏訪社
葬地区	建造物	竹瀬諏訪社の前屋(舞臺・神楽殿)	平成13年(2001)	竹瀬諏訪社
葬地区	石造物	竹瀬諏訪社の石灯笼(北)	嘉永7年(1854)	竹瀬諏訪社
葬地区	石造物	竹瀬諏訪社の石灯笼(南)	嘉永3年(1850)	竹瀬諏訪社
葬地区	石造物	竹瀬諏訪神社の稻荷狐	天保15年(1844)	竹瀬諏訪社
葬地区	石造物	竹瀬諏訪社の鳥居	弘化2年(1845)	竹瀬諏訪社
葬地区	建造物	竹瀬諏訪社の舞臺	不明	竹瀬諏訪社
葬地区	建造物	竹瀬諏訪社の社務所	昭和34年(1959)	竹瀬諏訪社
葬地区	建造物	竹瀬諏訪社の社務所	平成4年(1992)	竹瀬諏訪社
葬地区	建造物	竹瀬諏訪社の旧社務所	昭和38年(1963)	竹瀬諏訪社
葬地区	石造物	竹瀬諏訪社の手洗鉢(北)	天保15年(1844)	竹瀬諏訪社
葬地区	石造物	竹瀬諏訪社の手洗鉢(南)	萬延元年(1860)	竹瀬諏訪社
葬地区	石造物	竹瀬諏訪社の御神橋	大正9年(1920)	竹瀬諏訪社

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
寿地区	石造物	梅岳和尚の石灯笼	弘化5年(1848)	竹淵町会
寿地区	石造物	地藏堂の無縫塔	文政9年(1826)	竹淵町会
寿地区	石造物	地藏堂の無縫塔	宝暦10年(1760)	竹淵町会
寿地区	石造物	竹淵の嘸礼供養塔	宝暦11年(1761)	竹淵町会
寿地区	石造物	竹淵の供養塔	明和4年(1767)	竹淵町会
寿地区	石造物	竹淵の回國供養塔	正徳5年(1715)	個人(氏)
寿地区	石造物	竹淵の西木戸道祖神 その1	昭和3年(1928)	竹淵町会
寿地区	石造物	竹淵の西木戸道祖神 その2	明治26年(1893)	竹淵町会
寿地区	石造物	竹淵の下木戸道祖神	文化3年(1806)	竹淵町会
寿地区	石造物	竹淵の東木戸宮形道祖神と駒形馬頭観世音	文化4年(1807)	竹淵町会
寿地区	石造物	竹淵の上手木戸道祖神と馬頭観世音	道祖神年代不明 馬頭観世音文化9年(1812)	竹淵町会
寿地区	行事	竹淵の青山様		
寿地区	行事	竹淵のぼんぼん	昭和50年(1975)	
寿地区	行事	竹淵の三九郎		
寿地区	石造物	竹淵の馬頭観音	萬延2年(1861)	竹淵町会
寿地区	石造物	竹淵の馬頭観音	安政5年(1858)	竹淵町会
寿地区	石造物	竹淵の馬頭観音	明和8年(1771)	竹淵町会
寿地区	石造物	竹淵の馬頭観音	安政5年(1858)	竹淵町会
寿地区	石造物	竹淵の馬頭観音	天保7年(1836)	竹淵町会
寿地区	石造物	竹淵の馬頭観音	天保6年(1835)	竹淵町会
寿地区	石造物	竹淵の馬頭観音	紀年銘なし	竹淵町会
寿地区	石造物	竹淵の馬頭観音	慶応2年(1866)	竹淵町会
寿地区	石造物	竹淵の馬頭観音	弘化4年(1847)	竹淵町会
寿地区	石造物	竹淵の如来坐像	享保3年(1718)	竹淵町会
寿地区	石造物	竹淵の念仏供養塔	紀年銘なし	竹淵町会
寿地区	石造物	竹淵の供養塔	嘉永2年(1849)	竹淵町会
寿地区	石造物	竹淵の社宮司大明神(みしゃくじ)		
寿地区	行事	竹淵の庚申講(上手講)(東講)		
寿地区	行事	竹淵戸隠講		
寿地区	行事	竹淵の七夕演芸会	現代	竹淵町会(公民館)
寿地区	行事	竹淵の納涼夏祭り	現代	竹淵町会(公民館)
寿地区	行事	竹淵の文化祭	現代	竹淵町会(公民館)
寿地区	跡地	竹淵御蔵跡(竹淵公民館所在地)	江戸時代	竹淵町会
寿地区	記念碑	竹淵の灌漑用水記念碑と鑿井記念	平成7年(1995)	竹淵溜池管理組合
寿地区	記念碑	第1工区灌漑用水深井戸記念碑	昭和63年(1988)	竹淵水利組合
寿地区	記念碑	第2工区灌漑用水深井戸記念碑	昭和63年(1988)	竹淵水利組合
寿地区	記念碑	竹淵の開道記念碑	昭和49年(1974)	竹淵町会
寿地区	石造物	白川の道祖神(中村の道祖神碑)	紀年銘なし	白川町会
寿地区	石造物	白川の道祖神	紀年銘なし	白川町会
寿地区	石造物	白川の念仏供養塔	安永2年(1773)	白川町会
寿地区	石造物	白川の筆塚	文久3年(1863)	白川町会
寿地区	石造物	白川の伊雑堂大神宮碑	明和5年(1768)	白川町会
寿地区	石造物	白川の筆塚	文化8年(1811)	瓊林院
寿地区	石造物	白川の庚申塔	安永2年(1773)	白川町会
寿地区	石造物	白川の三界萬霊塔	宝暦6年(1756)	白川町会
寿地区	石造物	瓊林院の六地藏	文久元年(1861)	瓊林院
寿地区	石造物	瓊林院の六地藏	文久元年(1861)	瓊林院

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
寿地区	行事	竹淵諏訪社例大祭		竹淵諏訪社
寿地区	民俗資料	竹淵諏訪社の舞台	明治14年(1881)	竹淵諏訪社
寿地区	行事	竹淵諏訪社の浦安の舞	平成22年(2010)復活	竹淵諏訪社
寿地区	行事	竹淵まつりばやし	平成14年(2002)復活	竹淵まつりばやし保存会
寿地区	その他	竹淵諏訪社例大祭の連灯笼と幟		
寿地区	その他	竹淵諏訪社境内		
寿地区	その他	竹淵諏訪社例大祭の連灯笼と幟		
寿地区	その他	竹淵諏訪社例大祭の連灯笼と幟		
寿地区	その他	竹淵諏訪社例大祭の連灯笼と幟		
寿地区	その他	竹淵諏訪社例大祭の連灯笼と幟		
寿地区	建造物	竹淵諏訪社の雷神社	平成19年(2007)再建	竹淵諏訪社
寿地区	建造物	生蓮寺本堂	元禄元年(1688)	生蓮寺
寿地区	彫刻	生蓮寺の本尊釈迦牟尼仏		生蓮寺
寿地区	絵画	生蓮寺の聖観音	絵(年代不明)複製像平成16年(2004)	生蓮寺
寿地区	彫刻	生蓮寺の永平寺開山道元禪師(本尊石脇)		生蓮寺
寿地区	彫刻	生蓮寺の総持寺開山瑩山禪師(本尊左脇)		生蓮寺
寿地区	彫刻	生蓮寺の御開山像		生蓮寺
寿地区	絵画	生蓮寺の釈尊涅槃図		生蓮寺
寿地区	建造物	生蓮寺庫裡		生蓮寺
寿地区	石造物	生蓮寺の水子(子安)地藏	平成2年(1990)	生蓮寺
寿地区	石造物	生蓮寺の踏ん張り地藏	明治21年(1888)	生蓮寺
寿地区	石造物	生蓮寺の六地藏		生蓮寺
寿地区	建造物	生蓮寺山門	平成23年(2011)	生蓮寺
寿地区	彫刻	生蓮寺の十六羅漢像 一番・二番	平成14年(2002)	生蓮寺
寿地区	彫刻	生蓮寺の十六羅漢像 三番・四番	平成14年(2002)	生蓮寺
寿地区	彫刻	生蓮寺の十六羅漢像 五番・六番	平成14年(2002)	生蓮寺
寿地区	彫刻	生蓮寺の十六羅漢像 七番・八番	平成14年(2002)	生蓮寺
寿地区	彫刻	生蓮寺の十六羅漢像 九番・十番・十一番	平成14年(2002)	生蓮寺
寿地区	彫刻	生蓮寺の十六羅漢像 十二番・十三番・十四番	平成14年(2002)	生蓮寺
寿地区	彫刻	生蓮寺の六臂青面金剛	平成14年(2002)	生蓮寺
寿地区	石造物	生蓮寺の弥勒菩薩	元禄6年(1693)	生蓮寺
寿地区	石造物	生蓮寺の弥勒菩薩	元禄4年(1691)	生蓮寺
寿地区	建造物	地藏堂(薬師堂)	昭和52年(1977)	竹淵町会
寿地区	建造物	地藏堂の厨子	天保11年(1840)	竹淵町会
寿地区	彫刻	薬師如来立像(地藏菩薩)	享保12年(1727)	竹淵町会
寿地区	その他	梅岳和尚の位牌	天保14年(1843)	竹淵町会
寿地区	石造物	地藏堂の弘法大師石像	天明2年(1782)	竹淵町会
寿地区	石造物	地藏堂の地藏菩薩	享保5年(1720)	竹淵町会
寿地区	石造物	地藏堂の地藏菩薩	安政3年(1856)	竹淵町会
寿地区	石造物	竹淵地藏堂の地藏菩薩	享保3年(1718)	竹淵町会
寿地区	石造物	地藏堂の六臂青面金剛	元治元年(1864)	竹淵町会
寿地区	石造物	梅岳和尚の無縫塔	天保14年(1843)	竹淵町会

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
寿地区	石造物	瓊林院の六地藏	文久元年(1861)	瓊林院
寿地区	石造物	瓊林院の六地藏	文久元年(1861)	瓊林院
寿地区	石造物	瓊林院の六地藏	文久元年(1861)	瓊林院
寿地区	石造物	瓊林院の六地藏	文久元年(1891)	瓊林院
寿地区	石造物	瓊林院の法華経供養塔	享保21年(1736)	瓊林院
寿地区	石造物	瓊林院の無縫塔	紀年銘なし	瓊林院
寿地区	石造物	瓊林院の法華経供養塔	紀年銘なし	瓊林院
寿地区	石造物	瓊林院の無縫塔	紀年銘なし	瓊林院
寿地区	石造物	瓊林院の無縫塔	安永7年(1778)	瓊林院
寿地区	石造物	瓊林院の無縫塔	文化9年(1812)	瓊林院
寿地区	石造物	瓊林院の無縫塔	紀年銘なし	瓊林院
寿地区	石造物	瓊林院の無縫塔	嘉永2年(1849)	瓊林院
寿地区	石造物	瓊林院の無縫塔	紀年銘なし	瓊林院
寿地区	石造物	瓊林院の無縫塔	文政10年(1827)	瓊林院
寿地区	石造物	瓊林院の無縫塔	享保2年(1717)	瓊林院
寿地区	石造物	瓊林院の無縫塔	弘化2年(1845)	瓊林院
寿地区	石造物	瓊林院の無縫塔	寛政12年(1800)	瓊林院
寿地区	石造物	瓊林院の地藏菩薩	宝永5年(1708)	瓊林院
寿地区	石造物	瓊林院の無縫塔	慶安2年(1649)	瓊林院
寿地区	石造物	白川の妙義大権現	紀年銘なし	白川町会
寿地区	石造物	白川の庚申供養塔	正徳4年(1714)	白川町会
寿地区	石造物	白川の念仏供養塔	享保3年(1718)	白川町会
寿地区	石造物	横内の馬頭観音	寛政元年(1789)	白川町会
寿地区	石造物	横内の二十三夜塔	紀年銘なし	白川町会
寿地区	石造物	横内の道祖神	享和2年(1802)	白川町会
寿地区	彫刻	古御堂の千手観音	元禄元年(1688)	白川町会
寿地区	絵画	源氏物語の図屏風 半双		個人
寿地区	絵画	だるまの図	室町期頃	個人
寿地区	考古資料	百瀬式弥生土器	弥生時代	
寿地区	その他	百八十年前の地図	江戸時代	
寿地区	跡地	環濠	弥生時代	

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
寿台地区	行事	寿台夏祭り・水御興	昭和49年(1974)～	寿台町会連合会
寿台地区	石造物	馬頭観音		寿小池町会
寿台地区	植物・樹木	松の木		寿小池町会

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
岡田地区	記念碑	若宮八幡社の記念碑	大正8年(1919)	若宮八幡社
岡田地区	石造物	若宮八幡社の石灯笼	文政元年(1818)	若宮八幡社
岡田地区	石造物	若宮八幡社の石灯笼	文化14年(1817)	若宮八幡社
岡田地区	石造物	若宮八幡社の鳥居	明治30年(1897)	若宮八幡社
岡田地区	石造物	若宮八幡社の神饌幣帛料供進社	大正10年(1921)	若宮八幡社
岡田地区	石造物	若宮八幡社の石灯笼	昭和17年(1942)	若宮八幡社
岡田地区	石造物	若宮八幡社の石灯笼	昭和17年(1942)	若宮八幡社
岡田地区	石造物	若宮八幡社の不動明王	不明	若宮八幡社
岡田地区	石造物	伝・岡田冠者親義の墓	紀年銘なし	岡田冠者親義を讀める会
岡田地区	記念碑	慶弘寺公園記念碑	大正15年(1926)	千手観世音奉賛会
岡田地区	石造物	慶弘寺の千手観世音	紀年銘なし	千手観世音奉賛会
岡田地区	石造物	慶弘寺の六臂青面金剛	紀年銘なし	千手観世音奉賛会
岡田地区	石造物	慶弘寺の不動尊	平成8年(1996)	千手観世音奉賛会
岡田地区	石造物	慶弘寺の地藏菩薩	紀年銘なし	千手観世音奉賛会
岡田地区	石造物	慶弘寺の宝塔	紀年銘なし	千手観世音奉賛会
岡田地区	石造物	慶弘寺の地藏菩薩	享保11年(1726)	千手観世音奉賛会
岡田地区	石造物	慶弘寺の抱子地藏	不明	千手観世音奉賛会
岡田地区	石造物	慶弘寺の三万五霊塔	紀年銘なし	伊深町会
岡田地区	石造物	薬師堂の大日如来と馬頭観音	安政4年(1857)	伊深町会
岡田地区	石造物	薬師堂の二十三夜塔	文政10年(1827)	伊深町会
岡田地区	石造物	薬師堂の庚申供養塔	寛延2年(1749)	伊深町会
岡田地区	石造物	薬師堂の光明真言供養塔	弘化3年(1846)	伊深町会
岡田地区	石造物	秋葉神社の馬頭観音	嘉永7年(1854)	伊深町会・山浦町会
岡田地区	石造物	秋葉神社の石灯笼	文政10年(1827)	伊深町会・山浦町会
岡田地区	石造物	秋葉神社の石灯笼	文政10年(1827)	伊深町会・山浦町会
岡田地区	石造物	刈谷原峠道の念仏供養塔	寛政9年(1797)	伊深
岡田地区	石造物	刈谷原峠道の山六の馬頭観音	慶応2年(1866)	伊深
岡田地区	石造物	刈谷原峠道の馬頭観音	紀年銘なし	伊深
岡田地区	石造物	刈谷原峠道の馬頭観音群	不明	伊深
岡田地区	石造物	問屋原の道祖神	嘉永7年(1854)	伊深 問屋原常会
岡田地区	石造物	問屋原の道標	紀年銘なし	伊深 問屋原常会
岡田地区	石造物	浅田氏の供養塔	嘉永7年(1854)	個人(氏)
岡田地区	石造物	問屋原の供養塔	文政12年(1829)	伊深
岡田地区	石造物	問屋原の馬頭観音	慶応2年(1866)	伊深
岡田地区	石造物	問屋原の馬頭観音群	寛政4年(1792)	個人(氏)
岡田地区	石造物	問屋原の馬頭観音	不明	伊深
岡田地区	石造物	草間氏の大乗妙典供養塔	明和4年(1767)	個人(氏)
岡田地区	石造物	中小路の道祖神	文政6年(1823)	伊深中小路常会
岡田地区	石造物	中小路の庚申塔	慶応4年(1868)	伊深中小路常会
岡田地区	石造物	鳥羽氏の馬頭観音	寛政9年(1797)	個人(氏)
岡田地区	石造物	鳥羽氏の石上大神	銘文は近年の物	個人(氏)
岡田地区	石造物	伊深の稚児の池権現	平成5年(1993)	個人(氏)
岡田地区	記念碑	伊深の上水道記念碑	昭和46年(1971)	伊深町会
岡田地区	石造物	西小路の道祖神	寛政6年(1794)	伊深西小路常会
岡田地区	石造物	一里塚の道祖神	慶応4年(1868)	伊深一里塚常会
岡田地区	石造物	一里塚の道祖神	紀年銘なし	伊深一里塚常会
岡田地区	石造物	一里塚の馬頭観音	明治27年(1894)	伊深一里塚常会
岡田地区	街道	馬飼峠	江戸～明治	松本市

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
岡田地区	建造物	秋葉神社	江戸時代	松本市
岡田地区	街道	刈谷原峠	平安時代より以前 ～明治時代	
岡田地区	石造物	善光寺六字名号碑	寛政年間(1789～1801)	
岡田地区	伝説	商人石		
岡田地区	史跡・考古資料	怒田原遺跡と子柴型石斧	旧石器時代	石斧:大久保 納身 (平成28年8月22日松本市へ寄贈)
岡田地区	史跡	よらい塚	室町時代	松本市
岡田地区	史跡	堂田遺跡	縄文・平安・中世	
岡田地区	史跡	慶弘寺跡公園	平安時代・中世	
岡田地区	石造物	千手観音	大正14(1925)	
岡田地区	石造物	六臂青面金剛		
岡田地区	石造物	地藏菩薩像	江戸時代	
岡田地区	史跡	伊深城址	中世	松本市
岡田地区	建造物	伊深稲荷社		個人多数
岡田地区	跡地	御涼(後序)跡(ごちようあと)	平安時代	個人多数
岡田地区	彫刻・石造物	薬師堂 什器 木造薬師如来座像 千手観音立像	石造物は江戸時代	
岡田地区	建造物	毘沙門天社		西小路常会と個人
岡田地区	建造物	若宮八幡社		若宮八幡社維持法人 会
岡田地区	史跡	塩辛遺跡	縄文・古墳～中世	
岡田地区	史跡	一里塚	江戸時代	
岡田地区	石造物	道祖神	江戸時代	
岡田地区	跡地	善光寺より信濃百番観音跡		
岡田地区	石造物	小宮山氏墓所	天文19年(1590)～	個人
岡田地区	記念碑	六助地の学生スケート発祥の地	昭和45年(1970)	女鳥羽川土地改良区
岡田地区	石造物	矢作の二十三夜塔	紀年銘なし	矢作常会
岡田地区	石造物	矢作の六臂青面金剛	享保19年(1734)	
岡田地区	石造物	西村氏の念仏供養塔	寛政6年(1794)	個人(氏)
岡田地区	石造物	六助稲荷神社の鳥居	大正15年(1926)	六助稲荷神社
岡田地区	石造物	六助稲荷神社の石灯笼	昭和10年(1935)	六助稲荷神社
岡田地区	記念碑	六助稲荷神社の記念公園碑	昭和20年(1945)	六助稲荷神社
岡田地区	石造物	新田の庚申塔	天明5年(1785)	山浦新田常会
岡田地区	石造物	新田の道祖神	紀年銘なし	山浦新田常会
岡田地区	石造物	新田の諏訪神社	昭和61年(1986)	山浦新田常会
岡田地区	石造物	新田の稻荷神	昭和61年(1986)	山浦新田常会
岡田地区	石造物	新田の金比羅宮	昭和61年(1986)	山浦新田常会
岡田地区	石造物	新田の山ノ神	昭和61年(1986)	山浦新田常会
岡田地区	石造物	新田の地藏尊	宝永3年(1706)	山浦町会
岡田地区	石造物	新田の地藏菩薩	紀年銘なし	山浦新田常会
岡田地区	石造物	新田の供養塔	紀年銘なし	山浦新田常会
岡田地区	石造物	新田の二十三夜塔	文化11年(1814)	山浦新田常会
岡田地区	石造物	新田の観音像	紀年銘なし	山浦新田常会
岡田地区	石造物	新田の地藏菩薩	紀年銘なし	山浦新田常会
岡田地区	石造物	新田の八海山大頭羅神王	万延元年(1860)	山浦新田常会
岡田地区	石造物	新田の水天明王	紀年銘なし	山浦新田常会

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
岡田地区	石造物	新田の摩利支天	明治13年(1880)	山浦新田常会
岡田地区	石造物	新田の不動明王	紀年銘なし	山浦新田常会
岡田地区	石造物	新田の三笠山刀利天王	明治13年(1880)	山浦新田常会
岡田地区	石造物	新田の御嶽神社	明治13年(1880)	山浦新田常会
岡田地区	石造物	安土の道祖神	紀年銘なし	山浦安土常会
岡田地区	石造物	安土の庚申塔	天明3年(1783)	山浦安土常会
岡田地区	石造物	大天白稻荷神社の石灯笼	文政5年(1822)	山浦安土常会
岡田地区	石造物	大天白稻荷神社の石灯笼	文政5年(1822)	山浦安土常会
岡田地区	石造物	安土の二十三夜塔	明治20年(1887)	山浦安土常会
岡田地区	石造物	山浦の念仏供養塔	文政12年(1829)	山浦
岡田地区	石造物	山浦の念仏供養塔	天保5年(1834)	山浦
岡田地区	石造物	安土内山の馬頭観音	嘉永7年(1854)	山浦
岡田地区	石造物	山浦の地藏菩薩	紀年銘なし	山浦
岡田地区	石造物	山浦の地藏菩薩	紀年銘なし	山浦
岡田地区	石造物	山浦の馬頭観音	嘉永元年(1848)	山浦
岡田地区	石造物	杏の六臂青面金剛	天明6年(1786)	山浦杏常会
岡田地区	石造物	杏の道祖神	天明6年(1786)	山浦杏常会
岡田地区	石造物	杏の地藏菩薩	明治21年(1888)	山浦杏常会
岡田地区	石造物	杏の地藏菩薩	文化5年(1808)	山浦杏常会
岡田地区	石造物	杏の馬頭観音	文政7年(1824)	山浦杏常会
岡田地区	石造物	杏の馬頭観音	享保6年(1721)	山浦杏常会
岡田地区	石造物	杏の地藏菩薩	天明3年(1783)	山浦杏常会
岡田地区	石造物	杏の念仏供養塔	文政3年(1822)	山浦杏常会
岡田地区	石造物	杏の大日如来	弘化3年(1846)	山浦杏常会
岡田地区	石造物	道祖神	江戸時代	
岡田地区	跡地・石造物	地藏尊(生安寺別庵跡)	江戸時代	
岡田地区	石造物	杏の石造物群	江戸時代	
岡田地区	建造物	大天白稻荷神社	江戸中期	
岡田地区	用水	安土池	江戸時代	
岡田地区	石造物	御嶽権現	江戸時代	
岡田地区	用水	六助池(矢作池)	池は江戸時代 スケートは大正時代	
岡田地区	建造物	六助稻荷		
岡田地区	伝説	六助狐		
岡田地区	史跡	矢作遺跡	縄文・中世	
岡田地区	石造物	道祖神・庚申塔	江戸時代	
岡田地区	石造物	矢作石造物群	江戸時代	
岡田地区	石造物	でんでんの庚申塔	寛延4年(1751)	岡田町
岡田地区	石造物	でんでんの馬頭尊	安政7年(1860)	岡田町
岡田地区	石造物	でんでんの地藏菩薩	(本体)享保6年 (1721) (連台)嘉永2年 (1849)	岡田町
岡田地区	石造物	でんでんの馬頭観音	慶応元年(1865)	岡田町
岡田地区	石造物	でんでんの馬頭観音	文久2年(1862)	岡田町
岡田地区	石造物	でんでんの念仏供養塔	紀年銘なし	岡田町
岡田地区	石造物	でんでんの馬頭観音	文久2年(1862)	岡田町
岡田地区	石造物	でんでんの念仏供養塔	不明	岡田町
岡田地区	石造物	でんでんの馬頭観音	明治30年(1897)	岡田町
岡田地区	石造物	でんでんの馬頭観音	大正5年(1916)	岡田町

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
岡田地区	石造物	でんでんの馬頭観音	明治29年(1896)	岡田町
岡田地区	石造物	でんでんの馬頭観音	明治14年(1881)	岡田町
岡田地区	石造物	でんでんの馬頭観音	明治31年(1898)	岡田町
岡田地区	石造物	でんでんの馬頭観音	昭和34年(1959)	岡田町
岡田地区	石造物	でんでんの馬頭観音	明治40年(1907)	岡田町
岡田地区	石造物	でんでんの馬頭観音	明治12年(1879)	岡田町
岡田地区	石造物	でんでんの馬頭観音	安政4年(1857)	岡田町
岡田地区	石造物	上町の道祖神	紀年銘なし	岡田町
岡田地区	石造物	上町の念仏供養塔	明和4年(1767)	岡田町上町
岡田地区	石造物	上町の遺標	紀年銘なし	岡田町
岡田地区	石造物	大願寺の念仏供養塔	寛政10年(1798)	岡田町
岡田地区	石造物	大願寺の念仏供養塔	文化13年(1816)	岡田町
岡田地区	石造物	仲町の道祖神	嘉永5年(1852)	岡田町仲町
岡田地区	石造物	西浄院の不動明王	寛政年間(1789~1801)	岡田町
岡田地区	石造物	仲町の地藏菩薩	享保6年(1721)	岡田町仲町
岡田地区	石造物	仲町の如意輪観音	紀年銘なし	岡田町
岡田地区	石造物	仲町の馬頭観音	文政2年(1819)	岡田町
岡田地区	石造物	仲町の馬頭観音	嘉永3年(1850)	岡田町
岡田地区	石造物	仲町の大日如来	天保15年(1844)	岡田町
岡田地区	石造物	白山神社の石灯笼	安政2年(1855)	白山神社
岡田地区	石造物	白山神社の石灯笼	安政2年(1855)	白山神社
岡田地区	石造物	稻荷大明神の石灯笼	明治12年(1879)	稻荷大明神
岡田地区	石造物	稻荷大明神の石灯笼	明治12年(1879)	稻荷大明神
岡田地区	石造物	向山の二十三夜塔	慶応元年(1865)	旭講
岡田地区	石造物	向山の常夜灯	紀年銘なし	旭講
岡田地区	記念碑	向山の旭嶽開山記念碑	明治33年(1900)	旭講
岡田地区	石造物	向山の武水別神社	紀年銘なし	旭講
岡田地区	石造物	向山の武水別神社	慶応元年(1865)	旭講
岡田地区	石造物	向山の武水別神社	紀年銘なし	旭講
岡田地区	石造物	向山の白龍王	紀年銘なし	旭講
岡田地区	石造物	向山の旭嶽大神	紀年銘なし	旭講
岡田地区	石造物	向山の黒龍王	紀年銘なし	旭講
岡田地区	石造物	向山の大江大神	紀年銘なし	旭講
岡田地区	石造物	向山の九頭龍大神	紀年銘なし	旭講
岡田地区	石造物	向山の巖山大神	紀年銘なし	旭講
岡田地区	石造物	向山の猿田彦大神	紀年銘なし	旭講
岡田地区	石造物	向山の御坐間大天狗	紀年銘なし	旭講
岡田地区	石造物	向山の諏訪大神	紀年銘なし	旭講
岡田地区	石造物	向山の赤龍王	紀年銘なし	旭講
岡田地区	石造物	向山の青龍王大神	紀年銘なし	旭講
岡田地区	石造物	向山の日禊神社	紀年銘なし	旭講
岡田地区	石造物	向山の黄龍王	紀年銘なし	旭講
岡田地区	石造物	向山の八顔大神	紀年銘なし	旭講
岡田地区	石造物	向山の神武天皇	紀年銘なし	旭講
岡田地区	石造物	向山の白川大神	紀年銘なし	旭講
岡田地区	石造物	向山の八海山大神	紀年銘なし	旭講
岡田地区	石造物	向山の念仏供養塔	慶応3年(1867)	旭講
岡田地区	石造物	向山の三笠山刀利天宮	紀年銘なし	旭講
岡田地区	石造物	向山の龍三柱大神	紀年銘なし	旭講

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
岡田地区	石造物	向山の髙麗玉口神社	紀年銘なし	旭講
岡田地区	石造物	向山の九頭龍大神	紀年銘なし	旭講
岡田地区	石造物	向山の摩利支天	紀年銘なし	旭講
岡田地区	石造物	向山の岩勢龍王大神	紀年銘なし	旭講
岡田地区	石造物	仲町の三峯神社	平成23年(2011) 新調	仲町三峯講
岡田地区	史跡	岡田町遺跡	縄文~中世	
岡田地区	史跡	中島古墳	古墳時代後期	
岡田地区	記念碑	筆塚	近代	
岡田地区	史跡	二反田遺跡	古墳時代から平安時代	
岡田地区	跡地・石造物・彫刻	大隅寺跡(徳木名号碑・等哩名号碑・地藏菩薩・市川家祖霊塔・木造阿弥陀如来像)		
岡田地区	跡地・湧水	西浄院跡及び湧水		
岡田地区	史跡	下出口遺跡		
岡田地区	史跡	西裏遺跡	古墳~中世	縄文・古墳・奈良・平安時代
岡田地区	史跡	向山遺跡(西光寺畑遺跡)	弥生	
岡田地区	建造物・建造物・町並み	御嶽神社	江戸~明治	
岡田地区	町並み	岡田宿	江戸時代	
岡田地区	石造物	蓮台場(でんで)	江戸時代	
岡田地区	石造物	街道標識の石柱(道標)		
岡田地区	跡地	番所跡	江戸~明治	
岡田地区	跡地	問屋及び本陣跡	江戸~明治	
岡田地区	石造物	道祖神	江戸~昭和	
岡田地区	石造物	仲町の地藏堂	江戸時代	
岡田地区	石造物	白山宮(社)本殿他	江戸時代	
岡田地区	史跡	宮の上遺跡	平安時代	
岡田地区	史跡	西原古墳	古墳時代前期	
岡田地区	建造物	天白社(稻荷神社)	江戸~明治	
岡田地区	その他	金井潭遺作	江戸から明治	
岡田地区	絵画	(岡田町絵図、岡田町宿駅町並み)		
岡田地区	記念碑	三村正文嶺徳碑		
岡田地区	石造物	岡田神社の素参道等建設碑	昭和15年(1940)	岡田神社
岡田地区	記念碑	岡田神社の社殿建設記念碑	平成3年(1991)	岡田神社
岡田地区	石造物	岡田神社 石標	明治2年(1879)	岡田神社
岡田地区	石造物	岡田神社二の鳥居	昭和15年(1940)	岡田神社
岡田地区	記念碑	岡田神社の戦没者慰霊碑	平成7年(1995)	岡田神社
岡田地区	石造物	岡田神社の石灯笼	享和3年(1803)	岡田神社
岡田地区	石造物	岡田神社の石灯笼	享和3年(1803)	岡田神社
岡田地区	石造物	岡田神社の石灯笼	昭和15年(1940)	岡田神社
岡田地区	石造物	岡田神社の石灯笼	昭和15年(1940)	岡田神社
岡田地区	石造物	岡田神社の石灯笼	紀年銘なし	岡田神社
岡田地区	石造物	岡田神社の石灯笼	紀年銘なし	岡田神社
岡田地区	石造物	岡田神社の石灯笼	紀年銘なし	岡田神社
岡田地区	石造物	岡田神社の石灯笼	紀年銘なし	岡田神社
岡田地区	石造物	岡田神社の石灯笼	紀年銘なし	岡田神社
岡田地区	石造物	岡田神社の石灯笼	昭和17年(1942)	岡田神社
岡田地区	石造物	岡田神社の石灯笼	昭和17年(1942)	岡田神社
岡田地区	石造物	岡田神社の石灯笼	明治38年(1905)	岡田神社

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
岡田地区	石造物	岡田神社の狛犬	明治38年(1905)	岡田神社
岡田地区	石造物	岡田神社の石灯笼	天保9年(1838)	岡田神社
岡田地区	石造物	岡田神社の石灯笼	天保13年(1842)	岡田神社
岡田地区	石造物	岡田神社の石灯笼	明治27年(1894)	岡田神社
岡田地区	石造物	岡田神社の石灯笼	明治27年(1894)	岡田神社
岡田地区	石造物	岡田神社の日本武尊	天保4年(1833)	岡田神社
岡田地区	石造物	岡田神社の武水別神社八幡宮	紀年銘なし	岡田神社
岡田地区	石造物	岡田神社の大日大聖不動王	紀年銘なし	岡田神社
岡田地区	石造物	岡田神社の八猫大神	紀年銘なし	岡田神社
岡田地区	石造物	岡田神社の御嶽神社	明治16年(1883)	岡田神社
岡田地区	石造物	岡田神社の三笠山大神	紀年銘なし	岡田神社
岡田地区	石造物	岡田神社の三笠山大荒神	紀年銘なし	岡田神社
岡田地区	石造物	岡田神社の水速女命	紀年銘なし	岡田神社
岡田地区	石造物	岡田神社の朝日靈神	紀年銘なし	岡田神社
岡田地区	石造物	岡田神社の石灯笼	文政13年(1830)	岡田神社
岡田地区	石造物	岡田神社の石灯笼	文政13年(1830)	岡田神社
岡田地区	記念碑	東区の大澤先生嶺徳碑	大正6年(1917)	岡田小学校
岡田地区	石造物	次郎丸の道祖神	紀年銘なし	東区次郎丸
岡田地区	石造物	堀田氏の道祖神	昭和26年(1951)	個人(氏)
岡田地区	石造物	猫塚の六臂青面金剛	紀年銘なし	東区次郎丸
岡田地区	石造物	猫塚の地藏菩薩	紀年銘なし	東区次郎丸
岡田地区	石造物	猫塚の百番供養塔	天明5年(1785)	東区次郎丸
岡田地区	石造物	猫塚の地藏菩薩	天明5年(1785)	東区次郎丸
岡田地区	石造物	田中の道祖神	文政7年(1824)	東区次郎丸
岡田地区	石造物	田中の道祖神	紀年銘なし	東区田中
岡田地区	石造物	田中の庚申供養塔	天明5年(1785)	東区田中
岡田地区	石造物	田中の二十三夜塔	嘉永4年(1851)	東区田中
岡田地区	石造物	田中の念仏供養塔	享和4年(1804)	東区田中
岡田地区	石造物	普門院の地藏菩薩	紀年銘なし	東区諸久保
岡田地区	石造物	普門院の六臂青面金剛	明和5年(1768)	東区諸久保
岡田地区	石造物	普門院の六地藏	紀年銘なし	東区諸久保
岡田地区	石造物	普門院の六地藏	紀年銘なし	東区諸久保
岡田地区	石造物	普門院の六地藏	紀年銘なし	東区諸久保
岡田地区	石造物	普門院の六地藏	紀年銘なし	東区諸久保
岡田地区	石造物	普門院の六地藏	紀年銘なし	東区諸久保
岡田地区	石造物	普門院の六地藏	紀年銘なし	東区諸久保
岡田地区	石造物	諸久保の道祖神	文政11年(1828)	東区諸久保
岡田地区	石造物	諸久保の馬頭観音	紀年銘なし	東区諸久保
岡田地区	石造物	山崎氏の六臂青面金剛	文政6年(1823)	個人(氏)
岡田地区	史跡	宮の前遺跡	弥生・奈良~中世	
岡田地区	建造物	式内岡田神社		氏子
岡田地区	史跡	岡田神社裏遺跡	弥生・平安	
岡田地区	史跡	堀ノ内遺跡	平安・中世	
岡田地区	史跡	田中遺跡	平安時代	
岡田地区	跡地	岡田村役場跡	明治~昭和	
岡田地区	跡地	権斎施設	昭和時代	
岡田地区	植物・樹木	岡田神社参道の樺(2本)	樹齢推定800年	
岡田地区	跡地	次郎丸館跡	平安~鎌倉時代	

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
岡田地区	史跡	猫塚古墳	古墳時代	
岡田地区	記念碑	集束	大正・昭和	
岡田地区	彫刻	矢諸観世音 (旧普門院諸蓮の観音堂)	平安時代	
岡田地区	史跡	矢崎古墳群	古墳時代	
岡田地区	用水	大門池	江戸時代	
岡田地区	石造物	道祖神	江戸時代	
岡田地区	史跡	清水入り古墳	古墳時代後期	
岡田地区	史跡	天神の木遺跡	平安時代	
岡田地区	彫刻	木造阿彌陀如来立像(木喰山居仏)	江戸時代	個人蔵
岡田地区	跡地	下岡田学校跡	明治時代	
岡田地区	石造物	芥子坊主の石祠	紀年銘なし	岡田財産区
岡田地区	石造物	芥子坊主の行者	慶応元年(1865)	
岡田地区	石造物	芥子坊主の古臺神社	紀年銘なし	岡田財産区
岡田地区	石造物	芥子坊主の御嶽大権現	安政7年(1860)	岡田財産区
岡田地区	石造物	芥子坊主の浅間神社	紀年銘なし	岡田財産区
岡田地区	石造物	芥子坊主の石祠	慶応元年(1865)	岡田財産区
岡田地区	石造物	芥子坊主の石灯籠	紀年銘なし	岡田財産区
岡田地区	石造物	塩倉の馬頭観音	大正12年(1923)	塩倉
岡田地区	石造物	東久保の六臂青面金剛	天明4年(1784)	塩倉 東久保
岡田地区	石造物	東久保の道祖神	紀年銘なし	塩倉 東久保
岡田地区	石造物	東久保の馬頭観音	天保8年(1837)	塩倉 東久保
岡田地区	石造物	観音堂の六臂青面金剛	享保7年(1722)	海福寺観音堂保存会
岡田地区	石造物	観音堂の石灯籠	寛政4年(1792)	海福寺観音堂保存会
岡田地区	石造物	観音堂の念仏供養塔	紀年銘なし	海福寺観音堂保存会
岡田地区	石造物	観音堂の念仏供養塔	紀年銘なし	海福寺観音堂保存会
岡田地区	石造物	観音堂の道祖神	紀年銘なし	海福寺観音堂保存会
岡田地区	石造物	東久保の地藏尊	平成18年(2006) (建)	塩倉 東久保
岡田地区	石造物	東久保の馬頭観音	紀年銘なし	塩倉 東久保
岡田地区	石造物	塩倉の水源地蔵	紀年銘なし	塩倉 西塩倉
岡田地区	記念碑	塩倉の水源地蔵	昭和4年(1929)	塩倉町会
岡田地区	記念碑	塩倉池湧水路開鑿記念碑	昭和25年(1950)	塩倉町会
岡田地区	石造物	西塩倉の馬頭観音	元治元年(1864)	西塩倉常会
岡田地区	石造物	西塩倉の石造文化財群		塩倉西塩倉
岡田地区	史跡	御宝殿・御宝殿遺跡	平安前期	
岡田地区	建造物	塩倉山海福寺の観音堂	旧石器・縄文・古墳・平安	
岡田地区	史跡	塩倉池遺跡		
岡田地区	石造物	地藏尊		
岡田地区	跡地	塚山古墳跡	古墳時代	
岡田地区	記念碑	津水路開鑿記念碑	昭和時代	
岡田地区	建造物	津島社と三嶋様	明治(津島様)	
岡田地区	石造物	西塩倉の馬頭観音像他石仏群		
岡田地区	記念碑	簡易水道記念碑		
岡田地区	史跡	丸山遺跡	昭和初期	
岡田地区	行事	夜燈様	平安時代	
岡田地区	行事	だんぼ	江戸時代～	
岡田地区	街道	塩倉の道	奈良時代	
岡田地区	植物・樹木	櫻	樹齢推定400年	個人(氏)

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
岡田地区	石造物	道祖神	江戸時代	
岡田地区	石造物	馬頭観世音	大正12年(1923)	
岡田地区	石造物	六臂青面金剛像	天明4年(1784)	
岡田地区	石造物	西塩倉水源地蔵		
岡田地区	石造物	馬頭観世音	元治元年(1864)	神沢
岡田地区	石造物	神沢の六臂青面金剛	紀年銘なし	神沢
岡田地区	石造物	神沢の念仏供養塔	寛政13年(1801)	神沢
岡田地区	石造物	神沢の馬頭観音	嘉永5年(1852)	神沢
岡田地区	石造物	神沢の秋葉大権現	弘化4年(1847)	神沢
岡田地区	石造物	神沢の御嶽座王大権現	安政4年(1857)	神沢
岡田地区	石造物	神沢の石灯籠	安政6年(1859)	神沢
岡田地区	石造物	神沢の芭蕉の句碑	明治時代	神沢
岡田地区	石造物	神沢の道祖神	寛政7年(1795)	神沢
岡田地区	石造物	神沢の馬頭観音群		
岡田地区	石造物	神沢地下石造物群	江戸時代	
岡田地区	石造物	男鳥羽滝(通称 御不動様)	明治時代	
岡田地区	史跡	神沢遺跡	縄文時代	
岡田地区	史跡	峰の平遺跡	縄文時代	
岡田地区	用水	神沢池	江戸時代	
岡田地区	建造物	秋葉神社		
岡田地区	建造物	天白(稲荷)社		
岡田地区	史跡	土田遺跡	平安時代	
岡田地区	史跡	笠原遺跡	奈良・平安時代	
岡田地区	植物・樹木	櫻		個人(氏)
岡田地区	石造物	神沢池西石像物群		
岡田地区	石造物	道祖神	寛政7年(1795)	
岡田地区	石造物	松岡の観音像	天明元年(1781)	松岡
岡田地区	石造物	松岡の地藏菩薩	天明元年(1781)	松岡
岡田地区	石造物	松岡の馬頭観音	明治44年(1911)	松岡
岡田地区	石造物	松岡の馬頭観音	大正4年(1915)	松岡
岡田地区	石造物	松岡の馬頭観音	明和5年(1768)	松岡
岡田地区	石造物	松岡の念仏供養塔	天保2年(1831)	松岡墓地管理組合
岡田地区	石造物	松岡の梵字供養塔	天保2年(1831)	松岡墓地管理組合
岡田地区	石造物	松岡の念仏供養塔	文政10年(1827)	松岡墓地管理組合
岡田地区	石造物	松岡の六地藏	享和元年(1801)	松岡墓地管理組合
岡田地区	石造物	松岡の六地藏	享和元年(1801)	松岡墓地管理組合
岡田地区	石造物	松岡の六地藏	享和元年(1801)	松岡墓地管理組合
岡田地区	石造物	松岡の六地藏	享和元年(1801)	松岡墓地管理組合
岡田地区	石造物	松岡の六地藏	享和元年(1801)	松岡墓地管理組合
岡田地区	石造物	松岡の六地藏	享和元年(1801)	松岡墓地管理組合
岡田地区	石造物	松岡の六地藏菩薩	天保7年(1836)	松岡墓地管理組合
岡田地区	石造物	松岡の地藏菩薩	紀年銘なし	松岡墓地管理組合
岡田地区	記念碑	松岡の上下水道竣工記念碑	昭和38年(1963)	松岡町会
岡田地区	石造物	松岡の道祖神	不明	松岡
岡田地区	石造物	松岡の道祖神	紀年銘なし	松岡
岡田地区	石造物	松岡の六臂青面金剛	宝暦3年(1753)	墓地管理組合
岡田地区	石造物	松岡の地藏菩薩	紀年銘なし	墓地管理組合
岡田地区	石造物	松岡の地藏菩薩	明和3年(1766)	墓地管理組合
岡田地区	石造物	松岡の観音講供養塔	寛政11年(1799)	墓地管理組合
岡田地区	石造物	松岡の観音供養塔	寛政3年(1791)	墓地管理組合

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
岡田地区	石造物	松岡の如意輪観音	天明5年(1785)	墓地管理組合
岡田地区	石造物	松岡の二二三夜塔	安永9年(1780)	墓地管理組合
岡田地区	石造物	松岡の石仏群		墓地管理組合
岡田地区	史跡	杵坂遺跡	縄文・平安	
岡田地区	跡地・石造物	豊浦池(しようぶ池)(精進池) 時宗寺跡		
岡田地区	史跡	七日市場跡	古墳・平安	
岡田地区	史跡	松岡遺跡	縄文・古墳～平安	
岡田地区	史跡	トウコン原遺跡	縄文・古墳～平安	
岡田地区	石造物	道祖神	江戸時代	
岡田地区	建造物	若宮八幡社		
岡田地区	石造物	松岡共同墓地(石造物群)	江戸	
岡田地区	石造物	石仏群(観音原)	江戸～大正	
岡田地区	用水	ウォーターワールド	現代	
岡田地区	民俗資料	お舟	明治27年(1894)	
岡田地区	建造物	松本少年刑務所	現代	
岡田地区	史跡	松岡古墳群	古墳	
岡田地区	史跡	北新古窯址群	飛鳥～奈良～平安時代	
岡田地区	公園	芥子坊主山公園及び洞穴	昭和時代	
岡田地区	石造物	芥子坊主山頂石造物群	江戸時代	
岡田地区	街道	遊歩道	現代	
岡田地区	石造物	山の神	昭和40年代	
岡田地区	史跡	田溝池遺跡	縄文・奈良・平安	
岡田地区	伝説	田溝池の大蛇		
岡田地区	建造物	松本市農林漁業体験学習館	平成10年(1998)	
岡田地区	その他	本郷山烏帽子岩		
岡田地区	用水	岡田の灌漑用水		
岡田地区	その他	岡田とその集落の概要説明		
岡田地区	文書	小野篤行状記	平安時代	
岡田地区	その他	小野篤行状記から判明した資料	平安時代	
岡田地区	その他	昭和8年(841)信濃国地震被害について調査	平成20年(2008)	

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
里山辺地区	行事	須々岐水神社例大祭(お船まつり)	1700年代後半以降?	里山辺地区9町会(祭り参加町会11町会)
里山辺地区	行事	里山辺の御柱祭		須々岐水神社・千鹿頭神社
里山辺地区	行事	里山辺の三九郎		
里山辺地区	行事	里山辺地区の「青山様」		
里山辺地区	行事	里山辺地区の「ぼんぼん」		
里山辺地区	民俗資料	里山辺地区内の祭大織		各町会(氏子)
里山辺地区	街道	五千石街道	1600年代初期	
里山辺地区	用水	大堰(通称:おおせんげ)		
里山辺地区	用水	下三区溜池(通称:藤井池)	昭和12年(1937)	下三区溜池水利組合
里山辺地区	建造物	薬師堂	不明	下金井町会
里山辺地区	石造物	梵字光明眞言曼荼羅碑	文政13年(1830)	下金井町会
里山辺地区	石造物	六字名号碑	寛政12年(1800)	下金井町会
里山辺地区	石造物	観音菩薩立像	江戸末期	下金井町会
里山辺地区	石造物	庚申塚碑	不明	下金井町会
里山辺地区	石造物	百庚石	昭和8年(1933)	下金井町会
里山辺地区	石造物	六字名号碑	寛永6年(1629)	下金井町会
里山辺地区	石造物	道祖神	不明	下金井町会
里山辺地区	彫刻	木造薬師如来像と厨子	不明	個人
里山辺地区	彫刻	木倉山居仏 4体	江戸時代中期	
里山辺地区	行事	おひまち	昭和33年(1958)頃まで	
里山辺地区	行事	庚申(講)		
里山辺地区	絵画	六字名号掛軸	江戸時代後期	下金井町会
里山辺地区	絵画	六字名号掛軸	不明	下金井町会
里山辺地区	建造物	蚕影神社	明治27年(1894)	下金井町会
里山辺地区	行事	御薬師様のおもり撒き	昭和30年代頃まで	
里山辺地区	建造物	金山神社	不明	個人
里山辺地区	植物・樹木	公孫樹		下金井町会
里山辺地区	湧水	堀り井戸	明治32年(1899)	個人
里山辺地区	跡地	灌漑井戸群 跡	戦後～昭和40年代	
里山辺地区	石造物	力石	不明	下金井町会
里山辺地区	その他	里山邊村 第壹番切圖 第拾番切圖 第拾壹番切圖	明治時代	下金井町会
里山辺地区	跡地	下金井村 郷倉跡	江戸時代	個人
里山辺地区	跡地	種池	?～昭和30年代前半頃	下金井町会
里山辺地区	跡地	種芋(薩摩芋)保存室跡	?～昭和20年代末頃	個人
里山辺地区	跡地	瓦屋群 跡	江戸中期～昭和49年(1974)	
里山辺地区	跡地	引導場跡	昭和初期頃まで?	個人
里山辺地区	民俗資料	大山祇命織2流	慶應元年(1866)	下金井町会
里山辺地区	建造物・民俗資料	松本民芸館	昭和39年(1964)	松本市
里山辺地区	その他	下金井の成立	文禄4年(1595)	
里山辺地区	建造物	赤燐瓦の煙突(ハックにアルプスを望む)	大正13年(1924)	赤羽味噌醤油醸造店

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
里山辺地区	石造物	力石	不明	
里山辺地区	建造物	土屋宅の壁		個人
里山辺地区	石造物	大天白神社の石灯籠	文政11年(1828)	藤井(同姓)
里山辺地区	石造物	藤井の念仏供養塔	寛政11年(1799)	藤井
里山辺地区	石造物	藤井の道相神		藤井
里山辺地区	石造物	坂下氏の地藏菩薩	紀年銘なし	個人(氏)
里山辺地区	石造物	藤井の百万遍供養塔	紀年銘なし	藤井
里山辺地区	石造物	藤井氏の供養塔	紀年銘なし	個人(氏)
里山辺地区	石造物	藤井権現の六臂青面金剛	紀年銘なし	藤井
里山辺地区	石造物	藤井権現の如意輪観音	元禄16年(1703)	藤井
里山辺地区	石造物	藤井権現の石灯籠(左)	天保13年(1842)	藤井
里山辺地区	石造物	藤井権現の石灯籠(右)	天保13年(1842)	藤井
里山辺地区	石造物	二木氏の地藏菩薩	寛政9年(1797)	個人(氏)
里山辺地区	石造物	藤井氏の石祠	紀年銘なし	個人(氏)
里山辺地区	石造物	藤井の馬頭観音	紀年銘なし	藤井
里山辺地区	石造物	藤井の馬頭観音	天保9年(1838)	藤井
里山辺地区	石造物	藤井の馬頭観音	慶応4年(1868)	藤井
里山辺地区	石造物	藤井の不動明王	紀年銘なし	藤井
里山辺地区	石造物	藤井の不動明王	紀年銘なし	藤井
里山辺地区	石造物	藤井の御嶽山大権現	紀年銘なし	藤井
里山辺地区	石造物	藤井の抱齋神八王子宮	安政3年(1856)	藤井
里山辺地区	石造物	藤井の御嶽不動明王	紀年銘なし	藤井
里山辺地区	石造物	役行者	紀年銘なし	藤井
里山辺地区	石造物	藤井の念仏供養塔	寛政10年(1798)	藤井
里山辺地区	石造物	道樹院の地藏菩薩	元文3年(1738)	藤井・同姓
里山辺地区	石造物	道樹院の地藏菩薩	紀年銘なし	藤井・同姓
里山辺地区	石造物	赤木氏福荷の石灯籠	紀年銘なし	藤井・個人
里山辺地区	石造物	赤木氏の地藏菩薩	寛保元年(1741)	藤井・個人
里山辺地区	石造物	山本氏の福荷神社石灯籠	紀年銘なし	藤井・個人
里山辺地区	石造物	藤井の地藏菩薩	紀年銘なし	藤井・個人
里山辺地区	石造物	藤井の地藏菩薩	紀年銘なし	藤井・個人
里山辺地区	石造物	藤井の地藏菩薩	紀年銘なし	藤井・個人
里山辺地区	石造物	藤井の地藏菩薩	紀年銘なし	藤井・個人
里山辺地区	石造物	馬頭観音石造物群	不明	藤井
里山辺地区	建造物	大天白神社		同姓
里山辺地区	建造物	白山大権現神社		藤井地区町会
里山辺地区	建造物	道樹院		同姓
里山辺地区	史跡	丸山古墳(里山辺6号古墳)	7世紀初頭	個人
里山辺地区	史跡	藤井1号古墳(里山辺8号古墳)	7世紀前半	個人
里山辺地区	建造物	山辺組大庄屋藤井家跡を中心とした石垣群		
里山辺地区	植物・樹木	藤井沢 川沿いのスギ、ケヤキ並木		
里山辺地区	植物・樹木	枝垂桜		個人(氏)
里山辺地区	植物・樹木	枝垂桜	樹齢推定150~200年	個人(氏)
里山辺地区	建造物	日蓮宗 日本山妙法寺 大僧伽	昭和23年(1948)	個人
里山辺地区	文書・その他	あひるの騒動	文政6年(1823)	

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
里山辺地区	石造物	新井の如意輪観音	元禄11年(1698)	新井町会
里山辺地区	石造物	新井の地藏菩薩	元禄10年(1697)	新井町会
里山辺地区	石造物	新井の地藏菩薩	享保10年(1725)	新井町会
里山辺地区	石造物	新井の了海法師碑	文化8年(1811)	新井町会
里山辺地区	石造物	新井の無縫塔	紀年銘なし	新井町会
里山辺地区	石造物	博了法師碑	明治時代	新井町会
里山辺地区	石造物	新井町会供養塔	昭和53年(1978)	新井町会
里山辺地区	石造物	新井の御嶽山大権現	嘉永3年(1850)	新井町会
里山辺地区	石造物	海祥口口神		新井町会
里山辺地区	石造物	念仏供養塔		新井町会
里山辺地区	石造物	新井の道相神		新井町会
里山辺地区	彫刻	お船の屋根の一部 (先代の下倉井のお船の一部) 庚申掛け軸及び人別帳 (新井村上手地区)	明治~平成まで	個人
里山辺地区	絵画	田村葵屋の掛け軸		個人
里山辺地区	絵画	玉川桃涯 書の屏風		個人
里山辺地区	絵画	田村葵屋のふすま絵(6点)		個人
里山辺地区	建造物	新井権現社		新井町会
里山辺地区	建造物	新井小神社(熊野大神社)		新井町会
里山辺地区	その他	鬼瓦(雌)	万延元年(1860)	個人
里山辺地区	その他	鬼瓦(雄)	万延元年(1860)	個人
里山辺地区	建造物	湯の原業師堂	弘化5年(1848)	湯の原町会
里山辺地区	石造物	水鉢	天保6年(1835)	湯の原町会
里山辺地区	石造物	業師堂の上段石灯籠(一対)	明和5年(1768)	湯の原町会
里山辺地区	石造物	業師堂の下段石灯籠(一対)	天保6年(1835)	湯の原町会
里山辺地区	石造物	湯の原蚕玉様の石灯籠(一対)	昭和5年(1930)	湯の原町会
里山辺地区	彫刻	業師堂の本尊	貞享元年(1684)	湯の原町会
里山辺地区	彫刻	業師堂の脇侍仏 2体	貞享元年(1684)	湯の原町会
里山辺地区	彫刻	業師堂内の仏像		湯の原町会
里山辺地区	建造物	通夜殿	昭和5年(1930)	湯の原町会
里山辺地区	建造物	湯の原蚕玉様		湯の原町会
里山辺地区	石造物	百度石	大正4年(1915)	湯の原町会
里山辺地区	石造物・記念碑	殷富門院と源重之の歌碑	天保6年(1835)	湯の原町会
里山辺地区	建造物	御母家薬師堂	昭和7年(1932)	御母家住民
里山辺地区	石造物	山の神池上の石碑群	明治前	湯の原南部地区
里山辺地区	建造物	山の神池下の祠	不詳	湯の原南部地区
里山辺地区	石造物	文学碑(芭蕉の句)	大正5年(1916)	不明
里山辺地区	石造物	辻堂の石造物群	元禄5年(1692)	
里山辺地区	石造物	福荷の石灯籠	文化6年(1809)	
里山辺地区	建造物	山の神池西側の祠	弘化2年(1845)	湯の原、新井、荒町の住人
里山辺地区	石造物	上手の道相神	紀年銘なし	
里山辺地区	記念碑	釈迦空(折口信夫)の歌碑	昭和50年(1975)	個人
里山辺地区	記念碑	伊藤左千夫の歌碑		個人
里山辺地区	植物・樹木	丸中旅館の百日紅	樹齢約500年	個人
里山辺地区	湧水	つちやの井戸		個人
里山辺地区	史跡	おほけ古墳		不明

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
里山辺地区	跡地	つくれっばら		個人
里山辺地区	建造物	矢崎家四脚門(扉付き)	明治10年(1877)(移築)	個人
里山辺地区	建造物	金井家長屋門	江戸時代	個人
里山辺地区	建造物	藍倉	明治時代	個人
里山辺地区	建造物	上金井の御嶽神社	明治時代	隣組
里山辺地区	建造物	御嶽神社の石造物群	明治時代	隣組
里山辺地区	植物・樹木	樺		個人
里山辺地区	植物・樹木	赤松	樹齡推定100年	個人
里山辺地区	石造物	戸隠さま	文政3年(1820)	上金井
里山辺地区	石造物	齒の神様(如意輪観音像)	紀年銘なし	下矢崎
里山辺地区	石造物	二十三夜塔	萬延元年(1860)	上矢崎
里山辺地区	石造物	上矢崎の不動尊	萬延元年(1860)	個人
里山辺地区	石造物	馬頭観音	嘉永6年(1853)	上金井
里山辺地区	石造物	馬頭観音	文化6年(1809)	矢崎
里山辺地区	石造物	矢崎の庚申さま	紀年銘なし	矢崎
里山辺地区	絵画	掛軸	不詳	矢崎
里山辺地区	石造物	村中のお庚申さま(青面金剛)群	江戸~明治	上金井
里山辺地区	石造物	竹室のお庚申さま(青面金剛)群	明治2年(1869)ほか	上金井
里山辺地区	石造物	上金井の道祖神	不明	下矢崎
里山辺地区	石造物	上金井の道祖神	明治19年(1886)	上金井
里山辺地区	石造物	上金井の道祖神	明治19年(1886)	上金井
里山辺地区	記念碑	大和白水先生の筆塚	大正3年(1914)	上金井
里山辺地区	石造物	上金井驛碑	不明	上金井
里山辺地区	建造物	薬師堂	元禄11年(1698)以前	上金井
里山辺地区	石造物	六地藏	明治時代	上金井
里山辺地区	跡地	社司司神社跡		上金井
里山辺地区	記念碑	香取秀真の歌碑	昭和15年(1930)	個人
里山辺地区	記念碑	香取秀真の歌碑	昭和時代	個人
里山辺地区	記念碑	水野忠敬の歌碑	昭和時代	個人
里山辺地区	建造物	伊雑社(イザワシヤ) 山神社(ヤマノミヤ) 合殿(アイト)	元禄年間(1688~1704)	上金井町会
里山辺地区	記念碑	金井泉の歌碑	昭和53年(1978)	上金井町会
里山辺地区	石造物	下矢崎の供養塔	安永2年(1773)	下矢崎
里山辺地区	記念碑	開道記念碑	大正14年(1925)	上金井
里山辺地区	記念碑	大堰記念碑	昭和50年(1975)	
里山辺地区	記念碑	大堰改修記念碑	昭和58年(1953)	
里山辺地区	民俗資料	獅子頭		上金井
里山辺地区	史跡	上金井古墳	7世紀後半	個人
里山辺地区	植物・樹木	小彼岸桜	樹齡推定160年	上金井
里山辺地区	植物・樹木	矢竹の生産地		
里山辺地区	文書	古文書	明治時代	個人
里山辺地区	建造物	須々岐水神社	草創不詳	宗教法人 須々岐水神社
里山辺地区	石造物	薄町の念仏供養塔	元文3年(1738)	薄町
里山辺地区	石造物	薄町の念仏供養塔	寛政12年(1800)	薄町
里山辺地区	石造物	薄町の庚申供養塔(青面金剛)	不明	薄町
里山辺地区	石造物	薄町の庚申供養塔	宝暦6年(1756)	薄町

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
里山辺地区	石造物	薄町の聖観音	明和9年(1772)	薄町
里山辺地区	石造物	薄町の馬頭観音	天明8年(1788)	薄町
里山辺地区	石造物	薄町の道祖神	紀元銘なし	薄町
里山辺地区	石造物	須々岐水神社の水鉢	明和5年(1768)	薄宮神社
里山辺地区	石造物	須々岐水神社の石灯籠(一対)	宝暦6年(1756)	薄宮神社
里山辺地区	石造物	須々岐水神社の石灯籠	文政4年(1821)	薄宮神社
里山辺地区	石造物	須々岐水神社の石灯籠	不明	薄宮神社
里山辺地区	石造物	須々岐水神社の石灯籠	文政7年(1824)	薄宮神社
里山辺地区	石造物	須々岐水神社の石祠	不明	薄宮神社
里山辺地区	石造物	須々岐水神社の石祠	不明	薄宮神社
里山辺地区	石造物	須々岐水神社の石祠	不明	薄宮神社
里山辺地区	石造物	薄町古宮の青面金剛	天明元年(1781)	薄町
里山辺地区	石造物	薄町古宮の道祖神	天明4年(1784)	薄町
里山辺地区	石造物	上條氏の石祠	不明	薄町・個人(氏)
里山辺地区	石造物	薄町の薬王観音	寛政4年(1792)	薄町
里山辺地区	石造物	中澤氏の地藏菩薩	不明	薄町・個人(氏)
里山辺地区	石造物	小松氏の供養塔	安政4年(1857)	薄町・個人(氏)
里山辺地区	石造物	小松氏の観音	不明	薄町・個人(氏)
里山辺地区	石造物	小松氏の五輪塔	天保9年(1838)	薄町・個人(氏)
里山辺地区	石造物	小松氏の供養塔	嘉永7年(1854)	薄町・個人(氏)
里山辺地区	石造物	小松氏の供養塔	寛政12年(1800)	薄町・個人(氏)
里山辺地区	石造物	小松氏の地藏菩薩(2体)	不明	薄町・個人(氏)
里山辺地区	石造物	大山氏の地藏菩薩	不明	薄町・個人(氏)
里山辺地区	石造物	大山氏の地藏菩薩	明和6年(1769)	薄町・個人(氏)
里山辺地区	石造物	薄町の地藏菩薩	享保11年(1726)	薄町
里山辺地区	石造物	大山氏の観音	明和8年(1771)	薄町・個人(氏)
里山辺地区	石造物	篠田氏の如意輪観音	天保5年(1834)	薄町・個人(氏)
里山辺地区	石造物	矢ヶ崎氏の観音	寛政11年(1799)	薄町・個人(氏)
里山辺地区	石造物	矢ヶ崎氏の観音	寛政11年(1799)	薄町・個人(氏)
里山辺地区	石造物	薄町の観音	天明2年(1782)	薄町
里山辺地区	石造物	佐々木氏の無縫塔	不明	薄町・個人(氏)
里山辺地区	石造物	佐々木氏の無縫塔	文政11年(1828)	薄町・個人(氏)
里山辺地区	石造物	百瀬氏の地藏菩薩	天明4年(1784)	薄町・個人(氏)
里山辺地区	石造物	百瀬氏の地藏菩薩	不明	薄町・個人(氏)
里山辺地区	石造物	牟禮氏の如意輪観音	天明9年(1789)	薄町・個人(氏)
里山辺地区	石造物	中澤氏の如意輪観音	天保8年(1837)	薄町・個人(氏)
里山辺地区	石造物	稲葉氏の如意輪観音	不明	薄町・個人(氏)
里山辺地区	石造物	新井氏の如意輪観音	享和3年(1803)	薄町・個人(氏)
里山辺地区	石造物	新井氏の如意輪観音	不明	薄町・個人(氏)
里山辺地区	石造物	新井氏の如意輪観音	天保11年(1840)	薄町・個人(氏)
里山辺地区	石造物	追倉の道標	不明	薄町・追倉
里山辺地区	石造物	追倉の道祖神	不明	薄町・追倉
里山辺地区	石造物	追倉の六臂青面金剛(庚申像)	安永6年(1777)	薄町・追倉
里山辺地区	史跡	古宮古墳	不明	個人(氏)
里山辺地区	建造物	兎川寺本堂	文政3年(1820)再建	兎川寺
里山辺地区	石造物	兎川寺の道祖神(2体)	不明	兎川寺町会
里山辺地区	石造物	兎川寺の念仏供養塔	明和5年(1768)	兎川寺町会

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
里山辺地区	石造物	荒町の五百万遍供養塔	天明7年(1787)	荒町
里山辺地区	石造物	西村氏の観音	不明	個人(氏)
里山辺地区	石造物	西村氏の地藏菩薩	寛保2年(1742)	個人(氏)
里山辺地区	石造物	大沢氏の地藏菩薩	不明	個人(氏)
里山辺地区	石造物	西村氏の供養塔	寛政7年(1795)	個人(氏)
里山辺地区	石造物	西村氏の五輪塔	天明4年(1784)	個人(氏)
里山辺地区	石造物	大澤氏の地藏菩薩	寛政4年(1792)	個人(氏)
里山辺地区	石造物	高野氏の地藏菩薩	不明	個人(氏)
里山辺地区	石造物	久根下氏の観音	不明	個人(氏)
里山辺地区	民俗資料	二正龍水引 (にひきりゆうみずひき)	文政12年(1829)	荒町
里山辺地区	石造物	西荒町の念仏供養塔	不明	不明
里山辺地区	石造物	西荒町の石の道標	不明	不明
里山辺地区	石造物	西荒町の道祖神	不明	西荒町
里山辺地区	石造物	西荒町の二十二夜塔	明治44年(1911)	西荒町
里山辺地区	石造物	西荒町の念仏供養塔	不明	西荒町
里山辺地区	石造物	西荒町の二十三夜塔	明治41年(1908)	西荒町
里山辺地区	石造物	宮田氏の地藏菩薩	安政4年(1857)	個人
里山辺地区	石造物	お船祭りの幟柱(石柱一対)	大正4年(1915) (一本は平成に入り建替え)	西荒町
里山辺地区	行事	西荒町のお船祭り「お雛子」	大正11年(1922)	西荒町
里山辺地区	民俗資料	お船祭りの幟旗(1)	明治21年(1888)	西荒町
里山辺地区	民俗資料	お船祭りの幟旗(2)	明治時代	西荒町
里山辺地区	民俗資料・行事	御社の「木遣り歌」と「木遣師の衣装」 「お雛子」	不明	西荒町
里山辺地区	建造物	白山社	明治時代	西荒町
里山辺地区	跡地	井戸(共同井戸)跡	明治時代	西荒町 個人
里山辺地区	建造物	八坂神社本殿	延享2年(再建)	宗教法人 八坂神社
里山辺地区	石造物	八坂神社の石塔籠	天明5年(1785)	宗教法人 八坂神社
里山辺地区	石造物	八坂神社の石塔籠	文政11年(1828)	宗教法人 八坂神社
里山辺地区	石造物	若宮八幡の石塔籠	寛政5年(1793)	宗教法人 八坂神社
里山辺地区	石造物	八坂神社の筆塚	安政6年(1859)	宗教法人 八坂神社
里山辺地区	植物・樹木	八坂神社の社叢		宗教法人 八坂神社
里山辺地区	その他	修羅(古代の巨石・大木等運搬用木ぞり)	不証	宗教法人 八坂神社
里山辺地区	建造物	北小松宮坂家住宅	江戸時代中期前半に 逆上るものと思われる (建設年代は不明)	個人
里山辺地区	石造物	宮坂氏の馬頭観音	寛政3年(1791)	個人
里山辺地区	石造物	宮坂氏の馬頭観音	天保9年(1838)	個人
里山辺地区	石造物	宮坂氏の馬頭観音	安政5年(1858)	個人
里山辺地区	文書	宮坂家古文書	慶安年間(1648~ 1652)より	個人
里山辺地区	石造物	北小松の梵字碑	貞享3年(1686)	北小松
里山辺地区	石造物	北小松の如意輪観音	宝暦2年(1762)	北小松
里山辺地区	石造物	北小松の道祖神	紀年銘なし	北小松
里山辺地区	石造物	北小松の聖観音	享保20年(1735)	北小松
里山辺地区	石造物	北小松の光明真言供養塔	寛政3年(1791)	北小松

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
里山辺地区	石造物	兎川寺の念仏供養塔	寛政8年(1796)	兎川町会
里山辺地区	石造物	兎川寺の三界万霊塔	不明	兎川寺
里山辺地区	石造物	山崎家水神様	不明	山崎家(山崎床屋)
里山辺地区	石造物	藤森氏の地藏菩薩	正徳6年(1716)	個人
里山辺地区	石造物	藤森元次氏の地藏菩薩	不明	個人
里山辺地区	石造物	藤森元次氏 供養塔	文化2年(1805)	個人
里山辺地区	石造物	兎川寺の観音(1)	享永7年(1854)	兎川寺
里山辺地区	石造物	兎川寺の観音(2)	享保15年(1730)	兎川寺
里山辺地区	石造物	兎川寺の地藏菩薩(1)	元禄6年(1693)	兎川寺
里山辺地区	石造物	兎川寺の地藏菩薩(2)	享保20年(1735)	兎川寺
里山辺地区	石造物	兎川寺の地藏菩薩(3)	安政2年(1855)	兎川寺
里山辺地区	石造物	兎川寺の六地藏(1)	寛政6年(1794)	兎川寺
里山辺地区	石造物	兎川寺の六地藏(2)	不明	兎川寺
里山辺地区	石造物	兎川寺の手千観音	寛政元年(1789)	兎川寺
里山辺地区	石造物	兎川寺の馬頭観音(1)	寛政10年(1798)	兎川寺
里山辺地区	石造物	兎川寺の馬頭観音(2)	寛政8年(1796)	兎川町会
里山辺地区	石造物	兎川寺の申申塔	貞享5年(1688)(上部) 明治35年(1902)(下)	兎川寺
里山辺地区	石造物	兎川寺の宝篋印塔	不明	兎川寺
里山辺地区	石造物	兎川寺の五輪塔(石川数政夫妻 供養塔)	不明	兎川寺
里山辺地区	石造物	兎川寺の聖観音(1)	正徳5年(1715)	兎川寺
里山辺地区	石造物	兎川寺の聖観音(2)	不明	兎川寺
里山辺地区	石造物	兎川寺の供養塔	弘化2年(1845)	兎川寺
里山辺地区	石造物	兎川寺の石灯籠	文政8年(1825)	兎川寺
里山辺地区	石造物	兎川寺の五輪塔・無縫塔群	不明~平成	兎川寺
里山辺地区	石造物	兎川寺の百体仏	不明	兎川寺
里山辺地区	建造物	兎川寺の蚕玉様	不明	兎川寺町会
里山辺地区	植物・樹木	兎川寺のしだれ桜	樹齢約180年	兎川寺
里山辺地区	民俗資料	兎川寺蚕影神社のぼり	不明	兎川寺町会
里山辺地区	石造物	兎川寺の道案内標	不明(昭和天皇即位 の頃?)	兎川寺町会
里山辺地区	石造物	藤森元次氏の馬頭観音	不明	個人
里山辺地区	建造物	藤森元次氏稲荷神社	慶応元年(1865)	個人
里山辺地区	書跡	山本秀順氏の書	不明	兎川町会
里山辺地区	跡地	兎川寺池跡地	大正8年(1919)	兎川寺水利組合
里山辺地区	石造物	荒町の御嶽大権現	安政6年(1859)	荒町
里山辺地区	石造物	荒町の道祖神	不明	荒町
里山辺地区	石造物	荒町の念仏供養塔(1)	享保20年(1735)	荒町
里山辺地区	石造物	荒町の念仏供養塔(2)	不明	荒町
里山辺地区	石造物	荒町の念仏供養塔(3)	文政3年(1820)	荒町
里山辺地区	石造物	荒町の馬頭観音(1)	天保3年(1832)	荒町
里山辺地区	石造物	荒町の馬頭観音(2)	不明	荒町
里山辺地区	石造物	荒町の馬頭観音(3)	天保6年(1835)	荒町
里山辺地区	石造物	荒町の馬頭観音(4)	不明	荒町
里山辺地区	石造物	荒町の馬頭観音(5)	天保5年(1834)	荒町
里山辺地区	石造物	荒町の地藏菩薩(1)	安永4年(1775)	荒町
里山辺地区	石造物	荒町の地藏菩薩(2)	元禄13年(1700)	荒町

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
里山辺地区	石造物	北小松の廻国供養塔	宝暦年間(1751~1764)	北小松
里山辺地区	石造物	北小松の道標	紀年銘なし	北小松
里山辺地区	石造物	北小松普光寺の石塔籠	文政3年(1820)	北小松
里山辺地区	石造物	北小松普光寺の二十三夜塔	文化4年(1807)	北小松
里山辺地区	石造物	北小松普光寺の念仏供養塔	寛政9年(1797)	北小松
里山辺地区	石造物	北小松普光寺の道祖神	紀年銘なし	北小松
里山辺地区	石造物	北小松の念仏供養塔	紀年銘なし	北小松
里山辺地区	石造物	小口幹夫氏の石祠	文化8年(1811)	個人
里山辺地区	石造物	小口恒子氏の石祠	天保14年(1843)	個人
里山辺地区	石造物	小口悦夫氏の二十六夜塔	紀年銘なし	個人
里山辺地区	石造物	小口悦夫氏の二十六夜塔	紀年銘なし	個人
里山辺地区	石造物	北小松の地藏菩薩(1)	享保元年(1716)	北小松
里山辺地区	石造物	北小松の地藏菩薩(2)	正徳2年(1712)	北小松
里山辺地区	石造物	北小松の地藏菩薩(3)	元禄7年(1694)	北小松
里山辺地区	石造物	北小松の地藏菩薩(4)	紀年銘なし	北小松
里山辺地区	石造物	北小松の地藏菩薩(5)	宝暦3年(1753)	北小松
里山辺地区	石造物	北小松の地藏菩薩(6)	宝暦13年(1763)	北小松
里山辺地区	石造物	北小松の如意輪観音(1)	寛政12年(1800)	北小松
里山辺地区	石造物	北小松の如意輪観音(2)	文政7年(1824)	北小松
里山辺地区	石造物	北小松の観音	享和元年(1801)	北小松
里山辺地区	石造物	北小松普光寺の石造物群(4体)	寛政9年~文政3年(1797~1820)	個人
里山辺地区	文書	渡邊系古文書	江戸時代後期	個人/山辺学校歴史民俗資料館委嘱
里山辺地区	史跡	北河原屋敷古墳(里山辺11号古墳)	古墳時代	個人
里山辺地区	石造物	双体道祖神	平成4年(1992)	西小松町会
里山辺地区	記念碑	上水道完成記念	昭和30年(1955)	
里山辺地区	石造物	馬頭観世音	大正11年(1922)	
里山辺地区	石造物	高吟童女像	寛永15年(1638)頃	個人
里山辺地区	書跡	書:松平丹波守宿		個人
里山辺地区	石造物	道祖神	文化4年(1807)	南小松
里山辺地区	石造物	馬頭観音	明治42年(1909)	南小松
里山辺地区	石造物	地藏菩薩(夜立き地藏、にかけ地藏)	不明	南小松
里山辺地区	石造物	地藏菩薩	寛政9年(1797)	南小松
里山辺地区	石造物	地藏菩薩	宝暦13年(1763)	南小松
里山辺地区	石造物	地藏菩薩	宝暦3年(1753)	個人
里山辺地区	石造物	念仏供養塔	天保3年(1832)	南小松
里山辺地区	石造物	石灯籠	不明	南小松
里山辺地区	石造物	地藏菩薩	不明	個人
里山辺地区	石造物	地藏菩薩	寛政11年(1799)	個人
里山辺地区	石造物	地藏菩薩	不明	個人
里山辺地区	石造物	地藏菩薩	不明	個人
里山辺地区	石造物	石灯籠	明和5年(1768)	個人
里山辺地区	行事	念仏数珠まわし 八日念仏	文政12年(1829)	個人
里山辺地区	石造物	戸隠祭祠	不明	南小松町会
里山辺地区	石造物	三峰神社 祠	不明	南小松

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
里山辺地区	石造物	百萬遍供養塔		
里山辺地区	石造物	大兼妙典大日本巡国六十六一十人供養塔	明治33年(1800)	
里山辺地区	記念碑	校舎竣工記念碑	昭和62年(1987)	松本市
里山辺地区	石造物	位置標	昭和32年(1957)	松本市
里山辺地区	記念碑	植林記念碑	昭和33年(1958)	松本市
里山辺地区	記念碑	「心持一燈」碑	昭和61年(1986)	松本市
里山辺地区	記念碑	山辺中学校校歌碑	昭和62年(1987)	松本市
里山辺地区	記念碑	香取秀真歌碑	昭和62年(1987)?	松本市
里山辺地区	石造物	山辺中学校校門石柱	昭和31年(1956)?	松本市
里山辺地区	石造物	山辺中学校旧校門石柱	昭和50年(1975)	松本市
里山辺地区	植物・樹木	山辺中学校の魯桃櫻		
里山辺地区	史跡	下原遺跡	弥生~平安	
里山辺地区	跡地	里山辺村出征兵見送り台(万歳塚)	昭和19年(1944)?	
里山辺地区	用水	用水路		
里山辺地区	町並み	武石街道枳形状団曲	近世以前か	
里山辺地区	石造物	小松町道祖神	平成4年(1992)	小松町町会
里山辺地区	建造物	廣澤寺	嘉吉元年(1441)開山	個人
里山辺地区	建造物	千鹿頭神社		千鹿頭神社(氏子 林町会)
里山辺地区	建造物	小岩井家薬医門	江戸時代	個人
里山辺地区	石造物	廣澤寺境内石造物群	不詳	廣澤寺
里山辺地区	石造物	廣澤寺境内石造物群	享保16年(1731)	廣澤寺
里山辺地区	石造物	廣澤寺境内石造物群	平成5年(1993)	廣澤寺
里山辺地区	記念碑	念仏供養塔		
里山辺地区	石造物	廣澤寺境内石造物群	昭和34年(1959)	廣澤寺
里山辺地区	石造物	山門内石燈籠		
里山辺地区	石造物	廣澤寺境内石造物群	不詳	廣澤寺
里山辺地区	石造物	稲荷堂前石燈籠一対		
里山辺地区	石造物	廣澤寺境内石造物群	文化11年(1814)	廣澤寺
里山辺地区	石造物	秀政父子御霊殿前石燈籠一対		
里山辺地区	石造物	廣澤寺境内石造物群	不詳	廣澤寺
里山辺地区	石造物	秀政父子供養塔前石燈籠一対		
里山辺地区	石造物	廣澤寺境内石造物群	享保8年(1723)	廣澤寺
里山辺地区	石造物	稻荷堂前宝篋印塔		
里山辺地区	石造物	廣澤寺境内石造物群	寛政2年(1790)	廣澤寺
里山辺地区	石造物	百瀬氏五輪塔群	嘉永6年(1853)	廣澤寺
里山辺地区	石造物	廣澤寺境内石造物群		
里山辺地区	石造物	渡邊庄七郎の墓		
里山辺地区	石造物	廣澤寺境内石造物群		
里山辺地区	石造物	歴代住職無縫塔		
里山辺地区	石造物	廣澤寺境内石造物群		
里山辺地区	石造物	秀政父子供養塔(2基)		
里山辺地区	石造物	廣澤寺境内石造物群	平成3年(1991)	廣澤寺
里山辺地区	石造物	一純和尚座禪像		
里山辺地区	石造物	廣澤寺境内石造物群		
里山辺地区	石造物	六地藏像		
里山辺地区	石造物	廣澤寺境内石造物群		
里山辺地区	石造物	本堂前タルマ大師像	平成4年(1992)	廣澤寺
里山辺地区	石造物	廣澤寺境内石造物群		
里山辺地区	石造物	水子地藏供養像	昭和55年(1980)	廣澤寺

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
里山辺地区	石造物	廣澤寺境内石造物群 イノ取観音		廣澤寺
里山辺地区	石造物	廣澤寺境内石造物群 寄附名簿碑	大正10年(1921)	廣澤寺
里山辺地区	石造物	廣澤寺境内石造物群 山門前戒壇石	文化10年(1813)	廣澤寺
里山辺地区	石造物	千鹿頭神社境内石造物群 参道鳥居前石燈籠	嘉永2年(1849)	千鹿頭神社
里山辺地区	石造物	千鹿頭神社境内石造物群 献木者碑	文久元年(1861)以降	千鹿頭神社
里山辺地区	石造物	千鹿頭神社境内石造物群 本殿前の石燈籠	安永4年(1775)	千鹿頭神社
里山辺地区	石造物	千鹿頭神社境内石造物群 狛犬像	寛政7年(1795)	千鹿頭神社
里山辺地区	石造物	千鹿頭神社境内石造物群 千鹿頭神社後宮石祠	享保14年(1729)	千鹿頭神社
里山辺地区	石造物	林共同墓地内石造物群 念仏供養塔	寛政元年(1789)	
里山辺地区	石造物	林共同墓地内石造物群 三界万霊塔	安永9年(1780)	
里山辺地区	石造物	林共同墓地内石造物群 馬頭観音文字碑1	安政2年(1855)	
里山辺地区	石造物	林共同墓地内石造物群 馬頭観音文字碑2	明治13年(1880)	
里山辺地区	石造物	林共同墓地内石造物群 馬頭観音文字碑3	未詳	
里山辺地区	石造物	林共同墓地内石造物群 馬頭観音文字碑4	明治9年(1875)	
里山辺地区	石造物	林共同墓地内石造物群 馬頭観音文字碑5	明治20年(1887)	
里山辺地区	石造物	林共同墓地内石造物群 馬頭観音文字碑6	明治4年(1871)	
里山辺地区	石造物	林共同墓地内石造物群 観音形立像	不明	
里山辺地区	石造物	林南部道祖神	不明	林町会
里山辺地区	石造物	横山氏墓地三界万霊塔	不明	横山
里山辺地区	石造物	旧慈眼寺境内残存石造物	天明5年(1785)	
里山辺地区	石造物	旧慈眼寺境内残存石造物	明和9年(1772)	
里山辺地区	石造物	旧慈眼寺境内残存石造物 その他		
里山辺地区	石造物	林西部石造物群 蚕影大神	明治30年(1897)	林町会
里山辺地区	石造物	林西部石造物群 道祖神	1700年代後半か	林町会
里山辺地区	石造物	林西部石造物群 康申塔	1700年代後半か	林町会
里山辺地区	石造物	林西部石造物群 石燈籠	文政6年(1823)	林町会
里山辺地区	石造物	林上手道祖神	文化2年(1805)	林町会
里山辺地区	石造物	大嵩崎集落石造物群 道祖神	文化3年(1806)	大嵩崎住民維持
里山辺地区	石造物	大嵩崎集落石造物群 康申塔		大嵩崎住民維持
里山辺地区	石造物	大嵩崎集落石造物群 念仏供養塔	享保年間(1716~1736)	大嵩崎住民維持

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
里山辺地区	石造物	大嵩崎集落石造物群 念仏供養塔	寛政9年(1797)	大嵩崎住民維持
里山辺地区	石造物	大嵩崎集落石造物群 石燈籠	文政7年(1824)	大嵩崎住民維持
里山辺地区	石造物	慈眼寺観音堂石像群 聖観音像	文化3年(1816)か	林(東部)町会
里山辺地区	石造物	慈眼寺観音堂石像群 慈眼寺観音像	文化3年(1816)か	林(東部)町会
里山辺地区	石造物	慈眼寺観音堂石像群 観音像(詳細不明)	文化3年(1816)か	林(東部)町会
里山辺地区	石造物	慈眼寺観音堂石像群 念仏供養塔「南無妙法蓮華經」	明治19年(1886)	林(東部)町会
里山辺地区	石造物	薄川堤歌碑公園の歌碑	昭和57年(1982)	(長野県)
里山辺地区	建造物	大嵩崎(山の神)社	1600年代末か	大嵩崎地区
里山辺地区	石造物	千鹿頭山神社(山ノ神)		
里山辺地区	石造物	竹溪庵(推定林業師堂)石造物群 供養塔1	文化14年(1817)	廣澤寺
里山辺地区	石造物	竹溪庵(推定林業師堂)石造物群 供養塔2	天保13年(1842)	廣澤寺
里山辺地区	石造物	竹溪庵(推定林業師堂)石造物群 地蔵菩薩	延享2年(1745)	廣澤寺
里山辺地区	石造物	竹溪庵(推定林業師堂)石造物群 如意輪観音	元禄7年(1694)	廣澤寺
里山辺地区	石造物	竹溪庵(推定林業師堂)石造物群 角頭石造物	宝暦2年(1752)他不明	廣澤寺
里山辺地区	石造物	竹溪庵(推定林業師堂)石造物群 牛久保家無縫塔	不明	廣澤寺
里山辺地区	石造物	宿世結(しゆくせむすび)神社小祠	宝暦10年(1760)	千鹿頭神社
里山辺地区	記念碑	林(簡易)上水道記念碑	昭和29年(1954)	千鹿頭社有地内(林町会)
里山辺地区	記念碑	ほ場整備(広場)記念碑	平成10年(1998)	圃場整備事業林地区委員会
里山辺地区	記念碑	県営中山間地域総合整備事業記念碑	平成15年(2003)	薄川土地改良区
里山辺地区	石造物	小岩井伴一郎家地蔵像	不明	個人
里山辺地区	行事	林町会加助講		
里山辺地区	その他	林町会長持ち保存会		
里山辺地区	絵画	林町会 加助関係掛軸(3本)		
里山辺地区	町並み	林町会蔵造りの並ぶ町並	明治以降	林町会・大嵩崎地区住民
里山辺地区	町並み	林町会本棟造り住宅群 旧慈眼寺「西国三十三番巡礼石像跡」と休憩所跡	文政3年(1820)	個人住宅 中町「チキリヤ」所有山林内
里山辺地区	跡地	(伝承)林藤助屋敷跡	室町時代	個人
里山辺地区	跡地	(推定)浄運寺旧跡	室町時代	個人
里山辺地区	跡地	(推定)瑞光寺跡	室町時代	個人
里山辺地区	伝説	(伝承)六郎屋敷	(古代)	
里山辺地区	伝説	(伝承)盲切り塚(処刑場)・地獄通り・獄跡	室町時代	林町会共同墓地他
里山辺地区	跡地	富士浅間宮古宮跡	室町時代	個人(氏)
里山辺地区	跡地	御府古墳跡(里山辺9号墳)	古墳時代	個人
里山辺地区	伝説	(伝承)兎田旧跡	(室町時代)	個人
里山辺地区	跡地	(推定)藏跡	室町時代	個人
里山辺地区	跡地	(推定)眞観寺旧跡	明応2年(1493)	個人

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
里山辺地区	史跡	林地区「第二次世界大戦」軍事戦争遺跡群	昭和20年(1945)	
里山辺地区	跡地	慈眼寺(境内)跡	室町時代	個人
里山辺地区	史跡	林城郭群	1400年代後半より天文19年(1550)	千鹿頭神社他
里山辺地区	植物・樹木	薄川堤の松並木	樹齡推定200~250年	(長野県)
里山辺地区	植物・樹木	廣澤寺山門の櫻と参道の並木	樹齡推定500~600年	廣澤寺
里山辺地区	植物・樹木	小岩井家コウヤマキ		個人
里山辺地区	植物・樹木	林堰田取水口の榎	樹齡推定200年	(長野県)
里山辺地区	植物・樹木	薄川堤の桜並木	大正初年~	
里山辺地区	地形	地獄の釜		個人
里山辺地区	庭園	小岩井家の池泉庭園	明治初期~中期	個人
里山辺地区	文書	林村千鹿頭社 社格昇進請願書(写)	昭和5年(1930)	里山辺地区林町会千鹿頭社氏子(山辺学校歴史民館寄託)
里山辺地区	文書	「金花山慈眼寺縁起」巻物	江戸時代	松本市博物館
里山辺地区	跡地	岩鼻(江戸時代の景勝地)	大正期爆破	市道横(松本市)
里山辺地区	史跡	林村内堤防	1600年代?	個人
里山辺地区	石造物	小岩井家延命地藏	江戸時代	
里山辺地区	跡地	薄川霞(雁行)堤跡	1500年代末?	松本市道
里山辺地区	跡地	松本製氷株式会社「製水池」跡	大正15年(1926)	個人
里山辺地区	跡地	未曉門跡		農道(松本市道脇)
里山辺地区	跡地	戦時の爆弾投下跡	昭和20年(1945)	
里山辺地区	史跡	林町会所属の遺跡群	縄文~中世	
里山辺地区	文書・絵画・その他	廣澤寺宝物群(抄)	建長5年(1253)~近代	廣澤寺
里山辺地区	文書	桐原家古文書類		個人
里山辺地区	行事	林町会内各種《講》の状況	平成27年(2015)現在	林町会(大高崎を含む)

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
入山辺地区	行事	御柱祭		
入山辺地区	行事	蚕玉様		
入山辺地区	行事	三九郎		
入山辺地区	石造物	念仏供養塔	享和4年(1804)	橋倉
入山辺地区	石造物	馬頭観音	嘉永元年(1848)	橋倉
入山辺地区	石造物	念仏供養塔	享保17年(1732)	橋倉
入山辺地区	石造物	光明真言(梵字)供養塔	文化8年(1811)	橋倉
入山辺地区	石造物	六臂青面金剛	宝暦7年(1757)	橋倉
入山辺地区	石造物	道祖神(文字碑)	紀年銘なし	橋倉
入山辺地区	石造物	二十三夜塔	紀年銘なし	橋倉
入山辺地区	石造物	諏訪神社の石灯籠	宝暦7年(1757)	橋倉
入山辺地区	石造物	武井氏の白衣観音	享保17年(1732)	個人(氏)
入山辺地区	石造物	大日如来碑	慶応3年(1867)	橋倉
入山辺地区	石造物	馬頭観音	慶応元年(1865)	橋倉
入山辺地区	石造物	馬頭観音	文政13年(1830)	橋倉
入山辺地区	石造物	馬頭観音	紀年銘なし	橋倉
入山辺地区	石造物	馬頭観音	文政4年(1821)	橋倉
入山辺地区	石造物	馬頭観音	宝暦2年(1752)	橋倉
入山辺地区	石造物	馬頭観音	紀年銘なし	橋倉
入山辺地区	石造物	馬頭観音	紀年銘なし	橋倉
入山辺地区	建造物	橋倉諏訪神社	不明	橋倉
入山辺地区	建造物	蚕玉様		
入山辺地区	建造物	山の神		
入山辺地区	建造物	天白様		
入山辺地区	建造物	九頭竜様		
入山辺地区	建造物	お稲荷様		
入山辺地区	史跡	林城址(林大城)	室町時代	
入山辺地区	史跡	水番城	室町時代	
入山辺地区	用水	化粧池	室町時代	
入山辺地区	跡地	水路跡	室町時代	
入山辺地区	跡地	十輪院跡	江戸時代	
入山辺地区	跡地	橋倉学校跡	明治時代	
入山辺地区	行事	お八日念仏		
入山辺地区	行事	秋葉様のお祭り		
入山辺地区	行事	お薬師様		
入山辺地区	行事	長持ち担ぎ		
入山辺地区	石造物	馬頭観音	寛政7年(1796)	南方
入山辺地区	石造物	六臂青面金剛	明和4年(1767)	南方
入山辺地区	石造物	馬頭観音	寛政8年(1796)	南方
入山辺地区	石造物	馬頭観音	文政8年(1825)	南方
入山辺地区	石造物	馬頭観音	天保4年(1833)	南方
入山辺地区	石造物	馬頭観音	嘉永2年(1849)	南方
入山辺地区	石造物	馬頭観音	文久2年(1862)	南方
入山辺地区	石造物	念仏供養塔	寛政4年(1792)	南方
入山辺地区	石造物	道祖神(双体像、祝言跪座)	文政6年(1823)	南方
入山辺地区	石造物	御藏大権現	天保8年(1837)	南方
入山辺地区	石造物	伽藍塔	明和3年(1766)	南方

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
入山辺地区	石造物	地藏菩薩	安永2年(1773)	南方
入山辺地区	石造物	無縫塔	元禄13年(1700)	南方
入山辺地区	石造物	無縫塔	明和元年(1764)	南方
入山辺地区	石造物	諏訪社の石灯籠	明和3年(1766)	南方
入山辺地区	石造物	諏訪社の石灯籠	明和3年(1766)	南方
入山辺地区	建造物	南方諏訪社	宝暦2年(1752)建替	
入山辺地区	彫刻	薬師堂 木造薬師如来立像	享保16年(1731)	
入山辺地区	建造物	秋葉神社		
入山辺地区	跡地	南橋学校	明治6~9年(1873~1876)	
入山辺地区	史跡	南方古墳	古墳時代	
入山辺地区	行事	湯立祭(建国祭)		
入山辺地区	行事	八日念仏		
入山辺地区	行事	柴宮社のお祭り		
入山辺地区	行事	風祭り(かざまつり)		
入山辺地区	行事	山の神		
入山辺地区	行事	お薬師様		
入山辺地区	行事	感謝祭		
入山辺地区	石造物	道祖神(双体像、祝言)	明治2年(1869)	西桐原
入山辺地区	石造物	念仏供養塔	文政5年(1822)	西桐原
入山辺地区	石造物	六臂青面金剛	享保18年(1733)	西桐原
入山辺地区	石造物	二十三夜塔	文化元年(1804)	西桐原
入山辺地区	石造物	薬師如来像	寛政6年(1794)	柴宮神社
入山辺地区	石造物	石灯籠	文化3年(1806)	柴宮神社
入山辺地区	石造物	石灯籠	天保8年(1837)	柴宮神社
入山辺地区	石造物	石灯籠	天保13年(1842)	柴宮神社
入山辺地区	石造物	地藏菩薩	宝暦11年(1761)	西桐原
入山辺地区	石造物	馬頭観音	天保10年(1839)	西桐原
入山辺地区	石造物	蒙染明王		西桐原
入山辺地区	石造物	御蘇山大権現		
入山辺地区	石造物	古牧里	元治2年(1865)	
入山辺地区	石造物	筆塚		
入山辺地区	記念碑	軍馬記念碑		
入山辺地区	建造物	柴宮社		
入山辺地区	建造物	金毘羅様		
入山辺地区	建造物	痘瘡様		
入山辺地区	建造物	普光寺様		
入山辺地区	建造物	鬼子母神		
入山辺地区	建造物	天白様		
入山辺地区	行事・行事	お諏訪様		
入山辺地区	建造物	いわい神様		
入山辺地区	史跡	桐原城址	室町時代	
入山辺地区	跡地	連法寺跡	寛正年間(1460-1466)	
入山辺地区	跡地	御屋敷	室町時代	
入山辺地区	行事	お花まつり		
入山辺地区	行事	お十夜		
入山辺地区	行事	八日念仏		
入山辺地区	行事	やしやうま		

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
入山辺地区	石造物	道祖神(双体像、抱擁)	明和5年(1768)	東桐原
入山辺地区	石造物	馬頭観音	天保12年(1841)	東桐原
入山辺地区	石造物	馬頭観音	天保9年(1838)	東桐原
入山辺地区	石造物	念仏供養塔	文化3年(1806)	東桐原
入山辺地区	石造物	馬頭観音	天保8年(1837)	東桐原
入山辺地区	石造物	馬頭観音	文政7年(1824)	東桐原
入山辺地区	石造物	馬頭観音	天保14年(1843)	東桐原
入山辺地区	石造物	六臂青面金剛	享保19年(1734)	東西桐原
入山辺地区	石造物	百萬遍供養塔	寛政5年(1793)	東西桐原
入山辺地区	石造物	地藏菩薩	元禄6年(1693)	東西桐原
入山辺地区	石造物	念仏供養塔	元禄3年(1690)	東西桐原
入山辺地区	石造物	念仏供養塔	元文4年(1739)	東西桐原
入山辺地区	石造物	石灯籠	天明3年(1783)	天神宮
入山辺地区	石造物	石灯籠	天明3年(1783)	天神宮
入山辺地区	石造物	馬頭観音	慶応3年(1867)	東桐原
入山辺地区	石造物	馬頭観音	文政元年(1818)	東桐原
入山辺地区	石造物	馬頭観音	元治元年(1864)	個人(氏)
入山辺地区	建造物	天満宮		
入山辺地区	考古資料・建造物	海岸寺(経塚出土品)	平安時代	
入山辺地区	跡地	連歌屋敷跡	中世	
入山辺地区	史跡	霜降城址(下岩、上岩)	室町時代	
入山辺地区	彫刻	千手観音	平安時代	
入山辺地区	行事	敬老会	現代	
入山辺地区	行事	お念仏		
入山辺地区	行事	八日念仏と百足引き		舟付
入山辺地区	石造物	道祖神(文字碑)	天保6年(1835)	舟付
入山辺地区	石造物	庚申塔	寛延2年(1749)	舟付
入山辺地区	石造物	二十三夜塔	嘉永2年(1849)	舟付
入山辺地区	石造物	道祖神(文字碑)	紀年銘なし	舟付
入山辺地区	石造物	薬師如来	紀年銘なし	舟付
入山辺地区	石造物	弘法大師	紀年銘なし	舟付
入山辺地区	石造物	観音	天明4年(1784)	舟付
入山辺地区	石造物	馬頭観音	文化12年(1815)	舟付
入山辺地区	石造物	不道明王	紀年銘なし	舟付
入山辺地区	石造物	馬頭観音	紀年銘なし	舟付
入山辺地区	石造物	道祖神(双体像、抱擁(握手))	天明6年(1786)	宮原
入山辺地区	石造物	二十三夜供養塔	文化8年(1811)	宮原
入山辺地区	石造物	庚申供養塔	宝暦11年(1761)	宮原
入山辺地区	石造物	念仏百万遍供養塔	寛政7年(1795)	宮原
入山辺地区	石造物	宮原社の石灯籠	天保15年(1844)	宮原神社
入山辺地区	石造物	宮原社の石灯籠	天保15年(1844)	宮原神社
入山辺地区	石造物	宮原社の石灯籠	元文3年(1738)	宮原神社
入山辺地区	石造物	宮原社の石灯籠	元文3年(1738)	宮原神社
入山辺地区	石造物	宮原社の石灯籠	明和4年(1767)	宮原神社
入山辺地区	石造物	宮原社の石灯籠	明和4年(1767)	宮原神社
入山辺地区	石造物	宮原社の石灯籠	文化元年(1804)	宮原神社
入山辺地区	石造物	宮原社の石灯籠	天明6年(1786)	宮原神社

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
入山辺地区	石造物	宮原社の石灯籠	天明6年(1786)	宮原神社
入山辺地区	石造物	宮原社の狗犬(2基)	紀年銘なし	宮原神社
入山辺地区	建造物	宮原神社		
入山辺地区	史跡	宮原城址	室町時代	
入山辺地区	建造物	薄川第一発電所		
入山辺地区	植物・樹木	福寿草群生地		
入山辺地区	行事	風邪の神送り(カスネンプツ)		中村
入山辺地区	石造物	道祖神(文字碑)	紀年銘なし	中村
入山辺地区	石造物	道祖神(双体像、祝言抱擁)	天保15年(1844)	中村
入山辺地区	石造物	庚申塔	宝暦7年(1757)	中村
入山辺地区	石造物	念仏供養塔	文化7年(1810)	中村
入山辺地区	石造物	二十三夜塔	天保3年(1832)	中村
入山辺地区	石造物	筆塚	紀年銘なし	中村
入山辺地区	石造物	御蘇大権現	弘化3年(1846)	中村
入山辺地区	石造物	矢鳥氏の六地藏	元禄2年(1689)	個人(氏)
入山辺地区	石造物	馬頭観音	文久2年(1862)	寺所
入山辺地区	石造物	馬頭観音	紀年銘なし	寺所
入山辺地区	石造物	聖観音	寛政9年(1797)	寺所
入山辺地区	石造物	念仏供養塔	寛政10年(1798)	包石
入山辺地区	石造物	堤石碑	大正15年(1926)	包石
入山辺地区	石造物	道祖神(文字碑)	紀年銘なし	包石
入山辺地区	石造物	如意輪観音	元禄5年(1692)	徳運寺
入山辺地区	石造物	如意輪観音	元禄2年(1689)	徳運寺
入山辺地区	石造物	馬頭観音	嘉永2年(1849)	徳運寺
入山辺地区	石造物	馬頭観音	弘化4年(1847)	徳運寺
入山辺地区	石造物	馬頭観音	文政11年(1828)	徳運寺
入山辺地区	石造物	馬頭観音	文化8年(1811)	徳運寺
入山辺地区	石造物	馬頭観音	天保6年(1835)	徳運寺
入山辺地区	石造物	千手観音	嘉永2年(1849)	徳運寺
入山辺地区	石造物	千手観音	嘉永2年(1849)	徳運寺
入山辺地区	石造物	馬頭観音	弘化3年(1846)	徳運寺
入山辺地区	石造物	六臂青面金剛	享保18年(1733)	千手
入山辺地区	石造物	二十三夜塔	寛政4年(1792)	千手
入山辺地区	石造物	道祖神(文字碑)	天保10年(1839)	千手
入山辺地区	石造物	地藏菩薩	明和7年(1770)	徳運寺
入山辺地区	石造物	六臂青面金剛	明和元年(1764)	駒越
入山辺地区	石造物	馬頭観音	明和7年(1770)	駒越
入山辺地区	石造物	観音	寛政4年(1792)	駒越
入山辺地区	石造物	馬頭観音	寛政5年(1793)	駒越
入山辺地区	石造物	道祖神(双体像、祝言跪座)	文政7年(1824)	駒越
入山辺地区	石造物	御蘇大権現	弘化3年(1846)	駒越
入山辺地区	石造物	念仏供養塔	紀年銘なし	駒越
入山辺地区	石造物	馬頭観音	文久2年(1862)	駒越
入山辺地区	石造物	石灯籠	文化11年(1814)	駒越
入山辺地区	跡地	駒越神社跡		
入山辺地区	植物・樹木	千手のイチヨウ		
入山辺地区	行事	徳運寺厄除火祭(三九郎)		

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
入山辺地区	行事	徳運寺厄除開運		
入山辺地区	行事	奈良尾こごと八日(貧乏神)		
入山辺地区	石造物	庚申供養塔	元禄12年(1699)	三反田
入山辺地区	石造物	地藏菩薩	寛永5年(1852)	三反田
入山辺地区	石造物	馬頭観音	安永10年(1781)	三反田
入山辺地区	石造物	馬頭観音	文政2年(1819)	三反田
入山辺地区	石造物	馬頭観音	天保4年(1833)	三反田
入山辺地区	石造物	馬頭観音	文政12年(1829)	三反田
入山辺地区	石造物	聖観音	嘉永2年(1849)	三反田
入山辺地区	石造物	馬頭観音	天保8年(1837)	三反田
入山辺地区	石造物	聖観音	安政5年(1858)	三反田
入山辺地区	石造物	観音	天保15年(1844)	三反田
入山辺地区	石造物	馬頭観音	文政年間(1818~1830)	三反田
入山辺地区	石造物	馬頭観音	文久3年(1863)	三反田
入山辺地区	石造物	馬頭観音	弘化4年(1847)	三反田
入山辺地区	石造物	馬頭観音	安政2年(1855)	三反田
入山辺地区	石造物	馬頭観音	文久2年(1862)	三反田
入山辺地区	石造物	弘法大師供養塔	文政10年(1827)	三反田
入山辺地区	石造物	念仏供養塔	文政元年(1818)	三反田
入山辺地区	石造物	宝篋印塔	紀年銘なし	徳運寺
入山辺地区	石造物	地藏菩薩	安政6年(1859)	徳運寺
入山辺地区	石造物	大乘妙典供養塔	紀年銘なし	徳運寺
入山辺地区	石造物	六地藏	紀年銘なし	徳運寺
入山辺地区	石造物	地藏菩薩	安永6年(1777)	徳運寺
入山辺地区	石造物	地藏菩薩	安永8年(1779)	徳運寺
入山辺地区	石造物	地藏菩薩	天明2年(1782)	徳運寺
入山辺地区	石造物	石標	弘化3年(1846)	徳運寺
入山辺地区	石造物	石灯籠	天保7年(1836)	徳運寺
入山辺地区	石造物	石灯籠	天保7年(1836)	徳運寺
入山辺地区	石造物	如意輪観音	寛文10年(1670)	徳運寺
入山辺地区	石造物	三界万霊塔	天保15年(1844)	徳運寺
入山辺地区	石造物	六臂青面金剛	享保15年(1730)	徳運寺
入山辺地区	石造物	道祖神(双体像、抱擁握手)	紀年銘なし	奈良尾
入山辺地区	石造物	道祖神(双体像、祝言抱擁)	紀年銘なし	奈良尾
入山辺地区	石造物	六臂青面金剛	宝暦13年(1763)	奈良尾
入山辺地区	石造物	馬頭観音	天明7年(1787)	奈良尾
入山辺地区	石造物	道祖神(自然石、塞の神石)		
入山辺地区	石造物	道祖神(文字碑)		
入山辺地区	石造物	道祖神(自然石、陰陽石)		
入山辺地区	建造物	徳運寺	江戸時代	
入山辺地区	建造物	白山神社		
入山辺地区	跡地	徳雲寺跡	中世	
入山辺地区	行事	貧乏神送りと風邪の神送り		
入山辺地区	行事	御柱		
入山辺地区	行事	王ヶ鼻の開山祭(御岳さま祭り)		
入山辺地区	石造物	道祖神(双体像、抱擁握手)	紀年銘なし	上手町
入山辺地区	石造物	馬頭観音	文政12年(1829)	上手町

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
入山辺地区	石造物	道祖神(文字碑)	紀年銘なし	
入山辺地区	石造物	馬頭観音	紀年銘なし	
入山辺地区	史跡	山家城址	室町時代	
入山辺地区	行事	大和合神社祭典		
入山辺地区	行事	風祭り		
入山辺地区	行事	十五夜祭		
入山辺地区	行事	三九郎		
入山辺地区	行事	お八日念仏		
入山辺地区	行事	大和合神社例祭		
入山辺地区	行事	道祖神祭り(三九郎)		
入山辺地区	行事	御八日祭		
入山辺地区	行事	秋葉様祭		
入山辺地区	行事	初午祭		
入山辺地区	行事	お念仏		
入山辺地区	行事	山の神様祭		
入山辺地区	行事	お七日夜念仏		
入山辺地区	行事	お十夜念仏		
入山辺地区	石造物	道祖神(双体像、抱擁握手)	紀年銘なし	原
入山辺地区	石造物	回向供養塔	文政6年(1823)	原
入山辺地区	石造物	馬頭観音	慶応3年(1867)	原
入山辺地区	石造物	馬頭観音	寛政6年(1794)	原
入山辺地区	石造物	六臂青面金剛	宝暦8年(1758)	原
入山辺地区	石造物	馬頭観音	文政元年(1818)	原
入山辺地区	石造物	馬頭観音	不明	原
入山辺地区	石造物	馬頭観音	寛政2年(1790)	原
入山辺地区	石造物	馬頭観音	寛政3年(1791)	原
入山辺地区	石造物	馬頭観音	文久3年(1863)	原
入山辺地区	石造物	牛頭観音	明治7年(1874)	原
入山辺地区	石造物	念仏供養塔	寛政12年(1800)	原
入山辺地区	石造物	道祖神(双体像、祝言跪座)	天保6年(1835)	原
入山辺地区	石造物	馬頭観音	天保6年(1835)	原
入山辺地区	石造物	馬頭観音	天保元年(1830)	原
入山辺地区	石造物	馬頭観音	不明	原
入山辺地区	石造物	道祖神(文字碑)	紀年銘なし	原(北廐所)
入山辺地区	石造物	馬頭観音	天保3年(1832)	原(北廐所)
入山辺地区	石造物	馬頭観音	天保8年(1837)	原(北廐所)
入山辺地区	石造物	馬頭観音	天保年間(1830-1844)	原(北廐所)
入山辺地区	石造物	馬頭観音	寛延元年(1748)	原(北廐所)
入山辺地区	石造物	馬頭観音	文化12年(1815)	原(北廐所)
入山辺地区	石造物	馬頭観音	天保4年(1833)	原(北廐所)
入山辺地区	石造物	馬頭観音	紀年銘なし	原(北廐所)
入山辺地区	石造物	道祖神(双体像、抱擁握手)	紀年銘なし	廐所
入山辺地区	石造物	水神様	文化14年(1817)	廐所
入山辺地区	石造物	六臂青面金剛	明和6年(1769)	廐所
入山辺地区	石造物	馬頭観音	文政9年(1826)	廐所
入山辺地区	石造物	馬頭観音	文化3年(1806)	廐所
入山辺地区	石造物	馬頭観音	文政7年(1824)	廐所

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
入山辺地区	石造物	馬頭観音	天保10年(1839)	廐所
入山辺地区	石造物	観音	宝暦元年(1751)	廐所
入山辺地区	石造物	六臂青面金剛	明和3年(1766)	廐所
入山辺地区	石造物	六臂青面金剛	享保3年(1718)	廐所
入山辺地区	民俗資料	御舟(山車)		
入山辺地区	行事	鳥追行事		
入山辺地区	石造物	馬頭観音	天保2年(1831)	小仏
入山辺地区	石造物	馬頭観音	天明8年(1788)	小仏
入山辺地区	石造物	馬頭観音	天保3年(1832)	小仏
入山辺地区	石造物	観音	紀年銘なし	小仏
入山辺地区	石造物	道祖神(双体像、拱手踏足)	寛政7年(1795)	小仏
入山辺地区	石造物	念仏供養塔	明和3年(1766)	小仏
入山辺地区	石造物	馬頭観音	文政6年(1823)	小仏
入山辺地区	石造物	観音	寛政11年(1799)	小仏
入山辺地区	石造物	馬頭観音	天保4年(1833)	小仏
入山辺地区	石造物	馬頭観音	天保2年(1831)	小仏
入山辺地区	石造物	馬頭観音	天保2年(1831)	小仏
入山辺地区	石造物	馬頭観音	文政10年(1827)	小仏
入山辺地区	石造物	道祖神(双体像、抱擁握手)	寛政12年(1800)	一の海
入山辺地区	石造物	道祖神(自然石)		
入山辺地区	石造物	道祖神(自然石)		
入山辺地区	彫刻	一の海の阿弥陀如来	江戸時代	
入山辺地区	行事	大和合神社大祭(お舟祭り)		
入山辺地区	行事	こと八日の行事		
入山辺地区	石造物	道祖神(双体像、座像)	紀年銘なし	大和合
入山辺地区	石造物	道祖神(双体像、拱手踏足)	寛政7年(1795)	大和合
入山辺地区	石造物	康申塔	宝暦5年(1755)	大和合
入山辺地区	石造物	狛犬	紀年銘なし	大和合神社
入山辺地区	石造物	道祖神(双体像、拱手踏足)	寛政6年(1794)	牛立
入山辺地区	石造物	六臂青面金剛	明和6年(1769)	牛立
入山辺地区	石造物	馬頭観音	天明6年(1786)	牛立
入山辺地区	石造物	馬頭観音	寛政11年(1799)	牛立
入山辺地区	石造物	馬頭観音	文化6年(1809)	牛立
入山辺地区	石造物	馬頭観音	安永7年(1778)	牛立
入山辺地区	石造物	馬頭観音	嘉永5年(1852)	牛立
入山辺地区	石造物	馬頭観音	天保5年(1834)	牛立
入山辺地区	石造物	道祖神(文字碑)	大正10年(1921)	
入山辺地区	建造物	大和合神社		
入山辺地区	民俗資料	大和合神社 お舟		
入山辺地区	民俗資料	大和合神社 翁		
入山辺地区	民俗資料	大和合神社 嬬		
入山辺地区	石造物	道祖神(文字碑)	紀年銘なし	三城
入山辺地区	石造物	馬頭観音	慶応元年(1865)	三城
入山辺地区	石造物	馬頭観音	慶応元年(1865)	三城
入山辺地区	石造物	石祠	慶応元年(1865)	三城
入山辺地区	石造物	桜清水の手力負命	紀年銘なし	三城
入山辺地区	石造物	桜清水の不動明王	紀年銘なし	三城

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
入山辺地区	石造物	王ヶ鼻の石造群		
入山辺地区	建造物	王ヶ鼻神社		
入山辺地区	地形	美ヶ原高原		
入山辺地区	石	扉岩		
入山辺地区	その他	石切場		
入山辺地区	その他	ミヤマシロ蝶		
入山辺地区	石造物	中村の六地藏	明和6年(1769)	
入山辺地区	石造物	中村の六地藏	明和6年(1769)	
入山辺地区	石造物	中村の六地藏	明和6年(1769)	
入山辺地区	石造物	中村の六地藏	明和6年(1769)	
入山辺地区	石造物	中村の六地藏	明和6年(1769)	
入山辺地区	石造物	中村の六地藏菩薩	宝永2年(1705)	
入山辺地区	石造物	中村の地蔵菩薩	寛政7年(1795)	
入山辺地区	石造物	中村の供養塔	寛政5年(1793)	
入山辺地区	石造物	中村の三界万霊塔	明和3年(1766)	
入山辺地区	石造物	中村の供養塔	寛政11年(1799)か	
入山辺地区	石造物	包石の道祖神	紀年銘なし	包石
入山辺地区	石造物	包石の庚申塔	天明6年(1786)	
入山辺地区	石造物	大菱沢の庚申塔	紀年銘なし	個人
入山辺地区	石造物	大菱沢の馬頭観音	慶応元年(1865)	
入山辺地区	石造物	大菱沢の念仏供養塔	紀年銘なし	個人
入山辺地区	石造物	大菱沢の道祖神	紀年銘なし	
入山辺地区	石造物	秋葉神社の石燈籠	宝暦11年(1761)	
入山辺地区	石造物	秋葉神社の石燈籠	宝暦11年(1761)	

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
今井地区	建造物	純麻・兼平神社		純麻・兼平神社
今井地区	建造物	お天狗様(俗称)		氏子
今井地区	建造物	五座社		氏子
今井地区	建造物	諏訪神社・八坂神社・八幡神社		氏子
今井地区	建造物	諏訪社		氏子
今井地区	建造物	十王堂	昭和47年(1972)改築	堂村町会
今井地区	建造物	長栄山正覚院		正覚院
今井地区	建造物	平城山 寶輪寺		寶輪寺
今井地区	建造物	地藏堂		下新田町会
今井地区	建造物	観音堂		北耕地町会
今井地区	彫刻	閻魔堂十王 [真数]10	不明	堂村町会
今井地区	彫刻	木造如意輪観音坐像 [真数]1	不明	下新田町会
今井地区	彫刻	延命地藏菩薩立像 [真数]1	不明	下新田町会
今井地区	彫刻	聖観音立像 [真数]1	不明	北耕地町会
今井地区	絵画	絵馬(奉納額)(久末) [真数]2	明治初期か	宝輪寺
今井地区	民俗資料	五座社 祭典用幟(のぼり)	大正5年(1916) 昭和複製	氏子総代 毎年交替する
今井地区	彫刻	脇侍 木造毘沙門天立像		宝輪寺
今井地区	彫刻	十一面観音立像		宝輪寺
今井地区	彫刻	木造仁王像 [真数]2	明治13年(1880)	宝輪寺
今井地区	彫刻	脇侍 木造不動明王立像		宝輪寺
今井地区	彫刻	大日如来坐像 本尊		宝輪寺
今井地区	絵画	竹林に鶴		宝輪寺
今井地区	絵画	吉野山の桜		宝輪寺
今井地区	彫刻	脇侍観音菩薩立像・勢至菩薩立像		正覚院
今井地区	彫刻	龍の向拝		正覚院
今井地区	彫刻	聖観音立像		正覚院
今井地区	彫刻	木造阿彌陀如来坐像 本堂本尊		正覚院
今井地区	行事	三九郎		
今井地区	行事	盆火(ぼんび)		
今井地区	行事	奉納相撲(ぼうのうずもう)		
今井地区	行事	奉納御神馬(ごじんば)		
今井地区	行事	小正月の鳥追い		
今井地区	史跡・石造物	経塚・緯刻仏像等		個人
今井地区	洞穴	洞穴	明治時代	
今井地区	用水	水田・補給水の為の深井戸跡	明治20年代	鎌川土地改良区
今井地区	跡地	広明学校跡	明治6年(1873)	
今井地区	跡地	下今井学校跡	明治7年(1874)	
今井地区	史跡	神明宮址		
今井地区	史跡	城山		大池コンクリート
今井地区	史跡	こぶし畑遺跡	縄文時代 縄文・弥生・平安・中世	個人
今井地区	史跡	前田遺跡(今井上 Newtown 遺跡)	縄文時代 江戸時代～昭和43年 (1968)	個人
今井地区	跡地	小段堰 水路跡	戦中	個人
今井地区	植物・樹木	松の油脂採取あとのある松の木	大正4年(1925)	個人
今井地区	記念碑	萬歳塚	江戸時代	個人
今井地区	建造物	井戸	創立は大正年間か?	阪信組合
今井地区	跡地	阪信漬物工場 純麻神社跡地		今井上区
今井地区	跡地	元 今井村上水道の貯水溜あと	大正14年(1925)	松本市水道局
今井地区	跡地	八幡神社跡		藤袴水産省
今井地区	史跡	今井北耕地遺跡	縄文・平安・中世	
今井地区	史跡	古池原遺跡	縄文	
今井地区	史跡	今井弥生坂上遺跡	縄文・平安	
今井地区	史跡	今井六はぎ遺跡	縄文・平安	

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
今井地区	史跡	野口新田遺跡	縄文・平安	
今井地区	史跡	今井南耕地遺跡	古墳時代	
今井地区	史跡	今井新田遺跡	縄文時代	
今井地区	史跡	今井新田原遺跡	縄文・平安	
今井地区	史跡	上今井遺跡	縄文・平安	
今井地区	植物・樹木	諏訪大社の杉の神木(15本)	樹齢推定300年	今井下田 個人
今井地区	植物・樹木	桃井家屋敷の樺		宝輪寺 個人
今井地区	植物・樹木	宝輪寺の境内樹 樺		今井上区 個人
今井地区	植物・樹木	兼平神社境内の榎(赤松の樹20数本)	樹齢20年位	今井上区 個人
今井地区	植物・樹木	下の山の神の老松	樹齢約300年	個人
今井地区	植物・樹木	中原家の庭園のいちい(みねぞお)(1本)	樹齢300年以上	個人
今井地区	植物・樹木	高野墳	樹齢130年位	個人
今井地区	植物・樹木	社叢		今井野口諏訪社氏子 個人
今井地区	植物・樹木	赤松	樹齢250年	個人
今井地区	建造物	塩原家住宅主屋	明治末～大正中期	個人
今井地区	建造物	塩原家住宅門	明治末～大正中期	個人
今井地区	建造物	塩原家住宅米蔵	明治末～大正中期	個人
今井地区	建造物	塩原家住宅蔵	明治末～大正中期	個人
今井地区	建造物	塩原家住宅蔵	明治末～大正中期	個人
今井地区	行事	今井下新田の八日念仏と足半(念仏講・お八日念仏)		今井下新田町会(代表者:町会長)
今井地区	植物・樹木	古地氏の鹽敷林		個人

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
内田地区	行事	内田のササラ踊り		内田地区ササラ踊り保存会
内田地区	用水・建造物	牛伏川本流水路(牛伏川階段工)	大正5年(1916)	長野県(管理担当:松本建設事務所)
内田地区	史跡	猪土手	江戸時代	
内田地区	史跡	北内牧、内田郷	中世	
内田地区	行事	鎌伏神社の祭礼(雨乞いと鎮守祈禱祭)		松本市内田地区(北内田)、塩原市片丘南内田伊勢講保存会、財産管理委員会
内田地区	行事	伊勢講(民間信仰)		
内田地区	石造物	南内田・北内田の宝塔	不明	南内田・北内田
内田地区	石造物	鎌伏山頂の石祠	不明	内田
内田地区	石造物	鎌伏山頂の石祠	不明	内田
内田地区	石造物	鎌伏山頂の石祠	不明	内田
内田地区	石造物	鎌伏山頂の八朔福荷	不明	内田
内田地区	石造物	鎌伏山頂の天日大聖不動明王	文久元年(1861)	内田
内田地区	石造物	鎌伏山頂の八大龍王	不明	内田
内田地区	石造物	鎌伏山頂の神武天王	不明	内田
内田地区	石造物	鎌伏山頂の鎌伏太神	不明	内田
内田地区	石造物	鎌伏山頂のみたらし北斗星	不明	内田
内田地区	石造物	鎌伏山頂の鎌伏大権現	不明	内田
内田地区	石造物	鎌伏山頂の武木木山大権現	文久元年(1861)	南内田・北内田
内田地区	石造物	鎌伏山頂の鳥居啓石	不明	南内田・北内田
内田地区	石造物	舟沢の三峯大権現	不明	向井村
内田地区	石造物	舟沢の水神	不明	向井村
内田地区	石造物	向井の地藏菩薩	不明	向井・個人(氏)
内田地区	石造物	向井の御嶽山大権現	文化4年(1807)	向井村
内田地区	石造物	大神社伊勢講供養塔	元禄12年(1699)	大神社
内田地区	石造物	大神社二十三夜供養塔	寛政12年(1800)	大神社
内田地区	石造物	大神社天照皇太神宮供養塔	宝暦12年(1762)	大神社
内田地区	石造物	大神社の石灯籠	宝暦7年(1757)	大神社
内田地区	石造物	大神社の石灯籠	宝暦7年(1757)	大神社
内田地区	石造物	大神社の石灯籠	宝暦10年(1827)	大神社
内田地区	石造物	八幡原八幡社の石灯籠	寛政9年(1797)	八幡原八幡神社
内田地区	石造物	八幡原八幡社の津島天王宮	不明	八幡原八幡神社
内田地区	石造物	八幡原八幡社の太神宮供養塔	宝暦14年(1764)	八幡原八幡神社
内田地区	石造物	八幡原八幡社の光明真言供養塔	正徳4年(1714)	八幡原八幡神社
内田地区	石造物	八幡原八幡社の石灯籠	寛政11年(1799)	八幡原八幡神社
内田地区	石造物	八幡原八幡社の石灯籠	寛政11年(1799)	八幡原八幡神社
内田地区	石造物	北正八幡宮の石灯籠	元文元年(1736)	北正八幡宮
内田地区	石造物	北正八幡宮の石灯籠	元文元年(1736)	北正八幡宮
内田地区	石造物	北正八幡宮の太神勸請碑	天保3年(1832)	北正八幡宮
内田地区	石造物	牛伏寺の聖観音	享保7年(1722)	牛伏寺
内田地区	石造物	牛伏寺の六地藏	不明	牛伏寺
内田地区	石造物	牛伏寺の六地藏	不明	牛伏寺
内田地区	石造物	牛伏寺の六地藏	不明	牛伏寺
内田地区	石造物	牛伏寺の六地藏	不明	牛伏寺
内田地区	石造物	牛伏寺の六地藏	不明	牛伏寺
内田地区	石造物	牛伏寺の六地藏	不明	牛伏寺
内田地区	石造物	牛伏寺の石灯籠	不明	牛伏寺
内田地区	石造物	牛伏寺の石灯籠	不明	牛伏寺

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
内田地区	彫刻	追儺面(2面)	永禄10年(1567)	牛伏寺
内田地区	考古資料	鉄器残欠 附 鉄剣残欠 鏡残欠	平安時代	牛伏寺
内田地区	考古資料	経筒	平安時代	牛伏寺
内田地区	植物・樹木	牛伏寺のカラマツ	樹齢400年	牛伏寺
内田地区	建造物	牛伏寺観音堂	江戸時代	
内田地区	建造物	牛伏寺如意輪堂	江戸時代	
内田地区	絵画	牛伏寺四尊像	鎌倉時代	
内田地区	彫刻	牛伏寺銅板線刻十一面観音御正体	鎌倉時代	
内田地区	文書	牛伏寺法華経断簡	奈良時代	
内田地区	文書	牛伏寺光明真言頌	室町時代	
内田地区	文書	牛伏寺采版大般若経	中国・南宋時代	
内田地区	考古資料	牛伏寺銅伏缸	平安時代	
内田地区	史跡	牛伏寺堂平	平安時代	
内田地区	植物・樹木	牛伏寺ブナ林		牛伏寺
内田地区	建造物	牛伏寺参道の丁石(町石)	江戸時代前期	牛伏寺
内田地区	名勝	法船寺の境内		法船寺
内田地区	建造物	塩沢山法船寺		法船寺
内田地区	彫刻	薬師如来坐像		法船寺
内田地区	彫刻	日光菩薩		法船寺
内田地区	彫刻	月光菩薩		法船寺
内田地区	彫刻	薬師十二神将	天保15年(1844)	法船寺
内田地区	彫刻	薬師四天王		法船寺
内田地区	彫刻	不動明王		法船寺
内田地区	彫刻	地藏菩薩		法船寺
内田地区	彫刻	弘法大師座像		法船寺
内田地区	彫刻	興教大師座像		法船寺
内田地区	彫刻	大黒天	元禄13年(1700)	法船寺
内田地区	彫刻	大日如来座像		法船寺
内田地区	彫刻	弘法大師座像	寛文7年(1667)	法船寺
内田地区	彫刻	興教大師座像		法船寺
内田地区	彫刻	准胝観音座像		法船寺
内田地区	彫刻	不動明王		法船寺
内田地区	彫刻	毘沙門天		法船寺
内田地区	彫刻	阿弥陀如来		法船寺
内田地区	彫刻	地藏菩薩	寛永2年(1625)	法船寺
内田地区	彫刻	西院河原童子		法船寺
内田地区	絵画	百衣観音座像	明治32年(1899)頃	法船寺
内田地区	絵画	釈迦涅槃図	寛保3年(1743)頃	法船寺
内田地区	絵画	板絵(梅花図ほか)	明治30年(1897)	法船寺
内田地区	その他	五穀杵		法船寺
内田地区	植物・樹木	枝垂れ桜	樹齢約250年	法船寺
内田地区	植物・樹木	銀杏	樹齢約300年	法船寺
内田地区	建造物	横林山桃昌寺		桃昌寺
内田地区	彫刻	不造文珠菩薩坐像	元禄11年(1698)	桃昌寺
内田地区	彫刻	阿弥陀三尊像	享和2年(1802)	桃昌寺
内田地区	絵画	蓮磨大師立像		桃昌寺
内田地区	植物・樹木	しだれ桜		桃昌寺
内田地区	建造物	八幡原八幡社		氏子
内田地区	彫刻	随神		八幡原八幡社
内田地区	その他	太鼓		八幡原八幡社

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
内田地区	石造物	牛伏寺の手水鉢	天保7年(1836)	牛伏寺
内田地区	石造物	牛伏寺の石灯籠	文化3年(1806)	牛伏寺
内田地区	石造物	牛伏寺の石灯籠	文化3年(1806)	牛伏寺
内田地区	石造物	牛伏寺の三界萬霊塔	不明	牛伏寺
内田地区	石造物	牛伏寺の宝篋印塔	正徳6年(1716)	牛伏寺
内田地区	石造物	牛伏寺の地藏菩薩	文久3年(1863)	牛伏寺
内田地区	石造物	牛伏寺の観音	不明	牛伏寺
内田地区	石造物	牛伏寺の供養塔	元文3年(1738)	牛伏寺
内田地区	石造物	牛伏寺の地藏菩薩	寛政7年(1795)	牛伏寺
内田地区	石造物	牛伏寺の如来	不明	牛伏寺
内田地区	石造物	牛伏寺の如意輪観音	宝永9年(1708)	牛伏寺
内田地区	石造物	牛伏寺の地藏菩薩	不明	牛伏寺
内田地区	石造物	牛伏寺の五輪塔	元禄7年(1694)	牛伏寺
内田地区	石造物	牛伏寺の五輪塔	元禄9年(1696)	牛伏寺
内田地区	石造物	牛伏寺の五輪塔	元禄11年(1698)	牛伏寺
内田地区	石造物	牛伏寺の五輪塔	寛文11年(1671)	牛伏寺
内田地区	石造物	牛伏寺の五輪塔	正保2年(1645)	牛伏寺
内田地区	石造物	牛伏寺の五輪塔	寛永21年(1644)	牛伏寺
内田地区	石造物	牛伏寺の五輪塔	天和3年(1683)	牛伏寺
内田地区	石造物	牛伏寺の五輪塔	貞享4年(1687)	牛伏寺
内田地区	石造物	牛伏寺の五輪塔	宝永3年(1706)	牛伏寺
内田地区	石造物	牛伏寺の五輪塔	享保14年(1729)	牛伏寺
内田地区	石造物	牛伏寺の五輪塔	不明	牛伏寺
内田地区	石造物	牛伏寺の五輪塔	宝暦8年(1758)	牛伏寺
内田地区	石造物	牛伏寺の五輪塔	不明	牛伏寺
内田地区	石造物	牛伏寺の五輪塔	寛政元年(1789)	牛伏寺
内田地区	石造物	牛伏寺の五輪塔	天保13年(1842)	牛伏寺
内田地区	石造物	牛伏寺の五輪塔	元治2年(1865)	牛伏寺
内田地区	石造物	牛伏寺の五輪塔	元文4年(1739)	牛伏寺
内田地区	石造物	牛伏寺の五輪塔	宝暦3年(1753)	牛伏寺
内田地区	石造物	牛伏寺の五輪塔	宝暦6年(1756)	牛伏寺
内田地区	石造物	牛伏寺の五輪塔	宝暦12年(1762)	牛伏寺
内田地区	石造物	牛伏寺の五輪塔	安永8年(1779)	牛伏寺
内田地区	石造物	牛伏寺の五輪塔	不明	牛伏寺
内田地区	石造物	牛伏寺の道祖神	不明	牛伏寺
内田地区	彫刻	不造十一面観音及両脇侍立像	平安時代	牛伏寺
内田地区	彫刻	不造釈迦如来及両脇侍像	平安時代	牛伏寺
内田地区	彫刻	不造薬師如来坐像	平安時代	牛伏寺
内田地区	彫刻	不造大威徳明王騎牛像	平安時代	牛伏寺
内田地区	彫刻	不造如意輪観音坐像	平安時代	牛伏寺
内田地区	彫刻	不造尊衣婆坐像	室町時代	牛伏寺
内田地区	彫刻	不造蔵王権現立像	平安時代	牛伏寺
内田地区	建造物	牛伏寺観音堂	正徳2年(1712)	牛伏寺
内田地区	建造物	牛伏寺仁王門	享保11年(1726)	牛伏寺
内田地区	彫刻	男神立像	平安時代	牛伏寺
内田地区	彫刻	女神坐像	平安時代	牛伏寺
内田地区	彫刻	地藏菩薩半跏像	至徳4年(1387)	牛伏寺
内田地区	彫刻	十王像 附 司命司録	室町時代	牛伏寺
内田地区	彫刻	童子坐像 附 子持石	室町時代	牛伏寺
内田地区	彫刻	男神坐像	平安時代	牛伏寺

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
内田地区	石造物	新田の道祖神		第3町会
内田地区	石造物	新田の庚申塔	安政7年(1824)	第3町会
内田地区	石造物	新田の庚申塔		第3町会
内田地区	石造物	六道の太神宮供養塔		第3町会
内田地区	石造物	六道の道標		第3町会
内田地区	石造物	六道の八海山大神		第3町会
内田地区	石造物	六道の三笠山大神		第3町会
内田地区	石造物	六道の太神宮供養塔	明和6年(1769)	第3町会
内田地区	石造物	六道の戸禰大権現	享和3年(1803)	第3町会
内田地区	石造物	地藏庵の地藏菩薩	明和7年(1770)	地藏庵
内田地区	行事	横山部落の御幣祭り(内田のおんべ祭り)		横山部落
内田地区	史跡	松山遺跡	縄文時代	
内田地区	史跡	横山城遺跡	弥生時代	
内田地区	史跡	横山城址	中世	
内田地区	石造物	上真田の道祖神		第4町会上真田
内田地区	石造物	下真田の道祖神		下真田
内田地区	石造物	下真田の庚申塔	安政7年(1860)	下真田社宮司
内田地区	石造物	社宮司の戸隠大権現供養塔	文化13年(1816)	下真田社宮司
内田地区	石造物	社宮司の白雲山大権現塔	安永6年(1776)	下真田社宮司
内田地区	石造物	社宮司の太神宮・秋葉山供養塔	明和元年(1764)	下真田社宮司
内田地区	石造物	横山の道祖神	享和元年(1801)	横山村中
内田地区	石造物	横山氏の多宝塔		横山同姓
内田地区	石造物	下真田の馬頭観音	安政6年(1859)	横山城・個人(氏)
内田地区	石造物	真田城址	明和9年(1772)	第4町会
内田地区	行事	北花見講中御幣祭り(内田のおんべ祭り)		北花見講中
内田地区	植物・樹木	常楽寺のコウヤマキ		常楽寺
内田地区	建造物	清水山常楽寺	樹齡推定300年	常楽寺
内田地区	建造物	成山常楽寺		常楽寺
内田地区	彫刻	釈迦如来坐像	享和2年(1802)頃	常楽寺
内田地区	彫刻	普賢菩薩		常楽寺
内田地区	彫刻	文殊菩薩		常楽寺
内田地区	絵画	五百羅漢図	文久2年(1862)	常楽寺
内田地区	絵画	涅槃図		常楽寺
内田地区	絵画	二十五菩薩来迎図	明治20年(1887)新調	常楽寺
内田地区	彫刻	不動明王と二童子(狛狛羅童子立像、制陀迦童子立像)		常楽寺
内田地区	彫刻	十王像	貞享2年(1686)	常楽寺
内田地区	彫刻	地藏菩薩(2体)	貞享2年(1686)元禄17年(1704)	常楽寺
内田地区	植物・樹木	常楽寺のしだれ桜		常楽寺
内田地区	建造物	北河原堂	昭和50年代	個人
内田地区	彫刻	本尊薬師如来		北河原堂
内田地区	彫刻	不動明王		北河原堂
内田地区	彫刻	弘法大師坐像		北河原堂
内田地区	彫刻	釈迦誕生仏		北河原堂
内田地区	彫刻	大日如来坐像		北河原堂
内田地区	彫刻	弁財天像		北河原堂
内田地区	彫刻	観世音菩薩像		北河原堂

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
内田地区	石造物	釈迦堂原の如意輪観音	宝暦2年(1752)	第2町会
内田地区	石造物	釈迦堂原の妙義大権現供養	安永6年(1776)	第2町会
内田地区	石造物	釈迦堂原の念仏供養塔		第2町会
内田地区	石造物	釈迦堂原の道標		第2町会
内田地区	石造物	釈迦堂原の三界万霊塔		第2町会
内田地区	石造物	釈迦堂原の念仏供養塔	寛政4年(1792)	第2町会三庚申
内田地区	石造物	釈迦堂原の三界万霊塔		第2町会三庚申
内田地区	石造物	浅田城址の馬頭観音	浅田	浅田
内田地区	石造物	浅田城址の馬頭観音	浅田	浅田
内田地区	石造物	釈迦堂原の三界万霊塔	枅形	枅形
内田地区	石造物	釈迦堂原の三界万霊塔	枅形	枅形
内田地区	建造物	馬場家住宅	江戸時代	松本市、個人
内田地区	建造物	馬場家住宅旧灰部屋		松本市
内田地区	植物・樹木	内田(馬場家)のケヤキ		個人
内田地区	建造物	クネノ内八幡宮		氏子
内田地区	彫刻	随神		クネノ内八幡宮
内田地区	その他	奉納額		クネノ内八幡宮
内田地区	その他	掛額		クネノ内八幡宮
内田地区	その他	太鼓		クネノ内八幡宮
内田地区	その他	神籠		クネノ内八幡宮
内田地区	その他	大抱演習弾		クネノ内八幡宮
内田地区	行事	内田第三町会八日念仏		第三町会八日念仏
内田地区	伝統技術	クネノ内八幡宮獅子舞神楽(民俗芸能)		クネノ内八幡宮獅子舞神楽
内田地区	史跡	エノ穴遺跡	縄文・弥生・平安・近世	
内田地区	史跡	一ツ塚遺跡	縄文・古墳・平安～近世	
内田地区	史跡	くねの内遺跡	縄文時代	
内田地区	史跡	八幡原遺跡	縄文時代	
内田地区	石造物	新田の津鳥天王宮	天保11年(1840)	第3町会
内田地区	石造物	新田の秋葉大権現	文久2年(1862)	第3町会
内田地区	石造物	新田の太神宮	天保6年(1835)	第3町会
内田地区	石造物	新田の道祖神		第3町会
内田地区	石造物	新田の天満宮		第3町会
内田地区	石造物	新田の馬頭観音		第3町会
内田地区	石造物	新田の馬頭観音		第3町会
内田地区	石造物	新田の馬頭観音		第3町会
内田地区	石造物	新田の馬頭観音		第3町会
内田地区	石造物	新田の庚申塔	享和3年(1803)	第3町会
内田地区	石造物	新田の馬頭観音	弘化4年(1847)	第3町会
内田地区	石造物	新田の馬頭観音	嘉永6年(1852)	第3町会
内田地区	石造物	新田の馬頭観音	安政7年(1860)	第3町会
内田地区	石造物	新田の馬頭観音	文政9年(1826)	第3町会
内田地区	石造物	新田の念仏供養塔	天明3年(1783)	第3町会
内田地区	石造物	新田の念仏供養塔	寛政8年(1796)	第3町会
内田地区	石造物	新田の二十三夜塔	文政11年(1828)	第3町会
内田地区	石造物	新田の念仏供養塔	文化14年(1817)	第3町会
内田地区	石造物	新田の馬頭観音	安永6年(1779)	第3町会
内田地区	石造物	新田の地藏菩薩		第3町会
内田地区	石造物	新田の如意輪観音		第3町会
内田地区	石造物	新田の六臂青面金剛	享保4年(1719)	第3町会
内田地区	石造物	新田の道祖神		第3町会

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
内田地区	石造物	地藏菩薩像		北河原堂
内田地区	史跡	砂原遺跡	縄文・中世	
内田地区	史跡	内田花見遺跡	弥生時代	
内田地区	植物・樹木	榎	樹齢約300年	個人
内田地区	石造物	常楽寺の無縫塔	慶応2年(1866)	常楽寺
内田地区	石造物	常楽寺の無縫塔	慶応2年(1866)	常楽寺
内田地区	石造物	常楽寺の無縫塔	弘化3年(1846)	常楽寺
内田地区	石造物	常楽寺の無縫塔	天明6年(1786)	常楽寺
内田地区	石造物	常楽寺の無縫塔	天保8年(1837)	常楽寺
内田地区	石造物	常楽寺の無縫塔	宝暦9年(1759)	常楽寺
内田地区	石造物	常楽寺の五輪塔	元禄8年(1695)	常楽寺
内田地区	石造物	常楽寺の五輪塔		常楽寺
内田地区	石造物	常楽寺の地藏菩薩	寛保3年(1743)	常楽寺
内田地区	石造物	常楽寺の五輪梵字塔	延宝3年(1675)	常楽寺
内田地区	石造物	常楽寺の三界万霊塔		常楽寺
内田地区	石造物	常楽寺の念仏供養塔	文政3年(1820)	常楽寺
内田地区	石造物	常楽寺の如意輪観音		常楽寺
内田地区	石造物	常楽寺の六地藏	文化9年(1812)	常楽寺
内田地区	石造物	常楽寺の六地藏	文化9年(1812)	常楽寺
内田地区	石造物	常楽寺の六地藏	文化9年(1812)	常楽寺
内田地区	石造物	常楽寺の六地藏	文化9年(1812)	常楽寺
内田地区	石造物	常楽寺の六地藏	文化9年(1812)	常楽寺
内田地区	石造物	常楽寺の不動明王		常楽寺
内田地区	石造物	北花見の道祖神		北花見村
内田地区	石造物	北花見の道祖神		北花見村
内田地区	石造物	北花見の道祖神		北花見村
内田地区	石造物	丸山氏の摩訶菩薩		寺村・個人(氏)
内田地区	石造物	札の辻の五輪碑		札の辻
内田地区	石造物	札の辻の念仏供養塔		札の辻
内田地区	石造物	札の辻の天満宮	元文2年(1737)	札の辻
内田地区	石造物	北河原堂の供養塔	嘉永5年(1852)	北河原堂
内田地区	石造物	北河原堂の地蔵菩薩		北河原堂
内田地区	石造物	北河原堂の光明眞言供養塔	正徳4年(1714)	北河原堂
内田地区	石造物	北河原堂の六臂青面金剛	元禄3年(1692)	北河原堂
内田地区	石造物	北河原堂の六臂青面金剛	元禄5年(1692)	北河原堂
内田地区	石造物	寺村・清水の太神宮		寺村・清水講中
内田地区	石造物	寺村・清水の阿達突智神		寺村・清水講中
内田地区	石造物	寺村・清水の道祖神		寺村・清水講中
内田地区	石造物	寺村・清水の石灯籠		寺村・清水講中
内田地区	石造物	寺村・清水の庚申塔	万延元年(1860)	寺村・清水講中
内田地区	石造物	薬師堂の馬頭観音	慶応2年(1866)	北河原薬師堂
内田地区	石造物	薬師堂の馬頭観音	文久元年(1861)	北河原薬師堂
内田地区	石造物	塩沢橋の二十三夜塔	万延元年(1860)	寺村・清水講中
内田地区	石造物	塩沢橋の二十三夜塔	宝暦12年(1762)	花見村
内田地区	石造物	塩沢橋の庚申塔	宝暦13年(1763)	花見村
内田地区	石造物	寺村・清水の道祖神		寺村・清水講中
内田地区	石造物	横山氏の二千部法華塔	明和6年(1769)	個人
内田地区	石造物	横山氏の光明眞言秘法塔	宝暦12年(1762)	個人
内田地区	行事	荒井御幣祭(内田のおんべ祭り)		荒井常会

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
内田地区	建造物	大神社		氏子(氏子総代:小島繁一良)
内田地区	彫刻	随神像		大神社
内田地区	彫刻	神像		大神社
内田地区	絵画	額	昭和10年(1935)	大神社
内田地区	絵画	奉納額	大正元年(1912)	大神社
内田地区	絵画	掛軸	昭和11年(1936)	大神社
内田地区	彫刻	神額		大神社
内田地区	文書	書額		大神社
内田地区	彫刻	従軍出征奉納額	明治37年(1904)	大神社
内田地区	その他	木鼓		大神社
内田地区	本跡	神鏡		大神社
内田地区	その他	御神宝、玉璽		大神社
内田地区	その他	紫髻	昭和10年頃(1935)	大神社
内田地区	その他	菅簪		大神社
内田地区	その他	楯		大神社
内田地区	その他	矢		大神社
内田地区	その他	神刀		大神社
内田地区	その他	太刀	昭和10年(1935)頃	大神社
内田地区	その他	鍔(裨旗付)		大神社
内田地区	その他	薙刀		大神社
内田地区	その他	参詣用鈴	昭和50年代(1975)	大神社
内田地区	植物・樹木	大神社杉の森		大神社
内田地区	文書	お庚申さま(民間信仰)		倉村・宮ノ下・上宮ノ下お庚申
内田地区	史跡	藪沢池遺跡	縄文・中世	
内田地区	史跡	雨堀遺跡	縄文時代	
内田地区	史跡	五斗林遺跡	縄文時代	
内田地区	史跡	三郎城遺跡(三郎城址)	縄文時代	
内田地区	史跡	欠ノ湯遺跡	平安時代	
内田地区	史跡	八間底者城址	中世	
内田地区	石造物	蔵村の道祖神		蔵村
内田地区	石造物	蔵村の秋葉大神		蔵村
内田地区	石造物	宮ノ下の道祖神		宮ノ下中
内田地区	石造物	荒井の道祖神		上宮ノ下中
内田地区	石造物	荒井の太日如来碑		荒井村中
内田地区	石造物	荒井の馬頭観音		荒井村中
内田地区	石造物	荒井の馬頭観音		荒井村中
内田地区	石造物	荒井の馬頭観音		荒井村中
内田地区	石造物	荒井の馬頭観音		荒井村中
内田地区	石造物	荒井の馬頭観音		荒井村中
内田地区	石造物	高礼場跡		荒井村中
内田地区	地名	古御堂	江戸時代	

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
本郷地区	民俗資料	幟 一の瀬	大正5年(1916)	
本郷地区	民俗資料	幟 本村	大正5年(1916)	
本郷地区	民俗資料	幟 小日向	明治33年(1900) 平成16年(2004)	
本郷地区	民俗資料	秋宮の幟(10本)		御射神社秋宮
本郷地区	民俗資料	底抜け柄杓		御射神社秋宮
本郷地区	文書	御射大明神社関係棟札(14枚)	江戸～昭和	御射神社秋宮
本郷地区	文書	棟札 虚空蔵宮関係(7枚)	江戸時代	御射神社秋宮
本郷地区	文書	棟札 子安社関係(5枚)	江戸～明治	御射神社秋宮
本郷地区	文書	棟札 鎮守社関係(3枚)	江戸～明治	御射神社秋宮
本郷地区	文書	棟札 稲荷社関係(3枚)	江戸～明治	御射神社秋宮
本郷地区	文書	棟札 一の瀬山神社(4枚)	江戸時代	御射神社秋宮
本郷地区	文書	棟札 一の瀬・水口社関係(3枚)	江戸時代	御射神社秋宮
本郷地区	文書	棟札 淀の入・山神社(1枚)	文政10年(1827)	御射神社秋宮
本郷地区	文書	棟札 三才山・古峯神社(1枚)	明治12年(1879)	御射神社秋宮
本郷地区	文書	棟札 稲倉小口神社(9枚)	江戸～明治	
本郷地区	文書	棟札 稲倉若宮(10枚)		
本郷地区	行事	お十夜念仏		
本郷地区	その他	三稲字校新築記念歌		
本郷地区	史跡	袴越遺跡	縄文	
本郷地区	史跡	中の沢遺跡	弥生・平安	
本郷地区	史跡	一ノ瀬遺跡	縄文	
本郷地区	史跡	小寺尾遺跡	縄文	
本郷地区	史跡	芦の田地遺跡	縄文・弥生・平安	
本郷地区	史跡	番場遺跡	平安	
本郷地区	史跡	郷工ヶ入遺跡	平安	
本郷地区	史跡	秋宮前遺跡	縄文	
本郷地区	史跡	三才山本村遺跡	縄文	
本郷地区	史跡	新田原遺跡	古墳	
本郷地区	史跡	本郷高松遺跡	縄文・平安	
本郷地区	史跡	赤羽氏館址	中世	
本郷地区	史跡	三才山岩址	中世	
本郷地区	史跡	洪池遺跡	縄文	
本郷地区	跡地	武石峠茶屋跡	江戸～大正	
本郷地区	跡地	武石峠風穴跡	慶応元年(1865)	
本郷地区	跡地	鞆音堂跡	江戸	
本郷地区	跡地	郷倉跡	江戸	
本郷地区	文書	美ヶ原遺蹟記	昭和4年(1929)	
本郷地区	跡地	思い出の丘 美ヶ原モーターロード跡	昭和39年(1964)	
本郷地区	跡地	浅間温泉スキー場跡	昭和44年(1969)	
本郷地区	跡地	50連隊雪中山地強行軍実施跡	大正4年(1915)	
本郷地区	建造物	国民宿舎美鈴荘跡レイクサイド跡	昭和35年(1960)	
本郷地区	跡地	浅間温泉国際スケートセンター跡	昭和45年(1970)	
本郷地区	跡地	明治百年館跡	昭和40年(1965)	
本郷地区	跡地	鉦山跡(丸山沢鉦山)	元禄8年(1695)	
本郷地区	跡地	大屋敷館跡	中世	
本郷地区	街道	美ヶ原スカイライン	昭和	
本郷地区	街道	林道舟ヶ沢線		
本郷地区	街道	三才山峠		
本郷地区	街道	三才山トンネル	昭和51年(1976)	
本郷地区	街道	蝶ヶ原林道	昭和44年(1969)	
本郷地区	植物・樹木	御射神社秋宮のスクギ(御神木)2本		御射神社

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
本郷地区	地形	えぼし岩奥宮		
本郷地区	建造物	のっこば奥宮		
本郷地区	建造物	一ノ瀬山の神	江戸時代以前	
本郷地区	建造物	御射神社秋宮		
本郷地区	建造物	鎮守社子安宮	文化9年(1812) 修復	
本郷地区	建造物	御射大神宮	享保19年(1734) 寛文8年(1668) 再興	
本郷地区	建造物	虚空蔵宮		
本郷地区	建造物	山の神		
本郷地区	建造物	辨財天・奥宮		
本郷地区	建造物	辨財天の鳥居		
本郷地区	建造物	小日向の稲荷社	小日向地区	
本郷地区	行事	御荒神様	個人	
本郷地区	行事	祭神 金山大明神	個人	
本郷地区	行事	祭神 大天白姫之権現	個人	
本郷地区	行事	弁天様 水神様	個人	
本郷地区	行事	お稲荷様祭神正一位天白稲荷大明神	個人	
本郷地区	行事	竜神様	個人	
本郷地区	行事	祀殿 お稲荷様	個人	
本郷地区	行事	御稲荷様祭神正一位稲荷社大明神	個人	
本郷地区	行事	山の神	個人	
本郷地区	行事	祝殿 祭神稲荷大明神	個人	
本郷地区	行事	金山様 祭神金山大明神	個人	
本郷地区	行事	祭神山の神	個人	
本郷地区	行事	お稲荷様祭神正一位稲荷大明神	個人	
本郷地区	行事	金忌羅様祭神金忌羅大権現	個人	
本郷地区	行事	祭神山の神	個人	
本郷地区	行事	祝殿 祭神日尾大権現	個人	
本郷地区	行事	荒神様・社宮同様	個人	
本郷地区	行事	祝殿祭神正一位稲荷大明神	個人	
本郷地区	行事	お稲荷様祭神稲荷大明神	個人	
本郷地区	行事	三峯様	個人	
本郷地区	行事	三先荒神・三宝荒神・山の神	個人	
本郷地区	建造物	一ノ瀬阿弥陀堂	元禄11年(1698)	
本郷地区	建造物	葉師堂		
本郷地区	彫刻	木造葉師三尊像及び十二神聖像	江戸時代	小日向地区
本郷地区	彫刻	木造不動明王立像・二童子付	江戸時代	小日向地区
本郷地区	彫刻	木造弘法大師坐像	江戸時代	小日向地区
本郷地区	彫刻	木造天部立像	江戸時代	小日向地区
本郷地区	彫刻	神像(2体)	江戸時代	小日向地区
本郷地区	その他	銅製開口	元禄9年(1696)	小日向地区
本郷地区	彫刻	木造阿弥陀如来立像	江戸時代	一之瀬区
本郷地区	彫刻	木造阿弥陀如来坐像	江戸時代	一之瀬区
本郷地区	彫刻	木造聖観音立像	江戸時代	
本郷地区	記念碑	田山花袋(いしわかたけ) 歌碑	昭和26年(1951)	
本郷地区	記念碑	三川祐華(いしかわはんげ) 句碑		
本郷地区	建造物	全国国文学徒英霊慰霊塔		
本郷地区	記念碑	金刺盛久(かなさしもりひさ) 歌碑	平成6年(1994)	
本郷地区	石造物	一ノ瀬東道祖神	寛政7年(1795)	
本郷地区	記念碑	萩原井泉水句碑	昭和50年(1975)	

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
本郷地区	植物・樹木	御射神社秋宮のヒノキ		御射神社
本郷地区	植物・樹木	御射神社秋宮のコブシ		御射神社
本郷地区	用水	美鈴湖(声の田地)	慶長13年(1608)	
本郷地区	景観	鳥帽子岩が見えるビューポイント		
本郷地区	植物・樹木	レンゲつつし群生		
本郷地区	地形	梅越山		
本郷地区	街道・地形	武石峠と武石山		
本郷地区	その他	トレッキングコース戸谷峰コース		
本郷地区	その他	トレッキングコース鳥帽子岩コース		
本郷地区	用水	洗池		
本郷地区	その他	桜、紅葉 ロード		
本郷地区	建造物	美鈴湖スケートリンク	昭和18年(1943)	
本郷地区	植物・樹木	深志の森		
本郷地区	その他	美鈴湖もりの国		
本郷地区	地形	穴人坊		
本郷地区	地形	戸谷峰		
本郷地区	地形	本郷山		
本郷地区	用水	番場地		
本郷地区	用水	瓢箪池(三つ子坂池)	弘化2年(1845) (元禄11年(1698) 初見)	
本郷地区	河川	女鳥羽川		
本郷地区	河川	女鳥羽川の上流(景観)		
本郷地区	建造物	善研橋		
本郷地区	建造物	隈山橋		
本郷地区	建造物	小日向橋		
本郷地区	建造物	品庄橋		
本郷地区	建造物	石取橋		
本郷地区	建造物	本沢橋		
本郷地区	建造物	三才山橋		
本郷地区	建造物	野間沢橋		
本郷地区	建造物	帯所橋		
本郷地区	建造物	油戸橋		
本郷地区	建造物	出倉橋		
本郷地区	建造物	山ノ神橋		
本郷地区	建造物	船久保橋		
本郷地区	建造物	向山橋		
本郷地区	建造物	一の瀬橋		
本郷地区	建造物	滝の入橋		
本郷地区	建造物	小日向橋		
本郷地区	河川	南沢		
本郷地区	河川	丸山沢		
本郷地区	河川	白水沢		
本郷地区	河川	クチワリ沢		
本郷地区	河川	馬ノ瀬沢		
本郷地区	河川	本沢		
本郷地区	河川	野間沢		
本郷地区	河川	品庄沢		
本郷地区	河川	ゴマアヲレ沢		
本郷地区	河川	熊ノ沢		
本郷地区	河川	権理沢		
本郷地区	河川	北地蔵沢		
本郷地区	河川	熊倉沢		

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
本郷地区	河川	中ノ沢		
本郷地区	河川	三ツ又		
本郷地区	河川	舟ヶ沢		
本郷地区	建造物	カフェ ピラータ	昭和	個人
本郷地区	その他	コミュニティあしのだ(釣堀)		
本郷地区	その他	マレットゴルフ場		
本郷地区	その他	マウンテンバイクトレイル		
本郷地区	建造物	一ノ瀬公民館		
本郷地区	建造物	本村公会所		
本郷地区	建造物	三才山公民館		個人
本郷地区	建造物	三才山公民館小日向分館		
本郷地区	建造物	三才山出雲ドライブイン		
本郷地区	用水	三才山本村簡易水道		個人
本郷地区	建造物	天理教三才山布教所		
本郷地区	その他	円原の墓地		
本郷地区	石造物	一の瀬の馬頭観音	明和9年(1772)	三才山
本郷地区	石造物	一の瀬の西宮大明神		一の瀬
本郷地区	石造物	一の瀬の弘法大師		一の瀬
本郷地区	石造物	一の瀬阿彌陀堂の大日如来・馬頭観音	寛永2年(1849)	一の瀬
本郷地区	石造物	一の瀬阿彌陀堂の念仏供養塔	天保13年(1842)	一の瀬
本郷地区	石造物	一の瀬阿彌陀堂の馬頭観音	天明9年(1789)	一の瀬
本郷地区	石造物	一の瀬阿彌陀堂の馬頭観音	文化元年(1804)	一の瀬
本郷地区	石造物	一の瀬阿彌陀堂の大日如来	天保9年(1838)	一の瀬
本郷地区	石造物	一の瀬阿彌陀堂の大日如来	文政7年(1824)	一の瀬
本郷地区	石造物	一の瀬阿彌陀堂の庚申供養塔	天保13年(1842)	一の瀬
本郷地区	石造物	一の瀬阿彌陀堂の念仏供養塔		一の瀬
本郷地区	石造物	一の瀬阿彌陀堂の馬頭観音	寛政10年(1798)	一の瀬
本郷地区	石造物	一の瀬西の道祖神	寛政7年(1795)	
本郷地区	石造物	小寺尾の馬頭観音	寛政12年(1800)	小寺尾
本郷地区	石造物	小寺尾の大日如来馬頭観音	寛政9年(1812)	小寺尾
本郷地区	石造物	小寺尾の大日如来	文化元年(1804)	小寺尾
本郷地区	石造物	限り山北の大日如来	文化2年(1805)	三才山
本郷地区	石造物	限り山北の大日如来		三才山
本郷地区	石造物	瀧沢氏の三界万霊塔	天明8年(1788)	小寺尾
本郷地区	石造物	本村東の道祖神	寛政5年(1793)	個人
本郷地区	石造物	本村東の庚申文字供養塔		本村
本郷地区	石造物	本村東の念仏供養塔	元禄7年(1694)	本村
本郷地区	石造物	本村東の念仏供養塔	延享4年(1747)	本村
本郷地区	石造物	本村東の念仏供養塔	天明8年(1788)	本村
本郷地区	石造物	本村辻の大日如来・馬頭観音	寛永2年(1849)	本村・小日向
本郷地区	石造物	本村辻の庚申供養塔	宝暦8年(1758)	本村・小日向
本郷地区	石造物	新田原の馬頭観音	文化2年(1805)	三才山
本郷地区	石造物	本村西の道祖神	寛政7年(1795)	本村
本郷地区	石造物	本村西の六臂書面金剛	享保17年(1732)	本村
本郷地区	石造物	本村西の地藏菩薩		本村
本郷地区	石造物	本村西の庚申塔	元文5年(1740)	本村
本郷地区	石造物	本村西の庚申塔	寛政12年(1800)	本村
本郷地区	石造物	本村西の念仏供養塔	天明8年(1788)	本村
本郷地区	石造物	本村西の馬頭観音	天明8年(1788)	本村
本郷地区	石造物	本村西の馬頭観音	文化13年(1816)	本村
本郷地区	石造物	円原基地の馬頭観音	文化10年(1813)	個人

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
本郷地区	石造物	円原墓地の馬頭観音	天保9年(1838)	個人
本郷地区	石造物	円原墓地の大日如来	安政2年(1855)	
本郷地区	石造物	円原墓地の大日如来	文政2年(1819)	
本郷地区	石造物	円原墓地の馬頭観音	天明3年(1783)	個人
本郷地区	石造物	円原墓地の馬頭観音	天保4年(1833)	個人
本郷地区	石造物	円原墓地の馬頭観音	天明8年(1788)	個人
本郷地区	石造物	円原墓地の馬頭観音	宝暦元年(1751)	
本郷地区	石造物	円原墓地の馬頭観音	寛政3年(1791)	
本郷地区	石造物	円原墓地の大日如来・馬頭観音	文政4年(1821)	
本郷地区	石造物	円原墓地の馬頭観音	文久4年(1864)	
本郷地区	石造物	円原墓地の馬頭観音	文政12年(1829)	
本郷地区	石造物	円原墓地の大日如来	文政6年(1823)	
本郷地区	石造物	円原墓地の大日如来	文化元年(1804)	個人
本郷地区	石造物	円原墓地の丑馬頭観音	享和2年(1802)	個人
本郷地区	石造物	円原墓地の馬頭観音	嘉永6年(1853)	個人
本郷地区	石造物	円原墓地の大日如来	天保13年(1842)	
本郷地区	石造物	小日向の道祖神	天明5年(1785)	小日向
本郷地区	石造物	小日向の道祖神	文化10年(1813)	小日向
本郷地区	石造物	小日向薬師堂の念仏供養塔	享保16年(1731)	小日向
本郷地区	石造物	小日向薬師堂の光明眞言供養塔	天保15年(1844)	小日向
本郷地区	石造物	小日向薬師堂の念仏供養塔	寛政7年(1795)	小日向
本郷地区	石造物	小日向薬師堂の康申塔	寛政7年(1795)	小日向
本郷地区	石造物	小日向薬師堂の青面金剛		小日向
本郷地区	石造物	小日向薬師堂の三界万霊塔		小日向
本郷地区	石造物	小日向薬師堂の馬頭観音	明和4年(1767)	小日向
本郷地区	石造物	小日向薬師堂の馬頭観音	慶応元年(1865)	小日向
本郷地区	石造物	小日向薬師堂の大日如来・馬頭観音	享保14年(1729)	小日向
本郷地区	石造物	小日向薬師堂の念仏供養塔		小日向
本郷地区	石造物	小日向薬師堂の大日如来	天保8年(1837)	小日向
本郷地区	石造物	小日向薬師堂の観音	寛政元年(1789)	小日向
本郷地区	石造物	小日向薬師堂の大日如来	文化3年(1806)	小日向
本郷地区	石造物	小日向薬師堂の馬頭観音	明和4年(1767)	小日向
本郷地区	石造物	小日向薬師堂の馬頭観音	慶応2年(1866)	小日向
本郷地区	石造物	小日向薬師堂の大日如来	慶応3年(1867)	小日向
本郷地区	石造物	小日向薬師堂の馬頭観音	天保4年(1833)	小日向
本郷地区	石造物	小日向薬師堂の大日如来	慶応4年(1868)	小日向
本郷地区	石造物	武石峠の地藏		
本郷地区	その他	武石峠の道標		
本郷地区	記念碑	飯沼源一郎 武石峰風穴記念碑		
本郷地区	記念碑	林道美ケ原編附設改良舗装記念碑	昭和48年(1973)	
本郷地区	記念碑	三浦忠夫先生頌徳碑	昭和62年(1987)	
本郷地区	記念碑	さくらとみみじを祀る会記念碑	平成18年(2006)	
本郷地区	記念碑	国民スケート大会行啓記念碑	昭和45年(1970)	
本郷地区	記念碑	美鈴湖行啓記念碑		
本郷地区	その他	美鈴湖へらぶらな釣り大会	昭和45年(1970)	
本郷地区	その他	唄 美鈴湖エレジー	昭和	
本郷地区	その他	唄 美鈴湖百年節音頭	昭和	
本郷地区	その他	唄 美ヶ原の唄	昭和	
本郷地区	その他	美鈴湖納涼祭	昭和	
本郷地区	民俗資料	小日向神楽 矢車		
本郷地区	その他	運動会	江戸	
本郷地区	その他	文化祭		

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
本郷地区	その他	ふれあい会食会		
本郷地区	行事	夏まつり		
本郷地区	行事	三九郎		
本郷地区	行事	秋宮祭り		
本郷地区	行事	初午		
本郷地区	行事	初午 お稲荷様		
本郷地区	行事	水神様祭神水速女命(みずはめのみこ七)		
本郷地区	行事	お康申		
本郷地区	行事	道祖神 オンベ		
本郷地区	行事	お十夜		
本郷地区	行事	庚申講		
本郷地区	行事	念仏講		
本郷地区	行事	戸隠講		
本郷地区	行事	稲荷信仰		
本郷地区	行事	大黒様		
本郷地区	行事	山の神講		
本郷地区	伝説	神に祀られた大狸の話		
本郷地区	伝説	芦の田地と「でいらぼっちゃ」		
本郷地区	伝説	芦の田地の赤い手		
本郷地区	伝説	高松の埋蔵金		
本郷地区	伝説	せん姥骨(大姥骨)	天明元年~天明8年(1781~1788)	
本郷地区	建造物	水口神社		
本郷地区	文書	水口神社関係棟札	江戸~明治	
本郷地区	植物・樹木	水口神社の桜		
本郷地区	建造物	秋山家初殿 正一位稲荷大明神	江戸時代	同姓
本郷地区	建造物	久保田氏祝殿 お稲荷様		個人
本郷地区	建造物	柳澤家初殿 三峰様		個人
本郷地区	建造物	松山家初殿 正一位稲荷大明神	江戸時代末期	個人
本郷地区	建造物	松山家初殿 刀利帝釈天一座(火の神)、若宮八幡大宮様	江戸時代末期	個人
本郷地区	建造物	久保田家屋敷神 水神様	明治	個人
本郷地区	行事	正一位稲荷大明神(祝い殿)		個人
本郷地区	行事	稲荷大明神(祝い殿)		個人
本郷地区	行事	荒神様		個人
本郷地区	行事	正一位稲荷大明神	(幟:文政12年(1829))	個人
本郷地区	行事	稲荷大明神(祝い殿)		個人
本郷地区	行事	八幡大菩薩刀莉(祝い殿)		個人
本郷地区	行事	水先稲荷大明神 開眼稲荷大明神(祝い殿)		個人
本郷地区	行事	正一位稲荷大明神(祝い殿)		個人
本郷地区	行事	正一位稲荷大明神(祝い殿)		個人
本郷地区	行事	正一位稲荷大明神(祝い殿)		個人
本郷地区	行事	正一位稲荷大明神(祝い殿)		個人
本郷地区	行事	三峯様(祝い殿)		個人
本郷地区	行事	おいなり様 水神様 金山大明神(祝い殿)		個人
本郷地区	行事	おいなり様 正一位稲荷大明神(おいなり様)		個人
本郷地区	行事	正一位稲荷大明神(祝い殿)		個人

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
本郷地区	石造物	高井の地藏菩薩		稲倉
本郷地区	石造物	高井の廻国供養塔		稲倉
本郷地区	石造物	高井の湯殿水供養像(金剛界大日如来)	享保6年(1721)	個人
本郷地区	石造物	稲倉東の薬師如来	安政	稲倉
本郷地区	石造物	稲倉東の道祖神	寛政10年(1798)	稲倉
本郷地区	石造物	稲倉東の道祖神		稲倉
本郷地区	石造物	水口神社の石灯籠		稲倉
本郷地区	石造物	水口神社の石灯籠		稲倉
本郷地区	石造物	稲倉峠口の道標		稲倉
本郷地区	石造物	稲倉峠口の道祖神		稲倉
本郷地区	石造物	稲倉町の庚申塔	宝暦6年(1756)	稲倉
本郷地区	石造物	林氏墓地の地藏菩薩		個人
本郷地区	石造物	林氏墓地の如意輪観音	安政3年(1856)	個人
本郷地区	石造物	林氏墓地の地藏菩薩		個人
本郷地区	石造物	林氏墓地の伽藍塔		個人
本郷地区	石造物	町尻墓地の馬頭観音	天保14年(1843)	稲倉
本郷地区	石造物	町尻墓地の馬頭観音	元治2年(1865)	稲倉
本郷地区	石造物	町尻墓地の馬頭観音	慶応3年(1867)	稲倉
本郷地区	石造物	町尻墓地の馬頭観音	文政9年(1826)	稲倉
本郷地区	石造物	町尻墓地の増沢久次郎翁筆塚	天保8年(1837)	個人
本郷地区	石造物	上道の道祖神	享保21年(1736)	稲倉
本郷地区	石造物	上道の念仏供養塔	享保3年(1718)	稲倉
本郷地区	石造物	上道の地藏菩薩		稲倉
本郷地区	石造物	上道の御巖大神	慶応元年(1865)	稲倉
本郷地区	石造物	上道の増沢助右エ門翁筆塚	安政4年(1857)	稲倉
本郷地区	石造物	上道の石燈籠	文政2年(1819)	稲倉
本郷地区	石造物	広田寺別院の六地藏		広田寺別院
本郷地区	石造物	広田寺別院の六地藏		広田寺別院
本郷地区	石造物	広田寺別院の六地藏		広田寺別院
本郷地区	石造物	広田寺別院の六地藏		広田寺別院
本郷地区	石造物	馬頭眞霊・馬長眞霊の供養塔		個人
本郷地区	建造物	木戸岡家 井戸の守神 お水神様	明治5年(1872)	個人
本郷地区	石造物	お地藏様(権現沢に行く道)	享保2年(1717)	個人
本郷地区	石造物	馬頭観音(2体)	明治5年(1872)	個人
本郷地区	石造物	双体像・道祖神(久保田氏お稻荷様横)		個人
本郷地区	石造物	水の尾の水神様	天保12年(1841)	個人
本郷地区	石造物	馬頭観音7体(稲倉峠入り左石垣上)		稲倉町会
本郷地区	石造物	権現山の石尊大権現	慶応4年(1868)	
本郷地区	景観	稲倉町 金市道の五垣・石積(石垣文化)		
本郷地区	石造物	墓地の墓石(稲倉町会共同お墓の石塔群)		
本郷地区	石造物	稲倉和手 大口堰揚入口の水神様		稲倉
本郷地区	建造物	稲倉大橋	昭和	国
本郷地区	建造物	運台橋	昭和	個人
本郷地区	その他	稲倉の水田(稲作、米作り)	平安～	
本郷地区	街道	市道(旧村道三才山線)	明治	松本市
本郷地区	街道	国道254号線	昭和	国
本郷地区	湧水	清水(木戸岡家生活用水)	江戸～	個人
本郷地区	湧水	井戸小屋、水だめ所井戸		個人
本郷地区	湧水	出水(松山家管理)	昭和	個人

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
本郷地区	行事	正一位稲荷大明神(祝い殿)		個人
本郷地区	跡地	品庄山の神社	延宝9年(1681)初見	
本郷地区	跡地	ばちが坂山の神社	明治3年(1870)	稲倉町会
本郷地区	石造物	水口神社 浦奥の石造祠		個人
本郷地区	その他	町の観音堂	大正2年(1913)	稲倉水口神社
本郷地区	建造物	高井の観音堂	寛政8年(1796)	
本郷地区	文書	高井観音堂棟札 1枚	寛政8年(1796)	
本郷地区	建造物	広田寺別院	昭和	
本郷地区	彫刻	木造聖観音立像	江戸	個人
本郷地区	彫刻	木造准胝観音立像	江戸	個人
本郷地区	彫刻	木造聖観音坐像	江戸	
本郷地区	記念碑	忠魂碑	昭和55年(1980)	稲倉町会
本郷地区	石造物	高井の八幡宮	享保9年(1724)	
本郷地区	石造物	上道の武水別神社八幡宮		稲倉町会
本郷地区	石造物	上道の鬮守神		稲倉町会
本郷地区	石造物	石灯籠		個人
本郷地区	史跡	えげ遺跡	縄文	
本郷地区	史跡	稲倉鎮守遺跡	縄文	
本郷地区	史跡	稲倉和田遺跡	縄文～平安	
本郷地区	史跡	稲倉袋田遺跡	縄文	
本郷地区	史跡	高井入古墳	古墳	
本郷地区	史跡	稲倉城址(しなぐらじょうし)	中世	
本郷地区	史跡	赤沢氏館址	中世	
本郷地区	史跡	稲倉城御屋敷館跡	中世	松本市・個人
本郷地区	街道	稲倉峠 旧道		
本郷地区	史跡	稲倉城館跡	中世	稲倉町会
本郷地区	街道	刈谷原峠	江戸	松本市
本郷地区	街道	稲倉峠 峰の切通し	奈良～昭和	松本市
本郷地区	街道	稲倉 長尾山遊歩道		稲倉町会
本郷地区	街道	稲倉城跡遊歩道		
本郷地区	跡地	稲倉 郷倉跡(倉屋敷)	江戸～明治	
本郷地区	跡地	稲倉学校	明治6年(1873)	
本郷地区	跡地	三稲字校跡	明治～昭和	
本郷地区	跡地	若宮八幡宮跡		松本市
本郷地区	跡地	町尻の観音堂跡		
本郷地区	跡地	秋葉神社跡		
本郷地区	跡地	稲倉院寺跡		
本郷地区	跡地	十王堂跡		
本郷地区	植物・樹木	増沢氏墓地のシダレザクラ		個人
本郷地区	植物・樹木	大木		
本郷地区	石造物	高井の念仏供養塔	寛政3年(1791)	稲倉
本郷地区	石造物	高井の地藏菩薩	稲倉	稲倉
本郷地区	石造物	高井の地藏菩薩	文化7年(1810)	稲倉
本郷地区	石造物	高井の馬頭観音	文政10年(1827)	稲倉
本郷地区	石造物	高井の地藏菩薩		稲倉
本郷地区	石造物	高井の地藏菩薩		稲倉
本郷地区	石造物	高井の梵字康申塔	元禄14年(1701)	稲倉
本郷地区	石造物	高井の六臂青面金剛	享保4年(1719)	稲倉
本郷地区	石造物	高井の六臂青面金剛		稲倉

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
本郷地区	湧水	出湯(冷泉・鉱泉 秋山家敷地内)		個人
本郷地区	建造物	火の真櫃(2ヶ所)	昭和	松本市
本郷地区	公園	稲倉児童遊園地		
本郷地区	公園	稲倉ふれあい広場	平成	松本市
本郷地区	建造物	稲倉公会公民館		稲倉町会
本郷地区	建造物	稲倉町会公民館 和手分館		稲倉町会
本郷地区	建造物	稲倉町会公民館 町分室		稲倉町会
本郷地区	建造物	土蔵(土開戸)		個人
本郷地区	河川	女鳥羽川		国
本郷地区	用水	稲倉大口堰揚口(しなぐらおおちせぎあげぐち)(岡田堰)		
本郷地区	用水	日陰堰		
本郷地区	用水	和田堰		
本郷地区	跡地	天ご山 石造祠跡		
本郷地区	跡地	天ご山 物見台・狼煙場跡		
本郷地区	地形	柏木岩(水の尾)		
本郷地区	地形	品庄山 戸谷峰山		
本郷地区	行事	三九郎焼		
本郷地区	行事	青山様		
本郷地区	行事	ぼんぼん		
本郷地区	行事	夏休みのラジオ体操	昭和2年(1927)	
本郷地区	その他	土突唄(洞突)		
本郷地区	その他	唄「かりばらとらうけ」		
本郷地区	その他	三九郎様の唄		
本郷地区	その他	松本城太鼓門の玄蕃石 採石伝承の地		
本郷地区	地形	こたま岩		
本郷地区	伝説	ほづずにけたけ(むじな)		
本郷地区	文書	若宮八幡宮関係縁札10枚	江戸～明治	
本郷地区	植物・樹木	三稻分教所跡地の桜		
本郷地区	植物・樹木	シダレヒガン桜		個人
本郷地区	建造物	住吉神社	明治44年(1911)	洞町会
本郷地区	建造物	山の神		洞町会
本郷地区	建造物	権現様(個人の祝い殿)		個人
本郷地区	建造物	社宮司様(個人の祝い殿)		個人
本郷地区	建造物	南洞おおいなり様(個人の祝い殿)		個人
本郷地区	建造物	おすわ様(個人の祝い殿)		個人
本郷地区	建造物	山城のおいなり様(個人の祝い殿)	江戸	個人
本郷地区	建造物	耳附様(個人の祝い殿)		個人
本郷地区	建造物	荒神様(個人の祝い殿)		個人
本郷地区	建造物	北洞のおいなり様(個人の祝い殿)		個人
本郷地区	建造物	祝い殿(個人の祝い殿)		個人
本郷地区	建造物	蚕影社・堂の久保の稲荷社		洞
本郷地区	建造物	稲荷大明神		南洞常会
本郷地区	記念碑	南洞開道記念碑	大正11年(1922)	洞
本郷地区	記念碑	北洞開道記念碑	昭和9年(1934)	洞
本郷地区	石造物	山城の職立て	大正3年(1914)	洞山城常会
本郷地区	石造物	北洞の職立て	大正13年(1924)	北洞常会
本郷地区	石造物	洞構造改善センター坂下圃場整備事業竣工記念碑		南洞常会
本郷地区	記念碑	洞構造改善センター坂下圃場整備事業竣工記念碑	昭和60年(1985)	洞
本郷地区	行事	ダンボ(風俗習慣)		
本郷地区	史跡	竹ノ上遺跡	縄文	
本郷地区	史跡	高山遺跡	縄文	

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
本郷地区	史跡	栗和田遺跡	縄文・弥生・古墳	
本郷地区	史跡	すます池遺跡	縄文時代	
本郷地区	史跡	洞塚田遺跡	縄文時代	
本郷地区	史跡	火渡し遺跡	縄文・奈良・平安	
本郷地区	史跡	山城古墳	古墳	
本郷地区	史跡	高根塚古墳	古墳	
本郷地区	史跡	洞塚田古墳	古墳	
本郷地区	史跡	狐屋敷館址	中世	個人
本郷地区	史跡	早落城址(はやおちじょうし)	中世	個人
本郷地区	跡地	洞学校跡	明治13年～25年(1880～1892)	個人
本郷地区	史跡	塩辛遺跡	縄文・古墳～中世	
本郷地区	跡地	郷倉跡	江戸～明治	個人
本郷地区	跡地	地蔵堂跡	江戸	
本郷地区	植物・樹木	狐屋敷竹藪		
本郷地区	生物	洞のゲンジボタル		
本郷地区	生物	かじか蛙		
本郷地区	跡地	馬つくりい場	～昭和	
本郷地区	石造物	山城の地蔵菩薩		個人
本郷地区	石造物	山城の馬頭観音	文化2年(1805)	個人
本郷地区	石造物	山城の馬頭観音	万延元年(1860)	山城
本郷地区	石造物	山城の馬頭観音		洞
本郷地区	石造物	山城の馬頭観音		洞
本郷地区	石造物	山城の馬頭観音		洞
本郷地区	石造物	山城の道標	大正7年(1918)	洞町会
本郷地区	石造物	山城の道祖神	元文2年(1737)	山城常会
本郷地区	石造物	山城の道祖神	嘉永5年(1852)	山城常会
本郷地区	石造物	山城の庚申塔	宝暦6年(1756)	山城常会
本郷地区	石造物	山城墓地の石灯笼	寛政4年(1792)	個人
本郷地区	石造物	北洞の馬頭観音	文化2年(1805)	北洞
本郷地区	石造物	古堂墓地の馬頭観音	万延2年(1861)	個人
本郷地区	石造物	古堂墓地の馬頭観音	文化15年(1818)	個人
本郷地区	石造物	古堂墓地の念仏供養塔	正徳5年(1715)	個人
本郷地区	石造物	古堂墓地の聖観音	正徳5年(1715)	個人
本郷地区	石造物	古堂墓地の観音	元文3年(1738)	個人
本郷地区	石造物	古堂の二十三夜塔	文化2年(1805)	個人
本郷地区	石造物	南洞日向の道祖神	寛政5年(1793)	南洞常会
本郷地区	石造物	南洞日向の二十三夜塔	嘉永7年(1854)	南洞常会
本郷地区	石造物	南洞日向の庚申塔	嘉永7年(1854)	南洞常会
本郷地区	石造物	南洞日向の二十三夜塔	嘉永2年(1849)	南洞常会
本郷地区	石造物	南洞の三界万霊塔	文化2年(1805)	個人
本郷地区	石造物	南洞裏小屋清水の地蔵菩薩		南洞常会
本郷地区	石造物	山伏塚		洞
本郷地区	石造物	北洞の道祖神		北洞常会
本郷地区	石造物	北洞の地蔵菩薩	明治23年(1890)	北洞町会
本郷地区	石造物	北洞の不動尊		北洞常会
本郷地区	石造物	南洞尾入の水神		洞
本郷地区	石造物	南洞日向の水神		個人
本郷地区	石造物	山城の水神		
本郷地区	石造物	南洞日向の馬頭観音A		

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
本郷地区	石造物	南向日向の馬頭観音B	昭和30年(1955)	
本郷地区	石造物	南向日向の馬頭観音C		
本郷地区	石造物	南向日向の馬頭観音D	明治9年(1876)	
本郷地区	石造物	南向日向の馬頭観音E		
本郷地区	石造物	山城の馬頭観音群(13基)	平成初頭に移転	
本郷地区	建造物	洞窟	昭和49年(1974)	松本市
本郷地区	建造物	松本市洞 児童遊園	昭和59年(1984)	洞町会
本郷地区	公園	洞窟	昭和51年(1976)	個人
本郷地区	その他	高山公園		
本郷地区	その他	松本浅間カントリークラブ	平成元年(1989)	松本浅間カントリークラブ
本郷地区	建造物	北洞の火の見櫓	北洞	
本郷地区	その他	桜柿羊の里(わんぱく夢牧場)	平成10年(1998)	桜柿羊の里農事組合
本郷地区	用水	栗和田池	慶長2年(1597)	本郷財産区
本郷地区	用水	すま田池		
本郷地区	伝説	栗和田の貧穡		
本郷地区	石造物	山伏の塚		
本郷地区	伝説	早落城(はやおとしょう)の語		
本郷地区	植物・樹木	飯沼屋敷のケヤキ	樹齢推定200年	個人
本郷地区	植物・樹木	飯沼家墓地の枝垂れ桜		個人
本郷地区	植物・樹木	南洞沢の枝垂れ桜		個人
本郷地区	植物・樹木	古堂墓地の山桜		個人
本郷地区	建造物	平野神社		
本郷地区	建造物	穴田観音堂		
本郷地区	彫刻	木造聖観音立像	寛永元年(1624)	原町会
本郷地区	彫刻	木造阿弥陀如来坐像	江戸	原町会
本郷地区	記念碑	戦没者の碑	昭和28年(1953)	原町会
本郷地区	記念碑	折口信夫(おりがちのぶ)歌碑	昭和40年(1965)	原町会
本郷地区	史跡	古屋清水道跡	縄文・平安	女鳥羽中学校
本郷地区	史跡	宮地遺跡	縄文	
本郷地区	史跡	穴田前遺跡	古墳～平安	
本郷地区	史跡	原郷遺跡	奈良～中世	
本郷地区	史跡	宮の上遺跡	奈良～中世	
本郷地区	史跡	五反田遺跡	縄文～中世	
本郷地区	史跡	下屋敷遺跡	縄文・古墳	
本郷地区	史跡	北の窪遺跡	縄文	
本郷地区	史跡	根利尾遺跡	縄文	
本郷地区	史跡	土取場古墳	古墳	
本郷地区	史跡	穴田古墳	古墳	
本郷地区	史跡	西原古墳	古墳	個人
本郷地区	史跡	下屋敷古墳	古墳	
本郷地区	史跡	塚畑古墳	古墳	
本郷地区	史跡	下屋敷館址	中世	
本郷地区	跡地	原地藏堂跡(蔭堂)		個人
本郷地区	跡地	原村郷蔵跡		個人
本郷地区	跡地	常光寺跡		
本郷地区	跡地	原の瓦焼跡	江戸	
本郷地区	跡地	穴田入堤跡	元禄2年(1689)	
本郷地区	跡地	原雨堤の山神社跡		
本郷地区	石造物	西原墓地の地藏菩薩	享保4年(1719)	原
本郷地区	石造物	西原墓地の念仏供養塔		原

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
本郷地区	石造物	西原墓地の道標		原
本郷地区	石造物	本村の六臂青面金剛	享保18年(1733)	原
本郷地区	石造物	本村の道祖神		原
本郷地区	石造物	浦良稲荷社の石祠		個人
本郷地区	石造物	観音堂の石灯籠	嘉永7年(1854)	原
本郷地区	石造物	観音堂の石灯籠	嘉永7年(1854)	原
本郷地区	石造物	観音堂の地藏菩薩		原
本郷地区	石造物	観音堂の地藏菩薩		原
本郷地区	石造物	観音堂の地藏菩薩		原
本郷地区	石造物	観音堂の地藏菩薩	享保21年(1736)	原
本郷地区	石造物	観音堂の阿弥陀如来		原
本郷地区	石造物	宮地の道祖神	嘉永元年(1848)	原宮地
本郷地区	石造物	宮地の二十三夜塔	嘉永元年(1848)	原宮地
本郷地区	街道	杵坂線道路		
本郷地区	建造物	三峯社祠		原三峯講仲間
本郷地区	建造物	女鳥羽川の原、浅間間の堰堤		長野県
本郷地区	歴史資料	御用 岡田組		個人
本郷地区	民俗資料	むしろ編み器		個人
本郷地区	歴史資料	普公袋	昭和	個人
本郷地区	民俗資料	醤油の材料麦を煎る鍋		個人
本郷地区	行事	原 平野神社祭典		原町会
本郷地区	行事	原 三九郎・道祖神祠		原町会
本郷地区	民俗資料	農具(大月氏宅)		個人
本郷地区	歴史資料	原観音堂旧屋根瓦		個人
本郷地区	民俗資料	糸くり機		個人
本郷地区	行事	原ぼんぼんと青山様		原町会
本郷地区	民俗資料	原庚申組(1組)		
本郷地区	民俗資料	原庚申組(2組)		
本郷地区	植物・樹木	幅の樺		個人
本郷地区	伝説	雨乞と石地藏		
本郷地区	伝説	原 常光寺の埋蔵金		
本郷地区	伝説	神に祀られた大蛇		
本郷地区	伝説	小豆さらさら		
本郷地区	伝説	見こし入道		
本郷地区	伝説	狐に化かされた話		
本郷地区	伝説	里芋と胡麻を作らない話		
本郷地区	伝説	お神酒の口		
本郷地区	建造物	癒齋(ほうそう)神社		
本郷地区	建造物	祝殿(屋敷神)金山社		
本郷地区	建造物	おいなり様	天保5年(1834)	個人
本郷地区	建造物	おいなり様	以前	個人
本郷地区	建造物	三峯社(個人で祭祀)		個人
本郷地区	建造物	白龍様(個人で祭祀)	大正以前	個人
本郷地区	建造物	長野県護国神社	昭和13年(1938)	個人
本郷地区	石造物	幡枠一対	大正5年(1916)	
本郷地区	民俗資料	幡 2旗(秋山白蔵)	大正5年(1916)	水汲町会
本郷地区	史跡	水汲西原遺跡	縄文～古墳	
本郷地区	史跡	芝田遺跡	縄文・弥生・奈良・平安	

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
本郷地区	史跡	水汲1号古墳	古墳	
本郷地区	史跡	水汲2号古墳	古墳	
本郷地区	史跡	水汲3号古墳	古墳	
本郷地区	史跡	水汲4号古墳	古墳	
本郷地区	史跡	水汲5号古墳	古墳	
本郷地区	史跡	水汲遺跡(みずくまいせき)	古墳・平安	
本郷地区	跡地	七日市場跡	中世	
本郷地区	跡地	阿弥陀堂跡	江戸	
本郷地区	跡地	郷倉跡	江戸	
本郷地区	跡地	松本藩矢場跡	江戸	
本郷地区	跡地	松本藩細工場跡	江戸～明治	
本郷地区	跡地	水汲御瓦役所跡	江戸～明治	
本郷地区	その他	水汲共有墓地	明治以前	
本郷地区	植物・樹木	金井氏屋敷のケヤキ		個人
本郷地区	植物・樹木	小沢氏宅のケヤキ		個人
本郷地区	植物・樹木	旧水汲集落跡のケヤキ		水汲町会
本郷地区	植物・樹木	旧水汲屋敷跡のケヤキ		水汲町会
本郷地区	植物・樹木	旧真宮運動場のイチゴウ群	大正15年(1926)	松本市
本郷地区	石造物	水汲墓地の地藏菩薩	宝暦9年(1759)	水汲
本郷地区	石造物	水汲墓地の馬頭観音	安政5年(1858)	水汲
本郷地区	石造物	水汲墓地の念仏供養塔	寛政12年(1800)	水汲
本郷地区	石造物	水汲墓地の馬頭観音		水汲
本郷地区	石造物	水汲墓地の馬頭観音		水汲
本郷地区	石造物	水汲墓地の馬頭観音		水汲
本郷地区	石造物	水汲の道祖神	嘉永4年(1851)	水汲
本郷地区	石造物	癒癒神社の青面金剛	享保17年(1732)	水汲
本郷地区	石造物	癒癒神社の六臂青面金剛	嘉永4年(1851)	水汲
本郷地区	石造物	水汲の廻国供養塔	天明2年(1782)	個人
本郷地区	石造物	水汲の馬頭観音	嘉永4年(1851)	個人
本郷地区	記念碑	忠魂碑	明治	
本郷地区	記念碑	道路改修記念碑	昭和12年(1937)	
本郷地区	記念碑	赤沢光吉 頌徳碑	昭和31年(1956)	
本郷地区	建造物	長野県松本文化会館	平成4年(1992)	
本郷地区	建造物	納骨堂(大忠霊塔)	昭和17年～19年(1942～1944)	
本郷地区	建造物	松本市消防団第24分団水汲置場	昭和63年(1988)	
本郷地区	建造物	水汲公民館	昭和40年(1965)	
本郷地区	その他	水汲地区史跡案内図	平成17年(2005)	
本郷地区	植物・樹木	道路分離帯のプラタナス・イチヨウ		
本郷地区	建造物	松本市総合体育館	平成元年(1989)	
本郷地区	公園	赤沢公園	昭和32年(1957)	
本郷地区	公園	水鳥羽川河川敷公園	昭和49年(1974)	
本郷地区	公園	水汲原童遊園地	昭和44年(1969)	
本郷地区	公園	美須々公園	昭和19年(1944)	
本郷地区	文書	水汲のあゆみ	平成17年(2005)	
本郷地区	伝説	むじなに化された話		
本郷地区	行事	風祭		
本郷地区	行事	御射神社春宮祭り		
本郷地区	行事	三九郎		

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
本郷地区	行事	文化祭	昭和51年(1988)～	
本郷地区	行事	運動会	昭和2年(1927)～	
本郷地区	行事	庚申講	享保20年(1735)の庚申帳	
本郷地区	行事	念仏講		
本郷地区	行事	十日夜		
本郷地区	行事	戸隠講		
本郷地区	行事	三峯講		
本郷地区	行事	伊勢講	寛保2年(1742)	
本郷地区	行事	成田講		
本郷地区	行事	ぼんぼん		
本郷地区	行事	青山様		
本郷地区	建造物	御射神社春宮ほか		御射神社氏子会
本郷地区	石造物	石灯笼	明治28年(1895)	
本郷地区	石造物	石灯笼	明治28年(1895)	
本郷地区	石造物	狛犬	大正13年(1924)	
本郷地区	石造物	狛犬	大正13年(1924)	
本郷地区	歴史資料	絵馬 拝殿の絵馬 天満宮への奉納	元治元年(1864)	御射神社氏子会
本郷地区	歴史資料	絵馬 源 義家	明治3年(1870)	御射神社氏子会
本郷地区	歴史資料	絵馬 かもの図	天保12年(1841)	御射神社氏子会
本郷地区	歴史資料	絵馬 惟神	明治31年(1898)	御射神社氏子会
本郷地区	歴史資料	絵馬 雲龍	明治23年(1890)	御射神社氏子会
本郷地区	歴史資料	絵馬 静 御前	明治17年(1942)	御射神社氏子会
本郷地区	歴史資料	絵馬 大願成就	元治2年(1865)	御射神社氏子会
本郷地区	歴史資料	絵馬 高官の神主へ祈願	明治29年(1896)	御射神社氏子会
本郷地区	建造物	天満宮	明治38年(1905)	御射神社氏子会
本郷地区	建造物	塔ノ入水神社	万治2年(1659)	
本郷地区	建造物	安立寺別院	元禄11年(1696)	
本郷地区	建造物	祝殿 おいなり様 権現様	昭和15年(1940)	個人
本郷地区	建造物	祝殿 おいなり様		個人
本郷地区	建造物	おいなり様		個人
本郷地区	建造物	おいなり様		個人
本郷地区	建造物	守護神様		個人
本郷地区	建造物	照見さま(しょうけんさま)		個人
本郷地区	建造物	家山神一木龍神大神	大正	個人
本郷地区	建造物	西の宮えびす神社		
本郷地区	その他	神宮寺の由来		
本郷地区	跡地	浅間学校跡	明治	
本郷地区	その他	貞享義民三浦善七の墓		
本郷地区	記念碑	与謝野晶子歌碑	昭和32年(1957)	
本郷地区	記念碑	高橋玄一郎春愁詩碑	昭和56年(1981)	
本郷地区	記念碑	上原三川句碑	昭和51年(1976)	
本郷地区	石造物	神宮寺参道入り口の石造物	江戸～大正	神宮寺
本郷地区	絵画	白梅紅梅図		神宮寺
本郷地区	絵画	楓絵 極楽園		神宮寺
本郷地区	絵画	杉戸絵 十牛図		神宮寺
本郷地区	絵画	襷絵 十六羅漢図		神宮寺

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
本郷地区	その他	松本三十三番礼所巡礼歌	江戸	
本郷地区	その他	本郷小学校 校歌	昭和	
本郷地区	その他	本郷小学校 開校記念日の歌		
本郷地区	その他	信濃の宿	昭和	浅間温泉観光協会
本郷地区	その他	本郷村連合青年団々歌	昭和	
本郷地区	その他	いでゆの宿	昭和	
本郷地区	彫刻	木造聖徳太子立像	寛政元年(1789)	浅間温泉旅館協同組合
本郷地区	彫刻	木造大日如来坐像(金剛界)	江戸	本郷太子講建設組合
本郷地区	彫刻	木造大日如来坐像(胎藏界)	江戸	本郷太子講建設組合
本郷地区	彫刻	木造不動明王立像、二童子付	江戸	
本郷地区	彫刻	木造弁孺羅(ごんから)童子像	江戸	
本郷地区	彫刻	木造制託迦(せいいたか)童子像	江戸	
本郷地区	彫刻	木造地藏菩薩立像		
本郷地区	彫刻	木造阿弥陀如来立像		
本郷地区	彫刻	本尊 木造釈迦如来坐像	室町	神宮寺
本郷地区	彫刻	当寺開山 木造一雄最和尚坐像	江戸	神宮寺
本郷地区	彫刻	達磨大師坐像	江戸	神宮寺
本郷地区	彫刻	木造聖観音立像	江戸	神宮寺
本郷地区	彫刻	西国三十三番観音礼所の観音像(33体)	文政9年(1826)	神宮寺
本郷地区	彫刻	本尊 木造薬師如来坐像	平安末期	神宮寺
本郷地区	彫刻	木造不動明王立像	江戸	神宮寺
本郷地区	彫刻	木造毘沙門天立像	江戸	神宮寺
本郷地区	彫刻	木造阿弥陀如来立像	江戸	神宮寺
本郷地区	彫刻	木造薬師如来坐像	江戸	湯葉師
本郷地区	文書	厨子背面朱塗書	大正10年(1921)	湯葉師
本郷地区	歴史資料	絵馬「梅に鶯」背面墨書銘	明治35年(1902)	湯葉師
本郷地区	歴史資料	絵馬「後醍醐天皇迎図」銘	明治35年(1902)	湯葉師
本郷地区	歴史資料	「江戸呉服橋裏の図」銘	慶応元年(1865)	湯葉師
本郷地区	文書	「灯籠蓋板裏の墨書」	明治13年(1880)	湯葉師
本郷地区	彫刻	木造不動明王立像	江戸	不動院
本郷地区	絵画	旧厨子厚絵		不動院
本郷地区	彫刻	木造大日如来坐像	室町末期か	不動院
本郷地区	彫刻	木造大日如来坐像	江戸	不動院
本郷地区	彫刻	木造馬鳴菩薩騎馬像	江戸	不動院
本郷地区	彫刻	木造弘法大師坐像	江戸	不動院
本郷地区	彫刻	木造阿弥陀如来立像		不動院
本郷地区	彫刻	木造薬師如来立像	昭和63年(1988)	下浅間薬師堂
本郷地区	絵画	格天井の絵「三十六歌仙の一」	明治10年(1877)	下浅間薬師堂
本郷地区	石造物	石造薬師如来坐像		下浅間薬師堂
本郷地区	文書	八幡神社棟札	明治13年(1880)	下浅間薬師堂
本郷地区	彫刻	木造地藏菩薩半跏像	江戸	神宮寺
本郷地区	彫刻	木造青面金剛尊立像		庚申堂
本郷地区	彫刻	誕生釈迦仏立像		庚申堂
本郷地区	彫刻	木造十一面観音菩薩坐像		庚申堂
本郷地区	記念碑	木村素衛(きむらもともり)詩碑	昭和43年(1968)	
本郷地区	跡地	木村氏浅間焼跡	江戸～昭和	
本郷地区	湧水	2号湧泉	昭和29年(1954)	浅間温泉事業協同組合
本郷地区	記念碑	開道記念碑	大正10年(1921)	
本郷地区	記念碑	伊藤左千夫歌碑	昭和15年(1940)	
本郷地区	公園	桜ヶ丘	昭和	

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
本郷地区	文書	本堂棟札	嘉永	神宮寺
本郷地区	建造物	真泉部薬師堂	大正10年(1921)	
本郷地区	記念碑	老鼠堂機一の句碑	昭和33年(1958)再建	
本郷地区	建造物	薬師堂		神宮寺
本郷地区	建造物	下浅間薬師堂		下浅間薬師堂保存会
本郷地区	建造物	不動院		不動院
本郷地区	石造物	庚申		
本郷地区	石造物	二十三夜		
本郷地区	行事	松明まつり		
本郷地区	行事	おしほこ		
本郷地区	行事	浅間温泉火焔太鼓	昭和38年(1963)～	
本郷地区	行事	三九郎		
本郷地区	行事	青山様		
本郷地区	行事	ぼんぼん		
本郷地区	行事	龍玉さままつり	明治時代	
本郷地区	行事	糺手まつり	昭和63年(1988)	
本郷地区	行事	浅間温泉夏祭り(盆おどり)		
本郷地区	行事	浅間温泉夕市	平成16年(2004)～	
本郷地区	その他	湯芽市(朝市)	平成5年(1993)～	あさま湯芽市直売組合
本郷地区	その他	湯芽市(夕市)	平成	あさま湯芽市直売組合
本郷地区	行事	北泉部薬師堂例祭	昭和	
本郷地区	行事	真泉部薬師堂例祭	昭和	
本郷地区	行事	下浅間薬師堂例祭	昭和	下浅間薬師堂保存会
本郷地区	行事	初庚申(だるま市)		
本郷地区	行事	渡来人まつり	平成18年(2006)～	
本郷地区	行事	へそ踊り		
本郷地区	行事	浅間温泉ふれあい会食会	昭和63年(1988)～	
本郷地区	行事	本郷村敬老会	昭和33年(1958)頃～	
本郷地区	建造物	西宮えびす神社	大正	
本郷地区	伝説	狐に化かされた話		
本郷地区	その他	手しごと市		
本郷地区	その他	げんき市		
本郷地区	行事	本郷文化祭		
本郷地区	その他	西宮えびす講		
本郷地区	伝説	貉(むじな)と呼びありいの話	明治初期	
本郷地区	石造物	じっさ・ばばさ岩		
本郷地区	伝説	神に祀られた大蛇		
本郷地区	その他	浅間節	昭和4年(1929)	
本郷地区	その他	浅間小唄		
本郷地区	その他	浅間の四季	昭和	
本郷地区	その他	浅間の鳥吹	昭和	
本郷地区	その他	泣き濡れて	昭和	
本郷地区	その他	小唄 六段くづし		
本郷地区	その他	へそ音頭		
本郷地区	その他	三九郎の唄	昭和60年(1985)	浅間温泉観光協会
本郷地区	その他	美ヶ原賛歌	江戸～	
本郷地区	その他	浅間青年会の歌	昭和	
本郷地区	その他	松本三十三番礼所巡礼歌	大正	
本郷地区	その他		江戸	

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
本郷地区	記念碑	石井柏亭歌碑	昭和51年(1976)	
本郷地区	記念碑	萩原井泉水歌碑	昭和50年(1975)	
本郷地区	記念碑	吉井勇歌碑	平成7年(1995)	
本郷地区	記念碑	山方新道開通記念碑	大正7年(1918)	
本郷地区	石造物	守屋貞治作の延命地藏尊	文政9年(1826)	神宮寺
本郷地区	文書	円空筆「大般若経巻」	正応6年(1293)	神宮寺
本郷地区	彫刻	拜殿の右大臣		御射神社氏子会
本郷地区	彫刻	拜殿の左大臣		御射神社氏子会
本郷地区	歴史資料	拜殿の絵馬	明治32年(1899)	御射神社氏子会
本郷地区	跡地	篠田焼登り窯跡	昭和21年(1946)	
本郷地区	文書	石川三長 寄進状	文禄4年(1595)	神宮寺
本郷地区	文書	神宮寺棟札	嘉永7年(1854)	神宮寺
本郷地区	工芸	直刀	古墳	
本郷地区	歴史資料	イパッサのピアノ	昭和13年(1938)	本郷小学校
本郷地区	歴史資料	青い目の人形	大正	
本郷地区	建造物	本郷小学校美術室	昭和40年(1965)	
本郷地区	絵画	石井柏亭 真観寺新緑	昭和	
本郷地区	絵画	関四郎五郎 秋の蘇伏山		
本郷地区	絵画	関四郎五郎 常念遠望		
本郷地区	絵画	関四郎五郎 蘇伏山		
本郷地区	工芸	篠田鉄石 ささ		
本郷地区	工芸	篠田鉄石 こい		
本郷地区	彫刻	柳沢廣 座		
本郷地区	絵画	山本尚 夕月かかりて		
本郷地区	絵画	小林啓章 本郷小の桜		
本郷地区	工芸	篠田義一 染付招福花瓶		
本郷地区	工芸	篠田義一 金彩山岳花瓶		
本郷地区	工芸	鈴木正康 雷鳥文様壺		
本郷地区	絵画	萩久保春雄 メシアへの憧憬		
本郷地区	絵画	山本尚 香子の花の咲く頃		
本郷地区	絵画	高山完 晩夏		
本郷地区	絵画	小平鼎 筑摩の秋		
本郷地区	工芸	篠田義一 梅花		
本郷地区	工芸	篠田義一 ぼたん		
本郷地区	工芸	篠田鉄石 ぼたん		
本郷地区	絵画	鳥羽宗雄 篠山春寒		
本郷地区	絵画	手塚恒二 雪の風景		
本郷地区	絵画	柳沢弘 雪の女鳥羽上流		
本郷地区	絵画	宮浦昭三 石榴		
本郷地区	絵画	柳沢健 静物		
本郷地区	絵画	石井柏亭 本郷小学校遠望		
本郷地区	絵画	小林邦 木崎湖		
本郷地区	絵画	杉山博 有明山新緑		
本郷地区	絵画	伊藤昌風 安曇野暮色		
本郷地区	絵画	大地宗作 浅間桜ヶ丘風景		
本郷地区	絵画	小林啓章 牛と少年		
本郷地区	絵画	小原湧泉 松		
本郷地区	書跡	大観草光 夕焼けの		
本郷地区	匠統技術	新浅間焼	大正	
本郷地区	歴史資料	古地図 浅間村 町家	慶安4年(1651)	

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
本郷地区	歴史資料	古地図 浅間村 町家	寛文5年(1665)	
本郷地区	歴史資料	古地図 浅間村	延宝4年(1676)	
本郷地区	歴史資料	古地図 浅間村	元禄5年(1692)	
本郷地区	歴史資料	古地図 浅間村町家	享保18年(1733)	
本郷地区	歴史資料	古地図 湯坂付近図	文久2年(1862)	
本郷地区	歴史資料	古地図 下浅間屋敷図	明治2年(1869)	
本郷地区	歴史資料	古地図 竹の湯付近の図	文政8年(1825)	
本郷地区	歴史資料	古地図 上浅間絵図	寛保2年(1742)	
本郷地区	歴史資料	古地図 浅間高山 横谷沢押出	明治29年(1896)	
本郷地区	歴史資料	古地図 本郷水利図		
本郷地区	歴史資料	古地図 岡本水利図		
本郷地区	歴史資料	古地図 浅間御殿の図	明治7年(1874)	
本郷地区	文書	書籍 筑摩八幡宮演義	室町	
本郷地区	文書	記録物 石川家物語	元和の初め頃	
本郷地区	文書	記録物 小口家記	近世	
本郷地区	文書	記録物 浅間雑記	江戸	
本郷地区	文書	記録物 信府統計	江戸	
本郷地区	文書	記録物 菅江真澄の浅間記	天明3年(1783)	
本郷地区	文書	記録物 滑稽旅鳥	文政年間(1818~1830)	
本郷地区	文書	山家温泉紀行	文化9年(1812)	
本郷地区	文書	文芸 更科七部集の中にみえる浅間	江戸	
本郷地区	その他	和歌と詩 万葉集 十一番物原思	7世紀~8世紀	
本郷地区	その他	和歌と詩 万葉集 十二番物原	7世紀~8世紀	
本郷地区	その他	和歌と詩 夫木集 春の部	鎌倉	
本郷地区	その他	和歌と詩 夫木集 秋の部	鎌倉	
本郷地区	その他	和歌と詩 新後撰集 秋の部	鎌倉	
本郷地区	その他	和歌と詩 続後撰集 恋の部	鎌倉	
本郷地区	その他	和歌と詩 続後撰集 恋の歌	鎌倉	
本郷地区	その他	和歌と詩 続後撰集 恋の部	鎌倉	
本郷地区	その他	和歌と詩 壇落葉 春の部	江戸	
本郷地区	その他	和歌と詩 家集春の部	江戸	
本郷地区	その他	和歌と詩 温泉行	鎌末~明治	
本郷地区	その他	和歌と詩 晩春到浅間温泉	江戸	
本郷地区	その他	和歌と詩 高橋 白山	鎌末~明治	
本郷地区	その他	和歌と詩 浅間八景	鎌末~明治	
本郷地区	その他	和歌と詩 浅間温泉四季の俳句	鎌末~明治	
本郷地区	その他	和歌と詩 浅間温泉浴之口吟	鎌末~明治	
本郷地区	その他	和歌と詩 浅間温泉	明治~昭和	
本郷地区	その他	和歌と詩 浅間温泉の歌と題して	明治~昭和	
本郷地区	その他	和歌と詩 夢科温泉	明治39年(1906)	
本郷地区	その他	和歌と詩 浅間温泉歌会	明治41年(1908)	
本郷地区	その他	和歌と詩 浅間数日	明治42年(1909)	
本郷地区	その他	和歌と詩 浅間温泉泉賦	大正12年(1923)	
本郷地区	文書	奉願御射神社券句集	明治	
本郷地区	歴史資料	古い写真		
本郷地区	文書	古文書		
本郷地区	民俗資料	御射社春宮祭礼 幟 神社前2旗	明治	御射社氏子会
本郷地区	民俗資料	幟 下浅間2旗	明治	御射社氏子会

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
本郷地区	民俗資料	幟 浅間第四部落会	昭和	第2町会第3常会
本郷地区	民俗資料	幟 奉掛大明神	元禄12年(1699)	富士之湯旅館
本郷地区	民俗資料	幟 神皇施徳惠	明治11年(1878)	富士之湯旅館
本郷地区	民俗資料	幟 人氏蒙恩頼	明治11年(1878)	富士之湯旅館
本郷地区	民俗資料	幟 三才山大明神	元禄9年(1696)	梅の湯
本郷地区	民俗資料	幟 申の幟		庚申堂
本郷地区	民俗資料	道祖神の幟		
本郷地区	史跡	雨是遺跡	縄文・弥生・平安	
本郷地区	史跡	鳥居前遺跡	弥生～古墳	
本郷地区	史跡	本郷上高田遺跡	縄文・古墳・平安	
本郷地区	史跡	大音寺遺跡	弥生	
本郷地区	史跡	本郷高田遺跡	縄文・古墳	
本郷地区	史跡	柳田遺跡	縄文・奈良・平安	
本郷地区	史跡	新湯南裏遺跡	縄文	
本郷地区	史跡	真観寺遺跡(しんかんじんいせき)	古墳～平安	
本郷地区	史跡	飯沼河遺跡(いじほらいせき)	古墳～平安	
本郷地区	史跡	本社臺古墳	古墳	
本郷地区	史跡	茶臼山古墳	古墳	
本郷地区	史跡	大屋敷1号古墳	古墳	
本郷地区	史跡	大屋敷2号古墳	古墳	
本郷地区	史跡	横谷入古墳	古墳	
本郷地区	史跡	御殿山古墳	古墳	
本郷地区	史跡	桜ヶ丘古墳	古墳	
本郷地区	考古資料	金銅冠	古墳	松本市
本郷地区	考古資料	宝玉と曹	古墳	松本市
本郷地区	考古資料	短甲	古墳	松本市
本郷地区	史跡	妙薬山1号古墳	古墳	
本郷地区	史跡	妙薬山2号古墳	古墳	
本郷地区	史跡	妙薬山3号古墳	古墳	
本郷地区	史跡	茶臼山砦址	中世	
本郷地区	史跡	神宮寺館址	中世	
本郷地区	史跡	城之内館址	中世	
本郷地区	史跡	横谷入館址	中世	
本郷地区	史跡	下浅間館址	中世	
本郷地区	史跡	芝田遺跡	縄文・弥生・奈良・平安	
本郷地区	史跡	小笠原氏廟所	貞享2年(1685)	
本郷地区	建造物	湯薬師	明治31年(1898)	湯薬師
本郷地区	湧水	第一号源泉	昭和28年(1953)	浅間温泉事業協同組合
本郷地区	植物・樹木	御竹藪	江戸～	
本郷地区	史跡	浅間御殿跡	江戸	
本郷地区	史跡	浅間の宿跡	鎌倉～南北朝	
本郷地区	湧水	山田源泉	昭和35年(1960)	浅間温泉事業協同組合
本郷地区	植物・樹木	山田の竹藪	享保9年(1724)	
本郷地区	湧水	柳の湯	万治元年(1658)	
本郷地区	湧水	北の湯源泉		
本郷地区	湧水	東北源泉	明治	浅間温泉事業協同組合
本郷地区	湧水	中央分湯場	昭和	浅間温泉事業協同組合
本郷地区	湧水	4号源泉	昭和30年(1955)	浅間温泉事業協同組合

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
本郷地区	湧水	疋気の湯	江戸	
本郷地区	史跡	倉下の漂(扶持取の湯)跡	天保14年(1843)頃	
本郷地区	史跡	浅間村高札場跡	江戸	
本郷地区	記念碑	英魂碑	昭和34年(1959)	
本郷地区	史跡	赤沢氏居館跡	中世	
本郷地区	建造物	松門文庫	大正	
本郷地区	跡地	川島芳子旧宅跡	大正	浅間温泉町づくり協議会
本郷地区	石造物	下浅間の石造文化財群	寛政5年(1793)	
本郷地区	建造物	太子殿	大正11年(1922)	
本郷地区	建造物	降旗住宅	江戸末期	個人
本郷地区	建造物	ホットブラザ浅間	昭和62年(1987)	
本郷地区	跡地	野外飲泉所	昭和60年(1985)	
本郷地区	跡地	疋気の湯跡	江戸	
本郷地区	史跡	茶臼山城空堀跡	中世	
本郷地区	史跡	茶臼山の経塚跡	中世	
本郷地区	跡地	昭和の湯跡	昭和	
本郷地区	跡地	石井柏亭旧住宅跡	昭和	個人
本郷地区	跡地	東山ホテル跡	昭和	
本郷地区	跡地	桃の湯公園跡	明治	
本郷地区	跡地	浅間公園跡	大正6年(1917)	
本郷地区	建造物	天理教宣教所	昭和	
本郷地区	建造物	関四郎五郎アトリエ	昭和19年(1944)	
本郷地区	その他	デカンショ広場	昭和	
本郷地区	跡地	篠田焼登り窯跡	昭和	
本郷地区	跡地	本郷村役場	明治～昭和	
本郷地区	建造物	本郷公民館	昭和22年(1947)～	
本郷地区	跡地・建造物	本郷消防署	昭和～	松本市
本郷地区	建造物	浅間温泉文化センター	昭和50年(1975)	
本郷地区	建造物	浅間温泉交番	明治7年(1874)～	松本市
本郷地区	跡地・建造物	八十二銀行浅間温泉支店	大正11年(1922)～	
本郷地区	建造物	松本信用金庫浅間温泉支店	昭和26年(1951)～	
本郷地区	建造物	松本ハイランド農協本郷支所	昭和～	
本郷地区	跡地・建造物	浅間温泉郵便局	明治～	
本郷地区	建造物	本郷小学校	明治6年(1873)	松本市
本郷地区	建造物	本郷幼稚園	昭和42年(1967)	松本市
本郷地区	建造物	のぼら保育園	昭和24年(1949)	松本市
本郷地区	建造物	浅間児童センター	昭和47年(1972)	松本市
本郷地区	建造物	本郷地区福祉ひろば	平成7年(1995)	松本市
本郷地区	その他	本郷高校	昭和33年(1958)	
本郷地区	その他	松本市野球場	大正15年(1926)～	松本市
本郷地区	公園	浅間温泉テニス公園	昭和～	松本市
本郷地区	跡地	浅間温泉競馬場跡	昭和6年(1931)～	
本郷地区	その他	浅間温泉事業協同組合	昭和31年(1956)	
本郷地区	その他	浅間温泉事業協同組合	昭和28年(1953)	

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
本郷地区	跡地	真観寺池跡	明治12年(1879)	
本郷地区	河川	宮の入川		
本郷地区	河川	横谷沢川		
本郷地区	河川	山田沢川		
本郷地区	湧水	2号源泉	昭和29年(1954)	浅間温泉事業協同組合
本郷地区	湧水	大下源泉	昭和	浅間温泉事業協同組合
本郷地区	湧水	東北源泉	昭和	浅間温泉事業協同組合
本郷地区	湧水	鷹の湯源泉	大正	
本郷地区	湧水	浅間温泉	古代～	
本郷地区	湧水	東山温泉	昭和25年(1950)	
本郷地区	建造物	温泉中央分湯場	昭和	浅間温泉事業協同組合
本郷地区	その他	つかい湯 湯小路	明治	湯仲間
本郷地区	その他	つかい湯 ふもとの湯	明治	湯仲間
本郷地区	その他	つかい湯 平和堂前		
本郷地区	その他	つかい湯 開運堂前	明治7年(1874)	湯仲間
本郷地区	その他	栄の湯		
本郷地区	その他	つたの湯		
本郷地区	その他	外湯 横手の湯(御座の湯)	江戸～	湯組
本郷地区	その他	外湯 滝の湯	江戸～	湯組
本郷地区	その他	外湯 堀の湯	江戸～	湯組
本郷地区	その他	外湯 富本の湯	明治7年(1874)～	湯組
本郷地区	その他	外湯 美郷の湯	明治7年(1874)～	湯組
本郷地区	その他	外湯 北せんきの湯	明治8年(1875)～	湯組
本郷地区	その他	外湯 桐の湯	明治7年(1874)～	湯組
本郷地区	その他	外湯 みすずの湯		
本郷地区	その他	外湯 松の湯	江戸～	湯組
本郷地区	その他	外湯 真砂の湯	明治8年(1875)	湯組
本郷地区	その他	外湯 葉師の湯	江戸～	湯仲間
本郷地区	その他	外湯 陸の湯	昭和12年(1937)頃	
本郷地区	その他	外湯 田鶴の湯	江戸～	
本郷地区	その他	外湯 港の湯	明治7年(1874)～	湯仲間
本郷地区	その他	外湯 桜の湯	江戸～	
本郷地区	その他	旅館 びわの湯	近世～	個人
本郷地区	その他	旅館 東御殿	明治～	個人
本郷地区	その他	旅館 飯田屋別館	明治～	個人
本郷地区	その他	旅館 北大湯	江戸～	個人
本郷地区	建造物	信金浅間寮	昭和	松本信用金庫
本郷地区	その他	旅館 油屋		個人
本郷地区	その他	旅館 二葉の湯		個人
本郷地区	その他	旅館 栄の湯	明治～	個人
本郷地区	その他	旅館 相生の湯	明治～	個人
本郷地区	その他	旅館 ひなの湯	明治～	個人
本郷地区	その他	旅館 竹の湯	江戸～	個人
本郷地区	その他	旅館 香蘭荘	江戸～	個人
本郷地区	その他	旅館 榎の湯	江戸～	個人
本郷地区	その他	旅館 梅の湯	江戸～	個人
本郷地区	その他	旅館 (ウエストンホテル)	昭和	第一観光KK
本郷地区	その他	旅館 尾上の湯	明治～	個人
本郷地区	その他	旅館 小柳の湯	江戸～	個人
本郷地区	その他	旅館 藤美の湯	明治～	個人

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
本郷地区	その他	浅間温泉旅館協同組合	昭和41年(1966)～	
本郷地区	跡地	浅間温泉プール跡	昭和	
本郷地区	跡地	浅間線チンチン電車終点跡	大正13年(1924)～ 昭和39年(1964)	
本郷地区	その他	浅間温泉商業協同組合	昭和	
本郷地区	その他	浅間温泉商業組合	昭和29年(1954)	
本郷地区	その他	浅間温泉芸術組合	明治30年(1897)	本郷太子講建設組合
本郷地区	その他	浅間温泉旅館組合	昭和15年(1940)	
本郷地区	その他	本郷村接客業組合	昭和16年(1941)	
本郷地区	その他	浅間温泉組合	昭和6年(1931)	
本郷地区	用水	浅間配水池美鈴湖第一加圧所		松本市
本郷地区	用水	浅間温泉第二水源池		松本市
本郷地区	用水	美鈴湖第二加圧所		松本市
本郷地区	用水	上浅間配水池		松本市
本郷地区	用水	上浅間加圧所		松本市
本郷地区	用水	浅間流調所	昭和	松本市
本郷地区	用水	茶臼山配水池	昭和	松本市
本郷地区	用水	長野県企業局茶臼山計量器室	昭和	松本市
本郷地区	用水	長野県茶臼山ポンプ場	昭和	長野県
本郷地区	用水	妙義配水池		松本市
本郷地区	建造物	芳樹会内科診療所	昭和	個人
本郷地区	建造物	矢崎医院	昭和	個人
本郷地区	建造物	ひろ内科医院	平成	個人
本郷地区	建造物	とどろき歯科医院	昭和40年(1965)	個人
本郷地区	建造物	中川歯科医院	昭和	個人
本郷地区	植物・樹木	御射神社春宮(御神木)		御射神社春宮
本郷地区	植物・樹木	石川氏お手植のマツ		びわの湯
本郷地区	植物・樹木	びわの湯のサルスベリ(1)		びわの湯
本郷地区	植物・樹木	びわの湯のモミジ		びわの湯
本郷地区	植物・樹木	びわの湯のイチヨウ		びわの湯
本郷地区	植物・樹木	びわの湯のサルスベリ(2)		びわの湯
本郷地区	植物・樹木	北大湯のクスギ		個人
本郷地区	植物・樹木	北仙気のケヤキ		個人
本郷地区	植物・樹木	大音寺跡のシダレザクラ		浅間温泉創成会
本郷地区	街道	浅間峠	古代～	
本郷地区	その他	不動の滝	大正6年(1917)	
本郷地区	公園	桜ヶ丘公園	昭和	
本郷地区	食文化	おしんこもち	明治4年(1871)	
本郷地区	食文化	浅間豆腐	江戸	
本郷地区	食文化	浅間まんじゅう		御菓子処・美月堂・宮田名産店
本郷地区	伝統技術	浅間焼	江戸	
本郷地区	地形	大正山		本郷財産区
本郷地区	地形	御殿山		
本郷地区	地形	茶臼山		
本郷地区	地形	大音寺山(不動山)		
本郷地区	地形	妙義山		個人
本郷地区	地形	土引山		個人
本郷地区	用水	雨堤地	江戸	

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
本郷地区	植物・樹木	山田沢水源地の周辺の樹木		
本郷地区	植物・樹木	飯田屋別館裏の樹木		
本郷地区	植物・樹木	よしの湯旅館裏の樹木		
本郷地区	植物・樹木	神宮寺周辺の樹木		
本郷地区	植物・樹木	御射神社春宮境内の樹木		
本郷地区	石造物	南浅間道祖神		
本郷地区	史跡	大輔原遺跡(たいほうばらいせき)	古墳～平安	
本郷地区	史跡	国司塚古墳	古墳	
本郷地区	その他	マレットゴルフ大会		
本郷地区	行事	盆踊り		
本郷地区	行事	文化祭		
本郷地区	その他	天理教信陽分教会		
本郷地区	建造物	松本平和会館		
本郷地区	公園	大ほう原遊園地		
本郷地区	公園	浅間南遊園地		
本郷地区	建造物	公民館		
本郷地区	街道	国体道路		
本郷地区	跡地	玄向寺前 路面電車		
本郷地区	植物・樹木	こぶしの並木		
本郷地区	文書	南浅間町会誌		
本郷地区	建造物	お稲荷様 豊川稲荷大明神	嘉永3年(1850)	大村大宮神社総代会
本郷地区	建造物	大宮神社	元禄	大村大宮神社総代会
本郷地区	建造物	子安神社	元禄	大村大宮神社総代会
本郷地区	建造物	金毘羅神社	江戸	
本郷地区	民俗資料	お船		
本郷地区	民俗資料	幟		
本郷地区	文書	大宮神社 神札	江戸～昭和	大村大宮神社総代会
本郷地区	彫刻	国司記文幹神像	享保	大村大宮神社総代会
本郷地区	石造物	大宮神社 こま犬 奉獻	昭和8年(1933)	大村大宮神社総代会
本郷地区	石造物	大宮神社 こま犬 奉獻	昭和8年(1933)	大村大宮神社総代会
本郷地区	石造物	大宮神社 奉獻 常夜燈	明治40年(1907)	大村大宮神社総代会
本郷地区	石造物	大宮神社 奉獻 常夜燈	明治	大村大宮神社総代会
本郷地区	石造物	水鉢	昭和53年(1978)	
本郷地区	石造物	法蔵徳碑	昭和2年(1927)	大村大宮神社総代会
本郷地区	記念碑	玉石垣根建設記念	昭和	大村大宮神社総代会
本郷地区	記念碑	神饗弊帛料供進神社	昭和3年(1928)	大村大宮神社総代会
本郷地区	その他	定		
本郷地区	その他	札		
本郷地区	植物・樹木	大宮神社のケヤキ 1		大村大宮神社総代会
本郷地区	植物・樹木	大宮神社のケヤキ 2		大村大宮神社総代会
本郷地区	植物・樹木	大宮神社のケヤキ 3		大村大宮神社総代会
本郷地区	植物・樹木	大宮神社のモミジ		大村大宮神社総代会
本郷地区	石造物	鎮持社(ほこじしゃ)	永正元年(1504)	
本郷地区	石造物	山神宮		
本郷地区	石造物	秋葉宮		
本郷地区	建造物	猿影(こかげ)神社		大村共有財産管理組合
本郷地区	石造物	蚤太郎大神・蚤影神社境内のある石造物		
本郷地区	建造物	社宮司社		
本郷地区	石造物	社宮司社庚申塔	貞享2年(1685)	大村

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
本郷地区	石造物	大音寺址墓地の三界万霊塔	寛政4年(1792)	個人
本郷地区	石造物	大音寺址の念仏供養塔	文化12年(1815)	個人
本郷地区	石造物	大音寺址の岩田正訓筆塚	天保9年(1838)	浅間温泉
本郷地区	石造物	大音寺址の大乗妙典供養塔	嘉永5年(1852)	個人
本郷地区	石造物	水源地の地藏菩薩		浅間温泉
本郷地区	石造物	水源地の馬頭観音	嘉永2年(1849)	浅間温泉
本郷地区	石造物	水源地の馬頭観音	弘化元年(1844)	浅間温泉
本郷地区	石造物	小池口の馬頭観音		浅間温泉
本郷地区	石造物	下浅間薬師堂の石灯籠	文久2年(1862)	個人
本郷地区	石造物	下浅間の念仏供養塔	寛政5年(1793)	薬師堂
本郷地区	石造物	下浅間の光明真言供養塔	文化9年(1812)	浅間温泉
本郷地区	石造物	下浅間の如意輪観音		浅間温泉
本郷地区	石造物	真観寺墓地の五輪塔		浅間温泉
本郷地区	石造物	真観寺址の地藏菩薩		浅間温泉
本郷地区	石造物	真観寺址の馬頭尊	宝永7年(1710)	浅間温泉
本郷地区	石造物	飯治河の五輪塔	文久2年(1862)	浅間温泉
本郷地区	石造物	道祖神 抱肩握手像	昭和53年(1978)	松本市
本郷地区	石造物	道祖神 跪座像	昭和53年(1978)	
本郷地区	石造物	道祖神 握手像	昭和53年(1978)	
本郷地区	石造物	道祖神 湯浴像	昭和54年(1979)	
本郷地区	石造物	道祖神 祝言像	昭和53年(1978)	
本郷地区	石造物	道祖神 蘭玉と瓢の像	昭和54年(1979)	
本郷地区	石造物	道祖神 湯浴像	昭和54年(1979)	
本郷地区	石造物	道祖神 抱肩握手像	昭和53年(1978)	
本郷地区	石造物	道祖神 衣冠束帯像	昭和54年(1979)	
本郷地区	石造物	道祖神 杯と瓢を持つ像	昭和54年(1979)	
本郷地区	石造物	道祖神 アルペン浅間荘	昭和	アルペン山荘
本郷地区	石造物	道祖神 本地屋旅館	昭和	本地屋旅館
本郷地区	石造物	道祖神 小柳ホテル	昭和	小柳ホテル
本郷地区	石造物	道祖神 坂本の湯	昭和	個人
本郷地区	石造物	道祖神 石州	昭和	個人
本郷地区	石造物	庚申塔		不動産
本郷地区	石造物	供養塔記 梅の湯	嘉永5年(1852)	個人
本郷地区	記念碑	浅間温泉水道碑	大正10年(1921)	
本郷地区	記念碑	山の神湧水取入記念碑	昭和13年(1938)	
本郷地区	石造物	石造文化財 美ヶ原登山口		
本郷地区	石造物	石造文化財 不動之滝		
本郷地区	石造物	石造文化財 エクストンゆかりの宿		
本郷地区	石造物	鳥生動物供養塔	昭和時代	個人
本郷地区	彫刻	銅像 遥かなる	昭和時代	浅間温泉調理士会
本郷地区	彫刻	銅像 風光る	平成	
本郷地区	彫刻	二宮金次郎像	平成	
本郷地区	彫刻	皇太子殿下行啓の碑	昭和18年(1943)	本郷小学校
本郷地区	記念碑	浅間温泉入口よりバス通りの街路樹 コブシ等	昭和45年(1970)	
本郷地区	植物・樹木	浅間温泉センター周囲及び道路むこうにある樹木		
本郷地区	植物・樹木	不動の滝の前、嶺谷沢の周辺の樹木		
本郷地区	植物・樹木	大音寺墓地上の樹木		

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
本郷地区	彫刻	天部像	江戸	玄向寺
本郷地区	彫刻	赤不動	江戸	玄向寺
本郷地区	彫刻	木造金剛力士立像	江戸	玄向寺
本郷地区	彫刻	木造金剛力士立像	江戸	玄向寺
本郷地区	工芸	鉦	寛文11年(1671)	玄向寺
本郷地区	工芸	鉦		玄向寺
本郷地区	工芸	鉦	天明元年(1781)	玄向寺
本郷地区	工芸	半鐘	寛文10年(1670)	玄向寺
本郷地区	その他	太鼓	嘉永5年(1852)	玄向寺
本郷地区	史跡	大村遺跡	弥生~中世	
本郷地区	史跡	大村古屋敷遺跡	弥生~中世	
本郷地区	史跡	大村立石遺跡	縄文・平安	
本郷地区	史跡	大村前田遺跡	弥生~平安	
本郷地区	史跡	桃山園古墳	古墳	
本郷地区	史跡	大村館址	中世	
本郷地区	史跡	大村新切古窯址	古墳	
本郷地区	史跡	妙藏山古墳 1号2号3号	古墳	
本郷地区	跡地	大村廃寺跡	平安	
本郷地区	考古資料	大村廃寺跡の出土品	平安	
本郷地区	建造物	玄向寺	江戸~	
本郷地区	建造物	仁王門	元禄8年(1695)	
本郷地区	石造物	播磨上人像	昭和4年(1929)	
本郷地区	石造物	六字名号碑	天保11年(1840)	
本郷地区	建造物	開運稲荷社		
本郷地区	建造物	開運稲荷興社		
本郷地区	建造物	富士浅間社	元禄11年(1698)	
本郷地区	石造物	弁栄上人遺髪塔		
本郷地区	建造物	女鳥羽社		
本郷地区	建造物	荒滝不動明王尊堂	享保9年(1724)	
本郷地区	石造物	荒滝不動明王	明治	
本郷地区	用水	女鳥羽池	宝永6年(1709)	
本郷地区	石造物	女鳥羽池供養塔	享和3年(1803)	
本郷地区	湧水	大村の清水井戸(鏡井戸)		
本郷地区	跡地	上村の郷倉跡	寛文5年(1665)	
本郷地区	建造物	おいなり様 正一位稲荷大明神		個人
本郷地区	建造物	おいなり様 笠間稲荷大明神		個人
本郷地区	建造物	おいなり様 開運稲荷大明神		個人
本郷地区	建造物	おいなり様 正一御玉稲荷大明神		個人
本郷地区	建造物	おいなり様 伏見稲荷大明神		個人
本郷地区	建造物	三峰様		個人
本郷地区	建造物	三峰様		個人
本郷地区	建造物	おいなり様 笠守稲荷大明神		個人
本郷地区	石造物	雪中の念満供養塔	寛政7年(1795)	雪中
本郷地区	記念碑	桃山園の句碑ほか	昭和・平成	
本郷地区	記念碑	女鳥羽山公園碑	明治45年(1912)	
本郷地区	伝説	里芋と胡麻を作らない話		
本郷地区	伝説	別れ岩		
本郷地区	その他	大村町会の歌	大正10年(1921)	作詞: 大和真人 作曲: 松本電気館音楽 主任

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
本郷地区	石造物	社宮司社の水鉢	文久3年(1863)	雪中
本郷地区	石造物	社宮司社の石灯籠	嘉永2年(1849)	雪中
本郷地区	石造物	社宮司社の石灯籠	嘉永2年(1849)	雪中
本郷地区	石造物	社宮司社の石灯籠	慶応4年(1868)	雪中
本郷地区	石造物	社宮司社の石灯籠	慶応4年(1868)	雪中
本郷地区	石造物	社宮司社の道祖神	寛政7年(1795)	雪中
本郷地区	文書	社宮司社の棟札 3枚	明治・昭和	
本郷地区	石造物	常夜燈	明治時代	
本郷地区	石造物	常夜燈	明治時代	
本郷地区	民俗資料	幟	昭和53年(1978)	
本郷地区	建造物	女鳥羽滝観音堂	明治再建	玄向寺
本郷地区	彫刻	木造阿弥陀如来坐像	江戸	玄向寺
本郷地区	彫刻	木造観音菩薩坐像	江戸	玄向寺
本郷地区	彫刻	木造勢至菩薩坐像	江戸	玄向寺
本郷地区	彫刻	金剛誕生仏	江戸	玄向寺
本郷地区	彫刻	木造子安地藏菩薩半跏像	江戸	玄向寺
本郷地区	彫刻	金銅善光寺式阿弥陀三尊像	江戸	玄向寺
本郷地区	彫刻	塑像善導大師立像	江戸	玄向寺
本郷地区	彫刻	塑像法然上人立像	江戸	玄向寺
本郷地区	彫刻	木造薬師如来坐像	江戸	玄向寺
本郷地区	彫刻	木造毘沙門天立像	元禄8年(1695)	玄向寺
本郷地区	彫刻	木造廣目天立像	元禄8年(1695)	玄向寺
本郷地区	工芸	紙造弘法坐像	江戸	玄向寺
本郷地区	絵画	板絵二十五菩薩画像	江戸	玄向寺
本郷地区	絵画	伝通院尊像(秘仏)	江戸	玄向寺
本郷地区	彫刻	木造阿弥陀如来立像	江戸	玄向寺
本郷地区	彫刻	木造観音菩薩立像	江戸	玄向寺
本郷地区	彫刻	木造勢至菩薩立像	江戸	玄向寺
本郷地区	彫刻	木造観音立像	江戸	玄向寺
本郷地区	彫刻	木造不動明王半跏像	江戸	玄向寺
本郷地区	彫刻	木造弘法大師坐像	江戸	玄向寺
本郷地区	彫刻	木造善導大師坐像	江戸	玄向寺
本郷地区	彫刻	木造千手観音立像	江戸	玄向寺
本郷地区	彫刻	宝塔内木造釈迦坐像	江戸	玄向寺
本郷地区	彫刻	木造大日如来坐像	江戸	玄向寺
本郷地区	彫刻	木造地藏立像	江戸	玄向寺
本郷地区	彫刻	木造勢至菩薩坐像	江戸	玄向寺
本郷地区	彫刻	木造弘法大師坐像	江戸	玄向寺
本郷地区	彫刻	木造千手観音坐像	江戸	玄向寺
本郷地区	彫刻	木像阿弥陀如来立像	江戸	玄向寺
本郷地区	彫刻	木像阿弥陀如来立像	江戸	玄向寺
本郷地区	彫刻	木像四天王立像	江戸	玄向寺
本郷地区	彫刻	木像十一王	江戸	玄向寺
本郷地区	彫刻	木像尊衣婆像	江戸	玄向寺
本郷地区	彫刻	木像大日如来坐像	江戸	玄向寺
本郷地区	彫刻	木像十二神降像	江戸	玄向寺
本郷地区	彫刻	善導大師立像	江戸	玄向寺
本郷地区	彫刻	法然上人立像	江戸	玄向寺
本郷地区	彫刻	地藏立像	江戸	玄向寺

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
本郷地区	石造物	小平新右衛門光貞の筆塚	明和2年(1765)	
本郷地区	石造物	伊和神社の石灯籠	弘化3年(1846)	伊和神社
本郷地区	石造物	伊和神社の石灯籠	弘化3年(1846)	伊和神社
本郷地区	石造物	大街道の道標		大街道
本郷地区	石造物	大街道の馬頭観音	天保3年(1832)	大街道
本郷地区	石造物	大街道の廻国供養塔	明和7年(1770)	大街道
本郷地区	伝説	伝説と昔話 おこりと樺葉		
本郷地区	跡地	観音堂跡		個人
本郷地区	建造物	祝殿 おいなり		個人
本郷地区	建造物	祝殿 社宮司		個人
本郷地区	建造物	祝殿 金山様		個人
本郷地区	建造物	祝殿 天のう様 津島様		個人
本郷地区	建造物	祝殿 おいなり様		個人
本郷地区	建造物	祝殿 おいなり様		個人
本郷地区	建造物	祝殿 金山様		個人
本郷地区	その他	原製陶所 亀屋		個人
本郷地区	行事	壺玉様		
本郷地区	行事	お十夜		
本郷地区	行事	念仏講		
本郷地区	石造物	山の神		
本郷地区	建造物	惣社公民館	昭和28年(1953)	惣社
本郷地区	その他	伊和神社奉燈伴句		
本郷地区	行事	大庚申講(おおこうしんこう)		
本郷地区	建造物	横田神社		横田神社
本郷地区	その他	横田神社 奉燈句集	明治43年(1910)	
本郷地区	その他	日露戦争戦勝記念奉額	明治39年(1906)	
本郷地区	その他	奉額 初詣の俳句	大正4年(1915)	
本郷地区	その他	奉額 祈健康	昭和3年(1928)	
本郷地区	その他	奉額 龍星山人の臺刻額	昭和57年(1982)	
本郷地区	建造物	撰社 疋瘡神・壺玉様・稲荷社		
本郷地区	工芸	御鏡(みかがみ)	明治38年(1905)	
本郷地区	建造物	横田大明神		
本郷地区	文書	横田神社 幟札 9枚	明治～昭和	
本郷地区	民俗資料	横田神社 幟 3本	昭和39年(1964)	
本郷地区	民俗資料	横田神社の舞台	明治	
本郷地区	民俗資料	横田神社の舞台鳥居の献灯	明治	
本郷地区	石造物	横田神社入口の鳥居	大正4年(1915)	横田神社
本郷地区	石造物	横田神社撰社の鳥居		横田神社
本郷地区	石造物	奉燈		横田神社
本郷地区	石造物	こま犬		横田神社
本郷地区	石造物	幟 柱立て		横田神社
本郷地区	記念碑	横田神社氏子成徳碑	大正15年(1926)	横田神社
本郷地区	記念碑	神饌幣帛料供進神社 石柱		横田神社
本郷地区	記念碑	撰社 石柱	大正13年(1924)	横田神社
本郷地区	建造物	横田神社 社務所		横田神社
本郷地区	石造物	横田神社 山の神		横田神社
本郷地区	行事	横田の弁天様祭		横田財産区組合
本郷地区	行事	横田の稲荷祭り		横田神社氏子
本郷地区	行事	横田の道祖神祭り		横田道祖神保存会

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
本郷地区	行事	岡宮神社例大祭		
本郷地区	その他	町会一斉清掃		
本郷地区	その他	防災訓練		
本郷地区	その他	防犯パトロール		
本郷地区	その他	ナイターソフトボール大会		
本郷地区	その他	地域活動日		
本郷地区	その他	横田第7町会食育畑づくり	平成21年(2009)～	個人
本郷地区	その他	横田第7町会食よりサロン	平成15年(2003)～	横田第7町会
本郷地区	その他	ポーリング大会		
本郷地区	行事	秋葉神社例大祭	明治13年(1880)頃	
本郷地区	行事	横田盆踊り大会(旧)	昭和30年代	
本郷地区	その他	横田公民館 1日開放	平成12年(2000)～	
本郷地区	その他	横田公民館 囲碁の会		
本郷地区	その他	横田公民館 ふれあい健康教室		
本郷地区	その他	横田公民館 ガーデニング教室		
本郷地区	その他	横田公民館 グラウンドゴルフ大会	平成8年(1996)	
本郷地区	その他	横田公民館 そば打ち体験	平成12年(2000)	
本郷地区	その他	横田公民館 子ども相餅作り		
本郷地区	その他	横田公民館 男性料理教室		
本郷地区	その他	横田公民館 子どもまゆ作り		
本郷地区	その他	横田公民館 子どもカレー作り・スイカ割り		
本郷地区	行事	横田神社 例大祭		
本郷地区	行事	横田神社 稲荷祭り		
本郷地区	行事	ぼんぼん		
本郷地区	行事	単位町会 野陸運動会	昭和53年(1978)～	
本郷地区	行事	横田公民館 ふるさと祭り	昭和47年(1972)～	
本郷地区	行事	横田公民館 大運動会	昭和39年(1964)～	
本郷地区	行事	横田公民館 文化祭	昭和47年(1972)～	
本郷地区	行事	三九郎		
本郷地区	行事	青山様		
本郷地区	行事	ふれあい会食会		
本郷地区	行事	敬老会		
本郷地区	その他	松寿会	昭和39年(1964)	
本郷地区	行事	道祖神祭り	明治	横田保存会
本郷地区	史跡	横田遺跡		
本郷地区	史跡	大村塚田遺跡	縄文・平安	
本郷地区	史跡	横田古屋敷遺跡	弥生・古墳・平安	
本郷地区	跡地	横田池跡	安政4年(1857)	横田財産区
本郷地区	記念碑	横田池跡碑	昭和56年(1981)	横田財産区
本郷地区	跡地	弁天様の池		横田財産区
本郷地区	跡地	弁天様の鳥居	昭和6年(1931)	横田財産区
本郷地区	跡地	横田村細蔵跡	江戸	
本郷地区	その他	松本濃姫稲屋(えんしやうや)	江戸～明治	
本郷地区	跡地	横田分教場跡	明治42年(1909)	
本郷地区	跡地	横田念仏寺跡	寛永11年(1634)	
本郷地区	石造物	念仏寺跡 供養塔 墓標		横田財産区
本郷地区	石造物	念仏寺跡 無縫塔(明塔)		横田財産区
本郷地区	石造物	念仏寺跡 墓標	弘化4年(1847)	横田財産区
本郷地区	記念碑	念仏寺跡 説明碑	昭和45年(1970)	横田財産区

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
本郷地区	跡地	泉精密工業跡	昭和20年(1945)	現在笹工工場
本郷地区	建造物	ミコンパ理容店	昭和30年(1955)	個人
本郷地区	建造物	大三土地(不動産)	昭和30年(1955)	個人
本郷地区	建造物	祥雲堂(仕出し)		
本郷地区	建造物	アキヤマ(電気店)	昭和29年(1954)	個人
本郷地区	建造物	大黒青果(青果店)	昭和30年(1955)	個人
本郷地区	建造物	本田電気工業(電気工事)	昭和30年(1955)代	個人
本郷地区	建造物	窪田算盤塾(塾)		
本郷地区	建造物	(有)信越報知(防災)	昭和53年(1978)	個人
本郷地区	建造物	西澤建築店(建築業)	昭和35年(1968)	個人
本郷地区	建造物	伊武(新ストローク製作工房)	平成11年(1999)	個人
本郷地区	建造物	泉産業	平成	
本郷地区	建造物	あらい装飾	昭和44年(1969)	泉産業(株)
本郷地区	建造物	横田温泉 ホテル末広	昭和44年(1969)	個人
本郷地区	建造物	横田温泉 栢三荘	昭和32年(1957)	個人
本郷地区	建造物	横田温泉 舶来荘	昭和32年(1957)	個人
本郷地区	建造物	横田温泉 万年旅館	昭和32年(1957)	個人
本郷地区	建造物	長岡医院	昭和	長岡医院
本郷地区	建造物	汲田歯科医院	昭和59年(1984)	汲田歯科
本郷地区	建造物	小林歯科医院	昭和58年(1983)	個人
本郷地区	建造物	おいなり様 金龍様		個人
本郷地区	建造物	稲荷神社 不動様 正一位 稲荷大明神		個人
本郷地区	建造物	おいなり様 正一位稲荷大明神		個人
本郷地区	伝説	雁金山の山の神		
本郷地区	伝説	村移りの話		
本郷地区	文書	恵夫句集		
本郷地区	その他	新浅間温泉		
本郷地区	その他	横田温泉事業協同組合	昭和29年(1954)	
本郷地区	跡地	横田遊廓	明治～昭和	
本郷地区	その他	横田の養蚕家	明治13年(1880)	
本郷地区	跡地	秋葉神社跡	明治	
本郷地区	植物・樹木	弁天様周囲のケヤキ・杉・松		横田財産区組合
本郷地区	植物・樹木	横田グラウンドの桜		横田財産区組合
本郷地区	植物・樹木	木下氏宅の柳・イチヨウ・柏		個人
本郷地区	植物・樹木	横田公園のケヤキ		松本市
本郷地区	植物・樹木	保刈氏宅の木		個人
本郷地区	植物・樹木	東鳥羽のケヤキ・たち・柏・梅・松		個人
本郷地区	植物・樹木	大月氏宅のたち・ケヤキ		個人
本郷地区	植物・樹木	原氏宅の木		個人

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
本郷地区	石造物	馬頭観音像	明治時代	
本郷地区	跡地	横田消防団詰所跡		
本郷地区	跡地	横田消防団火の風やぐら跡		
本郷地区	跡地	横田駐在所跡	昭和14年(1939)	
本郷地区	跡地	泉精器製作所跡		
本郷地区	跡地	万年旅館跡		
本郷地区	跡地	大名の湯跡		
本郷地区	石造物	横田の庚申塔	貞享2年(1685)	横田財産組合
本郷地区	石造物	横田念仏供養塔	元禄3年(1690)	横田財産組合
本郷地区	石造物	横田の五輪塔	元禄6年(1693)	横田財産組合
本郷地区	石造物	横田の五輪塔	元禄11年(1698)	横田財産組合
本郷地区	石造物	横田の庚申塔	元文5年(1740)	横田財産組合
本郷地区	石造物	横田の六臂青面金剛		横田財産組合
本郷地区	石造物	横田の念仏供養塔	寛政7年(1795)	横田財産組合
本郷地区	石造物	横田の念仏供養塔	延宝7年(1679)	横田財産組合
本郷地区	石造物	横田の念仏供養塔		横田財産組合
本郷地区	石造物	横田の地藏菩薩	享保4年(1719)	横田財産組合
本郷地区	石造物	横田の如意輪観音	元禄4年(1691)	横田財産組合
本郷地区	石造物	横田の道祖神	寛政11年(1799)	横田財産組合
本郷地区	石造物	横田神社の石灯籠	安政4年(1857)	横田神社
本郷地区	石造物	南横田の天日如来		南横田
本郷地区	植物・樹木	東鳥羽の大ケヤキ		個人
本郷地区	植物・樹木	桜並木		
本郷地区	河川	湯川		
本郷地区	景観	横田東南に広がる田園		
本郷地区	生物	湯川に乱舞するホタル		
本郷地区	絵画	絵画 薔薇		
本郷地区	絵画	絵画 (やまぐちかずお)		
本郷地区	文書	本 護られた街	平成7年(1995)	
本郷地区	文書	本 横田公民館だれでも住みよい町づく	平成20年(2008)	横田公民館(1冊) 本郷公民館(1冊)
本郷地区	文書	本 横田公民館みんなで進める町づくり	平成22年(2010)	横田公民館(1冊) 本郷公民館(1冊)
本郷地区	建造物	信大思誠寮		
本郷地区	建造物	松本信大寮 横田住宅1号2号3号棟	昭和55年(1980)	
本郷地区	建造物	南郷保育園		
本郷地区	建造物	南郷ひろば	平成20年(2008)	
本郷地区	建造物	南郷子どもプラザ	平成20年(2008)	
本郷地区	建造物	南郷南幼稚園	昭和50年(1975)	
本郷地区	建造物	横田公民館	平成16年(2004)	
本郷地区	建造物	横田第1公民館	昭和53年(1978)	
本郷地区	建造物	横田郵便局		個人
本郷地区	建造物	南郷児童館	昭和51年(1976)	
本郷地区	建造物	松本市消防団第22分団詰所		22分団
本郷地区	その他	横田グラウンド	昭和53年(1978)	市、横田財産組合
本郷地区	公園	第1町会公園	昭和63年(1988)	
本郷地区	公園	第2町会公園	昭和55年(1980)	
本郷地区	公園	第3町会公園		
本郷地区	公園	横田公園		
本郷地区	建造物	かどや商店	昭和30年(1955)	個人

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
松原地区	記念碑	宅地造成の碑	平成2年(1991)	
松原地区	石造物	山の神の碑	不明	白川町会
松原地区	石造物	馬頭観音	昭和7年(1932)	不明
松原地区	建造物	からくり時計	平成元年(1989)	松本市
松原地区	建造物	松原モール(モニュメント)	現代	
松原地区	湧水	井戸	昭和40年(1965)頃	個人
松原地区	街道	松原古道		
松原地区	建造物	中信松本病院(旧寿療養所)		
松原地区	公園	中央公園・北公園・東公園・南公園		
松原地区	雑物・樹木	松林		
松原地区	景観	北アルプスの景観		
松原地区	行事	いらいづら祭	平成2年(1991)～	
松原地区	行事	松原音頭	平成5年(1993)～	
松原地区	行事	青山様・ぼんぼん・三九郎	昭和31年(1956)～	
松原地区	文書	寿地区から独立時の書類・松原町会創立10周年誌 ・町会連合会設立10周年記念誌・戦争体験史		

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
四賀地区	行事	祭り		反町町会
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「で(出)」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「どっこいどっこい」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「すがいけ(き)」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「古いぎおんぼやし」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「なか(中)1」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「なか(中)2」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「新しいぎおんぼやし」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「お宮の前」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「くだり1」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「くだり2」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「くだり3」		
四賀地区	行事	三九郎		
四賀地区	民俗芸能	反町の盆唄		
四賀地区	民俗芸能	三峰講		
四賀地区	民俗芸能	観音講		
四賀地区	民俗芸能	庚申講		
四賀地区	石造物	馬頭観音	安政4年(1857)	
四賀地区	石造物	石碑		
四賀地区	石造物	石の祠		
四賀地区	石造物	石灯笼1対		
四賀地区	石造物	鳥居		
四賀地区	歴史資料	地図		反町町会
四賀地区	工芸	杵鐺	弘化4年(1847)	反町町会
四賀地区	跡地	須恵器窯跡		
四賀地区	跡地	洞光寺跡		個人
四賀地区	行事	祭り		刈谷原町町会
四賀地区	その他	戸隠講		
四賀地区	その他	御嶽講		
四賀地区	民俗芸能	浦安の舞		
四賀地区	絵画	絵図	明治5年(1872)	刈谷原町町会
四賀地区	その他	校名板	明治6年(1873)	七嵐町会
四賀地区	街道	刈谷原峠		刈谷原町町会
四賀地区	建造物	公会所		
四賀地区	建造物	旧望月医院		
四賀地区	建造物	中沢家		
四賀地区	行事	祭り		七嵐町会
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「神楽囃子」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「神楽本囃子」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「瑞穂祝い囃子」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「神楽 戦友」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「早獅子囃子」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「教え歌囃子」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「？」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「？」		
四賀地区	民俗資料	飾り舞台		七嵐町会
四賀地区	行事	道祖神祭		
四賀地区	絵画	絵図		七嵐町会
四賀地区	行事	祭り		赤怒田町会

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「御岳(おんたけ)」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「とうろろ」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「ざいとりざし」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「し〜しゃり」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「とひやらひやらりこ」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「岡崎 三番」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「神楽くずし 七番」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「松本囃子」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「りゅうかい」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「地囃子」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「楽隊 一」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「楽隊 赤の帽子」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「楽隊 戦友」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「ひやらりころ一、二」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「教え歌」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「とひやらひやらりこ」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「寿賀行(すがゆき)」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「囃り囃子」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「とひやらひやらりこ」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「寿賀行」		
四賀地区	民俗資料	舞台		保福寺町会
四賀地区	その他	戸隠講		
四賀地区	その他	観音講		
四賀地区	その他	庚申講		
四賀地区	その他	不動明王雨乞い		
四賀地区	その他	一遍水		
四賀地区	絵画	会田組保福寺町御絵図下吟味帳	元禄11年(1698)	保福寺町会
四賀地区	跡地	屋敷跡(等跡)		保福寺町会
四賀地区	植物・樹木	禅寺さまのガヤの木		保福寺
四賀地区	跡地	番所	江戸	
四賀地区	建造物	小沢家		
四賀地区	行事	祭り		小岩井町会
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「宮入」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「三拍子」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「板場」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「新ばやし」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「ぼたか」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「ばかばやし」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「教え節」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「和藤内」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「チャンチャリス」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「どっこい」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「しよき」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「岡崎」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「ヒモヒモ」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「寄せ」		
四賀地区	彫刻	観世音菩薩		小岩井町会
四賀地区	彫刻	葉師如来		小岩井町会
四賀地区	絵画	絵図	明治19年(1886)	小岩井町会
四賀地区	歴史資料	松脂取に使ったノゴザリ	昭和20年(1945)以前	個人

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「サイトリサシ」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「ジバヤシ」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「本トロロ」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「いろは」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「あいうえ」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「ピツヤリコロ」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「そうとも」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「ここはお国を(軍歌)」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「シャリコロ」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「ドンドピコ」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「四面楚歌」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「教え歌」		
四賀地区	その他	天神講		
四賀地区	石造物	供養塔	天和2年(1682)	
四賀地区	石造物	無縫塔(卯塔)		
四賀地区	石造物	如意輪観音		
四賀地区	絵画	絵図		赤怒田町会
四賀地区	絵画	釈迦涅槃図掛軸		赤怒田町会
四賀地区	絵画	五百羅漢図掛軸		赤怒田町会
四賀地区	民俗資料	観音講と数珠		赤怒田町会
四賀地区	民俗資料	祭礼用幟(一対)		赤怒田町会
四賀地区	行事	祭り		殿野入町会
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「おんたけ」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「トロロ」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「いかり」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「ソートモ」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「低いソーリヤ」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「ジバヤシ」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「リュウカイ」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「ドッコイソーリヤ」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「高いソーリヤ」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「シメン」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「赤な帽子」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「ここはお国」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「シャリコロ」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「すがゆき」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「ドンドピッコ」		
四賀地区	民俗芸能	獅子舞		殿野入町会
四賀地区	民俗芸能	神楽		殿野入町会
四賀地区	民俗芸能	鳥刺舞		殿野入町会
四賀地区	石造物	地藏		
四賀地区	石造物	地藏		
四賀地区	石造物	僧墓塔		
四賀地区	石造物	石灯笼		
四賀地区	記念碑	記念碑	平成8年(1996)	
四賀地区	その他	奉納俳句額	文政7年(1824)	
四賀地区	跡地	金山鉱山跡		殿野入町会
四賀地区	絵画	絵図	明治6年(1873)	七嵐町会
四賀地区	行事	祭り		保福寺町会
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「碓(いかり)」		

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「しんばやし」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「へもへも」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「しゃぎり」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「はかばやし」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「打切」		
四賀地区	行事	念仏講		
四賀地区	その他	戸隠講		
四賀地区	その他	秋葉講		
四賀地区	その他	観音講		
四賀地区	その他	庚申講		
四賀地区	行事	風祭り		
四賀地区	建造物	不動尊		
四賀地区	絵画	絵図		原山町会
四賀地区	絵画	絵図		原山町会
四賀地区	絵画	絵図		原山町会
四賀地区	絵画	絵図		原山町会
四賀地区	文書	会田組原山村御絵図下吟味帳	元禄11年(1698)	個人
四賀地区	絵画	琴棋書画之図六曲屏風一双	天保4年(1833)	個人
四賀地区	文書	秋葉山代参順帳	文政9年(1826)~明治5年(1872)	個人
四賀地区	工芸	刀左「陸奥守包保」	江戸時	個人
四賀地区	民俗資料	葬儀用具	江戸時	原山町会
四賀地区	街道	風越隧道	昭和8年(1933)	松本市
四賀地区	地形	こじき岩		両瀬町会
四賀地区	その他	地名「やっこ」		個人
四賀地区	湧水	塩沢の湯		個人
四賀地区	行事	祭り		横川町会
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「利根の川辺」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「カーライト」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「ヨサク」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「岡崎」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「新囃子」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「甚囃子」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「かぐらぐずし」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「ヨイトヨイト」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「ハカ(上がり)」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「三拍子」		
四賀地区	行事	青竜様		個人
四賀地区	行事	山の神		
四賀地区	行事	金毘羅様		
四賀地区	その他	戸隠講		
四賀地区	その他	庚申講		
四賀地区	建造物	秋葉社	昭和25年(1950)、平成11年(1999)	横川町会
四賀地区	石造物	馬頭観世音		
四賀地区	石造物	道祖神		
四賀地区	石造物	白川社		個人
四賀地区	石造物	馬頭観世音		個人
四賀地区	石造物	僧墓塔		
四賀地区	石造物	僧墓塔		個人

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
四賀地区	絵画	猿田彦大神像掛軸		個人
四賀地区	絵画	御庚申様御姿掛軸		個人
四賀地区	行事	祭り		両瀬町会
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「新囃子」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「新々囃子」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「岡崎」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「花車」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「祇園」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「才取指し」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「デンデコ」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「トッピリシヤリコ」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「トロロ(早い)」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「召田囃子」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「神楽ぐずし」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「トロロ(遅い)」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「立て」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「両瀬囃子」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「車切り」		
四賀地区	行事	春の彼岸念仏		
四賀地区	行事	おもり投げ		
四賀地区	行事	両瀬町会八幡堂の行事		
四賀地区	民話	弥太郎こんげん		
四賀地区	彫刻	仏像		両瀬町会
四賀地区	絵画	掛軸		両瀬町会
四賀地区	行事	祭り		金井町会
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「ケン」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「いかり」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「しゃりころ」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「しんばやし」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「数えうた」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「さいとりさし」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「ささつば」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「はか」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「しゃぎり」		
四賀地区	行事	不動尊まつり		
四賀地区	民俗資料	立川流清水虎吉彫刻舞台		金井町会
四賀地区	彫刻	像		金井町会
四賀地区	彫刻	像		金井町会
四賀地区	建造物	金照院不動院		金井町会
四賀地区	絵画	掛軸		金井町会
四賀地区	民俗資料	お礼版木		
四賀地区	行事	祭り		原山町会
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「かぐらぐずし」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「おかさぎ」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「とおろり」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「けん」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「いかり」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「おしやりしやり」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「さいとりさし」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「かあらいと」		

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「ヨイトヨイト」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「？」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「沼田ばやし」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「？」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「宮入前」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「宮入」		
四賀地区	行事	四阿屋神社祭典		
四賀地区	行事	薬師堂祭典		召田
四賀地区	行事	山の神祭典		召田
四賀地区	行事	風まつり祭典		召田
四賀地区	その他	庚申講		
四賀地区	彫刻	像		召田町会
四賀地区	彫刻	像		召田町会
四賀地区	彫刻	仏像		召田町会
四賀地区	彫刻	仏像		召田町会
四賀地区	彫刻	仏像		召田町会
四賀地区	彫刻	狛犬		召田町会
四賀地区	彫刻	馬のり馬頭観音の馬(天道社)		
四賀地区	文書	書類箱		召田町会
四賀地区	建造物	R143旧道矢久橋		
四賀地区	跡地	松根油製造工場跡		
四賀地区	行事	祭り		長越町会
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「宮入」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「塚場」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「ばかばやし」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「？」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「？」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「？」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「？」		
四賀地区	行事	風祭り		長越町会
四賀地区	彫刻	仏像		長越町会
四賀地区	絵画	掛軸		長越町会
四賀地区	絵画	掛軸		長越町会
四賀地区	絵画	掛軸		長越町会
四賀地区	絵画	掛軸		長越町会
四賀地区	建造物	郷倉		長越町会
四賀地区	行事	祭り		藤池町会
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「大バヤシ」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「トロヒヤラ」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「ヨセ」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「サノウ」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「宮入」		
四賀地区	行事	観音山祭(春)		
四賀地区	行事	山の神祭		
四賀地区	行事	お地蔵様祭(春、秋)		
四賀地区	行事	お業師祭		
四賀地区	行事	水神様(水神様横に太いケヤキがある。)		
四賀地区	行事	お稲荷様		
四賀地区	行事	天神様(春)		

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
四賀地区	石造物	馬頭観音		個人
四賀地区	絵画	番所(絵図)		個人
四賀地区	伝説	地名 竜ヶ爪		青龍神社
四賀地区	行事	祭り		会吉町会
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「道中ばやし」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「宮入」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「獅子舞」		
四賀地区	民俗芸能	獅子舞		会吉町会
四賀地区	彫刻	仏像		会吉町会
四賀地区	絵画	掛軸		会吉町会
四賀地区	その他	奉納俳句額	明治22年(1889)	会吉町会
四賀地区	行事	祭り		矢久町会
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「トロヒヤラ」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「ミクサリ/ドッコイ」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「カライタ」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「イツクサリ」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「エイオオ」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「トロヒヤラクズシ」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「ヒトツトヤ」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「エチゴジン」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「13クザリ」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「トモトモ」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「ギオン」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「ナナクサリ」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「オカザキ」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「エルトコ」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「スカヤキ」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「ハカバヤシ」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「オオバカ」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「デンポ」		
四賀地区	建造物	伊那里社		西沢門中
四賀地区	建造物	日枝神社		召田門中
四賀地区	建造物	金刀比羅社		個人
四賀地区	行事	大黒様祭り	大正末より	大沢本林門中
四賀地区	行事	三峯様の小祭り	明治より	個人
四賀地区	行事	小胡桃庚申祭	明治2年(1765)	個人
四賀地区	建造物	稻荷神社(望月家)	大正時代	個人
四賀地区	絵画	絵図	明治7年(1874)	矢久町会
四賀地区	伝説	伝説 橘姫の話		矢久町会
四賀地区	跡地	龍洞庵跡(阿弥陀堂)	明治	矢久町会
四賀地区	行事	祭り		召田町会
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「ヒヤモ・ヒヤモ」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「？」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「？」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「チャンチャリース」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「新ばやし」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「イカリ」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「ムクサリ」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「ドッコイ・ドッコイ」		

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
四賀地区	絵画	図面	明治19年(1886)	藤池町会
四賀地区	跡地	堀跡		個人
四賀地区	跡地	城跡		個人
四賀地区	跡地	観音寺跡		個人
四賀地区	用水	お種池		六沢町会
四賀地区	行事	祭り		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「出ばやし」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「日新ダンバン」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「ミツサイナ」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「ミクサリ(3回)」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「ヒーリヒヤリコ」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「シンヤガラ」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「教え唄」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「オヒヤヒヤリコ」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「ヨーインソーリヤ」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「スガイキ」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「祇園ばやし」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「ドッコイソノーリヤ」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「ヒーヒヤリコ」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「ヒヤリコロ」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「帰り笛」		六沢町会
四賀地区	民俗芸能	神楽		
四賀地区	民俗芸能	神楽囃子「ミツサイナ」		
四賀地区	民俗芸能	神楽囃子「スガイキ」		
四賀地区	民俗芸能	神楽囃子「オヒヤヒヤリコ」		
四賀地区	民俗芸能	神楽囃子「神楽舞始め」		
四賀地区	民俗芸能	神楽囃子「翁の舞い」		
四賀地区	民俗芸能	神楽囃子「券の舞い」		
四賀地区	民俗芸能	神楽囃子「弁当箱の舞い」		
四賀地区	民俗芸能	神楽囃子「扇の舞い」		
四賀地区	民俗芸能	神楽囃子「閉の舞い」		
四賀地区	民俗芸能	神楽囃子「シラミとり」		
四賀地区	民俗芸能	獅子舞		六沢町会
四賀地区	文書	俳諧帳	文政2年(1819)	個人
四賀地区	行事	念仏講		六沢町会
四賀地区	石造物	馬頭観音	明治43年(1910)	同姓
四賀地区	石造物	馬頭観音	明治44年(1911)	個人
四賀地区	石造物	馬頭観音	弘化3年(1846)	個人
四賀地区	石造物	馬頭観音	大正13年(1924)	個人
四賀地区	石造物	馬頭観音	明治7年(1874)	個人
四賀地区	石造物	馬頭観音	寛政12年(1800)	個人
四賀地区	石造物	馬頭観音	大正12年(1923)	個人
四賀地区	絵画	絵図		六沢町会
四賀地区	絵画	掛軸		六沢町会
四賀地区	風習	両墓制		
四賀地区	行事	祭り		取出町会
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「出ばやし」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「？」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「スガイキ」		

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「どっこいどっこい」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「？」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「ソーレ」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「どっこい」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「上りばやし」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「舞台おさめばやし」		
四賀地区	その他	戸隠講		
四賀地区	その他	観音講		
四賀地区	石造物	石像(庚申舞台藏横)	享保年間(1716~1736) (戸田氏)	
四賀地区	建造物	高礼場		
四賀地区	跡地	堀跡		
四賀地区	行事	祭り		板場町会
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「一ツト矢」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「チャンチャンリッツ」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「新囃し」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「トロシヤリ(ハカ囃し)」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「上り」		
四賀地区	行事	三九郎	昭和30年(1955)	板場一里塚木戸組
四賀地区	その他	観音講		
四賀地区	その他	庚申講		
四賀地区	石造物	石像		
四賀地区	石造物	念仏塔(阿弥陀経二千部供養塔)	天明5年(1785)	個人
四賀地区	絵画	絵図	文久2年(1862)	板場町会
四賀地区	歴史資料	松本藩組鱗図		
四賀地区	絵画	絵図	慶応4年(1868)	個人
四賀地区	絵画	絵図	明治2年(1869)	個人
四賀地区	絵画	仏画	江戸時	板場一里塚庚申講 観音講13名
四賀地区	その他	地名 糸ヶふん		
四賀地区	その他	地名 山伏塚(やまぶしのつか)		
四賀地区	風習	善根宿(げこんやど)		
四賀地区	建造物	会田騒動襲撃の家	明治2年(1869)	個人
四賀地区	その他	州羽大明神発向 奉願	天保15年(1844)	板場諏訪社
四賀地区	跡地	一里塚跡		
四賀地区	行事	祭り		宮本町会
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「岡崎」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「教え歌(数え節)」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「宮入」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「？」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「？」		
四賀地区	行事	会田御厨神明宮例大祭		
四賀地区	民俗芸能	戸隠講		
四賀地区	民俗芸能	三峰講		
四賀地区	民俗芸能	庚申講		
四賀地区	行事	天狗靈神		
四賀地区	行事	そう=いすすめ		
四賀地区	建造物	銅製夜燈		会田神明宮
四賀地区	その他	さざれ石	平成23年(2011)	会田神明宮
四賀地区	記念碑	遷宮祭寄付者芳名記念碑	平成17年(2005)	会田神明宮

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
四賀地区	文書	俳諧版	明治30年(1897)	岩井堂町会
四賀地区	行事	祭り		西宮町会
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「道中ばやし」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「新ばやし」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「どっこいどっこい」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「三拍子ばやし」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「としゃりくずし」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「宮入ばやし」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「囃りの道中ばやし」		
四賀地区	行事	三峰講		
四賀地区	絵画	絵図	天保8年(1837)	西宮町会
四賀地区	民俗資料	写真	明治～昭和	西宮町会
四賀地区	行事	祭り		落水町会(法音寺)
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「道中ばやし」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「新ばやし」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「どっこいどっこい」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「三拍子ばやし」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「としゃりくずし」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「宮入ばやし」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「囃りの道中ばやし」		
四賀地区	行事	祭り		落水町会
四賀地区	行事	念仏講(法音寺百万遍)		
四賀地区	行事	お十夜		
四賀地区	行事	祭り		井刈町会
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「ちんころばやし」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「道中ばやし」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「どっこいどっこい」		
四賀地区	行事	念仏講(倉掛百万遍)		
四賀地区	行事	社宮神祭典		井刈(倉掛)
四賀地区	行事	妙鉢観音堂祭典		井刈(倉掛)
四賀地区	行事	八幡社祭典		井刈
四賀地区	行事	熊野社祭典		井刈
四賀地区	その他	御嶽講		
四賀地区	その他	庚申講		
四賀地区	文書	奈田組井刈村御絵図下吟味帳	元禄11年(1698)	
四賀地区	行事	祭り		執田光町会
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「どっこいどっこい」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「としゃり」		
四賀地区	その他	庚申講		
四賀地区	石造物	馬頭観音	明治18年(1885)	
四賀地区	石造物	馬頭観音	明治31年(1898)	
四賀地区	石造物	馬頭観音	平成18年(2006)	
四賀地区	石造物	鳥獸家畜慰霊碑		
四賀地区	建造物	稻荷社		
四賀地区	建造物	稻荷社		
四賀地区	建造物	稻荷社		

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
四賀地区	石造物	栗師堂周辺の石仏	平成23年(2011)	
四賀地区	石造物	道祖神		
四賀地区	建造物	奉安殿		会田神明宮
四賀地区	文書	書上帳		個人
四賀地区	絵画	絵図(宮本地籍図)	明治初期	個人
四賀地区	その他	奈田瓦の産地		
四賀地区	行事	祭り		本町町会
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「ひよろくづし」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「板場」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「ほたか」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「高三拍子」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「低三拍子」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「しろうき」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「岡崎」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「チャンチャンリス」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「教え唄」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「宮入」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「寄せ」		
四賀地区	その他	三峰講		
四賀地区	行事	柴ん葉祭(祇園祭、子供夏祭)		本町町会
四賀地区	民俗資料	立川流清水虎吉彫刻舞台	明治27年(1895)	
四賀地区	彫刻	木造彫刻 恵比寿・大黒天	明治8年(1875)	個人
四賀地区	石造物	道祖神		
四賀地区	記念碑	藤松長兵衛辞世の句碑		
四賀地区	行事	祭り		新町町会
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「宮イリ」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「ヨセ」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「ソリヤ」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「三拍子」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「トウトウシヤリコモ」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「どんどんラララララリ」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「オカザキ」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「かぞえうた」		
四賀地区	民俗芸能	祭囃子「ソウタイ進め」		
四賀地区	行事	しばんば祭り(子供まつり)	江戸時代と言われている	新町町会
四賀地区	行事	三九郎		新町町会
四賀地区	建造物	八幡宮		新町町会
四賀地区	建造物	天神社(天満宮)		新町町会
四賀地区	石造物	石造の祠		新町町会
四賀地区	絵画	絵図		新町町会
四賀地区	地形	小次郎岩		
四賀地区	行事	あずまい様		
四賀地区	行事	御嶽神社祭典		
四賀地区	行事	御観音堂祭典		
四賀地区	その他	戸隠講		
四賀地区	その他	三峰講		
四賀地区	その他	庚申講		
四賀地区	彫刻	如意輪観音(観音堂)		紛失
四賀地区	跡地	成仏跡		岩井堂町会
四賀地区	街道	立峠	明治16年(1883)～	

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
安曇地区	建造物	前田家風穴		個人
安曇地区	建造物	前田家風穴以外の風穴群		
安曇地区	湧水	水場(水道)		
安曇地区	建造物	代録殿		稲核町会
安曇地区	行事	七夕祭り		
安曇地区	建造物	徳心神社・徳住霊神		
安曇地区	石造物	石仏		
安曇地区	跡地	松本藩口留番所跡	寛永19年(1642)初見	個人
安曇地区	建造物	雑炊橋と今に伝わる伝説	天正10年(1582)初見	
安曇地区	建造物	黒岩不動明王		個人
安曇地区	用水	安曇村に最初にできた橋場水道		
安曇地区	街道	雑ざ道		
安曇地区	石造物	お宮の石仏群		
安曇地区	石造物	六地藏と馬頭観音	文政8年(1825)以降	
安曇地区	植物・樹木	国土交通省手前の桂の木		国
安曇地区	植物・樹木	唐松		国
安曇地区	植物・樹木	化粧柳		国
安曇地区	植物・樹木	唐松		国
安曇地区	植物・樹木	唐松		国
安曇地区	植物・樹木	ニレの木		国
安曇地区	歴史資料	明治時代の林野庁との契約書	明治21年(1888)	個人
安曇地区	歴史資料	湯元から湯壺に引き入れられる木管	明治20年(1887)頃	個人
安曇地区	街道	飛騨住米山越え新道(別名 小倉裏道)		国
安曇地区	地形	岳沢の風穴		国
安曇地区	地形	フカスの洞穴		国
安曇地区	地形	権隆穴		国
安曇地区	地形	護岸工事のしてない自然な川岸		国
安曇地区	その他	前穂山頂等の三角点	明治26年(1893)	国
安曇地区	建造物	権影橋	昭和3年(1928)	東京電力
安曇地区	建造物	野猿(やえん)		
安曇地区	記念碑	ウエストンレリーフ		日本山岳会
安曇地区	地形	滝谷花崗閃緑岩		国
安曇地区	建造物	嘉門次小屋・嘉門次の碑	明治	個人
安曇地区	記念碑	常さんの碑		中日新聞社
安曇地区	植物・樹木	徳沢の二輪草畑		国
安曇地区	植物・樹木	ハスターミナル周辺の唐松林	大正3年(1914)植林	国
安曇地区	植物・樹木	小梨の木		国
安曇地区	建造物	山の神		個人
安曇地区	建造物	穂高神社奥宮	昭和22年(1947)の獅子	穂高神社
安曇地区	民俗資料	穂高神社奥宮のお船の龍頭鑄首(りゅうとうげきしゆ、げきすとも言う)		穂高神社
安曇地区	植物・樹木	化粧ヤナギの木		国
安曇地区	建造物	温泉神社	明治20年(1887)	上高地温泉ホテル
安曇地区	その他	山岳遭難者の墓	昭和30年~50年(1955~1975)代	
安曇地区	植物・樹木	シウリザクラ		
安曇地区	植物・樹木	カツラの木		国

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
安曇地区	地形	小梨の風穴		
安曇地区	植物・樹木	カラマツの木		国
安曇地区	建造物	梓水神社と境内社		大野川町会氏子
安曇地区	建造物	地組による社殿の集まり		
安曇地区	石造物	八瀬尾神社	昭和5年(1930)	
安曇地区	建造物	釜場神社		
安曇地区	建造物	クワイ沢の山の神		
安曇地区	建造物	馬の背の山の神		
安曇地区	建造物	樽の木の山の神		
安曇地区	建造物	御池内の乗鞍権現社		
安曇地区	建造物	前峠の神社		
安曇地区	石造物	慈照寺の瑠璃光殿の庚申塔	享保6年(1721)	
安曇地区	石造物	慈照寺の瑠璃光殿の薬師如来		
安曇地区	石造物	慈照寺の石仏群		
安曇地区	石造物	梓水神社境内の石灯籠群		
安曇地区	石造物	梓水神社の鳥居南の道祖神		
安曇地区	石造物	中平の道祖神		
安曇地区	石造物	中平の不動明王		
安曇地区	石造物	マセロ(くち)の馬頭観音		
安曇地区	史跡	馬の背遺跡	縄文	
安曇地区	史跡	位沢遺跡(くらいざわ)	縄文・平安	
安曇地区	河川	大野川の滝		
安曇地区	植物・樹木	中平集落下の榎の木		
安曇地区	用水	御池(水池)		
安曇地区	建造物	伊勢二ノ宮神社		伊勢二ノ宮神社
安曇地区	石造物	神社境内にある石灯籠(6基)	文化8年(1811) 天保3年(1832)	
安曇地区	植物・樹木	神社境内の杉・ケヤキ		神社庁
安曇地区	建造物	柳神社		伊勢二ノ宮神社
安曇地区	石造物	お堂前の石仏群	元禄2年(1689)他	
安曇地区	石造物	コンピラの石仏群		
安曇地区	石造物	道祖神(双体像)		
安曇地区	石造物	御懸講の碑	天保13年(1842)	
安曇地区	石造物	山の神		
安曇地区	石造物	鈴木坊の供養塔		
安曇地区	記念碑	新刈橋についで		
安曇地区	植物・樹木	お墓の赤松		
安曇地区	植物・樹木	お墓のシダレザクラ		
安曇地区	植物・樹木	お堂のイチヨウ		
安曇地区	跡地	大野田土場	明治35年(1902)	
安曇地区	建造物	豊沢発電所	昭和3年(1928)	東京電力
安曇地区	跡地	池尻の岩跡	中世	
安曇地区	地形	池尻温泉		
安曇地区	建造物	三社明神	慶応2年(1866)創建	三社明神氏子会
安曇地区	石造物	道祖神		沢渡町会
安曇地区	街道	百間長屋		
安曇地区	行事	塞の神(セイノカミ)=三九郎		
安曇地区	記念碑	石碑	明治42年(1909)	

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
安曇地区	建造物	島々神社		島々神社
安曇地区	建造物	秀綱様	天正13年(1585)	島々神社
安曇地区	建造物	風穴		
安曇地区	その他	三光石		
安曇地区	石造物	石碑	明治34年(1901)	
安曇地区	石造物	石仏と石碑群		
安曇地区	石造物	釘念仏の石碑		
安曇地区	石造物	徳本の名号塔		
安曇地区	街道	徳本峠登山道		
安曇地区	植木・樹木	島々谷川堤防の桜		
安曇地区	跡地	諏訪電茶壺所跡と水路	大正8年(1919)	
安曇地区	跡地	製紙工場跡	明治32年(1899)	
安曇地区	石造物	道祖神		
安曇地区	建造物	土蔵鏝絵(こて絵)		個人
安曇地区	湧水	湧き水(中や筋)		個人
安曇地区	石造物	道祖神		
安曇地区	民俗芸能	獅子舞		島々獅子舞保存会
安曇地区	民俗芸能	浦安の舞		
安曇地区	民俗芸能	屋台の手拍子・太鼓		
安曇地区	行事	念仏会		念仏会
安曇地区	記念碑	三木秀綱夫人遭難碑		島々神社
安曇地区	跡地	炭焼きがま	江戸～昭和	
安曇地区	跡地	花木の石炭露跡	天保4年(1833)頃	
安曇地区	建造物	岩魚溜め小屋		個人
安曇地区	植木・樹木	三本松		松本建設事務所
安曇地区	歴史資料	昭和20年の水害資料		個人
安曇地区	跡地	番島吊り橋	大正12年(1923)	
安曇地区	跡地	島々谷トロッコ	大正3年(1914)	東京電力
安曇地区	建造物	竜神様		
安曇地区	建造物	お不動様		
安曇地区	その他	島々鍛冶と島々籠		
安曇地区	石造物	三十三観音		
安曇地区	地形	隠通し・冠水渠		
安曇地区	建造物	白骨の山の神		
安曇地区	建造物	薬師堂・薬師如来		
安曇地区	記念碑	中里介山文学碑	昭和29年(1954)	
安曇地区	記念碑	若山牧水・貴志子の碑		
安曇地区	跡地	大樋銀山	近世	大野川区
安曇地区	跡地	石灰の釜場	明治～昭和	
安曇地区	石造物	武田信玄の石の地図		スキー場
安曇地区	建造物	一ノ瀬のわらひ小屋	江戸～大正	大野川区
安曇地区	建造物	コロナ観測所	昭和24年(1949)	
安曇地区	建造物	真大ヒュッテ	昭和15年(1940)	東京大学
安曇地区	石造物	摩利支天像		大野川区
安曇地区	石造物	荒澤不動明王		
安曇地区	石造物	宝徳霊神 石仏群		
安曇地区	河川	冷泉の滝		
安曇地区	石造物	摩利支天石仏群		

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
安曇地区	記念碑	南極観測隊慰霊碑	昭和32年(1957)	
安曇地区	石造物	如意輪観音	江戸	
安曇地区	石造物	廻国塔	文政3年(1820)	
安曇地区	石造物	廻国塔	文政3年(1820)	
安曇地区	石造物	名号塔	文政3年(1820)	
安曇地区	石造物	読誦供養塔	文政3年(1820)	
安曇地区	石造物	廻国塔	天保2年(1831)	
安曇地区	石造物	名号塔	元文2年(1737)	
安曇地区	石造物	不明		
安曇地区	石造物	聖観音力	宝暦2年(1752)	
安曇地区	石造物	墓碑力	享保7年(1722)	
安曇地区	石造物	墓碑力		
安曇地区	石造物	墓碑力		
安曇地区	石造物	馬頭観音	明治16年(1883)	
安曇地区	石造物	墓碑力		
安曇地区	石造物	馬頭観音		
安曇地区	石造物	地蔵力	元禄8年(1695)	
安曇地区	石造物	聖観音力	元禄元年(1688)	
安曇地区	石造物	地蔵菩薩		
安曇地区	石造物	六地藏		
安曇地区	石造物	六地藏		
安曇地区	石造物	六地藏		
安曇地区	石造物	六地藏		
安曇地区	石造物	六地藏		
安曇地区	石造物	六地藏		
安曇地区	石造物	六地藏		
安曇地区	石造物	六地藏		
安曇地区	石造物	六地藏		
安曇地区	石造物	六地藏		
安曇地区	石造物	大日如来	嘉永3年(1850)	
安曇地区	石造物	二十三夜塔	弘化2年(1845)	
安曇地区	石造物	供養塔	嘉永4年(1851)	
安曇地区	石造物	手水鉢		
安曇地区	石造物	廻国塔	文化8年(1811)	
安曇地区	石造物	如意輪観音		
安曇地区	石造物	西国三十三観音		
安曇地区	石造物	如意輪観音		
安曇地区	石造物	西国三十三観音		
安曇地区	石造物	十一面観音		
安曇地区	石造物	西国三十三観音		
安曇地区	石造物	千手観音		
安曇地区	石造物	西国三十三観音		
安曇地区	石造物	千手観音		
安曇地区	石造物	西国三十三観音		
安曇地区	石造物	十一面観音力		
安曇地区	石造物	西国三十三観音		
安曇地区	石造物	千手観音		
安曇地区	石造物	西国三十三観音		
安曇地区	石造物	如意輪観音		
安曇地区	石造物	西国三十三観音		
安曇地区	石造物	十一面観音		
安曇地区	石造物	馬頭観音		
安曇地区	石造物	西国三十三観音		
安曇地区	石造物	千手観音		

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
安曇地区	石造物	名号塔	天保11年(1840)	
安曇地区	石造物	馬頭観音		
安曇地区	石造物	大日如来	大正3年(1914)	
安曇地区	石造物	馬頭観音	大正4年(1915)	
安曇地区	石造物	馬頭観音		
安曇地区	石造物	大日如来		
安曇地区	石造物	馬頭観音		
安曇地区	石造物	馬頭観音		
安曇地区	石造物	大日如来		
安曇地区	石造物	馬頭観音	大正15年(1926)	
安曇地区	石造物	馬頭観音	大正15年(1926)	
安曇地区	石造物	馬頭観音	大正11年(1922)	
安曇地区	石造物	馬頭観音	明治28年(1895)	
安曇地区	石造物	馬頭観音		
安曇地区	石造物	馬頭観音	大正11年(1922)	
安曇地区	石造物	大日如来	大正11年(1922)	
安曇地区	石造物	馬頭観音		
安曇地区	石造物	靈神碑	大正8年(1919)	
安曇地区	石造物	馬頭観音	明治18年(1885)	
安曇地区	石造物	馬頭観音	明治30年(1897)	
安曇地区	石造物	地藏	大正2年(1913)	
安曇地区	石造物	馬頭観音	昭和5年(1930)	
安曇地区	石造物	大日如来	大正3年(1914)	
安曇地区	石造物	大日如来	嘉永2年(1840)	
安曇地区	石造物	馬頭観音	明治14年(1881)	
安曇地区	石造物	馬頭観音	昭和37年(1962)	
安曇地区	石造物	六地藏		
安曇地区	石造物	六地藏		
安曇地区	石造物	六地藏		
安曇地区	石造物	六地藏		
安曇地区	石造物	六地藏		
安曇地区	石造物	六地藏		
安曇地区	石造物	聖観音	天保6年(1835)	
安曇地区	石造物	馬頭観音	大正4年(1915)	
安曇地区	石造物	馬頭観音	明治24年(1891)	
安曇地区	石造物	馬頭観音	大正11年(1922)	
安曇地区	石造物	馬頭観音	文政8年(1825)	
安曇地区	石造物	大日如来	文化4年(1807)	
安曇地区	石造物	聖観音	寛政7年(1795)	
安曇地区	石造物	坂東三十三番十一面観音		
安曇地区	石造物	坂東三十三番十一面観音		
安曇地区	石造物	坂東三十三番十一面観音		
安曇地区	石造物	坂東三十三番十手観音(座)		
安曇地区	石造物	坂東三十三番十一面観音		

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
安曇地区	石造物	西国三十三観音准庇観音		
安曇地区	石造物	西国三十三観音千手観音		
安曇地区	石造物	西国三十三観音如意輪観音		
安曇地区	石造物	西国三十三観音如意輪観音		
安曇地区	石造物	西国三十三観音如意輪観音		
安曇地区	石造物	西国三十三観音如意輪観音		
安曇地区	石造物	西国三十三観音聖観音		
安曇地区	石造物	西国三十三観音十一面観音		
安曇地区	石造物	西国三十三観音千手観音		
安曇地区	石造物	西国三十三観音十一面観音		
安曇地区	石造物	西国三十三観音千手観音		
安曇地区	石造物	西国三十三観音聖観音		
安曇地区	石造物	西国三十三観音十一面観音		
安曇地区	石造物	西国三十三観音千手観音		
安曇地区	石造物	西国三十三観音如意輪観音		
安曇地区	石造物	西国三十三観音聖観音		
安曇地区	石造物	西国三十三観音馬頭観音		
安曇地区	石造物	西国三十三観音十一面観音		
安曇地区	石造物	西国三十三観音千手観音		
安曇地区	石造物	西国三十三観音千手観音		
安曇地区	石造物	西国三十三観音如意輪観音		
安曇地区	石造物	西国三十三観音聖観音		
安曇地区	石造物	西国三十三観音馬頭観音		
安曇地区	石造物	西国三十三観音十一面観音		
安曇地区	石造物	西国三十三観音千手観音		
安曇地区	石造物	西国三十三観音千手観音		
安曇地区	石造物	西国三十三観音如意輪観音		
安曇地区	石造物	西国三十三観音十一面観音		
安曇地区	石造物	西国三十三観音千手観音		
安曇地区	石造物	西国三十三観音千手観音		
安曇地区	石造物	西国三十三観音如意輪観音		
安曇地区	石造物	西国三十三観音聖観音		
安曇地区	石造物	西国三十三観音千手観音		
安曇地区	石造物	西国三十三観音如意輪観音		
安曇地区	石造物	西国三十三観音墓碑(塚)		
安曇地区	石造物	納経供養塔		
安曇地区	石造物	青面金剛		
安曇地区	石造物	康申塔		
安曇地区	石造物	念仏塔		
安曇地区	石造物	二十三夜塔	元文2年(1737)	
安曇地区	石造物	不明		

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
安曇地区	石造物	西国三十三番馬頭観音		
安曇地区	石造物	西国三十三番十一面千手観音		
安曇地区	石造物	西国三十三番聖観音		
安曇地区	石造物	西国三十三番如意輪観音		
安曇地区	石造物	西国三十三番十一面観音		
安曇地区	石造物	西国三十三番十一面千手観音		
安曇地区	石造物	西国三十三番千手観音		
安曇地区	石造物	西国三十三番千手観音		
安曇地区	石造物	西国三十三番十一面千手観音		
安曇地区	石造物	西国三十三番如意輪観音		
安曇地区	石造物	巡拝塔	嘉永2年(1849)	
安曇地区	石造物	無縫塔		
安曇地区	石造物	地藏菩薩		
安曇地区	石造物	墓碑		
安曇地区	石造物	二十三夜塔		
安曇地区	石造物	名号塔		
安曇地区	石造物	三界万霊塔		
安曇地区	石造物	地藏菩薩		
安曇地区	石造物	地藏菩薩		
安曇地区	石造物	六地藏		
安曇地区	石造物	六地藏		
安曇地区	石造物	六地藏		
安曇地区	石造物	六地藏		
安曇地区	石造物	六地藏		
安曇地区	石造物	六地藏		
安曇地区	石造物	石灯笼	寛政12年(1800)	
安曇地区	石造物	地藏菩薩		
安曇地区	石造物	聖観音	嘉永元年(1848)	
安曇地区	石造物	聖観音力		
安曇地区	石造物	大日如来		
安曇地区	石造物	馬頭観音		
安曇地区	石造物	馬頭観音		
安曇地区	石造物	六地藏		
安曇地区	石造物	六地藏		
安曇地区	石造物	六地藏		
安曇地区	石造物	六地藏		
安曇地区	石造物	六地藏		
安曇地区	石造物	六地藏		
安曇地区	石造物	六地藏		
安曇地区	石造物	行者像		
安曇地区	石造物	不動明王		

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
安曇地区	石造物	石灯笼(一对)	文政13年(1830)	
安曇地区	石造物	石灯笼(一对)	慶応2年(1866)	
安曇地区	石造物	香造碑	文久3年(1863)	
安曇地区	石造物	石灯笼(一对)	文久元年(1861)	
安曇地区	石造物	石灯笼(一对)	文化13年(1816)	
安曇地区	石造物	石灯笼(一对)	文政9年(1826)	
安曇地区	石造物	名号塔	嘉永2年(1849)	
安曇地区	石造物	神仏碑		
安曇地区	石造物	地藏菩薩	天明5年(1785)	
安曇地区	石造物	青面金剛	享保6年(1721)	
安曇地区	石造物	地藏菩薩		
安曇地区	石造物	西国三十三番十一面千手観音		
安曇地区	石造物	西国三十三番千手観音		
安曇地区	石造物	西国三十三番聖観音		
安曇地区	石造物	西国三十三番馬頭観音		
安曇地区	石造物	西国三十三番聖観音		
安曇地区	石造物	西国三十三番如意輪観音		
安曇地区	石造物	西国三十三番十一面観音		
安曇地区	石造物	西国三十三番聖観音		
安曇地区	石造物	西国三十三番聖観音		
安曇地区	石造物	西国三十三番十一面観音		
安曇地区	石造物	西国三十三番聖観音		
安曇地区	石造物	西国三十三番聖観音		
安曇地区	石造物	西国三十三番十一面観音		
安曇地区	石造物	西国三十三番聖観音		
安曇地区	石造物	西国三十三番聖観音		
安曇地区	石造物	西国三十三番准胝観音		
安曇地区	石造物	西国三十三番聖観音		
安曇地区	石造物	西国三十三番如意輪観音		
安曇地区	石造物	西国三十三番聖観音		
安曇地区	石造物	西国三十三番千手観音		
安曇地区	石造物	西国三十三番聖観音		

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
奈川地区	石造物	お宮入口石像仏群		
奈川地区	石造物	御嶽口		
奈川地区	石造物	御嶽山座王大権現	弘化2年(1845)	
奈川地区	石造物	馬頭観世音 蚕玉神社	明治27年(1894)	
奈川地区	石造物	廿三夜 妙見尊	嘉永4年(1851)	
奈川地区	石造物	須佐之男命	明治34年(1901)	
奈川地区	石造物	塔		
奈川地区	石造物	月夜沢入口石像仏群		
奈川地区	石造物	南無阿弥陀仏		
奈川地区	石造物	道祖神		
奈川地区	石造物	馬頭観世音	明治6年(1873)	
奈川地区	石造物	蚕玉神社	明治26年(1893)	
奈川地区	石造物	馬頭観音		
奈川地区	石造物	金毘羅大権現	天保15年(1844)	
奈川地区	彫刻	小祠		
奈川地区	石造物	青面金剛(庚申)		
奈川地区	石造物	如意輪観音		
奈川地区	石造物	馬頭観音		
奈川地区	石造物	不明		
奈川地区	石造物	墓		
奈川地区	石造物	常夜塔	享和3年(1803)	
奈川地区	石造物	南無大慈悲観音菩薩	正徳6年(1716)	
奈川地区	建造物	六地藏覆い屋		
奈川地区	石造物	六地藏+1地藏		
奈川地区	石造物	大日如来		
奈川地区	石造物	阿弥陀如来力		
奈川地区	石造物	馬頭観世音	大正2年(1913)	
奈川地区	石造物	大日如来	明治44年(1911)	
奈川地区	石造物	馬頭観音	明治27年(1894)	
奈川地区	石造物	大日如来	大正4年(1915)	
奈川地区	石造物	大日如来	文政7年(1824)	
奈川地区	石造物	筆塚	明治43年(1910)	
奈川地区	建造物	秋葉神社		
奈川地区	建造物	本殿		
奈川地区	建造物	祠		
奈川地区	石造物	子安諏訪大明神	大正元年(1912)	
奈川地区	建造物	奥社		
奈川地区	石造物	火皇産神		
奈川地区	石造物	大日如来		
奈川地区	石造物	避難小屋と碑文		
奈川地区	石造物	石碑「南無観世音菩薩」	文政8年(1825)	
奈川地区	石造物	石室	昭和62年(1987)	
奈川地区	石造物	道祖神	再建	
奈川地区	石造物	比丘尼の墓	昭和62年(1987)	
奈川地区	石造物	如意輪観音菩薩	天保5年(1834年)	
奈川地区	石造物	野峯峠石仏群		
奈川地区	石造物	地藏菩薩		
奈川地区	石造物	如意輪観音		
奈川地区	石造物	地藏菩薩		

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
奈川地区	石造物	不明		
奈川地区	その他	石仏再建の記	昭和55年(1980)	
奈川地区	記念碑	句碑		
奈川地区	石造物	五輪塔		
奈川地区	石造物	工女の像		
奈川地区	石造物	保平石仏群		
奈川地区	石造物	馬頭観世音	明治34年(1901)	
奈川地区	石造物	大日如来	文化7年(1810)	
奈川地区	石造物	勢至菩薩		
奈川地区	石造物	妙見尊	安政4年(1857)	
奈川地区	石造物	御嶽神社	大正11年(1922)	
奈川地区	石造物	保平石仏群+水場入口		
奈川地区	石造物	大日如来	昭和2年(1927)	
奈川地区	石造物	えのきの巨木		
奈川地区	石造物	馬頭観世音	昭和2年(1927)	
奈川地区	石造物	大日如来		
奈川地区	建造物	保平お堂		
奈川地区	石造物	庚申		
奈川地区	石造物	六地藏		
奈川地区	石造物	丸彫り立像		
奈川地区	石造物	丸彫り立像		
奈川地区	石造物	地藏菩薩		
奈川地区	石造物	観音菩薩		
奈川地区	石造物	丸彫り立像		
奈川地区	石造物	丸彫り立像		
奈川地区	石造物	浮かし彫り	明治41年(1908)	
奈川地区	石造物	大岩不動尊	昭和34年(1959)	
奈川地区	石造物	大日如来	明治36年(1903)	
奈川地区	石造物	水神		
奈川地区	石造物	馬頭観世音		
奈川地区	石造物	保平お宮石仏群		
奈川地区	石造物	建速須佐之男大神	明治34年(1901)	
奈川地区	石造物	蚕玉大神		
奈川地区	石造物	大山祇命		
奈川地区	石造物	秋葉神社 火皇産神	明治41年(1908)	
奈川地区	石造物・建造物	神谷新洞口石仏・お堂		
奈川地区	石造物	馬頭観世音		
奈川地区	石造物	二十三夜	弘化2年(1845)	
奈川地区	石造物	奉巡洋西國祇父坂東大悲道場	元治2年(1865)	
奈川地区	石造物	道祖神	寛政元年(1789)	
奈川地区	石造物	正一位 稻荷明神 蚕玉神社		
奈川地区	石造物	馬頭観世音	昭和2年(1927)	
奈川地区	建造物	お堂		
奈川地区	石造物	三十三観音 六地藏		
奈川地区	石造物	西國三十三所供養塔	弘化2年(1845)	
奈川地区	石造物	八幡尊		
奈川地区	石造物	蚕玉大神	明治38年(1905)	
奈川地区	石造物	不動妙王 大日如来	大正14年(1925)	
奈川地区	石造物	八幡大神	大正4年(1915)	

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
奈川地区	石造物	神谷大神	大正4年(1915)	
奈川地区	石造物	大山樫太口	昭和16年(1941)	
奈川地区	用水	洞窟		
奈川地区	石造物	大岩不動尊	大正14年(1925)	
奈川地区	石造物	不明		
奈川地区	石造物	馬頭観音菩薩	大正4年(1915)	
奈川地区	石造物	石柱	文久3年(1863)	
奈川地区	石造物	奉塔(左)	明治34年(1901)	
奈川地区	石造物	奉塔(右)		
奈川地区	石造物	道標	明治14年(1881)	寄合度町会
奈川地区	跡地	番所跡	文久4年(1864)	
奈川地区	その他	郵便ポスト		
奈川地区	記念碑	勝山殿翁顕彰碑	大正11年(1922)	
奈川地区	建造物	天宮大明神(てんぐうだいみょうじん)		
奈川地区	石造物	天宮大明神		
奈川地区	建造物	寄合渡神社		
奈川地区	建造物	天宮大明神境内南側石仏群		
奈川地区	石造物	天神	明治35年(1902)	
奈川地区	石造物	番玉大神	明治27年(1894)	
奈川地区	石造物	馬頭観世音	明治44年(1911)	
奈川地区	石造物	馬頭観世音	明治27年(1894)	
奈川地区	石造物	安翁喜禮信士 霊位	昭和29年(1954)	
奈川地区	石造物	山田金吉郎之墓	明治30年(1897)	
奈川地区	石造物	義勇孩児		
奈川地区	石造物	水防の石	明治6年(1873)	
奈川地区	石造物	祠		
奈川地区	石造物	寄合渡石仏群		
奈川地区	石造物	馬頭観音	明治13年(1880)	
奈川地区	石造物	馬頭観音	明治12年(1879)	
奈川地区	石造物	馬頭観音	明治13年(1880)	
奈川地区	石造物	馬頭観音	明治39年(1906)	
奈川地区	石造物	馬頭観世音	明治41年(1908)	
奈川地区	石造物	馬頭観世音	明治39年(1906)	
奈川地区	石造物	馬頭観世音	明治44年(1911)	
奈川地区	石造物	厄除 道祖神	昭和46年(1971)	
奈川地区	石造物	道祖神		
奈川地区	石造物	馬頭観世音		
奈川地区	石造物	馬頭観世音	明治30年(1897)	
奈川地区	石造物	馬頭観世音	昭和2年(1927)	
奈川地区	石造物	三十三観音		
奈川地区	石造物	馬頭観世音	明治27年(1894)	
奈川地区	石造物	二十三夜塔	明治24年(1891)	
奈川地区	石造物	庚申講中	享和3年(1803)	
奈川地区	石造物	南無阿弥陀佛		
奈川地区	石造物	不明		
奈川地区	石造物	念佛石書供養塔		
奈川地区	石造物	馬頭観音	嘉永2年(1849)	
奈川地区	彫刻	阿弥陀様	安政7年(1860)	
奈川地区	彫刻	葉師如来		

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
奈川地区	彫刻	秋葉様		
奈川地区	彫刻	地藏菩薩力		
奈川地区	石造物	大山祇大神	昭和10年(1935)	寄合度上組
奈川地区	石造物	大日如来群 7体		
奈川地区	石造物	大日如来	昭和45年(1970)	
奈川地区	石造物	大日如来		
奈川地区	石造物	大日如来		
奈川地区	石造物	御藏神社		
奈川地区	石造物	大日如来		
奈川地区	石造物	大日如来		
奈川地区	石造物	大日如来	昭和13年(1938)	
奈川地区	石造物	大日如来	大正6年(1917)	
奈川地区	建造物	祠	昭和57年(1982)	
奈川地区	石造物	大日如来		
奈川地区	石造物	大日如来		
奈川地区	石造物	大日如来	安永7年(1778)	
奈川地区	石造物	道標		
奈川地区	石造物	道標		
奈川地区	石造物	聖観音菩薩力	寛政10年(1798)	寄合度町会
奈川地区	建造物	不動妙王 祭壇(斉藤家)	明治初期	個人
奈川地区	彫刻	木造丸彫り立像		
奈川地区	彫刻	矜羯羅童子(こんがらうし)		
奈川地区	彫刻	不動明王		
奈川地区	工芸	剣		
奈川地区	彫刻	制多迦童子(せいいたかどうし)		
奈川地区	工芸	伝説の刀		
奈川地区	工芸	修験棒と雑刀	文化7年(1810)	
奈川地区	絵画	掛け軸(不動明王の後ろ)		
奈川地区	民俗資料	秋葉様 のぼり		
奈川地区	建造物	秋葉神社 鳥居		
奈川地区	建造物	秋葉神社		
奈川地区	行事	秋葉神社 清掃とお参りの様子		
奈川地区	石造物	曹高坂石像仏群		
奈川地区	石造物	二十三夜塔	文政7年(1824)	
奈川地区	石造物	水神	明治36年(1903)	
奈川地区	石造物	不明		
奈川地区	石造物	地藏菩薩		
奈川地区	石造物	大開山覚明霊神	明治18年(1885)	
奈川地区	石造物	御藏山大権現		
奈川地区	石造物	金毘羅山大権現		
奈川地区	石造物	普賢霊神		
奈川地区	記念碑	丸山彌七記念碑	昭和16年(1941)	
奈川地区	石造物	不動明王		
奈川地区	石造物	不動尊	昭和4年(1929)	
奈川地区	石造物	常夜燈	天明6年(1786)	
奈川地区	石造物	大地蔵		
奈川地区	石造物	如意輪観音菩薩		
奈川地区	石造物	供養塔		
奈川地区	石造物	道祖神		
奈川地区	石造物	不明		

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
奈川地区	石造物	庚申	延享4年(1747)	
奈川地区	石造物	春巡礼西園稻父坂東南無観世音菩薩供養塔	安永7年(1778)	
奈川地区	石造物	地藏		
奈川地区	石造物	台座のみ		
奈川地区	建造物	龍谷山小沢寺(りゅうこうざんこざでら)	昭和53年(1978)	
奈川地区	彫刻	阿弥陀如来		
奈川地区	絵画	大日如来		
奈川地区	石造物	馬頭尊	明治29年(1896)	
奈川地区	石造物	大日如来	明治34年(1901)	
奈川地区	石造物	馬頭観世音	明治34年(1901)	
奈川地区	石造物	大日如来	昭和5年(1930)	
奈川地区	石造物	大日如来	昭和10年(1935)	
奈川地区	石造物	不明		
奈川地区	石造物	馬頭観世音		
奈川地区	建造物	秋葉神社		
奈川地区	その他	秋葉神社札		
奈川地区	石造物	蚕玉大神		
奈川地区	石造物	馬頭尊	明治32年(1899)	
奈川地区	建造物	大平神社	昭和27年(1952)	大平町会
奈川地区	工芸	大平神社ご神体	明治38(1905)	
奈川地区	石造物	蚕玉神	昭和2年(1927)	大平町会
奈川地区	建造物	山神		大平町会
奈川地区	石造物	勝山様の鞍掛石		
奈川地区	民俗資料	金庫		
奈川地区	石造物	大平石仏群		
奈川地区	石造物	大日如来	昭和18年(1943)	大平町会
奈川地区	石造物	辨天尊	明治41年(1908)	大平町会
奈川地区	石造物	馬頭観世音		
奈川地区	石造物	大日如来	明治44年(1911)	大平町会
奈川地区	建造物	大地蔵覆い屋		大平町会
奈川地区	石造物	大地蔵		
奈川地区	石造物	勢至菩薩		
奈川地区	石造物	聖観音菩薩		
奈川地区	石造物	地藏菩薩		
奈川地区	石造物	馬頭観音		
奈川地区	石造物	辨財尊		
奈川地区	石造物	馬頭口		大平町会
奈川地区	石造物	姿谷不動(尊)	明治44年(1911)	
奈川地区	石造物	半富坊大権現	明治26年(1893)	
奈川地区	石造物	三界萬霊有縁無縁塔	大正3年(1914)	
奈川地区	石造物	菅谷不動尊(すがたにふどうそん)		
奈川地区	石造物	不明		
奈川地区	石造物	馬頭観世音	大正15年(1926)	
奈川地区	石造物	不動明王	大正4年(1915)	
奈川地区	石造物	大日尊		大平町会
奈川地区	石造物	戸隠神社	昭和13年(1938)	個人
奈川地区	石造物	馬頭観世音		
奈川地区	石造物	地藏菩薩		

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
奈川地区	建造物	柏木阿弥陀堂(カシヤギノアマミダドウ)		
奈川地区	文書	表具寄付者名簿	昭和10年(1935)	
奈川地区	建造物	掛け軸の間		
奈川地区	建造物	祠の間		
奈川地区	彫刻	祠内の仏像		
奈川地区	工芸	銅鏡		
奈川地区	石造物	お墓		
奈川地区	植物・樹木	桜の巨木		
奈川地区	植物・樹木	蕨香の大木		
奈川地区	石造物	馬頭観世音	昭和29年(1954)	
奈川地区	建造物	追平神社 拜殿		
奈川地区	建造物	本殿		
奈川地区	建造物	祠		
奈川地区	工芸	銅鏡		
奈川地区	その他	三社		
奈川地区	建造物	庚申様の覆い屋と祠		
奈川地区	石造物	庚申様		
奈川地区	石造物	蚕玉神、二十三夜	明治4年(1871) 二十三日夜 嘉永2年(1849)	
奈川地区	石造物	三十三観音、六地藏 覆い屋		
奈川地区	石造物	三十三観音		
奈川地区	石造物	六地藏		
奈川地区	石造物	覆い屋北側石像物群		
奈川地区	石造物	観世音以他力建之	寛政元年(1789)	
奈川地区	石造物	不明		
奈川地区	石造物	大日如来	寛政11年(1799)	
奈川地区	石造物	地藏菩薩		
奈川地区	石造物	覆い屋右下石像物群		
奈川地区	石造物	①聖至菩薩		
奈川地区	石造物	②馬頭観世音		
奈川地区	石造物	③蚕玉神社		
奈川地区	石造物	④馬頭観世音		
奈川地区	石造物	⑤馬頭観世音		
奈川地区	石造物	墓東側石仏群		
奈川地区	石造物	①墓		
奈川地区	石造物	②不明		
奈川地区	石造物	③義徳禅	明治18年(1885)	
奈川地区	石造物	④不明		
奈川地区	石造物	旧道脇文字碑群		
奈川地区	石造物	①(雲)(外)旧水上座		
奈川地区	石造物	馬頭観音		
奈川地区	石造物	②奉書 石字経王塔	安永2年(1773)	
奈川地区	跡地	秋葉神社		
奈川地区	絵画	阿弥陀堂阿弥陀様(掛軸)		
奈川地区	植物・樹木	イチイ		
奈川地区	石造物	金原湊水場脇石像仏群		
奈川地区	石造物	地藏菩薩		
奈川地区	石造物	墓 3墓		
奈川地区	石造物	不動明王		

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
奈川地区	石造物	地藏菩薩		
奈川地区	石造物	文字碑又は墓		
奈川地区	石造物	墓	文政13年(1830)	
奈川地区	石造物	地藏菩薩		
奈川地区	石造物	六地藏		
奈川地区	石造物	西國坂東秩父順礼供養塔	安永3年(1774)	
奈川地区	石造物	馬頭觀世音	明治34年(1901)	
奈川地区	石造物	地藏菩薩	明治14年(1881)	
奈川地区	石造物	馬頭觀世音		
奈川地区	石造物	馬頭觀世音	大正6年(1917)	
奈川地区	石造物	墓		
奈川地区	石造物	不明	享保2年(1717)	
奈川地区	石造物	大日如来	昭和53年(1978)	個人
奈川地区	石造物	牛生死靈菩提也	安永7年(1778)	
奈川地区	石造物	小山原石像仏群		
奈川地区	石造物	不明		
奈川地区	石造物	二十三夜塔		
奈川地区	石造物	無外和尚碑		
奈川地区	石造物	西国供養塔	享和3年(1803)	
奈川地区	石造物	三界萬靈塔	寛政元年(1789)	
奈川地区	石造物	常夜塔		
奈川地区	石造物	奉巡礼西國三拾三所供養塔	享和3年(1803)	
奈川地区	石造物	三界萬靈塔	寛政12年(1800)	
奈川地区	石造物	番玉神		
奈川地区	石造物	南無阿弥陀仏		
奈川地区	石造物	高王白衣觀音經供養塔	文政3年(1820)	
奈川地区	石造物	山神社		
奈川地区	石造物	奉巡礼西國坂東秩父供養塔	文化3年(1806)	
奈川地区	石造物	馬頭觀世音		
奈川地区	石造物	奉納西國三十三所塔	文政3年(1820)	
奈川地区	石造物	奉安置秩父大悲靈場	弘化2年(1845)	
奈川地区	石造物	馬頭觀世音	大正4年(1916)	
奈川地区	石造物	馬頭觀世音	明治15年(1882)	
奈川地区	石造物	馬頭觀世音	昭和7年(1932)	
奈川地区	石造物	馬頭觀世音	大正5年(1916)	
奈川地区	石造物	馬頭觀世音	昭和6年(1931)	
奈川地区	石造物	馬頭觀世音菩薩	大正11年(1922)	
奈川地区	石造物	馬頭觀世音	昭和32年(1957)	
奈川地区	石造物	道祖神		
奈川地区	石造物	馬頭觀世音		
奈川地区	石造物	馬頭觀世音	昭和19年(1944)	
奈川地区	石造物	馬頭觀世音		
奈川地区	石造物	馬頭觀世音		
奈川地区	石造物	大日如来	大正8年(1919)	
奈川地区	石造物	大日如来	昭和32年(1957)	
奈川地区	石造物	大日如来	大正11年(1922)	
奈川地区	石造物	大日如来	大正6年(1917)	
奈川地区	石造物	地藏菩薩		
奈川地区	石造物	青面金剛		
奈川地区	石造物	台座		

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
奈川地区	石造物	虚空藏菩薩	弘化2年(1845)	
奈川地区	石造物	馬頭觀世音	明治13年(1880)	
奈川地区	石造物	大岩不動尊		
奈川地区	石造物	墓		
奈川地区	石造物	大日如来		
奈川地区	石造物	大日如来	大正4年(1915)	
奈川地区	石造物	大日如来	大正6年(1917)	
奈川地区	石造物	三十三觀音		
奈川地区	石造物	古宿坂石仏群		
奈川地区	石造物	大日如来		
奈川地区	石造物	觀音菩薩	昭和9年(1934)	
奈川地区	石造物	大日如来		
奈川地区	植物・樹木	松の巨木		
奈川地区	石造物	六地藏		
奈川地区	石造物	九輪塔	宝曆12年(1762)	
奈川地区	石造物	蚕神		
奈川地区	記念碑	館跡碑		
奈川地区	建造物	洞	昭和56年(1981)	
奈川地区	建造物	蠶玉神社		
奈川地区	石造物	金毘羅大権現	弘化2年(1845)	
奈川地区	建造物	薬師殿・湯神社		
奈川地区	石造物	しふた丸坂石仏群		
奈川地区	石造物	夜燈	文政5年(1822)	
奈川地区	石造物	廿三夜	弘化2年(1845)	
奈川地区	石造物	聖觀音菩薩		
奈川地区	石造物	六地藏		
奈川地区	石造物	如意輪觀音		
奈川地区	石造物	庚申		
奈川地区	石造物	道下石仏群		
奈川地区	石造物	馬頭觀世音	明治27年(1894)	
奈川地区	石造物	大岩不動尊		
奈川地区	石造物	大日如来		
奈川地区	石造物	奉巡礼西國秩父坂東供養塔	安政2年(1855)	
奈川地区	石造物	馬頭觀世音	明治34年(1901)	
奈川地区	石造物	駒が原石仏群		
奈川地区	石造物	不動明王	大正3年(1914)	
奈川地区	石造物	馬頭觀世音	明治13年(1880)	
奈川地区	石造物	大日如来		
奈川地区	石造物	六地藏		
奈川地区	石造物	庚申塔 青面金剛	寛政12年(1800)	
奈川地区	石造物	聖觀音菩薩	文化8年(1811)	
奈川地区	石造物	馬頭觀世音		
奈川地区	石造物	廿三夜供養塔	文政11年(1828)	
奈川地区	石造物	牛馬守護大日如来馬頭觀世音	大正12年(1923)	
奈川地区	石造物	奉巡礼西國秩父坂東供養塔	文政11年(1828)	
奈川地区	石造物	馬頭觀世音	大正3年(1914)	
奈川地区	石造物	大日如来	昭和12年(1937)	
奈川地区	建造物	山神社		
奈川地区	石造物	番玉神		
奈川地区	建造物	大山神社		

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
奈川地区	建造物	十王阿弥陀堂		
奈川地区	彫刻	十王-1		
奈川地区	彫刻	十王-2		
奈川地区	彫刻	不明		
奈川地区	彫刻	十王-3		
奈川地区	彫刻	十王-4		
奈川地区	彫刻	十王-5		
奈川地区	彫刻	しゃづかのぼば		
奈川地区	彫刻	十王-6		
奈川地区	彫刻	十王-7		
奈川地区	彫刻	十王-8		
奈川地区	彫刻	十王-9		
奈川地区	彫刻	不明		
奈川地区	彫刻	十王-10		
奈川地区	彫刻	阿弥陀様		
奈川地区	彫刻	弥勒菩薩祠内仏像群 4体		
奈川地区	石造物	阿弥陀堂北側石仏群	明治26年(1893)	
奈川地区	石造物	蚕玉神	天保14年(1843)	
奈川地区	石造物	大日尊	天保14年(1843)	
奈川地区	石造物	二十三夜	昭和12年(1937)	
奈川地区	石造物	大日如来 馬頭観音		
奈川地区	石造物	庚申様		
奈川地区	石造物	馬頭観音		
奈川地区	石造物	廻国六十六部塔		
奈川地区	石造物	道祖神		
奈川地区	石造物	大日如来	昭和11年(1936)	
奈川地区	石造物	庚申供養塔	宝暦14年(1764)	
奈川地区	石造物	奉納法華経塚	寛延2年(1749年)	
奈川地区	石造物	石塔	寛保2年(1742年)	
奈川地区	石造物	阿弥陀堂入口石仏群(道路脇)		
奈川地区	石造物	地藏菩薩		
奈川地区	石造物	大日如来		
奈川地区	石造物	虚空蔵菩薩		
奈川地区	石造物	大地蔵		
奈川地区	石造物	馬頭観世音	明治40年(1907)	
奈川地区	石造物	秋葉大神	昭和33年(1958)	
奈川地区	文書	秋葉大神寄付者名簿	昭和33年(1958)	
奈川地区	彫刻	古宿公民館看板	大正11年(1922)	
奈川地区	石造物	虫頭碑	天明6年(1786)	
奈川地区	石造物	石燈籠		
奈川地区	石造物	石燈籠		
奈川地区	石造物	石燈籠	天明3年(1783)	
奈川地区	石造物	祠群 等		
奈川地区	建造物	金刀比羅社ほか		
奈川地区	建造物	祠		
奈川地区	建造物	秀綱社		
奈川地区	建造物	日露戦勝御祈禱徳勝攸		
奈川地区	建造物	大山祇命		
奈川地区	建造物	津嶋神社		
奈川地区	建造物	八幡社		

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
奈川地区	行事	子安諏訪神社祭礼		
奈川地区	建造物	大辨財尊天女神	昭和8年(1933)	
奈川地区	石造物	六地藏	文化5年(1808)	
奈川地区	記念碑	雪見ヶ原ほ場整備竣工記念碑	平成10年(1998)	
奈川地区	石造物	観音堂	昭和58年(1983)	
奈川地区	建造物	観音堂		
奈川地区	石造物	如意輪観音菩薩		
奈川地区	石造物	大日如来		
奈川地区	石造物	不明		
奈川地区	石造物	弥勒菩薩		
奈川地区	石造物	地藏菩薩		
奈川地区	石造物	阿弥陀如来		
奈川地区	石造物	阿弥陀如来		
奈川地区	石造物	勢至菩薩		
奈川地区	建造物	お宮	大正9年(1920)	
奈川地区	建造物	御本尊		
奈川地区	建造物	秋葉神社	明治38年(1905)	
奈川地区	建造物	大山祇命		
奈川地区	建造物	祠		
奈川地区	建造物	保食大神		
奈川地区	文書	洞		
奈川地区	石造物	鬼屋根命		
奈川地区	石造物	田ノ堂下石像物群		
奈川地区	石造物	馬頭観世音	大正2年(1913)	
奈川地区	石造物	大日如来	嘉永7年(1854)	
奈川地区	石造物	大日如来	昭和2年(1927)	
奈川地区	石造物	馬頭観世音	大正12年(1923)	
奈川地区	石造物	養蚕神	明治23年(1890)	
奈川地区	石造物	墓		
奈川地区	石造物	大日如来	昭和18年(1943)	
奈川地区	石造物	大日如来	大正11年(1922)	
奈川地区	石造物	大日如来	明治18年(1885)	
奈川地区	石造物	馬頭観世音	明治44年(1911)	
奈川地区	石造物	大日如来	明治44年(1911)	
奈川地区	石造物	不明		
奈川地区	石造物	湊祖神		
奈川地区	石造物	大日如来	明治11年(1878)	
奈川地区	石造物	大日如来		
奈川地区	石造物	大日如来	昭和4年(1929)	
奈川地区	石造物	秀綱神社石仏群		
奈川地区	石造物	馬頭観音	大正11年(1922)	
奈川地区	石造物	馬頭観世音	大正8年(1919)	
奈川地区	石造物	馬頭観世音	大正4年(1915)	
奈川地区	石造物	大日如来	明治40年(1907)	
奈川地区	石造物	馬頭観世音	大正11年(1922)	
奈川地区	石造物	馬頭観世音	明治40年(1907)	
奈川地区	石造物	大日如来	明治8年(1875)	
奈川地区	石造物	牛頭尊	文久2年(1862)	
奈川地区	石造物	大日如来	大正8年(1919)	
奈川地区	石造物	大日如来	元治元年(1864)	

f	種別	名称	時代	所有者又は管理者
奈川地区	建造物	秀綱神社元宮		
奈川地区	文書	秀綱神社由來文	平成11年(1999)	
奈川地区	石造物	秀綱蚕神社		
奈川地区	石造物	水がめ力		
奈川地区	歴史資料	秀綱神社(昔の写真)		
奈川地区	石造物	馬頭観音	大正4年(1915)	
奈川地区	建造物	旅館松田屋		松本市
奈川地区	植物・樹木	とちの木群生		
奈川地区	建造物	青木神社	推定樹齡250年	
奈川地区	建造物	青木神社拝殿の落書き		
奈川地区	建造物	神楽殿		
奈川地区	建造物	入山分校(文教場)	昭和8年(1933)	
奈川地区	建造物	八幡大明神	昭和56年(1981)	
奈川地区	建造物	蛭玉神社 鳥居		
奈川地区	建造物	蛭玉神社		
奈川地区	建造物	稲荷神社	明治31年(1898)	
奈川地区	石造物	石仏群		
奈川地区	石造物	大日如来	昭和12年(1937)	
奈川地区	石造物	大日如来	明治11年(1878)	
奈川地区	石造物	大日如来	明治29年(1896)	
奈川地区	石造物	馬頭観音	昭和33年(1958)	
奈川地区	石造物	大日如来	明治8年(1875)	
奈川地区	石造物	観音	天保10年(1839)	
奈川地区	石造物	嶮瀆新造塔	天保15年(1844)	
奈川地区	石造物	馬頭観音		
奈川地区	石造物	座像		
奈川地区	石造物	大日如来		
奈川地区	建造物	秋葉神社		
奈川地区	建造物	三社		
奈川地区	用水	景観 集落からのぞむダム湖		
奈川地区	石造物	馬頭観音		
奈川地区	建造物	鳥居		
奈川地区	建造物	祠		
奈川地区	建造物	梓神社		
奈川地区	建造物	梓神社 拝殿		
奈川地区	建造物	梓神社 祠		
奈川地区	建造物	梓神社 社殿		
奈川地区	石造物	秀綱蚕神	大正4年(1915)	
奈川地区	石造物	不明		

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
梓川地区	建造物	滝見堂	元禄	
梓川地区	石造物	三十三体の観音像 一番		
梓川地区	石造物	三十三体の観音像 二番		
梓川地区	石造物	三十三体の観音像 三番		
梓川地区	石造物	三十三体の観音像 四番		
梓川地区	石造物	三十三体の観音像 五番		
梓川地区	石造物	三十三体の観音像 六番		
梓川地区	石造物	三十三体の観音像 七番		
梓川地区	石造物	三十三体の観音像 八番		
梓川地区	石造物	三十三体の観音像 九番		
梓川地区	石造物	三十三体の観音像 十番		
梓川地区	石造物	三十三体の観音像 十一番		
梓川地区	石造物	三十三体の観音像 十二番		
梓川地区	石造物	三十三体の観音像 十三番		
梓川地区	石造物	三十三体の観音像 十四番		
梓川地区	石造物	三十三体の観音像 十五番		
梓川地区	石造物	三十三体の観音像 十六番		
梓川地区	石造物	三十三体の観音像 十七番		
梓川地区	石造物	三十三体の観音像 十八番		
梓川地区	石造物	三十三体の観音像 十九番		
梓川地区	石造物	三十三体の観音像 二十番		
梓川地区	石造物	三十三体の観音像 二十一番		
梓川地区	石造物	三十三体の観音像 二十二番		
梓川地区	石造物	三十三体の観音像 二十三番		
梓川地区	石造物	三十三体の観音像 二十四番		
梓川地区	石造物	三十三体の観音像 二十五番		
梓川地区	石造物	三十三体の観音像 二十六番		
梓川地区	石造物	三十三体の観音像 二十七番		
梓川地区	石造物	三十三体の観音像 二十八番		
梓川地区	石造物	三十三体の観音像 二十九番		
梓川地区	石造物	三十三体の観音像 三十番		
梓川地区	石造物	三十三体の観音像 三十一番		
梓川地区	石造物	三十三体の観音像 三十二番		
梓川地区	石造物	三十三体の観音像 三十三番		
梓川地区	建造物・彫刻	滝見堂本堂、聖観世音菩薩	元禄10年(1697)	
梓川地区	石造物	大日如来	天保6年(1835)	
梓川地区	石造物	念仏供養塔(徳本)	文政6年(1823)	
梓川地区	石造物	子安地藏	弘化4年(1847)	
梓川地区	石造物	観音供養塔		
梓川地区	石造物	酒祖神	明治19年(1886)	
梓川地区	石造物	二十六夜塔	嘉永7年(1854)	
梓川地区	石造物	二十三夜塔	嘉永2年(1849)	
梓川地区	石造物	大日如来(真)	慶応元年(1865)	
梓川地区	石造物	光明真言供養塔	安永2年(1772)	
梓川地区	石造物	青面金剛		
梓川地区	石造物	青面金剛		
梓川地区	石造物	聖観世音菩薩		
梓川地区	石造物	地藏		
梓川地区	石造物	陽石		
梓川地区	石造物	陽石		

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
梓川地区	石造物	大日如来(西)	明治8年(1875)	
梓川地区	用水	八雲山水道	昭和2年(1927)	
梓川地区	建造物	諏訪神社		
梓川地区	石造物	御嶽藏王権現		
梓川地区	植物・樹木	化粧ヤナギ群生地		
梓川地区	石造物	道祖神	嘉永4年(1851)	
梓川地区	石造物	道祖神	寛政8年(1796)	
梓川地区	石造物	道祖神	文化11年(1814)	
梓川地区	石造物	道祖神	嘉永6年(1853)	
梓川地区	石造物	道祖神		
梓川地区	石造物	庚申塔	貞享3年(1686)	
梓川地区	石造物	庚申塔	明和3年(1766)	
梓川地区	石造物	法華千部	文化8年(1806)	
梓川地区	石造物	熊野権現跡地由来二十三夜塔	文政9年(1826)	
梓川地区	石造物	山の神		
梓川地区	行事	御柱		
梓川地区	建造物	祠(山神社・秋葉社)奥宮		
梓川地区	石造物	六地藏		
梓川地区	石造物	犬供養塔	大正4年(1915)	
梓川地区	記念碑	庚申記念開扉	大正9年(1920)	
梓川地区	石造物	二十三夜塔	弘化3年(1846)	
梓川地区	石造物	供養塔	安政2年(1855)	
梓川地区	石造物	道陸神	安政5年(1858)	
梓川地区	石造物	道祖神		
梓川地区	石造物	庚申塔		
梓川地区	石造物	馬頭観音	嘉永6年(1853)	
梓川地区	石造物	道祖神	寛政3年(1791)	
梓川地区	石造物	法華千部供養塔	享保11年(1726)	
梓川地区	石造物	天明霊神像	明治18年(1878)	
梓川地区	石造物	信濃百番観世音		
梓川地区	石造物	馬頭観世音	寛永元年(1624)	
梓川地区	石造物	馬頭観音力		
梓川地区	建造物	降瀆神社		
梓川地区	石造物	二十三夜塔		
梓川地区	石造物	庵さんの墓碑	慶応2年(1866)	
梓川地区	石造物	大義妙典日本廻国供養塔		
梓川地区	石造物	不明		
梓川地区	石造物	日本百番観世音		
梓川地区	石造物	庚申塔		
梓川地区	石造物	馬頭観音		
梓川地区	石造物	馬頭観音		
梓川地区	石造物	地藏菩薩		
梓川地区	石造物	地藏菩薩		
梓川地区	石造物	念仏碑(徳本名号塔)	弘化3年(1846)	
梓川地区	石造物	庚申供養塔	万延元年(1860)	
梓川地区	石造物	念仏百万遍供養塔	寛政11年(1799)	
梓川地区	石造物	庚申塔	万延元年(1860)	
梓川地区	石造物	道祖神	文化11年(1814)	
梓川地区	石造物	二十三夜塔	文政13年(1830)	

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
梓川地区	石造物	念仏百万遍	寛政元年(1889)	
梓川地区	石造物	光明真言供養塔	寛政元年(1889)	
梓川地区	石造物	観音講供養塔	宝暦6年(1756)	
梓川地区	石造物	六地藏		
梓川地区	石造物	大日尊	明治27年(1894)	
梓川地区	石造物	馬頭観世音		
梓川地区	建造物	祠(秋葉様)		
梓川地区	石造物	庚申塔	寛政3年(1791)	
梓川地区	石造物	道祖神	文政3年(1820)	
梓川地区	石造物	供養塔	文政8年(1825)	
梓川地区	石造物	廻国供養塔		
梓川地区	石造物	廻国供養塔	天保8年(1837)	
梓川地区	石造物	水神	昭和61年(1986)	立田堰水神建設委員会
梓川地区	石造物	馬頭観音		
梓川地区	石造物	馬頭観音		
梓川地区	石造物	道祖神		
梓川地区	石造物	道祖神		
梓川地区	石造物	道祖神		
梓川地区	石造物	猿田彦命	元禄	
梓川地区	石造物	庚申塔	元禄	
梓川地区	石造物	道祖神	昭和5年(1930)	
梓川地区	建造物	石原神社	弘化9年(1812)	上立田荒屋敷地区
梓川地区	石造物	道祖神	弘化4年(1847)	
梓川地区	石造物	馬頭観世音	天保7年(1836)	個人
梓川地区	石造物	馬頭観音	寛政8年(1796)	個人
梓川地区	石造物	馬頭観音	明治30年(1897)	個人
梓川地区	石造物	馬頭観音	昭和3年(1928)	個人
梓川地区	石造物	馬頭観音	昭和41年(1966)	個人
梓川地区	石造物	庚申塔	寛政	更新供養塔講中
梓川地区	建造物	秋葉神社		
梓川地区	石造物	忠魂碑	大正4年(1915)	
梓川地区	石造物	蚕玉様		
梓川地区	石造物	道祖神	文化14年(1817)	
梓川地区	石造物	名号塔		
梓川地区	石造物	ほかの小石仏		
梓川地区	石造物	大宮熱田神社石標		
梓川地区	石造物	塚塚		
梓川地区	石造物	大日如来		個人
梓川地区	石造物	馬頭観音		個人
梓川地区	建造物	三崎大荒神	昭和初期	個人
梓川地区	植物・樹木	梅(老木)		個人
梓川地区	庭園	三村氏宅庭園		個人
梓川地区	彫刻	十輪寺延命地藏菩薩像		
梓川地区	石造物	下町道祖神	弘化5年(1848)	
梓川地区	石造物	こだま様		
梓川地区	石造物	馬頭観音		
梓川地区	石造物	道祖神	弘化3年(1846)	
梓川地区	石造物	馬頭観音		

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
梓川地区	石造物	聖観音	宝曆9年(1757)	中沢南墓地
梓川地区	石造物	観音	享保3年(1718)	中沢南墓地
梓川地区	石造物	道祖神	明治16年(1883)	下角10組
梓川地区	石造物	千水京都行昆羅	天保5年(1834)	
梓川地区	石造物	道祖神	文久3年(1863)	
梓川地区	石造物	道祖神	文久3年(1863)	
梓川地区	石造物	道祖神	文久3年(1863)	
梓川地区	石造物	道祖神	文久3年(1863)	
梓川地区	石造物	道祖神	文久3年(1863)	
梓川地区	石造物	道祖神	文久3年(1863)	
梓川地区	石造物	大乗妙典供養	明治2年(1869)	
梓川地区	石造物	番玉神	明治23年(1890)	
梓川地区	石造物	道祖神	昭和44年(1911)	
梓川地区	石造物	御嶽山大神		
梓川地区	石造物	馬頭観音		
梓川地区	石造物	馬頭観音	天保9年(1838)	
梓川地区	石造物	廻国供養塔	正徳6年(1716)	
梓川地区	石造物	千部供養	天明7年(1787)	
梓川地区	石造物	護念経千部巡礼百番供養	寛政8年(1796)	
梓川地区	石造物	念仏碑	文政8年(1825)	
梓川地区	石造物	廻国供養塔	文化8年(1811)	
梓川地区	石造物	庚申塔	嘉永3年(1850)	
梓川地区	石造物	道祖神		
梓川地区	石造物	大日如来		
梓川地区	石造物	二十三夜塔		
梓川地区	石造物	観音		
梓川地区	石造物	念仏供養		
梓川地区	石造物	道祖神		
梓川地区	石造物	三界万霊塔		
梓川地区	石造物	廻国供養塔		
梓川地区	石造物	庚申塔		
梓川地区	石造物	地藏		
梓川地区	石造物	観音		
梓川地区	石造物	念仏供養塔		
梓川地区	石造物	御嶽山		
梓川地区	石造物	六地藏		
梓川地区	石造物	七日山石仏群		
梓川地区	石造物	庚申塔	享和3年(1803)	
梓川地区	石造物	念仏万遍塔	寛政2年(1790)	
梓川地区	彫刻	中塔阿弥陀堂の諸仏		
梓川地区	建造物	本神沢(祠)		
梓川地区	用水	北々条の堤	明治18年(1885)	
梓川地区	跡地	北々条簡易水道貯水場跡	大正	
梓川地区	建造物	梓 靖國神社		
梓川地区	建造物	大宮熱田神社		
梓川地区	石造物	御嶽	天保12年(1841)	
梓川地区	石造物	有明	明治22年(1889)	
梓川地区	石造物	蠶玉	明治27年(1894)	
梓川地区	建造物	白山神社		

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
梓川地区	石造物・樹木	村瀬家先祖代々の墓と桜	寛永頃	
梓川地区	植物・樹木	共同墓地と桜		
梓川地区	石造物	共同墓地の庚申塔	明和4年(1767)	
梓川地区	石造物	共同墓地の六地藏	文化6年(1809)	
梓川地区	石造物	共同墓地の如意輪観音		
梓川地区	石造物	道祖神		
梓川地区	石造物	大日如来	安政3年(1856)	
梓川地区	石造物	二十三夜塔	安政3年(1856)	
梓川地区	石造物	南無阿弥陀仏	安政3年(1856)	
梓川地区	石造物	道祖神(双体神)	文政7年(1824)	
梓川地区	建造物	巨除けの守り神		
梓川地区	石造物	津嶋牛頭大王碑	昭和34年(1959)	
梓川地区	石造物	大山祇神	明治33年(1900)	南・北・北條共有
梓川地区	石造物	鳴雷神	明治33年(1900)	南・北・北條共有
梓川地区	跡地	北條学校之跡	明治7~19年(1874~1886)	南・北・北條共有
梓川地区	石造物	二十三夜塔	文化11年(1814)	個人
梓川地区	植物・樹木	十石桜		
梓川地区	跡地	旧金松寺跡		
梓川地区	用水	元大久保簡易水道		
梓川地区	工芸	金松寺梵鐘		
梓川地区	石造物	観音念仏碑群		
梓川地区	石造物	馬頭観音		
梓川地区	史跡	亀山岩跡	中世	
梓川地区	植物・樹木	ヒギリの木		
梓川地区	植物・樹木	長崎氏神様・ケンボナシの犬木		
梓川地区	石造物	道祖神		
梓川地区	史跡	朝鮮原	縄文・弥生・古代	
梓川地区	石造物	地藏尊		
梓川地区	史跡	田南遺跡	奈良・平安	
梓川地区	石造物	道祖神		
梓川地区	史跡	桜坂上岩跡	中世	
梓川地区	史跡	柳坂岩跡	中世	
梓川地区	建造物	天白稻荷		
梓川地区	史跡	大久保1号古墳	古墳	広辻
梓川地区	民俗資料	のほり		
梓川地区	石造物	道祖神	昭和14年(1939)	
梓川地区	石造物	道祖神	天保5年(1834)	
梓川地区	石造物	念仏碑	嘉永4年(1851)	
梓川地区	石造物	二十三夜塔	慶応3年(1867)	
梓川地区	石造物	道祖神	文政12年(1829)	
梓川地区	石造物	庚申塔他	享保10年(1725)	
梓川地区	石造物	馬頭観音他	文政5年(1822)	
梓川地区	石造物	道祖神		
梓川地区	跡地	野々宮合戦跡	中世	
梓川地区	記念碑	平和祈念の碑	昭和43年(1968)	
梓川地区	建造物	野々宮神社		
梓川地区	跡地	石種池跡		
梓川地区	石造物	道祖神	天保4年(1833)	
梓川地区	石造物	道祖神	弘化3年(1846)	

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
梓川地区	石造物	地藏	安永3年(1774)	横沢地域町会
梓川地区	石造物	道祖神	寛政11年(1799)	
梓川地区	石造物	道祖神	寛政11年(1799)	
梓川地区	石造物	道祖神	文化2年(1805)	
梓川地区	石造物	観音	文化6年(1809)	
梓川地区	石造物	道祖神	文化8年(1811)	
梓川地区	石造物	道祖神	文政5年(1822)	
梓川地区	石造物	道祖神	文政7年(1824)	
梓川地区	石造物	馬頭観音	文政13年(1830)	
梓川地区	石造物	百万遍供養	天保6年(1835)	
梓川地区	石造物	百万遍供養	天保9年(1838)	
梓川地区	石造物	権理明王三体	嘉永3年(1850)	
梓川地区	石造物	二十三夜	嘉永3年(1850)	
梓川地区	石造物	道祖神	文久3年(1863)	
梓川地区	石造物	御岳行者像	文久3年(1863)	
梓川地区	石造物	道祖神	明治17年(1884)	
梓川地区	石造物	蚕玉神	明治24年(1891)	
梓川地区	石造物	蚕玉神	大正13年(1924)	
梓川地区	石造物	蚕玉神	昭和2年(1927)	
梓川地区	石造物	道祖神	昭和18年(1943)	
梓川地区	石造物	庚申塔	昭和47年(1972)	
梓川地区	石造物	薬師如来	元文5年(1740)	
梓川地区	石造物	六地藏		
梓川地区	石造物	六地藏		
梓川地区	石造物	御岳行者一心像	大正3年(1914)	
梓川地区	石造物	切支丹洞	天明2年(1782)	
梓川地区	彫刻	瑠璃光薬師如来像	平安	横沢地域町会
梓川地区	彫刻	前立本尊 薬師如来像		横沢地域町会
梓川地区	彫刻	十一面千手観世音菩薩像		横沢地域町会
梓川地区	彫刻	青面金剛尊像		横沢地域町会
梓川地区	彫刻	大日如来像	明暦4年(1658)	横沢地域町会
梓川地区	彫刻	眷族薬師12神侍像		横沢地域町会
梓川地区	彫刻	地藏菩薩像		横沢地域町会
梓川地区	彫刻	地藏菩薩坐像		横沢地域町会
梓川地区	絵画	涅槃図	安永8年(1779)	横沢地域町会
梓川地区	彫刻	閻魔王像		横沢地域町会
梓川地区	彫刻	釈迦誕生仏と花御堂		横沢地域町会
梓川地区	彫刻	寶頭盧尊者像		横沢地域町会
梓川地区	石造物	陰陽石		横沢地域町会
梓川地区	彫刻	御札版木		横沢地域町会
梓川地区	民俗資料	御圃宮と御圃収納草笥	大正2年(1913)	横沢地域町会
梓川地区	植物・樹木	薬師堂の大銀杏		横沢地域町会
梓川地区	彫刻	阿弥陀如来像		横沢地域町会
梓川地区	彫刻	法然大師像(脇立像)		横沢地域町会
梓川地区	彫刻	善導大師像(脇立像)		横沢地域町会
梓川地区	石造物	石仏群(10体)		横沢第3町会
梓川地区	石造物	沖村石仏群(11体)		横沢第1町会
梓川地区	石造物	石仏(馬頭観音)	天保3年(1832)	横沢地域町会
梓川地区	記念碑	歌碑	昭和28年(1953)	

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
梓川地区	石造物	六地藏		
梓川地区	植物・樹木	桜(枝垂桜)		
梓川地区	石造物	大山大神	明治17年(1884)	
梓川地区	石造物	道祖神		
梓川地区	石造物	地藏		
梓川地区	石造物	馬頭観音		
梓川地区	石造物	御嶽大権現	天保7年(1836)	
梓川地区	石造物	道祖神		
梓川地区	史跡	大妻氏居館跡	中世	
梓川地区	彫刻	大日堂(本尊)		
梓川地区	民俗資料	野々宮神社例祭舞台	寛政5年(1793)	
梓川地区	湧水	古井戸		
梓川地区	石造物	六地藏		
梓川地区	石造物	庚申塔	元文6年(1741)	
梓川地区	石造物	廻国供養	宝暦8年(1758)	
梓川地区	石造物	地藏	宝暦13年(1763)	
梓川地区	石造物	念仏碑	文化15年(1818)	
梓川地区	石造物	御嶽大権現	文政8年(1825)	
梓川地区	石造物	光明真言供養塔	天明15年(1844)	
梓川地区	石造物	信濃百番観世音菩薩	文久元年(1861)	
梓川地区	石造物	秋葉大権現	文久2年(1862)	
梓川地区	石造物	二十三夜塔	元治元年(1864)	
梓川地区	石造物	馬頭観音	明治28年(1895)	
梓川地区	石造物	廻国供養塔	明治31年(1898)	
梓川地区	石造物	庚申塔		
梓川地区	石造物	庚申塔	元禄9年(1696)	
梓川地区	石造物	六地藏		
梓川地区	石造物	六地藏		
梓川地区	石造物	如意輪観音		
梓川地区	石造物	道祖神		
梓川地区	石造物	観音		
梓川地区	石造物	念仏碑		
梓川地区	石造物	道祖神		
梓川地区	跡地	貞享義民小松作兵衛屋敷跡	江戸	
梓川地区	石造物	馬頭観音	明治	
梓川地区	石造物	京谷医師の句碑	平成2年(1990)	
梓川地区	記念碑	県営園場整備事業竣工記念碑	平成4年(1992)	
梓川地区	石造物	馬頭観音		
梓川地区	石造物	道祖神		
梓川地区	石造物	道祖神	大正3年(1914)	
梓川地区	石造物	道祖神		
梓川地区	石造物	道祖神	明治13年(1980)	
梓川地区	石造物	二十三夜塔	文久2年(1862)	
梓川地区	石造物	道祖神	天保4年(1833)	
梓川地区	史跡	岩岡館跡	中世	
梓川地区	石造物	岩岡家墓地	中世	
梓川地区	石造物	馬頭観世音		
梓川地区	石造物	念仏供養塔	享保12年(1727)	
梓川地区	石造物	大妻三郎一干部供養塔	寛保3年(1743)	

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
梓川地区	記念碑	石碑(竹内恰一君碑)		
梓川地区	石造物	蚕玉神	明治29年(1896)	
梓川地区	石造物	石碑		
梓川地区	民俗資料	念仏講の道具	天保13年(1842)	
梓川地区	石造物	二十三夜塔		
梓川地区	石造物	道祖神	天保2年(1831)	
梓川地区	石造物	道祖神		
梓川地区	建造物	氷室薬師堂		
梓川地区	石造物	三界万霊塔	寛政2年(1790)	
梓川地区	石造物	道祖神		
梓川地区	建造物	原口氏子中宮		
梓川地区	石造物	馬頭観世音	明治32年(1899)	
梓川地区	建造物	氷室五社神社		
梓川地区	彫刻	氷室三大師		
梓川地区	石造物	馬頭観世音		
梓川地区	石造物	道祖神		
梓川地区	記念碑	太田氏彰功碑		
梓川地区	石造物	庚申塔		
梓川地区	石造物	地藏		
梓川地区	石造物	如意輪観音		
梓川地区	石造物	道祖神	寛政12年(1800)	
梓川地区	石造物	石碑(氷室)		
梓川地区	用水	水門(旧大柳水門)		
梓川地区	記念碑	岩岡学校郷倉跡(洪石)	平成9年(1997)	岩岡町会
梓川地区	石造物	道祖神	寛政11年(1799)	岩岡町会
梓川地区	石造物	地藏		
梓川地区	石造物	蚕玉神		
梓川地区	建造物	八王子社、農神社、戸隠社、荒神社	昭和7年(1932)	岩岡町会
梓川地区	石造物	御岳山	安政3年(1856)	岩岡町会
梓川地区	石造物	摩利支天	明治16年(1883)	岩岡町会
梓川地区	石造物	馬頭観音	明治18年(1885)	岩岡町会
梓川地区	石造物	道祖神	昭和59年(1984)	岩岡町会
梓川地区	石造物	馬頭観音		
梓川地区	建造物	火打岩社	文政12年(1829)	
梓川地区	石造物	百番供養塔	安永9年(1780)	岩岡町会
梓川地区	石造物	観音講供養塔	寛政4年(1792)	岩岡町会
梓川地区	石造物	三界萬霊塔	明和6年(1769)	岩岡町会

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
波田地区	建造物	浄土真宗 諏訪山 安養寺 山門	元禄10年(1697年)	安養寺
波田地区	彫刻	真言宗下三溝真光寺跡の仏像(堂内)	弘治3年(1557年)	1区町会
波田地区	彫刻	下三溝真光寺跡の仏像(堂内)	江戸	1区町会
波田地区	彫刻	下三溝真光寺跡の仏像(堂内)	江戸	1区町会
波田地区	彫刻	下三溝真光寺跡の仏像(堂内)	江戸	1区町会
波田地区	彫刻	下三溝真光寺跡の仏像(堂内)	江戸	1区町会
波田地区	絵画	下三溝真光寺跡室内絵図	江戸	1区町会
波田地区	用水	下三溝(1区)の和・神林・新村堰	中世	梓川右岸土地改良区
波田地区	行事	下三溝(1区)の風祭(伝統的行事)		
波田地区	行事	下三溝(1区)のお十夜・やしよま		
波田地区	庭園	伝馬屋 百瀬家庭園	江戸	個人
波田地区	記念碑	旧正覚寺跡の石碑	昭和60年建立(1985)	
波田地区	跡地	寺田圃の地名(安養寺の跡)	中世	
波田地区	植物・樹木	ハクジュの大木(百瀬家墓地)		個人
波田地区	街道	(地名)松前坂		
波田地区	街道	下島橋の旧橋台		
波田地区	跡地	(地名)藤ノ宮跡	江戸	
波田地区	跡地	(地名)門十宮跡	江戸	
波田地区	用水	(地名)笹田間地		
波田地区	建造物	段丘下の野菜貯蔵庫跡	昭和10年(1935)	
波田地区	用水	カスミ堤防(信玄堤)		国土交通省
波田地区	建造物	地名と橋柱「笹ノ宮橋」	昭和20年(1945)	
波田地区	建造物	(古民家)田中邸	江戸	個人
波田地区	跡地	(地名)押出原蛇ノ宮跡(村社 熊野神社)		
波田地区	行事	押出の盆火(伝統行事)	100~200年前	押出地区
波田地区	史跡	(地名)十三経塚	慶長20年(1615)	
波田地区	建造物	製糸工場「太田館」の繭倉庫	大正3年(1914年)	個人
波田地区	建造物	銅割坂の山ノ神社	江戸	
波田地区	建造物	旧波田町役場庁舎	大正14年新築(1925)	松本市
波田地区	跡地	旧奉安殿跡	昭和8年(1933)	松本市
波田地区	建造物	祠(白山権頭)		大月家同姓
波田地区	建造物	旧松本藩武家屋敷の門		個人
波田地区	建造物	祠(社宮司)		塩原家同姓
波田地区	建造物	祠(金山様)	慶長6年(1601年)	安藤家同姓
波田地区	植物・樹木	樹木(ウワミズザクラ)		塩原同姓
波田地区	建造物	水神社	明治15年(1882)	水神社氏子総代
波田地区	民俗資料	諏訪神社の祭山車(舞台)	慶応年間(1865年頃)	下波田祭礼委員
波田地区	建造物	祠(三峯講)	不明	
波田地区	植物・樹木	樹木(桂の巨木)		個人
波田地区	跡地	麻神の跡		
波田地区	建造物	下波田薬師堂	不明	
波田地区	跡地	下波多字校跡	明治8年(1865)	
波田地区	跡地	法久寺跡		
波田地区	民俗資料	諏訪神社の祭山車(中郷の舞台)		
波田地区	史跡	敬見塚		

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
波田地区	石造物	蟹水道 一の口跡	大正	個人
波田地区	史跡	平林遺跡	縄文・弥生・平安	
波田地区	史跡	唐永遺跡	縄文	
波田地区	史跡	中下原遺跡	縄文	
波田地区	建造物	蒲生家住宅	明治	個人
波田地区	街道	郡道坂	明治	長野県
波田地区	用水	低区配水地(水道貯水槽)	昭和5年(1930)	松本市(水道局)
波田地区	跡地	古城地籍		
波田地区	用水	夫婦堤	江戸	
波田地区	跡地	諏訪神社元宮跡(竜胆清水)	中世	
波田地区	地名	鼠垣渡(地名)		
波田地区	建造物	諏訪神社	天治元年(1124)創建	氏子総代
波田地区	行事	鳥追い行事(伝統行事)		
波田地区	行事	お念仏		
波田地区	行事	蘭玉様の祭典		
波田地区	建造物	祠(社宮司)		
波田地区	跡地	堀之内城跡地	中世	
波田地区	跡地	波多尋常小学校跡地	明治	
波田地区	地名	横町(地名)		
波田地区	建造物	旧水沢観音堂跡の御堂(盛泉寺の境内)	昭和59年(1984)建替	盛泉寺
波田地区	建造物	大黒天祭(甲子大黒)		13区本郷下区
波田地区	石造物	祠(社宮司)		個人
波田地区	建造物	波路城跡	中世	
波田地区	跡地	波多神社の祭山車(舞台)		本郷氏子
波田地区	民俗資料	上波田街なみ		
波田地区	町並み	寺山	江戸	国(赤線)
波田地区	街道	掌坂		
波田地区	用水	寺山水道		寺山簡易水道組合
波田地区	用水	水沢用水		13、14区
波田地区	建造物	祠(三峯講)		三峯講
波田地区	建造物	波多神社	奈良	
波田地区	建造物	再興寺跡(西光寺)榎木城跡	大同元年(806)	
波田地区	跡地	樹木(枝垂桜)	樹齢200年以上	個人
波田地区	植物・樹木	樹木(けんぼ梨)	樹齢200年以上	個人
波田地区	植物・樹木	仁王門	江戸	松本市
波田地区	建造物	波多山城(秋葉城)		個人
波田地区	史跡	阿弥陀堂	江戸	上波田高齢者クラブ
波田地区	建造物	涅槃図	慶応2年(1866)	上波田高齢者クラブ
波田地区	絵画	不動明王絵画絹本掛軸	室町	上波田高齢者クラブ
波田地区	建造物	村上家旧住宅	江戸	個人
波田地区	工芸	若澤寺絵図版木	江戸	松本市波田公民館
波田地区	行事	七夕流し		
波田地区	行事	蕎麦祭	昭和45年(1970)	
波田地区	民俗資料	大人神輿と子供神輿	昭和51年(1976)	
波田地区	建造物	柏屋住宅	明治10年(1877)頃	移築

地区	種別	名称	時代	所有者又は管理者
波田地区	街道	江戸時代の浦東嶋(百瀬氏部落)の主要道路跡(通称大橋坂)	江戸以前	
波田地区	跡地	15区の深井戸跡(3カ所)	江戸	
波田地区	建造物	稻荷神社		16区
波田地区	民俗資料	祭り舞台		16区
波田地区	植物・樹木	松田弥一氏墓地枝垂れ桜		個人
波田地区	跡地	赤松頭首工跡	昭和6年(1931)~昭和51年(1976)	
波田地区	建造物	赤松神社 稻荷神社		17区町会 祭典実行委員会
波田地区	建造物	赤松神社 秋葉神社		17区町会 祭典実行委員会
波田地区	行事	七夕祭り		
波田地区	行事	三九郎		
波田地区	行事	春祭り 御神輿		17区町会 祭典実行委員会
波田地区	建造物	お不動様		17区町会 祭典実行委員会
波田地区	跡地	大野田夏道岩跡		
波田地区	建造物	龍島神社社殿	正安3年(1301)勧請	
波田地区	跡地	波田堰スコボシ取り入れ口跡	明治7年(1874)	
波田地区	用水	黒川堰追い平隧道跡	明治34年(1901)	
波田地区	跡地	マンガン鉱山坑道跡	明治~昭和	
波田地区	建造物	鍵懸稲荷大明神		
波田地区	建造物	開田神社		個人
波田地区	建造物	祠(子安様)		
波田地区	植物・樹木	波田学院の松林		長野県
波田地区	建造物	三神社社殿	天保2年(1831)	
波田地区	彫刻	三神社の八幡太郎人形	江戸	三神社
波田地区	行事	森口の風祭り(伝統行事)		
波田地区	跡地	円明寺跡		松本市
波田地区	史跡	葦原遺跡	縄文・平安	
波田地区	地形	梓川の河岸段丘		
波田地区	建造物	祠(社宮司)		

第一地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ 城下町

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：江戸時代の旧町名・小路名

○ 構成要素となる文化財：

松本城下町跡、緑橋（袖留橋）、伊織霊水、博労町の十王堂跡、北向観音、中町通り、やまへい横のくいちがい、酒屋（中西屋）横のくいちがい、松本城下町の舞台、中町神明宮、瘡守稲荷社、伊勢神明宮、神明宮、生安寺小路稲荷社、大日神社、古曳盤谷の墓、極楽寺、浄林寺、福德出世地蔵尊霊地（十王堂跡）、大問屋倉科家跡、丁字路跡（中町）

関連文化財群の特徴・魅力

松本城の城下町は、16世紀末に大規模な建設が始まり、17世紀半ばにかけて整備された。第一地区は、町人地の中心であった親町3町、枝町10町の範囲を含んでおり、近代化が進んだ今でも、多くの城下町の名残を見ることができ、城下町の道のくいちがい等の町割りも、現在まで残されており、城下町の構造を今に伝えている。また、城下町の東西南北の四隅に置かれた十王堂の跡が、第一地区には2ヶ所（伊勢町と博労町）所在しており、博労町の十王堂跡には、江戸時代からの石造物が数多く残されており、小祠として残る伊勢町の十王堂跡には地蔵が安置されている。また、城下町のまわりに城下囲いとして配置された寺院や江戸時代から信仰されてきた神社、緑橋（袖留橋）や伊織霊水といった城下町にまつわる言い伝えが残る場所なども、多く存在している。

第一地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ 城下町の信仰とお祭り

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：松本城下町の舞台

○ 構成要素となる文化財：

あめ市、道祖神祭り、神道祭り、天神祭り、三峰神社、三九郎、秋葉神社、庚申講、八坂祭り、音頭、鎮火祭、ほんほん、青山様、（七夕人形、ほうとう、七夕まんじゅう等）

関連文化財群の特徴・魅力

戦後、子供だけで行っていた行事が大人が中心となって行われるようになるなど、時代の変遷とともに変容している部分はあるが、それでも第一地区では、現在に至るまで継続して多くの祭りが行われている。特に、城下町の舞台やあめ市などは、城下町中の商人地であった第一地区ならではの光景である。

第一地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

城下町の商家の街

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：あめ市(初市)

○ 構成要素となる文化財：

親町3町枝町10町、野麦街道・善光寺街道の交差点、大問屋倉科家跡（松本郵便局発祥の地）、松本城下町の舞台、初市の宝船・七福神人形、牛つなぎ石、初荷、初音、音頭、えびす講、ほんまちえびす、松本商工会議所発祥の地、庚申講、はかり資料館、ほんぼん、青山様

関連文化財群の特徴・魅力

松本城の城下町は、小笠原貞慶治世の天正13年(1585)から約140年の間に徐々に完成された。城下町は、大きく武家地と町人地に分かれ、町人地は善光寺街道沿いの本町・中町・東町の親町三町と、枝町十町が核となって形成されていた。商品流通の拠点として、本町には様々な品目を扱う問屋、中町には呉服屋や造り酒屋などの大店が集まり、枝町には町人町であると同時に職人町としての性格を持つ町も多かった。そういった城下町の名残は、現在も小路名などに見ることができる。特に、近世の城下町は信濃国でも最も活発な商業活動が行われており、そういった商人の活動を背景に、町ごとに豪華な舞台が造られ、また、あめ市を始めとする商売に関連する各種の行事などが行われ、現在に続いている。

また、平成3年には、「商都松本」の発展を願い「ほんまちえびす」の道しるべを建てるなど、城下町建設時から現在まで、商業の街として続いている。

第一地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

火伏せの神様

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：三峯神社、秋葉神社、神明宮

○ 構成要素となる文化財：

中町、蔵シツク会館（旧「大禮酒造」母屋、土蔵）、黒門、御日待、北向観音（十王堂跡）、土蔵、鎮火祭、瘡守稻荷社、極楽寺、明治21年の大火など

関連文化財群の特徴・魅力

城下町は人家が密集していたこともあり、一たび火事となると、火元となった建物だけでなく辺り一帯の町を焼き払うような大規模な火災がしばしば発生していた。城下町全体では、江戸時代には特に安永5年(1776)の綿屋火事、享和3年(1803)の館屋火事、元治2年(1865)の山城屋火事という焼失数1000件を超す大火が発生し、「三大火災」と呼ばれている。明治に入ってから、たびたび火災が起こっているが、特に明治21年(1888)1月4日に発生した大火は、南深志町1200戸、北深志町353戸を焼失するものであった。この頃の家屋は、ほとんどが板葺屋根で、瓦葺きや土蔵造りの塗り屋は極めて乏しかったことが火が大きく広がった原因である。この火事で土蔵が焼け残ったり、土蔵がそこから先に火の手が広がることを食い止めたことで、土蔵の耐火性が見直され、蔵造りの建物が多く建てられるようになり、現在の中町の「蔵の町」の風景に繋がっている。町内には、大火の後、「明治21年」に棟上げされた土蔵も残っている。

また、火よけの信仰も今に伝えられている。特に「御日待」は明治21年の大火をきっかけに始まったものである。1月4日に一年間の無病息災を願い行われるものであるが、明治21年1月4日の大火と併せ、火伏せの意味もある。博労町の十王堂跡の北向観音でも、火伏せの札を作り、町内に配っている。他にも火よけの信仰を集める神社などが各町内に残り、現在も信仰されている。

第二地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ 城下町の商人の信仰

関連文化財群を構成する文化財

◎ **核となる文化財**：深志神社

○ **構成要素となる文化財**：
全久院、瑞松寺、極楽寺、小路名・町名、町割り、源智の井戸、松本城下町の舞台、天神祭り、
志神社神輿、深志神社境内の石造物、全久院境内の石造物、瑞松寺の石造物

関連文化財群の特徴・魅力

○第二地区の約半分は、かつての城下町に該当している。
○深志神社(宮村大明神)は、女鳥羽川以南の城下町、特に商人町の総鎮守であった。神社は、城下町が成立する暦応年間(北朝・1338～1342)に庄内村の鎮守として諏訪明神(建御名方命)を勧請したものと伝えられる。以来、神社は宮村宮(宮村大明神)といい、その地は庄内宮村と呼ばれた。天正13年(1585)に女鳥羽川の南に商人町を割り、城下町が形成されると、宮村町となり、以後は女鳥羽川以南の商人たちの鎮守となった。応永9年(1402)には小笠原長基が北野天満宮(天神)を勧請し、現在の2柱の神を祀る現在の形態となった。松本城下の商人たちは、みな深志神社の氏子であり、元禄年間には丁ごとに舞台を造り、元禄11年(1698)には、藩主・水野忠直が神輿2基を寄進している。深志神社は、松本城下町の商人の信仰の中心であったと言える。
○城下町の南東の境であったため、かつては、城下町の防御機能をになっていた寺院が多く存在した。しかし、徹底して行われた松本藩の廃仏毀釈により、多くの寺院が廃寺になるなどした。城下町の寺院は、極楽寺を含む4か寺を除いて悉く廃寺となった。第二地区内にあった乾瑞寺、瑞松寺、長松寺、宝泉院、常福寺なども例外ではなかった。これらの中には、いったん廃寺になったものの、明治10年代から再興されたものもある。瑞松寺は、元々、現在の全久院の場所にあったが、明治5年に廃寺になったあと、宝泉院跡であった現在の場所に再興された。全久院は、元々女鳥羽川沿いにあり、藩主の菩提寺であったが、廃仏稀釈により取り壊されたが、同じく廃寺になった瑞松寺の場所に再興された。

第三地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ 人々の生活を支える湧水

関連文化財群を構成する文化財

◎ **核となる文化財**：源池の水源地井戸

○ **構成要素となる文化財**：
日の出町の井戸、鉄道給水源跡の碑、榛の木川

関連文化財群の特徴・魅力

地区内には湧水地が数多く、自宅の庭先から地下水が自噴する所もあるくらいだ。源池の水源地井戸や日の出町の井戸では冷たく美味しい水を楽しむ観光客やペットボトルにに入れて持ち帰る地元住民の姿もよく目にする。また、松本市特別史跡である源智の井戸から溢れた井戸水を水源とし、城下町の使い水としての川であったのが、榛の木川である。
井戸の持ち主が松本城主小笠原家家臣の河辺予三左衛門源智であったことから名付けられた源池の井戸周辺は「源池」や「源地」と名の付く町会も多く、古くからこの井戸が人々の生活に密接に関わっていたことが伺える。
また、明治35年に篠ノ井線が開通したが、その蒸気機関車の動力源としても地区内の豊富な地下水が活用された。松本秀峰中等教育学校前には鉄道の給水源跡があったことを記念する碑がある。
古くから現代まで、生活の様々な場面で湧水が使われてきた。湧水に支えられたその歴史を知る機会がもっと増えれば良いと感じる。

第三地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ 蚕業革新の中心地

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：今井五介

○ 構成要素となる文化財：
 蚕玉町の町名碑、生物科学研究所、蚕業革新発祥の碑、夏秋蚕部発祥の記念碑
 松商学園、日の出町

関連文化財群の特徴・魅力

明治23年に片倉組の製糸工場が松本市清水に設立され、所長を片倉兼太郎の実弟である今井五介が務めた。創業時は小さな工場だったが、優れた経営手腕により従業員1500人を有する大工場へと発展させた。その要因となったのは品種改良によりつくられた「一代交雑種」の蚕を使い、高価で質の高い優良製糸を生産したことが挙げられる。

明治39年、東京大学の助教授であった外山亀太郎博士は遺伝の法則性(メンデルの法則)が蚕にも適用されることを証明し、異なる種類の蚕をかけ合わせることで多産性や繭の質が優れた蚕を生みだすことができる一代交雑種の普及を奨励した。蚕糸記念公園内にある蚕業革新発祥の記念碑には外山博士の一代交雑種を実用化にいたった経過などが伝えられている。

この一代交雑種の有用性に目を付けた今井五介は大正3年に大日本一代交配蚕種普及団を松本に設立した。普及団は養蚕農家に蚕を売るだけでなく、指導員が蚕育成の技術指導をおこない、より質の高い繭の確保をしていった。これらの取り組みにより一代交雑の蚕種はわずか5年程で全国へと普及していった。

日本の蚕業を支え、発展させた今井五介と片倉製糸工業の功績を記す記念碑が地区内には多くあるが、それを地域住民が知る機会は少ないと感じる。

東部地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ 川と湧水が育んだ産業

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：槻井泉神社と湧水と榊

○ 構成要素となる文化財：
 製紙工場跡、女鳥羽の泉、綱萬の井戸、かき船、総掘、富士電機松本工場跡、
 旧水車小屋と石臼など(未選出)、紙漉川(未選出)、湯川(未選出)

関連文化財群の特徴・魅力

松本城下町は湧水が豊富なエリアであるが、城下町の内外にまたがる東部地区も湧水が多い。また、地区の中心を貫流する女鳥羽川をはじめとした河川が流れている。

東部地区では、これらの川や湧水を利用して、昔から製紙業や酒造、水車による製粉及び素麺製造、湧水を水源の一部とする総掘を利用した淡水魚の養殖などが行われており、その一部は現在でも続いている。『松本繁昌記』に「水質清澄透明な水」と書き記されたこれら湧水は、喉を潤すのみならず、生活の糧として、住民と共に歩んできた。

特に清水地区の山辺街道沿いは、製紙業の卸・小売業への特化などにより19世紀初頭には既に「マチ化」するなど、水に関する産業が現在のまちの形成にも影響を与えている。

なお、湧水のほとんどは、平成の名水百選にも認定されており、今後も産業や生活などへの利用が想定される。

東部地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

城下町松本
(正行寺の宝物が語る歴史 + 城下町松本)

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：正行寺

○ 構成要素となる文化財：

総堀、捨堀の土塁跡、十王堂と放光庵、鎮神社、林昌寺、林昌寺稲荷、菅沼稲荷、恵光院、天白稲荷、妙勝寺、旧念来寺鐘樓、大松寺、東町二丁目舞台(山車)、長称寺、正行寺(阿弥陀如来立像、佐々木高綱公使用の兜・佩刀(木刀)、伯爵乃木大将の軍刀、御絵伝、四尊連座の御影、聖徳太子七高層御裏書、当山開基了智上人掟書き、本願寺八代蓮如上人 御裏書、本願寺九代実如上人御裏書、武田信玄朱印状、松本城主石川公筆、三代將軍徳川家光宣旨、当山開基了智上人系図、時宗・遊行上人筆、阿弥陀仏号の徳)

関連文化財群の特徴・魅力

東部地区には、城下町の名残が確認されている。総堀や土塁跡のように、江戸時代のものがそのまま残っている例は多くはないが、町割りや町名などは近世にまで遡る。また、城下町の周縁には城下囲いとしての外防機能を担わせるため寺社が配置されることが多いが、地区内に寺院が多いのも、この地区が城下町の周縁部に位置しているためである。

地区内にある寺社のほとんどは、十王堂や鎮神社の様に城下町の呪術的な守りを担うものや正行寺の様に藩主の菩提寺であるもの、石川氏とゆかりのある林昌寺稲荷や妙勝寺、戸田氏と関係の深い林昌寺、堀田正盛の弟がその名の由来である恵光院、水野氏による建立である大松寺、藩士の屋敷神であった菅沼稲荷や天白稲荷など、城下町であった歴史が色濃く反映されている。特に、正行寺は平安時代末～鎌倉時代初頭に活躍した武士佐々木高綱による開基と伝えられ、松本城下町の建設に伴い石川氏の墓所として六九町へ移され、その後下横田町へ移転し現在に至っている。また、廃仏毀釈の際には、第22代の住職である佐々木了綱は、藩内の浄土真宗寺院に呼びかけ反対運動を展開。松本藩内の多くの寺院が廃寺となった中、正行寺(妙勝寺などの塔頭を含む)、長称寺など、浄土真宗寺院の多くの寺院が廃寺を免れた。

東部地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

松本裏町の花街文化

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：鯛萬の井戸

○ 構成要素となる文化財：

三絃稲荷、松本音楽院跡、松本医専発祥の町碑、市川量三生地跡、伏見稲荷、水天宮、信濃劇場跡、旧置屋(未選定)、鍵の手跡(未選定)など

関連文化財群の特徴・魅力

江戸時代に寺院門前の矢場や東町の旅籠街などにより形成されていた歓楽街は、幕末には「町じゃかぎの手、長野じゃ権藤、江戸じゃ吉原とどめ指す」「御霊殿(みたまや)の彼岸桜に鍵の手ハリバコ」などと唄われていた。この歓楽街は明治時代以降、裏町の近代的な花柳街へと繋がっていく。

芸事の上達のために勧進された三絃稲荷や水商売と安産の神と言われた水天宮、かつて置屋として使われていた建物などが往時を偲ばせる。なお、戦前戦後一世を風靡した芸者歌手市丸は、当初桜町に住み、市丸は浅間の座敷へ、姉妹は裏町から出ている。妹は上京後も市丸の相三味線を務めたという。

一方で、戦時中の松本医学専門学校(現信州大学医学部)への仮下宿としての建物の貸し出しや、検番の松本音楽院(スズキメソッド)への貸し出しなど、花街という要素にとられない時代に合わせた利活用もされている。

東部地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

松本近現代の軌跡

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：ひかるや保存館(旧光屋店舗兼主屋)

○ 構成要素となる文化財：

市営公益質屋跡、製紙工場跡、富士電機松本工場跡、やまびこ道路、浅間線電車、
 中信職業訓練センター跡、信大学長宿舍

関連文化財群の特徴・魅力

明治維新以降、松本のまちは近世城下町から近代都市へと姿を変えた。製糸業の発展や歩兵50聯隊の入城、旧制松本高等学校の開校、浅間線電車の開通などの影響により、当地区も大きく姿を変えていく。
 製紙工場についてはもともと盛んであったが、近代以降、製糸業の発展による種紙の製造で大きく成長した。製糸業の衰退後、松本周辺の工業を支えたのは、戦時中の疎開企業であったが、当地区には富士電機の工場があった。
 浅間線電車の開通は、明治末～対象期に相次いで開通した鉄道により増大した浅間温泉への訪問客に対応するものとして大正13年に開通した。浅間線等の鉄道開通は、乗合馬車や人力車の減少など、それまでの交通体系を大きく変えることとなった。戦後、自動車が急速に普及すると、路面電車は自動車交通の障害になるとして、市より撤去の要請がなされる。老朽化や赤字等の問題も重なり、昭和39年には路面電車は廃止され、専用軌道はバス専用路線を経てやまびこ道路へと姿を変えた。

東部地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

こどものせかいと民俗信仰

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：単信坊

○ 構成要素となる文化財：

双体道祖神、耳聞神社、善昌寺、光明幼稚園、石造道祖神、木造道祖神等、女鳥羽川遺跡

関連文化財群の特徴・魅力

今から300年ほど前、単信坊は、托鉢で得たお布施であんころもちを買い、子どもに分け与えていたという故事から、今でも縁日には多くの子ども達が参拝している。また、子どもが主体的にお祭りを行っていた善昌寺の道祖神祭りも、少しずつ形を変えながらではあるが、子ども達が係わる形で伝承されている。
 また、病気の治癒を願った耳聞神社や村の安泰を願った双体道祖神などもある。
 さらに縄文時代の遺跡である女鳥羽川遺跡からは、県下最大級の土偶が出土しており、報告書によれば祭祀の場であった可能性があるという。
 これらの文化財からは、縄文の昔から現代にいたるまで、安心した暮らしと子供の健やかな成長を願ってきたことが見て取れる。

東部地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

西洋館の変遷～立石清重とその精神～

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：立石清重生家跡

○ 構成要素となる文化財：
旧松岡病院、洋風建築(宮島医院、上條医院、旧青木医院)

関連文化財群の特徴・魅力

東部地区には、明治初期から大正、昭和初期に至る日本の西洋館の変遷を感じさせる建物などが残っている。明治初期の代表的な建築様式である擬洋風建築。その代表である旧開智学校を建てた大工棟梁立石清重は、当地区の出身である。地区内には立石清重の建築や擬洋風建築は残されていないが、彼の弟子にあたる佐野貞治郎が手掛けた宮島医院や旧松岡医院といった大正ロマンを感じさせる洋館が残っている。また、宮島医院の隣に建つ旧青木医院は昭和9年の建築で、スクラッチタイルの使用や木造モダニズム建築からの影響など、当時の最先端の流行を取り入れているという。

中央地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

松本城

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：国宝 松本城

○ 構成要素となる文化財：
二の丸御殿跡、三の丸、松本城大手門・枡形ひろば、新井邸の赤門、総堀土塁公園、川久保邸の庭園、総堀跡を遺す橋の一部、外濠小路、明治天皇行在所奮址碑、北門大井戸、四柱神社、御幸橋、松本ホテル花月、ナワテ横丁、湧水、町名、小路名

関連文化財群の特徴・魅力

小笠原貞慶が深志城城主となると、天正13年(1585)頃、深志を松本と改め、修築と城下町の建設に本格的に着手し、松本城下の町割の整備を開始した。その後に入封した石川数正は、城普請に着手し、没後は長男の石川康長が引き継ぎ、天守、乾小天守は慶長の初め頃には築造された。天守と黒門、太鼓門の築造などが終わると、総堀で囲まれた郭が形成された。総堀には東西南北5カ所の出入口が設けられ、中でも三の丸南側、本町からまっすぐ女鳥羽川を渡った場所に城郭全体の正門として大手門が設置された。総堀とその内側にある土塁とその上にたつ堀によって三の丸と城下町は明確に分けられ、三の丸内部には家老を頂点とする上級家臣の屋敷が軒を並べていた。その後、水野氏が城主であった時代に、現在に残る城下町の姿が整った。

明治維新になって武士の時代が終わると、堀も次第に埋められて人の居住や通行が自由になっていった。なかでも総堀は、明治4年頃大手門が破却され、明治9年頃には門台の石垣が干歳橋の工事に使用された。明治11年には大手門枡形東側の総堀を埋め立て13年に四柱神社を建設。四柱神社の鳥居下にある御幸橋にも門台の石垣が使用されている。馬出の形を止めていた東門馬出は明治29年の女鳥羽川洪水によって埋まったようである。大正7、8年になると市内居住者が急激に増えたため、大正10年に西堀の総堀を埋めて市営住宅を建築。昭和7年には北馬場の総堀の西側に市民プールがつくられ、堀の内部にコンクリート製の50mプールや幼児用の浅いプールができた。このように明治から昭和初期にかけてお城の東側にある片端の総堀だけを残して埋め立てられてきた。

中央地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

大正ロマンのまち 上土

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：旧松本市役所跡、下町会館

○ 構成要素となる文化財：

甘味喫茶塩川、民芸居酒屋「しづか」、電気館、平出酒店、想雲堂、東門磯村、松本ホテル花月、白鳥写真館（以上 上土）

関連文化財群の特徴・魅力

上土町は、松本城総堀東門近くの土を掘り上げたところで「上土」とよばれたと伝えられている。大正2年（1913年）、上土町に松本市の新庁舎が完成し、中心地としての発展の礎ができた。縄手通りとともに上土は明治末から大正時代にかけて形成された飲食と遊興の街であり、この一角は時の世相を反映した新しい業種の店も、その時代のなかで多く生まれている。芝居、活動写真、楽器店、洋食店、バー、カフェ、ダンスホール、ピリヤード、洋菓子店など。

また、映画全盛期には、上土界隈は映画館街、電気館のほか、松本座といった銀映座、開明座、演技座（緑町）、中劇（縄手）などがあり、今では想像もつかないほどの人の賑わいがあった。昭和初期に他を圧する3階建ての洋風店舗が7、8軒相次いで建てられ、その洋食店と洋菓子店には当時のハイカラな人々が足しげく通い、松本の街中でも代表的な「社交場」として一世を風靡した。また、上土界隈には大正から昭和初期にかけて擬洋風建物も多く建てられ、今日の「大正ロマンの街・あげつち」につながっている。この地区ならではの風情が漂う魅力ある街づくりを今後どのように構築していくか、ナワテ通りや緑町も含めて地域と行政が互いに知恵を出し合いながらどのような方向性を見出していくかが課題である。

中央地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

まつもとの文化の礎

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：藩校崇教館跡(丸の内)

○ 構成要素となる文化財：

明治天皇聖蹟碑(丸の内)、宋版漢書慶元刊本、旧開智学校、滝川 太郎、「弁天」本店、青翰堂書店、民芸居酒屋「しづか」、ナワテ横丁、石井柏亭

関連文化財群の特徴・魅力

○藩校崇教館は、寛政5年第20代城主、戸田光行の時代に藩の学問所として藩士やその子弟が文武の道を学ぶため創立された。名前のや場所の変化はあるものの、卒業生として、初代文部次官である辻新次、県歌「信濃の国」を作詞した浅井洌、初代松本市長 小里頼永を輩出。藩校崇教館は松本の「学び」の源流となり、学びと文化芸術を尊ぶ松本固有の市民気質が育まれてきたと考えられる。

○そんな中央地区に所縁のある人物として、画家 滝川太郎がいる。滝川の生家は松本市天神で蕎麦屋を営んでいたが、両親を早くに亡くしたため小学校を卒業すると縄手の蕎麦屋「弁天楼」（今の弁天）で住込みで働くようになった。その近くに秀峰館という旅館があり、その旅館に泊まる画家・篆刻家（新村翠石・八幡郊）から話を聞いたり手ほどきを受けた。大正8年に上京し、石井柏亭宅の書生をしたり文化学院で働きながら絵について学んだ。昭和15年に帰国し松本へ戻る。大名町にある「青翰堂書店」や民芸居酒屋しづかなど、滝川との関わりがあった店も健在である。

中央地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

水めぐる城下町

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：まつもと城下町湧水群

○ 構成要素となる文化財：
塩井の湯、北門大井戸、内堀、外堀、総堀、地蔵清水の井戸、水道施設の遺構・出土品、松本城、

関連文化財群の特徴・魅力

松本城周辺の城下町は、周囲の山々から生まれ出る清らかな水を地下にたくわえ、戦国時代・江戸時代から湧き出した水は常に人々の暮らしを支えてきた。松本城の周りに巡らされた内堀、外堀、総堀の三重の堀の水は、湧水が水源となっている。更には女鳥羽川、薄川、大門沢などが流れており、松本城は水に護られた城である。豊富な水の恵みを背景として、樋水の技術が各所に広まった元禄年間には、松本城下町でも木樋や竹管で高低差を利用して流水し、集水枡で水を汲む水道施設が整備された。このような水道施設は、二の丸御殿跡や三の丸の上級武士の屋敷地、本町や中町などの発掘調査で多くの遺構が確認されている。二の丸御殿跡で出土した埋樋は、地蔵清水の井戸からの引水施設である。地蔵清水の井戸はかなりの水量があったようで、柳町や土井尻の武家屋敷にも水を供給していた。平成20年には、これらの城下町の湧水が、「まつもと城下町湧水群」の名称で、「平成の名水百選」（環境省選定）に選定された。

土井尻、北土井尻町会に住む70代から80代の方々の話によると、子どもの頃にはこの地域は長屋が多く、各家庭に井戸があったようだが、現在残っている井戸は少ない。井戸水は洗濯などの生活用水として使用されていたが、塩分が含まれていたため料理用として使用する家庭は少なかったようだ。また北土井尻町にある銭湯「塩井の湯」は、浴場地下から湧き出る塩類を多分に含んだ鉱泉であり、戦前信大病院が今の開智小学校のところにあった頃、外科の回復期の患者さんのお粥を炊くために、病院から塩井の湯まで水を分けてもらいに来っていたという話もあり、ミネラル分が豊富で現在も多くの常連客に愛されている。

城北地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

古代より人々の集うまち

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：古墳群

○ 構成要素となる文化財：
沢村の古墳、饅頭塚古墳など、牛の道、道祖神、幾つかの小さな神社、萬寿大明神、大日堂、首貸せ地藏尊、賢忠寺跡、姫宮神社、サイカチの木、大山祇神社、辻井戸、大門沢川、旧町名・小路名、高橋家住宅、旧開智学校、旧司祭館、深志高校

関連文化財群の特徴・魅力

この一帯は、食糧資源などの豊富な山間部を背後にして開けた空間で、女鳥羽川・薄川の湧水地帯で湿地帯である。水の便に恵まれ、古くから人が住むには適した場所であったようで、饅頭塚古墳を始めとして、縄文から平安にかけての遺跡が確認されている。饅頭塚古墳はほとんど切り崩され元の形をとどめていませんが、墳頂と思われるあたりに萬寿大明神が祀られている。また、饅頭塚古墳からは、鉄製直刀・刀子・玉類などが出土しており、これらは東京国立博物館に保存されている。

時代が下り、中世になると、深志、白板、庄内の一帯には捧北条庄が置かれていた。また、今の地蔵清水のあたりは中世から市が開かれ、人家も立ち並び賑わっていたところであったが、小笠原氏が深志を回復し、小笠原貞慶が城下町の整備に着手してからは、地区の南東部（城下町の北部）は城下町の武家地として整備されていった。武家屋敷は殆んど残っていないが、城下町としての町割や、天文20年（1551）、小笠原長時が武田軍と戦う際に戦勝祈願をしたとされる大日堂、城主 水野忠清に由来する首貸せ地藏や賢忠寺跡など、松本城との関係を表す文化財が残っている。

安原地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

城下町の生活用水

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：用水路、辻井戸

○ 構成要素となる文化財：

<用水路>

麻葉川 水汲地籍で女鳥羽川から取水→萩町→安原堅町→深志池→北馬出の堀へ

新町水路 深志池→新町→北馬出の堀へ

袋町水路 湧水を集めて袋町→北馬出の堀へ

天白水路 麻葉川から分水して天白町(街中央部を流れ)→袋町水路へ合流

境川 麻葉川から分水して城下町北部・東部境を流れ→花見池→紙すき川へ

<辻井戸>

中ノ丁に1ヶ所現存(他に復元可、中ノ丁・東ノ丁各1ヶ所)

関連文化財群の特徴・魅力

当地区は、女鳥羽扇状地の扇央～扇端に位置している。このため安原町横町以南は扇端地で湧水利用が可能であったが、扇央部の乾燥地で水の便の悪い横町以北は、生活用水確保の手立てが必要であったため、街割整備に併せて用水路と辻井戸が造成された。

地区内には用水路が5水路整備され、生活用水や防火用水として活用されたが、現在はU字溝で固められ雨水用側溝となっている。

辻井戸は、石積み堀井戸で、1井戸10～15戸で共同利用。天保6年(1836)絵図で当地区武家街で19ヶ所を数えるが、上水道の普及に伴い使命を終えて次々と埋め戻され、当地区に残っているのは数ヶ所だけとなっている。

安原地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

城下町の武家・商家の街

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：街割と街路、武家住宅

○ 構成要素となる文化財：

武家の街：新町(1633～)、袋町(1636～)、萩町(西1617～、東1642～)、両下町(上下・下下丁)、天白町・中ノ丁・東ノ丁(1642～)

商家の街：安原町(立町・横町 1582～)

街路と施設：地区内城下町の街路、善光寺街道(1614～)、一里塚跡、常法寺小路、鍵の手(袋町)、木戸・番所跡、十王堂跡

武家住宅：橋倉家住宅(1850頃 県宝)、他に同時期の住宅3軒(東ノ丁 2軒、天白町 1軒)

関連文化財群の特徴・魅力

武田信玄は、1550年深志を領し、後の治世33年間に、内・外・総堀をめぐらし出入口に馬出を備えた城郭と、女鳥羽川を現流路に整備して城地を拡大し、現在の松本城下の基礎づくりを行った。

その後の藩主と城下町づくり

小笠原貞慶：商家の街割と商家の集住 — 安原町

石川数正・康長：城下町拡充計画、十王堂の設置 (堀の再整備と松本城天守閣の建造)

小笠原秀政：商家街への商家の集住

松平直政：武家街割 — 新町、袋町(辰巳附櫓、月見櫓の建造)

戸田康長：武家街割 — 西萩町

水野氏：武家街割 — 東萩町、天白町、中ノ丁、東ノ丁、上下丁、下下丁

城下町の整備完了(17世紀半頃)

安原地区 関連文化財群

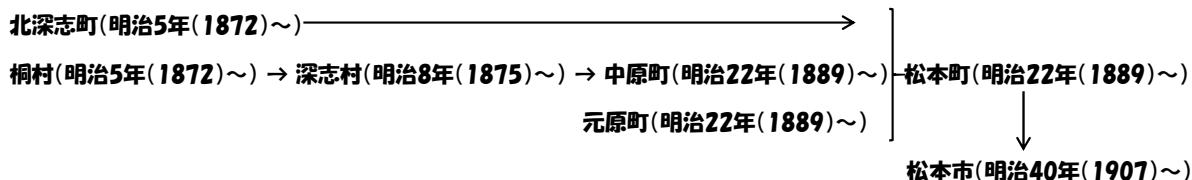
関連文化財群のテーマ

明治以降の町の変遷

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：町名の変遷

○ 構成要素となる文化財：



関連文化財群の特徴・魅力

明治以降城下町周辺の農地開発が進み農民の集住が増加し、村や町が形成された。又既存の町も行政上の変遷を繰返し、やがて松本市が誕生した。

安原地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

明治史跡と現代施設

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：明治史跡と現代施設(大正以降)

○ 構成要素となる文化財：

- 長野県師範学校(1876~1950)(付属小併設)→ 信州大学付属小・中学校・幼稚園(1961~)
- 歩兵第50連隊(1907~1945)レンガ造種株庫・射撃場橋
→ 旭町中学校(1948~)、信州大学付属病院(1949~)、県立美々須ヶ丘高校(1950~)
- 長野県蚕業試験場(1907~1985)記念碑→ 信州大学運動場(1990~)、看護総合センター(1990~)、
安原地区公民館(2001~)
- 長野県陸上競技場(1926~1988)→ 松本市総合体育館(1991~)、長野県松本文化会館(1991~)、
旭町小学校(1922~)、少年刑務所支所(1926~、旭町中桐分校併設)、
県立盲学校(1937~)、県道第2線路(国道143号、1890~)、
市道こまくさ道路(1968~)

関連文化財群の特徴・魅力

明治維新後、明治9年に長野県が発足したが、県庁所在地からはじまり国、県施設の建設地について、街づくりの拠点施設として必要性を訴え、長野市(北信)と松本市(南信)で誘致合戦が繰り広げられ、その結果として当地区内に4施設が設置された。

- 県師範学校(1876~1950年)：近現代の学校教育を推進した教師の養成
- 歩兵第50連隊(1907~1945年)：日露戦争後軍事力強化のための設置、第2次世界大戦で満州・中国・東南アジア転戦。
出兵の後に歩兵第150連隊が編成され、トラック諸島で終戦。
- 県蚕業試験場(1907~1985年)：蚕種改良・養蚕業振興により蚕糸業を支えた。
- 県陸上競技場(1926~1988年)：県的に陸上競技の普及・競技力向上に寄与。
皇太子(昭和天皇)御成婚記念事業として建設された。

第2次世界大戦後、その施設も一定の役割を果たして順次廃止され、その史跡は時代の要請により再開発され、教育文化施設等が建設された。また、主要道の開発は、地域開発を促し、人口の増加や地域との交流、地域経済の発展に寄与した。

安原地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

景観樹の保全

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：保存樹、景観樹

○ 構成要素となる文化財：

保存樹：カシワ(元原)、アメリカハナズオウの木(中/丁)

景観樹：桜 並 木 — 総合体育館周辺、信州大学周辺、旭町中学、美々須ヶ丘高校周辺

イチョウ並木 — 総合体育館・美須ヶ庭球場周辺

屋敷林等 — 美須神社の杜、信大附属小・中学校記念樹、総合体育館周辺のケヤキ

関連文化財群の特徴・魅力

景観樹は、近・現代の施設建設に伴う周辺整備の一環として植えられた樹木が大部分であるが、学校周辺には卒業記念樹として植えられたものもある。現在はいずれも大樹となり、緑豊かな景観を形成し、地域住民にやすらぎと憩いの場を提供している。

安原地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

信仰のあかし

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：信仰のあかし

○ 構成要素となる文化財：

神社：天白神社(道場) (1595頃～)、県護国神社(1938～)、八幡社(1910頃～)

寺：十王堂跡(安原) (1595～1872)、撰取院跡(1624～1872)、本立寺

稲荷社：天白七福稲荷社(旭町 江戸後期)、福徳稲荷社(新町 江戸中期)、世育稲荷社(安原町 1815～)

石 仏：馬頭観音・不動明王(中原)、子育地藏尊(撰取院跡)、石仏(十王堂跡11体、中原、安原)

石 塔：念仏供養塔(十王堂跡)、庚申塔(元原、中原、撰取院跡)、道祖神塔(中原)、廻国供養塔(中原)

木彫仏：道祖神像・三九郎神像(安原町)、オンマラサマ(安原・中原町)

石灯籠：天白神社(4本)

関連文化財群の特徴・魅力

有志以来、人は宇宙・自然の万物・死者を対象に崇め、敬い、祀ってきた。やがて神道・仏教・キリスト教等宗教の形で具現化されると共に、宗教にとらわれない様々な民間信仰として続いてきた。

祈りの内容は、健康・安全・除災・五穀豊穰・商売繁盛・子宝子育・極楽往生・戦勝 等々、人々の様々な精神的生活課題の解決・解消を願う祈りであり、現代にも続いている。

安原地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

近代化の先駆者

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：近代化の先駆者の業績

○ 構成要素となる文化財：

- 鳩山 春子：女子教育の先駆者としての業績
- 沢柳 政太郎：文部行政・教育の先駆者としての業績
- 近藤 次繁：外科医療の先駆者としての業績
- 木下 尚江：新聞記者、弁護士、社会運動家、小説家としての業績

関連文化財群の特徴・魅力

廃藩に伴い、職と禄を失った1000人余の武士は、置県の管理や商業・農業等に職を求め、あるいは下付された住居を売り払い、松本を離れる者も少なくなかった。そんな状況下でも、子供の教育には力をそそぎ、近代を担う人物も排出した。地区出身の著名人として、4氏をとり上げた。

- 鳩山 春子：(1861～1938年 旧制多賀 袋町出身)政治家 鳩山和夫に嫁し、後の鳩山一郎首相の母。共立女子職業学校を明治19年に設立。学長を務める。
- 沢柳 政太郎：(1865～1927年 天白町出身 文学博士)文部次官、東北・京都帝大学長。成城小中学校創立、校長を務める。松本高等学校誘致に協力。帝国教育会長・文教審議会委員等。
- 近藤 次繁：(1865～1944年 旧制鶴見 新町出身 医学博士)東京で病院経営の近藤家の養子に入る。東大教授、日本外科学会創立・会長。松本医学専門学校及び松本市民病院の設立に協力。
- 木下 尚江：(1869～1937年 天白町出身)「信陽日報」記者、「毎日新聞」で足尾銅山鉱毒事件担当。普通選挙期成同盟会結成。廃娼・禁酒運動。小説『火の柱』他多数。

城東地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

松本城の鬼門封じの神社仏閣群

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：岡宮神社／本殿(寛文3年)・神輿(元禄13年)(市重要文化財)
舞台(市重要有形民俗文化財)

大安楽寺／大日如来(市重要文化財)
寶榮寺／本堂(江戸時代後期)涅槃図(1706年、岡田東虎画)

○ 構成要素となる文化財：

- 岡宮神社／伊勢神宮からの神門と建築記念碑／大石鳥居と記念碑／境内の小社群／旧社務所
／大酒供養塔(隣接)
- 大安楽寺／観世音菩薩(松本三十三所の1番)／不動明王／愛染明王／観音霊場まつもと三十三番札所の一番
／仁王門の仁王像と馬蹄観音像は鎌倉時代の作とも言われている。隣接して地藏菩薩等石仏群がある。
- 寶榮寺／鐘樓／境内の横田溝渠

関連文化財群の特徴・魅力

江戸時代、現在の城東地区南西部は、善光寺街道筋の城下町として、主に町人が住んでいました。また、松本城の北東(鬼門)の地にあたっていたため、鬼門除けの寺社として、岡宮神社、安楽寺(大安楽寺)、寶榮寺が歴代城主によって建てられ庇護されてきました。

岡宮神社は、おもに周囲の町人を氏子として発展してきました。現在の氏子は29町会に及んでいます。毎年5月に、神輿・舞台が繰り出される盛大なお祭りが開催されます。

安楽寺は明治初年の廃仏毀釈の際に廃寺(仏像等は寶榮寺で再興されるまで保管)となりましたが、大正11年に大安楽寺と改称して復興されました。市重要文化財の大日如来坐像が祀られており、縁日には大わらじ踏みの行事が開催され、多くの人々が訪れています。

寶榮寺は明和7年(1770年)大火で消失しましたが、江戸時代後期に再建された本堂は檜造りで豪華であり、岡田東虎によって描かれた大涅槃図は縦横2間に及ぶ大きな掛軸となっています。

周辺には、念仏供養塔や、ユニークな表現がされた大酒供養塔などの石造文化財も点在しており、この一帯は住民が培ってきた信仰の姿がよく見られる場所となっています。

白板地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

古代の開発と放光寺

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：放光寺、木造十一面観音立像(放光寺)

○ 構成要素となる文化財：

放光寺遺跡、城山腰遺跡、開き松古墳、山王山古墳、犬甘城址、放光寺(犬甘)城山空堀、秋葉神社(放光寺境内)、城山稲荷神社(放光寺境内)、放光寺弁天池、薬師如来、城山、泉小太郎のほこら、(正行寺)

関連文化財群の特徴・魅力

城山の一带は、松本市域北部の弥生時代後期のムラの大きな中心であったと考えられます。5世紀後半になると、市内でも特に城山腰には古墳が集中して造られるようになりました。明治の初年頃に発掘され、眉庇付冑を始めとする多くの副葬品が発見された開き松古墳ほか、いくつかの古墳が存在していることから、城山の山裾一带は、郷が置かれた当初、渡来系の犬甘氏に関連した辛犬郷の中心であったと考えられます。

また、城山にある放光寺は、京都知恩院の末寺でしたが、その創始は平安時代の初期と伝えられています。犬甘氏の氏寺とも考えられますが、開山開基は明らかではありません。江戸時代の始め、不協力の理由で寺運衰えたとはいわれますが、由緒深い寺として信濃百番の観音の札所選ばれたり、松本三十三番の観音の札所選ばれています。本尊である木造十一面観音立像は平安時代後期のもので、松本地方最古に属する仏像です。明治初年の廃仏毀の際には十一面観音をはじめ、小泉小太郎像など仏像を横田の正行寺に預け、仏像棄却の難を逃れました。明治11年(1878)松本町川北の大火の際、正行寺も灰燼に帰しましたが、この十一面観音像は運びだされました。その後大正13年(1924)、放光寺を旧地に復興した際、正行寺に預けられた十一面観音を本尊として迎え、放光寺の寺の名前も復活しました。泉小太郎が育った地であるとも言われているほか、厄除け観音として信仰を集めています。

また、放光寺は観応の擾乱の合戦の場となり、天文期(1532~1555)には現在の城山公園に小笠原長時が犬甘城を築かせるなど、城山の一带は、南北朝時代から国府の守りとして重要な地点であったものと考えられます。

白板地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

川と交通

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：犀川通船跡

○ 構成要素となる文化財：

糸魚川街道・新橋、女鳥羽川、奈良井川、大門沢川、折井町二軒長屋跡、大庄屋折井家と古文書、白板村水田囿、北松本駅・信濃鉄道(巨神社の石造物)

関連文化財群の特徴・魅力

白板地区は、地区内を大門沢川、奈良井川、女鳥羽川が通っており、川との関わりが深い地域である。

古くは、女鳥羽川の北から奈良井川の東の低湿地帯に水田が造られ、宮淵本村の集落が発展していった。農業用水としては、江戸時代の絵図に、女鳥羽川の亘理社付近から取水し、奈良井川に抜ける用水路が描かれている。かつてはこの水路沿いに水車小屋がたくさんあった。また、松本城の堀から取水した水路もあり、白板地区の田んぼの水路には、お堀の水が流れている。

また、女鳥羽川の流れを利用し、天保3年(1832)、犀川通船が白板を起点として営業を開始した。多い時には30隻以上が就航するなど、松本の物流や人の移動に大きな役割を担っていた。犀川通船は、明治35年(1902)、篠ノ井線の開通により松本からの通船は廃止となったが、大正4年(1915)に信濃鉄道が開業されると、当時は北松本が大糸線の終点であったこともあり、北松本周辺を始めとする白板地区は大変賑わった。また、今町、西堀町、六九町方面の商業に活気がみられるようになった。その後、犀川通船は、昭和13年(1938)の陸路犀川線の全通によって歴史的な使命を終えた。

奈良井川との関連では、江戸時代の元禄年間(1688~1704)に糸魚川に向けた街道が開通し、奈良井川を渡るための橋が架けられたことに由来して、新橋の地名が付けられたといわれる。新橋は善光寺街道との交差点にあたることから、昔は町並みが大変賑わった。

このように、白板地区は付近を流れる川を活かして生活を営むと共に、川や街道、鉄道によって人の往来と物流に大きな役割を果たしてきた。

田川地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

交通の要の地域（交通と物流）

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：野麦街道、犀川通船発着所跡、松本駅

○ 構成要素となる文化財：
馬頭観音の石碑、石尊大権現の碑、渚城址

関連文化財群の特徴・魅力

田川地区には中世、信濃守護職小笠原氏の館として渚城が構築された。江戸期には、松本城下への西の玄関口として、野麦街道が巾上、渚を通り渚城址の外郭を北から西に直角に回って飛騨まで通じ、越中（富山）の海産魚介類がボッカや牛の背で松本まで運ばれた。大正2年、野麦街道の新道が渚に開通し、渚城址が東北角より西南角へ三角形に二分された。また、近世後期から近代初期にかけて大量の物資輸送を目的に、田川と女鳥羽川の合流地点対岸の白板に船着場が開設され、犀川通船が運航された。松本からは米穀類、山辺の藍、油粕などが運ばれ、新町方面からは楮、麻、塩などが運ばれた。しかし、野麦街道は筑摩鉄道（現松本電機鉄道）の開通や国道143号、158号などの幹線道路の整備により、往時の面影がなくなり、犀川通船も明治35年の篠ノ井線開通でその役目を終えた。

田川地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

水の豊富な地域（水利と水害）

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：犀川通船発着所跡

○ 構成要素となる文化財：
渚、巾上（以上、地名）、渚城跡、渚大神社、犀川通船の碑、阿弥陀院の水難供養塔、與曾井家の土蔵の内戸と仏壇及び記録

関連文化財群の特徴・魅力

田川地区は、奈良井川と田川が合流する水際地帯と、女鳥羽川と田川の合流地点上流の右岸の河岸段丘を範囲とし、旧庄内組の渚村と庄内村巾上を中心に構成されている。渚、巾上の地名が示すように、水との関わりが深い地域で、鎮守の渚大神社は「信府統記」に「水上ヶ大明神」と記され、奈良井川の水神を祭ったものと思われる。近世後期から近代初期にかけて、巾上の対岸の白板に犀川通船の船着場が開設された。近代にはこの水を活かしたレンコンの栽培や、製糸・染物・豆腐製造などが盛んとなった。昭和12年には、市営の養魚場が開設された。さらに豊富な水を活用し、勘左衛門堰の水量増強を図るため、昭和13年に鎌田集水溝と両島集水溝の工事が行われた。水に恵まれたこの地域は、一方で度々水害に見舞われ、江戸時代の寛永年間の被災者の供養塔が巾上の阿弥陀院にある。また有史以来最大の被害といわれる明治29年の水害では、女鳥羽川があふれ、巾上地区は壊滅的な被害を受け、與曾井氏宅に残る記録や流出後に戻った仏壇が当時の様子を伝えている。

田川地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

民間信仰とコミュニティの形成

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：道祖神、庚申塔、念仏塔、月待塔

○ 構成要素となる文化財：
庚申講の道具、念仏講の道具、観音講の道具

関連文化財群の特徴・魅力

江戸時代には村や組という公的組織のほかに、任意に仲間を作って相互扶助を行うことが広まっていた。庚申講や念仏講といった講中がそれである。こうした村や講中の成立を明らかにするには、寺院境内や路傍にたたずむ石造物が役に立つ。

もっともポピュラーなのは、ムラ単位で建立される道祖神であるが、田川地区で建立年のはっきりしているものでは、巾上の安永2年（1173）の記録銘のある双体道祖神がある。

松本地方（西部を除く）では、道祖神とともに庚申塔の建立が早くから見られるが、古いものは講中ではなくムラ単位で建立されている。渚内城には元禄12年（1669）の記念銘を持つものが見られ、巾上の阿弥陀院の境内には、元文5年、寛政12年、安政7年と60年ごとの庚申の年に庚申塔が建立されている。庚申講は葬式仲間となつていくところが多い。

江戸時代の後期になると念仏講が組織されてくる。田川地区内をはじめ城下町周辺では、寛政年間に善光寺等順が善光寺の五重塔再建の勧進に配った名号によって建てられた名号碑を多く見かける。

田川地区内にも、江戸時代に起こった庚申講や念仏講が今も受け継がれている地区がある。また、講のほかにも同姓の氏神を祭る仲間も見られる。

庄内地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

小笠原氏ゆかりの寺社

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：筑摩神社

○ 構成要素となる文化財：
筑摩神社 若宮八幡社 宗徳庵

関連文化財群の特徴・魅力

庄内地区の北部・中央地域には、信濃国を治めた小笠原氏と係りが深い寺社が所在している。国府に近在したため「国府八幡」といわれた筑摩神社の本殿は、小笠原政康により永享11年（1439）に寄進された。若宮八幡社本殿は、松本城西北隅に小笠原貞慶によって勧請された社殿を、寛文10年（1670）に水野忠直がこの地に移したものと伝えられている。宗徳庵は、古河の地で文禄4年（1595）に没した小笠原貞慶の恩に報いるために、小笠原氏の菩提寺・広沢寺の住持が建てた庵であり、小笠原家の祖先を回向した。

庄内地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

善光寺道沿道の文化財

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：道祖神 馬頭観音

○ 構成要素となる文化財：
多賀神社 中田家住宅 一里塚跡(念仏供養塔・名号塔) 道祖神 馬頭観音

関連文化財群の特徴・魅力

庄内地区を南北に通過する街道「善光寺道」は、塩尻から松本を通り北に抜ける主要道であった。そのため、街道沿いの各所に、その当時の様子を示す文化財が残されている。

庄内地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

洪水防御の遺構

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：水止めの石

○ 構成要素となる文化財：
水止めの石 水止めの石垣

関連文化財群の特徴・魅力

庄内地区の北端を流れる薄川は、山辺の谷を出て扇状地に展開するが、昔からたびたび洪水をおこしており、このため中林村は上流の地から現在地に部落毎移転したという歴史を持っている。この為薄川左岸の中林、筑摩、三才の旧家には、この洪水を防ぐための石垣や屋敷内侵入を食い止めるために制水板を挿す溝を施した石造物等が残されている。

庄内地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

江戸期の処刑場跡

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：義民刑場之址

○ 構成要素となる文化財：
義民刑場之址 城見橋表示(俗称:かたら橋) 題目石 名号塔

関連文化財群の特徴・魅力

1686年(貞享3年)松本藩で発生した百姓一揆により、多くの百姓が処刑された。その歴史を記録する遺物は各所に残されているが、庄内地区の一角にある処刑場を示す石柱等も貴重な文化財である。また罪人が刑場に向かう際、渡った橋から刑場が見え、がっくりと首をたれたということから名付けられた橋の名前も歴史を示す記念碑である。

庄内地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

住民の祈りと伝統行事・風習

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：水子地藏 お百度参り石

○ 構成要素となる文化財：
水子地藏 念仏供養塔 庚申塔 道祖神 千鹿頭神社 逢新神社
千鹿頭神社の御柱祭りお百度参り石 力石

関連文化財群の特徴・魅力

庄内地区の歴史をたどる中で、過去の村落群から現在のまちの姿に至るまで、そこに住んでいた住民の信仰の名残りや伝統行事が、各所に見受けられる。また、庄内地区には古くから村落が成立し、その部落毎に残されてきた墓地にはかなりの数の石仏等が残されている

筑摩神社境内に、南北一対で置かれたお百度参り石は、この地域の住民の祈りを受け止めてきた素朴な証といえる。また、地域内に残る数点の力石は、その当時の各村において、力比べをした名残りである。

鎌田地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

井川城と関連文化財

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：井川城址跡

○ 構成要素となる文化財：
【井川城下区】地名「井川城」、井川城址跡、神明社、曹洞宗大圓山 廣正寺

関連文化財群の特徴・魅力

松本駅から南に1kmほどの場所に「井川城」という地名が残っています。ここは、14世紀頃に信濃国守護小笠原貞宗が井川の館（井川城）を建て、本拠地としていたところです。

小笠原貞宗は建武の新政の際、足利尊氏にしたがって活躍し、その勲功の賞として建武2年(1335)に安曇郡住吉荘を与えられました。その後信濃国守護に任じられるに及んで、信濃国司の国務に対して権益を守る必要からか、伊那郡松尾館から信濃府中の井川の地に館を構えたのです。（現在は小高い丘に祠があるのみ）

井川館を築いた時期は明確ではありませんが、「小笠原系図」では貞宗の子政長が元応元年(1319)に井川館に生まれているので、鎌倉時代の末にはこの地に移っていたとも考えられます。

鎌田地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

近代の開発

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：松本村の役場跡

○ 構成要素となる文化財：
【井川城中区】松本村の役場跡
【征 矢 野】開道記念碑、御嶽教松本教会
【月 見 町】母子フロンズ像
【笹 部】旧NHK松本放送局、笹部飛行場跡と競馬城跡
【石 芝 東】石芝天満宮

関連文化財群の特徴・魅力

大政奉還による明治維新の大改革が始まり、鎌田地区は明治8年に小島（井川城）、鎌田、征矢野が筑摩村に、笹部、高宮、両島は信楽村に入村する。

明治22年に松本町が誕生。小島、鎌田、征矢野、笹部、高宮、両島の6村と出川、並柳が加わり、8村が松本村となる。当初、出川にあった村役場を井川城に移転する。明治40年、市政が施行されて松本市が発足し、大正14年本村が松本市に合併した。終戦後、昭和22年中条町区、中条南区が加わり、27年に石芝西、石芝東、39年に昭和町、40年に月見町、41年に五月町、44年に南原町がそれぞれ加入、47年に井川城が上、中、下3町会に分かれ、53年に弥生町が入り、59年に石芝西を石芝町と改称し、現在の鎌田地区は17町会となった。

鎌田地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

お八日念仏と足半草履

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：足半草履

○ 構成要素となる文化財：

【両島】お八日念仏、足半草履、神明社(下社)

【中条】二十三夜塔、馬頭観音、念仏供養塔、地藏菩薩、庚申塔

【高宮】六臂青面金剛、聖観音、廻国供養塔、地藏菩薩、馬頭観音、念仏供養塔

関連文化財群の特徴・魅力

両島では毎年2月8日に、鎌倉・井口・竹田姓の11戸が組織する足半草履保存会で祭事を行う。当日は、木戸先で疫病神を防ぐため、ヌカエブシが行われる。その後、公民館で、なった縄に藁を編んで足半をつくる。足半ができると仏像の掛け軸の前に並べて飾り、数珠代わりの藁で編んだ縄の周りに座り、真ん中に座った音頭取りの念仏や鉦の音にあわせて、縄を回し、八日念仏を唱える。数珠がわりの縄でしばられると、その年を無病息災で過ごすことができるとしています。

お八日念仏が終わると、町会の境にある高い樹木に足半を結びつける。境にある大きな足半を結び付けることで、村内に巨人のいることに気づき、厄病神を防ぐと言われている。

鎌田地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

伝統行事の継承

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：町内公民館

○ 構成要素となる文化財：

【井川城下区】ほんぼん、青山様、文化祭、ふれあいイベント、敬老会(政令記念日)、さくらの会(旧老人会)

【笹部】魚つかみ取り大会、納涼盆踊り大会、敬老祝賀会、運動会、文化展、世代間交流会

【高宮】文化祭、青山様・ほんぼん、子供神輿、三九郎、町内大運動会

【鎌田】鎌田祭

関連文化財群の特徴・魅力

鎌田地区は17の町会にわかれ、それぞれに町内公民館があり、各町内公民館では独自の活動が活発に行われています。各町会、町内公民館を地域コミュニティの中核として、様々なイベントや伝統的な行事を通し、人と人との交流、そして、世代間の交流も図られています。

松南地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ 古墳を造った集落

関連文化財群を構成する文化財

◎ **核となる文化財**：出川西遺跡

○ **構成要素となる文化財**：
出川南遺跡、平田北遺跡、平田里古墳群跡、平田里古墳出土の埴輪、出川西遺跡の出土品、
(弘法山古墳、中山古墳群)

関連文化財群の特徴・魅力

南松本駅前通りを隔てて北側を出川西遺跡、南側を出川南遺跡、平田北遺跡と便宜的に区分しているが、これら3つの遺跡は一体の集落と考えられ、南北1.4km、東西1.2kmに渡る松本市内でも有数の巨大遺跡を形成している。弥生時代中期頃から出川西遺跡の東北部から居住が始まり、徐々に居住範囲を拡大しながら、古墳時代後期には集落は遺跡全体に拡大し、最盛期を迎えたと考えられる。

松南地区の東側、約1.2kmのところにある弘法山古墳は3世紀末（古墳時代前期）に造られたと考えられる前方後方墳で、東日本でも最古級の古墳の一つである。特に出川西遺跡からは、弘法山古墳の墳頂から出土した土器と同形式の、東海西部の影響を受けた外来系の特徴を持つ土器が多く出土している。弘法山古墳との位置関係や集落の規模、そして出土した土器から、この集落には、弘法山古墳造営の主要な一翼を担っていた集団が居住していたと考えられる。

また、出川南遺跡の範囲の中からは、平田里古墳群（古墳時代中期～後期）が発見されている。周溝からは、埴輪をはじめ周溝内祭祀に使用された遺物が多数出土している。特に1号墳は平地に築造された松本平の古墳の中では最大規模のものであり、5世紀後半以降の首長華墓の展開を考えていく上で重要な資料である。

この地に住んだ人々は、古墳時代前期には弘法山古墳、中期には平田里古墳、後期には中山古墳群を造営したと推定される。この一帯の集落は、奈良井川からの分流を主な生活用水としていたが、平安時代になるとこの流れが涸れ始め、集落は急速に消えてしまうが、最盛期、この一帯は、当時は数百軒に及ぶ住居が立ち並ぶ松本平では飛び抜けて大規模な集落であり、周辺に大きな影響力を持っていたことが想像される。

島内地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ 古代の島内

関連文化財群を構成する文化財

◎ **核となる文化財**：

○ **構成要素となる文化財**：
稲千原の旧石器、老根田遺跡、老根田古墳、泣坂古墳群、高松本村古墳、
平瀬川東古窯址群、北方遺跡

関連文化財群の特徴・魅力

島内山田は、松本平で初めて旧石器時代の遺物ポイント（尖頭器）が見つかった場所である。その南側、老根田丘陵には縄文中期から後期にかけての遺跡がある。その山頂から奈良井川の丘陵には古墳群が展開しており、奈良時代末から平安時代にかけて須恵器を焼いた窯跡も多い。

一方、奈良井川と梓川に挟まれた平地部では、北方で9世紀後半の集落址から「大井」の刻書のある須恵器が見つかっている。大井は筑摩郡の6郷の一つで、島内のうち、奈良井川左岸は大井郷に属していたものと思われる。島内は「犬飼島」と呼ばれ、6郷のうちの辛犬郷との関係も考えられるが、これは浅間温泉などを拠点とした犬飼氏が後に進出してきたものと思われる。それを示すのが、『日本三大実録』仁和元年（885）条の辛犬甘秋子の居宅焼き討ちの事件であろう。この後、北方遺跡から集落の跡は消え、12世紀まで空白となる。

島内地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

犬飼島の開発と経営

関連文化財群を構成する文化財

○ 核となる文化財：平瀬城跡(市史跡)

○ 構成要素となる文化財：

川合鶴宮神社、法住寺跡、武宮神社、開善寺跡、犬甘氏館跡、犬甘城跡、小宮神社、

関連文化財群の特徴・魅力

島内地区の平地部は、梓川と奈良井川、そして島立境を流れる古梓川(樽木川)に囲まれ、支配者の名を採って犬飼島と呼ばれた。この犬飼島にも、島立・新村と同じように条里的遺構が確認されている。この条里的遺構は平安時代末期の荘園制下での開発と考えられており、島内条里を潤す島堰である。新村で梓川から取水し犬飼島を潤し、小宮で分水する青島堰は高松・青島・新橋を潤す。辛犬郷を支配した犬甘氏が、国府勢力に追われ、犬飼島に進出してきたものと思われる。

12世紀には、平瀬の法住寺で写経をした源延という僧の記録がある。寺があったのは、布目瓦や白磁合子等が表面採取された川合鶴宮の東側と推定されている。このころ、すでに平瀬には集落が形成されていたと思われる。中世の記録や発掘調査の所見が少ないが、15世紀後半には犬飼島、平瀬、小宮の3村がみえ、その中心は犬飼島とみられるので、この3村は12世紀の荘園制下で成立していたものと思われる。

戦国時代になると平瀬氏と犬甘氏は、それぞれ奈良井川の対岸に山城を築く。平瀬城は奈良井川と梓川の合流点の東側に、広大な山城を築いている。熊倉は川幅も狭く水陸の交通の要衝として掌握していたものと思われるが、築城時期や居館の位置は定かではない。犬甘城はいわゆる城山丘陵にあり、居館は武宮神社の東と推定されている。犬甘氏によってはじめられたという鳥居火の行事が、町、北方、東方の3町会で行われている。

島内地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

街道と水

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：

○ 構成要素となる文化財：

養老坂、川手街道、旧糸魚川街道、長尾道、野麦道支道・飛驒道・牛道、水室道、岩岡道、千国道、仁科道、奈良井川、拾ヶ堰、ワサビ田、湧水、造り酒屋、染織業

関連文化財群の特徴・魅力

近世の島内は、糸魚川方面の物資の出入り口として重要な場所である。糸魚川街道のルートは、近世を通じて熊倉の渡しが主流で、養老坂を越えて松本城下へ通じていた。水野氏時代に新橋が架橋されると、城下から六九、今町を経由する道が開き、橋が通行できないときは川手道と呼ばれる奈良井川右岸を通って熊倉へ向かった。新橋を渡った左岸の新道は、東方、町、北方から平瀬川西に出て飯田へ渡った。また、後には拾ヶ堰沿いに平瀬の段丘下を通るルートもあり、一里塚の跡が残っている。拾ヶ堰は、文化14年(1817)に開削された安曇郡の村を潤す堰で、新橋で奈良井川から取水して梓川を渡って安曇野を潤した。

島内は湧水にも恵まれ、大正13年に竣工した松本市の上水道に水を供給したのは島内である。水温の低い湧水は水田耕作には適さないが、島内第2水源地南の島立境ではワサビの栽培もおこなわれているほか、造り酒屋や染織業も見られる。

島内地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

島内の天然記念物・他植生巨木

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：

○ 構成要素となる文化財：

東方島村家のビャクシン、東方犬飼家の祝殿のケヤキ、平瀬城の赤松

関連文化財群の特徴・魅力

「東方島村家のビャクシン」

東方の島村家の庭にビャクシンの木があり、市の天然記念物として昭和42年2月1日に指定されている。幹回り3m、高さ30m余の巨木である。ビャクシンはヒノキ科の常緑樹である。

「東方犬飼家の祝殿のケヤキ」

東方本郷の櫓、高さ約20m、幹回り4.35m、犬飼家の祝殿にある。市の保存樹登録

中山地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

古墳の宝庫

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：弘法山古墳(国史跡)

○ 構成要素となる文化財：

中山古墳群(小丸山古墳含む、市特別史跡)、中山36号古墳出土品、柏木古墳出土品、向畑遺跡、

関連文化財群の特徴・魅力

中山地区に隣接する国史跡の弘法山古墳は、古墳が造り始められた3世紀の終わりに築造された、東日本最古級の竪穴式の前方後方墳です。北側の谷を挟んで対峙する開成中学校の場所にあった中山36号古墳とともに、松本平の古墳時代の始まりを告げる古墳です。弘法山古墳は田川を挟んだ南松本駅周辺の集落により、中山36号墳は神田一帯の集落により築造されたものと考えられます。

一方、弘法山古墳の奥の尾根上には北尾根古墳群、中山36号古墳の周辺には棺護山古墳群があり、ほかにも5世紀後半から7世紀にかけて築造された古墳が中山地区に広く分布しています。特に、中山霊園周辺には多くの古墳が集中し、中山古墳群として松本市の特別史跡に指定されています。6世紀末の方墳とされる15号古墳(鍬形原古墳)保存整備が行われました。これらの古墳からは、金銅製の大刀や、轡・鞍・鐙などの馬具、勾玉・管玉などの玉類と金環などの装身具が出土しています。

中山古墳群の中核をなす向畑・坪ノ内は、およそ1万年前の縄文早期から人が住んでいたことが知られ、縄文中期にはその範囲が広がっていきます。しかし、弥生時代の遺構は中山には少なく、古墳時代前期に向畑に大集落が表れますが、これも長くは続きません。中山霊園周辺の後期古墳の築造者はどこに生活していたのでしょうか。

中山地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

勅旨牧から私牧へ

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：埴原牧跡附信濃諸牧牧監庁跡(長野県史跡)

○ 構成要素となる文化財：
保福寺、埴原神社、二重堀の松、塩くれ石

関連文化財群の特徴・魅力

埴原牧の繋飼場跡が、古屋敷と干国に残っており、長野県史跡に指定されています。勅旨牧は信濃、甲斐、武蔵、上野に置かれ、埴原牧は信濃16牧のひとつでした。勅旨牧を統括する牧監庁も国府とともに松本に移されたようで、考古博物館前に信濃諸牧牧監庁跡が附指定されていますが、この近くの「沖田」に公麻田が与えられていたようです。

4月29日の例大祭には「駒牽き」の神事が行われますが、これは埴原牧の駒を都へ送り出した故事にちなんで始まったと伝えられます。また、保福寺も、古くは裏の堂平にあった密教寺院との伝承もあります。山号は、牛伏寺と同じ金峯山です。埴原牧は中世には内田に移り、北牧・南牧として私牧となりました。

中山地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

埴原城と中世の中山

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：埴原城跡(長野県史跡)

○ 構成要素となる文化財：
蓮華寺、保福寺、御屋敷跡

関連文化財群の特徴・魅力

蓮華寺の裏山を城山と呼び、戦国時代に山城が築かれた場所です。埴原城跡として、山辺谷の山城群とともに長野県史跡に指定されています。蓮華寺奥の平坦地は「御屋敷」「梅屋敷」と呼ばれ、侍の屋敷跡と言われます。

こんなに大きな山城にも関わらず、その記録は見つかっておらず、だれの城かわかっていません。小笠原氏と中山の関係では、長時が林城を寺落した際、妻子を保福寺に預けたといい、その伽藍塔が残っています。保福寺は、西大庵と行住寺を末寺として従えていました。また、蓮華寺は小笠原氏の菩提寺である広沢寺の隠居寺として創建されたといい、大きな宝篋印塔の一部が発掘されています。

中山地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

東五千石のムラ

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：保福寺

○ 構成要素となる文化財：

生妻池、古民家と庭園、郷倉、千石の萱屋、保福寺、「まつ」の道標、西大寺(庵)、栄珠庵、蓮華寺、円城寺

関連文化財群の特徴・魅力

元和3年(1617)、8万石の小笠原氏に代わって戸田氏が7万石で入封すると、その差の1万石を半分ずつ高遠藩と高島藩に加増された。中山地区の埴原村と和泉村は、神田、寿地区、内田地区などととも高島藩領となり、東五千石と呼ばれました。廃仏毀釈のあらしが吹き荒れた松本藩領とは異なり、保福寺と蓮華寺を筆頭に多くの寺堂が残り、郷倉や本棟造の住宅などとともに、住時の景観を留めています。

保福寺と百瀬政武家庭園は、『善光寺道名所図会』に紹介されており、江戸時代後期には観光スポットとして知られていました。保福寺は「松の寺」と呼ばれ、高さ1丈5尺(4.5m)、幹囲8尺余り(2.5m)で四方に低い枝を這わせた「重玉松」が知られていました。百瀬家庭園は、当主の又兵衛が冷泉家一門に名を連ね、この庭にも低く枝を張った松があり、根元に和歌三神(住吉明神・玉津島明神・柿本人麻呂)を祀っています。

中山地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

石と伝説

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：

○ 構成要素となる文化財：

おつづら石、いぼ石、かんぴら石、沖田、法螺貝山(中山)、兼五郎地蔵、夜泣き封じのお地蔵様、子育て地蔵、沢村の道祖神、名木の道祖神、千巻清水、霊園の金鶏伝説、鎌形さま、ちんちん屋敷、生妻の池、泉小太郎

関連文化財群の特徴・魅力

弘法山古墳から北に下った和泉川沿いに泉小太郎の像が建っている。アルプスライオンズクラブの創立25周年を記念して建てられたこの像は、法螺貝山(中山)の尾根先にあたる弘法山と棺護山の間を開削し、中山に耕地を開いた泉小太郎伝説を伝えるものです。この伝説は、『信府統記』では山清路、『善光寺道名所図会』では水内の滝を開削したと、さらに大きな規模で語り伝えられています。

このほかにも、巨人伝説のデーラポッチに関するかんぴら石や沖田、法螺貝山をはじめ、道祖神やお地蔵様に関する伝説がたくさん伝わっています。また、おつづら石やいぼ石など、石にまつわる伝説が多く伝えられています。

中山地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

ムラの信仰

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：

○ 構成要素となる文化財：

道祖神、庚申塔、名号塔とこれらに関する三九郎・道祖神祭り、庚申講、念仏講・念仏会、科の木権現、鉢伏山、石尊大権現、滝沢大権現、鎌形さま、蚕玉様、恵比寿様(鳥内)、御嶽様(和泉)、御嶽神社(棚峯)、秋葉神社(夜燈)、庵齋神、津島様、山の神、祝殿、児抱き地蔵、子育て地蔵

関連文化財群の特徴・魅力

上和泉には、高遠の名工・孫右衛門の手になる双体道祖神があります。御幣を背景とした像は、いかにも諏訪の御膝元といった意匠です。また、名木の道祖神は北中島から盗んできたもので、「帯代五両」「北中島」と刻まれています。景気のいい村が道祖神を新調する際に、これまでの道祖神を払い下げる平和な“道祖神盗み”の様子がうかがわれます。かつては、道祖神の祭りとして子どもたちにより三九郎が行われましたが、今は田んぼで行うところが多くなりました。また、埴原東では2月8日に道祖神祭りを行っています。

中山は水を東山の沢に頼っていますが、山が浅く水も十分ではありませんでした。日照りが続くと同様の“科の木権現”に雨乞いに行き、それでも雨が降らなければ鉢伏山に登ったといいます。また、北ノ入には石尊大権現も祀られていますし、鉢伏山から迎えたという滝の沢の滝沢大権現も雨乞いの信仰です。

そのほかにも、庚申講や念仏講など、特定の仲間で定期的な寄合を持つ行事がありました。和泉町会では、今も組単位で念仏講が行われています。千石では、「南無阿弥陀仏」を刻んだ名号塔のある場所を“善光寺”といい、尾池には善光寺大勧進別当等順の掛軸が伝わっています。中和泉では秋葉さまを祀り、夜燈を回し火の用心に努めています。

島立地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

島立発展の礎となった”三街道”

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：野麦街道 千国街道 仁科街道

○ 構成要素となる文化財：

道標、道祖神、馬頭観音、高札場跡、寺子屋跡、浅田宗伯生家と碑、道路元標、観音様の辻

関連文化財群の特徴・魅力

松本と飛騨高山を結ぶ道は、中世には鎌倉街道とよばれ、松本から東へは碓氷峠を越えて鎌倉に通じていた。高山からは平湯から安房峠または中尾峠を越え、松本へと下ってきた。一方、日本海へは、木曾道と洗馬庄で連絡する千国街道が新村境を通っており、この交差する地点に町が形成された。堀米は、中世に居館を構えた場所であろうか。高札場や寺子屋が残り、郷倉共同井戸の前は「観音様の辻」といわれ、常夜燈などの石造物がある。

野麦街道は、江戸時代には、越中富山で獲れた貴重なブリを塩漬けにして松本まで運び、近代には、諏訪、岡谷の製糸工場で働く女工が飛騨地方から苦勞して野麦峠を越えて来た事はよく知られている。

仁科街道は、新村境を通る千国街道から分かれ、大井郷の中心だった中村をはじめとする、栗林郷と島立郷の中央を通る生活の道である。共に糸魚川から千国・仁科を経て塩尻に至る街道で、江戸時代前期までは、日本海からの生活必需品の塩や海産物が運ばれた、物流の要となる街道である。街道沿いには、江戸時代の村ごと道祖神が建てられ、主要な場所には道標も見られ往時を偲ばせる。

島立地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ 地区に五穀豊穡をもたらす豊かな”水”

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：南栗遺跡出土銅鏡(市重文)、樽木川(旧梓川)

○ 構成要素となる文化財：
 沙田神社、栗林堰(北栗林堰、境沢、高網堰ほか)、島立条理的遺構、
 松本藩樽木場貯木場跡、水車用堰跡と水神様(蛇原)、梓沢大明神の祠(町区)

関連文化財群の特徴・魅力

市内有数の農業地帯である島立地区の形成の基盤は、”水”すなわち梓川、樽木川等を源とする豊かな水にある。この開発は、古代に新村あたりから梓川に取水した堰の開削によってはじまり、島立を中心に条理水田が区画され大井郷を形成していった。その中心は中村あたりと思われ、東面する本殿の沙田神社もこの梓川の水神を祀ったものと考えられ、貞観九年に史書に載る梓水の水神を祭った神社と考えられる。

南栗遺跡から出土した銅鏡(佐波里鏡、銅と錫などの合金でできた仏具の鏡)、三宮から南栗にかけての中世の多数の墓壇からは、有力寺院が置かれていたことが想像され、佐々木高綱＝了智上人の伝説もこうした歴史的環境で生まれている。

江戸時代になると、梓川の旧流路とされる樽木川を利用して、安曇の御用杣が伐採した木材を水揚げし、ここから陸路で倉賀野に運び、利根川を江戸まで流した。

島立地区を潤す堰は、樽木川から分水し、新村境を流れながら東に行く筋もの堰を分けて、農業の発展に寄与してきた。また、昭和初期ごろまでは、日本海からサケが遡上してきた歴史もあり、「母なる川」と呼ばれてきた。この豊富な水資源により、緑豊かな農業地帯が形成され、現在の島立地区がある。

島立地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ 寺社とまつり

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：島立堀米の裸祭り(県無形民俗)、島立沙田神社の御柱祭(市重民)

○ 構成要素となる文化財：
 栗林神社(島立南栗の三本松・市特天)、沙田神社(境内末社)、御乳神社(力石、絵馬等)、蚕影神社、
 神明社と三峰講・稲荷・梓沢大明神の祠(町区)、津島社、正行寺(乃木殿)、
 西生寺(ビャクシン、イチョウ、シダレザクラ)、法性院、神宮寺跡、惣輪寺跡と厨子、極楽寺跡、栄安寺跡、如意庵、
 大日堂、蛇原観音堂、小柴観音堂と喚鐘(田中傳衛門作)、観音様の辻、堀米新田の石造物群、
 八日念仏(荒井、町区、堀米)、観音様のだんご投げ(荒井、小柴)、神明常会の念仏講道具(徳本名号軸ほか)、
 百万遍の大数珠・木魚(大庭)

関連文化財群の特徴・魅力

島立地区は、沙田神社を産土とする島立郷と戦国時代に南北に分かれた栗林郷から成り立っている。北栗は御乳神社、南栗は栗林神社(若宮八幡)を産土として祭る。小笠原氏の支族である島立氏が領有し、中世から力を持った地域で寺院も置かれていたが、石川氏の松本城縄張の際に、正行寺、極楽寺といった栗林郷の真宗寺院は城下町に移された。

沙田神社では、7日目ごとに御柱祭が行われる。柱材は神社の奥社がある波田地区等から伐り出している。旧島立郷の村々では、子どもたちにより伝承されている行事が多く、島立堀米の裸祭りが長野県無形民俗文化財に指定されているほか、荒井、町区、堀米などで八日念仏が行われている。特に、裸祭りは牛頭天王を祭る夏の疫病除けの祭りに虫送りが習合したもので、この地域では他に類を見ない風習を残しており貴重である。

小柴の観音堂には松本飯田町の鋳物師田中傳衛門が鋳造した喚鐘が残り、木食山居の千体仏が堀米の如意庵などとともに伝えられている。大庭には百万遍の大数珠や涅槃図が伝わり、北栗の神明常会の念仏講で使われた徳本名号軸などは、現在西生寺に預けられている。北栗の御乳神社には奉納の産土の祭りや寺堂で行われる祭りにより、地域の絆がはぐくまれている。

新村地区 関連文化財群 (1)

関連文化財群のテーマ 水田を潤す五堰と物くさ太郎伝承

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：新村遺跡と新村堰分水工 物くさ太郎伝承地の「物草太郎遺跡地碑」

○ 構成要素となる文化財：

安塚古墳群・秋葉原古墳群、新村遺跡の出土品—美濃須衛塞須惠器など、古代・中世の住居址、溝(堂 沢)、条里的遺構にかかわる地名(一の坪、一ッおさ、沢口、立石、中条など)、栗林堰・芝沢堰が改修され高い天井川土手一部保存、岩崎神社の川干の神事、安塚新田開田の碑、北原新田、物くさ太郎伝承地にある物くさ太郎像(洞沢今朝夫作)、物くさ太郎大明神の石祠、折口信夫の歌碑「いにしえに 物草太郎ありし後もの草人の 一人もなし」、桜の古木、説明案内板、上條俊介作「物臭太郎像」、歌「ものくさ太郎」(作詞北原白秋、作曲草川信)、「ものくさ太郎音頭」(作詞新村芳男)、物くさ太郎祭り(収穫の終わった10月に新村地区を挙げて)、芝沢小学校で毎年実施される「ものくさ太郎まつり」。

新村公民館「ものくさ大学」の一環として「ものくさサミット」を開催。新村公民館製作「紙芝居物くさ太郎」の上演。伝承地へ案内のための標柱4本。銘菓「太郎の石枕」を婦人部製作。

関連文化財群の特徴・魅力

ここでは8世紀末(古代)から14世紀(中世)にかけて計画的な開発が行われた。新村遺跡は条里的遺構の中にある遺跡で、ここから安塚古墳から出土している美濃須衛塞須惠器と同じものが発掘されたことは注目すべきことであり、今まで不明だった新村の古代・中世がだいぶ明確になった。松本大学北の一帯で、南は学校道～北は旧野麦街道の間、東は多目的ホール隣の中村道添いの川～西は保育園西の中条道添いの川までの間の一帯にはおよそ100m間隔で南北の道が通り、道添に北へ向かって流れる川がある。条里的遺構の北端とみられる岩崎神社は、古くは水神を祀った田と考えられる(川干しの神事などから)。新村堰(自然流から新村堰の開削)は新村堰分水工で南沢と北沢に分かれ、南沢は等高線ぞいに南新・東新へ、北沢は上新・北新・下新へと扇状地を流れる。

近世においては、斗代上げ(畑を田に)が盛んに行われた『五新村の検地帳より』。明治初年の『改正地引帳・付図』によると近世末には、ほぼ現在の田園風景を思わせるほどの開発が進められていたことが分かる。この『改正地引帳』作成にあたり、土地一筆毎に実地測量した結果、新村全体で耕地135町歩が増加した(増加率170%)。

五堰の水の大部分は灌漑用水となり、一部は生活用水になった。榑木川では梓川の上流黒川山などから切り出した材木を流し下した。(波田地区には「新村堰大井口改修記念碑」・「旧新村堰跡」・「旧新村堰の碑」・「新村水神社と境内に目盛石」などがある。)

栽培技術向上もあいまって、戦後には篤農家二人が米作り日本一となった。近年の圃場整備事業により水路にU字溝が入り、田は平均3反歩(30アール)程の広さとなった。

扇状地の原野を開田し、一枚一枚の田に水を引いた先人の努力を、田園地帯を散策しながら、想いを馳せたいものである。

物くさ太郎伝承地の近くで新村遺跡が発掘された。この遺跡から中世の住居址なども出土しているため、御伽草子「物くさ太郎」と考え合わせると当時の民衆の生活をうかがい知ることができる。物くさ太郎のモデルについては、浜野安則氏が『物くさ太郎のモデル像について一掃ってきた小笠原氏一』を論じ、一石を投じた。また、『新村誌』の「物くさ太郎の成長」に物くさ太郎を取り上げた文学者・民俗学者とその作品が紹介されている。また、松本城太鼓門復元まつりで上演した「物くさ太郎物語」(最高賞に輝く)。

新村地区 関連文化財群 (2)

関連文化財群のテーマ 野麦街道と里道

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：下新上手町の「町割り」と静かなたたずまい

○ 構成要素となる文化財：

下新上手町集落の中ほどの道祖神・阿弥陀堂。上手町の屋敷内から出土した貞和3年(1347)の板碑。里道路傍の道標・道路元標(元役場前)・道祖神(文字碑14、双体像2、握手像2、祝言跪座像4)計22体・馬頭観音などの石造物。本棟造りの家やトタンを被せた萱葺風の急斜面の家、土蔵造り。集落の中に人の集うお堂・お宮・公会堂・郷蔵跡など。

関連文化財群の特徴・魅力

下新上手町は上手町道添いの集落で、南と北に鉤の手があり、等間隔の屋敷割となっている。それぞれの屋敷内に屋敷神を祀り墓地もある。生活用水は屋敷の裏手に流れる水路から導水している。高綱道添いの東新・南新本郷、上新中道添いの上新東、野麦街道沿いの北新南・西などの集落が同様に町割りされている。集落は少々小高い安全地帯につくられ、木立に囲まれている。家々は最近建替えが進んでいる。根石・安塚は高台で眼下に松本市街地が見下ろせる。松本藩主戸田光慈は領内巡見の際、安塚で休憩、高綱道を通って栗林へと向かった。

新村地区のほぼ中央東西に野麦街道と下新道(上手町道、学校道)が通り、これに平行するように北に大妻道、南に高綱道。これらに直交するように南北に仁科道・中村道が通る。里道は野麦街道(道幅9尺)に次ぐ道で、道幅7尺～8尺(平均2.5m程)である。野麦街道はかつて「大道」とも呼ばれ、稻核や飛驒へ行く主要な道路。飛驒から善光寺参りに行くもの、松本へ向かう工女、飛驒へ米を運ぶ馬、飛驒ブリも通った。幕末に加賀藩が参勤交代にと目論んだが実現しなかった。

新村地区 関連文化財群(3)

関連文化財群のテーマ 神仏に祈り願掛けをしてきた人々

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：岩崎神社 小野神社 専称寺

○ 構成要素となる文化財：

1. 岩崎神社・小野神社・境内社の建物、石造物、祭事や棟札。永正2年(1505)岩崎大明神本殿造立棟札。社名「岩崎」は磐座にかかわるか。小野神社の長い参道(100メートルを越す)
2. 専称寺・お堂(信入院・清浄院・大日堂・庚申堂・薬師堂・大師堂・阿弥陀堂)の仏事と諸仏像、仏具、境内の石造物。路傍の石造物。専称寺の阿弥陀三尊・吞龍上人像、観音堂の十一面観音像、上手町阿弥陀堂の阿弥陀像、大日堂の大日座像、庚申堂の青面金剛像(石像元禄14年)
3. 講(代参)・庚申講(北新東、南新中、上新東、上新西、安塚、下新北、南新東など)・念仏講(下新北、下新南など)山の講(下新北)・戸隠講(安塚、南新中、南新東など)・三峯講(安塚、下新南など)・馬頭観音講(上新、安塚)西宮講(上新西など)・有明講
4. 同姓の祝殿、各家の屋敷神 西牧家祝殿のビャクシン(市指定文化財)
5. 石造物・念仏供養塔17体(うち徳本念仏塔5体)・巡拝塔4体・回国供養塔2体・二十三夜塔4体 如意輪観音像6体・庚申塔(文字碑4体・青面観音像9体)などがある。

関連文化財群の特徴・魅力

明治初年の廃仏毀釈で専称寺を除く寺院は悉く法難を受けた。廃寺になった法伝寺・新福寺は新村学校と分校に。お堂の建物などは売却されて学校の資金となった。清浄院の青面金剛像3体なども打ち割られている。明治末の神社合併では、岩崎神社(境内神社5社)へ下新の稲荷社・北新の社宮司社・上新の稲荷社が合併。小野神社(境内神社5社)には南新の日吉社、東新の戸隠社が合併された。

下新北の庚申講や上新の馬頭観音講などは、大勢の講員で継続している。他に、簡略して継続している講もある。また、講は次第に少なくなってきたが、安塚の数珠回しのように復活したものもある。

新村地区 関連文化財群(4)

関連文化財群のテーマ 寺子屋から近代学校開校、松商短大(松本大学)誘致

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：「新村小学校発祥地」の碑

○ 構成要素となる文化財：

1. 村内の私塾・寺子屋・要月堂(波多腰塾)、山下塾、武居塾、森井塾、新村塾など。師匠の筆塚 森井出雲など
2. 筑摩県第二小校開校(後に作新学校、新村学校などと校名変更。旧法伝寺本堂・庫裏を教場に) 教員 武居用拙
3. 新村小学校開校記念碑(浅井洌作詞の校歌刻む)。

関連文化財群の特徴・魅力

南に寄り過ぎていた新村小学校を北新字社宮司へ移築し、新村の中央部、田園地帯に学校が建った(浅井洌の弟新村小学校校長小川昌成の提言)。その後、4階建ての塔が東西につく2階建ての校舎に改築をした。モデル校舎の見学者も多数いた。青年学校、新制中学校も併設された。また、筑摩県第二小校(作新学校)の設立をおうことで、県令永山盛輝の教育施策や開校に尽力したのは地元の上條四郎五郎であることが分かる。就学率の向上、学校資金の徴収に当たった学校世話役の働きもみのがせない。

跡地に松商短大を誘致した。跡地の西隣に松本大学が開学し、広大な文教地区と成った。大学建設に先立ち、緊急埋蔵文化財発掘調査を行った結果、新村の古代・中世のことが大部明らかになった。この遺跡は新村遺跡と名付けられ、松本大学はグラウンド北に説明案内碑を建てた。松本大学には大勢の教職員や大学生が集い、上高地線北新駅の乗降客が急増した。新村公民館や地域づくり活動では大学側と連絡協議会をもうけ協力・助言を得ている。

新村地区 関連文化財群(5)

関連文化財群のテーマ

筑摩鉄道の開通と山王集落（駅前集落）・下新銀座の形成

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：新村駅前の町並みと居並ぶ商店

○ 構成要素となる文化財：

1. 「5000系電車」(アオガエル)、新村駅ホーム(映画「白線流し」の撮影現場となった)や車窓から見える田園風景(景観)、貨物用ホーム跡
2. 初代社長上條信の顕徳碑、上條家の庭園・本棟造りの母屋、筑摩鉄道本社跡地、創立総会会場となった専称寺
3. 新村駅前の町並みと居並ぶ商店(雑貨店、肥料店、菓子店、理髪店、自転車店、銭湯、宿屋、5軒の料理屋、松本警察署部長派出所)
4. 下新駅開駅に伴って賑わった野麦街道・仁科道(たばこ屋、炭屋、野菜屋、雑貨屋、油屋、床屋、菓子屋、飲み屋)

関連文化財群の特徴・魅力

大正9年(1920)に筑摩鉄道が開業し、上條信が初代社長に就任した。大正10年(1921)には島々線(松本—新村間)が開業した。本社付の新村駅は和田道・高綱道などの出会う道路の要の地で、近郷の人々の集まりやすい場所であり、新村駅南には駅前集落ができた。また、新村々内に3駅(新村、北新、下新)ができたため、通学・通勤・買物など、松本市街地に出るのに大変都合がよかった。

新村地区 関連文化財群(6)

関連文化財群のテーマ

家族同様の馬・農家の暮らしを豊かにした蚕

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：馬頭観音と蚕玉社

○ 構成要素となる文化財：

1. 文字碑の「馬頭観音」が55体、「馬頭観音像」が49体(合計104体)。(このうち半数は屋敷内か路傍に。北新清浄院の境内に20体、上新樽木堰橋南に16体、南新天明社境内に11体、安塚つくればらに8体。出征軍馬の供養塔が3体。馬死捨場跡3か所。)
2. 上新馬頭観音講(講員25名、安塚でも続く)
3. 境内社蚕玉社(岩崎神社)。根石全戸で蚕玉社。根石・安塚に「蚕神」の文字碑。信入院に石造の馬鳴観音像。養蚕の絵馬(専称寺観音堂)。蚕を飼った母屋や蚕室・桑室。
4. 蔦蔵と貯水槽(水力の製糸所初開業、明治7年。小野製糸所は、東に片倉、西に小野製糸といわれた)。

関連文化財群の特徴・魅力

人との関わりが多かったためか、石造物で一番多いのが馬頭観音である。馬屋・馬小屋は現存せず、馬具などは僅かに残る。(地区内に馬がないため他地区から借りて岩崎神社の神事をする。) 出征軍馬供養塔の2体は安塚にあり、2体とも坪庭にたてられている。そのうちの1体に「出征馬供養碑 (裏) 昭和十二年秋山 昭和十三年暁昭和十五年四月二十八日建立 □□氏」と刻まれている。この家では2年続けて大切な働き馬を出征馬として戦争に出している。

平成20年頃には南新にあった製糸工場の建物が解体されて、新村の製糸工場建物は皆無となった。

和田 地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

和田の用水

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：和田堰・孔雀文磬(国重文 中野尻地籍出土)・銅印(市重文 三間沢川左岸遺跡出土)

○ 構成要素となる文化財：
翁稲荷神社、芝沢土手の遺構、遺跡(西原遺跡・三間沢川左岸遺跡・和田太子堂遺跡)、竜田の石

関連文化財群の特徴・魅力

和田地区は、標高600～650mで、西南の山形村・波田から東北にゆるく傾斜している農耕地帯で、梓川の水を波田より取水した神林川と、3本に分かれる和田堰によって水田耕作が行われている。

稲作りや生活に必要な水は、原始から古代にかけては、唐沢川、三間沢川、鎖川などが利用されていたと思われる。和名抄には、奈良時代に6郷の名が載っているが、その中に出てくる大井の郷というのが、現在・新村・島立の和田を中心とした郷をさすのではないかとされる。大井の郷は、国司の支配がじかに及ぶところであったようで、国司の威令によって大井堰開削の大事業が行われたものと思われる。梓川からの揚水口は「一の口」として優先され、長年月を経て和田堰と唱えられるようになったものと考えられている。この和田堰はその後幾多の変遷を経ながらも、豊かな水田地帯を久しく保つと共に、昭和31年に水道が竣工するまでは、川岸に簡易の井戸を設置し生活用水として利用するなど、生活にとっても必要不可欠なものとして大切にされてきた。堰の普請は、請負工事や幕府による国営工事として実施されたほか、1軒で1人ずつが出る「鍵役(かんやく)」と呼ばれる作業で行われてきた。この「鍵役」は、現在も年数回実施され、川底の土砂上げ、土手の草刈り、ごみの片付けなどを行って堰を守っている。

現在の和田堰は、梓川右岸の幹線水路として、梓川頭首工より取水し、赤松分水工、柳間地分水工など数か所の分水工を経て、蘇我北西端から和田に入り南下、北の方から芝沢川・宮川・中川に分水、その3川がさらに幾つもの枝線に枝分かれして西から東に流れ、奈良井川へとつながっている。

和田堰の用水守護神としてその水の流れを静かに見守っているのが、和田神社の境内社として建立されている「翁稲荷神社」である。この社は、江戸日本橋の本社翁稲荷から、嘉永元年(1848年)に和田に勧請され、明治42年に現地に移された。4月に例祭が行われている。

和田 地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

和田の社寺と民間信仰

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：和田神社本殿、無極寺本堂、西善寺の大数珠と仏像(いずれも市の重文)

○ 構成要素となる文化財：
南和田神社・旧無格社・忠全寺・萬年寺・真光寺・観音寺・聖徳院・二尊院・旧諸堂(地藏堂・薬師堂)
祭り・舞台・祭囃子・仏像・石像・庚申塚・道祖神・名号塔・絵図・講

関連文化財群の特徴・魅力

和田神社は、建御名方命(諏訪大明神)、応神天皇(菅田別命・八幡神)、宗高大明神(大己貴命・大国主)を祭る(時代によって祭神名が変わっている)旧和田村の村社である。万治年間(1658～61)に本殿が焼亡したため創建は不詳であるが、現在の本殿は、寛政12年(1800年)に立川和四郎富棟の弟子小松七兵衛によって造営された。明治14年2月、和田7か村が「大宮」と唱えてきたお宮を「村社和田神社」と公称することになり、北和田7耕地ごとの無格社は全て和田神社に合併された。村社和田神社となって、7か村中が賑やかなお祭りを催した。和田神社としてのお祭りはここから始まった。江戸時代には1台だった祭り舞台が、昭和には、各町会単位で所有するようになった。現在は、9月に例祭が行われ、屋台6台、舟1台が出る。

江戸時代天領となった和田には、他地区と比べてもともと寺院が多くあり、住民の信仰心につながっており、各寺院に多くの石造物がみられる。また、天領であったため廃仏毀釈の影響を受けずに済んだので、西善寺のように廃寺となった寺の仏像を受け入れている所もある。

和田 地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

和田の文化と教育

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：和田歌碑公園

○ 構成要素となる文化財：

史跡(和田(小)学校址・内山真弓旧居址)・学校関連資料・顕徳碑・記念碑・句碑・歌碑・窪田空穂生家
窪田空穂記念館・自然景観(田園風景・和田のコウヤマキ・シダレザクラ・アルプス遠望)

関連文化財群の特徴・魅力

明治5年(1872年)に公布された学制により、明治6年、和田地区7ヶ所に開校された和田学校は、数回の合併を経て、明治19年、和田・新村・神林の組合立和田尋常小学校として統合された。明治22年に組合立が解かれ、村立和田尋常高等小学校として和田及び近隣地区の子弟の教育が行われてきた。創立100年を迎えた昭和48年(1973年)、和田小学校は発展的に閉校、新村小学校と統合して芝沢小学校が生まれた。

学校の跡地には校歌碑が建立され学校公園として保存されてきたが、この公園を住民の心の拠り所、和田の象徴として恒久的な管理と充実を図っていかうとすることから、和田にゆかりのある有名文化人の歌碑・句碑を、昭和56・57年にそれぞれ3基ずつ建立し、名称も「和田歌碑公園」に改められた。碑が建立された6人のうち上原三川・矢ヶ崎奇峰(いずれも俳人)、太田水穂・窪田空穂・川崎杜外(いずれも歌人)の5人は、文化人としてその時代の指導的な役割を果たすとともに、和田小学校の教員・校長として子弟の教育に携わり教育の発展に尽力した。

和田地区内には、歌碑公園以外にも数多くの文化的な碑があり、文化活動が盛んであった様子がうかがえる。

神林地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

街道が育む歴史

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：仁科街道

○ 構成要素となる文化財：

山の神、豪商野口庄三郎の蔵、道標(2)、名号塔、六地藏(6)、聖観音、地藏菩薩(3)、道祖神、五輪塔(2)、伽藍塔、如意輪観音、十王像及び十王堂跡、「南無阿弥陀仏」石碑、大黒天、井戸(2) 御柱、金毘羅講、高札場跡

関連文化財群の特徴・魅力

千国街道とも呼ばれている仁科街道は、松本盆地を南北に通る道で、仁科とは近代以前の天町地方の呼び名で、千国は小谷村の集落名である。この道は越後の糸魚川に通じるが、途中の集落名を取って呼ばれていた。仁科街道といわれる道は、市域には笹賀、神林、島立に残っているが、道は一本ではなく南北に通る道の多くが仁科街道の名でよばれている。

町神を通っている現在の仁科街道について、長久寺の襖の下張に「慶長元丙申年に松本城主石川氏が開き駅宿を置いた」とある。公文書ではなくメモ的なものであるためすべてを信じるわけにはいかないが、現在の町神の成立を考える手掛かりになると思われる。

神林地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

水が繋ぐ神林の歴史

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：神林神社

○ 構成要素となる文化財：
境窪遺跡、金毘羅神社、金毘羅講、神林堰、
【神林神社】石燈籠(5)、庚申籠(1)
川西水道記念碑

関連文化財群の特徴・魅力

水は、人の暮らしと切っても切れないものである。
約2,000年前、川西地区を流れる三間沢川流域では、我々の祖先は大陸から普及した米作りに適した場所としてこの地を選び、生活の営みを開始した。
近世以降では、神林地区の開発は、神林堰を除いては考えられない。
神林堰の成立は詳らかではないが、神林神社の縁起には、承安年中(1171~1175)の頃であるという。その神林神社では、往古安曇郡梓川の上流にあった瀬織津姫命を神の一柱として文永年間に勧請し、神林の水神として安置している。

笹賀地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

水を制した村
(水を制した信仰の村 + 語り継ぐ先人の思い)

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：今観音堂阿弥陀如来坐像、小俣神社社殿、小俣観音堂千手観音立像(市重文)

○ 構成要素となる文化財：
柏木古墳(出土品は市重文)、大塚古墳、くまの川遺跡、上二子遺跡、神戸新田観音堂聖観音菩薩立像、下二子石造大日如来坐像、今諏訪社、小俣諏訪社、大山神社、神戸神社、二子神社、上條氏のオシヤモジ、丸山氏の「神ノ木」、大嶋氏の神明宮、渡辺氏の諏訪社、養蚕にまつわる信仰、各町会の道祖神と道祖神祭り、八日念仏、観音講、庚申講、秋葉様、三峰様、津島様、稲荷社など、柏木様、日本武尊の腰掛岩、「スメド」と東山道覚志の駅、加助首塚、義民講

関連文化財群の特徴・魅力

笹賀では、二子の一部地域を除き、古来より水田を潤して来たのは奈良井川の水であった。笹賀の歴史は奈良井川の水害との闘いであったといっても過言ではないが、笹賀にとって奈良井川は母なる川であり命の源だった。小俣郷は、奈良井川から取り入れた水を分けて配水し、水田開発を行ったことによる地名で、中世(平安時代末)には領家の諏訪大社の支配下となり、下流の二子郷は国衙領となる。室町時代には取水口の今村や両村の間に神戸が成立する。小俣諏訪社は小俣郷の鎮守として、平安時代から存在していたと考えられており(現存の本殿は天明6年(1786)年の建造とされる)、今村観音堂の阿弥陀如来坐像は室町時代中期の作である。奈良井川から取水した用水は、今村堰、小俣堰、三区(神戸新田、神戸二子)堰により村内の水田に配水されていたが、渇水時には村内や村外との水争いがしばしば起こった。特に明治42年6月には芳川村、笹賀村両村で合計約2千人が奈良井川を挟んで対峙し、投石・乱闘に及んだとの記録が残されており、水利への思いは格別のものがあった。
奈良井川扇状地の桑園を背景に早くから養蚕と蚕種業が発達したのも、このような村だったからこそと言えるかも知れない。養蚕業は衰退してしまっただが、住民の安泰と五穀豊穡を祈願する祭りとして、「蚕玉様」の祭りが受け継がれている。「蚕玉様」の祭り以外にも、村の繁栄や安穏を祈る講や行事が多く行われている。

笹賀 地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

平和の誓い

関連文化財群を構成する文化財

○ 核となる文化財：陸軍飛行場跡

○ 構成要素となる文化財：

陸軍飛行場関連施設の遺構(神戸の格納庫遺構、下小俣の飛行機組立工場の遺構)

忠魂碑、墓碑、軍馬慰霊碑

平和の像(永遠の平和を祈り昭和28年に建立、戦争遺跡の碑(松本市が設置))

関連文化財群の特徴・魅力

昭和18年10月15日、笹賀、今井、神林の3カ村の住民が、陸軍省より笹賀国民学校に招集された。陸軍省松本飛行場の建設のため207町歩の土地が必要である旨が示され、その場で地主は承諾書に捺印した。

戦後の記録によれば、突如軍より安価で土地を徴用され、耕地を失って農業経営にも支障を来した者も多数あったとされる。

飛行場の建設には、朝鮮からの徴用者、近隣の学生、生徒のほか婦人も砂利ふるい等に参加した。跡地は戦後はらいさげられ、一部は組合立の菅野中学校用地ともなった。

芳川地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

宿場の形成と街道の盛衰

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：善光寺街道と村井宿

○ 構成要素となる文化財：

村井宿・一里塚、平田茶屋・新茶屋 ○村井口留番所跡 ○村井宿高札 ○村井観音堂と言成地藏

○上問屋山村家の祝殿 ○明治天皇御小休と御膳水井戸 ○法演山常照寺

○村井一里塚と芭蕉句碑 ○明治の相撲取碑

関連文化財群の特徴・魅力

北国脇往還(善光寺街道)は江戸時代の初期、5街道に準じて宿場や一里塚が整備されたのは、慶長19(1614)年頃のことです。中山道洗馬の追分から郷原宿を經由して、松本宿に至る中間点に村井宿が位置しています。村井宿の入口には、明治初期に開校された村井学校跡、松本藩の石高変更による口留番所、村井宿高札、若山喜志子の歌碑等があります。番所の前には平安の昔から信仰を集めた村井神明宮があります。明治35(1902)年12月15日に篠ノ井線が塩尻まで全通しましたが、村井駅は当時からの駅舎です。宿場の中程には、松本市重要文化財に指定されている上問屋山村家の祝殿があり、さらに2軒北隣には明治13(1880)年6月25日に明治天皇巡幸の御小休所があります。街道を進み鉤の手を過ぎると、村井一里塚跡と芭蕉句碑、相撲取碑があり、平田茶屋には蚕玉神社、小笠原家の筆塚があります。

芳川地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

四ヶ堰と芳川

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：四ヶ堰と百瀬三七

○ 構成要素となる文化財：

- 1 新堰の開鑿と開田
- 2 水争いと高崎連隊の出動
- 3 土居から円筒分水へ
- 4 田川水系の堰

関連文化財群の特徴・魅力

- 1 芳川は水のない日焼けの地で、狂歌にも唄われたところです。戦国時代にこの地を支配していた村井氏は、田川水系から泉龍寺堰を引いてきて、館での水を確保していました。
- 2 明治元（1868）年に降り続いた大雨で、奈良井川河川敷にあった旧堰が流失してしまいました。明治2（1869）年に平田村の名主・百瀬三七は新堰の開鑿計画を提案し、幾多の難題を乗り越えて、明治5（1872）年に現在の四ヶ堰が完成しました。旧堰は江戸時代の中頃から組合で管理していたようですが、史料が残っていません。
- 3 水利紛争は頻繁に起こっています。特に明治42（1909）年は笹賀村との乱闘事件で、高崎歩兵連隊が出動して鎮圧する騒動に発展しています。
- 4 昭和9（1934）年には分水場を円筒分水に改修し、より利便性を高めながら現在に至っています。

芳川地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

芳川地区の神社・寺院と伝承行事

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：旧四村の神社と末社、寺院

○ 構成要素となる文化財：

- 1 神社のスタイルと合祀会による末社群
- 2 合祀されなかった社、平田茶屋の蚕玉神社等
- 3 寺院と廃仏稀釈、常福寺跡と専稱寺跡
- 4 御詠歌
- 5 墓地のあり方
- 6 道祖神と三九郎
- 7 ほんぽんと青山様

関連文化財群の特徴・魅力

- 1 神社は神明宮（村井町）、都波岐神社（小屋）、野溝諏訪社（野溝）、平田神社（平田）とその末社があります。
- 2 寺院は常照寺（村井町）、泉龍寺（小屋）、松岳寺（野溝）があり、明治4（1871）年に廃仏毀釈により、常福寺（小屋・真言宗）念稱寺（平田・浄土宗）は廃寺となっています。
- 3 松岳寺の墓地は両墓制で、内墓（お参り墓）と外墓（埋葬墓）がありますが、近年はその形式が壊れてきており、その名残を若干残すのみです。
- 4 三九郎は芳川地区の全8町会で正月に実施しているが、道祖神祭りは現在行われていません。
- 5 ほんぽんと青山様は、旧芳川村の4ヶ村では行われていないが、昭和30年代以降に誕生した美芳町・長丘町・北原町・木工町で実施しています。今では行われていませんが、平田茶屋ではほんぽん・青山様が行われていました。何時ごろまで実施されていたのかは不明で、調査が必要です。

芳川地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

子どもたちの教育のはじまりと変遷

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：江戸末期からの家塾・寺子屋から村井学校跡と教育史

○ 構成要素となる文化財：

- 1 江戸末期から明治初期まで、芳川には各地に家塾・寺子屋などが14ヵ所もあり、多くの子弟たちが学んでいました。子弟たちによる筆塚が9ヵ所に建てられています。
- 2 学識豊かな人々が師匠として指導にあたっています。学習の内容、指導法、教科書等が明治16(1883)年に調査され、浅井冽の報告書が県に残されている。
- 3 明治5(1872)年の学制発布により、県下に530余校の小学校が設立されました。安曇・東西筑摩の3郡に10校を設立、その第1校が村井学校でした。この跡地には建設に尽力した村井町村戸長の中村宗治郎顕徳碑と、記念のしだれ桜が建てられています。

関連文化財群の特徴・魅力

- 1 旧村井町村、小屋村、野溝村、平田村の指導者たちは、僧侶、神官、医師、修験者、農業、浪人等です。
- 2 さまざまな指導者が漢学、華道、謡、論語、詩経等、内容も授業法も異なっていました。但し誰でもが入塾できたわけではなく、女子は就学率が低かったようです。筆塚の裏には弟子たちの名前が残っているものもあります。
- 3 明治5年に始まった小学校は、最初はお寺を借りてスタートしています。村井町村・小屋村は、民家→常照寺→村井学校 野溝村は松岳寺→野溝学校→平田学校 平田村は念稱寺跡→平田学校 明治35(1902)年に芳川小学校となり、明治42(1909)年に新校舎が建設されています。
- 4 大正時代の自由教育が盛んなころ、芳川小学校の小林国男校長の下で青年教師たちが活躍し、岸田劉生を招いて西洋の絵の展覧会・講演会が開催されています。青年教師と地域の青年会が、時の人を招いて勉強会が盛んでした。後に影響を受けた人たちが輩出されています。

寿地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

今に伝わる原始・古代の遺産

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：百瀬遺跡

○ 構成要素となる文化財：

小池遺跡・百瀬遺跡・耳塚古墳・百瀬三清水・耳塚大櫓・蛇塚・赤木山遺跡・竹淵遺跡・竹淵社宮司大明神

関連文化財群の特徴・魅力

旧石器時代から縄文・弥生時代と寿には遺跡が多いが特に百瀬遺跡は百瀬式土器を出土し全国的に知られている遺跡である。近年の発掘で環濠の跡が発見されている。
小池遺跡は9世紀から10世紀にかけて繁栄した遺跡で、松本平では最大規模の建物跡が発見された。埴原の牧の経営者が住んでいたと考えられている。また竹淵遺跡は弥生時代を中心とした遺跡で、各住居址から大量の殺傷力の高い磨製石鏃が出土したことで注目されており、水田経営を巡って隣接地域間で水や耕地を巡る争いがあったのではないかと考えられている。竹淵「社宮司大明神」は諏訪の原始信仰である「みしゃぐじ信仰」が松本平にも広がっていた痕跡と考えられる。

寿地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

信仰の中核であった寺社と牛伏寺信仰

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：百瀬正念寺・下瀬黒米沢庚申・小池絵堂跡

○ 構成要素となる文化財：

- 寺 院：生蓮寺・王徳寺・正念寺・小池宝蔵寺(武田道遠軒の寄付を元にする)・弘長寺等の敷地内の石仏・石神・六地藏・三界萬靈碑・無法塔・法華経供養塔・五輪塔・宝篋印塔・竹淵地藏堂・赤木橋水寺跡観音堂
- 神 社：竹淵諏訪社・百瀬諏訪社・小池諏訪社・赤木下の宮・赤木上の宮・白川諏訪社・白樞本宮白山社跡・米沢庚申社・日吉神社・百瀬観音堂跡(箱清水)下瀬黒御堂跡・十王堂と延命地藏・雷神社
- 牛伏寺信仰：小池絵堂・小池地藏清水跡・小池絵堂碑・小池牛伏寺参詣道

関連文化財群の特徴・魅力

人々は先祖を敬い、仏の力にすがらるために菩提寺を大切にしてきた。百瀬の正念寺は檀家を持たない寺で、木食僧弾誓上人によって開かれた修行の寺である。また、人々は産土社として地域の神社を守り祈りの中心としてきた。そこには鎮守の森が今も見られる。白樞本宮白山社跡は明治40年代に白樞諏訪社が白川諏訪社に合祀された跡に建てられた碑である。上瀬黒米沢庚申社は梓川真光寺より勧請した神社で初庚申は多くの参詣人で賑わい、梓川・浅間・上瀬黒と松本平南部の三庚申の一つとして有名であった。

小池絵堂跡には往古、牛伏寺大門と絵堂(十王堂・地藏堂)があり、絵堂には現在牛伏寺に安置されている十王と奪衣婆があったと考えられている。小池には牛伏寺参詣道が幾筋か通過しており現在牛伏寺牛堂東の池の中に立つ地藏はかつて小池地藏清水跡にあったという。

奪衣婆の制作年代は南北朝から室町ころと見られている。「牛伏寺誌」奪衣婆の体内銘には波多大和守清勝、小池左馬亮信源とあり、大旦那・願主として本像に関わった人々で、波多・小池を治めていた兄弟である。年号は応永29年(1422)とある。

※寺社内にある建築物・石仏・石神・石灯笼・鳥居等及び祭りの習俗は一体的に寺院・神社の文化財とする。

寿地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

小笠原氏と武田氏の攻防

関連文化財群を構成する文化財

○ 核となる文化財：小池砦跡・赤木北城

○ 構成要素となる文化財：

- | | |
|------------------------|-----------------------|
| 上瀬黒：黒城の石垣 | 竹 淵：霞堤 |
| 百 瀬：小笠原氏供養塔(耳塚五輪塔)・堀屋敷 | 赤 木：赤木北城・赤木南城・赤木山陣場の峰 |
| 小 池：砦跡 | |

関連文化財群の特徴・魅力

戦国時代小笠原氏が領有していた1550年以前の各山城は小笠原氏の整備によるもので、その後、武田方の施設となった。塩尻峠・熊井城・北熊井城・赤木南城・赤木北城・小池砦・瀬黒城・林城のラインは小笠原氏の狼煙通信線と考えられる。百瀬の耳塚の五輪塔(供養塔)は小笠原氏によって、文化13年(1816)塩尻峠の戦の戦死者がここに葬られたという伝承により供養のため建てられた。

小池の砦跡はまだ学術調査はなされていないが中世土豪の屋敷跡として水堀と土塁が残されている。現在、小池佐馬亮の屋敷跡の案内板が立つが、武田氏時代は砦の機能を持って存在したと考えられる。武田道遠軒の領地であったと伝えられる。

梓川には武田氏の土木技術による霞堤が見られるとする見解があるが、寿竹淵の田川の霞堤もこの範疇にあるとする研究者もいる。

寿地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

中世白川氏と赤木氏の展開

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：白川古御堂と赤木弘長寺

○ 構成要素となる文化財：

白川：古御堂・一位屋敷(白川諏訪社)・白川横内の石仏群

赤木：赤木山弘長寺・君石塚

竹淵：竹淵地頭四郎泰経・孫七郎家経などの土豪の屋敷跡(生蓮寺辺)・竹淵の4木戸

関連文化財群の特徴・魅力

10世紀末白川氏は竹淵地頭と争ったこともあり鎌倉御家人としてこの地を治め、白川氏から出た赤木氏も1221年の承久の乱等で活躍し、地頭として備前穴田郷の地頭として転出していった。後に関係者が残ったようで赤木太郎入道跡として諏訪神社の頭役を勤めている。北条時頼六男の相模六郎北条政頼が筑摩郡良田郷に派遣されていたが、弘長元年(1261年)に病死し、若くして亡くなった我が子を哀れに思った時頼が、弘長3年に政頼を弔うために弘長寺を建てたと弘長寺伝は伝えられている。また、相模六郎を葬ったところが君石塚だと伝承されている。白川古御堂は白川氏が建立した長福寺の観音堂が上堂あるいは古御堂と呼ばれるようになったもので、現在、白川公民館の内部に取り入れられた形で保護されている。

寿地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

五千石街道と中馬・手馬

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：赤木公民館南の馬頭観音・竹淵巨石馬頭観音文字碑

○ 構成要素となる文化財：

寿各集落の馬頭観音碑

特に赤木公民館南馬頭観音像・竹淵(寿北3-7-29先)の巨石道祖神(2m)

竹淵(寿北3-12-6)霜輪駿馬霊と刻まれた明和8年(寿最古の馬頭観音碑)

五千石街道(赤木・小池・百瀬・竹淵地区の幅の狭い旧道と屈曲)

関連文化財群の特徴・魅力

江戸時代、当地では農間稼ぎとして中馬・手馬が盛んであった。中馬は商人と契約して商人荷物を馬で運ぶことであり、手馬とは所の産物を城下町などに運び売り、その日のうちに帰ることをいう。

明治以降も運送業や農耕に馬が使われ、明治以降の年号の入った馬頭観音碑も多い。戦時中愛馬を供出して無事を祈って立てられた馬頭観音碑もある。赤木公民館南も馬頭観音像は高さ108cmと大きい。また竹淵(寿北3-7-29先)の馬頭観音文字比は巨大で2mあり、瀬黒山にあった古墳の蓋石を村中で引いてきたという伝承がある。

元和3年以降、寿地区は高島藩領となり、この東五千石地域を貫く街道を五千石街道と呼んだ。高島藩が単独で街道を改作したとは考えられず、令制東山道を使用したのではないかとの説がある。

寿 地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ 牛伏川の治水

関連文化財群を構成する文化財

◎ **核となる文化財**：牛伏川改修竣工祈念碑・白姫弥勒堂

○ **構成要素となる文化財**：

上瀬黒：牛伏川改修竣工記念碑(矢沢橋西・吾妻橋東)・牛伏川堤防の桜並木・牛伏川からの導水路
上瀬黒公民館付近の堤防・牛伏川の堰堤(上瀬黒・白姫・下瀬黒・竹淵)

下瀬黒：日吉神社社殿

白 姫：弥勒堂

関連文化財群の特徴・魅力

記録にあるだけでも牛伏川は元禄3年以来、10年に1回の割合で明治29年まで洪水を繰り返し、特に白姫村や下瀬黒村は全村が流された。原因は牛伏川水源域の荒廃である。明治18年から大正7年までに国および県の砂工事によって水源域は緑を取り返し大きな洪水は起きなくなった。昭和初年から昭和60年の間は近世の農民が積み上げた堤防を削り、川底を掘り下げ、永久橋を架ける護岸改修工事が行われた。改修竣工記念碑には安寧を手にした人々の喜びが刻み込まれている。

白姫弥勒堂と下瀬黒日吉神社社殿は洪水を避け山側に移されたり再建されたものである。上瀬黒矢沢橋付近の堤防は水田面より今もおおよそ5mは高い。また牛伏川から取水するための導水路は大変工夫されており感心させられる。

寿 地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ 現代の寿の開発

関連文化財群を構成する文化財

○ **核となる文化財**：竹淵の灌漑用水記念碑と鑿井記念碑

○ **構成要素となる文化財**：

サザン並柳団地(下瀬黒) 白姫公民館前道標(白姫)

竹淵の灌漑用水記念碑と鑿井記念碑(竹淵)

第1工区灌漑用水深井戸記念碑(竹淵)

第2工区灌漑用水深井戸記念碑(竹淵)

竹淵開道記念碑(竹淵)

関連文化財群の特徴・魅力

昭和31年以降、水不足に悩まされた寿地区は深井戸掘削を行い、溜池の水や牛伏川からの取水に頼らなくても水田経営ができるようになった。寿地区の中でも最も水不足に悩まされた竹淵地区は昭和31年竹淵土地改良区によって深井戸掘削が行われ水の心配がなくなり、昭和59年から圃場整備が進められ、順次村内の溜池が埋め立てられて、平成元年には竹原町団地が生れ、寿運動広場も竣工した。

また、新産業都市指定以向並柳団地が造成され、そしてその南側にかつて桑畑だった傾斜地を造成しサザン並柳団地が作られた。

寿地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ 高島藩と旗本諏訪頼久の政治・文化

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：百瀬陣屋跡

○ 構成要素となる文化財：

- 百瀬：百瀬陣屋跡・神田
- 白川：瓊林院・純喜齋筆塚・東水翁筆塚
- 竹淵：竹淵稻荷社跡・竹淵郷蔵跡
- 上瀬黒：百瀬耕元碑
- 下瀬黒：倉沢の井戸と郷蔵跡・百瀬銀治郎の墓
- 赤木：赤木郷蔵跡・北洞上の堤・赤木下の宮天満宮碑(筆塚)

関連文化財群の特徴・魅力

寿地区は元和3年以降は高島藩領東五千石筋に当たり、寛文12年に分知替えがあり、百瀬・白川・瀬黒(当時は分村していない)竹淵は旗本諏訪頼久千石の旗本領となった。その代官所が百瀬御陣屋である。頼久の菩提所が瓊林院で、知行所全体の総鎮守が竹淵稻荷社であった。各村には郷蔵があり年貢を一時収納した。郷蔵は空いている時は牢としても使用された。赤木の北洞上の堤は郷蔵が火災の時に使用する水を蓄えておく堤でいかなる干天の時でも農民に田用水としては使用させなかった。

百瀬耕元は上瀬黒出身の書道家で江戸で3000人の門弟を持っていたと言われている。百瀬銀治郎は上瀬黒の出身の博徒で慶応3年、対立する仲間の襲撃を受けて白姫で最期を遂げた。死後29年たって由緒の者が現在地に墓を建てた。

寿地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ 近代の村政や産業、教育

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：赤木「小赤学校跡」

○ 構成要素となる文化財：

- 赤木下の宮校跡記念碑・白川校跡記念碑・明治天皇碑・寿役場跡
- 四ヶ村戸長役場(瓊林院)
- 百瀬の根菜栽培・麴もろみ作業場・馬耕選抜競技会

関連文化財群の特徴・魅力

明治になって寿村の役場が作られ村政が営まれた。小赤学校は赤木下の宮境内に作られ、現在も敷地跡が残されている。

明治18年4か村(小赤村・豊丘村・白瀬淵村・中山村)戸長役場が瓊林院に置かれた。寺には戸長役場時代の絵図が残されている。明治22年紆余曲折の後、寿村が出来ると役場を正念寺に開設した。

維新後の寿の産業は農業であるが百瀬地区は根菜類の栽培で有名な産地となった。

寿地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

民俗信仰・伝統行事と新しい行事

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：上瀬黒龍王社・白姫本宮跡の秋葉大権現碑・三九郎

○ 構成要素となる文化財：

寿地区の山の神・各地区道祖神(宮形道祖神、文字碑、道陸神碑、小池佐類田彦大神・私有道祖神)・二十三夜塔・二十六夜神青面金剛尊碑・庚申碑・秋葉碑・半僧大神水神・鬻玉様・七夜待供養塔(小池)・百万遍供養・塔・叶坊観世音・光明真言碑・荒神碑念仏供養塔・白川伊沢雑皇大神宮碑・浅間様碑・霊神碑・不動尊碑・幽魂塚・素戔鳴大神碑・四国回國塔・地藏菩薩・六地藏・津島牛頭天皇碑・鉢伏神社碑・戸隠神社碑・秋葉様杜殿(上赤木)・御岳大権現・八海山神社碑・三笠山碑・金比羅様碑・木喰山居仏・疍瘡神・行人塚・八街神・竜王社・三九郎・ぼんぼん・青山様・しめ縄作り講習会・長持ち・子供神輿・銭太鼓・浦安の舞・竹淵祭り囃子・庚申講・七夕・納涼祭り・文化祭

関連文化財群の特徴・魅力

近世の村は盗難・疫病・火災など村に降りかかる災いを封じ込め、豊作を願い、日照りの時には雨乞い等をするために、種々の神々を各地から勧請し村落を守ろうとした。また月待ち信仰や光明真言碑や百万遍供養塔、回國供養塔などは信仰によって心の安寧を得たいという庶民の願の表である。寿の道祖神は宮形道祖神(竹淵)・道陸神文字碑(上瀬黒)八街神(百瀬)・佐類田彦大神(小池)私有道祖神(百瀬)などバラエティーに富んでいる。上瀬黒龍王社は鉢伏神社碑・戸隠神社碑を祀り戦後まもなくまで雨乞いが行われた霊聖地であった。江戸時代、早魃時には先ず竹淵稻荷社で雨乞いが行われ、次が龍王社、次が鉢伏山頂と祈禱場所が移された。

火伏の神としての秋葉大権現碑は各地区にあるが白姫本宮跡秋葉碑は4mと巨大である。

農業を基盤とした地域の習俗は次々に消えていったが三九郎は各地区で続けられている。また、ぼんぼん・青山様は子供たちに伝承したい行事として続けられている。新しい町会ではこれらの行事を通して地域の連帯を強くし、新しい故郷作りを目指している。

岡田地区 関連文化財群1

関連文化財群のテーマ

岡田の黎明期と岡田神社

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：各種古墳群と遺跡 岡田神社 須恵器

○ 構成要素となる文化財：

〔古墳・遺跡等〕

矢崎古墳群 塚山古墳群 松岡古墳 岡田猫塚古墳 清水入古墳 老根田古墳 芥子坊主山古墳 堂田遺跡 松岡・七日市場遺跡 杵坂遺跡 岡田西裏遺跡 岡田宮の前遺跡 向山遺跡 下出口遺跡 二反田遺跡 岡田町遺跡 塩辛遺跡 矢作遺跡 トウコン原遺跡 岡田松岡遺跡 笠原遺跡 岡田堀/内遺跡 岡田神社裏遺跡 天神の木遺跡 岡田田中遺跡 田溝遺跡 御宝殿遺跡 土田遺跡 塩倉池遺跡 原畑遺跡 北部古窯址群 岡田神社関係(参道 松並木 大櫓) 建物一拝殿・本殿 大鳥居 祭典) 岡田神社裏遺跡 笠原遺跡の木簡(中臣鎌足記載) 延喜式(岡田神社) 岡田神社から各地に勧請された神社/岡田神社(木津川市)/下野岡田社(栃木県)/木曾三社(群馬県他)

関連文化財群の特徴・魅力

岡田地域は、女鳥羽川によって形成された河岸段丘右岸上に開けた、三方山に囲まれた南斜面に位置している地域である。古来より松本平の北出入り口であり、交通の要地として発展して来た。しかし、扇状地の上中部にもなっているため安中期以降、水の確保に苦勞をしてきた。反面、水害には縁遠い地域でもある。

比較的温暖な地のため発掘された遺跡の中には、13,000年前の旧石器時代の遺跡もあり、権力者の存在があったことが伺える。従って政治・経済・文化の発展した中心地であったことも予想される。このことがやがて奈良時代に以降に引き継がれ、発展していくもとなった。

岡田地区では、打製局部磨製石器・神子柴(みこしば)型石斧23cmが出土、岡田神社北側の段丘と塩倉池周辺から、13,000年前旧石器時代末期遺物として、有舌尖頭器(石槍・投げ槍)がそれぞれ1点採集されている。

岡田という地名は後世固定した地名となり、神社名・郷名・村名・氏族名となっていく。

岡田神社は白雉(はくち)5年(654)に保食神を祭神としたという、延喜式神明帳にもある古く由緒ある神社で、史料としては927年(平安時代中期)から記録がある。現在の例大祭は5月4日・5日に行われている。

岡田地区 関連文化財群2

関連文化財群のテーマ

岡田を治めた氏族・筑摩郡を治めた寺院

関連文化財群を構成する文化財

○ 核となる文化財：岡田堀/内遺跡 伊深城址一空堀 岡田親義(後町氏) 後庁氏 井深氏(伊深氏) 慶弘寺 岡田神社

○ 構成要素となる文化財：

岡田氏館跡 伊深薬師堂(薬王堂)／(薬師如来坐像・什器他) 小宮山館址 御棕跡(後庁跡) 普門院(諸久保観音堂一木造聖観音立像)海福寺(塩倉観音堂)／(聖観音菩薩像) 若宮八幡宮 北部古窯跡群 芥子坊主古墳 慶弘寺跡 伊深氏 後庁氏関連地名(中小路など) 鹽竈神社 地名(次郎丸・宮前・堀之内・中小路・西小路他)

関連文化財群の特徴・魅力

- 岡田冠者親義は、岡田神社の南東前、堀ノ内地籍に居城があったとされる、平家物語に出てくる武将。平野神社荘園である岡田郷と浅間郷庄司という役職を務め、普門院の聖観音を深く信奉していた。木曾義仲の重臣として平家追討のため参加したが、倶利伽羅峠の戦いで討ち死にした。
- 1400年の大塔合戦にて井深勘解由左衛門は信濃守護小笠原長秀に従って出陣して討ち死にした。井深氏は岡田に住んでいた土豪で岡田冠者親義の末裔といわれている。後庁氏は1440年結城合戦(茨城県)に井深城主として登場し、その時井深氏は後庁氏の家臣となっている。後庁氏は井深氏の一族で、稲倉城主赤沢氏に攻められて滅亡しているが、伊深若宮八幡社(守護神一仁徳天皇)を氏宮とし慶弘寺を創設した。(＊地名の表記は「伊深」と「井深」が混在して用いられていたが、井深から伊深となったのは、1725年以降である。現在の表記は伊深(井深)のかっこづけで、「井深」を併記する。人名では「井深」表記で統一)

岡田地区 関連文化財群3

関連文化財群のテーマ

交通の要衝地

関連文化財群を構成する文化財

○ 核となる文化財：北国脇往還(善光寺道) 岡田宿 東山道 千国街道(塩の道)

○ 構成要素となる文化財：

刈谷原峠道・商人石・大願寺跡・善光寺六字名号碑 一里塚 岡田口留番所 旧本陣・問屋跡 蓮台場 馬飼峠 伊深城址 井深氏、海福寺、普門院、信濃百番観音、岡本村神社寺院明細帳(1879) 新府統記 助合制度 蓮台場(でんで)

関連文化財群の特徴・魅力

東山道の沿線であった岡田は、三才山峠から小県郡、刈谷原峠から善光寺平方面、養老坂から安曇郡方面につながる交通の要衝であった。中世には信濃国の国府や深志の北の出入り口の要所であり、近世には、中山道洗馬宿から長野市の善光寺に至る北国脇往還(善光寺道：1604～)の岡田宿があり、松本藩主の参勤交代の道筋でもあった。岡田宿は松本城下町からは1里10町でその距離は短い、江戸から松本城下に入る直前の宿で重視された。岡田の住民は中山道和田宿の助合を命じられ、大変だったとのことである。また、行倒れの人等の供養をするために蓮台場をつくった。馬飼峠は、江戸時代末期の山道を改良し、刈谷原峠の代用路として刈谷原の有志が開削。最初は安土(やすど)へ抜ける通行料をとる道として造られ、後に藩の狩場を抜ける道となった。明治維新により、関所や番所は廃止されたが、刈谷原の有志二人が稲倉や刈谷原などの急坂を回避する道を作ろうと独自の資金で明治2年(1868)から2年間かけて開発した。当初は通行料を徴収したが利用者は多かった。明治末篠ノ井線が開通したので利用は減少した。

岡田地区 関連文化財群4

関連文化財群のテーマ

灌漑施設と水ごいの祈り

関連文化財群を構成する文化財

○ 核となる文化財：岡田神社、田溝池、大口堰

○ 構成要素となる文化財：

田溝池、中池、安土池、六助池、大門池、神沢池、塩倉池、清水池、矢作池、導水路記念碑、簡易水道記念碑、烏帽子権現、金井源五郎(第4代)、番水制、学生スケート大会発祥の地記念碑(六助池)

関連文化財群の特徴・魅力

平安時代、承和8年(841)の大地震により、前堂田川(女鳥羽川)の流路が変わり、水の豊富な加田から旱魃(干ばつ)の岡田となった。以来、岡田地区の村々は水不足と干ばつに悩まされてきた(1655年、1770年に大干ばつ)。平安時代末期の開削と伝えられる大口堰により女鳥羽川から取水していたが、一般的に水不足の地帯だったため、解消策として大小の溜め池が築造された。また、金井源五郎が田溝池の堤体を増築したことにより、松岡地区まで灌漑が可能となり稲作ができるようになったが、同時に田溝池の決壊による災害も生ずることとなった(テーマ“災害”を参照)。

番水制は、大旱魃にあうたびに繰り返される水論(水争い)の解決策として導入された取水の取り決めルールであり、現在まで引き継がれている。大口堰系は昼水は岡田、夜水は稲倉・洞に分けた。原田堰は上3ヶ村と下3ヶ村に分け、一日毎の番水制を採用した。現在の水路管理は、女鳥羽川土地改良区によって引き継がれている。岡田神社には五穀豊穡を祈って保食神が勧請された。六助池は、もともとは「矢作池」とよばれ、明暦元年(1655年)の大旱魃後に築提された。六助池と呼ばれるようになったのは、大正14年(1925年)に最初の学生スケート大会を開催した機会に、池の南側にある六助稲荷神社にちなんでつけられた。

岡田地区 関連文化財群5

関連文化財群のテーマ

民間信仰と伝統行事

関連文化財群を構成する文化財

○ 核となる文化財：石造文化財、だんぼ、三峰神社、津島神社、六助稲荷神社、御嶽神社、庚申塔、念仏講 徳本上人の念仏名号碑

○ 構成要素となる文化財：

道祖神・地藏菩薩他、だんぼ、道祖神祭り(三九郎)、六臂青面金剛、掛軸、数珠回し 三峰講、津島講、稲荷講、御嶽講 大願寺の念仏名号碑「南無阿弥陀佛」(1816)

関連文化財群の特徴・魅力

石造文化財は200余体あり庶民の種々の願いが感じ取られる。

(石造：馬頭観音・大日如来像41体 石神碑23体 供養念仏塔17基 庚申塔15基 地藏菩薩13体 不動明王3体 石灯籠20基 三界万霊1基 観世音菩薩9体 三十三夜6基 廻国供養塔4基 石祠4基 道祖神19基 他) 道祖神においては、絵姿像5基、文字碑14基、あり、村の入り口で旅人の安全を守り、疫病の侵入を防ぎ、縁結び・安産、家内安全、農業の繁栄等の守護神として農民の願いが秘められている。

岡田は寛政3年(1791年)の信州松本地震の影響が大きく、寛政6年以後のものが目立つ。また絵姿が少なく文字碑が主をなしている。この中にあって、神沢地区の裾まくり道祖神は貴重であり、繭玉奉持が2体あるのは、岡田が養蚕を農業の柱と考えていたと思われるからである。また、道陸神と書かれたものも松本市2体の内いわずの文字碑が1体があり文字に関心が深かったことが判る。また、岡田地区には徳本上人(1758-1818)の念仏名号碑「南無阿弥陀佛」が多く建立されている(大願寺跡・松岡墓地他)

毎年8月15日の夜、お盆の送り火として「だんぼ」が行われる。子どもを中心とした火祭り、麦わらの束を作り、両側に火をつけ、縄で振り回し、「ダンボ、ダンボ、フリダンボ」と大声ではやす。(南無阿弥陀仏がなまって「だんぼ」か?)

六助稲荷神社の創建は鎌倉一室町頃と推定されている(詳細不明)。祭神 倉稲魂命(うかだのみたまのみこと)で、近世では庶民の信仰篤く近隣のみならず、東京・中京方面からの参詣もあった。商売・演芸の神ともされ。芸妓が人力車で乗付けたこともあった(京都伏見稲荷末社)。

岡田地区 関連文化財群6

関連文化財群のテーマ

岡田ゆかりの近代の偉人たち

関連文化財群を構成する文化財

○ **核となる文化財**：金井潭(ふかし)関連文化財 山崎翁の碑 佐藤茂美と野球 金井源五郎と田溝池堤防増築 大澤丘田と短歌 所三男と徳川林政史 大澤政恒顕徳碑の筆塚 三村正文顕徳碑 岡田銀行跡 稚蚕施設跡 岡田役場跡

○ **構成要素となる文化財**：

金井 潭：信飛新聞社創立 松本市歴史の里関連(養蚕振興) 書：額・掛け軸・屏風(一部岡田公民館保存)
 国道143号開通計画立案立(橋爪多門) 大糸南線関連事業 片倉製糸跡(カタクラモール)
 所 三男：徳川林政史研究所(名古屋市)
 山崎集也：山崎翁の碑
 佐藤茂美：全国高等学校野球記念館・遺品
 金井源五郎(第4代)：田溝池の堤体
 大澤丘田：多数の短歌
 橋爪善七・橋爪勘太郎：中壺加助神社(貞享騒動・大願寺過去帳の記録他)
 橋爪多門：県立長野図書館蔵書他

関連文化財群の特徴・魅力

金井潭は明治時代を迎え富国強兵の政策の下、殖産興業としての製糸業に目を向けた。先祖は松岡村代々の庄屋を務め、良種の夏蚕開発・販路開拓に力を注ぐ。明治22年片倉製糸工場を誘致し、松本地域でのより一層の発展の基礎を築き、海外への生糸輸出ルートを開拓した。この流れがやがて世界遺産「富岡製糸場」の流れとなり、長野県の養蚕業発展に多大な貢献をした。また、市川量造等と共に信飛新聞社を起こし自ら編集長として活躍。書家としても信仙・鶴巢の号を持ち活躍している。更に八十二銀行の基となる第十九銀行の創業に関わり、輸送関係では現国道143号線の開通計画立案や大糸南線(松本―信濃大町)の開通にも関わった。金井家は現在転居しているために岡田松岡には墓地のみが残されている。

所三男は徳川林政史研究の第一人者として「木曾川運搬の沿革」を執筆し、各地の資料の調査や収集にも尽力する。歌人としても著名で岡田小学校校歌を作詞した。

山崎集也は明治31年民有林野字西山境調査での大林区署と意見が異なった折に行政裁判の訴訟で勝利を勝ち取る。

佐藤茂美は昭和3年松本商業学校(松商学園)で全国中学校野球で全国制覇をし、その後社会人野球で活躍をする。

金井源五郎は田溝池の堤体を増築し、松岡地区まで灌漑が可能となり稲作ができるようになる。

大澤丘田は「ホトギス」会員高浜虚子の指導を受け多数の優れた短歌を残す。

橋爪善七は貞享三年百姓一揆で岡田の代表として参加するも越訴罪に問われて出川刑場にて処刑になる。

橋爪多門は第一回県会議員選挙で当選し副議長を務め、国道143号(松本―上田)開通のために尽力した。三村正文は岡田の幼児教育に多大な功績を残した。岡田銀行は八十二銀行の前身となる。

岡田地区 関連文化財群7

関連文化財群のテーマ

平安・鎌倉時代の街道

関連文化財群を構成する文化財

○ **核となる文化財**：井深氏 小野篁行状記 錦織の駅家 塩釜神社

○ **核となる文化財**：

伊深(井深)城址、小野篁行状記、小野美材日記、木簡(天神/木遺跡)、駅鈴

関連文化財群の特徴・魅力

当時陸奥の国司であった小野篁(たかむら)は東山道のある岡田地区を通過して、京都―陸奥(現在の鹽竈付近の国府)を何度も往復していた記録が、自身の日記により、また孫の小野美材(よしき)の日記によって明らかになっている。岡田地域を壊滅させたと思われる承久の大地震(841年)には、ちょうど陸奥国司赴任の時、被害状況を克明に調査、報告している。

篁は陸奥の国鹽竈神社を勧請して、岡田塩倉へもってきた形跡がみられる。内陸にある塩釜神社は非常に珍しく、蟻ヶ崎にある塩釜神社は岡田塩倉にあった塩釜神社を、理由は不明であるが、移動したものである。(岡田地区関連文化財群9を参照)

小野篁行状記の原本は、昭和40年京都西京小学校隣接地にあった祠 小野宮 の下に埋まっていた灰釉陶器(かいゆうとうぎ)の箱に収められていた。それは、藤原定家の明月記と一緒に見つかったものとされ、しばらく大阪国会図書館の未公開資料として収蔵されていたものである。

岡田地区 関連文化財群8

関連文化財群のテーマ

民話と伝説一池と大蛇、玄蕃石

関連文化財群を構成する文化財

○ 核となる文化財：稚児池跡、テイラボッチ、正一位六助神社

○ 構成要素となる文化財：
稚児池、田溝池の大蛇、商人(あきんど)石、六助狐、天狗にさらわれた、玄蕃石(井深石)、信玄の鎧塚

関連文化財群の特徴・魅力

現在、岡田に残されている民話は、稚児池、田溝池の大蛇、商人(あきんど)石、六助狐、天狗にさらわれたの5編である。民話がいつごろから伝えられたものかは不明であるが、民話の出来上がった頃の庶民の生活の一端を知ることができる。

岡田地区では、町おこし事業の一環として、これらの民話を題材にした大型紙芝居を作成している。地元の市民はもちろんのこと、他地区の人々(子どもから高齢者まで)にもみてもらうように、貸し出しもしている。

また、伝説となっている太鼓門の大岩は、文禄2年(1593年)に松本城主石川玄蕃頭康長が天守を建てた時に使った大岩といわれ、馬飼峠東大平地籍の岩であると考えられている。

岡田地区 関連文化財群9

関連文化財群のテーマ

承和大地震(841)、田溝池決壊(1765, 1865, 1930)

関連文化財群を構成する文化財

○ 核となる文化財：女鳥羽川(流路) 個人古文書 地名(毛抜)越流

○ 構成要素となる文化財：
小野篁行状記、駅鈴、田溝池欠漬日誌(昭和7年/東筑摩郡岡田村役場謄写)

関連文化財群の特徴・魅力

承和8年に起きた承和の大地震(西暦841年)で前堂田川流路が東へ移動した。伊深地跡も井深山の崩落によりかなりの被害を受けた。当時、問屋原にあった駅鈴は被害を免れたが、建物はほぼ地下に埋まってしまったと思われる。この駅鈴の一部が、駅長の子孫である島内在住の金子氏により所持されていることが判明した。

岡田地区で最大の溜池である田溝池は、1597-1609年ごろに築堤され、1656年にはかさ上げのための築堤が完成した。それから約100年後の1765年(明和2年)4月の大雨で田溝・中池・六助の3池が決壊し、毛抜越流を経て堤体は流失した。毛抜地籍まで冠水し、越流(清水～清水池～普門院大門脇～深志城下)の流路を「大門沢」と呼ぶようになる。1865年(慶応元年)6月の大雨で再度決壊し(中池・矢作池とも)、松岡村、沢村、安原、西町、徒土町などで床上浸水し、田畑空地など143町歩が流失した。さらに1930年には、(大雨ではなかったが)田溝池が3回目の決壊となった(詳細な記録あり)。以後、1970年、1980年、1998年、2006年と補強工事と改修工事が実施されている。

また、1994年4月には、大門沢ウォーターフィールドの愛称がついた多目的遊水地が完成。大雨時の下流域の洪水の被害を防ぐのが目的で、約3万立方メートルの容量をもち、平常時は、陸上競技練習場(6コースの400メートルトラックとフィールド)として利用可能である(県松本文化会館の建設に伴い、旧県営陸上競技場が廃止されたため)

岡田地区 関連文化財群10

関連文化財群のテーマ

芥子坊主を中心とした大古窯跡群

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：芥子坊主・田溝池・北部古窯跡群、須恵器

○ 構成要素となる文化財：

宮の前遺跡の集荷場跡、古窯群で働いた人たちが木津川市に移住。その後京焼、瀬戸焼の発展に寄与した。さらに、銅銭鑄銭跡 皇朝十二銭を鑄造した銅座と銅銭の入れ物作りに関与した。小野篁行状記、小野美材(よしき)信濃国滞在記録信濃介に記載。

関連文化財群の特徴・魅力

岡田地区には数多くの古墳・遺跡群が存在し、時代的にも縄文時代、奈良時代、平安時代と混在しているのが特徴である。

塩辛遺跡、岡田町遺跡、下出口遺跡、西裏遺跡、宮の前遺跡などからは、住居跡や技術的にも高度な土器が出土している。これらはきれめのない遺跡である可能性が高く、岡田神社一帯の宮の前遺跡からは、超大型の住居跡や建物跡の遺構が発見され、須恵器生産や出荷などにかかわる役所的な役割をもった建物であったことが推測されている。北部古窯跡群は田溝周辺から島内山田集落を越えて、大口沢辺りまで続く一大窯業産地であったことが、出土品としてのビードロ須恵器、縄文土器、弥生式土器、陶硯、緑釉陶器などから推定されている。当時の京の都では、国産の銅を使った銅銭を作る計画があったが、岡田では黄銅鉱が産出し、銅の採掘・製煉・鑄造の技術者や、銅銭を入れる焼き物の壺を焼く技術をもった陶工たちが存在していた。中央とのつながりの深かった小野篁(信濃国司)の仲介で、こうした技術者たちを京都へ集団移住させたものと思われる。北部古窯跡で働いた人々は、京都木津川方面に移動し(銅銭鑄造跡、岡田国神社、岡田集落など)、その後の各地の窯業の発展に尽くした(京焼・瀬戸焼・信楽焼など)。京都および中部圏や東北地方の一部における窯業発展に、岡田の陶工およびその末裔たちが寄与した功績は大であったが、岡田地区での窯業は平安時代中期をピークに急速に衰退していった。

入山辺地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

明治憲法下の遺産

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：忠魂碑、奉安殿跡

○ 構成要素となる文化財：

- ・日露先捷記念燈籠
- ・入山辺記念林
- ・御即位大禮記念燈籠
- ・御即位大典記念碑
- ・御即位大典記念道路碑
- ・御大典記念街道碑
- ・二宮金次郎像
- ・軍馬記念碑
- ・出征軍馬記念碑
- ・馬頭観音(三反田)
- ・皇紀二千六百年記念林道碑

関連文化財群の特徴・魅力

明治22年2月11日「明治憲法(大日本帝国憲法)」が、翌23年10月30日「教育に関する勅語」が發布され、日本の中央集権国家が確立された。その後、日清・日露の戦争に勝利し、世界列強の仲間入りをした。柴宮社境内に「日露戦捷記念燈籠」がある。明治37年9月19日(日露戦争中)群長から各町村役場・小学校長宛てに「征露記念林を設置せよ」と言う訓令を出した。之を受け入・里両村は共有林の一部を記念林として設定した。現在も、入山辺里山辺財産区の中にあり、維持・管理されている。

明治憲法に「天皇ハ神聖ニシテ侵スベカラズ」と定められている。国民は天皇を現人神として尊崇した。大正天皇御即位の大正4年両桐原氏神境内に「御即位大典記念碑」「御即位大典記念燈籠」が建てられている。

教育勅語に「一旦緩急アレハ義勇公ニ奉シ以テ天壤無窮ノ皇運ヲ扶翼スヘシ」と宣せられて。男子は兵役の義務があり、二十歳に徴兵検査を受け兵役に服した。戦争に従軍し、武運つたなく戦死した場合は「名誉の戦死」と呼ばれた。日露戦争後、村では「戦死者表彰の目的で碑を建てた」、6ヶ所に現存する。

大正4年10月29日、入山辺小学校西側に天皇・皇后両陛下の御真影と教育勅語謄本を奉安する「奉安殿」、東側に大正15年12月13日忠魂碑を建てた。奉安殿は大戦後の昭和21年に取り壊された。忠魂碑は戦後一時倒されたが、昭和28年戦禍に倒れた兵士の名を刻し、恒久平和を願って再建された。昭和14年11月1日、二宮金次郎の石像が校舎東側に建てられた。場所を移し現存する。

戦争には愛馬も徴発された。その記念碑が柴宮天神宮境内と三反田にある。大戦まで、年号を「皇紀」または「紀元」と言った。

紀元2600年を盛大に祝った。それを記念して造られた林道の碑が駒越にある。紀元2600年は昭和15年(1940年)。

里山辺地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

林城下の遺構

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：林城跡

○ 構成要素となる文化財：

蔵造りの街並通り、旧薬医門移築、兎田旧跡、廣澤寺、千鹿頭社、旧浄蓮寺跡、旧浅間社跡、竹溪庵跡(林薬師堂跡)、林大城跡、林小城跡

関連文化財群の特徴・魅力

信濃守護となった小笠原氏は府中進出の足がかりとして、田川と薄川の合流点付近に「井川館」を築きました。しかし、同族間の争いや水害等に悩まされ、より強固な備えの可能な林の地に小笠原清宗の時代、城郭を築いたとされます。築城時期は15世紀頃と考えられます。以来、小笠原長時が1550年武田氏の侵攻の前に自落するまでの間、「林城の時代」は続きました。

この間、要害城の林大城と小城に囲まれた地（大嵩崎地区）に館を築き、初期の「城下町」の構築を行ったものといわれています。

要害城の林大城は城郭の形態がよく残り、平成29年（2017）に国の史跡に指定されました。林地区内には上手町、立町、横町の地名が今に残り、小笠原氏の菩提寺である廣澤寺を始めとして祈願所の千鹿頭社等多くの文化財が残ります。

室町期の守護の館としての「井川」から戦国期の城郭としての「林城」、更に戦国末期から江戸期の「松本城」への変遷を語る上で欠かすことのできない遺構です。

里山辺地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

旧「街道」の記憶

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：通称「五千石街道」を中心とした幾つかの歴史の道

○ 構成要素となる文化財：

- ・ 中山・神田地区より、里山辺を南北に貫く五千石街道、湯道(岡田宿へ)
- ・ 武石や入山辺を通りぬける裏街道
- ・ 松本の城下を支えた生活の道(山辺路)
- ・ 大切な馬の存在を知る馬頭観音
- ・ 道沿に残る道標や史跡
- ・ 築城を支えた山辺石
- ・ 道や地区の守り神の道祖神、生活の神の庚申像等

関連文化財群の特徴・魅力

元和三年（1617年）藩主小笠原忠政（8万石）が移封となり、その後戸田康長が7万石で入封すると、差額の1万石分が諏訪藩と高遠藩にそれぞれ5千石ずつ割譲される。これが「東五千石」と「西五千石」の成立だが、その「東五千石」の境界が千鹿頭の峰伝いに引かれた。ここから伸びている道が通称「五千石街道」と呼ばれ、湯の原に通じる部分は特に「湯道」の愛称で親しまれた。その先、街道は善光寺街道とつながり岡田宿を通り善光寺へと向かった。

里山辺地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

山辺の戦争遺跡（太平洋戦争地下工場群）

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：下金井を中心に惣社地区へと広がる窯跡群

○ 構成要素となる文化財：

- ・ 林大城・小城山腹の地下工場跡トンネル（中山地区にもまたがる。一部「湯の原山腹」も含む）
- ・ 林地区東部の半地下工場群跡
- ・ 薄川堤に敷かれたトロッコ線路跡
- ・ 山腹より掘り出された残土跡
- ・ 歴史資料

関連文化財群の特徴・魅力

太平洋戦争末期、戦局が激しさを増すと、三菱航空機の疎開工場の計画がなされ、突貫工事が昭和19年に始められた。実際に掘られたのは昭和20年代の4ヶ月ほどとされ、全体計画の5～6割ほど掘り進んだところで終戦となった。尚、「20数棟あった」とされる半地下工場はほぼ完成をみていたようである。この工場に関連したと思われる4発の爆弾投下も確認されている。

里山辺地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

美ヶ原（湯の原）温泉の成り立ち

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：温泉の成立の歴史につながる史跡。山辺御殿跡。地名。

○ 構成要素となる文化財：

- ・ 史跡と旅館街の家並み、薬師堂、石造物
- ・ 歴史を物語る史料、地名
- ・ 現在につながる地形

関連文化財群の特徴・魅力

684年、天武天皇が行宮造営のための調査を命じたと「日本書紀」にある「東間の湯」が美ヶ原温泉か否かは議論の分れるところとしても、古い歴史を誇る温泉街であることに異議がないだろう。その後の「御殿の湯」の成立と今日の美ヶ原温泉街の誕生の歴史がわかる多くの史跡が残存している。

里山辺地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

里山辺・本郷地区に広がる大製瓦産業群

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：下金井を中心に惣社地区へと広がる窯跡群

- 構成要素となる文化財：
- ・ 粘土層の広がりと窯跡
 - ・ 伝承
 - ・ 文書類
 - ・ 道具類、残存資料

関連文化財群の特徴・魅力

生産の始まり等、はっきりしない部分もあるが、多くの生産窯が並び、松本一帯の瓦の屋根の需要を補った。しかし、昭和四十年代より徐々に質の高い陶器瓦が販路を広げると一機に衰退をみた。

山辺地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

山家郷のあけぼの
(山家郷のあけぼの(入) + 大堰でつながる村々(里))

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：南方古墳、針塚古墳

- 構成要素となる文化財：
- 桐原牧、旧海岸寺木造十一面千手観音立像、南方古墳副葬品、須々岐水神社、大堰、柴宮社、旧海岸寺出土品(経筒、白磁合子、鉄製刀子)、桐原の牧歌碑、桐原の駒歌碑、桐原牧跡、大和合神社、兎川寺、古墳群(御符古墳、丸山古墳、駒越古墳など)、お船祭り

関連文化財群の特徴・魅力

延暦18年(799)、高句麗系氏族 卦婁真老が「須々岐」の姓を賜っている。山辺地域では、針塚古墳や南方古墳から馬具が出土しており、須々岐氏は桐原牧の経営を中心に古代の山辺を支配していたと考えられる。須々岐氏は、当初は牧の経営を中心として活動していたが、のちに薄川から引水して水田を開いた。8世紀末から9世紀にかけて、「大堰」の起源ともなる用水を開鑿するなど、山辺開発の先駆者であった。この大堰(現在の湯川)が氾濫と渇水を繰り返していた付近の沢の調整機能も果たし、広い範囲での水田耕作を可能とした。この用水の開鑿に関連してか、貞観9年(868)には須々岐神社が従五位下に昇叙されている。須々岐水神社の成立ははっきりしないが、古くは薄川にかかわる水神と考えられているが、須々岐氏を含めてこの地の住民にとっての産土神であった。寺伝に「聖徳太子の創建」と伝わる兎川霊瑞寺は、須々岐水神社の「神宮寺」の位置にあったものと考えられている。

松本市最古級の木造仏である旧海岸寺の千手観音立像は、平安時代中期の作とされることから、遅くともこの頃には、桐原牧の経営を行った土豪が海岸寺を開山したと推測される。平安末の院政時代には、後院牧であった桐原牧が荘園化し桐原荘となり、鎌倉時代には、桐原荘を支配した御家人として、桐原氏の名が見えるようになる。

山辺地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

山家氏、小笠原氏と山城
(山家氏、小笠原氏と山城(入) + 小笠原氏の関連山城郡(里))

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：山城(城跡)と寺社

○ 構成要素となる文化財：

- < 山家氏・桐原氏 >：大和合神社、宮原神社、橋倉諏訪神社、柴宮社、天満宮、桐原城、霜降城、
運法寺跡、御屋敷跡、連歌屋敷、徳雲寺跡、徳運寺、水寺、山家城、宮原城
< 小笠原氏 >：林城(大城・小城)、水番城、桐原城、山家城、橋倉諏訪神社、大和合神社、
兎川寺、広沢寺

関連文化財群の特徴・魅力

- (1) 幕府成立時には、御家人として桐原氏が桐原荘を支配していた。元弘元年(1331)には、山家郷の地頭である山家氏が、下諏訪の慈雲寺から雪村友梅を招いて徳雲寺を創建したとされることから、南北朝の動乱期に、桐原氏に代わって諏訪系の山家氏が桐原郷を含む山家郷一帯を領有していたと考えられる。祭礼にお船を曳く文化から、山家氏の支配は大村のあたりにまで及んでいたものと思われる。その後、小笠原氏が林に拠点を移す際に桐原氏が配置され、永享12年(1440)頃には、桐原郷は桐原氏が領有していたものとみられる。これに当っては山家氏の抵抗があったものと思われるが、山家氏は、その後仁科氏と結んで小笠原氏に背き、文明13年(1481)に小笠原長朝に敗れ、滅んだ。その後、永正2年(1505)に折野薩摩守昌治(後の山家氏)が播州明石から山家郷に入った。
- (2) 山辺谷の中世を特徴づけるものは各地に残る山城の遺構で、山家氏・桐原氏及び後の支配者小笠原氏に関係したものである。林大城は、信濃守護小笠原氏の本城である。その東側に位置する水番城は、林大城と一体で、山家氏に対抗するために築城されたと考えられる。桐原城と霜降城は一体で、山家氏の諏訪勢力と対抗するため、小笠原氏の支配の下に築城されたと考えられる。山家城は、山家氏が築いたとされる。文明13年(1481)に小笠原氏に山家氏が敗れると、その後、播州姫路から入った折野氏の拠点となる。薄川の対岸の宮原城は支城であるとされる。広沢寺は、小笠原政康の菩提を弔うために長男の持長が宝徳元年(1449)に建立した寺院である。

山辺地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

薄川の治水

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：里山辺地区の中北部一帯を潤す重要堰とそれにつながる史跡

○ 構成要素となる文化財：

- ・ 入山辺舟付に水源をもつ堰と、それに注ぐ「追倉沢」「藤井沢」「湯川」。
- ・ 水害の歴史、ため池。
- ・ 関連する史跡、資料、伝承。

関連文化財群の特徴・魅力

現在は「湯川」の名称で統一され、女鳥羽川に注ぎ、女鳥羽川の浄化にも一役買っている大堰は、開削の歴史が古く、「700年代の末、渡来系氏族の卦妻氏が開削したもの」との説が強い。「追倉沢」「藤井沢」「湯川」は濁水と氾濫を交互に繰り返す、コントロールの難しい沢で、「大堰」がその調整機能も果たし多くの水田の耕作を可能としてきた。その間に、村落の消滅と誕生等をもたらした。歴史的役割が大きい。

山辺地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

山辺谷の生業

(山辺谷の生業(入) + <信濃(長野県)第一>と称された藍の生産拠点「山辺」(里))

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：葡萄発祥の地石碑、こだま様、藍倉

○ 構成要素となる文化財：

黒炭焼き窯、山の神様、馬頭観音、馬頭観音(三面八臂)、愛染明王、藍生産、藍臼、「お船」(山車)、大きな構えの家結城大神、原田家住宅主屋、薄川第一発電所、松本平電気発祥の地石碑、山辺ワイナリー、風穴

関連文化財群の特徴・魅力

- (1) 「おっさまどこだい山辺の入かい、商売なんだい炭焼きかい・・・」と歌われたほど、大正から昭和にかけて副業として農閑期薪炭生産に励んだ。仕事の安全を願い、仕事始めや終わりに拝んだ「山の神様」が各集落に祀られている。
- (2) 明治以降、製糸業が花形産業となると、農家は養蚕業に取り組んだ。山間地の畑はみな桑畑となり、桑室・蚕室などを別棟に造ったり、蚕室兼用の大きな住宅を建てたりした。蚕種の保存庫として利用された風穴が現在も残っている。また、「こだま様」の石像を祀り、蚕の出来をお願いした。
- (3) 藍の栽培は明治の初期から盛んになり、特に藍玉は特産物であり、明治13年(1880)には東筑摩郡で第3位の生産となった。藍玉を作るための作業場であった「藍倉」が現在も残っている。染物業者の信仰を集めた「愛染明王」の石仏をまつり、藍の出来をお願いした。山辺で生産された藍がもたらしたお金も、多くのお祭りの山車(お船)の建造や教育の源となったと言われていた。山辺を語るとき藍の歴史を抜きに語ることはできない。
- (4) 「山辺ぶどう」は、果樹の内では最もふるい歴史を持ち、江戸時代の中期 元禄・宝永年間(1688~1710)ころ、家の庭先に植えられたのが始まりとされ、その後衰退を繰り返しながらも、研究努力を積み重ね、現在では「山辺ぶどう」として有名な銘柄となっている。ぶどう生産の新たな挑戦として、これまで生食ぶどうを中心に生産してきたが、高齢化や担い手の減少など産地は大きな転換期を迎えた。山辺の活性化をワイン醸造や直売所等を集約した「山辺ワイナリー」を平成13年度に開業した。「山辺ぶどう」は先人たちが幾多の困難と闘い、乗り越えてきた山辺地区の貴重な文化資産であり、歴史的に引き継いでいかなければいけない自然資源である。

山辺地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

山辺の教育

(山辺の教育(入)を山辺全体として再編成)

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：山辺学校

○ 構成要素となる文化財：

寺子屋跡(筆塚)、入山辺小学校跡記念碑、兎川学校(兎川寺内)、盛徳学校、桐原学校(海岸寺)、南橋学校(瑞光寺)、橋倉学校跡、美々原分校、大和合分校跡記念碑、入山辺小学校校歌、山邊の里(唱歌)

関連文化財群の特徴・魅力

明治5年に学制発布される前の教育は寺子屋によってなされていた。寺子屋は庶民に対する重要な教育機関であり、指導内容は読み・書き・そろばんと言われる日常生活に最低必要な教養から、漢字・国学・一般的な趣味教養等多岐に渡り、師匠の考えにより様々な教材が取り入れられていた。師匠の恩徳を感じて門弟が建てた筆塚が、寺子屋跡などに残されている。

学制発布以前に独自に、民間有志の拠出金によって郷村に開設された郷学校(小校)の設置をすすめていた筑摩県は、いち早く寺子屋教育の廃止を打ち出した。その一方で、学制頒布後も筑摩県創県以来すすめてきた公学の小校はそのまま廃止せず、積極的に開校をすすめた。また筑摩県は、廃仏毀釈で廃寺となった寺の本堂や庫裏を学校校舎として転用し、学校開設の費用は各村で負担するほか、寺の付属物の売却代金を学校開設の費用として充てるよう指導した。山辺でも、兎川学校、桐原学校、南橋学校などが寺の建物を利用して開校された。中でも兎川学校は明治6年(1873)、兎川寺の本堂を校舎として発足したが、明治18年(1885)、当時の里山辺・入山辺の両村により新校舎が建築された。校舎の大工棟梁は地元里山辺上金井出身で開智学校の建設にも携わった佐々木喜重であり、この校舎も開智学校をモデルとして建設されたが、新築費用は全て村費と里山辺・入山辺両村の住民による寄附金でまかなわれた。両村の子どもの教育にける熱意を窺い知ることができる。兎川学校は明治19年に山辺学校、明治22年に山辺尋常小学校となり、昭和3年(1928)までこの校舎が利用された。その後、校舎は里山辺村役場として使用され、現在は山辺学校歴史民俗資料館として公開されている。

明治37年(1905)12月、山辺尋常高等学校小学校唱歌として、「山邊の里」が制定された。この歌の歌詞には、入山辺・里山辺の地理歴史が詠み込まれた38番まである歌詞となっている。

山辺地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

江戸時代の民間信仰

(江戸時代の民間信仰(1)、(2)(入)を山辺全体として再構成)

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：こと八日行事

○ 構成要素となる文化財：

貧乏神送り、風邪の神送り、八日念仏と百足引き、お八日の綱引き、道祖神、三九郎、道祖神、馬頭観音、庚申塔、月待供養塔、念仏供養塔、光明真言供養塔、御嶽大権現、権現様、地藏様、観音様、大日様、お薬師様、金毘羅様、疍瘡様、神社境内に祀られている社・祠、講や一族で祀っている社・祠

関連文化財群の特徴・魅力

こと八日行事は、2月8日に行われている入山辺の厩所・中村・舟付、里山辺の追倉などの集落で、「貧乏神送り」、「風邪の神送り」、「念仏と百足引き」などと呼ばれる行事である。これらは、道祖神に関する習俗の1つで、厄災が集落に侵入するのを防ぐ、あるいは集落から厄災を追い払う行事である。この日の早朝に餅をつき、それを道祖神に供えたり、塗り付けたりする集落がある。また、疫病神を家の外に追い出すため、朝早くネギや唐辛子などを糠に混ぜて門口で燃やすヌカエブシが行われる。家から追い出した疫病神を乗せるため、藁で馬や龍などのツクリモノを作り、夜になると、これらのツクリモノを集落の外へ送りだし、焼き払うなどの行事が行われている。

また、道祖神にまつわる行事として三九郎がある。正月飾りや外飾りなどを集め、道祖神の近くや、河川敷、田んぼなどで、神木を三角錐上に組み、中に藁や松飾りを入れ上部に達磨などを飾った三九郎を作り、これを燃やす。これはかつて子供の行事として行われていたが、少子化の波の中で、今では殆どが大人の手で行われている。石造物の保存・継承と共に、各集落ともにその継承が課題となっている。

各集落ごとに祀られる道祖神以外にも、庚申塔、六臂青面金剛、念仏供養塔などの石造物も地区内には多く見られ、様々な形の民間信仰が広く行われていた事がうかがえる。これらは江戸時代中期から後期にかけてのものが多く、当時の厳しい身分制度に縛られた社会と、厳しい自然環境の中で生き抜くために、心のよりどころとして生まれてきたものであり、我々の祖先が懸命に生きてきた証の一つとして後世に伝えたいものである。

現状は、その多くが地域の片隅にまとめられ、普段は人々から忘れ去られている状態で、誠に残念である。

山辺地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

山辺の支配者と祭り

(村の祭り(入) + 須々岐水神社の成立と関連文化財群(里))

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：御柱祭り、お船祭り

○ 構成要素となる文化財：

入山辺大和合神社の御柱祭り、入山辺宮原神社の御柱祭り、入山辺橋倉諏訪神社の御柱祭り、里山辺須々岐水神社の御柱祭り、里山辺千鹿頭社の御柱祭り、須々岐水神社のお船祭り、厩所・宮原のお船、大和合神社のお船と御船祭り、水神信仰の拡大

関連文化財群の特徴・魅力

古代、山辺地区は渡来系氏族 卦婁氏が支配していたと考えられる。須々岐水神社の成立ははっきりしないが、薄川上流の明神平にある須々岐水神社の奥社と言われる祠から、神様がすすきで作った船に乗って薄川下ったとの神話が残ることから、古くは薄川にかかわる水神と考えられている。また、延暦18年(799)に卦婁真老が須々岐姓を賜ったことから、須々岐水神社を卦婁氏の氏宮とする説もある。古くから地域の産土神として信仰されていたが、享保年間(1716~1635)からは「お船」が造営され、例祭は「お船祭り」の名で親しまれている。また、「お船祭り」は大和合神社と宮原神社の例大祭にもお船が曳かれる。

古くは須々岐氏が支配していた山辺地区も、中世には諏訪一族の神(山家)氏が支配するようになり、諏訪の信仰が根付いた。山辺地区の大和合神社、宮原神社、橋倉諏訪社、須々岐水神社、千鹿頭社では御柱祭が行われていて、神田地区の千鹿頭神社と島立地区の沙田神社でも御柱祭が行われている。諏訪大社の1年遅れの卯酉の年に御柱祭をおこなっており、沙田神社を除く6社は諏訪の神を祭神としている。

地域が一体となり盛大に行われるこれらの祭りは、集落の絆を深め、地域を結び付ける役割を果たしている。

今井地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

今井の礎～故郷の記憶（今井の地名）～

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：市場方

○ 構成要素となる文化財：

花見田、前田、牛坂、和出、中和出、西せんげ、古見大池原(こんぼら)、本郷、合戦場、北村、市場方、自性院、河原田、屋敷添、寺村、柳原、五行田、長塚(石塚)、城山、観音松原、堀村、広田、でんでのお墓、才の神、弥生坂、新田原、田中、赤坂、八つ口、はらいまち

関連文化財群の特徴・魅力

住所といえば現在数字が連なった味気ないものになっております。かつて使われていた地名など、殆ど忘れ去られようとしております。自分の住んでいる地籍の誇りある名前さえ、他所の地名と思いついでいる人達が多くなっている現在、かつて使われていた地名に戻すのは無理としても、せめて記憶に残しておきたい、そんな思いを込めて文化財群に含めてみました。

今井という地名も何時頃から使われ出したか記録はありませんが、「今」は新しく開いた、「井」は水のある処、川、水路を表すと言われています。今を用いて、新しく開いた土地を表すのは平安時代以降といわれています。今井四郎兼平は扇子川を改修し、水田を開き、この地を愛し、自ら今井と名乗ったと思われなりません。

「社宮司」「住居戸」「市場方」など歴史の古さを感じる地名です。

今井地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

今井の繁栄～人と物の往来（道と道標）～

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：矢矧幅二基の道標

○ 構成要素となる文化財：

【道標】矢矧幅、下新田三叉路、中沢三叉路、北耕地八つ口、北耕地行動墓地北、赤坂橋上、赤坂橋東、正覚院西社、下新田東原、鉢盛中学南交差点、今井村道路元標

【道】はしば道、山道、岩垂道、牛道、住居戸道、陣屋道、小俣道、松本道、今村道、和田道、中道、小坂道、小松原街道、薬師道、市道、神戸道、境道

関連文化財群の特徴・魅力

今井には各地に通ずる道が縦横に走っています。松本市に合併した折にも市道の延長距離は他地区に比べ群を抜いていたといえます。古代よりの道といわれる「すめどみち」（住居戸道）、洗馬より今井を通過して、仁科街道につながり大道に抜ける「岩垂道」、野麦街道から波田で別れ、山形、今井を経て広丘で善光寺街道につながる「はしば道」、山本茂実氏の『ああ野麦峠』の飛驒の女工さんも、殆どがこの道を通して岡谷の製糸工場に向ったと言われています。通過地点も赤坂橋、中沢橋両論ありますが、今井通過は確実の様です。若い娘さんの群れが賑やかに桑畑の中を通過する様はそれは華やかであったと伝えられています。他、鉢盛山に向う「山道」近隣の村へ向かう道の名前が伝えられています。かつて今井四郎兼平が、菅井真澄が徳本上人が幡隆上人が仏磨がたどった道です。その道には13基の道標と大正時代の今井道路元標が現存します。記述にはあるが確認できない物1基（境新田）古老の証言があるが紛失したもの1基（野口）などありますが、中沢より南で道標は確認されていません。道路改修などで紛失したものと思われる。年代が記入されている物は少なく、時代背景をうかがい知ることはできませんが、かなり古い時代より地域の生活に密着した存在であったと思われます。

今井地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

今井の繁栄～水争いと古見大池原の開発～

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：塩原家住宅

○ 構成要素となる文化財：

塩原家住宅、三村家萬歳録、宝輪寺本堂、古池家屋敷林、野口家屋敷林、長村家古井戸、篠田家高野楯、小段堰、水神様、古池原開拓の碑、扇子川(待ち川)、水道貯水池跡、上水道記念碑、雨乞いの竜、雨乞い観音、五七堰、今井財産区、清水巡査句碑、武居文書、洞穴と野口の水路、古池五座社、野口諏訪社

関連文化財群の特徴・魅力

今井の歴史は水争いの歴史だといわれています。山本三村(古見村、針尾村、小野沢水田村)との争いばかりでなく、今井の上と下の争い、古池、野口との争い等があります。記録等でも寛永2年(1625)に始まり、中信平の灌漑事業で梓川の水が潤沢に使用できるまで、間断なく持ち上がっております。安永八年三村平兵衛の尽力による、山本三村との「大川落とし」の協定。天保5年の一村検地に至る水争い、その裁決として「五七の堰」が造られます。古池、野口の開拓による「小段堰」の協定。この堰を巡る明治16年の法廷闘争など、様々な争いが繰り返されてきました。水争いと並んで山の問題でも山本三ヶ村とは争いが絶えませんでした。今井では今井下原、岩垂原、古見古池原、古見山に入会地を持っていました。山争いはこれらの入会地を巡るものでした。大正5年(1916)に入会権解除が行われ、今井には古見山628ヘクタールが村有林に編入されました。これが現在の今井財産区です。

古池、野口の辺りは古見大池原と呼ばれる草原で、近隣の二十数ヶ村の入り会い場所でした。古見村の名主塩原九郎衛門、伊予の丞父子は鉢盛山の木曾川、味噌川の水を鉢盛山を割り貫いて鎖川に落とし、その水で古見大池原を開拓し200町歩の水田を作るという壮大な計画を打ち立てました。幕府の認可もおり天保8年(1837)古池原に居を移し開拓に着手しました。高山での作業、岩盤に妨げられての水路迂回等難工事の末に水路は完成しましたが、深山幽谷ゆえに維持管理が難しく断念するに至りました。200町歩の開拓も縮小を余儀なくされ、残された50町歩のうち陣屋道下の部分が神林の豪商野口庄三郎に譲渡されました。この後安政5年の検地により古池新田村、野口新田村が誕生しました。

今井地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

近代今井の象徴

関連文化財群を構成する文化財

○ 核となる文化財：正覚院観音堂

○ 構成要素となる文化財：

宝輪寺観音堂、宝輪寺十一面観音、宝輪寺鐘樓、正覚院観音堂、正覚院山門兼鐘樓、正覚院書院玄関、田中家墓地石仏、三村家千手観音、北耕地六地藏、若沢寺庫裏襖絵、甲明学校跡、今井学校跡、上条蝮司顕徳碑、開道記念碑、人形入用割付覚帳他芝居資料、諏訪神社神楽殿、今井村金庫

関連文化財群の特徴・魅力

廃仏毀釈は明治政府が出した神仏分離令によって引き起こされました。神仏の分離が目的で仏教排斥を意図したものではありませんでしたが、結果的に廃仏毀釈運動になってしまいました。仏教施設の破壊、僧侶の神職への強制的転向、帰農強制などが行われました。松本藩の戸田氏は、朱子学を奉じる幹部を中心にこれに積極的に協力し、班内の寺院への弾圧を行いました。藩内の名のある寺院は破壊され、あるいは廃寺を余儀なくされました。この嵐は戸田家の菩提寺全久院へも及びました。今井は幕末天領であったためこの災禍より逃れ、逆に廃寺になった寺院より建物、諸物を譲り受け寺院や公共の施設として活用しました。波田若沢寺の薬師堂が正覚院の観音堂、庫裏が旧今井村役場。宝輪寺の観音堂(遍照殿)は本山の長久寺より、鐘樓は北小野真光寺より移設したものです。若沢寺の石仏が北耕地公民館、中沢田中家の墓地に残っています。旧今井村役場となった若沢寺庫裏の玄関が、正覚院書院玄関として現存しています。

今井は、明治の信州の民権運動の指導者、上条蝮司輩出の地でもあります。郷土の偉人の足跡と遺構これも郷土の宝です。

今井地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

今井の礎～悠久の歴史の中で～

関連文化財群を構成する文化財

○ 核となる文化財：こぶし畑遺跡

○ 構成要素となる文化財：

こぶし畑遺跡、双面の硯、今井四郎兼平形見石、続麻・兼平神社、諏訪神社、宝輪寺、正覚院、陣屋跡、陣屋道、郷倉、高札、筒井家文書古地図、下新田遺跡、矢矧遺跡、桃井家文書、櫻井家文書、三村家文書、塩原家文書、古池家文書、今井小学校資料、市場方誌、今井地区誌、史談会資料

関連文化財群の特徴・魅力

紀元前12,000年前位の今井の地に人類の足跡が石器などによって確認されます。今井の遺跡で正式に発掘され、遺構が確認できたものは「こぶし畑」遺跡のみです。北耕地遺跡も発掘調査されましたが、殆ど成果はありませんでした。しかし各地で石器、土器等が発見され保存されています。これはこの地に有史以前より人々が往来し、また定住生活を営んだ証です。

以来わが先祖は悠久の歴史の中で、我が故郷を築きあげてきました。往古より母なる流れ扇子川に、扇子の目の如く堰を築き脈々と生活を営んでまいりました。今井各地に残る四郎兼平による開発の伝説、中世三村氏、近世松本藩領、高遠藩西五千石、幕府領と為政者は目まぐるしく変わってまいりました。幕府領の陣屋が置かれたりと数々の変遷を扇子川は見守ってきました。これらの変遷を数多くの古文書、寺社の遺構でうかがい知ることができます。

今井地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

今井の礎～平和への礎と未来へ～

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：万歳塚

○ 構成要素となる文化財：

【戦争遺産】

万歳塚、忠魂碑、軍馬慰霊碑、掩体壕跡、松脂採取痕の松、旧奉安殿

【将来への遺産】

東天紅の像、太田水穂歌碑、兼平太鼓、今井民謡、今井ふるさとマップ、今井ふるさと歌留多、今井地区誌、公民館報合冊版

関連文化財群の特徴・魅力

戦争推進のシンボルともなった石碑があります。万歳塚、忠魂碑、軍馬慰霊碑などです。忠魂碑は大正元年に除幕式を行い、碑文は明治の元勳の一人大山巖の筆になります。終戦後埋められていましたが、昭和28年掘り起こされ今井小学校の片隅に立っています。この碑には日清戦役より太平洋戦争までの今井の戦死者121名の名前が刻まれています。毎年、今井町会連合会により戦没者遺族を招き慰霊祭を行い平和を祈念しております。万歳塚の碑は、大正4年今井在郷軍人会により建立され、碑文は第5代今井村長、藤本久榮氏によります。ここが村外れで出征兵士はここまで見送られ、万歳の歓呼の中を戦地に赴いたといひます。このような碑は近隣には殆どなく、大変珍しい物だといわれています。他に旧陸軍松本飛行場の掩体壕跡、松脂を採った傷跡を残す松など戦争の傷跡ともいえますが、二度と悲劇を繰り返さないためにも、戦争の証言と共に文化財として後世に伝えていきたいと思ひます。歴史的には新しい物でも後世に伝えたい今井の宝があります。上條俊介氏の作になる小学校の東天紅の像、終戦間もないころ正覚院で開かれた「潮音」の全国大会の記念太田水穂の歌碑。他、先輩方が作られた郷土の記録。未来へ大切に引き継いでいきたいと思ひます。

今井地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ 今井の繁栄～産業の変遷～

関連文化財群を構成する文化財

◎ **核となる文化財**：養蚕絵馬(宝輪寺)

○ **構成要素となる文化財**：

養蚕絵馬、下今井区文書、扇子川、深井戸、阪信大根工場、丸伊工場門柱、北耕地の旧選果場、開道記念碑、蚕玉様、落葉松人口育成苗発祥の地記念碑、塩原家蚕室、農地連盟の碑、農魂の碑

関連文化財群の特徴・魅力

今井の産業に三度の黄金期がありました。①明治から昭和初期の「養蚕、製糸業」、②昭和期から戦後にかけての「大根工場」、③昭和30年代からのリンゴ栽培です。

江戸時代信州の各藩は養蚕を奨励しました。今井で養蚕が始まったのは、記録によると安政3年とあります。ごく小規模であったようですが、明治に入ると生糸は海外貿易の花形商品となり、桑園面積も拡大し農業の副業から主業へと転換していきました。大正9年の株式大暴落にもかかわらず拡大していきました。今井でも大規模な養蚕農家や製糸工場が繁栄しました。しかし昭和4年に始まる世界的恐慌により大打撃を受け衰退し、他の作物への転換を余儀なくされました。宝輪寺の遍照殿に2枚の養蚕を描いた絵馬が残されています。各地に養蚕の繁栄を祈念した「蚕玉様」「養蚕神」の碑や祠が祀られています。

今井に最初に大根工場が作られたのは昭和2年です。上新田の丸信、野口の丸伊です。それ以来およそ50年間、今井の一大産業であり続けました。その最盛期は昭和10年代で繭の価格の低迷した農業恐慌の中で沢庵漬けへの期待は非常に大きく当時村内には十数件の向上が操業していました。原料は美濃早生が主流で宮重、練馬等も作られました。原料の大根が気候の関係で他府県よりも早く収穫でき、早期出荷により有利に販売が出来たのです。その漬け込みの時期には、近隣の村々からの手伝い、関西からの人夫等で活況を呈したといわれています。戦後は出荷統制が解除一時活況を見ましたが、相場の変動が激しく原価割れ、連作障害により衰退していきました。上新田の「阪信」の工場が当時のまま残っています。また野口の「丸伊」の工場跡の門柱が繁栄を偲ばせます。

今井の産業を語る上で忘れてはならないのが「落葉松の育苗」です。古池原の開拓者、塩原伊予之丞翁が鉢盛圃をふせぐためにと、日本で初めて人口育苗に成功しました。明治30年代に入り、長野県は古池に県立の「東筑摩苗圃」を設置し林業の振興を図り、古池原一帯は苗木の全国的な一大産地となりました。西澤権一郎長野県知事揮毫による「落葉松人口育成苗発祥の地」の記念碑が建っています。

今井に果樹が導入されたのは明治27年頃といわれています。先駆者は古池の塩原吉治氏で10アールの葡萄畑でした。リンゴ栽培は明治43年(1910)頃古池栄一氏が、倭錦、旭、紅玉を植えたのが始まりといわれています。その後昭和4年の世界的大恐慌で生糸相場の大暴落は今井の農業にも大打撃を与えました。そこで先進的な考えを盛った青年達を中核に果樹栽培の研究が進められていきました。先人たちの研究、努力が戦争、天災などの苦難を乗り越え中信平一の生産量を誇る、今井の農業の中心の地位を築きあげました。昭和32年に封切られた、三橋美智也主演の「哀愁のリンゴ園」のロケが、上新田上條弥嗣氏のリンゴ園で行われました。「育苗発祥の地」の石碑が古池原開拓の碑と共に建っています。

今井地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ 民間信仰と伝統～受け継がれる心～

関連文化財群を構成する文化財

◎ **核となる文化財**：諏訪神社の御神馬奉納

○ **構成要素となる文化財**：

諏訪神社の御神馬奉納、続麻・兼平神社の奉納相撲、五座社、諏訪社、古池の道祖神、三九郎、鳥追い、馬頭観音祭、盆火、水神様

関連文化財群の特徴・魅力

伝統行事は民間信仰と関連したものが多数あります。例えば殆どの町会で行われている小正月の子供の行事三九郎も道祖神のお祭りです。また西耕地に残る盆火もお盆の行事として行われます。御神馬の奉納は、今井の各地で行われていましたが、現在は下今井の諏訪神社のみで受け継がれています。兼平神社で行われる奉納相撲は、四本柱の土俵免許を持つ格式高いものです。

今井地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

民間信仰と伝統～続く信仰～

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：仏磨の秋葉大権現の碑

○ 構成要素となる文化財：

秋葉大権現の碑(仏磨)、中村秋葉神社、弥生坂秋葉神社、東耕地秋葉神社、西耕地秋葉神社、北耕地秋葉神社、上新田三峰神社、北耕地大山阿夫利の碑(石尊講)、境新田白山社、西耕地天狗霊神、西耕地白川稲荷・御岳神社、各地庚申供養塔、北耕地庚申供養塔群、各地青面金剛石碑、甲子大黒天石碑

関連文化財群の特徴・魅力

祀られている神様は今でも厚く信仰されています。秋葉様のお祭りは5町会ほどで行われています。東耕地ではいまだに当番が代参を行っております。中村では宵祭り、本祭りと盛大に行われております。上新田では毎月当番が「三峰様」にお参りをしてお洗米を供えております。北耕地では元文5年(1740)より昭和55年まで60年毎に庚申記念碑を建てております。

現在でも南耕地では庚申仲間が葬式の隣組になっております。東耕地、西耕地、北耕地などで庚申講が行われています。

また、西耕地では天狗霊神、白川稲荷、御岳神社など地域で守っております。

今井地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

民間信仰と伝統～祈りの心～

関連文化財群を構成する文化財

○ 核となる文化財：下新田事八日

○ 構成要素となる文化財：

下新田事八日、初午、花祭り、お十夜、お日待ち講、徳本名号碑(5基)、祐天名号碑(2基)、西耕地幡隆名号碑、善光寺念仏名号碑、柳原幡隆名号軸、正覚院幡隆名号軸、中沢祐天名号軸

関連文化財群の特徴・魅力

今井はお念仏の盛んな土地柄でした。現在も幾つかの耕地ではその伝統が引き継がれお念仏が行われております。松本市の無形民俗文化財の「下新田の八日念仏」、春秋のお彼岸のお念仏、上新田の日蓮宗の「お日待ち講」、お寺毎のお念仏。北耕地の高齢者クラブによって守られている「お十夜」「初午」などです。念仏名号碑も数多く残り、徳本5基、祐天2基、幡隆1基、善光寺念仏2基他全部で20基確認されております。徳本上人、幡隆上人の往来も記録に残っております。徳本、祐天、幡隆の各名号碑が地区内に揃っているのは今井だけと言われています。

今井地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

民間信仰と伝統～信仰の跡～

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：堂村十王堂

○ 構成要素となる文化財：

堂村十王堂、下新田神明宮、水神社跡、山の神社跡、白山社跡、富士浅間社跡、鳴神社跡、続麻神社跡、天王社(八坂社)跡、今井富佐教会跡、社宮司、地藏堂跡、阿弥陀堂跡、東耕地十王堂跡、仁王塚

関連文化財群の特徴・魅力

今井の地には数々の神々が祀られていました。各々でお祭りが行われていました。上今井では、続麻神社、兼平神社、神明宮(下新田)の三社は上今井中でお祭りを行っていたようです。下今井では諏訪神社、八幡宮、八坂神社など各お宮ごとに立派な社殿を持っておりましたが、大正4年2つの山神社、鳴神社と共に諏訪神社に合祀されました。上今井では神明宮、富士浅間社、白山社、山の神社、水神社共に続麻神社に合祀されました。昭和22年兼平神社が続麻神社に合祀され、上今井「続麻、兼平神社」、下今井「諏訪神社」、古池「五座社」、野口「諏訪社」の四社になりました。

各地域に地域の拠り所というべき堂がありました。下新田の「地藏堂」、北耕地の「阿弥陀堂」の二つの堂は耕地のシンボルであり、集会の場所でもありました。また北耕地の堂は芝居の舞台としても使われていたようです。現在は堂はなく本尊の「延命地藏」と「聖観音」が公民館に安置されています。記録によると堂村には堂が2つあったと記録されていますが、現存しているのは十王堂(閻魔堂)のみです。死後人間は生前の行状を10回裁かれるといわれます。その裁きを司る十王を祀り、死後の安寧をはかる預修の信仰に基づくものです。今井各地に十王堂があったようですが、現在は堂村のみ、東耕地に跡の言い伝えが残ります。

内田地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

縄文集落のムラ

関連文化財群を構成する文化財

○ 核となる文化財：エリ穴遺跡

○ 構成要素となる文化財：

・遺跡群：(縄文早期)五斗林、(縄文前期)清心・釈迦堂・砂原・宮の下・三郎城・クネの内・八幡原 他
(縄文中期)雨掘・一ツ家、(弥生時代)横山城
・出土品：雨掘遺跡(槍先・高炉形土器・埋甕 他)、
エリ穴遺跡出土品(耳飾り・土偶・土版・土器 他)、
横山城遺跡(靱痕、布目痕土器 他)

関連文化財群の特徴・魅力

崖の湯の両麓を流れる塩沢川と舟沢川が形成する複合扇状地には、縄文の昔から大きな集落が営まれてきた。遺跡名の語源となった「あんぼり」は雨水が滞留する谷地形で、構造改善により消滅したが、ここに縄文中期の大集落があった。時代とともに集落は下流に降り、他地区では遺跡が激減する縄文後晩期には、塩沢川と舟沢川の合流点付近に、2500点にも及ぶ耳飾りを含む土偶などの祭祀遺物を出土したエリ穴の大集落があった。弥生時代の集落の中心は、田川沿いの寿地区に降るが、古代に埴原牧が置かれたころには再び集落が営まれる。

おそらくは、この複合扇状地に集落を営んだ先人たちが水神として勧請した八幡社が、今も産土として信仰されている。中世になると、北(内)牧が置かれ、地頭の波田氏の支配するところとなり、鎌倉時代の終わりには牧が廃され農地が変わっていったようである。江戸時代には、中山と寿とともに諏訪高島領となり、村間の山論と水論が絶えなかった。

内田地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ 鉢伏信仰と牛伏寺

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：木造十一面観音と脇侍立像(不動明王・毘沙門天)(重文)、木造蔵王権現(県宝)

○ 構成要素となる文化財：

釈迦如来坐像と脇侍(普賢・文殊)、薬師如来坐像、大威徳明王(以上重文)、如意輪観音、奪衣婆(以上県宝)、観音堂及び宮殿、仁王門、如意輪堂、十王像と司命司録、延命地藏、神像、御正体、鉦鼓、四尊像、大般若経、光明真言、法華経、堂平、カラムツ、フナ林(以上市指定、以上牛伏寺)、法船寺境内、常楽寺コウヤマキ、アカマツ、カキ、ケヤキ(以上市指定)、丁石

関連文化財群の特徴・魅力

鉢伏山の山頂は、美ヶ原と同様に風が強く、森林が形成されにくい気候から、ところどころガレが顔をのぞかせる草原となっており、山岳信仰の修行の場として利用されてきた。鉢伏から下った標高1200mほどの樹林に堂平と呼ばれる場所があり、平安時代の遺構・遺物が見つかっている。ここからは鉦鼓(銅伏鉦)という仏具が出土しており、古代から中世にかけて鉢伏山麓は信仰の空間であった。古代には中山に埴原牧が置かれ、時代が下るにつれて南に移り、北内牧・南内牧(内田牧)と呼ばれるようになったが、牛伏寺が山岳修行の寺院として開かれ、修行僧の研鑽の場となっていたことを物語っている。

重要文化財に指定されている牛伏寺の本尊木造十一面観音立像はこの時代に造立されたものであり、厄除観音として今日まで衆庶の信仰を集めている。厄除け祈願の霊場として、絶えることなく多くの人々が牛伏寺に参詣に訪れている。

牛伏寺はたびたびの火災で寺宝の一部を失ったものの、江戸時代には諏訪高島藩に帰属したため、廃仏毀釈の影響を受けることもなく現在に伝えられている。

内田地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ ムラの祈り

関連文化財群を構成する文化財

○ 核となる文化財：ササラ踊り、おんべ祭り(横山、北花見、荒井)

○ 構成要素となる文化財：

八幡原八幡社、クネノ内正八幡宮と獅子舞、大神社、鉢伏神社、道祖神、三九郎・鳥追い、八日念仏、蚕玉様、夜燈様、庚申講、月待講、伊勢講、孟蘭盆会、節分、崖の湯薬師堂、北河原堂の祭り(節分、やしょうま、お花祭り、盆、柿薬師様)、

関連文化財群の特徴・魅力

内田地区は、元禄15年(1702)〔延享3年・1746?〕に内田村が南北2村に分かれた際の北内田村にあたる。明治以降は片丘村の一部となっていたが、昭和の大合併後に境界変更により松本市に編入された。内田では、隣村との山論や推論が絶えず、そのため村内の結束は固かった。その固い絆は、おんべ祭りをはじめ、様々な行事によって今日まで維持されてきた。山頂の鉢伏神社及び里宮の前鉢伏神社で毎年、雨乞いや五穀豊穡の神事・例祭を南内田と共同で行っている。

内田地区は、第1～第9まで9町会に分かれているが、江戸時代の北内田村は中心となる上北内田、下北内田をはじめ上真田、下真田、横山、花見、荒井、向(井)、蔵(倉)の集落に分かれており、今もこの集落単位で行われる行事が多い。これより大きな集団として、産土の氏子がある。産土は3社あり、向井と荒井が八幡原八幡社、上北内田と下北内田がクネノ内八幡宮、上真田と下真田及び横山は諏訪社の氏子だったが、花見と倉村の大神社に合祀されている。

このほかにも、沢筋ごとに水神様を祀る仲間、山の神を祀る仲間、庚申仲間、念仏講の仲間などがあり、火の用心等の願いを込めて燈籠を回す夜燈様の習俗など、古い習俗を伝えている。

ササラ踊りの発祥は定かではないが、鎌倉幕府の記録「吾妻鏡」(1180～1266)には信濃の国には官牧が28牧あり、その中に北内牧、南内牧の名がある。古くから良質な馬の産地として朝廷へ多くの馬を送り出していた。その時の献上馬との別れの辛さを表した「身ぶり手ぶり」が始まりだと言われている。その後、牛伏寺の信仰に結び付き現在に引き継がれている。

内田地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

横峰山麓の土砂災害と砂防事業の歴史

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：牛伏川本流水路(フランス式階段工)(重文)

○ 構成要素となる文化財：
 7十の木権現・蓬堂跡、石堰堤(第1～5号)、張石工水路、支流の石堰堤、張芝工、筋芝工、
 積苗工跡、松建小屋

関連文化財群の特徴・魅力

牛伏川は、元禄3年(1690)8月の大洪水で、下流の寿地区で50戸を超す家屋の流失など甚大な被害を及ぼした。以後も、10～20年おきに洪水が発生し、被害は次第に下流域に広がっていった。戦国時代から江戸時代にかけてここで乱伐が行われ、捨て置かれた枝葉が山火事を引き起こしはげ山と化したのだという。

塩沢川・舟沢川の上流にある崖の湯の名称は中世の崩壊地からの湧出を伝え、牛伏川の支流である「悪沢」「泥沢」の名称からも、上流部が脆弱な地盤であることは容易に推測される。この山腹は、マサ化(膨張と収縮を繰り返えし、岩石が鉱物ごとに粒になること)した花崗閃緑岩が砂岩と泥岩の互層に貫入した地層で、乱伐と重なって大雨のたびに土砂災害を引き起こしてきたことがわかっており、この対策として明治18年に大規模な国営砂防事業が行われた。砂防事業は、長野県に引き継がれ大正7年に完成を見た。

34年間に及ぶ工事の締めくくりとして施行されたのが「フランス式階段工」で、この階段状の形状は内務省技師の「池田圓男」が欧州留学の際に持ち帰り設計指導したもので、フランスのサニエル渓流の階段水路に施された方式であったことから、「フランス式」の呼び名となった。その後も、農業用水の確保を兼ねた砂防ダムの建設や林相転換等の事業が行われ、砂防学習のための「牛伏川いこいの広場(内田少年の森)」が整備された。

内田地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

内田の豪農・馬場家

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：馬場家住宅

○ 構成要素となる文化財：
 主屋・表門及び左右長屋・中門・文庫蔵・隠居屋・奥蔵・茶屋・旧ひきや部屋・旧うまや・
 祝殿・ケヤキ

関連文化財群の特徴・魅力

馬場家の歴史は、先祖は武田信玄の家臣「馬場美濃守信春」の縁者とされ、天正10年(1582)頃、武田の滅亡を機に内田に住むようになった。内田に定着するにあたっては、地域の高燥な自然条件から、農地を開発するために牛伏川から舟沢川を跨いで「馬場の堰」と呼ばれる独自の用水を引くなど、地域と深いつながりを築いてきた。特別な立場から馬場家が新田地域の草分け的存在であったようだ。

馬場家住宅の主屋は嘉永4年(1851)に、表門と左右の長屋・中門は安政6年(1859)、文庫蔵は弘化2年(1845)、隠居屋と奥蔵は元治元年(1864)に建てられた。茶室は明治3年(1870)に建てられた。棟の正面に「雀おどし」という棟飾りを付けた本棟造りと呼ばれる特徴的な民家である。豪壮な構えを持つ表門及び中門は、藩主を客として想定し、馬場家の特別な家格により藩から建ててもらうことを許されたものと推定される。

屋敷の西側には推定樹齢800年以上のケヤキがあり、傍らの祝殿は馬場家の屋敷神の祠で、古屋敷大明神が祀られている。馬場家の13代馬場與平は片丘村の初代村長(明治22年5月～24年8月)を務め、一時建物の一部を村役場として使用している。15代当主の馬場称徳は外交官として勤務、メキシコ革命の最中、メキシコにいる日本人移民を救うべく奔走し、命をかけて戦乱の渦中から千人近くもの日本人を救出している。

内田地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

内田の教育と文化

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：明善内田学校跡記念碑

○ 構成要素となる文化財：
清水山常楽寺・唐沢神官宅・景德碑

関連文化財群の特徴・魅力

江戸時代後期、内田に常楽寺住職や神官等が師匠となる寺子屋が存在していた。明治5年に学制が頒布された翌年、内田には南北内田村の学校が、「明善学校」として神官 唐沢主守宅に開設された。「明善」の名は、中国宋代の四書の一つ「中庸」の一節からとされる。

学校は翌7年、常楽寺に移転、さらに明治8年には南北境界近くの郷倉跡へと校舎を新築・移転した。その地の一角には、「明善内田学校跡記念碑」が建立されている。また、大神社の北には寺子屋師匠として近隣の村々通うものも含めて何百人もの子ども達を導き、明善学校の設立・運営に寄与した唐沢主守の「景德碑」が建っている。

明治7年、内田を含む近隣5ヶ村が合併して「片丘村」となり、明治9年には県の通達により校名を「内田学校」と改めることになった。以降、行政の都合等により校名の変更（明治19年には「片丘学校」として統一される）や、分校（北部・南部）の開設、校舎所在地の変更などの幾多の変遷を経て、更に昭和35年の分市による影響を受けながら、昭和49年に100年近く途絶えていた「明善」の名をつけた「明善小学校」が現在地に開校した。

本郷地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

古墳文化と遺跡・史跡

関連文化財群を構成する文化財

○ 核となる文化財：桜ヶ丘古墳、水汲積石古墳、高田遺跡、塚田遺跡、桃山園古墳

○ 構成要素となる文化財：

高井入古墳、山城古墳、高根塚古墳、洞塚田古墳、土取場古墳、穴田古墳、西原古墳、下屋敷古墳、塚畑古墳、水汲古墳1～4号、本社峰古墳、茶臼山古墳、大屋敷古墳1、2号、横谷入古墳、御殿山古墳、桜ヶ丘古墳、国司塚、桃仙園古墳、妙義山古墳1～3号、惣社塚古墳

遺跡 三才山13所、稲倉4所、洞9所、原9所、水汲2所、浅間温泉10所、大村6所、横田3所

史跡 三才山13所、稲倉8所、洞7所、原4所、水汲7所、浅間温泉43所、大村9所、惣社6所、横田15所

関連文化財群の特徴・魅力

古墳が多くまた遺跡、史跡も数多い地区でもあり、なかでも桜ヶ丘古墳より出土した「金銅冠」「甲冑」は県指定文化財に指定されています。桜ヶ丘古墳は浅間温泉街の南東に突き出た丘陵の突端に位置する5世紀後半に築造された円墳であり、竪穴式石室の中から出土したのが、黄金色に輝く金銅製の天冠と鉄製甲冑です。冠に施される金工技術は5世紀前半には日本に導入されており、これらの冠には朝鮮半島からの搬入品と、国内での製作品の2種類があったことが知られています。鉄製甲冑については長野県の内飯田からの出土が多く、またこの革綴式の甲冑は県内でも出土事例は少なく、60メートルを超える古墳時代中期前半の前方後円墳の2例しかありません。このことからなぜ規模も時期も異なる桜ヶ丘古墳に古い形式の甲冑が一揃い埋納されたのかわかっていません。桜ヶ丘古墳が築造された古墳時代中期～後期にかけての女鳥羽流域の遺跡様相や当時の景観や生活を広く推定して復元して行くことで被葬者に近づくことができるかもしれません。また遺跡には歴史的に価値の高い土器も出土されており古代より居住していたことが分かります。

本郷地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ 山城・砦と武士

関連文化財群を構成する文化財

○ 核となる文化財：桜ヶ丘古墳出土品(県宝)、稲倉城跡(市史跡)

○ 構成要素となる文化財：

桜ヶ丘古墳、妙義山古墳群、大村廃寺跡、国司塚、浅間温泉、平野社、浅間社(御射神社)、神宮寺、薬師如来坐像(市重文)、円空大般若経、茶臼山砦跡、洞山砦跡(早落砦跡)、横谷入砦跡、三才山砦跡、稲倉館町跡、稲倉城主屋敷跡(若宮八幡宮、寺跡)、赤沢氏館跡、大村居館跡

関連文化財群の特徴・魅力

浅間温泉の南東には、金銅製の天冠を出土した桜ヶ丘古墳や妙義山古墳などの古墳が見られる。その築造年代は、5世紀後半から6世紀後半にかけてで、山辺にかけての東山部が開発されたことを物語っている。古代には、天武天皇の行宮造営地に比定される浅間温泉から大村にかけて集落が営まれ、古代寺院や国府の存在が指摘されているが、確証は得られていない。平安時代には岡田地区とともに京都平野神社の荘園となり、旧国府の上田へ通じる東山道沿いで発展し、居住地は横田・惣社など南部へ拡大していく。以来、鎌倉時代にも重要な地域として北条氏が支配した。

鎌倉幕府滅亡後は、浅間郷は小笠原一族の赤沢氏の支配となり、浅間温泉に居館を設け、茶臼山城と早落城を築いた。稲倉城は赤沢氏が東方への備えに築いた城であろう。稲倉町会の西寄りに城主の屋敷跡と伝える場所がある。現在の遺構は、武田氏滅亡後に小笠原氏が修築した姿と思われ、主郭背後の堀切など後期小笠原氏の城の特徴が見られる。

本郷地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ 本郷の峠と道

関連文化財群を構成する文化財

○ 核となる文化財：浅間峠・三才山峠越えの古い参勤交代の道(未指定)、稲倉峠

○ 構成要素となる文化財：

鎌倉街道、追分浅、間道、浅間峠、三才山、三才山峠越え、三才山道、浅間橋、三才山道沿いの大日如来、保福寺道、武石峠の茶屋跡、稲倉峠、稲倉峠茶屋跡

関連文化財群の特徴・魅力

『信府統記』の道程記が最初に掲げるのが、江戸道と呼ばれる保福寺峠越えの参勤交代ルートである。岡田宿を出て右に進路を取り、洞、稲倉を経て稲倉峠を越え、七嵐から保福寺宿へ至り、保福寺峠を越えて浦野に至る。

寛永19年(1642)までは、追分から浅間村を経て浅間峠を越え、三才山村から三才山峠を越えて丸子高梨に出る道筋が参勤交代に利用されていたといい、これが古東山道として古代から利用された道筋という。参勤交代が保福寺ルートに移った後も、物資の流通に利用されたという。このルートは昭和40年に国道254号として認定され、同51年に三才山トンネルが開通してから再び流通の動脈を担っている。県下初の鉄筋コンクリートによる永久橋も、このルートに架橋された浅間橋である。

山家組から藤井谷、追倉谷、桐原、北入村を経て武石峠を越える道があったが、荷物の通行は禁じられていたため利用は専ら山家組の人に限られ、浅間村の人が峠の茶屋を営んでいたという。

本郷地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

松本城主と本郷地区

関連文化財群を構成する文化財

○ 核となる文化財：御殿山小笠原家廟所、水野家廟所(以上市史跡)、玄向寺(境内市名勝)

○ 構成要素となる文化財：
御殿山天満宮(市重文)、女鳥羽山観音堂と女鳥羽滝跡、玄向寺仁王門、於大の方の像、
御射神社秋宮、浅間御殿(茶屋)跡、大隆寺跡、真観寺跡、念仏寺跡、湯薬師、塔ノ入水神社、
石川三長の宛行状、石川三長のお手植えの松、薬師堂、大音寺三重の塔跡

関連文化財群の特徴・魅力

浅間温泉を中心とする浅間郷は、国府に比定されるなど古くから栄えた地域である。慶長年間(1596~1615)には、藩主の石川氏により「浅間御殿」が置かれ城主の保養所とし、後に家臣や庶民にも解放された。石川数正の三男康次の子である石川昌光が御殿湯の初代湯守となっている。また、御殿湯跡は日帰り入浴施設の「枇杷の湯」となっている。代わって入封した小笠原氏は浅間に大隆寺を建てたが、古河への転封に従って廃され、跡地に水野忠直が埋橋から遷したという廟所が残る。

大村の玄向寺は永禄4年(1561)の開基を伝える古寺で、はじめは婦命山念仏寺と号した。開山和尚の名を取り清光寺と改め、寛文9年(1669)には水野忠直が先代忠職の遺志を継ぎ廟所守の僧を置いて上昌山玄向寺と称したことが『信府統記』にみえ、その時建てた寛文九年銘のある鳥居が残っている。また、横田にも念仏寺という寺があり、寛永11年(1634)に戸田康長の母が開基したと伝えている。『信府統記』は開山を単称(但唱)と伝え、等身大の阿弥陀如来と千体仏は但唱作と伝えられる。これらの寺院は、城下の念来寺とともに、戸田氏、水野氏と歴代城主の信仰を集め、玄向寺は廃仏毀釈を免れ、水野家の廟所とともに多くの文化財を伝えている。

本郷地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

戦争遺跡

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：慰霊碑

○ 構成要素となる文化財：
全国殉国学徒英霊慰霊塔、日露戦役記念碑(三才山)、大東亜戦争慰霊碑(稲倉)、
戦没者之碑(原)、英魂碑(浅間温泉)
特攻隊員と疎開児童物語、松本50連隊雪山訓練遭難記

関連文化財群の特徴・魅力

美鈴湖畔より東裏山を登り約三百メートル上った小丘の上に、第二次世界大戦太平洋戦争に学業半ばにして学徒出陣し、若い命を異国に散らした殉国学徒の霊を慰める慰霊の塔が四柱の踊場、五つのテラスの最上段に祭られている。展望台から北アルプス連峰、松本平安曇野が一望に収められる景観の地に安らかに眠れこの塔が作られたのである。昭和42年1月21日美ヶ原観光株式会社の手によって東京大学名誉教授藤島亥治郎氏の監修により芝浦工業大学石川洋美建築計画研究室設計監理、早稲田大学教授工学博士松井源吉氏の設計により岡谷組が施行したものである。高さ16メートル展望台高さ14メートル敷地面積92㎡、休憩室・カバードテラス・売店・監理室・機械室・便所等を設けている。又稲倉地区の大東亜戦争慰霊碑は地域として英霊を忘れないよう思いがこめられている。原の戦没者の碑は進駐軍に配慮して面に戒名、裏に戦没年月日、場所、年齢、氏名のみを刻む。個人で墓を建てた戦没者は除いてある。各地にも個人名の墓は多く存在している。浅間温泉には特攻隊の隊員、疎開児童1200人がいたことも忘れられない。平和な「アジュール」としての一面を浅間温泉は持っていた。

本郷地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

文化とスポーツ

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：

○ 構成要素となる文化財：

美鈴湖、国際スケートセンター跡と美鈴湖自転車競技場、美鈴湖森の国、スキー場跡、野球場、庭球場、県営陸上競技場跡と総合体育館、水汲のイチョウ並木、かりがねサッカー場、本郷小学校美術室、石井伯亭ほかの文学碑、浅間焼の窯址、ツールド美ヶ原、スキー場跡（浅間温泉スキー場、渋池スキー場、茶臼山スキー場）、浅間温泉登山マラソン

関連文化財群の特徴・魅力

江戸時代には、庶民には湯治に限って利用されていた浅間温泉だが、明治になると観光など広く庶民に利用されるようになる。こうしたなか、伊藤左千夫が浅間温泉を訪れ、正岡子規の形を引きアララギ派を立ち上げ、俳諧でも子規門下の上原三川や矢ヶ崎奇峰も浅間を舞台に活躍し、神社への奉額も多い。大正以降も、竹久夢二、与謝野晶子、若山牧水、田山花袋ら多くの文人に愛され、多くの文学碑がある。美術界でも窪田松門らが早くから利用し、戦時中には石井伯亭ら洋画家の疎開が見られ、戦後も多くの画家を育てている。昭和26年に本郷村に在住した作家の作品が、本郷小学校に寄贈されている。

浅間温泉はスポーツ界でも長野県をリードする場所となった。大正15年には浅間温泉に県営野球場が、水汲に県営陸上競技場がオープンした。現在は、野球場は松本市野球場となり南側に庭球場を設置し、空港周辺に移った陸上競技場跡は総合体育館として、今も県下スポーツの中心を担っている。かつて美鈴湖のほとりには、“記録製造リンク”と呼ばれた屋外リンク、浅間温泉国際スケートセンターがあった。今は自転車競技場となっており、浅間温泉から美ヶ原まで1200mを登るツールド美ヶ原も開催されている。このコース途中には、かつて浅間温泉スキー場があった。旧自転車競技場はかりがねサッカー場となっている。

本郷地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

記念物（景観）

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：山河、湖沼、植物

○ 構成要素となる文化財：

女鳥羽川、女鳥羽川溪谷、烏帽子岩、本郷山、大正山、美鈴湖、番場池、栗和田池、女鳥羽池、雁金池（サッカー場）、雨堤池、横田池（グラウンド）、不澄池、三ツ子沢池、思い出の丘、戸谷峯、六人坊、峠、日本アルプス連峰を見る所、浅間峠、御殿山頂上、大音寺山頂上、各地の神社境内、武石峯のつつじ、草木

関連文化財群の特徴・魅力

本郷地区は長野県のほぼ中央に位置し、東に筑摩山脈の稜線をもって、丸子町、和田村と接し、北は筑摩山脈が東西にのびる戸谷の屋根を境とし四賀地区に接している。南は袴腰山から西にのびる屋根で里山辺地区と境する。地形的には山地の部分と平地の部分に分けることができる。景観の良いところは山地に多くある。この本郷地区の景観上すぐれたところを守り育てるために、また風景からの町づくりを考えるために、必要な場所である。

本郷地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

本郷の植物

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：植物

○ 構成要素となる文化財：

ダテスミレ、キバノアツモリソウ、ヒメスミレサイシン、ミサヤマスミレ、シヤジクソウ、チシマサクラ、
 オクチョウジサクラ、テンニンソウ、コミノシダレイチヨウ(びわの湯)、ウツクシシャジン、昆虫、
 武石峠のトワダカワゲラ

関連文化財群の特徴・魅力

地史学上より見たる本郷の植物の内、新種及び貴重なものを列記したものである。

本郷地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

温泉文化と養蚕

関連文化財群を構成する文化財

○ 核となる文化財：神宮寺の薬師如来坐像(市重文)

○ 構成要素となる文化財：

湯薬師、下浅間の薬師堂、庚申堂、西宮えびす神社、武石峠風穴跡、三才山風穴跡、
 浅間の古囷(本-浅-143~155)

関連文化財群の特徴・魅力

『日本書紀』の天武天皇14年(685)の行宮造営地として「東間湯」が出てくる。神宮寺の平安時代後期の作とみられる薬師如来坐像も浅間温泉と関係がある。続いて、『宇治拾遺物語』に「信濃国筑摩の湯に観音沐浴の事」という話もあり、古くから知られた銘湯である。「東間湯」が浅間温泉か美ヶ原温泉かは議論があるが、このあたりの総称と見てよからう。中世には地頭の北条氏が居館し、江戸時代にも御殿(茶屋)が置かれ歴代城主に保護されてきた。水野忠職は万治2年(1659)に浅間御殿の改修を行い、その際に家臣や庶民の入湯も公認となった。このとき、源泉に湯薬師を祀り、寛保2年(1742)の洪水後に下浅間に村が広がるとまたお薬師様を祀った。

江戸時代後期には様々な産業が興った。浅間焼や養蚕はその代表である。幕末の安政5年(1858)、浅間温泉に筑波山の蚕影山神社から蚕玉様が勧請された。養蚕が盛んになると、浅間温泉では蚕種の製造が盛んになり、武石の風穴で秋蚕の製造も行われ、冬は湯屋稼ぎで発展していった。上野庚申や西宮えびすが勧請され、恵比寿講や初庚申など冬場の講社の集客を促した。大正13年(1924)には、チンチン電車が走り、戦後には渋池までの林道を美ヶ原まで延ばし、バスを運行するまでに至った。

本郷地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ 本郷地区の碑文

関連文化財群を構成する文化財

◎ **核となる文化財**：歌碑、句碑、頌徳碑、筆塚等

○ **構成要素となる文化財**：

田山花袋歌碑、石川拈花句碑、折口信夫歌碑、木村素衛歌碑、伊藤左千夫歌碑、石井柏亭歌碑、萩原井泉水歌碑、吉井勇歌碑、上原三川句碑、与謝野晶子歌碑、高橋玄一郎詩碑、芭蕉句碑、桃山園内の句碑、金刺盛久歌碑、道標、浅間温泉すずらん通りの歌碑句碑、殉国学徒慰霊塔、林道美ヶ原線舗装、三浦忠夫頌徳碑、酒井喜惣次頌徳碑、高井三省筆塚、

稲倉：増沢久次郎筆塚、増沢助右エ門筆塚、

洞：開道記念碑、北洞竣工記念碑、北洞戦没者碑、

原：赤沢光吉頌徳碑

水汲：延命地蔵碑、嘯月橋碑、宮沢雅楽筆塚、鷲止山の碑、竹村正右工門筆塚、女鳥羽山公園碑、道祖神碑

大村：横田池跡碑、光明真言塔碑

惣社：原要左衛門筆塚墓原喜与衛門筆塚墓内藤五郎右工門墓小平九郎太筆塚墓、小平新右工門筆塚墓

横田：碑文なき記念碑、今上陛下即位記念林、国家殉職者霊碑

大正山：皇太子・妃行啓碑、美鈴湖開道記念碑

南洞：開道記念碑

上浅間：役場改築碑

関連文化財群の特徴・魅力

地元の人が、この地を訪れた人を忘れないため、また感謝する絆としての文学碑。
また、地域の発展に功績があった人を思う人の記念碑。教えを受けた師に感謝する記念碑。道路を開いた人々に感謝しまた後々まで残す遺産としての記念碑。

本郷地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ 女鳥羽山信仰の碑石と女鳥羽の滝

関連文化財群を構成する文化財

◎ **核となる文化財**：女鳥羽山の碑石

○ **構成要素となる文化財**：

玄向寺裏所在の数々の女鳥羽山信仰の碑石、女鳥羽の滝、荒滝不動明王

関連文化財群の特徴・魅力

享保9年(1724)の信府統記に「此山二冷水ノ滝アリ、水野忠職公、此地ヲ見立テ女鳥羽ト名ケラレ・・・」とある。女鳥羽川命名の発祥地である。もと付記一帯は大村の自福院の所有であった。
滝の下は御嶽信仰の霊地であり、木曾地域と密接な関わりをもつ御嶽教は、霊峰御嶽山を総本山とする山岳信仰と知られており、各地に講社と呼ばれる教会が存在する。この霊地は特定された地域の人のものでなかった。江戸時代に御嶽山を開山した覚明行者、普覚行者は他県の人であり山岳信仰のひろがりもあり全国展開されたものでしょう。またシャーマンの役割を持つ「中座」という職能者が存在するが、その人達により霊地が出来たかはわからない。碑石は明治・大正・昭和と比較的に新しいものであるが、女鳥羽の滝付近にあるため霊場として大きいものであり整備すれば価値ある景観を呈するものである。また女鳥羽の滝の整備を至急することが責務と考えるものです。

御嶽行者が明治19年より43年に不動明王を建立し(荒滝不動明王)女鳥羽の滝に打たれて修業した。

本郷地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

山の恵みと信仰

関連文化財群を構成する文化財

- 核となる文化財：御射神社の押銚
- 構成要素となる文化財：三才山、烏帽子岩、御射神社（春宮・秋宮）、神宮寺の不動明王と毘沙門天、女鳥羽山、播隆上人像と名号塔、

関連文化財群の特徴・魅力

神宮寺には平安時代後期の作とみられる薬師如来座像が伝わる。神宮寺は、浅間社の別当寺として荘園領主が創建した真言宗の祈祷寺院だったと考えられるが、鎌倉時代には地頭の北条氏が諏訪の神を勧請し、浅間社を御射神社として三才山を崇拜対象とする形となった。その後衰退した神宮寺は、永禄元年（1558）に臨済宗に変わったという。主尊の観音像を欠くが、江戸時代に脇侍として作られた不動明王と毘沙門天が残る。烏帽子岩は浅間社の奥宮といわれ、女鳥羽川の源流で水神として信仰された。浅間から三才山へ神輿で御送りする祭りが押銚の神事である。押しあい、へしあいて行く処から、「押銚（祠）」という。この神の通る道を「祭り道」という。

一方、大村にある玄向寺の女鳥羽山には、御嶽信仰に関する石造物が160基余りある。ほとんどが近代の造立であるが、女鳥羽山には古くから修験者が庵を構えていたことが知られており、江戸時代後期には槍ヶ岳を開いた播隆上人も修行の場としていた。

松原地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

住宅地造成とコミュニティづくりの歴史

関連文化財群を構成する文化財

- ◎ 核となる文化財：松原モール
- 構成要素となる文化財：旧バス通り、松原モール、からくり時計台、宅地造成の碑、馬頭観音、いづら祭、山之神の碑

関連文化財群の特徴・魅力

住宅地が造成される前は、地区名のとおり松林が広がっていました。地区の造成前に関するものとしては、旧バス通り、馬頭観音、山之神の碑があります。山之神の碑は、もともと現在の松原中央公園東南部にありましたが、区画整理に伴い、寿白川の諏訪神社境内に移転されました。山之神は春は里に降って田畑を守り、秋は山に帰り山林を守る神として祀られました。

造成後の地区の象徴として挙げられるのが、「松原モール」です。「松原モール」は、新しい街が目指した人と人のつながりを促す仕掛けの1つで、商店などが並ぶ歩行者空間です。松原地区のシンボル「からくり時計台」が立ち、住民の憩いと交流の場として愛されています。

何より、新しい街である松原の「拠り所」となってきたのは地区で行われる様々な行事です。最大のイベントは、7月末に開催される「いづら祭」です。「松原の街をつくっていく」との思いから、出展も催しも全て地区住民で運営しています。地区住民のきずなの源です。

四賀地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ 磐座・山城と寺院(堂)

関連文化財群を構成する文化財

◎ **核となる文化財**：県宝「洞光寺真言八祖画像」 殿村遺跡 国登録有形文化財「無量寺」
市重要文化財仏像

○ **構成要素となる文化財**：
信濃二十番札所(岩井堂観音) 修験道関係磐座 山城と館跡(城館跡関連地名を含む)
伊那県に属し廃仏稀釈に会わない寺院
会田三十三番札所(会田組坂南27ヶ村)の堂等と御詠歌 寺子屋と学校跡
関連有形・無形文化財と石造文化財(百体観音・筆塚等)

関連文化財群の特徴・魅力

自然史での磐座は、古代から信仰の対象で聖地であり、自然神から水に関連し農耕神として信仰される。聖地は、南北朝以降に山城が築かれ、その麓には館が築かれた。地区内に18ヶ所の城館跡があり、「奴」や「ねずみ屋敷(不寝番屋敷)」等城館跡関係の地名が多く残る。中でも東日本最古の石垣が出土した殿村遺跡と磐座が有る信仰の山「虚空蔵山城」との関係は、現在発掘調査中である。城館跡関連の特性では、植生として「矢竹」の群生がある。古代より交通の要衝である当地区には、古代や中世に開基された寺院が時の権力者により宗派を変えて受継がれ残っている。また当地区は、明治初頭に伊那県に属していたため松本県の廃仏稀釈から免れた。江戸時代には、寺子屋が多く多数の筆塚が残るのも地区の特徴である。

四賀地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ 街道と産業遺構

関連文化財群を構成する文化財

◎ **核となる文化財**：市重要文化財「本町の善光寺常夜燈」・同「原山の善光寺常夜燈」・
同「芭蕉句碑」・同「石造馬頭観音」

○ **構成要素となる文化財**：
東山道本線と支線 江戸街道と善光寺街道 峠と関連文化財 街道脇道の文化財
道路元標 県道の隧道(廃道分)
養蚕関連遺構(稚蚕飼育所・蚕室・繭集荷所)
関連有形文化財(蚕影社) 無形文化財(1月ものづくり～繭玉を作る風習)
関連石造文化財(万葉歌碑・ウエストーン碑・繭玉奉持道祖神)

関連文化財群の特徴・魅力

古代には、東山道(保福寺峠越)と錦織駅で分岐した東山道支線(古峠越)が通り、東山道は、中世に軍用道路として利用され、近世には、江戸街道(東山道本線)と善光寺街道(同支線)となり、交通の要衝として栄えた。明治21年信越線上田駅が開業したので、中信地区の人々は保福寺峠を越えて上京した。また、明治35年の篠ノ井線全通迄は往来が多く街道は栄えた。

また、明治24年松本入りしたWウエストンの峠越えは有名である。

江戸時代に生坂菘(煙草)として出荷された産業である菘(煙草)栽培は、明治期から養蚕に変わり昭和30年代まで主産業であった。年4回現金収入が有る産業の蚕は、「お蚕様」と呼ばれ崇められ信仰として「蚕影社」が祀られる。明治期に造立された道祖神に繭玉を奉持したものが有り、伝統ある「会田のあめ市」の市神様は「蚕影社」である。

産業の遺構は、街道の竹まい養蚕では、蚕室(養蚕専用の建物)・稚蚕共同飼育所・繭集荷所(繭取引所)が残っている。

四賀地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ 戦争と平和への祈り

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：四賀村合併前旧村4小学校日誌 音の文化財「ポー」
松根油製造所と関連用具

○ 構成要素となる文化財：

移築奉安殿 大東亜聖戦記念碑 松脂採集と松根油製造所
満州芙蓉郷開拓団記念碑・慰霊碑 招魂碑 忠魂碑
音の文化財(ポー<サイレン>時計として・戦時は空襲警報に・戦後は時計として
午前11時30分サイレン ポーが鳴った～野良から上がり屋の合図に)
四賀村発足40周年記念「平和への祈り像」

関連文化財群の特徴・魅力

昭和30年4村(会田村・中川村・錦部村・五常村)が合併して発足した現在の四賀地区は、旧村毎に明治期からの慰霊碑・招魂碑・忠魂碑造立され残っている。戦前に建立された祭の幟柱には、「大東亜聖戦記念」と刻まれたものもある。

旧村の4小学校の学校日誌には、戦時下の児童・生徒の勤労奉仕や出征兵士を送った事・空襲警報の事・戦没者の事・校長が戦没者の遺族宅を弔問した事・戦没者の遺骨を迎えた事・村葬の事など細かく記されている。

旧村の五常村は、耕地面積が少ないことから、戦前には分村し、助役が団長となって満州の芙蓉郷へ開拓に入ったが、敗戦とロシアの参戦により多くの犠牲者を出している。

記録を含めた戦争の遺産は、軍人・軍属・民間人の尊い御霊を偲ぶと共に恒久平和を願う文化財である。

四賀地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ 地層・化石と鉱山(自然史文化財)

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：県天然記念物「反町のマッコウクジラ化石」・同「穴沢のクジラ化石」・
同「シナノド化石」 福寿草群生地

○ 構成要素となる文化財：

地層見学に最適の地区 中信地区唯一の「逆断層」
内村層(グリーンタフ) 別所層 青木層 小川層の露頭と産出化石
地層関連有形民俗文化財(磐座)
金山町の発生(天領で鉛採掘)～鉱山跡
西条石炭採掘発祥の地(炭鉱跡)
地元石材の石造文化財(磨崖仏・善光寺常夜燈等) 福寿草群生地

関連文化財群の特徴・魅力

山国は海だった。各時代の地層の露頭が見学できる四賀地区は、化石の宝庫である。県天然記念物指定の大型海生哺乳類化石が3点あり中でも昭和63年発掘の世界最古のマッコウクジラ全身骨格化石(指定名称「反町のマッコウクジラ化石」)は四賀化石館のメイン展示となっている。

当地区は、小学校6年生理科の学習指導要領に基づく地層見学の場所となっており、毎年2,500人前後の小学生が化石館見学に併せた学習の場所となっている。

地層の中から発見された鉛は、住所表示の地名「金山町」の起こりとなる。明治初年岩井堂地籍で発見された石炭は、「西条石炭」

採掘の元となり、現筑北村西条が炭鉱の町として栄えた元である。近世迄石造文化財の石材は、地元のヒン岩・安山岩・硬砂岩が使われた。市天然記念物指定の「福寿草群生地」もあり、他地区に例が無い素晴らしい自然史の文化財である。

四賀地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ 保福寺峠

関連文化財群を構成する文化財

◎ **核となる文化財**：保福寺と峠

○ **構成要素となる文化財**：
一遍水、ウエストーン碑、万葉歌碑、東山道

関連文化財群の特徴・魅力

四賀地区には、古代文化の大動脈である東山道の本道（岡田から稲倉峠を越え、東進して保福寺峠を越えるルート）が通っていました。

鎌倉時代には、伊勢神宮内宮の領地「御厨」となり、戦国時代は、交通の要衝であることから多くの山城が築かれ、上杉氏と武田氏の接点でありました。江戸時代に東山道の本線は保福寺を通り江戸街道として参勤交代の道となり、支道は善光寺街道として踏襲され、保福寺宿、刈谷原宿、会田宿の3つの宿場が置かれ、鉛鉱山開発により殿野入、赤怒田、反町を幕府領（天領）とし金山町が形成されました。享保10年（1725）からは、地区全域が幕府領となり、明治時代を迎えました。幕府領であったため、廃藩置県により伊那県となり、全国でも屈指の激しさで行われた松本藩の廃仏毀釈運動から逃れることができ、今も中世からの寺院が残っています。

加えて、四賀地区は交通の要衝として栄え、石造物等の文化財が多く残っている地域です。

また、明治24年（1891）に松本入りしたイギリス人宣教師であり、日本アルプスの山などをヨーロッパに紹介した登山家ウォルター・ウエストンの保福寺峠越えは有名です。

四賀地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ 鎮守・講と農村共同体

関連文化財群を構成する文化財

◎ **核となる文化財**：県天然記念物「横川の大イチョウ」、同「矢久のカヤの木」、会田御厨神明宮

○ **構成要素となる文化財**：
各町会所有の神社（鳥居・奉納殿・拝殿・本殿）御神木（杜叢）・町会伝承の祭囃子・神楽・祭典の山車・祭用具・葬送儀礼道具・町会所有文書・地方文書・お手馬（おてんま）と講（庚申・念仏・観音・戸隠・三峰・秋葉）
関連有形・無形文化財 関連石造文化財 農業用水（せぎ）～水利

関連文化財群の特徴・魅力

四賀地区は、鎌倉時代に伊勢神宮内宮の御厨（神領）となり、小県から海野氏がこの地に地頭として入り会田氏を称した。

戦国時代には、武田氏と上杉氏の接点となり天正10年会田氏滅亡後は、小笠原氏が治める。

慶長19年に問屋設定され、街道が整備され地区内には、三つの宿場が置かれた。街道は、文化の大動脈として都の文化を伝えたので、その名残がある。

新潟県新発田市に伝わる神楽（獅子舞）は、出稼ぎにきた大工が当地で習い持ち帰ったものと言われる。

当地区は、江戸時代に会田組坂南27ヶ村（善光寺街道立峠を境に坂南と呼ぶ）と呼ばれ27の村があり、村毎の鎮守（社）や堂が残り、水利や共有林の管理（お手馬・おてんま）や信仰など農村共同体の姿が残り、日本の原風景を留めている。

安曇地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

北アルプスを越える街道

関連文化財群を構成する文化財

- 核となる文化財：野麦街道(長野県史跡)
- 構成要素となる文化財：
 - 【大野田】新洲橋の碑(11)
 - 【島々】雑炊橋(18)
 - 【橋場】雑炊橋(2)、松本藩口留番所跡(1)、薙ぎ道(5)、六地藏と馬頭観音(7)
 - 【稲核】野麦街道・鎌倉街道
 - 【大野川】祠峠の神社(9)、クロンフラの大山神社、マセロの馬頭観音(17)
 - 【沢渡】池尻の砦跡(2)、百間長屋(6)
 - 【上高地】飛騨往来山越え新道(小倉新道・信飛新道)(9)

関連文化財群の特徴・魅力

古くは松本と高山を結ぶ街道は、安房峠を越える飛騨道が多く利用された。鎌倉街道とも呼ばれるこの街道は平安時代に開削されたともいわれているが、険しく難所も多いことから寛政2年に廃止となり、野麦道に一本化される。廃止から30年後の文政3年には再び険しい短絡ルートとして小倉から上高地を経て中尾峠を越える新道の開削が始まり、新道が拓くと島々谷から上高地へ抜ける杣道も利用されたが、長くは続かなかった。なお、信飛をつなぐ険しい道のりの物資運搬には、牛が活躍したという。

松本城下からの飛騨道は梓川右岸を通った。野麦道は冬の険しい右岸を避け、左岸を通り島々で稲核の枝郷である橋場へと渡った。橋場には梓川河岸でも川幅が狭く硬い岩盤の場所があり、そこに古来から刳橋形式である雑炊橋を架橋していた。この橋は梓川に架かる橋の中で唯一天候に左右されることなくいつでも渡れる橋であったため、交通の要衝となり、松本藩の番所が置かれるようになった。

また、こうした街道には神社や石仏などが点在している。馬頭観音は交通の折に急死した馬を供養するためなどに建てられているなど、街道を多くの人々が行き交い、供養や安全祈願を行った様子が伺える。

安曇地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

杣と山岳信仰

関連文化財群を構成する文化財

- 核となる文化財：【大野川】梓水神社と境内社(1)
- 構成要素となる文化財：
 - 【大野田】御嶽講の碑(8)、山の神(9)、大野田土場(15)
 - 【島々】炭焼窯(24)、島々谷ロッコ(30)、島々鍛冶と島々鋸(33)、木馬道
 - 【大野川】釜場神社(4)、御池内の乗鞍権現社(8)、梓水神社境内の石灯笼群(13)、朝日神社、ヒルクボの大山神社、クライ沢の山の神(5)、馬の背の山の神(6)、槿の木の山の神(7)
 - 【鈴蘭】大槌銀山(1)、摩利支天像(7)、荒澤不動明王(8)、宝徳霊神石仏群(9)、冷泉の滝(10)、摩利支天石仏群(11)、構野利神社、三社神社、一ノ瀬の大山神社、乗鞍岳
 - 【白骨温泉】白骨の山の神(3)
 - 【沢渡】三社神社(4)
 - 【上高地】播隆穴(12)、穂高連峰、明神池

関連文化財群の特徴・魅力

山は水や魚、木をはじめとした植物、そこに住む動物、鉱物などを蓄えており古来から人は山の恩恵を受けて生活してきた。特に、安曇地区は杣を中心とした林業を主な産業としており、山から切り出した木やそれを用いて作った炭、鉱物から作られた鋸など生活の糧を山から得てきた歴史があり、山とは切っても切れない関係にあった。山の恵みの下に生活してきた人々は、そうした恵みを与えてくれる山には神が住んでいるに違いないと考え、山を仰ぎ見て感謝し、奉った。御神体を山とした社や祠は安曇地区内に数多く存在する。その中でも代表的なものが梓水神社とその遥拝場であり、乗鞍岳を仰ぐものである。乗鞍岳は梓川の源流の一つとして古くは水神の霊山として、中世には戦の神、修験者や山伏の行場として、近世では大槌銀山の鎮守として信仰を集めたと言われている。

安曇地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ 稲核の風穴と生業

関連文化財群を構成する文化財

○ 核となる文化財：[稲核]前田家風穴(1)

○ 構成要素となる文化財：

- 【島々】風穴(4)、島々製糸工場跡及び仲買等関連資料、湧水(中や前)(16)、秀綱様(3)、三木秀綱夫人遭難碑(23)
- 【稲核】前田家風穴以外の風穴群(諏訪社周辺他)(2)、稲核菜(栽培地、栽培技術、加工技術含む)、前田家住宅、前田喜三郎関連資料、稲核郵便局跡と関連資料、水場(水道)(3)
- 【上高地】岳沢の風穴(10)、フカスの風穴(11)、小梨の風穴(32)

関連文化財群の特徴・魅力

稲核には江戸時代中期から鉢盛山から延びる尾根の麓の隙間から吹き出す冷気を利用した風穴と呼ばれる貯蔵施設がある。なかでも、前田家の風穴の起源は宝永年間といわれ、食料品の貯蔵に利用されていた。その後文久年間に前田喜三郎氏が蚕種の保存に適していることを認め、究理法を発明したことにより全国的な蚕種の保存庫として利用されるようになった。全盛期には出荷を担っていた稲核郵便局の電信取扱数が松本局をしのいだとも言われている。現在は漬物や酒類の保管に使用されており、地元の特産である稲核菜を漬物にして保管している家が多い。冬季には地区内の水場で近所の人が集まり、稲核菜を洗う風景が見られる。また、稲核地区以外にも風穴は存在し、現在も保管庫として利用されているものがある。

安曇地区の民話にも養蚕と縁の深いものがあり、秀綱様の伝説においては落人となった秀綱様を桑籠に身を隠して逃がした逸話があり、その家は後に蚕が毎年良くでき繁栄したことから秀綱様は養蚕の神様として親しまれるようになった。現在も地区内に点在する神社や祠に祀られているものがある。また、秀綱様の奥方が島々地区と上高地を結ぶ徳本峠で亡くなった逸話も残っており、安曇地区における代表的な民話の一つとして現在に語り継がれている。

安曇地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ 近代の開発

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：[上高地]上高地(国特別名勝特別天然記念物)

○ 構成要素となる文化財：

- 【島々】徳本峠登山道(10)、島々谷川の堤防の桜(11)、諏訪発電所跡と水路(12)、製紙工場跡(13)、岩魚留め小屋(26)、昭和20年の水害資料(28)、竜島吊り橋(29)
- 【橋場】安曇村に最初にできた橋場水道(4)
- 【大野川】旧大野川校跡
- 【鈴蘭】コロナ観測所(5)、東大ヒュッテ(6)、南極観測隊慰霊碑(12)
- 【沢渡】霞沢発電所(1)
- 【上高地】明治時代の林野庁との契約書(7)、湯元から湯壺に引き入れる木管(8)、護岸工事のしていない自然な川岸(13)、穂影橋(15)、前穂高山頂等の三角点(14)、野塚(16)、ウエスタンレリーフ(17)、嘉門次小屋・嘉門次の碑(19)、常さんの碑(20)、山岳遭難者の墓地(29)

関連文化財群の特徴・魅力

時代の変遷に伴い、安曇地区の産業も変化していった。軸をはじめとした林業から風穴を利用した養蚕へと変わり、近代では豊富な水量を誇る梓川とその支流、上高地、乗鞍などの風光明媚な自然景観が目撃された。梓川水系を活かす産業としては、ダムと水力発電所の運用や水を利用した製紙業などが行われた。殊、水力発電に関しては奈川渡ダムを代表とした梓川水系の3ダムや竜島発電所があり、島々にも発電所があった。しかし、島々の発電所は昭和20年に起きた水害により流失し、今は水路が跡地として当時の名残となっている他、堤防が島々の水害の歴史を物語っている。

自然の分野において外せないものとして、上高地、乗鞍が上げられるが、現代の観光地に至るまでには多くのものがかわっている。先程の発電所の例を取れば、沢渡の霞沢発電所が上げられる。霞沢発電所は大正池の水を利用した水路式水力発電所であるが、建設当時に資材運搬用のトンネルとして開設されたものが、現在上高地に至る主要道の釜トンネルとなっている。また、日本アルプスを全世界に広めたウォルター・ウエスタンとその案内役を務めた上條嘉門次にかかわる史跡も上高地に点在し、上高地内に存在する旅館にもその場所で旅館を開く際に交わった明治時代の契約書などが残されている。乗鞍においても60年の永きにわたり研究が行われたコロナ観測所や東大生が夏季の宿として使うヒュッテの存在、南極観測隊の訓練地としての利用など、観光だけでなく学術的分野も含めた利用・開発が行われてきた。こうした開拓、開発が現代の稀少な自然や景観を伝えることに繋がっている。

安曇地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ 自然の財産

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：〔白骨温泉〕噴湯丘と球状石灰石（国特別天然記念物）

○ 構成要素となる文化財：

- 〔大野田〕お墓の赤松(12)、お墓のシダレザクラ(13)、伊勢二ノ宮神社境内の杉・ケヤキ(3)、お堂のイチョウ(14)
- 〔島々〕三本松(27)
- 〔大野川〕中平集落下の榎の木の巨木(21)、大野川の滝(潜流瀑)(20)、乗鞍高原温泉
- 〔鈴蘭〕大カエデ、乗鞍高原温泉
- 〔白骨温泉〕隧道し・冠水深(2)、白骨温泉
- 〔沢渡〕池尻湿原(3)
- 〔上高地〕国土交通省手前の桂の木(1)、唐松(2)、化粧柳(3)、唐松(母樹林)(4)、唐松(黄門様の木)(5)、ニシの木(6)、滝谷花崗閃緑岩(18)、バスターミナル周辺の唐松林(22)、小梨の木(23)、化粧柳の大木(27)、シウリザクラ(30)、カツラの木(31)、カラマツの大木(33)、徳沢の二輪草畑(21)、上高地温泉、中ノ湯、ト伝の湯、坂巻温泉

関連文化財群の特徴・魅力

自然豊かな安曇地区には特筆すべきものが多く残されている。各地区には鎮守の森にあるものをはじめ、非常に多くの巨木が存在し、天然記念物に指定されているナンジャモンジャの木など、稀少なものも多く含まれる。また、乗鞍にある大カエデなど非常に美しい景観を作り出しているものも存在する。

こうした財産は樹木だけではない。乗鞍においては乗鞍三滝と称される名勝の滝が存在するほか、白糸の滝と同じ潜流瀑と呼ばれる種類の滝など、水が作り上げた自然風景も多い。特に、白骨温泉に存在する隧道しと呼ばれる天然の洞門は、自然の力強さを感じさせるものがある。また水にまつわる財産として、地区内に数多く存在する温泉もあげられる。白骨温泉をはじめとして、湯治場として古くから利用されている場所や名湯と呼ばれているものもある。泉質も種類が豊富であり、同じ地区の中でも多種多様な温泉に触れられるのは魅力の一つといえる。

安曇地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ ムラの信仰と絆

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：〔稲核〕七夕祭り(5)

○ 構成要素となる文化財：

- 〔大野田〕伊勢二ノ宮神社(1)・境内内石灯笼(2)、柳神社(4)、お堂前の石仏群(5)、コンピラの石仏群(6)、道祖神(双体像)(6)、鈴木坊の供養塔(10)
- 〔島々〕石碑(故軍人碑)(1)、島々神社(2)、三光石(5)、石碑(筆塚)(6)、石仏と石碑群(7)、釘念仏の石碑(8)、徳本の名号塔(9)、道祖神(祝言像)(14)、道祖神(文字碑)(17)、獅子舞(19)、満安の舞(20)、屋台の手拍子・太鼓(21)、念仏会(22)、竜神様(31)、お不動様(32)
- 〔橋場〕雑炊橋と今に伝わる伝説(2)、黒岩不動明王(3)、お宮の石仏群(6)
- 〔稲核〕代録殿(4)、徳心神社・徳住霊神(6)、石仏(7)、七夕祭り、村芝居、稲核ばやし、祭り屋台、三番巻、でんで場
- 〔大野川〕地組による社殿の集まり(2)、八瀬尾神社(3)、慈照寺の瑠璃光殿の庚申塔(10)、慈照寺の瑠璃光殿の薬師如来(11)、慈照寺の石仏群(12)、梓水神社の鳥居南の道祖神(14)、中平の道祖神(15)、中平の不動明王(16)、御池(22)
- 〔鈴蘭〕一ノ瀬のわらび小屋(4)
- 〔白骨温泉〕三十三観音(1)、薬師堂・薬師如来(4)
- 〔沢渡〕道祖神(5)、塞の神(セイノカミ)(7)
- 〔上高地〕山の神(24)、穂高神社奥宮(25)、お船の龍頭鰯首(26)、温泉神社(28)

関連文化財群の特徴・魅力

村には道祖神が置かれ、講中により庚申塔が建てられることは他と変わらない。しかし、大きな名号塔が村ごとに建ち、三十三所観音が市内のどの地区よりも多いことは特筆される。さらに、各村で獅子舞をはじめとした芸能を伝えていることから、御用袖が安定した収入をもたらしていたことを推測できる。また、庚申講や念仏講により村人が寄り合う機会も設けられており、こうした行事から地域の結束を維持してきた。

地域行事で特色あるものとしては七夕が上げられる。稲核では竹が育たないため、モミジで七夕をする。稲核や島々では河原で子ども達により共同飲食が行われ、ジャガイモを使用した芋煮を作っていた。芋煮の伝統は電源開発のダム建設と引き換えに失われてしまったが、モミジを用いた七夕は今も続いている。

奈川地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ 街道から生まれた歴史文化

関連文化財群を構成する文化財

○ 核となる文化財：野麦街道(県指定史跡)

○ 構成要素となる文化財：

- I 鎌倉街道
- II 尾州岡船 馬頭観音、大日如来
- III 宝来屋、扇屋、松田屋
- IV 石室 比丘尼の墓 嶮道新造塔
- V 方言
- VI 民話、秀綱伝説(秀綱神社)
- VII 御嶽信仰の石造物

関連文化財群の特徴・魅力

中世より、飛騨国と信濃国を結ぶ主要路の野麦街道があり、この街道から多くの歴史文化が生まれた。尾張藩の庇護のもと発達した尾州岡船と呼ばれる牛稼ぎは、村を支える産業としての側面だけでなく、稼業の担い手である牛の安全・成仏を願い多くの石像物が建立された。また、道中で歌い覚えた民謡が奈川追分として生まれ歌い継がれている。

この街道は冬季は大変厳しく、多くの旅人が遭難したり命を落とした。旅人の避難所として作られた石室(復元)や供養塔は奈川の旅人への思いやりが偲ばれる歴史遺産である。宝来屋、扇屋などの旅籠は、飛騨から岡谷の製糸工場への工女の往来を伝える遺産として復元された。奈川は5つの峠に囲まれた閉鎖的な地域であるが、木曾の支配下に置かれた時代が長く木曾小木曾の方言と共通する点が多い。また、峠にまつわる秀綱伝説、峠を越えて来た御嶽講は野麦街道に沿って広がっていった特徴を顕著に有している。

奈川地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ 森林資源等自然環境から生まれた歴史文化

関連文化財群を構成する文化財

○ 核となる文化財：柚が伝えた奈川獅子舞

○ 構成要素となる文化財：

- I 木年貢制度(奈川村史)
- II 炭焼き(窯、道具、儀)
- III 特別記念物(御殿桜、榎の木の群生、枝垂れ栗)
- IV 特別名勝(天狗の滝)
- V 歴史民俗資料館(生活、産業)
- VI 丸山弥七記念碑
- VII 食文化(とうじそば、けもち、保平かぶ)

関連文化財群の特徴・魅力

日本有数の美林を持つ木曾谷に隣接する奈川は、豊富な森林資源を有し、その資源を活用した産業によって人々の生活が営まれていた。林業に従事する人々は「柚」と呼ばれ、他国からの移住者も少なくなかった。このような他国から移住した柚が伝授した奈川獅子舞は人口減少による存続の危機をこどもの舞手を育成するなどしながら現在も引き継がれている。中世から昭和初期の長きにわたり奈川の主要な産業であった林業や炭焼きに利用された道具類が、当時の生活用品とともに奈川歴史民俗資料館に収蔵されている。中世の林業活動では役人の目が行き届かない事もあり密かに盗伐など行われていた。そんな中、村人の盗伐の責任を取って切腹し仲間40名を救った庄屋丸山弥七の行動は、後に記念碑が建立され後世に語り継がれている。また、米がとれない地域であったが故の「木年貢制度」は、豊富な森林資源である木や雑穀で貢納し、米を下扶するという独特な年貢制度であった。そばを主食とする食生活の中で、とうじそばなどの独特の食文化が育まれた。

奈川地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ 信仰から生まれた歴史文化

関連文化財群を構成する文化財

○ 核となる文化財：林照寺(仏像、地獄絵図、庭園、建物、無外和尚碑)

○ 構成要素となる文化財：

- I 諏訪子安神社祇園囃子(市重要無形民俗文化財)
- II 石造物(法華経、巡礼記念碑、庚申、仏教、御嶽信仰等)
- III 信仰行事(念仏講、観音講、庚申講、日待ち、秋葉講等)
- IV 大法院(宝徳霊神)、不動明王

関連文化財群の特徴・魅力

1600年代中期に建立された林照寺は350年余りの歴史を誇り、奈川の信仰の始まりと捉える事が出来る。安置されている聖観音菩薩坐像は江戸時代中期(1780年)に尾張の仏師により造られ、いくつもの峠を越えて来たものである。奈川は奥深い山中の村でありながら、江戸時代中期には遠く西国・坂東・秩父の三十三所に村人を代表し巡礼しているほど信仰が盛んであった。各町会には、三十三観音、地藏菩薩を始め様々な石造物が祀られ町会毎に深い信仰活動があったことが伺える。

祇園囃子が市重要無形民俗文化財に指定されている諏訪子安神社、各町会ごと建立されている秋葉神社、念仏講や観音講・庚申講などの信仰行事はいまだに多くの町会で続けられている。

乗鞍岳を開山したとされる宝徳霊神の末裔家には不動明王や数々の記録、遺品が残されている。

梓川地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ 梓川の恵みと牧の経営(1~4、16)

関連文化財群を構成する文化財

○ 核となる文化財：真光寺阿弥陀如来坐像、大宮熱田神社本殿、若宮八幡宮本殿(いずれも重文)

○ 構成要素となる文化財：

釈迦堂の釈迦如来坐像(市重文)、鞠子社のメグスリノキ、大宮熱田神社のモミ(県天然記念物)、大妻氏館跡、岩岡氏館跡、

関連文化財群の特徴・魅力

梓川地区最古の遺物は、八景山の上の平遺跡で採集された縄文草創期のものとみられる有舌尖頭器である。縄文時代の遺跡は多いが、特に荒海渡遺跡など中期の遺跡が報告されている。また、弥生時代から古墳時代にかけての遺跡は発見されていない。

古代には信濃16牧の官牧の一つとして置かれた大野牧は、梓川地区にも及んでいた。平安時代の土田から国府が移転した頃に、大野牧の梓川左岸地域は古幡牧として、秦氏の支配から西牧氏の支配に変わったのであろう。そのため、西牧郷や上野郷の所屬は、中世を通じ、諏訪上社文書等で安曇郡と筑摩郡の両方の表記が混在している。上野にある西牧山真光寺の木造阿弥陀如来坐像の像内背部には、「奉造立阿弥陀如来一体并に菩薩像二体、信心大檀那滋野兼忠女大施主橋氏(略)建仁三年(1203)大仏僧口海、仏師僧栄海」と墨書されている。滋野氏とは、東信から移った西牧氏にほかならず、国府松本の西方にあった牧を支配したために起こった名前とされる。真光寺は古くは真言宗の寺院で、若澤寺とともに秦氏が創建したものと思われる。重文に指定されている阿弥陀三尊は、西牧氏が開いた西安寺の本尊と伝えられる。産土神も、秦氏の鞠子社から、西牧氏の大宮熱田神社へと変わっている。

住吉庄の開拓には、梓川からの用水の開削が不可欠である。この事業を支配できたのは、左岸を抑えていた西牧氏以外にはない。梓川から取水した堰の開削は横沢堰が最も古く、中心となる庄野堰は11世紀後半とされるので、荘園経営が軌道に乗った頃に真光寺の阿弥陀像作られたのであろう。この住吉庄に中先代の乱で軍功を立てた小笠原氏が地頭として赴任し、西牧氏は中から南北条の於田屋に居館を移し、金松寺山に連なる城山に西牧城を築くなど周囲に城砦をめぐらし対抗した。

梓川地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

街道（6、12）

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：

○ 構成要素となる文化財：

吉蘇道、千国道、馬頭観音、大日如来

関連文化財群の特徴・魅力

梓川地区は、梓川の唯一の架橋だった雑炊橋に近く、古代の吉蘇道と千国道の接続点として交通の要衝だった。八景山、花見を経て丸田で段丘に上がり、三郷、堀金を経て穂高で糸魚川街道と合流する道で、千国大道と呼ばれた。

一方、飛騨への道も梓川を通った。熊倉の渡しから飯田、真々部（豊科）、氷室、岩岡と庄野堰沿いに西進し、上大妻、下立田、丸田から梓川沿いに島々へ向かった。文政6年（1823）に岩岡半次郎が小倉から上高地を経て飛騨、富山に向かう新道を目論み、天保6年（1835）に開通したが、20年という短命で廃道となった。街道に沿った村には馬頭観音が多くみられ、牛稼ぎをした八景山には大日如来が祭られている。

梓川地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

信仰と行事（5、7～11、13、14）

関連文化財群を構成する文化財

○ 核となる文化財：横沢の御柱とスースー、花見の御柱（市重要無形民俗文化財）

○ 構成要素となる文化財：

道祖神、三九郎、庚申塔、庚申講、念仏塔、念仏講、二十三夜塔、お地藏様、三十三所観音、祝殿、屋敷神

関連文化財群の特徴・魅力

梓川は石造物の多い地区である。なかでも道祖神の多さが群を抜いており、正月の御柱行事も続いている。花見と横沢では、正月に道祖神の脇に御柱を立てる。花見では、元旦に、かつては尋常科1年生から高等科2年生の男子が、上・中・下の3か所で立てていたが、現在は小学校PTAと育成会や町会役員で立てている。また、各町会で三九郎がおこなわれるが、梓川では子どもたちによる勤進の風習を残しているところが多い。

上野真光寺の初庚申には、近郷から多くの人がお参りに訪れるが、地区内にも庚申講が組織され庚申塔の数も多い。念仏塔では、徳本の大きな名号塔が目を引き、念仏講中による造塔が多い。そして月待塔が多いのも特徴で、コミュニティの形成が進んだ豊かな地区だったことがうかがえる。八景山の滝見堂には二十六夜塔がある。横沢安養院の参道をはじめ寺院や墓地には六地藏があり、上角の言成地藏、氷室のいぼ取り地藏、滝見堂の子安地藏など独特な信仰がある。

そのほか、戸隠や三峰、御嶽の代参講や、祝殿や屋敷神のような同姓や家の神、山の神に加え、便所神など家のなかにも神様を祭る事例が多い。

梓川地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

梓川の寺子屋と筆塚

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：梓川の寺子屋と筆塚

○ 構成要素となる文化財：

関連文化財群の特徴・魅力

梓川地区の寺子屋は、寛政・文化・文政の頃から増加し始め、天保から文久頃に目覚ましく発展している。寺子屋数でおよそ45、師匠数で57人となっている。

筆塚とは使い古した筆の供養のために筆を地に埋めて築いた塚のことである。この意から、もと寺子屋において学んだ人たち（筆をもって読み書きを習った筆子たち）が師匠の徳を慕い、多くは後年になって建てられた碑のことである。同じ意味で「豪塚」とも書かれている。筆塚は梓川に32基（独立したものの15基、墓碑を兼ねたもの17基）ある。

波田地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

縄文中期の村

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：芦原遺跡・麻神遺跡など点在する遺跡群と発掘された土器など

○ 構成要素となる文化財：

1. 波田地区にて確認されている遺跡は、17か所あり、三溝・下島に4か所中・下波田に10か所、上波田に3か所となっている。上野遺跡(三溝)、葦原遺跡(三溝)、下島遺跡(下島)、下原遺跡(下原)、見付久保・御殿場遺跡(下波田)、麻神遺跡(下波田)、五十畝・権現遺跡(下波田)、平林遺跡(下波田)、唐沢遺跡(中波田)、中下原遺跡(中波田)、鼠海渡遺跡(中波田)、古神遺跡(中波田)、古城遺跡(中波田)、堀之内遺跡(中波田)、寺山遺跡(上波田)、上海渡遺跡(上波田)、鳴音原遺跡(上波田)
2. 東京国立博物館に常設展示の土面
3. 発掘された、多くの土器など

関連文化財群の特徴・魅力

1 波田地区の遺跡は、現在までのところ、旧石器縄文早期（6千年以上前）までの遺物や遺構の発見はなく、縄文前期（5～6千年前）の遺物がわずかに確認されている。縄文中期（4～5千年前）以降縄文後期（3～4千年前）初頭までの遺跡は数多く確認されており、土器や石器などの遺物もおびただしいほど出土している。この時期最も温暖な気象条件下にあったといわれ、定住と移動を繰り返しながら、長い間繁栄をしたと考えられている。自然環境の変化によって、採収する収穫物が代わり、居住期間の長短はあるが、生活した遺物や遺構が大地に残された。人々が去った後、自然の営みの中で土砂に埋もれ、埋蔵された遺跡として現在に至っている。

縄文後期初頭まで生活を続けた人々が、以降の縄文後・晩期に急に衰退し、その影をとどめる程度になってしまい、出土物や遺構の発見が殆どなくなってしまっている。この現象は、県内各地や当波田地区において共通にみられ謎に包まれた一大変事と言われている。

その後時代が経て、弥生時代に入り、小規模な弥生中期（2500年前）の遺跡が出現することになる。

2 大野延太郎によって明治37年『東京人類学会雑誌』第222号の巻頭絵にスケッチされた「土面」（縄文中期）が掲載された。出土地は信濃国東筑摩郡波多村字権現臺となっており、これは波田地区における最も早い、重要な考古学的発見である。筆者がスケッチしたのは、松本にて明治37年7月19日であることは明確であるが、発見から筆者に渡る間の経緯は不明な点がある。下波田麻神地籍から出土したことは確かである。この「土面」、現在は東京国立博物館表敬館に常設展示されている。

波田地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ 古代の開発 大野牧と秦(波多)氏と若澤寺の成立

関連文化財群を構成する文化財

○ 核となる文化財：(1)盛泉寺旧若澤寺の文化財群 (2)田村堂周辺の文化財群
(3)上波田町並みゾーン (4)歴史遊歩道ゾーン

○ 構成要素となる文化財：

- (1)盛泉寺に移管された文化財群
銅造菩薩半跏像(県宝)＝薬師如来像御正体(県宝)＝善光寺三尊菩薩像(市文化財)
・水沢観音堂＝真言祖師座像(市文化財)＝金亀多宝塔(若澤寺厨子)＝彫六地藏碑
・水沢不動明王立像(市文化財)＝33体石造観音(若澤寺旧蔵)
- (2)田村堂周辺の文化財群
・金剛力士像2体(県宝)・仁王門＝波多神社のコナラ(市文化財)＝田村堂(国重文)
・阿弥陀堂＝本尊阿弥陀如来座像(市文化財)＝西光寺絵図(市文化財)＝石造物群(市文化財)
- (3)上波田町並みゾーン
・上波田の町並み群＝横町北溝の石造物群＝西光寺跡櫛木城跡
- (4)歴史遊歩道ゾーン
・上波田＝若澤寺跡＝波多山城跡＝裏参道＝女男堤

関連文化財群の特徴・魅力

平安初期(8世紀)朝廷の御牧大野牧が波田・安曇・山形村の一帯に置かれた。牧長の秦氏(はたうじ)は、牧内102町2反を大野庄に開発して、藤原摂関家へ寄進して庄司となる「仁和寺文書」(872)。牧の現業庁は、初め上海渡の水沢川添い水沢野館にあった。京都太秦(うずまさ)の秦集団は、都から大野牧へ下る際に、一族氏寺の広隆寺本尊の菩薩半跏思惟像(国宝)を縮小模写した金銅仏を念持仏として携帯し信仰したとみられる。
標高1250mの水沢山「元寺場」は、11世紀に創建され、大野牧の祈願寺で、本尊の千手観音は牛馬の輪廻転生を祈願し、白山権現は、大井郷農家が稲作豊穡を祈る水分り(みくまり)信仰の山林修験寺院であった。
清和源氏村上一門の源盛国は、院政期(11世紀)畠判官代となり畠郷上波田青木原に館を建て庄司となる。寺家に戸隠の栗田再興寺を氏寺で創建。鎌倉時代には、幕府の地頭になり、内田牧と植原まで領有した。畠氏は水沢山中18丁目に奥ノ院若澤寺を建てている。
上波田の町並みは、室町時代の寛正3年(1462)信濃守護小笠原氏の四天王の重臣櫛置一俊が源姓波多氏の跡を受け家臣団を従え、畑再興寺城を内城に築き、山城を整え、本郷町並みに家臣団を置き、府中西の鎮台とした。波多神社へ熊野権現の勧請は櫛木政盛が永正17年(1520)である。

波田地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ 旧野麦街道の往来について

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：飛騨・高山と信州・松本を結ぶ主要幹線道路

○ 構成要素となる文化財：

- (1)旧野麦街道の並木道・家並み(上波田)・旅籠(中波田、横町)、上波田、赤松、稲こき、奈川、野麦峠に至る街道・街道筋にある神社仏閣(若澤寺跡、西光寺跡、盛泉寺、安養寺、波多神社、諏訪神社、三神社等)・馬頭観音、講の石碑、道祖神
- (2)新野麦街道の並木道、家並(湊東)、祠等
旅籠(島立、新村、森口、赤松、島々等)

関連文化財群の特徴・魅力

- ・明治以前の野麦街道は飛騨の国と信濃の国を結ぶ幹線道路として、日本海の高産物の輸送の道として発達してきた(鱒街道)。また、越中富山の薬売りの道として利用された(商売の道)。
- ・その他生活に必要な米、麦、山菜をはじめ薪炭、木材など物流の道としても発達してきた。
- ・明治以後は松本から前湊道の新道が開き、松本電鉄も敷設された。
- ・明治時代養蚕が盛んになるに従って諏訪、岡谷の製糸工場で働く飛騨の工女の道として発達してきた(工女の道)。

波田地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

大井堰により早くから開けた押出面(梓川氾濫原)

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：大井堰(新村堰をはじめとする堰)

○ 構成要素となる文化財：

大井堰に関連する文化財群

旧新村堰の大井口跡の石碑＝地名と橋柱「笹の宮橋」～旧新村堰に架けてあった橋＝淵東嶋開拓の主要道路跡(大橋坂道)＝下三溝の和田堰・神林堰・新村堰(三庄の溝)＝笹田間地(名称～和田堰・神林堰・新村堰を分岐する地字)＝波田堰スコボシ取入れ口跡＝赤松頭首工跡(和田堰の取水口)＝かすみ堤防(信玄堤)＝古民家(4区の田中邸)＝ハクジュの大木(2区百瀬家墓地)＝伝馬屋庭園(2区百瀬家)

関連文化財群の特徴・魅力

大井堰により早くから開けた梓川面(押出面)

波田の地は、有史以前の地盤の変動と梓川の浸食により、二つの大きな段丘が形成された河岸段丘の郷である。段丘基盤の押出面は、この川の繰り返された氾濫により、赤松から三溝まで河原と林の荒地であった。押出面の開発については後期古墳が残されている新村地区に、その時代に都から秦氏系の人達が住み着き、あたらし郷を開発したのが始まりと云われる。彼らは波田の地に梓川から取水する大井口を設け大井堰を開削した。その地がどこであったか定かではないが、島地籍の下河原に旧新村堰の大井口跡の石碑がある。「近世ではその後が開発された梓川右岸の堰は総称して大井堰と言った」

その後波田の開発が本格的に始まるのは中世室町時代になってからである。淵東嶋や三溝地区(現2・3・4区)には周辺の地域からきた人達が移住して開拓がされていった。和田堰については文献によれば鎌倉時代に開削が始まったと云われている。現に淵東嶋開拓時には、赤松の三庄溝口より鳴用水を開けたと云う記録が残されているので、それ以前に有ったことは確かであるが、三庄の溝がようやく開通したのは室町末期(天正三年)である。これによりこの地は一段と開発が進み現在の基礎ができた。この地の開発は、荒地と梓川の氾濫との戦いで、大変な難工事で長い年月がかかった。なお龍島のスコボシ取入れ口から取水する波田堰が明治初期に完成をしている。

このようにこの地の発展は堰の開削と水田の開発、そしてここ住んだ人達によるものである。ここに残された文化財を総括すると「堰関連の文化財」と言える。この文化財の特徴と魅力は、堰の成り立ちから現在までの変わっていく姿がわかり、又住民の生活の苦労がうかがえる文化財である。堰の経緯が現在の中信平の農業用水の大部分を管理する、頭首工につながったことに大変魅力を感じる。

波田地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

御林(波田官林)のため開発の遅れた右岸(上海渡面)

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：波田小学校の松林

○ 構成要素となる文化財：

波田小学校の松林に関連する文化財群

波田小学校と波田学院の松林(松本藩の御料林のなごり)＝淵東の深井戸跡(3カ所)＝柏屋住宅(15区百瀬家)＝鍋割坂の山の神社＝旧波田役場庁舎

関連文化財群の特徴・魅力

御林のため開発が遅れた右岸(上海渡面)

この地は上海渡面の山際には、沢水を使い室町時代以前から小集落を形成しているが、他の大部分は水に恵まれないため開発されなかった。また淵東から森口まで、江戸時代には松本藩の御林(御料林)で、大木が茂る松林であり、明治時代になっても国の官林の為開発が遅れた。

江戸時代末期には淵東嶋に住んでいた人達が、水害に遭って現淵東と鍋割に御林を避けて移り住み、明治時代になると森口から淵東まで松林の中に道が開いた。この道も新しい野麦街道と言われ、今までの上の段の野麦街道に代わり、松本方面に行く主要道になった。

明治7年には、三溝・下波多・上波多の三村が合併して新しく波多村が生まれ、その後役場・小学校が鍋割に置かれ、ここが波田の中心地として発展した。しかし鍋割以外は今だ官林であり開発が進まなかった。

大正8年によく官林が民間に払い下げられ、街道周辺の開発が進み

新開地に人が住むようになった。大正11年にはこの街道に沿って前淵まで電車が開通し、その後街道も国道になり現在のように一番発展した地域になった。

この様に梓川右岸は森口から淵東まで御林(御料林・官林)であった為に開発が遅れた。このようなことから、この地の文化財を「御林関連の文化財」とした。この地の文化財の特徴と魅力は、江戸時代から現在の新しいものである。また小学校の見事な松林は、江戸時代の御林のなごりであり、よそに例のない素晴らしいものである。

波田地区 関連文化財群

関連文化財群のテーマ

さまざまな祭り(信仰と祭り)

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：神社、祠、伝統行事

○ 構成要素となる文化財：

- ・旧波多村(上・下波多、三溝)にある3神社及び波多神社から勧請した竜島神社
- ・地区で祀られている神社……………赤松秋葉神社、稲荷神社(16、17、18区)、薬師堂(7区)、お不動様(17区)、山の神(5区他)
- ・大規模事業(開発)により誕生した神社…水神社、開田神社
- ・個人、一族等で祀られている社、祠…社宮司(7社)、白山権現、金山様(6区)
- ・講で祀られている祠……………三峰講(6、14区)、秋葉講(17区)
- ・路傍に祀られた社、祠、石仏……………大黒様(13区)、子安様(18区)、各道祖神
- ・地区神社の祭り……………波多神社の山車(上波田)と神輿(15区)。諏訪神社の山車(2台)、三神社の山車、赤松神社春祭り神輿
- ・五穀豊穡、安全、厄除等の祈願祭り…御柱(上波田)、三九郎(各地区)、風祭り(1、22区)、鳥追い(12区)、繭玉様(12区)、三峰講(7、14区)、大黒天祭り(13区)、七夕祭り(15、17区)
- ・仏事に関する祭り(祈り)……………お十夜(1区)、盆火(4区)、お念仏講(12区)、畜魂祭(15区)、涅槃会(囀)(1、14区)

関連文化財群の特徴・魅力

波田地区の旧三村には、それぞれの神社があり、人々の心の支えとなっていた。神社の近くには寺院もあり、神仏混交の時代であったことが伺えるが、やがて寺院が衰退(廃寺)減少し、神社は地域の産土神社に全国の神社の神々を勧請してきた。神を敬い、仏を信仰した人々が増加することで、個人や一族、あるいは地域・集落等で祀られている神社・祠・講などが増加してきた。人々は、それぞれの表現で、お祭りを執り行い、念仏講などを開いて信仰を高めていた。子どもたちも祭りに参加し継承することにより子ども主体の行事も増加してきた。当初は、男子のみの祭りも現在では女子も参加するようになってきた。(三九郎、御柱、七夕祭り、例大祭山車の囀子・巫女の舞、鳥追い、お念仏)

関連文化財群

関連文化財群のテーマ

地震

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：

- 構成要素となる文化財：
牛伏寺断層、松本地震

関連文化財群の特徴・魅力

松本市域は、フォッサマグナ西縁の糸魚川ー静岡構造線と密接に関係しており、地形・地質ともにフォッサマグナの運動の影響を受けている。また、糸魚川ー静岡構造線に関連して薄川断層が山辺構造谷を南東から北西方向に延び、この北側と南側の地質構造を分けている。同様に牛伏寺断層の北延が犀川断層に連なり、松本盆地東縁断層として筑摩山地と松本盆地を断層崖で分けている。

これら糸魚川ー静岡構造線に沿う断層群とそれに付随する断層の多くは、活断層と呼ばれている。糸魚川ー静岡構造線はユーラシアプレートと北米プレートの接している位置にもあたり、プレートの動きによって主断層の活動とともにそれと付随した断層活動を引き起こしていると考えられ、歪みの蓄積とその開放の周期が問題となっている。

平成23年には震度5強の松本地震(平成23年6月30日長野県中部を震源とする地震)が発生し、原因となった新たな断層が発見された。

地質の成り立ちからして、地震とは無縁でいられない土地である。

関連文化財群

関連文化財群のテーマ そば

関連文化財群を構成する文化財

◎ **核となる文化財**：

○ **構成要素となる文化財**：
そばの栽培、そばの技術、そば祭り、食べ方(とうじそば、そばがき等)

関連文化財群の特徴・魅力

奈川地区では、明治末まで水田がなく米の自給力がなかった。米を食べるには買上げなければならず、そのため米食をできるだけ控える工夫が必要で、米飯といってもその土地で収穫されたアワやキビ、ヒエ、買い上げた大麦を5割近くまで混ぜたものであった。このような背景から、昭和の初頭まで3食のうち2食はそばであった。

固まったそばをちぎって煮たすいとん、そば粉に熱湯をかけよくかきまぜるとできるけもち、固くしたそばを平らにのばしてフライパンで焼いたうすやき、おむすびのように握ったそば餅をいろりの灰で焼いた焼き餅、キジの肉と共にニンジン、ネギ、カンピョウなどの野菜を具にした汁に刻まれたそばをしたして食べるソバギリ(とうじそば)など、調理方法はさまざまに工夫された。ソバギリはハレの食事であり、祝い事や年取りのそばであった。

旧市内ではけもちのことをそばがきと呼び、普段の食事やおコヒル(間食)などによく食べられていた。蕎麦粉は「そば」(うすく伸ばして細く切ってゆでる)にする以外の食べ方をしなかったという家もある。米の自給力のある地域では、そばは手間のかかることもあり普段はあまり作られなかった。それに対して婚礼の時に食べるという地域は旧市全域に広がっており、やはり「そば」はハレの食事であった。

現在は10月から11月にかけて、市内各地でそば祭りがおこなわれ、市民や観光客を楽しませている。

関連文化財群

関連文化財群のテーマ 醸造業

関連文化財群を構成する文化財

◎ **核となる文化財**：福應寺

○ **構成要素となる文化財**：
湧水、酒、信州味噌、味噌パン、醤油

関連文化財群の特徴・魅力

松本の城下町は、薄川扇状地の扇端部である清水や源池、埋橋で湧き出た豊富な水を引水して利用していた。このため江戸時代には、この湧水を利用して城下で酒造業が盛んに営まれた。

神林にある福應寺は、13世紀に宋へ渡り味噌の製法を日本に持ち帰った、法燈禅師の生誕地といわれている。法燈禅師は和歌山県由良町にある興国寺で醤油や金山寺味噌を広めた人物である。

また、信州は全国の味噌の生産量の4割を占める全国最大の生産地であり、「信州味噌」として知られている。松本地方の小学校では、かつて運動会や記念日に国旗を印刷した熨斗紙に包んだ味噌パンが児童に配られた。

関連文化財群

関連文化財群のテーマ 小麦粉

関連文化財群を構成する文化財

◎ **核となる文化財**：小麦

○ **構成要素となる文化財**：
うどん(釜揚げ・つけ・煮込)、すいとん、ほうとう(ぶちこみ)、うすやき、灰やきもち

関連文化財群の特徴・魅力

小麦粉の食べ方には、第一にうどんを作ってゆで、つゆ(したじ)をつけて食べる方法がある。これはうどんと呼ばれるほかに、スウドン、ユデウドン、ヒキアゲウドン、ヒキアゲ、カマアゲウドン、カマアゲ、アゲウドン、テウチウドンのほか、ツルツル、オザザ、シャアケギなどともいわれる。

第二にはうどんを作って生のまま味噌汁の中に入れて煮て食べる方法がある。これは、ニコミウドン、ニコミ、キリコミウドン、キリコミ、ブッコミ、ニカケ、オニカケ、ミソウドンのほか、オザブ、カケウドンザザ、ホウトウなどとよばれている。

第三に、饅頭のような形にして中に野菜などを入れる方法がある。これは、オヤキ、野菜オヤキ、ヤキモチ、アツヤキ、ウスヤキ、野菜マンジュウなどと呼ばれる。これは、オヤキ、ヤキモチといわれるとおり、囲炉裏の灰の中で焼いて、灰をはたいて食べていた。餡を入れた饅頭も作った。これは、マンジュウ、オマンジュウ、フカシマンジュウ、ムシマンジュウ、ムシマン、コナマンジュウ、ウドンマンジュウ、アンマンジュウのほか、アンオヤキ、オヤキ、ヤキモチと呼ばれている。餡を入れた場合、ほとんどの地域で蒸すようだが、焼いて食べた家もあった。このほか、小麦粉を湯でといてホウロクなどで焼いて食べる、スヤキと呼ばれる方法もある。また、小麦粉を柔らかく練って、片手で軽く握っては味噌汁の中に落として食べるスイトンあるいはツミレ、オツミイレと呼ばれる食べ方もあった。ニコミウドンや、ツミレは夕食のとき、オヤキはオコヒル(間食)のときに食べられることが多かった。

葬式当日の忌中ばらい(精進おとし)のときはうどんが必ず作られた。婚礼や祭りにうどんを作る地域もあるが、市全体でみると「祝い事のそば」に対して「不祝儀のうどん」という組み合わせで使われている地域が多い。

(『松本市史 民俗編』より)

関連文化財群

関連文化財群のテーマ 松本から始まった運動

関連文化財群を構成する文化財

◎ **核となる文化財**：花いっぱい運動発祥の地(旭町小学校)

○ **構成要素となる文化財**：ススキ・メソード

関連文化財群の特徴・魅力

昭和初年に「話を聞く会」が胡桃沢勤内と池上喜作らによって誕生し、柳田國男や折口信夫、金田一京助、武者小路実篤など、当時各界で指導者の立場にあった多彩な人物が松本を訪れて交流を深め、様々な分野で松本に文化の種をまく役割を果たした。

太平洋戦争前後、市民の暮らしは大きな混乱に陥ったが、民芸運動の発展、ススキ・メソードや花いっぱい運動の開始など、次第に文化復興に立ち上がった。

花いっぱい運動は、昭和27年(1952)に、戦争によって荒んだ市民の心を憂い、社会を美しくし、明るく住みよいものにしたという願いから小松一三夢らによって始められた松本市が発祥となる運動である。

民芸運動の発展により「民芸の街」として知られるようになった松本には、全国からものづくりを志す若者が集まるようになり、彼らによって昭和60年(1985)に「クラフトフェアまつもと」が開始された。クラフトフェアは、手作りを主体とした工芸品の展示会、定期市。

最近では、食品ロスの削減を推進するなかで「残さず食べよう!30・10運動」に取り組んでいる。この運動は、宴会の後に残ってしまう食べ物が非常にもったいないという市長の思いから始まった取組みで、乾杯後の30分間とお開きの10分間は席について料理を楽しもうというもの。

以上のように様々な運動が松本から始まっている。

関連文化財群

関連文化財群のテーマ

スズキ・メソード

関連文化財群を構成する文化財

◎ 核となる文化財：

○ 構成要素となる文化財：
松本音楽院跡、鈴木鎮一記念館

関連文化財群の特徴・魅力

「才能教育」とよばれるスズキ・メソードは、松本が発祥の地である。鈴木鎮一は音楽を通じた幼児の才能を伸ばす教育を目指し、昭和21年（1946）に全国幼児教育同志会を結成し、裏町に松本音楽院を設置した。現在は世界中に生徒が40万人ともいわれるスズキ・メソードの発祥地であり、現在は記念碑が建てられている。また、旭2丁目にある鈴木鎮一の住居は、鈴木鎮一記念館として一般に公開されている。

【参考資料】 埋蔵文化財発掘調査報告書 一覧

報告 No.	報告書名	発行
1	“寛永通宝”松本銭座（その歴史的経過と記念碑の概要）	昭和43年10月
3	猪土手遺構調査報告	昭和46年11月
4	宮淵二ツ塚遺跡発掘調査報告書	昭和46年12月
5	長野県松本市女鳥羽川遺跡緊急発掘調査報告書	昭和47年1月
6	長野県松本市今井こぶし畑遺跡緊急発掘調査報告書	昭和49年3月
7	松本平の文学碑林	昭和52年3月
8	長野県松本市弘法山古墳調査報告	昭和53年6月
9	松本市の文化財 第1集（上）	昭和55年3月
9	松本市の文化財 第1集（下）	昭和57年3月
10	松本市の文化財 第2集	昭和52年3月
11	松本市の文化財 第3集	昭和49年2月
12	松本市の文化財 第4集	昭和57年3月
	松本市の文化財 第5集	昭和60年3月
	松本市の文化財 第6集	昭和63年3月
13	松本市の石造文化財 1	昭和48年3月
	松本市の石造文化財 2	昭和48年3月
	松本市の石造文化財 3	昭和48年10月
	松本市の石造文化財 4	昭和48年10月
	松本市の石造文化財 5	昭和48年10月
	松本市の石造文化財 6	昭和50年3月
	松本市の石造文化財 7	昭和50年3月
	松本市の石造文化財 8	昭和50年3月
	松本市の石造文化財 9	昭和51年3月
	松本市の石造文化財 10	昭和51年3月
	松本市の石造文化財 11	昭和51年3月
	松本市の石造文化財 12	昭和51年3月
	松本市の石造文化財 13	昭和51年3月
	松本市の石造文化財 14	昭和51年3月
	松本市の石造文化財 15	昭和52年3月
	松本市の石造文化財 16	昭和52年3月
	松本市の石造文化財 17	昭和54年3月
	松本市の石造文化財 18	昭和54年3月
14	松本市和田衣外四耳壺出土報告書	昭和54年2月
15	長野県立松本工業高等学校遺跡緊急発掘調査報告書	昭和56年3月
16	松本市新村安塚古墳群緊急発掘調査報告書	昭和54年3月
17	松本市大村遺跡群柳田遺跡分布確認調査報告書	昭和54年12月
18	松本市笹賀牛の川遺跡緊急発掘調査報告書	昭和55年3月
19	長野県松本市あがた遺跡発掘調査報告書	昭和56年3月
20	松本市内田雨堀遺跡緊急発掘調査報告書	昭和56年3月
21	松本市笹賀神戸遺跡緊急発掘調査報告書	昭和56年3月
22	松本市新村条理的遺構緊急発掘調査報告書	昭和56年3月
	長野県立松本工業高等学校遺跡緊急発掘調査報告書	昭和54年3月
23	松本市内田雨堀遺跡第2次緊急発掘調査報告書	昭和57年3月

報告 No.	報告書名	発行
24	松本市笹賀くまのかわ遺跡緊急発掘調査報告書	昭和57年3月
25	松本市惣社宮北遺跡緊急発掘調査報告書	昭和57年3月
26	松本市新村秋葉原遺跡緊急発掘調査報告書	昭和58年3月
27	松本市寿小赤遺跡緊急発掘調査報告書	昭和58年3月
28	推定信濃国府第一次調査報告書	昭和58年3月
29	松本市下神・町神遺跡緊急発掘調査報告書	昭和59年3月
30	松本市前田木下遺跡緊急発掘調査報告書	昭和59年3月
31	松本市島内遺跡緊急発掘調査報告書	昭和59年3月
32	松本市島立南栗遺跡緊急発掘調査報告書	昭和59年3月
33	推定信濃国府第二次調査報告書	昭和59年3月
34	松本市赤木山遺跡群Ⅰ緊急発掘調査報告書	昭和60年3月
35	松本市島立南栗・北栗遺跡・高綱中学校遺跡・条理的遺構緊急発掘調査報告書	昭和60年3月
36	松本市島内遺跡群北方遺跡・南中遺跡緊急発掘調査報告書	昭和60年3月
37	推定信濃国府第三次調査報告書	昭和60年3月
38	松本市島立南栗遺跡緊急発掘調査報告書	昭和61年3月
39	松本市竹淵・南原遺跡緊急発掘調査報告書	昭和61年3月
40	松本市梶海道遺跡緊急発掘調査報告書	昭和61年3月
41	松本市島内遺跡群上平瀬遺跡緊急発掘調査報告書	昭和61年3月
42	推定信濃国府第四次調査報告書	昭和61年3月
43	松本市蓮台遺跡緊急発掘調査報告書	昭和61年3月
44	松本市岡田西裏遺跡緊急発掘調査報告書	昭和61年3月
45	松本市宮淵本村遺跡緊急発掘調査報告書（遺構編）	昭和61年3月
46	松本市島立条理的遺構緊急発掘調査報告書	昭和61年3月
47	松本市赤木山遺跡群Ⅱ緊急発掘調査報告書	昭和62年3月
48	松本市島立北栗遺跡条理的遺構緊急発掘調査報告書	昭和62年3月
49	松本市下原・埋橋遺跡緊急発掘調査報告書	昭和62年3月
50		
51	松本市高畑遺跡緊急発掘調査報告書	昭和62年3月
52	松本市宮淵本村遺跡Ⅱ緊急発掘調査報告書（遺構編）	昭和62年3月
53	松本市出川南遺跡緊急発掘調査報告書	昭和62年3月
54	松本市内田清心・砂原遺跡緊急発掘調査報告書	昭和62年3月
55	松本市神林川西遺跡緊急発掘調査報告書	昭和62年3月
56	推定信濃国府第五次調査報告書	昭和62年3月
57	松本市島立三の宮遺跡～県営ほ場整備に伴う緊急発掘調査報告書	昭和63年3月
58	松本市島立条理的遺構～県営ほ場整備に伴う緊急発掘調査報告書	昭和63年3月
59	松本市島内遺跡群北方遺跡Ⅱ・北中遺跡～県営ほ場整備に伴う緊急発掘調査報告書	昭和63年3月
60	松本市向畑遺跡Ⅰ～県道改良工事に伴う緊急発掘調査報告書	昭和63年3月
61	松本市林山腰遺跡～県営ほ場整備に伴う緊急発掘調査報告書	昭和63年3月
62	松本市前田木下遺跡遺構確認調査報告書	昭和63年3月
63	松本市島立条理的遺構～県道改良工事に伴う緊急発掘調査報告書	昭和63年3月
64	松本市宮の下遺跡～県営ほ場整備に伴う緊急発掘調査報告書	昭和63年3月
65	松本市島立北栗遺跡Ⅲ～県営ほ場整備に伴う緊急発掘調査報告書	昭和63年3月
66	松本市杵板遺跡 松本市本郷小学校敷地遺跡緊急発掘調査報告書	昭和63年3月
67	松本市横田・岡田遺跡～送電線補強工事に伴う緊急発掘調査報告書	昭和56年3月
68	三間沢川左岸遺跡（1）～平安時代集落址の緊急発掘調査報告書	昭和63年10月

報告 No.	報告書名	発行
69	松本市千鹿頭北遺跡～県営ほ場整備に伴う緊急発掘調査報告書	平成元年3月
70	松本市島立条理的遺構Ⅲ～県営ほ場整備に伴う緊急発掘調査報告書	平成元年3月
71	松本市島内遺跡群 高松遺跡～県営ほ場整備に伴う緊急発掘調査報告書	平成元年3月
72	松本市下神遺跡～県営ほ場整備に伴う緊急発掘調査報告書	平成元年3月
73	松本市神田遺跡～団体営ほ場整備に伴う緊急発掘調査報告書	平成元年3月
74	松本市大塚古墳・南方古墳・南方遺跡緊急発掘調査報告書	平成2年3月
75	松本市出川南B遺跡緊急発掘調査報告書	平成元年3月
76	松本市三の宮遺跡Ⅲ緊急発掘調査報告書	平成元年3月
77	松本市宮渕本村遺跡Ⅲ緊急発掘調査報告書（遺構編）	平成元年3月
78	松本市沢村旧射的場西遺跡～変電舎建設に伴う緊急発掘調査報告書	平成元年3月
79	松本城西西馬出遺跡緊急発掘調査報告書	平成元年3月
80	松本市坪ノ内遺跡緊急発掘調査報告書	平成2年3月
81	松本市向畑遺跡Ⅱ緊急発掘調査報告書	平成元年3月
概報	昭和63年度の中山地区発掘調査～坪ノ内・向畑遺跡・南中島遺跡	平成元年3月
概報	大村遺跡～古瓦を出土する平安時代集落址の発掘調査概報	平成元年6月
82	松本市県町遺跡緊急発掘調査報告書（図版編）	平成2年3月
82	松本市県町遺跡緊急発掘調査報告書（本文編）	平成2年3月
83	松本市向畑遺跡Ⅲ緊急発掘調査報告書	平成2年3月
84	松本市三の宮遺跡Ⅳ緊急発掘調査報告書	平成2年3月
85	松本市北栗遺跡Ⅳ・Ⅴ緊急発掘調査報告書	平成2年3月
86	松本市小原遺跡緊急発掘調査報告書	平成2年3月
87	松本市出川遺跡緊急発掘調査報告書	平成2年3月
88	松本市弥生前遺跡緊急発掘調査報告書	平成3年3月
89	松本市生妻遺跡緊急発掘調査報告書	平成3年3月
90	松本市南中島遺跡緊急発掘調査報告書	平成3年3月
91	薄町・石上・鎌田遺跡発掘調査報告書	平成3年3月
92	松本市トウコン原遺跡緊急発掘調査報告書	平成3年3月
概報	針塚古墳の発掘	平成3年3月
概報	小池遺跡～平安時代集落址の発掘調査～	平成3年3月
93	松本市堀の内遺跡緊急発掘調査報告書	平成4年3月
94	松本市宮の前遺跡緊急発掘調査報告書	平成4年3月
95	松本市塩辛遺跡Ⅰ緊急発掘調査報告書（遺構編）	平成4年3月
96	松本市大村塚田遺跡緊急発掘調査報告書	平成4年3月
97	松本市三才遺跡緊急発掘調査報告書	平成4年3月
98	松本市宮の上遺跡緊急発掘調査報告書	平成4年3月
99	松本市二反田遺跡・岡田町遺跡緊急発掘調査報告書（本文編）	平成5年3月
99	松本市二反田遺跡・岡田町遺跡緊急発掘調査報告書（遺構編）	平成5年3月
100	松本市山影遺跡緊急発掘調査報告書	平成5年3月
101	松本市埴原北・中山古屋敷・推定信濃諸牧牧監庁跡Ⅱ・小丸山古墳緊急発掘調査報告書	平成5年3月
102	松本市針塚遺跡Ⅱ緊急発掘調査報告書	平成5年3月
103	松本市古屋敷遺跡・前田遺跡緊急発掘調査報告書	平成5年3月
104	松本市里山辺丸山古墳緊急発掘調査報告書	平成5年3月
105	松本市塩辛遺跡Ⅱ・Ⅲ・矢作遺跡・松陰寺遺跡緊急発掘調査報告書	平成5年3月
106	松本市下原遺跡Ⅱ緊急発掘調査報告書	平成5年3月
107	松本市小原遺跡Ⅱ緊急発掘調査報告書	平成5年3月

報告 No.	報告書名	発行
108	松本市百瀬遺跡Ⅱ緊急発掘調査報告書	平成5年3月
109	松本市北栗遺跡～中部電力(株)鉄塔移設に伴う第2次緊急発掘調査報告書～	平成5年3月
110	高綱中学校遺跡Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ緊急発掘調査報告書	平成5年3月
111	弘法山古墳出土遺物の再整理～新発見資料を中心とした土器とガラス小玉の整理	平成5年3月
112	松本市宮の上遺跡Ⅱ・原畑遺跡緊急発掘調査報告書	平成6年3月
113	松本市平田本郷遺跡緊急発掘調査報告書	平成6年3月
114	松本市トウコン原遺跡Ⅱ緊急発掘調査報告書	平成6年3月
115	松本市出川南遺跡Ⅳ・平田里古墳群緊急発掘調査報告書	平成6年3月
116	松本市高宮遺跡緊急発掘調査報告書	平成6年3月
117	松本市和田遺跡・桜田遺跡・堂田遺跡・樋渡し遺跡緊急発掘調査報告書	平成7年3月
118	松本市岡田町遺跡Ⅱ緊急発掘調査報告書	平成7年3月
概報	松本城三の丸跡	平成5年3月
119	松本市平田本郷遺跡Ⅱ緊急発掘調査報告書	平成7年3月
120	松本市平田北遺跡Ⅲ緊急発掘調査報告書	平成7年3月
122	松本城下町伊勢町～近世・町屋跡の発掘調査～	平成8年3月
123	小原遺跡Ⅲ緊急発掘調査報告書	平成8年3月
124	竹淵遺跡Ⅱ	平成8年3月
125	松本城下町伊勢町～第2～7次試掘調査報告書～	平成8年3月
126	小池遺跡Ⅱ・一ツ家遺跡	平成9年3月
127	エリ穴遺跡(概報)	平成9年3月
128	県町遺跡ⅩⅠ	平成9年3月
129	松本城下町跡～伊勢町8・9・12次 本町第1・2次～	平成9年3月
130	境窪・川西開田遺跡Ⅰ・Ⅱ	平成10年3月
131	今井北耕地遺跡Ⅱ	平成10年3月
132	松本城下町跡～14・15・16・17次 本町3・4次～	平成10年3月
133	向原遺跡	平成10年3月
134	蟻ヶ崎遺跡	平成10年2月
135	出川西Ⅵ	平成11年3月
136	高宮Ⅱ	平成10年3月
137	兎川寺	平成11年3月
138	平田本郷Ⅲ	平成11年3月
139	出川南Ⅴ	平成11年3月
140	旧射的場西Ⅲ	平成11年3月
141	旧射的場西Ⅳ	平成11年3月
142	平瀬遺跡Ⅱ緊急発掘調査報告書	平成12年3月
143	砂原遺跡Ⅱ緊急発掘調査報告書	平成12年3月
144	竹瀧南原遺跡緊急発掘調査報告書	平成12年3月
145	芝沢遺跡Ⅰ・Ⅱ 南栗遺跡Ⅳ・Ⅴ緊急発掘調査報告書	平成12年3月
146	大輔原遺跡～松本第一高等学校校舎建替に伴う緊急発掘調査報告書～	平成12年3月
147	出川南遺跡Ⅵ緊急発掘調査報告書	平成12年3月
148	出川南遺跡Ⅸ緊急発掘調査報告書	平成12年3月
149	松本城下町跡 本町第5次 伊勢町第19・21・22次	平成12年3月
150	川西開田遺跡Ⅴ 三間沢川左岸遺跡Ⅲ	平成13年3月
151	百瀬遺跡Ⅳ	平成13年3月
152	平田北遺跡Ⅵ	平成13年3月

報告 No.	報告書名	発行
153	岡の宮遺跡Ⅰ	平成13年3月
154	伊勢町第23・24・25次	平成13年3月
155	大久保原遺跡	平成13年10月
156	新村遺跡	平成14年3月
157	出川南遺跡Ⅷ	平成12年3月
158	出川南遺跡ⅩⅡ	平成14年3月
159	惣社遺跡	平成14年3月
160	松本城下町跡 六九4	平成14年3月
161	出川南遺跡ⅩⅠ	平成14年3月
162	川西開田遺跡Ⅲ・Ⅳ	平成14年3月
163	松本城下町跡 伊勢町26・27・28	平成14年3月
164	堀の内遺跡Ⅲ	平成14年3月
165	県町遺跡ⅩⅡ	平成15年3月
166	平田本郷Ⅳ・Ⅴ	平成15年3月
167	川西開田遺跡Ⅲ・Ⅳ	平成15年3月
168	中山古墳群Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	平成15年3月
169	松本城三の丸土居尻1	平成14年3月
170	桜ヶ丘古墳	平成15年3月
171	五輪遺跡	平成15年12月
172	高宮遺跡Ⅲ	平成16年3月
173	高宮遺跡Ⅳ	平成16年3月
174	林山腰遺跡Ⅱ	平成16年3月
175	中山古墳群Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ・Ⅷ・Ⅸ・Ⅹ	平成16年3月
177	大村遺跡Ⅵ	平成17年2月
178	塩倉池遺跡・塚山古墳	平成17年3月
179	松本城下町跡宮村町 天神西遺跡	平成17年3月
181	出川西遺跡Ⅷ	平成18年3月
182	岡田西裏遺跡Ⅷ	平成18年3月
183	筑摩遺跡Ⅲ	平成18年3月
184	松本城三の丸跡 大名町	平成18年3月
185	松本城下町跡 東町Ⅲ	平成18年3月
186	史跡 松本城総堀跡	平成18年3月
187	神道原遺跡	平成18年3月
188	蟻ヶ崎遺跡Ⅲ	平成19年3月
189	元原遺跡	平成19年3月
190	松本城下町小池町1	平成19年3月
191	北起し遺跡	平成20年3月
192	下出口遺跡	平成20年3月
193	岡の宮遺跡Ⅱ	平成20年3月
194	高畑遺跡	平成20年3月
195	平田本郷遺跡Ⅵ	平成20年3月
196	中山古墳群14・15	平成20年3月
197	松本城二の丸跡土堀跡	平成20年3月
198	出川南14	平成21年3月
199	松本城三の丸跡小柳町2	平成21年3月

報告 No.	報告書名	発行
200	県町遺跡 14	平成 21 年 3 月
201	桐原城址・海岸寺	平成 22 年 3 月
202	松本城下町跡飯田町 1	平成 22 年 3 月
203	小松下	平成 22 年 3 月
204	沢村	平成 22 年 3 月
205	西総堀土塁	平成 22 年 3 月
207	出川南 15	平成 23 年 3 月
208	殿村 1 次 (概報)	平成 23 年 3 月
209	横田古屋敷 1・2 次	平成 24 年 3 月
210	殿村 2 次	平成 24 年 3 月
	殿村遺跡とその時代―平成 22 年度発掘報告会・講演会の記録―	平成 23 年 8 月
211	殿村 3 次	平成 25 年 3 月
212	出川南 21 次	平成 26 年 3 月
213	県町 15 次	平成 26 年 3 月
214	新井 2 次	平成 26 年 3 月
215	殿村 4 次	平成 26 年 3 月
	殿村遺跡とその時代―平成 23 年度発掘報告会・講演会の記録―	平成 25 年 3 月
216	出川西 10 次	平成 27 年 3 月
217	波田下原 2 次	平成 27 年 3 月
218	岩岡館跡	平成 27 年 3 月
219	大手門	平成 27 年 3 月
220	殿村 5 次	平成 27 年 3 月
	殿村遺跡とその時代―平成 24 年度発掘報告会・講演会の記録―	平成 26 年 3 月
	殿村遺跡とその時代―平成 25 年度発掘報告会・講演会の記録―	平成 27 年 3 月
	殿村遺跡とその時代―平成 26 年度発掘報告会・講演会の記録―	平成 28 年 3 月
223	殿村 6 次	平成 28 年 3 月
224	井川城 1・2 次	平成 28 年 3 月
225	松本城三の丸跡を掘る	平成 28 年 3 月
227	松本城下町跡念来寺―第 1 次発掘調査報告書―	平成 29 年 3 月
229	殿村遺跡 7 次	平成 29 年 3 月
	殿村遺跡とその時代―平成 27 年度発掘報告会・講演会の記録―	平成 29 年 3 月
	松本市四賀地区の中世石造物	平成 29 年 3 月

松本市歴史文化基本構想

資料編

発行日 平成 31 年 3 月
発行者 松本市教育委員会
〒 390-8620
長野県松本市丸の内 3 番 7 号
印刷 精美堂印刷株式会社



平成30年度文化庁文化芸術振興費補助金
(文化遺産総合活用推進事業)